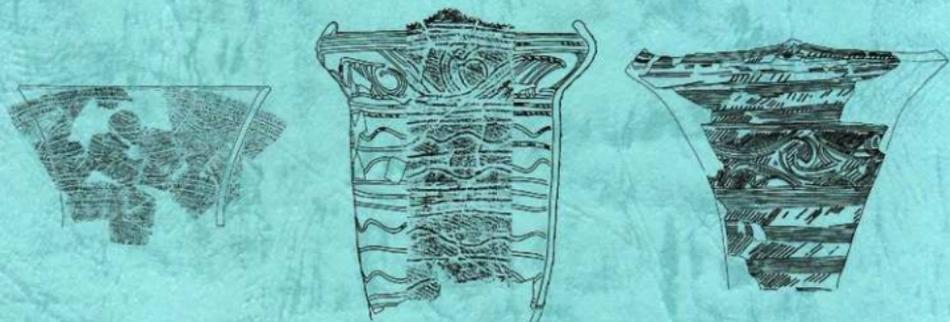


山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第205集

山梨県塩山市

# 大木戸遺跡

— 国道411号（塩山東バイパス）建設工事に伴う発掘調査報告書 —



2003.3

山梨県教育委員会  
山梨県土木部

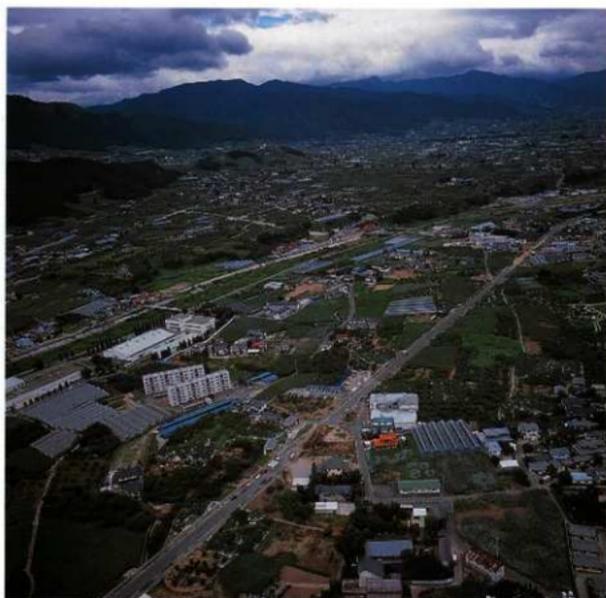
山梨県塩山市

# 大木戸遺跡

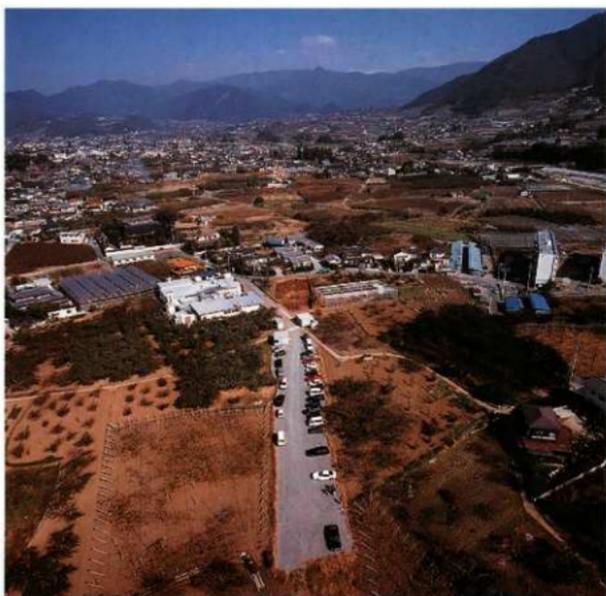
— 国道411号（塩山東バイパス）建設工事に伴う発掘調査報告書 —

2003.3

山梨県教育委員会  
山梨県土木部



遺跡遺景(北から)



遺跡遺景(南から)



第 8 号土坑遺物出土状況



平安時代馬骨出土状況



第 4 号溝緑釉陶器出土状況



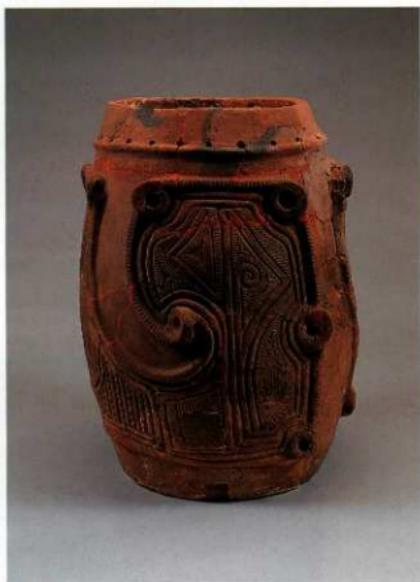
緑釉陶器



水晶製石鏃



第 8 号土坑出土土器



北側谷部出土土器



第 7・8 号住居跡出土土器

## 序

本書は、1998(平成10)・1999(平成11)・2002(平成14)年度に実施した塩山市に所在する大木戸遺跡の発掘調査報告書であります。

この調査は、山梨県土木部がおこなう一般国道411号(塩山東バイパス)建設工事に伴うもので、甲府盆地の東に位置する塩山市を重川に沿って南北に長く調査したものであります。

発掘調査の結果、縄文時代前期の住居跡10軒、中期の住居跡4軒、古墳時代前期の住居跡1軒と溝1条、平安時代の住居跡21軒と溝9条、さらに集落跡北西側では縄文時代前期から平安時代以前まで土器捨て場として利用されていた自然の谷を確認することができました。

縄文時代前期及び中期の住居跡は、重川に突き出るように東西に長い台地上に展開しておりました。発掘調査ではそれらのほんの一部を検出したにすぎませんが、それでも数多くの遺物が出土いたしました。とくに縄文時代前期の遺物は遺構ごとにまとまっており、甲府盆地内でも資料の少ない時期であるだけに、貴重な成果が得られたものと思っております。さらにこれら集落跡の北西側では、同時期の谷を検出いたしました。谷はおもに土器捨て場として利用されており、集落跡と谷、つまり居住区と土器捨て場というセットが明らかとなりました。

古墳時代前期の遺構については、当初その存在を予想しておりませんでした。これらの遺構は方形周溝墓の確認された西田遺跡や下西畑遺跡と同時期であり、これらとの関係が注目されるところです。

平安時代の集落跡は重川に沿って、南北に広く展開しておりました。本遺跡の北東に位置する影井遺跡や南西に位置する五反田遺跡でも、同時期の遺構が分布しており、平安時代にはこの地域に安定した集落が脈々と展開していたことを知ることができました。また溝を中心に緑釉陶器や灰釉陶器の出土が見られ、土師器との共伴関係を知ることができました。これまでにこの地域ではほとんど平安時代の資料は見られず、大変興味深い資料が得られたものと思われま。

本報告書が多くの方々の研究資料としてご利用いただければ幸いです。

末筆ながら、種々ご協力を賜った関係機関各位、並びに直接調査に従事して頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

2003年3月

山梨県埋蔵文化財センター  
所長 大塚初重

## 例言

1. 本書は、一般国道411号(塩山東バイパス)建設工事に先立って、1998(平成10)年度・1999(平成11)年度・2003(平成14)年度に山梨県埋蔵文化財センターが実施した、塩山市に所在する大木戸遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書の編集は石神孝子が、執筆は第2章を小林弘典が、第8章第5節を保坂康夫が、第3章土偶を野代恵子が、それ以外を石神孝子が行った。
3. 巻頭図版の遺物写真は小川忠博氏によるものである。また写真撮影は、遺構については石神孝子・米山真・古屋勝之・小林弘典が、遺物については小川忠博氏が撮影した。
4. 炭化種子・材の同定は古代の森研究舎吉川純子氏に委託した。
5. 出土人骨については聖マリアンナ医科大学平田和明教授に鑑定を委託した。
6. 動物骨の同定はバリノ・サーヴェイに委託した。
7. 石器実測は一部を(株)シン技術コンサルに委託した。
8. 鉄器・青銅器の保存処理及びX線撮影については帝京大学文化財研究所畑大介氏に委託した。
9. 黒曜石の産地同定は沼津高等専門学校の望月明彦氏に委託した。
10. 本報告書にかかる出土品・記録図面・写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

## 凡例

1. 遺構・遺物の縮尺は原則として次のとおりである。  
[遺構] 全体図…1:200、住居跡…1:60、カマド…1:30、土坑…1:30、遺物出土状況実測図…1:20  
[遺物] 縄文土器…1:6、古墳・平安時代土器・拓本…1:3、石器…1:3、石鏃・土製品…2:3
2. 挿図中のスクリーントーンは下記の内容を示す。  
焼土… 地面… 礫… 土器実測図赤色部分…
3. 挿図中のマークは下記の内容を示す。  
●…縄文土器・古式土師器・土師器      ○…須恵器      ■…灰釉陶器・緑釉陶器  
□…内面黒色土器      ▲…石製品      △…鉄器
4. 遺物図版中の土器・陶磁器のうち、断面が黒塗りは須恵器、網かけは灰釉陶器・緑釉陶器を表す。
5. 土器観察表中の色調名は、農林水産省水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」1990年度版による。
6. 遺構断面中のレベルポイント部分にある数字は標高を表す。

# 大木戸遺跡報告書目次

# 表目次

序	1
例言	3
凡例	3
目次	4
第1章 調査の経過と概要	7
第1節 調査に至る経緯	7
第2節 発掘調査の概要	7
第1項 発掘調査の経過	7
第2項 調査組織及び協力機関	8
第2章 環境	9
第3章 縄文時代の遺構と遺物	12
第1節 住居跡	12
第2節 土坑	19
第3節 遺構外出土遺物	22
第4章 古墳時代の遺構と遺物	24
第1節 溝	24
第5章 平安時代の遺構と遺物	25
第1節 住居跡	25
第2節 土坑	30
第3節 溝	30
第4節 谷	32
第5節 ビット群	33
第6章 中世の遺構と遺物	34
第1節 墓	34
第7章 北側谷部の調査	35
第1節 99年度の調査	35
第2節 02年度の調査	36
第8章 分析	42
第1節 大木戸遺跡出土の人骨について	42
第2節 大木戸遺跡出土動物遺存体の分析	43
第3節 塩山市大木戸遺跡より出土した炭化種実	46
第4節 大木戸遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定	49
第5節 大木戸遺跡の黒曜石分析の目的と成果	54
第9章 まとめ	58
第1節 縄文時代前期末の住居跡の変遷について	58
第2節 古墳時代前期末の様相について	59
第3節 平安時代の重川右岸の様相について	59

第1表	土偶・土製品観察表
第2表	石器観察表
第3表	土器観察表
第4表	鉄器計測表

# 挿図目次

第1図	遺跡の位置
第2図	第1号住居跡(1)
第3図	第1号住居跡(2)
第4図	第1号住居跡(3)
第5図	第2号住居跡(1)
第6図	第2号住居跡(2)・第3号住居跡
第7図	第4号住居跡(1)
第8図	第4号住居跡(2)
第9図	第4号住居跡(3)
第10図	第5号住居跡
第11図	第7号・第8号・第14号住居跡(1)
第12図	第7号・第8号・第14号住居跡(2)
第13図	第7号・第8号・第14号住居跡(3)
第14図	第14号住居跡(1)
第15図	第11号・第9号住居跡
第16図	第13号住居跡
第17図	第15号・第16号住居跡
第18図	第26号住居跡(1)
第19図	第26号住居跡(2)
第20図	第26号住居跡(3)
第21図	土坑(1)
第22図	土坑(2)
第23図	第2号溝
第24図	第6号・第17号住居跡
第25図	第18号・第22号住居跡
第26図	第19号住居跡
第27図	第20号住居跡
第28図	第21号住居跡
第29図	第23号住居跡
第30図	第24号・第25号住居跡
第31図	第27号・第28号住居跡
第32図	第29号住居跡
第33図	第30号住居跡

- 第34図 第31号住居跡  
 第35図 第32号・第33号住居跡  
 第36図 第34号住居跡  
 第37図 第35号住居跡・第2号土坑  
 第38図 第36号・第1号土坑  
 第39図 第1号・第3号溝  
 第40図 第4号溝  
 第41図 第5号・第6号溝  
 第42図 第7号・第8号溝  
 第43図 第9号溝  
 第44図 南側谷部  
 第45図 第1号・第2号・第3号墓  
 第46図 掘立柱建物跡  
 第47図 第1号住居跡出土遺物(1)  
 第48図 第1号住居跡出土遺物(2)  
 第49図 第1号住居跡出土遺物(3)  
 第50図 第1号住居跡出土遺物(4)  
 第51図 第1号住居跡出土遺物(5)  
 第52図 第1号住居跡出土遺物(6)  
 第53図 第1号住居跡出土遺物(7)  
 第54図 第2号住居跡出土遺物(1)  
 第55図 第2号住居跡出土遺物(2)  
 第56図 第2号住居跡出土遺物(3)  
 第57図 第3号住居跡出土遺物  
 第58図 第4号住居跡出土遺物(1)  
 第59図 第4号住居跡出土遺物(2)  
 第60図 第4号住居跡出土遺物(3)  
 第61図 第4号住居跡出土遺物(4)  
 第62図 第4号住居跡出土遺物(5)  
 第63図 第4号住居跡出土遺物(6)  
 第64図 第5号住居跡出土遺物  
 第65図 第7・8号住居跡出土遺物(1)  
 第66図 第7・8号住居跡出土遺物(2)  
 第67図 第7・8号住居跡出土遺物(3)  
 第68図 第7・8号住居跡出土遺物(4)  
 第69図 第7・8号住居跡出土遺物(5)  
 第70図 第7・8号住居跡出土遺物(6)  
 第71図 第7・8号住居跡出土遺物(7)  
 第72図 第14号住居跡出土遺物(1)  
 第73図 第14号住居跡出土遺物(2)  
 第74図 第14号住居跡出土遺物(3)  
 第75図 第14号住居跡出土遺物(4)  
 第76図 第14号住居跡出土遺物(5)  
 第77図 第9号住居跡出土遺物(1)  
 第78図 第9号住居跡出土遺物(2)
- 第79図 第11号・第13号・第15号・第16号住居跡出土遺物  
 第80図 第11号住居跡出土遺物  
 第81図 第13号住居跡出土遺物  
 第82図 第15号・第16号住居跡出土遺物  
 第83図 第26号住居跡出土遺物(1)  
 第84図 第26号住居跡出土遺物(2)  
 第85図 第26号住居跡出土遺物(3)  
 第86図 第26号住居跡出土遺物(4)  
 第87図 土坑出土遺物  
 第88図 土 偶(1)  
 第89図 土 偶(2)  
 第90図 土 偶(3)  
 第91図 土 偶(4)  
 第92図 土 錘・土製円盤(1)  
 第93図 土製円盤(2)  
 第94図 ミニチュア土器・土製品(1)  
 第95図 土製品(2)・耳飾り  
 第96図 水晶製石器・石 鏃(1)  
 第97図 石 鏃(2)  
 第98図 石 鏃(3)・ドリル(1)  
 第99図 石 鏃(4)・スクレーパー  
 第100図 石 匙(1)  
 第101図 石 匙(2)  
 第102図 打製石斧(1)  
 第103図 打製石斧(2)  
 第104図 打製石斧(3)  
 第105図 磨 石(1)  
 第106図 磨 石(2)  
 第107図 磨 石(3)  
 第108図 磨 石(4)  
 第109図 石 皿  
 第110図 磨製石斧・砥石  
 第111図 第2号溝出土遺物(1)  
 第112図 第2号溝出土遺物(2)  
 第113図 第2号溝出土遺物(3)  
 第114図 第6号住居跡出土遺物  
 第115図 第17号・第18号住居跡・第19号住居跡(1)出土遺物  
 第116図 第19号住居跡出土遺物(2)  
 第117図 第20号・第21号住居跡出土遺物  
 第118図 第22号・第23号住居跡出土遺物  
 第119図 第24号・第25号住居跡・第27号住居跡(1)出土遺物

- 第120 図 第27号住居跡(2)・第28号住居跡出土遺物
- 第121 図 第29号住居跡出土遺物
- 第122 図 第30号住居跡出土遺物
- 第123 図 第31号住居跡出土遺物
- 第124 図 第32号・第33号・第34号住居跡出土遺物
- 第125 図 第35号・第36号住居跡・第1号溝出土遺物
- 第126 図 第3号溝・第4号溝(1)出土遺物
- 第127 図 第4号溝出土遺物(2)
- 第128 図 第4号溝出土遺物(3)
- 第129 図 第4号溝(3)・第5号溝(1)出土遺物
- 第130 図 第5号溝(2)・第6号溝・第7号溝(1)溝出土遺物
- 第131 図 第7号溝(2)・第8号溝(1)出土遺物
- 第132 図 第8号溝(2)・第9号溝・南側谷部(1)出土遺物
- 第133 図 南側谷部(2)・第2号墓出土遺物
- 第134 図 遺構外出土遺物(1)
- 第135 図 遺構外出土遺物(2)
- 第136 図 遺構外出土遺物(3)
- 第137 図 99年度北側谷部及び遺物分布図(1)
- 第138 図 99年度北側谷部遺物分布図(2)
- 第139 図 99年度北側谷部遺物分布図(3)
- 第140 図 北側谷部出土遺物(1)
- 第141 図 北側谷部出土遺物(2)
- 第142 図 北側谷部出土遺物(3)
- 第143 図 北側谷部出土遺物(4)
- 第144 図 北側谷部出土遺物(5)
- 第145 図 北側谷部出土遺物(6)
- 第146 図 02年度北側谷部及び遺物分布図(1)
- 第147 図 02年度北側谷部及び遺物分布図(2)
- 第148 図 北側谷部出土遺物(7)
- 第149 図 北側谷部出土遺物(8)
- 第150 図 北側谷部出土遺物(9)
- 第151 図 北側谷部出土遺物(10)
- 第152 図 北側谷部出土遺物(11)
- 第153 図 北側谷部出土遺物(12)
- 第154 図 北側谷部出土遺物(13)
- 第155 図 北側谷部出土遺物(14)
- 第156 図 北側谷部出土遺物(15)
- 第157 図 北側谷部出土遺物(16)
- 第158 図 北側谷部出土遺物(17)
- 第159 図 北側谷部出土遺物(18)
- 第160 図 北側谷部出土遺物(19)
- 第161 図 北側谷部出土遺物(20)
- 第162 図 北側谷部出土遺物(21)
- 第163 図 北側谷部出土遺物(22)
- 第164 図 北側谷部出土遺物(23)
- 第165 図 北側谷部出土遺物(24)
- 第166 図 北側谷部出土遺物(25)
- 第167 図 北側谷部出土遺物(26)
- 第168 図 北側谷部出土遺物(27)
- 第169 図 北側谷部出土遺物(28)
- 第170 図 北側谷部出土遺物(29)
- 第171 図 北側谷部出土遺物(30)
- 第172 図 北側谷部出土遺物(31)
- 第173 図 北側谷部出土遺物(32)
- 第174 図 北側谷部出土遺物(33)
- 第175 図 北側谷部出土遺物(34)
- 第176 図 北側谷部出土遺物(35)
- 第177 図 北側谷部出土遺物(36)
- 第178 図 北側谷部出土遺物(37)
- 第179 図 北側谷部出土遺物(38)
- 第180 図 北側谷部出土遺物(39)
- 第181 図 北側谷部出土遺物(40)
- 第182 図 北側谷部出土遺物(41)
- 第183 図 北側谷部出土遺物(42)
- 第184 図 北側谷部出土遺物(43)
- 第185 図 北側谷部出土遺物(44)
- 第186 図 北側谷部出土遺物(45)
- 第187 図 北側谷部出土遺物(46)
- 第188 図 北側谷部出土遺物(47)
- 第189 図 北側谷部出土遺物(48)
- 第190 図 北側谷部出土遺物(49)
- 第191 図 第38号住居跡
- 第192 図 第38号住居跡出土遺物
- 第193 図 第37号住居跡
- 第194 図 第37号住居跡出土遺物(1)
- 第195 図 第37号住居跡出土遺物(2)
- 第196 図 遺構外出土遺物・青銅製品・鉄製品

# 第1章 調査の経過と概要

## 第1節 調査に至る経緯

一般国道411号は通称青梅街道とも呼ばれ、東京都青梅市から塩山市街を通過し、やがて甲府市へ至るルートである。県内外からの需要も年々増加しており、また塩山市街では生活に極めて密着しているため、交通量は非常に多い。このため昭和63(1988)年には県土木部より塩山東バイパス建設工事の事業計画が、県教育委員会に提出された。塩山東バイパスは塩山市千野の新千野橋南から塩山市南端に位置する西広門田橋までを結ぶ国道411号のバイパスである。すでに昭和63年から平成元年にかけて新千野橋の南側において、縄文時代前期及び平安時代の集落跡である獅子之前遺跡が調査されている。平成10(1998)年には全路線の約1/3にあたる千野橋南からJR線南側の駅前通りまでが供用開始となっている。

平成9(1997)年には塩山土木事務所(現峡東地域振興局塩山建設部)の依頼により、赤尾地区に所在する下西畑遺跡の調査に着手した。これを筆頭に建設予定地を南下するように発掘調査が実施され、1998年には大木戸遺跡の発掘調査が開始された。

大木戸遺跡は1992年に行われた塩山市の分布調査時には、既に縄文時代の遺跡として周知されていた。そのため大木戸遺跡の中でも縄文時代の遺物が多数表面採取できる箇所については、試掘調査を行わずに発掘調査を実施した。さらに調査中に遺跡の南側部分の試掘調査を実施した。その結果平安時代の遺構・遺物が検出されたため、南側部分の調査を実施した。また98年に調査した大木戸遺跡の北側部分についても試掘調査を行ったところ、北側に向かって下降する自然谷を検出した。そのため、99年度・02年度の2か年でこの部分を調査したところ、古墳時代前期末及び平安時代の住居跡をそれぞれ1軒ずつ確認した。さらに縄文時代前期から平安時代までの遺物が多数廃棄されており、集落の北側に広がる自然谷を確認するに至った。

なお文化財保護法に基づく手続きは以下の通りである。

- 平成10(1998)年7月 大木戸遺跡の発掘通知を文化庁長官に提出
- 平成10(1998)年12月 大木戸遺跡の埋蔵文化財発見通知を塩山警察署長に提出
- 平成11(1999)年6月 大木戸遺跡の発掘通知を文化庁長官に提出
- 平成11(1999)年12月 大木戸遺跡の埋蔵文化財発見通知を塩山警察署長に提出
- 平成14(2002)年5月 大木戸遺跡の発掘通知を文化庁長官に提出
- 平成14(2002)年7月 大木戸遺跡の埋蔵文化財発見通知を塩山警察署長に提出

## 第2節 発掘調査の概要

### 第1項 発掘調査の経過

本遺跡は塩山市下於曾296他に位置し、標高は382m前後を測る。平成10(1998)年7月7日から11月5日まで、及び平成11(1999)年6月8日から12月3日まで発掘調査を行った。面積は約3,200m<sup>2</sup>を測る。

遺跡は北から南へ向かって緩やかに傾斜する台地上に立地する。このうち遺跡の最も北側で西側へせり出す台地上には縄文時代前期・中期の集落が展開する。前期の遺構としては諸磯a式期の住居跡が1軒、諸磯b式期の住居跡が10軒、中期の遺構としては新道式期の住居跡が2軒、藤内式期1軒、井戸尻式期1軒、土坑は合計8基が検出された。諸磯式期の住居跡は円形で住居跡中央部に向かって楕円状を呈する。中央部を中心に柱穴が配される。住居跡中央部に焼土跡が見られるものもあったが、焼土の堆積はきわめて浅かった。

平安時代の遺構は南側の甲府盆地に向かって緩やかに傾斜する台地上に広く展開する。当該時期の遺構は、住居跡21軒、土坑1基、溝9条が検出された。住居跡は古いものは9世紀、新しいものは13世紀に位置づけられ、約400年間脈々と集落が存続してきたことを知ることができる。カマドはいずれの住居跡も西側壁面に設置されている。検出された溝9条のうち、7条は住居跡の存在しない遺跡南側に集中していた。残りの2条は住居跡の間に、北から南へ向かって所在していた。この2条からは多数の摩耗した平安時代の土器片とともに、比較的多数の

緑釉陶器もしくは灰釉陶器が出土した。とくに第4号溝では、溝の張り出し部分から11世紀に位置づけられる土師器杯とともに完形の緑釉陶器段皿及び灰釉陶器片が出土した。

中世の遺構は墓坑3基が確認された。このうち第1・2号墓からは北側に頭部を向け、西側を向いた人骨が検出された。2号墓に副葬された土師器杯から15世紀代のものであると思われる。

## 第2項 調査組織及び協力機関

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者 平成10年度 石神孝子(文化財主事)・米山真(文化財主事 現竜王中学校教諭)

平成11年度 古屋勝之(副主査・文化財主事 現山梨南中学校教諭)・石神孝子

平成14年度 石神孝子(主任・文化財主事)・小林弘典(文化財主事)

整理作業 平成12年度 保坂和博(主任・文化財主事)・須長愛子(臨時職員)

平成13年度 石神孝子

平成14年度 石神孝子・小林弘典

発掘作業員 雨宮久美子・雨宮節子・雨宮弘哲・赤岡教・飯島慎也・飯田みずほ・一瀬一浩・岡和子・

小野寿美子・加々美昌友・窪田新・窪田広子・久保田裕美・熊谷真樹子・熊谷智史・栗原礼子・

黒瀬信子・沢登淳子・鈴木八千代・滝本香代・田辺秋太郎・田辺君代・寺内みち子・戸田ひろ・

萩原里江子・林周子・深沢茂子・深沢芳邦・福沢由佳・本田京子・前田紀久子・正木なつ子・

正木季洋・村田静一・望月哲夫・山下好・渡辺和子・渡辺佳子

整理員 井上時男・岡和子・栗原敦子・栗原礼子・黒瀬信子・望月忠・中川美千子・正木なつ子・

萩原里江子・大森仁美・渡辺麗子・佐々木富士子・佐々木美由紀・志田幸江・末木友子・岡見雅子・

須長愛子・赤岡教・加々美昌友・相沢博臣・長田恵美子・金丸美雄・五味賢一・清水喜久江・

都倉茂太・萩原仁・細川栄子・米永紋子・渡辺克己

協力者 飯島泉(塩山市教育委員会)・三澤達也(山梨市教育委員会)・榎原功一・畑大介(帝京大学文化財研究所)・飯島しずか・塩山製作所・天野賢一(かながわ考古学財団)・中野達哉(埼玉県春日部市教育委員会)・株式会社アイシー・谷口康浩(國學院大学講師)

## 第2章 環境

今回発掘調査の行われた大木戸遺跡(第1図16)は塩山市に所在する遺跡で、縄文時代・古墳時代・平安時代の遺物・遺構が検出された。塩山市は甲府盆地北東部に位置し、塩山市の北東部には大菩薩嶺、甲武信岳、国師ヶ岳など標高2,000m以上の秀峰が連なる。地域の大部分を山地が占め、西方を笛吹川、ほぼ中央部を重川が南西へ流れる。集落のほとんどはこの両川の扇状地上にあり、大木戸遺跡もここに立地する。現在ではこの扇状地を利用した果樹栽培が盛んである。

塩山市は多くの寺社が存在する観光地であり、武田氏と関係を強調している観光施設も多い。事実塩山市域は武田氏との関係は深く、菅田天神社は武田氏の鎮守とされ、恵林寺、向嶽寺などは武田氏の厚い保護を受けた。しかし、塩山市を含む山梨郡とよばれる地域は、1516(永正16)年の武田信虎による甲府開府までは甲斐の政治・経済・文化の中心地であり、塩山市域の歴史は戦国武田氏以前にこそ注目すべきものが多い。

塩山市域の縄文時代の遺跡として最も目につくのは圧倒的に中期の遺跡である。前期の遺跡としては89・90年に調査の行われた獅子之前遺跡(8)が代表的であるが、これは重川周辺の台地上に立地し、本遺跡の大木戸遺跡もこれと同じく、重川右岸の台地上に立地している。中期になると77年に調査された町田遺跡(18)のように大木戸遺跡とほぼ同じ標高に立地するものもあるが、塩山市域では62年に調査された重郎原遺跡(4)や76年に調査された安道寺遺跡(7)のように、標高の高い山間地に立地するものがあられる。これら縄文中期の遺跡は重川・竹森川の河岸段丘上に濃密に分布している。

塩山市域の弥生時代の遺跡についてはほとんど確認されていないが、弥生時代末から古墳時代になると、遺跡の分布が重川扇状地上でみられるようになる。77・78年に調査された西田遺跡(20)、97～02年に調査された塩山東バイパス関連遺跡群の五反田遺跡(17)・下西畑遺跡(14)では古墳時代前期の集落跡が確認されており、また西田遺跡・下西畑遺跡では古墳時代前期末の方形周溝墓が確認されている。しかし市域では古墳の存在は確認されていない。古墳時代前期には曾根丘陵を中心として古墳の築造が行われていると考え合わせると、塩山市域の当時の状況についてはいまだ全容が解明されたとは言えない。

律令時代の塩山市域は於曾郷とよばれる地域であり、集落跡も多く検出されている。集落跡は山間地に点在するほか、重川右岸の扇状地上でも広く展開されており、本遺跡である大木戸遺跡・西畑遺跡(13)・下西畑遺跡・影井遺跡(15)・五反田遺跡(全て塩山東バイパス関連遺跡群の調査)などがある。集落は重川の川沿いからさらに西側へ連続して展開している。塩山市域には多くの神社が存在するが、その多くは平安時代に由来する。807(大同2)年勧請の所伝をもつ熊野神社(19)、842(承和9)年国司藤原伊勢雄創建と伝えられる菅田天神社(11)のほか、「延喜式」神名帳記載の神社の候補に数えられる古社に松尾神社、神部神社、玉諸神社(2)などがあり、塩山市域が古くから発展したことを物語っている。しかし遺跡の出土遺物から考えると、春日居・一宮・御坂各町域のような発展した地域であったとは言えない。律令時代の塩山市域は春日居・一宮・御坂各町域を中心とする甲斐国の発展地域圏に属してはいたものの、その北東のはずれといった地域ではなかったであろう。

平安末期、甲斐国では甲斐源氏が勢力を伸張したが、塩山市域で勢力を伸張したのがこの一族の祖新羅三郎義光の孫にあたる安田義定である。義定は平家追討に功があり、鎌倉幕府で重きをなしたが、後失脚、処刑される。数多くの文化財を残す放光寺はこの義定の創建である。義定失脚と前後して古代の民族が曾氏の跡を継ぎ塩山市域の於曾郷に入るのが甲斐源氏加賀美氏の光経・光俊である。両者は上於曾・下於曾を分け合ったようであり、下於曾の館が県指定史跡於曾屋敷跡(12)である。

鎌倉時代末期、牧庄領主であった二階堂道蔵に招かれた夢窓疎石により恵林寺が創建、室町時代、甲斐守護武田信成に招かれた技障得勝により向嶽寺(10)が創建され、ともに甲斐国禅宗文化の拠点となり、現在に数多くの文化財を残すことになる。南北朝期以降は歴代の守護武田氏は甲府盆地東部方面に館を構えることが多く、塩山市域との関係も深くなる。菅田天神社・恵林寺・向嶽寺などが武田氏の厚い保護を受けるものもこのころからであり、於曾氏の跡を継承し、於曾郷を支配するのは武田氏一門の板垣氏である。戦国期、武田氏が甲府に拠点を移転して以降

も、塩山市域に甲府の鬼門の役割を果たさせるため、武田氏は塩山市域の寺社を厚く保護していくのである。

このように中世期、甲斐源氏との関連の深まった塩山市域は政治、経済においても非常に重要な地域となり、文化においてはまさに甲斐国の一大中心地となるのである。

〈参考文献〉

塩山市 1996『塩山市史』史料編第一巻

磯貝正義他 1995『山梨県の地名 日本歴史地名体系』19

磯貝正義他 1972『山梨百科事典』

第1表 塩山市遺跡分布表

1	宮久保遺跡	縄文時代中期	
2	玉諸神社		
3	乙木田遺跡	縄文時代中期	
4	重郎原遺跡	縄文時代中期	山梨県教育委員会 1972 『重郎原遺跡』
5	殿林遺跡	縄文時代中後期	
6	北原遺跡	縄文時代中期	
7	安道寺遺跡	縄文時代中期	山梨県教育委員会 1978 『安道寺遺跡調査報告書』
8	獅子之前遺跡	縄文時代前期・平安時代	山梨県教育委員会 1991 『獅子之前遺跡発掘調査報告書』
9	伊保水遺跡	縄文時代前期・近世	山梨県教育委員会 1998 『伊保水遺跡』
10	向嶽寺		
11	菅田天神社		
12	於曾屋敷		
13	西畑遺跡	平安時代	山梨県教育委員会 2002 『下西畑遺跡・西畑遺跡・影井遺跡・保坂家屋敷墓』
14	下西畑遺跡	縄文時代中期・古墳時代・平安時代	同上
15	影井遺跡	平安時代	同上
16	大木戸遺跡	縄文時代前期・古墳時代・平安時代	
17	五反田遺跡	古墳時代・平安時代	山梨県教育委員会 2002 『五反田遺跡』
18	町田遺跡	縄文時代中期	
19	熊野神社		
20	西田遺跡	古墳時代・平安時代	山梨県教育委員会 1978 『西田遺跡 第1次報告書』 1997 『西田遺跡 第2次報告書』



第1図 遺跡の位置 (1/25,000)

### 第3章 縄文時代の遺構と遺物

#### 第1節 住居跡

第1号住居跡(第2図～第4図、第47図～第53図) 本住居跡はA・B-2グリッドに所在し、標高382.100m前後を測る。第2号住居跡と北西側で重複しているが、新旧関係は第2号住居跡の方が古く本住居跡の方が新しい。形状は不整形で規模は5.05m×4.50m、深さ0.25mを測る。覆土は黒色土で炭化粒子及び遺物を多量に包含していた。壁面の立ち上がりは非常に緩やかで、床面と壁面を分けることは難しいほど緩やかな摺鉢状を呈する。しかし壁面外側は若干垂直に立ち上がる。炉は明確なものは見られなかったが、住居跡中央でまとまった焼土跡を検出した。ほとんど焼土の堆積は見られなかった。柱穴は壁面外側に沿うように8基、床面を取り囲むように4基の合計12基が確認できた。いずれも直径0.50m前後で、深さ0.40m前後を測る。また住居跡北側の壁面付近で貯蔵穴1基を確認した。直径0.80m前後を測り、ピットと重複している。内部からは第47図2の深鉢が出土した。

遺物は住居跡中央部を中心におびただしく出土した。しかし個体として復元されるものはほとんどなく、復元し、やや様相が明らかになったものも、その破損状態は破片が住居跡全体に散らばるような状況であった。本住居跡が住居跡廃絶後、土器捨て場として利用されていたと推測される。本住居跡から出土した土器は浮線文系のものが中心であるが、結節縄文系のもの、浅鉢を中心に入組木葉文が施されるものなどが見られる。このうち第47図1は超大型の深鉢で、直径63cm、残存高62cmを測り、底部は欠損する。キャリバー型を呈し、横位に浮線文で区画され、上部から2段目までは浮線による蕨手文が施される。地文の縄文は非常に粗く、粗雑で連続性を観察することは難しい。また第47図3もキャリバー型を呈するものの一つである。さらに第48図10のように胴部のほぼ中央がくびれるもの、口縁部が逆ハの字状に開くものなどが見られる。口縁部は波状で4単位であるものが主流である。また第47図3や第49図18、第50図32等のようにイノシシの獣面突起がつくもの、第49図16～20のように獣面把起の形骸化したものも見られた。浮線文上には縄文が施されるもの、凹凸が見られるもの、綾杉状の沈線が見られるもの、斜め方向の沈線が見られるものなどが一般的であるが、本住居跡では第51図48～50のように、線路状の浮線文も見られた。あまり類例の見られないものである。また第48図9は織維土器で、挿挿きによる沈線により横位に区画され、その中に時折半円状の文様が描かれる。第48図12～15、第50図33及び第53図69～84は浅鉢である。浅鉢は入組木葉文が施されるものが数多く見られる。口縁部は第48図13のように急激に内湾するものが多く見られるが、第48図15のように上部がハの字状に開くものも認められる。口縁部は円孔が通るものが多い。第50図33は器高の高い小型の浅鉢で、口縁部に円孔をもち、その両脇に一方の刻み状の沈線を施した浮線文が施され、胴部は無文である。これらの遺物群から本住居跡は諸磯b2期中葉と捉えられるものと思われる。

第2号住居跡(第5図～第6図、第54図～第56図) 本住居跡はB・C-1・2グリッドに所在し、標高382.300m付近に位置する。第1号住居跡と重複し、新旧関係は本住居跡が古く、第1号住居跡が新しい。形状はやや北東に長い円形で、規模は5.20m×4.00m、深さ0.80m前後を測る。壁面の立ち上がりは比較的急で、底面が広い。底面は平坦であるが、軟弱である。柱穴は床面と壁面の立ち上がる境の部分、もしくは壁面に床面を取り巻くように7基が所在した。また住居跡中央部分にもピットが所在した。柱穴は直径0.30m前後で、深さ0.50m前後を測る。焼土跡は床面中央部に僅かに認められたが、堆積が明確なものは見られなかった。

遺物はほとんど床面から浮いた状態で出土したが、第54図11の口縁部に連続する爪形文が3段前後配され、その間が浮線文状に盛り上がる深鉢が床面直上で見られた。第54図1～10は浮線文を有する土器である。いずれも地文に縄文を持ち、上段は渦巻き文、下段は平行浮線文が施される。5は口縁端部に形骸化したイノシシの獣面突起が貼りつけられている。口縁部は逆ハの字状に直に立ち上がるもの、く字状に屈曲し波状を呈するものなどが見られる。第54図・第55図11～24は連続爪形文が施された土器である。口縁部から胴部中央は横位の連続爪形文を2段ないし3段施し、その内部をやはり爪形による幾何学文や蕨手文等で充填する。本遺跡ではこの文様を持つもので、その全体の形状を呈するものはほとんど見られず、土器片から僅かに知り得る程度である。口縁部

は11・12・13・14・16のように逆の字状に開くものや15のように波状のものが見られた。11は口縁部から胴上半部に爪形文で区画した木葉文が幾何学的に配されるものである。胴下部は縄文で充填される。また12や14・17などのように爪形文の間に円形竹管文を配するものもある。12～20は横位に巡る爪形文の列と列の間に粘土が盛り上がり、浮線文状を呈する様相が見受けられる。おそらく浮線文の初現期の形態であると思われる。このうち15・19・24等は爪形を施文し、粘土が押し出され、浮線文状に盛り上がったものである。一方16・17は前者よりやや明確に浮線文を意識的に貼りつけるものである。前者より後者の方が後出であると思われる。21～23は細かい爪形文で幾何学文様を区画するものである。さらに第55図25～38は縄文により施文するものである。縄文は結節縄文により羽状に施文するものが主流であるが、35のように一方向のものや、住居跡床面直上で出土した38などもある。また29は胴下半部に縄文が施された浮線文が付される。床面直上からの出土であり、爪形文土器に伴うものであると思われる。第56図40～51は浅鉢である。いずれも爪形文の入組木葉文が配される。第56図52・53は台形土器である。第56図52は第1号住居跡の遺物と同じまとまりに属するため、第1号住居跡の一括遺物と捉えることもできる。これらの遺物から本住居跡は諸磯b式期古段階から中葉に帰属するものであろうと推測される。

第3号住居跡(第6図、第57図) 本住居跡はB-3・4グリッドに所在し、標高382.000m前後を測る。この地点は遺構が密集する地帯であり、本住居跡の東側には第11号住居跡が、南側には第9号住居跡と第13号住居跡が所在しており、いずれも確認面から床面までが非常に浅い。これらの新旧関係については、重複する住居跡の中央にある第9号住居跡の記載部分に記述してある。形状は不整形で住居跡東側は確認できず、推定線で示してある。規模は5.20m(推定)×4.25mで、深さ0.40m前後を測る。壁面はやや傾斜して立ち上がり、床面は凹凸が見られるものの平坦である。床面中央に焼土跡がややまとまって見られたことから、炉跡である可能性が高い。柱穴は炉を取り囲むように8基が所在する。直径0.30m前後、深さ0.40m前後を測る。

遺物は土器片が中心で、まとまったものは出土しなかった。第57図1～6は浮線文を有する土器である。全体的に、浮線を均等な太さで丁寧に貼りつけている。浮線上に刺突を施すもの、2本の浮線文を一对として綾杉状に沈線を施すもの(3・4)、浮線文上が無文のもの(2)などが見られる。第57図7～13は沈線文系土器である。4本～6本で横位に櫛状工具により施文しているものと思われる。7の口縁部はくの字状に屈曲すると思われる。また胴部は段を有するものが見られる。14～18は縄文が施文されるものである。羽状縄文によるものが主流であるが、14や17・18なども見られた。20～22は浅鉢である。いずれも口縁部付近に入組木葉文が見られ、胴上半部はこの文様が展開されるものと思われる。22は口縁部が内湾し、口縁部下ですぼまり、さらにもう一段内湾するものである。無文であるが、粘土が精製された表面は丁寧にヨコミガキが施されている。胴部に穿孔が認められた。

第4号住居跡(第7図～第9図、第58図～第63図) 本住居跡はC・D-2・3グリッドに所在し、標高382.000m前後を測る。西側で第5号住居跡と重複するが、重複部分の土層から本住居跡が新しく、第5号住居跡がそれより古いものと思われる。形状はほぼ円形で、規模は長軸7.20m、短軸6.10m、深さ0.50m前後を測る。住居跡中央や南寄りに直径約1.00mの焼土跡が確認できた。焼土の堆積は薄い。床面から壁面までの立ち上がりは、床面と壁面の区別が難しいほど緩やかで、緩い裾鉢状を呈する。西側の壁面の立ち上がりの途中で、テラスを有する。床面は不整形で、軟弱でありやや凹凸が見られた。柱穴は壁面立ち上がり沿いに、床面を取り囲むように9基が所在した。不整形で直径0.50m前後、深さ0.50m前後を測る。

遺物は住居跡全体から多数出土したが、特に焼土跡付近や緩やかに立ち上がる壁面上などからまとまって出土した。焼土跡付近から出土した遺物は、床面より10cmほど高いレベルで見られたが、壁面のものは壁面直上で出土する遺物が多数見られた。出土遺物は浮線文系のもの、沈線文系のもの、縄文系のものに分類できる。このうち、第58図～第60図7・8・10～43は浮線文系土器を示したものである。口縁部は波状を呈するものが多く、いずれも胴上半部に渦巻文を持ち、胴下半部は2～3本で一組になった浮線文が一定の間隔をあけて胴部を巡る。地文は縄文である。浮線文上は縄文や斜位の刻み目、綾杉状の刻み目を持つものなどが見られた。また41のように浮線に刺突を施すもの、42・43などのように線路状の浮線文なども認められた。器形はキャリパー状を呈し、口

縁部から胴上半部は緩やかに内湾し、胴半部で膨らみながら底部へかけてすぼまる。10・11・16等のように波状口縁部の突出部には断面突起の形骸化したものが付されるものもある。また内湾する口縁部の屈曲がややきついものも見られ、新相を呈するものと思われる。沈線文系土器は本住居跡で最も多く、まとまって出土した。胴上半部は逆ハの字状に大きく開き、浮線文系の土器よりも口縁部が著しく屈曲する。8条前後の沈線が1単位となって口縁部から底部までを横位に区画し、胴上半部または中央部に渦巻文を配するものもある。第58図1～6、第61図44～57は沈線文系土器である。このうち1～4は口縁部と屈曲部下の胴部とで文様帯が分かれている。また1・5・55は胴中央部に渦巻文が配される。一方3のように口縁部が直立するものも見られる。第62図～第63図61～86は縄文のみで施文された土器である。縄文は羽状縄文によるものが主流であるが、それ以外にも様々なものが見られ、非常にバリエーションに富んでいる。第63図87～89は浅鉢である。本住居跡では浅鉢は比較的少なかった。入組木葉文が形骸化したものが口縁部に施される。本住居跡では諸磯b式期古段階の遺物が多量に混在しているが、炉付近には若干高低差があるものの、諸磯b式期新段階のものがまとまって出土している。これらから本住居跡が諸磯b式期新段階に帰属するものと捉えている。

第5号住居跡(第10図、第64図) 本住居跡はD-2・3グリッドに所在し、標高382.000m付近を測る。本住居跡は北西側約2分の1が調査区外に延びており、全体の様相を知ることはできなかった。また第4号住居跡と東南側で重複しているが、前述したように本住居跡の方が古く、第4号住居跡の方が新しい。さらに本住居跡中央には縄文時代中期のものと思われる第6号土坑が所在する。第6号土坑も住居跡と同じように、約2分の1は調査区外に延びており、全容を明らかにすることはできなかったが、当該時期の土器を出土した。住居跡の規模は現状で長軸6.00m、深さ0.50m前後を測り、ほぼ円形を呈するものと思われる。壁面は緩やかに立ち上がる擋鉢状で、床面と壁面の区別がつきにくい箇所もある。床面は中央部に土坑があるため詳細については不明であるが、軟弱であった。柱穴は壁面沿いに中央部を取り囲むように8基が所在した。直径0.40m、深さ0.40m前後を測る。焼土跡は確認されなかった。

遺物は浮線文、沈線文、縄文のものが見られたが、まとまりのあるものはほとんど見られなかった。第64図1～6は浮線文系土器である。1は口縁部に線路状の浮線文を持つ。また1・2は口唇部に棒状工具による押圧が見られる。浮線文は2のように縄文を施すもの、1・3～6のように斜位の刻み目を持つものが見られる。7～12は沈線文系土器である。7は口縁部が波状で突出部にイノシシの断面突起が完全に形骸化した円形浮文を貼付するもの、8は内湾するもの、9は逆ハの字状に開くもので、両者とも口縁部付近には鋸歯状の沈線文が見られる。また10は沈線文により横位に区画され、胴中段にはくの字状の連続する沈線文が施される。さらに14～16は縄文により施文されるものである。17～20は浅鉢である。浅鉢の出土は僅かに見られる程度である。

第7号住居跡・第8号住居跡・第14号住居跡(第11図～第14図、第65図～第76図) 本住居跡群はA-D-6・7グリッドに所在し、標高382.000m前後を測る。第7号住居跡、第8号住居跡及び第14号住居跡の3軒が重複しているが、とくに第7号住居跡と第8号住居跡とは、ほとんど重なり合うように所在していた。また遺物も遺構間を越えて広い範囲で接合しているものが多く、それぞれの住居跡に伴った遺物を特定することは非常に困難であった。しかし土層観察の結果から、第7号住居跡の方が第8号住居跡より古い可能性が高いと思われる。一方第14号住居跡は埋堽炉に用いた土器が新道式期に位置づけられるものであったため、この3軒の中では最も古相を呈するものであることを知ることができた。また第7号住居跡・第8号住居跡を南北に走る溝は平安時代のものであり、これらの遺構の中では最も新相を呈するものである。

第7号住居跡は南側に第8号住居跡が、西側に第14号住居跡が重なって位置する。ほぼ円形を呈すると思われる、長軸は推定で7.00m前後、深さ0.40m前後を測る。壁面は北側約4分の1程度しか確認することはできなかったが、しっかりとおり底面からやや緩やかに立ち上がる。底面はやや凹凸が見られるものの、硬化している。炉は住居跡中央部で石囲炉を確認した。炉は人頭大の礫を円形に配する。花崗岩を主に用いている。内面は激しく火を受けており、劣化が著しい。柱穴は相関関係を明確には知り得なかったが、壁面沿いに炉を取り囲むように位置する。柱穴は直径0.40m、深さ0.30m前後を測る。

第8号住居跡は北側に第7号住居跡が、西側に第14号住居跡が重複して所在する。円形を呈すると思われ、長軸は推定で6.00m前後、深さ0.40m前後を測る。壁面は北側4分の1程度しか確認することはできなかった。しっかりしており、床面からやや急激に立ち上がる。底面は凹凸が見られたが、よくしまっており硬化していた。炉は住居跡中央部やや西寄りで見出された。炉の最も外側には人頭大りやや小振りの礫を円形に配置しており、炉の内面は表面が扁平の礫を敷きつめている。それらをはずしたところ、下層から焼土や炭化物を含む層が確認された。柱穴はやはり炉を取り囲むように円形に配されていた。規模は第7号住居跡とほとんど変わらない。

第14号住居跡は、東側に第7号住居跡・第8号住居跡が所在する。北西と南東に長い不整形円形を呈し、長軸6.00m前後、短軸4.00m前後、深さ0.30m前後を測る。壁面は立ち上がりがほぼ垂直であるが、北西側だけは若干緩やかに立ち上がっている。底面はとくに炉付近が硬化していたが、全体的に硬かった。柱穴は8基を確認したが、規格性は窺われなかった。直径0.40m前後、深さ0.30m前後を測る。炉は前述したように埋塞炉で、住居跡北西寄りに位置する。埋塞炉は新道式期の深鉢が用いられており、内面の土は焼土塊と炭化粒子が見られた。

これらの住居跡からは、新道式期から井戸尻式期までの土器が数多く出土したが、それらのほとんどはそれぞれの住居跡に伴う形ではなく、各遺構にまたがった接合関係にあった。(第12図)

第7号住居跡・第8号住居跡から出土した土器は、新道式期から井戸尻式期のものである。第65図1には有孔鈿付土器である。口縁部は隆線を横位に巡らして区画し、隆線上部には円孔が施される。円孔は口縁部に1周する。円孔は円形の棒状工具によるもので、このような工具により一度穿孔したあと、もう一度その円孔に半分重ねるように穿孔し、孔を大きくしている。このような行為は横に2回施す場合や縦の場合、1回のみ穿孔などバリエーションに富んでいる。穿孔の間隔もそれぞれで、そこにはそれほど規格性を意図しているとは感じられない。胴部は隆線により4単位に区画されるが、モチーフは2種類でそれが交互に配される。胴部最大径は胴下半部に位置する。全体的に粘土は精製されておりよく磨かれている。井戸尻式期の所産である。第65図・第67図・第69図2～6・23・25・39は胴上部は無文、もしくは区画文が配され、それより下の部分については縄文が施される。口縁部に1単位の突起物が冠せられものも見られる。底部が若干算盤玉状になるものも見られる。とくに6の突起物は蛇をあらわしている。蛇の下部には把手が施されており、その把手上部に蛇のしっぽが延びている。井戸尻式期の所産である。7・8・12・13は縄文により施文されたものである。8は底部付近が算盤玉状を呈する。第66図・第68図10・16～18・37は出土遺物の中では古相を呈する一群である。胴部に貼付された隆線は無文で、その両脇に連続竹管文が沿っている。隆線間の無文の部分には指頭圧痕が施される。17は深鉢の胴部中央部に貼り付けのサンショウウオ文が表裏に2匹配される。11・26・36・38は隆線によって区画されたパネル文系の土器群である。区画文の中は横位や縦位の沈線文、三叉文などにより充填されている。40～51は縄文による施文を中心とした土器群である。いずれも口縁部が肥厚しており、その部分は無文である。無文帯が44・45のように隆線状になるものや、42のように無文の部分だけ内側に屈曲するもの等も見られる。24・27は無文の土器である。27は口縁部が突起しており、口縁部下部には円孔が2箇所見られ、器壁にはヨコミガキが施される。28～34は口縁部に配される把手部分で、めがね状のものや人面もの、イヌ(?)状のものも認められる。33・34は人面把手である。34は黒陶土偶を連想させるものである。14・16・19は浅鉢である。口縁下部に隆帯が見られ、胴下半部は無文でよく磨かれている。いずれも藤内式期の範疇で捉えられる遺物群である。

第70図52・53はミニチュア土器であると思われる。このうち53は脚部に円孔が見られ、内面には赤彩が施される。54・55は台形土器である。54は脚部を持つ可能性があり、55は持たない。

第70図・第71図56～88は本遺構に含まれた土器群である。このうち56～61は円形竹管文で施文するもので、半載竹管文もしくは沈線文を対角線状に施す。62は半載竹管文を口縁部に沿わせて一周させるもの、63は半載竹管による波状文が横位に施される。64・65は連続爪形文と円形竹管文が施されるものである。66・67・69・70は浮線文系の土器である。このうち66・67はやや硬質で薄く白色を呈し、他地域から持ち込まれたものであると推測される。68は第7号住居跡床面下で出土した深鉢である。口縁部には刻み目を持ち、胴部には結節縄文が施される。第71図68は無文の深鉢である。器形から諸磯式期のものと思われる。器面は摩耗が著しく、その様相

を観察することは難しかった。72は縄文系、73・74は沈線文系のものである。これらの遺物は前期諸磯b式期のものである。75は極細の粘土紐を貼り付けてあり、前期最終末十三菩提式期のものと思われる。76～88は中期初頭に位置づけられる土器群であると思われる。これらは縄文系のもが多く見られ、76・78は口唇部に刻み目を持つもの、79は橋状把手を持つもの等が認められる。81や83・87は文様間の空間が深く刻まれており、比較的古い様相を呈する。

一方第14号住居跡から出土した土器は、主に中期新道式期の遺物が数多く見られた。このうち第72図3は本住居跡の埋燗炉に利用されていたものである。胴上部2段に区画された楕円区画文内部は無文の隆帯に沿って、角押文が施され、内部は三角印刻文で施文される。さらに胴下半部は隆帯が垂下する。また第72図～第74図1・2・4・6・11～28など、基本的に横位の隆帯による区画文が口縁部から底部まで施され、施文はいずれも角押文・三角印刻文が中心となるものである。一方7・30～36は当該時期の浅鉢である。また第72図・第74図5・29などのように無文で土器の表面がよくみがかれているものなども見られる。

第75図37～51、及び第76図52～74及び第72図9・10は本住居跡から出土した遺構外遺物である。第75図37～44は五領ヶ台式期の土器で、主に縄文系のもの出土が目立った。口縁部はやや内湾し、39のように深い刻み目のモチーフを持つものも見られる。また44のように集合沈線文系のもも見られる。

45～51は藤内式期の土器である。45は縦に楕円で区画するミニチュア土器である。51はカエル状の突起物であると思われる。

52～74は前期諸磯式期の土器である。このうち52～60は最も古い段階のものと思われる。52・53は口縁部に幅の狭い爪形文を持つ深鉢である。54～60はこれらとほぼ同時期のもと思われる。米字の文様がややくずれた55・59・60、2本の沈線が波状に交差する54、肋骨文が崩れたものと思われる56・57などが見られる。61～68はやや幅広い爪形文が3条前後で文様を構成し、それらの間には円形竹管文が施されているものも見られる。61は口縁部が波状を呈するもの、62・63は単純口縁を呈するものである。68は浅鉢で人組木葉文を施すものである。これらの土器は前出のものよりやや新相を呈するものと思われる。69～71は浮線文を施すものである。また72～74は縄文及び沈線文を中心に施文する土器である。72は口縁部がくの字状に内側に屈曲する。諸磯b式期の中でもかなり新しい段階のものと思われる。

第9号住居跡(第15図、第77図、第78図) 本住居跡はA・B-4グリッドを中心に所在し、標高382.00m前後を測る。西側で第11号住居跡、東側で第13号住居跡、南側で第3号住居跡、南東側で第15号住居跡と重複するなど、調査区の中でもこの一帯は特に遺構が密集する箇所であった。さらに住居跡の南西側約3分の1は調査区外に延びているため、全容を把握することはできなかった。形状は円形であると思われ、規模は長軸5.10m、深さ0.25mを測る。覆土は黒色土層であり、表土がやや厚かった。2層目から本住居跡の覆土である。床面は軟弱であり、住居跡中央部に向けてやや緩やかに傾斜しているように思われるもの、プランが明確でなかった。また床面はやや凹凸が見られた。壁面の立ち上がりは非常に緩やかで、床面との区別がつかないほどである。柱穴は壁面に沿うように所在するが、規格性は見られなかった。直径0.20m前後、深さ0.40m前後を測る。

出土した遺物は沈線文系土器が大半を占めた。第77図1～9は浮線文系土器である。縄文を施文した後、浮線文を貼り付ける。2・3は口縁部は内側に強くの字状に屈曲する。6・7の胴部はやや張り出し、段が見られるものもある。第77図・第78図10～29は沈線文系土器である。口縁部は10～14のようにくの字状に屈曲するもの、15・18などのようにいくぶん緩やかに内湾するもの、16・17・19～21などのように単純に立ち上がるものなどが見られた。いずれも3・4本～8本程度の橋状の沈線が一単位となって横位に区画し、口縁部から胴部まではそれらの区画の中に渦巻文や幾何学的な文様が配される。また26・28・29などのように胴部に彫らみをもつものも見られ、胴部下半部に渦巻文が施されるものも認められた。30・35～42は縄文系の土器である。これらも口縁部は沈線文系土器と同様の様相を呈する。胴部は羽状縄文が主に施される。30のように筒状のような形状のものも見られる。43は浅鉢である。口縁部下部に有段が見られる。これらの遺物から本住居跡の帰属年代はおおよそ諸磯b式期の新段階であると推定できる。これらの遺物や切り合いの関係から本住居跡と重複する住居跡の新旧関

係について見てみることにしたい。まず本住居跡の東側に位置する第11号住居跡は、層位の観察から本住居跡があとから構築されたものであることがわかる。また遺物は本住居跡のものよりやや古い段階のものであると思われることも、これらの事実と矛盾しない。一方西側に所在する第13号住居跡は床一面に炭化材が付着していたため、床面のプランは明確に捉えられたのだが、壁面は第9号住居跡に切られていると思われ、立ち上がりを確認することができなかった。さらに遺物は第11号住居跡とほぼ同時期であると思われるため、第9号住居跡の方が第11号住居跡より新しいと言える。さらに南側に位置する第3号住居跡は、第11号住居跡に切られている。第15号住居跡は諸磯b式期古段階の遺物を出土していることから、この5軒の中では最も早い段階のものであると考えられる。これらをまとめると古い順に第15号住居跡→第3号住居跡→第11号住居跡・第13号住居跡→第9号住居跡というように推測される。

第11号住居跡(第15図、第79図、第80図) 本住居跡はA-3・4グリッドに所在し、標高382.000m付近を測る。南東側に第9号住居跡と、北側に第3号住居跡と重複しており、北東側に第1号住居跡が近接して所在する。重複している住居跡との新旧関係は上記したとおりである。形状は約2分の1が調査区外に延びているためその様相は不明であるが、おそらく不整形であると思われる。規模は現状で長軸4.43m、深さ0.40mを測る。覆土は黒色土であり、一部カクランを受けていた。床面は軟弱でやや凹凸が見られたが、床面中央部に向かって播鉢状に緩やかに傾斜していた。南西側の調査区壁面で、本住居跡の壁面の立ち上がりを確認することができた。床面縁辺部からはほぼ垂直に立ち上がっている。柱穴は壁面沿いに3基、床面中央部に2基を確認したが、いずれも直径0.20m～0.40m、深さ0.20m～0.30mと比較的浅い。焼土跡が所々で見られたが、堆積は浅い。

遺物は住居跡中央部にまとまって認められた。第79図1及び第80図のように浮線文系・沈線文系・縄文系の土器がそれぞれ見られたが、土器の形状はいずれもほぼ共通している。第79図1、第80図1～4、9・10・15～18などのように口縁部はくの字状に強く屈曲しており、液状を呈する。9のように細かい三角状の刺突によるものなども見られる。また第79図1は口縁部がくの字状の屈曲部分が上部に向かって膨らんでおり、口唇部は外側に反り返っている。一方第79図2、第80図23～26は浅鉢である。第79図2は底部を欠損しているが、3段構成で口縁部は外折し、口縁部下段には円孔が巡る。いずれも無文である。23についても口縁部は外折し、下段は張り出し、強く屈曲する。また26は下段部と思われる段が明確な稜として捉えられる。これらの遺物から本住居跡はおおよそ諸磯b式期のものと推定される。

第13号住居跡(第16図、第79図、第81図) 本住居跡はB・C-4・5グリッドに所在し、標高382.000mを測る。東側に第9号住居跡、北東側に第3号住居跡、南側に第15号住居跡、南西側に平安時代の住居跡である第6号住居跡が所在する。形状はやや不整形であるが円形を呈し、規模は長軸4.90m、深さ0.30m前後を測る。覆土はやや黒褐色を含む茶褐色土で、床面直上には、炭化物を多量に含む茶褐色土層が床面全面を覆うように確認された。第16図平面図中では、それらの炭化物の分布がとくに濃い部分をスクリーントーンで示した。床面は平坦で、非常に軟弱であった。カーボンの付着が全体的に見られた。壁面の立ち上がりは床面に対してほぼ垂直で、東側の壁は第9号住居跡に壊されているため、基底部しか確認できなかった。柱穴は壁面沿いに12基が所在し、さらにそれらより内側に床面中央部を取り囲むように5基が認められた。これらの柱穴は円形もしくは楕円形を呈し、テラスを持つものもある。直径0.40m～0.90m、深いものでは1.00m前後のものも見られる。

遺物はおもにカーボン層よりやや上層で見られた。住居跡東側などで若干まとまって出土した。第79図、第81図は本住居跡から出土した土器を图示したものである。第81図1・8～15のように沈線文系土器が主体を占める。第79図3は4単位の波状口縁を持つ深鉢である。口縁部は屈曲し、胴部からすばまり細くなる。口縁部はやや立ち気味で文様帯は独立する。粗い沈線を横位に配するが、胴上半部は全体的に施文され、区画は見られない。胴下半部は6条前後の横位の沈線で区画される。第81図1は単純口縁の深鉢で、横位に粗い沈線文が施され、胴部中央には矢羽状の沈線が充填される。一方8は波状口縁部を持ち、口縁部はくの字状に強く屈曲する。獸面突起が形骸化し円形の貼付文が口縁部に1点、下部に2点施される。また2・13～18は縄文により施文される土器である。2は上部に円形竹管文が施され、それを經由して波状の沈線文が3本～4本横位に巡る。19は浅鉢口縁部であ

る。口縁部下部に円孔が巡る。無文である。これらの遺物から本住居跡は諸磯b式新段階のものと思われる。

第15号住居跡(第17図、第79図、第82図、第88図) 本住居跡はA-5グリッドに所在し、標高392.000m前後を測る。本住居跡はプランは覆土と地山の差が明確ではなく、はっきりと確認できなかった。さらに住居跡の南東側は調査区外に延びているため、プランの約2分の1しか確認することができなかった。北側には第9号住居跡が本住居跡とほとんど接するように所在し、西側には縄文中期の住居跡である第8号住居跡が位置する。現状では住居跡の形状は不整形であり、規模は長軸4.50m前後、深さ0.60m前後を測る。覆土は地山の黄茶褐色砂質土に類似する暗茶褐色土で、いまひとつ床面・壁面との差異を明確にすることができなかった。床面は平坦であるが若干住居跡中央部に向かって傾斜しており、緩い槽鉢状を呈する。また壁面は床面からやや急激に立ち上がるが、北西壁面は緩やかである。住居跡中央部では2基のピットを確認した。南側のものは約半分が調査区外に延びているため、全容は不明である。短径0.60m前後、深さ0.30m前後を測る。それより北側のピットは直径0.45m前後、深さ0.20m前後を測る。床面の所々では小さな焼土範囲を確認したがいずれも堆積は浅く、炉であるとは断定できない。

遺物は住居跡中央部、床面よりやや上部でまとまって出土した。第79図4・5がそれで、胴部を欠損するものの同一個体であると思われる。口縁部は逆ハの字状に開き、胴下部でやや膨らむ。胴上半部は横位と縦位に沈線文で2段に区画され、区画の内面は波状の沈線により充填される。縦位の区画が見られることから米字文様の形骸化した形であると理解している。胴下半部は羽状縄文が施される。諸磯b式期の古段階に位置づけられるものと思われる。第2号住居跡とほぼ同時期のものと捉えられる。第82図1～12は爪形文及び円形竹管文で施文される土器である。やや大型の爪形文が連続で密に施され、2～4及び9など横位に爪形文により区画された中に、上下に半円状の文様が配されるとされるものや、さらにその内部に円形竹管文が配されるもの、7のように縦位に配される円形竹管文から矢羽状に爪形文が配されるもの等が見られる。また12のように肋骨文や、13のように米字に配するもの、14のように鋸歯文を施すもの等バリエーションに富む。さらに17は爪形文の列と列の間が浮線文状に盛り上がったものも認められる。24～27は浅鉢である。浅鉢の胴部にも爪形文による木葉文が施され、口縁下部には円孔が巡るものもある。26は口縁部に突起が見られ、突起に円孔が施される。また第88図4の土偶は本住居跡から出土したものである。胴部だが簡素な作りである。胸部付近には黒色の塗彩の痕跡が窺われる。これらの資料はいずれも諸磯b式期の古段階のものと思われる。

第16号住居跡(第17図、第79図、第82図) 本住居跡はD-3・4グリッドに所在し、標高382.000m前後を測る。住居跡北東側には第5号住居跡が近接する。住居跡の大部分が調査区外に延びており、住居跡と思われる掘り込みを僅かに確認したのみであるため、全体像については不明である。形状は円形を呈すると思われるが、推測の域を出ない。覆土は黒褐色、2層目は灰茶褐色、3層目は茶黒褐色で、主に遺物を含む層である。床面、及び壁面の状況は槽鉢状を呈し、壁面は床面からなだらかに立ち上がっている。床面も中央部に向かってなだらかに傾斜している。柱穴は見られなかったが、北西壁面付近で楕円形と思われるピットを確認した。ピットは調査区外に延びており、全容を知ることはいできない。

遺物の出土は僅かであった。第79図6及び第82図1～5は本住居跡から出土した遺物である。このうち第79図6は諸磯a式期の深鉢で、北東壁面上で土圧で潰れたような状態で出土した。口縁部には2列の連続爪形文が巡り、胴部は縄文により施文される。底部は欠損する。壁面直上の出土で、本住居跡に伴うものであると思われる。また第82図下段1～4は第79図6と同様に口縁部に連続爪形文が巡り、胴部に縄文が施されるもので、2のように結節縄文が施文されるものもある。5は円形浮文を中心に縦横に区画される文様である。これらはいずれも諸磯a式期に位置づけられるものと思われ、本住居跡の帰属年代を示す資料と推測される。今回確認した住居跡の中では最も古相に位置づけられる。

第26号住居跡(第18図、第19図、第83図～第86図) 本住居跡はA・B-18・19グリッドに位置し、標高380.000m前後を測る。南西側に同時期の土坑であると思われる第7号土坑・第8号土坑、平安時代の住居跡である第19号住居跡が所在する。住居跡南東側2分の1弱が調査区外に延びているため、全容を知ることはいできなかったが、不

整円形を呈するものと思われる。覆土は黒褐色土・暗茶褐色土・黒茶褐色土が主なものであり、この覆土の中にほとんどの遺物が含まれる。また床面直上には地山の土質に類似した暗黄茶褐色土が堆積していた。住居跡中央部やや北西寄りて石囲炉を確認した。さらに炉の内部では炉として利用された深鉢の胴部が出土した。石囲炉に利用された礎は人頭大前後のもので、花崗岩や、蜂の巣石を2次的に利用したものなどが認められる。花崗岩は劣化が著しい。また火を激しく受けた痕跡が見られるものもある。床面は平坦で炉の周りとはとくに硬化している。床面から壁面へ行くほど軟弱な印象を受けた。壁面の立ち上がりはやや急であるが、住居跡東側の壁面は非常に緩やかであった。ピットは7基を確認した。それらに規格性は認められない。6基は直径0.30m前後、深さ0.40m前後を測る。また南西壁面沿いに所在するピットは貯蔵穴であると思われる。不整円形で直径0.80m、深さ0.40mを測る。

遺物は前述したように黒褐色土層からおびただしい量の土器、石器等が出土した。これらは床面から0.10mほど浮いた状態で出土しており、本住居跡廃絶後、土器捨て場として利用されたものと思われる。また第83図2は炉内で利用された深鉢の胴部である。楕円区画文で区画され、楕円の隆帯に沿わせて連続する爪形文が施される。楕円区画の内面には三角印刻文を配する。縄文時代中期前葉新道式期に位置づけられるものと思われ、本住居跡の年代を決定するものと思われる。さらに第83図・第84図・第86図1・10・12・13・16・32は2とほぼ同時期のものである。いずれも最も下層から出土した遺物の一つである。1は口縁下部の一部に楕円区画文を配し、隆帯によって描かれる円形文が2単位配される。隆帯には細かい直線の爪形文が沿う。10は浅鉢で、口縁部には横位に隆帯による鋸歯状の文様が配される。隆帯には直線の爪形文が沿う。12・13・16もそれぞれ隆帯による楕円区画文で構成される土器である。12は一部隆帯上に爪形文が施されるが、隆帯沿いに三角印刻文が施される箇所もある。16は胴部に楕円区画文が横位に施され、その上下は縄文で充填される。32は台形土器である。側面には楕円区画文が配される。やはり新道式期のものであると思われる。これらの遺物は主に最も下層より出土しており、住居跡に伴う遺物と理解することができる。

第83図～第86図3～9・11・14・15・17～31は藤内式期に属すると思われる遺物群である。おもに住居跡の上層及び中段層よりまとまって出土した。このうち3～5・8・17～19・28・29は縦位に区画を施す。また9の深鉢は不規則な4単位で、波状口縁を呈し、突出部分には勾玉文、沈下部分には三日月文が交互に配される。

11の浅鉢は口縁部に押圧隆帯を巡らせる。口縁部下部には補修痕と思われる2点の円孔も認められる。30は無文のミニチュア土器であると思われ、層位的には藤内式期のものであると思われる。31は押圧隆帯を巡らせるもので、蓋であると思われる。これらは住居跡廃絶後に土器捨て場として利用された時に捨てられた遺物であると理解できる。

## 第2節 土坑

第1号土坑(第21図、第87図) 本土坑はB-7グリッドに所在し、標高381.600m前後に位置する。第8号住居跡と重複しているが、出土遺物から本土坑の方が古相を呈する。南北に長い楕円形で、長径1.82m、短径1.48m、深さは現状で0.25m前後を測る。土坑の大半は第8号住居跡構築時に失われていると思われ、わずかに底面付近が検出されたものである。また土坑内面にも第8号住居跡のピットが重複している。底面から壁面はなだらかな播鉢状に立ち上がっている。遺物は底面付近で、縄文が全体に施された深鉢が出土した。口縁部を欠損する。遺物から本土坑の帰属年代は諸磯b式期に求められよう。

第2号土坑(第21図) 本土坑はC-6グリッドに所在し、標高381.600m付近を測る。第14号住居跡と重複するが、本土坑から遺物が出土しなかったため、新旧関係については不明である。直径1.80m、深さ0.35m前後の円形で、底面から播鉢状に立ち上がる。時期は不明である。

第3号土坑(第21図、第87図) 本土坑はB・C-4グリッドに所在し、標高382.000m付近を測る。第13号住居跡の北側壁面と重複しており、出土遺物から第13号住居跡の方が古く、本土坑の方が新しい。本土坑は土器がはめ込まれるような形で検出された。土坑の直径は0.20m、現状で深さ0.20m前後を測る。第87図2は出土した深

鉢である。口縁部の文様帯は隆帯で区画され、内部には三角印刻文が上下交互に配される。胴部はすばまり、結節縄文で施文される。粘土は精製され、よく磨かれている。五領ヶ台式期のものである。

第4号土坑(第21図、第87図) 本土坑はC-4グリッドに所在し、標高382.200m付近を測る。円形を呈し、直径約0.70m、深さ約0.20mを測る。覆土は黒色土で、底面は平坦であった。壁面の立ち上がりは底面に対してほぼ垂直であったが、一部ならかな部分も認められた。土坑からは第87図3の新道式期の深鉢が横たわって土圧で押しつぶされたような状態で出土した。隆帯によってクロスのモチーフが配され、縦に区画される。

第5号土坑(第21図) 本土坑はD-4グリッドに所在し、標高382.000m付近を測る。本土坑は第4号土坑の西側に位置する。円形で直径約0.70m、深さ0.35m前後を測る。底面はやや平坦であるが、壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がる。遺物は非常に少なく、しかも摩耗が著しい。僅かな出土遺物から縄文時代中期中葉である可能性が高いと思われる。

第6号土坑(第22図) 本土坑はD-3グリッドに所在し、標高382.200m付近を測る。第5号住居跡と重複しており、土層の観察から本土坑が新しく、第5号住居跡が古い。やや不整の円形で長径0.95m、短径0.80m、深さ0.40m前後を測る。集石土坑で拳大から人頭大の礫が多数出土した。礫は火を受けているものも見られた。また底部や壁面に平坦な礫が貼り付けられている箇所も見受けられた。出土した遺物は摩耗が著しく、小片であったが、礫に混じって縄文時代中期の土器片が出土した。

第7号土坑(第22図) 本土坑はB-19グリッドに所在し、標高380.500m付近を測る。第26号住居跡の南西に位置する。ほぼ円形で直径1.28m、深さ0.40m前後を測る。底面は平坦であり、壁面は床面に對し、ほぼ垂直に立ち上がるが、北側壁面はやや緩やかに立ち上がる。土坑の中心部に拳大から人頭大、それ以上の大きさの礫を含む。遺物は第6号住居跡と同様に摩耗が著しく、図化に耐えうるものはほとんど存在しなかったが、それらの遺物から本土坑は縄文時代中期中葉に位置づけられると推測される。

第8号土坑(第22図、第87図) 本土坑はA・B-19グリッドに所在し、標高380.400m付近を測る。第26号住居跡の南側に所在する。ほぼ円形を呈し、直径1.05m、深さ0.25mを測る。土坑の底面は広く平坦で、中央部には新道式期の深鉢が横たわり、土圧で潰されたような状態で出土した。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。出土した遺物は第87図4の新道式期の深鉢形土器である。口縁部には1箇所眼鏡状の突起がつけられ、口縁部下段には楕円区画文が配される。胴部中央部には裏と表の2箇所サンショウウオ文が施される。底部は欠損する。

土偶(第88図～第91図) 1～4は縄文時代前期の板状土偶である。

1は前面部と後面部の縁にほぼ隙間なく、また側面部の一部にそれぞれ2列の連続刺突をめぐらせている。一部に黒色塗彩が残っている。前面部と後面部はほぼ平らに仕上げられている。胎土には黒雲母が目立つ。これは諸磯b式期の住居跡からの出土である。2は両脇に細かな円形刺突がそれぞれ2列、連続してみられる。一部に黒色塗彩が残っている。こちらの前面部と後面部は1と異なり、若干ふくらんだ感じに仕上げられている。3は分銅形を呈する土偶の一部と思われる。中央部分のくびれる位置で厚みを増している。両面ともに荒いヘラ状痕がみられ、後面と考えられる側には若干の反りが認められる。4は手・足などの表現がみられ腰のあたりは豊かに広がり、人形を模している。前面部と右脇あたりに黒色塗彩らしきものがわずかに残っている。このような形態は釈迦堂遺跡(東八代郡一宮町)、天神遺跡(北巨摩郡大泉村)などに類例がみられる。なお、いずれの土偶にも確認される黒色塗彩には光沢がみられることから、漆が用いられている可能性がある。これらの土偶はその形態・出土状況などから諸磯b式期のものである可能性が高いと考えられるが、2などにみられる細かな円形刺突は諸磯a式や諸磯b式の古い段階にみられる文様の特徴であることや、本遺跡からは該期の土器も出土していることから考え合わせると、それ以前にさかのぼる可能性も拭いきれない。

前期の板状土偶は、山梨県内では24例ほどが知られているが、中期の莫大な量に比べると極めて少ないもので、本遺跡の資料はその点でも貴重なものである。また全体の数が少ないだけに、ひとつの遺跡で保有する土偶の数も少なく、山梨県内では獅子之前遺跡の10点、釈迦堂遺跡(一宮町)の7点などがあるが、本遺跡の4点はこれに次ぐ数となっている。本遺跡と獅子之前遺跡は同じく塩山市に所在し、距離的にも近いことから縄文時代前期に

おいては、この辺りはひとつの核的な地域であったことも考えられよう。その形態については板状を呈する点では他の前期土偶と同じであるが、獅子之前遺跡や上の平遺跡(東八代郡中道町)にみられる貼付文をもつものを除いては該期のもので文様をほとんどたないのに対して、本遺跡では1・2のように刺突文をもつものがみられることが特筆される。前述の有文のものについても、貼付文というその形態から諸磯c式期～十三菩提式期のものであることが考えられるが、本遺跡のように諸磯a式あるいはb式的な文様をもつものはこれまで知られていない。全国的にみても関東・中部地方では、目立って文様が施される土偶はほとんど見られない。東北地方では大木5・6式期を中心に有文のものがみられ、中には本遺跡例のように刺突が施されているものも散見される。

また、本遺跡の土偶にみられる黒色塗彩には漆が用いられている可能性があるが、該期における県内の土偶資料ではこのような黒色塗彩が施されている例は他にみられない。さらに漆を使った塗彩がみられる例としては、酒呑場遺跡(北巨摩郡長坂町)、で出土している諸磯b式期の浅鉢や、花鳥山遺跡(東八代郡八代町)、桂野遺跡・原山遺跡(東八代郡御坂町)、甲ヶ原遺跡・天神遺跡(北巨摩郡大泉村)で出土している諸磯c式期の有孔土器などがあるが、本遺跡の土偶資料はその中でも最も古い段階の漆塗彩例となる可能性もある。

5～33は中期の土偶である。

5は頭部で、沈線による髪表現や隆帯による結った髪のような表現もみられる。藤内期。この土偶は頭部の成形方法を観察できる。まず直径2.5cmほどの球体を核とし、それに厚さ1cm程度の円板状の粘土を2枚かぶせ、次に棒状粘土を上下方向に並べ頭部を形づくり、顔部は額あたりに棒状粘土を左右方向に入れている。この4層目の棒状粘土の太細によって、後頭部は突出させ、顔面部は平坦に…というように各部位の厚みが調整されている。そして最後に0.5cmほどの厚みをもったうすい粘土をかぶせてコーティングするというように、かなり手の込んだ成形方法がとられている。簡単に作るならば、頭部大の大きさの粘土塊から直接形作ったほうが早いことを考えれば、このような成形過程にも重要な意味があったことも考えられる。6は全身をあらわす小形の土偶で腕は省略されている。後頭部は若干突出し指頭圧痕がみられる。顔面部にはかすかな眉の表現と刺突による目・口の表現がみられる。脚部には浅い切り込みを入れて2本足を表現している。弥生期の土偶である。7は藤内期の土偶で顔面部が剥離した状態のものである。8は顔面部が變形を呈する土偶で、顔の表現は中央より下の部分にこじまりとまとめられている。隆帯による眉、刺突による目・口の表現がみられる。井戸尻期の土偶であろうか。9は頭部で後に沿った沈線と顔面部には眉の表現がみられる。10は両腕を挙げたいわゆるバンザイ土偶で藤内期のものと考えられる。11は両胸の間に三角押文による正中線がみられる。藤内期のものと考えられる。12は乳房の中央を沈線によって表現した土偶で藤内期のものである。13は周囲を押し引きによって裝飾された胸をもつ土偶で新道期のものと考えられる。14は腕で前面部に押し引きの結節沈線による文様がみられる。15はバンザイ土偶の腕の部分である。16は胴部が空洞になる鳴子タイプの土偶で、胴部の孔は内部とつながっている。短い脚部のすぐ上に尻があることから座った状態をあらわしているものと考えられる。17は土偶裝飾付土器の土偶部分で尻部の下から腰部の横にかけて、省略された脚部分に角押文がみられる。新道期のものと考えられる。18は尻部で半截竹管による2種の押し引き表現がみられる。内面に空洞部分がみられることから鳴子タイプの可能性がある。藤内期の土偶。19は左腰あたりの部位と考えられる。井戸尻期か。20は尻部で文様から井戸尻期のものと考えられる。正中線もみられる。この土偶は成形方法も観察できるが、腹部に直径4cmほどの粘土球を核にしてその上に粘土を貼って作られている。21は両腕が前方にまわるタイプの土偶で腹部中央に剥離がみられることから壺などを抱えている土偶の可能性もある。脚部は省略されている。なお、この土偶は振るとかすかではあるがシャラシャラとした音が感じられることから鳴子タイプの土偶であると考えられる。音からすると薄くて小さな石のようなものではないだろうか。ちなみに腹部の剥離部分に小さな穴がみられるが、内部にはつながっていない。22は尻部で沈線による文様が施されている。胎土は粗く、つくりも粗雑である。井戸尻期。23は腰～尻部にかけての部分でかなり大形の出っ尻土偶である。表面はよくみがかれ、丁寧に仕上げられている。三角押文による施文がみられ、側面部の文様の中には交互刺突もみられる。藤内期。26は右脚部である。28は右脚部で、側面からつま先にかけて刻みがみられる。表面は、上下方向にヘラ状痕がみられる。29は右脚部で表面にヘラ状痕がみられる。断

面から、4つの粘土塊を寄せて成形していることが観察できる。30は右脚部である。31は左脚部である。32は右脚部である。33は左脚部で、つま先から甲にかけて3本の沈線がみられる。34は左脚部である。35は左脚部で座像のような足が短いタイプの土偶である。井戸尻期。36は両足が接しているタイプの土偶で、これは右脚部にあたる。足裏部分にはくはみがみられるが意図的なものかどうかは不明である。37は右脚部である。

本遺跡の中期土偶については様々な部位や、色々なタイプのものがみられる。そのなかでも特筆されるのは、成形方法が観察できるものがみられること、鳴子タイプの土偶と考えられるものがみられること、また土偶の項では扱っていないが土偶装飾付土器の土偶部分が見られること、などである。成形方法が観察できるものについては5・22・29があるが、5の頭部についてはただ単に丸めた頭を胴体につける、といった単純なものではなく小さな粘土玉を核として何層にもわたってひとつの頭部が形成されているというように、その成形過程にもただならぬこだわりが感じられる。このことは土偶を使った儀式において、ただ単に土偶という‘形’をつくり、まつりを行うことだけが目的ではなく、それを成形する過程においてもある種の儀式が存在していたことをうかがわせている。22には腹部に粘土玉が納められており、これはその位置的にも胎内を表しているとも考えられないだろうか。次に鳴子タイプと考えられるものとしては18・20・23がある。23は脚部が省略された小形の土偶で振ってみてもかすかな音が感じられるだけで、敢えてこのような音をさせることにどのような意味があったのか興味深いものである。このような土偶は音を鳴らす、あるいは聞くことよりも、胎内に何かを納めることに意義があったのかも知れない。また、部位については頭部から胴部・脚部にいたるまで様々なものがみられるが、このうち脚部については11点のうち左4点、右7点と右脚部が多いのも興味深い。

### 第3節 遺構外出土遺物

第134図1～9は他地域からもたらされたと思われる土器である。薄手で白色を呈する。第134図・第135図10～43は細かい爪形文により施文されるものである。このうち10～19は口縁部に1列もしくは2列、または間隔を置いて2列に爪形文を横位に配するものである。13・16のように爪形文と爪形文の間の無文帯はナアが施される。また爪形文様帯の下段は縄文が施される。20～43はやや形骸化した爪形文を施文する土器群である。2条から3条の横位に巡る爪形文列で1単位を構成し、土器の上半部を区画する。そしてその内面をやはり2条から3条の横位に巡る爪形文列で1単位で20・23等のように波状や、28・29等のように米字などの文様で充填する。それら文様の内面に円形竹管文などを配するものも見られる。またこの段階では複数条の爪形文列の間に盛り上がった粘土を浮線化するものも見られる。また爪形文間に意識的に浮線を施すものも見られる。24・37がそれである。39～43は爪形文により木葉文や三角文を胴部に配するものである。地文が縄文で、区画された内面がミガキにより無文化するもの、もしくはその逆で区画された内面は縄文が施され、地は無文でよく磨かれているものなどが見られる。44は古手で櫛描による流水文である。諸磯a式期の前段階のものであると思われる。45・46は肋骨文を施すものである。沈線により縦位に区画され、その間を横位に肋骨状に沈線を施す。横位の沈線と縦位の沈線が交わる箇所は円形竹管文が付される。また47・50～54はやはり縦位に区画された中に斜位に半裁竹管で沈線を施すものである。半裁竹管による沈線が集中するもの(50)、地文が縄文のもの(52)等が見られる。49・55～61・63～66は半裁竹管により米字文様が施されるものである。55・58・65などのように半裁竹管を波状に巡らせるものも見られる。65は口縁部が波状を呈し、突出部に穿孔が見られる。67～70は円形竹管文を施すものである。71～81は半裁竹管により波状文、肋骨文、鋸歯文などを施すものである。さらに82～84は浅鉢型土器である。木葉文等が見られる。第136図85は十三菩提のものである。押圧を加えた隆帯を横位に施す。地文に縄文を施す。86は大蔵山式の深鉢である。白色の胎土で成形されており、他地域からもたらされた土器であると解釈できる。87～94は中期初頭五領ヶ台式期の土器群である。87・88・94は縄文系のものであり、88は結節縄文が施される。89～93は集合沈線文系のものである。89は横位に区画した中に、半裁竹管状の工具によりくの字状の文様や斜線状の文様等を充填する。91・92は縦位に区画したもので、矢羽状もしくは縦位の文様を施す。

95は縄文時代中期前葉新道式期のものである。隆帯に沿って三角印刺文が施される。96はハート形の突起であ

る。人面状を呈する。97は中期中葉内式期のミニチュア土器である。98は曾利式期のものである。上部は横位に、下半部は縦位にそれぞれ半戴竹管文で条線を施し、その上部に波状の隆帯を横位及び縦位に貼り付ける。器形はキャリバー形を呈する。

99～101は古墳時代前期末の土器である。99は壺の口縁部で、上部へ大きく開くものである。100は高杯の杯部である。内面にはミガキが施される。101は有段の鉢である。外面はハケにより調整される。

102～115は平安時代の緑釉陶器である。緑釉陶器は溝及び遺構外からの出土が主で、住居跡からの出土は殆ど皆無といって良い。いずれも碗及び皿である。硬質のものと軟質のものが見られる。

116は供養具である。江戸時代に位置づけられる。117は型紙刷りにより施文された皿である。近代のものである。

## 第4章 古墳時代の遺構と遺物

### 第1節 溝

#### 第2号溝(第23図、第111図～第113図)

本遺構はA・B・C-7・8グリッドに位置し、調査区を東西に横切るように所在する。標高は382.200mを測り、長さ12.20m、最大幅3.30m、深さ0.65mを測る。壁面はやや緩やかに立ち上がっているが、西側は溝幅が狭く、立ち上がりは急傾斜である。溝南側はテラス状の張り出しを持ち、S字状口縁台付甕や二重口縁壺などの出土が見られた。また溝北側は壁の立ち上がりが緩やかである。出土遺物は壺・S字状口縁台付甕・高杯・小型丸底鉢が見られた。遺物は溝西側でまとまって検出された。壺は単純口縁でハケ調整が施されるもの(第111図1)、口縁部が長く壇状を呈し、器壁にミガキが施されるもの(2・7・8)、二重口縁をもつもの(4)、大きく逆八の字状に開くもの(6)など種類に富んでいる。このうち8は外面に赤色塗彩が施され、口縁部下部には2条の沈線が走る。S字状口縁台付甕は形骸化し、肩部ヨコハケが消滅するなど新相を呈する。外面ハケは胴上半部と下半部で2回にかけて施されている。内面はナアのち指頭裏により調整され、第112図11のようにケズリが施されるものも見られる。15～17は高杯である。15は杯部で、口縁下部に稜が見られる。16・17は脚部で、円孔が認められる。外面はミガキが施され、内面はハケもしくはケズリによって調整される。18は小型丸底鉢である。口縁部内面はナメ方向のミガキが施される。外面胴部はケズリにより調整される。これらの出土遺物から古墳時代前期末のものであると推測される。

また第2号溝構築中、もしくはその後流れ込んだものと思われる遺物の中で、本遺跡の他の遺構と関わり深いものについてここで触れておく。第112図19～21は諸磯b式期に該当する遺物である。19は地文に縄文を施した後に沈線により、米字の文様が形骸化するものである。20も同様のものである。22は鉢である。縄文で施文され、口縁部一箇所に突起が見られる。23は新道式期の深鉢口縁部で、楕円区画文が施される。また第113図24～26は平安時代の甕である。いずれも外面は縦方向のハケ、内面は横方向のハケで調整されている。口縁部はいずれも肥厚している。25は高台付杯もしくは皿である。

## 第5章 平安時代の遺構と遺物

### 第1節 住居跡

第6号住居跡(第24図、第114図) 本住居跡はB・C-5グリッドに位置し、標高382.100m前後を測る。方形を呈するが、住居跡中央部を畑灌によりカクランを受けている。長軸4.90m、短軸3.65m、深さ0.30mを測る。北側で第13号住居跡と、南側で第7号住居跡・第8号住居跡・第14号住居跡と重複する。カマドは東壁のほぼ中央部に設置されていたが、大部分がカクランを受けている。カマドの北側袖部分には、多量の焼土が堆積していた。覆土は準大の礫、もしくは砂礫で、その中に摩耗した土器の小片が多数混在していた。床面は凹凸が著しく、その中には砂礫が多数混在していた。壁面はやや直に立ち上がっている。貯蔵穴は南側壁面中央部に所在する。遺物はほとんどが小片で、摩耗したものが多かったが、床面直上では比較的摩耗の少ない、形をとどめたものが多かった。第114図1~10は杯である。杯はロクロのみで成形され、底部付近にケズリが施されるものも見られる。器壁は若干厚めであり、底部は回転糸切痕が見られる。11~13は高台付杯である。14・15は足高台である。16は柱状高台付杯もしくは皿である。21~23は須恵器甕の破片である。このうち21は転用甕であり、器壁中央に墨痕が見られる。

第17号住居跡(第24図、第115図) 本住居跡はC・D-5グリッドに位置し、標高382.000m前後を測る。方形を呈し、長軸3.20m、短軸3.05m、深さ0.10mを測る。北コーナー付近にカマドが設置されている。カマドは確認面が浅かったこともあって、不整形である。覆土には焼土粒子、炭化粒子が見られた。床面は軟弱である。東側壁面沿いに床面より約0.1m程度高い、突帯状の高まりが見られた。またその周辺からは、置きカマド片、灯明皿等が出土している。壁面は床面からの立ち上がりはやや緩やかであるが、確認面まではほぼ垂直である。柱穴は壁面に沿うように8箇所を確認された。このうち1基は、突帯状遺構の前面に位置する。遺物は僅かで、杯及び置きカマドの破片が見られた。第115図1は灯明皿に利用された杯である。ロクロのみで成形され、口縁部は玉縁状を呈する。また2・3は杯である。いずれもロクロ成形で、やや不整形な印象を受ける。4の置きカマドは底部分である。内外面はハケにより調整されており、底部分は貼り付けられている。これらの遺物から本住居跡は10世紀後半に位置づけられるものと思われる。

第18号住居跡(第25図、第115図) 本住居跡はD-17グリッドに位置し、標高381.000m付近を測る。調査区の境目に所在しており、住居跡の約3分の2は調査区外に位置するため、全容を把握することはできなかった。住居跡の形状は方形を呈すると思われる。長軸3.02m、深さ0.15mを測る。覆土には炭化粒子が混在していた。明確なカマドは確認できなかったが、南西コーナーに近い、西壁面にカマドらしい遺構が見られた。煙出しはわずかであったが、その前面には人頭大の礫が集中しており、袖石と思われる直立した礫も見られた。床面はやや軟弱で中央部がわずかに窪んでいる。壁面は確認面が浅いため、その様子について詳しく知ることはできないが、全体的に緩やかで、特に東壁が緩やかに立ち上がっている。

遺物は鉢・灰軸陶器の長頸壺・須恵器大甕などの小片が僅かに出土した。第115図1は鉢の口縁部である。2は灰軸陶器で長頸瓶の頸部から肩部にかけての破片、3・4は須恵器甕の底部破片である。いずれも小片であるため、遺構の時期決定は難しいものと思われる。

第19号住居跡(第26図、第115図、第116図) 本住居跡はA・B-19・20グリッドに位置し、標高381.000m付近に位置する。住居跡北東を溝が横切っており、北コーナーで中世の墓坑と重複している。新旧関係は古い順に第19号住居跡→溝→墓坑の順番である。形状は方形を呈し、長軸3.20m、短軸3.16m、深さ0.30mを測る。覆土はよくしまっていたが、住居跡中央部には人頭大の礫が複数見られた。おそらく住居廃絶後、溝として利用された時期に混入したものと思われる。カマドは南コーナーに位置する。煙出しは緩やかで、人頭大の礫によりカマド袖部分が構築されていた痕跡が見受けられた。カマドの覆土には、多量の焼土粒子、炭化物の堆積が見られた。また燃焼部には甕を中心とする多数の遺物が残されていた。さらにカマド東側の壁面立ち上がりは緩やかで、壁面の中央部分には灯明皿が位置していた。床面は硬化しており、よくしまっていた。壁面はやや直に立ち上がっ

ている。柱穴は見られなかったが、南壁中央部付近に直径0.25m前後の浅い掘り込みが見られた。遺物は杯・皿・柱状高台付杯・甕・羽釜等が見られた。皿は底部を中心に肥厚化が進み、ロクロのみで成形されたものである。甕は器壁がハケにより調整されるもの他に、ケズリにより調整されるものも見られる。断面は肥厚化し、口縁端部の屈曲が一定ではない。これらの遺物から本住居跡の帰属年代は11世紀後半に位置するものと思われる。

第20号住居跡(第27図、第117図) 本住居跡はB・22・23グリッドに所在し、標高375.500m付近に所在する。南西に第21号住居跡・第23号住居跡が近接して所在する。形状はやや南北に長い長方形を呈する。長軸4.58m、短軸3.40m、深さ0.20mを測る。カマドは南東壁面の南コーナー寄りに位置する。煙出し部分はやや東に振れており、若干不整形である。カマド前面には準大の礫及び土器片が散在していた。またカマド壁面及び床面には、焼土及び炭化物が分布していた。床面は地山が砂質土であるためか、非常に軟弱であった。床面中央部、及びカマド付近には焼土の広がりが見られた。また床面前面には細かな炭化粒子が散在していた。壁面は緩やかに立ち上がる。柱穴もしくは貯蔵穴を3基確認したが、規格性は見られなかった。遺物はカマド周辺を中心に所在した。杯・高台付杯・甕・鉢・灰軸陶器碗・皿、須恵器甕破片がある。杯は小皿化しており、底部及び器壁の肥厚化が進んでいる。甕は内外面の調整をケズリ及びナデにより行っており、口縁部はまっすぐ立ち上がるものである。これらの特徴から、本住居跡は11世紀後半に位置づけられる。

第21号住居跡(第28図、第117図) 本住居跡はB・C・23グリッドに所在し、標高377.700mを測る。東側に第20号住居跡、南西側に第23号住居跡がほとんど接するように所在する。形状は方形で、カマドは南東壁面の南コーナー寄りに位置する。長軸4.09m、短軸3.66m、深さ0.25mを測る。覆土は2層が見られ、床面に近い下層の範囲内で遺物が見られた。カマドは煙出し部分はやや西側に振れており、奥壁はやや緩やかに立ち上がる。カマド前面には準大から人頭大の礫が散在していた。また煙出しには焼土が堆積していた。床面は平坦で、地山が砂質のため非常に軟弱である。壁面は弧を描くように立ち上がる。柱穴は規格性を窺うことはできなかった。遺物は杯・柱状高台付杯・甕・灰軸陶器碗がカマド周辺部を中心に出土した。杯はいずれもロクロのみで成形されたもので、器壁や底部が厚い。第117図2の口縁部は厚く角張ったような印象を受ける。4は柱状高台付杯の底部で、ヘラにより調整が施され、高台端部は面取りされている。6の甕は寸胴で、口縁部に屈曲は見られず、直に立ち上がる。器壁外面はヘラケズリにより調整されており、内面は輪積痕が目立つ粗雑な印象を受けるものである。これらの遺物や住居跡の形態から本住居跡はおおよそ12世紀代に位置づけられるものと思われる。

第22号住居跡(第25図、第118図) 本住居跡はB・C・15・16グリッドに位置し、標高381.000m付近を測る。南西コーナー付近及びカマド部分で第4号溝と重複している。形状は方形を呈する。カマドは南壁面寄りの西コーナーに位置する。壁面付近には焼土が比較的厚く堆積しており、火を受けた杯が出土した。床面には若干凹凸が見られた。床面は比較的よくしまっており、壁面はやや直に立ち上がっていた。柱穴は見られなかった。住居跡南コーナー付近には貯蔵穴が位置していた。長軸0.55m、深さ0.45mを測る。底面は凹凸があり、西側が特に深い。遺物は皿・柱状高台付杯・灰軸陶器の長頸壺口縁部及び碗・羽釜・須恵器大甕である。杯はロクロ成形のみで、肥厚化し小型化が進んだ段階のものである。柱状高台付杯はいずれも大型で、端部に面取りが施されるものも見られる。しかしこれらの遺物と羽釜が共存していることから、これを羽釜の消滅段階のものとして捉え、本住居跡の帰属年代は11世紀末としておきたい。

第23号住居跡(第29図、第118図) 本住居跡はB・C・23・24グリッドに位置し、標高376.000mを測る。すぐ北東側に第21号住居跡が所在する。形状は方形であり、長軸3.25m、短軸3.15m、深さ0.42mを測る。カマドは南東壁面の南コーナー付近に位置する。煙出し部は比較的短く、カマド前面には構築材であると思われる人頭大の礫が散在していた。またカマド中央部には扁平の礫が直立して出土した。支柱であると思われる。袖部東側は地山と同様の茶褐色砂質土で構築されていた。床面は砂質土で軟弱であり、カマドの燃焼部は一段低く掘り込まれている。壁面はやや緩やかに立ち上がっている。遺物は杯・甕・置きカマド等が見られた。いずれもカマド周辺部を中心に出土した。第118図1は大型の内黒杯で、片口である。ロクロ成形で底部付近にヘラケズリを施す。3の杯の側面には墨書がみられる。墨書は逆位で、「首」と読める。4・5は甕である。甕はいずれも外面はタテハ

ケ、内面はヨコハケで調整されている。6は置きカマドである。カマド周辺部より出土した。10世紀前半ころのものである。

第24号住居跡(第30図、第119図) 本住居跡はB-25・26グリッドに位置し、標高379.250mを測る。西側に第28号住居跡・第29号住居跡・第30号住居跡が、南側に第25号住居跡が所在するなど、住居跡が密集する一角に所在する。形状は方形を呈し、長軸3.00m、短軸2.90m、深さ0.10mを測る。全体的に非常に浅く、覆土は黒色土及び黒色土と地山の混在する土が見られた。カマドは東側コーナーに位置し、煙出し部が非常に細い。煙出し部の覆土内には焼土粒子が混在していた。床面は非常に軟弱である。確認面が浅いため、壁面については明確ではない。遺物は非常に少なく、住居跡中央部で甕の胴部及び底部が出土した。胴部は寸胴で内外面ともに粗いケズリが施される。一方底部は端部が外面に反り返っている。これらは同一個体と思われる。遺物が少ないため、住居跡の燻属年代を決定するには多少無理があるかもしれないが、出土資料から11世紀後半から12世紀代であると推測される。

第25号住居跡(第30図、第119図) 本住居跡はA・B-26・27グリッドに位置し、標高372.250mを測る。本住居跡は遺跡のほぼ中央部の住居跡が集中する一角に所在する。形状は南東側が未調査区に延びているため、詳細は不明であるが、方形を呈すると思われる。長軸3.11m、深さ0.15mを測る。カマドは未調査区に所在するのであろうか、確認することはできなかった。床面はややしまっている。壁面は確認面が浅いため詳細は不明であるが、床面から確認面まではやや緩やかに立ち上がる。遺物は杯・高台付杯(皿)・灰釉陶器皿が出土した。杯はロクロのみで成形されたものである。第119図2は口縁端部が厚く玉緑化しており、底部も肥厚化している。これらの遺物から本住居跡の燻属年代は11世紀後半から12世紀代に位置づけられるものと思われる。

第27号住居跡(第31図、第119図、第120図) 本住居跡はA・B-27・28グリッドに位置し、標高379.950mを測る。本住居跡の北東側には第25号住居跡が、また南西側には自然の地形を利用した溝状の落ち込みが所在する。本住居跡付近は北から南へ若干傾斜しており、それに伴って本住居跡は南側壁面の方が北壁面より深く検出できた。本住居跡のうち、南東側の半分は調査区外に延びているため、全体の様相を把握することはできず、北西側半分のみ検出するに至った。長軸は西東で4.65m、深さは0.40mを測る。覆土は全体的に砂質で、4層に分層が可能である。住居跡東壁寄りには、拳大から人頭大の礫が集中していた。カマドは北コーナーに位置し、焼土粒子が床面に分布する。壁面はやや緩やかに立ち上がっており、床面は軟弱であった。床面のほぼ中央部は若干窪んでおり、内部からは遺物の出土が見られた。遺物は杯・甕・鉢・羽釜、灰釉陶器の杯・高台、緑釉陶器の皿等が見られた。第119図1は灯明に用いた杯である。口縁部内面にススの付着が見られる。2~5の杯はいずれもロクロで成形され、口縁部は肥大化し若干張っている。16の甕は部分的にケズリによる調整が確認できる。一方第120図17の鉢は内面が横方向、外面が縦方向のハケにより調整されている。18は羽釜である。また第119図7~10は灰釉陶器である。いずれも小片であり、細かな調整を観察することは難しい。7-8は杯である。9は高台、10は瓶であろうか。11~14は緑釉陶器である。いずれも破片資料であるため、全容を窺えるものは非常に少なかった。13・14は段皿である。本遺跡の住居跡のなかで緑釉陶器が出土した住居跡は本住居跡のみである。これらの遺物から本遺跡の燻属年代は11世紀前半代から中頃であると推測できる。

第28号住居跡(第31図、第120図) 本住居跡はC-27グリッドに位置し、標高379.100m付近に所在する。住居跡北側で、第29号住居跡と重複しており、さらに南側に第30号住居跡が近接する。長軸2.73m、短軸2.70m、深さ0.11mを測る。形状はほとんど正方形で、南コーナーにカマドが所在する。覆土は2層が確認できた。茶黒褐色土層で若干砂質であり、白色礫を含む。カマドは煙出しがコーナーから突出するような形状である。若干焼土が散っているのみであったが、カマド付近からは東壁面沿いにかけては、小型甕を中心に遺物が集中して出土した。床面は砂質で軟弱であった。壁面についても同様で砂質で軟弱であり、やや直に立ち上がっていた。西コーナー付近にはピットが所在した。直径0.40m、深さ0.30mを測る。遺物は杯・甕が見られた。第120図1~6は杯で、いずれもロクロ成形のみで調整されたものである。口縁部が肥厚化するもの(1)、玉緑化するもの(6)、細くなるもの(2)など、バリエーションに富んでいる。また5は灯明皿に利用されたものである。南コーナー付近の緩やか

な壁面上で出土した。7・8・9は甕及び鉢である。いずれもナデにより調整されている。7は小型で壁面はナデ調整が施される。さらに底面には木業痕が見られる。8は鉢状の形状を呈する。9は甕の口縁部破片である。肥厚化が進んでいる。これらの遺物から本住居跡の帰属年代は11世紀後半に位置づけられる。

第29号住居跡(第32図、第121図) 本住居跡はC-26・27グリッドに位置し、標高379.200m付近に所在する。住居跡南側に第28号住居跡と重複する。長軸約4.20m、短軸約4.00m、深さ約0.50mを測る。形状は南西と北東に長い長方形で、南東壁面中央部にカマドが所在する。覆土は中央部がやや硬化していたが、壁面に向かうほど軟弱で砂質であった。カマドは南東壁面から長方形に煙出しが設けられており、先端部はカクランのため失われていた。カマド内には焼土ブロックが密に堆積しており、床面部分では火床面が確認できた。遺物は火床面から浮いた状態で確認された。またカマドの袖部分には人頭大から拳大の礫を中心とした袖石が所在していた。検出時にはすでに散在した状況であった。壁面は緩やかに立ち上がっている。貯蔵穴は東コーナー付近で確認された。直径0.73m、深さ0.15mのやや楕円形を呈する。遺物は杯・皿・甕・羽釜・壺・置きカマド・須恵器蓋・須恵器甕片を利用した転用硯などが出土した。第121図1~6は杯である。いずれもロクロ成形で、底面付近をケズリにより調整されたものも見られる。1~3は内面に暗文が見られ、量量が分化している。また2の底面には「迫田」の墨書が見られる。7は皿で胴部に明瞭な屈曲が見られる。8はロクロ成形された蓋である。9~11は甕である。甕、羽釜は内面はヨコ方向、外面は縦方向のハケにより調整されており、口縁部は明瞭に屈曲する。14は置きカマドの吹き口正面の脚部部分である。外面には庇であろうか、剝離痕が見られる。15は須恵器壺、16は須恵器甕胴部破片を転用した硯である。硯は内面に摩耗した部分が観察できた。これらの遺物から本住居跡の帰属年代は本遺跡の中では古相の9世紀後半と推測される。

第30号住居跡(第33図、第122図) 本住居跡はC-27・28グリッドに位置し、標高379.000m付近に所在する。住居跡北東には第28号住居跡・第29号住居跡が隣接し、東側に第27号住居跡が位置する。形状は西コーナーが明瞭ではないもの方形を呈し、規模は長軸3.68m、短軸3.05m、深さ0.45mを測る。覆土には炭化物・焼土粒子が多量に混入していた。カマドは東コーナーに位置する。先端部を後世の煙溜により失われていた。袖部分は地山面を掘り残しており、その上に礫を積んで袖部分を構築している。北側の袖部分には人頭大強一拳大の礫が残存しており、花崗岩等も利用されていた。カマド周辺には杯を中心とする多数の遺物が残存していた。床面は砂質で軟弱であった。住居跡中央部分には焼土ブロックの残存する箇所が見受けられた。壁面は下部は緩やかに、上部は急激に立ち上がっている。柱穴・貯蔵穴は見られなかった。遺物は杯・甕・鉢・皿・高台付杯(皿)等が数多く見られた。第122図1~12は杯である。いずれもロクロで成形されており、口縁は厚く口唇部付近に面取りされたものも見られ、底部は肥厚化している。8・10は暗文を模したのであろうか、底部を中心に放射状に線刻が見られる。14は高台付皿である。器高が低く、皿は浅く円盤状である。高台付皿の初現時期に位置づけられると思われる。16は足高高台付杯(皿)の高台部分である。器高は高く高台端部は面取りされている。17は鉢、18~20は甕である。鉢は口縁部が肥厚化し、壁面は内外面ともにハケ及び指頭痕で調整されている。これらの遺物の様相から本住居跡の帰属年代はおおよそ10世紀後半に位置づけられると推測される。

第31号住居跡(第34図、第123図) 本住居跡はB-31グリッドに位置し、標高378.800m付近に所在する。東側に第2号墓が所在し、住居跡東コーナーで第3号墓と重複している。第3号墓は中世のものであると思われる。新旧関係は本住居跡が廃絶された後に第3号墓が営まれたものと思われる。形状は東西にやや長い長方形で、北西壁面中央にカマドが所在する。規模は長軸4.45m、短軸3.73m、深さ0.20mを測る。カマドは覆土に焼土粒子・炭化粒子が含まれ、カマドの上層部には甕の破片が残されていた。また火床面は床面より若干深く掘り込まれており、焼土粒子が多量に見られた。床面は砂質で軟弱であり、カマド付近ではやや凹凸が見られる箇所があった。壁面はやや直立して立ち上がっている。柱穴はそれぞれコーナー付近で4基が確認された。円形で直径0.30m前後、深さ0.30m前後を測る。遺物は杯・甕・羽釜・灰釉陶器碗・須恵器甕破片が出土した。第123図1~6は杯でやや楕円形の様相を残し、口縁部がつまみ上げられているもの、内部壁面及び見込み部に暗文があるものなどがある。ロクロで成形されているが、底部付近に回転ヘラケズリが施されるものもある。8~12は甕である。8はカマド及び住

居跡全体で出土した。全体的に薄手で外面は細かなタテハケ、内面はヨコハケにより仕上げられている。甲斐型甕といわれるものである。これらの遺物から本住居跡の帰属年代はおおよそ9世紀前半代であると推測でき、本遺跡の中では初現のものである。

第32号住居跡(第35図、第124図) 本住居跡はA・B-33・34グリッドに位置し、標高378.500mを測る。南には第36号住居跡が、西には近接して第6号溝が、やや離れて第33号住居跡が所在する。住居跡東側が調査区外に延びているため、全容を知ることはできなかったが、やや隅丸の方形を呈するものと思われる。規模は長軸4.00m、深さ0.10mと非常に浅い。カマドは調査区内では検出することはできず、未調査区に所在するものと思われる。床面は非常に軟弱であり、壁面はやや緩やかである。遺構確認面が非常に浅いためであろうか、遺物は非常に少なかった。第124図1は住居跡東側の調査区境界面付近で、ほとんど床面に直上で確認された。口縁部は玉縁化が進んでおり、口縁部と底部の比率も2分の1である。ロクロ成形で底部付近はヘラケズリにより調整されている。その他の遺物は小片であり、図化することは困難であった。これらの遺物から推測したところ、本住居跡の帰属年代はおおよそ10世紀前半代であろうことが推測できる。

第33号住居跡(第35図、第124図) 本住居跡はC-35グリッドに位置し、標高378.500mを測る。住居跡西側で第5号溝と重複しており、新旧関係は第5号溝が廃絶された後に本住居跡が構築されたものと思われ、本住居跡の方が新しいものと推測される。形状はやや南北に長い長方形であるが、北壁より南壁の方が若干長く、台形状を呈する。長軸3.43m、短軸3.00m、深さ0.20mを測る。覆土は黒褐色土層と黄茶褐色土層、ところによっては地山付近で暗黒褐色土層が確認された。カマドは南コーナーに煙出しが突出して所在する。カマド付近には拳大～人頭大の礫が所在していた。おそらくカマドとして組まれていたものであろう。また焼土等もそれほど見られなかった。床面は住居跡中央部付近はやや硬化していたが、中心部から遠ざかるに従って軟弱な印象を受けた。壁面はやや緩やかに立ち上がっている。遺物は杯・柱状高台杯・甕が見られた。第124図1～2は杯である。ロクロのみで成形されており、とくに底部は肥厚化がかなり進んでいる。第124図3は柱状高台杯でロクロで成形されており、一部ヘラケズリが施されている箇所もある。大型である。4は甕である。外面は粗いタテハケにより調整されており、内面はナデ、輪痕痕が見られる。やや球形である。これらの遺物から本住居跡の帰属年代は12世紀末から13世紀代に位置づけられるものと推測される。

第34号住居跡(第36図、第124図) 本住居跡はB・C-36・37グリッドに位置し、標高378.600mを測る。住居跡西側で第5号溝と重複し、層位から第5号溝のほうが古く、本住居跡の方が新しいことが確認できた。さらに住居跡東側には第35号住居跡・第36号住居跡、第2号土坑が所在する。形状は南北に長い長方形で、南東コーナーにカマドが所在する。規模は長軸4.63m、短軸3.60m、深さ0.28mを測る。カマドは南東コーナーに煙出しが突出するように位置する。カマドの両袖部分は完全には原型をとどめていないものの、その前面には人頭大～拳大の礫が所在していた。袖部の礫は2段が残存しており、このうち一段目の礫は床面を掘り窪めて直立させており、袖石の内面は火を受けて脆くなっていた。また扁平の礫を利用して煙出し部を覆っていた。カマド内面の覆土は遺物・焼土ブロックを多量に含んでいた。床面は地山の土が砂質であるため、非常に軟弱であった。壁面についても同様で、立ち上がりは緩やかである。遺物は杯・柱状高台杯・置きカマド片・灰陶陶器碗・灰陶陶器の長頸壺の長頸部分等が見られた。第124図1は皿、2は杯で、特に2の底部は肥厚化が著しい。3・4は柱状高台杯で、いずれも大型のものである。3は柱状部の端部が面取りされており、4は杯部がロクロにより成形されていることを知ることができる。7の甕はほとんど直に立ち上がる器壁を持ち、外面・内面ともにヘラナデで仕上げられている。口縁下部に小さい突起部分を持つ。これらの遺物から本住居跡の帰属年代は12世紀末～13世紀代であると推測される。

第35号住居跡(第37図、第125図) 本住居跡はA-35・36グリッドに位置し、標高378.450mを測る。住居跡のほとんどは東側の調査区外へ延びており、全容を知ることは困難であった。また住居跡南西で第2号土坑と、北側で第36号住居跡と重複している。新旧関係は本住居跡の方が古く、第36号住居跡・第2号土坑の方が新しい。形状は不明であるが、残存している部分から方形を呈すると思われる。規模はカマドも含めて長軸4.58m、深さ

0.20mを測る。遺物は非常に少なかったが、主に上層の黒茶褐色土層に混在する。全体的に不明瞭であった。カマドは北東壁面の北コーナー寄りに位置する。第36号住居跡と重複しているせいか、プランは不明瞭であったが、焼土粒子がまとまって堆積していた。床面は非常に軟弱であり、壁面も同様であるが立ち上がりは緩やかである。遺物は杯・壺・羽釜・灰軸陶器転用硯・須恵器甕片・須恵器蓋がある。遺物のほとんどがカマド付近に集中していた。杯は第125図1~4でロクロ成形の後、底部付近を回転ヘラケズリにより調整するものである。口縁部は玉縁化が著しい。7の甕は薄く、外面は細かいタテハケ、内面はヨコハケにより調整されるものである。6は灰軸陶器の破片である。転用硯として利用していたらしく、内面には磨り面が観察できる。これらの遺物から本住居跡の帰属年代はおおよそ10世紀前半であると思われる。

第36号住居跡(第38図、第125図) 本住居跡はA・B-35グリッドに所在し、標高378.500mを測る。住居跡は東側調査区外へ延びており、全容を知ることはできなかった。住居跡南側で第35号住居跡と重複しており、新旧関係については前述したとおりである。形状は方形を呈するものと思われ、規模は長軸3.38m、深さ0.30mを測る。覆土は黒褐色土である。カマドは検出することはできなかった。床面は軟弱であった。壁面はやや急激に立ち上がる。北コーナー付近で楕円形を呈するピットを確認した。長径0.95m、短径0.40m、深さ0.15mを測る。遺物の出土は見られなかった。第125図1は甕で、口縁部の屈曲が不明瞭である。外面はタテハケ、内面は部分的にヨコハケが観察できる程度である。

## 第2節 土坑

第1号土坑(第38図) 本土坑はC・D-15グリッドに位置する。付近にはプランは明確にはできないが掘立柱建物跡と思われるピット群が所在する。形状は不整形で南側にテラスを持ち、北西側は掘り込まれている。南北5.50m、東西2.65m、最も深いところで1.00m前後を測る。テラス部分の覆土は炭化物・焼土粒子が多量に混入し、摩耗した平安時代の土器片が出土した。また掘り込み部分の覆土は上層はテラス部分と同様であったが、下層は黄茶黒色土であった。上層より馬骨2片とそれに伴うと思われる骨片が出土した。出土馬骨の詳細については、第8章に詳しく記載している。馬骨に共伴した土器の図化は困難であるものの、それらの遺物から平安時代の遺構であろうことが推測される。

第2号土坑(第37図) 本土坑はA・B-36グリッドに位置する。東側には第35号住居跡・第36号住居跡が重複して、西側には第34号住居跡が所在する。第36号住居跡との新旧関係については本土坑の方が新しく、第36号住居跡のほうが古い。長径2.15m、短径1.92m、深さ0.25mで北東に一部突出する部分が見られる不整形を呈する。出土遺物はほとんど見られず、帰属年代は不明である。

## 第3節 溝

第1号溝(第39図、第125図) 本溝はA・B-6・7グリッドに所在し、標高は381.700mを測る。第7号住居跡・第8号住居跡と重複しているが、本溝の方が新しい。北西から南東へ長く、全長約8.50m、幅約0.30m前後、最も深いところで約1.00mを測る。深さは北西側では浅く、南東側へ行くに従って深くなる。床面には凹凸が見られ、平坦ではない。覆土は黒褐色土層が基本であり、その中に縄文時代前期・中期及び平安時代の遺物が多数混在していた。しかしそれより下層面で、白色砂質土がかなり厚く堆積していた。遺物は杯・皿・高台付杯・灰軸陶器碗・緑軸陶器碗・須恵器長頸瓶片が見られた。このうち第125図1は皿で、ロクロ成形ののち、若干底部付近をケズリにより調整している。器壁は若干肥厚化しており、底部は糸切痕が見られる。2は高台杯で、ロクロにより調整され、高台は貼り付けられている。3~7は杯である。いずれもロクロナデの後、底部付近に回転ヘラケズリを施している。口縁部と底部の比率は2分の1以上であり、量量分化が見られる。5~7・9は内面黒色土器である。9には文様が見られる。10は灰軸陶器である。口縁部は外反し、高台が貼り付けられている。釉薬は漬け掛けである。11~14は緑軸陶器である。いずれも小片のため、詳細については不明である。14は碗の底部である。底部外面には三又トチンの痕跡が観察できた。これらの遺物は平安時代の広い時期にわたっている。しかし底面付近

で検出したものには10世紀代のもが多く見られ、本遺構の年代の中心がその前後に位置づけられるのではないであろうか。

第3号溝(第39図、第126図) 本溝はA・B-10~13グリッドに位置し、標高381.350m付近に位置する。溝の北東側に継続する部分はA・B-8・9グリッドでは確認できなかったため、調査区外から延びてくるものと思われる。一方でその反対側の南西側はC・D-15グリッド付近では確認されなかったため、既存の道路下に延びているものと思われる。現存で全長約10.00m、幅0.30m前後、深さ0.60m前後を測る。底面近くでは人頭大~拳大の礫が散在しており、砂礫が堆積している箇所も見られた。底面は凹凸が著しく、壁面は直に立ち上がっていた。調査区北東の際で両壁面に沿って対になるピットが確認された。いずれも深さ1.00m前後を測る。また、北東方面からのびてきた本溝は、A・B-12・13グリッド杭周辺で西へ約90°カーブする。遺物は杯・皿・高台付杯・柱状高台付杯・甕・須恵器蓋などが見られた。底部に墨書を持つものも認められる。遺物は10~12世紀代のものまで見られたが、11世紀中頃から12世紀代の方が比較的多く残っていた。

第4号溝(第40図、第126図~第129図) 本溝はC-16~22グリッドに位置し、標高380.800m付近に所在する。溝は全長25.00m前後、幅1.00m前後を測り、C・D-16グリッド付近で自然発生的に始まり、D-21・22グリッド付近で調査区外へ延びる。C-18グリッド付近はテラス状で、その部分を境に次第に深さを増していく。最も深い部分では0.80m前後を測る。底面は凹凸が著しく、壁面はかなり急激に立ち上がっている。C-19・20グリッドにかけては溝の幅は狭く、比較的深い。その部分は底面付近に厚く白色の細砂粒子が堆積し、人頭大~拳大の礫が多量に所在した。この層位から出土した遺物は小さく、摩耗が著しかった。C-21・22グリッドにかけては溝は再び浅くなり、南側にテラスを有する。テラスは南側へ延び、自然に立ち上がる。テラス中央では第126図6の土師器皿、1・2の杯2点、第127図39の緑釉陶器段皿、23・25の灰釉陶器碗2点がまとめて出土した。遺構の性格から考えて、この場所で祭祀行為が成された可能性がある。この他にも遺物は杯・皿・高台付杯・柱状高台付杯・甕・甕、灰釉陶器皿・碗・壺・瓶、緑釉陶器皿・碗・瓶、須恵器甕破片・甕破片の転用甕、突帯付四耳壺片等多数の遺物が出土した。またC-22グリッド南付近では古墳時代前期の遺物が集中して出土した。これらの遺物は比較的年代差があり、一時期に限定して利用されたものではないように思われる。しかし緑釉陶器を含む土器群が一括廃棄された年代は、これらの遺物から11世紀中頃から後半と考えられ、この年代が本溝の一つの指標になると思われる。

第5号溝(第41図、第129図、第130図) 本溝はC-34・35グリッドから始まり、調査区を横切りA-39グリッド付近で調査区外へ延びる。全長9.00m前後、幅1.00m前後、深さ1.00m前後を測る。C-35グリッド付近で第33号住居跡と、B・C-36・37グリッド付近で第34号住居跡とそれぞれ重複しているが、本溝の方が古く、住居跡の方がいずれも新しい。覆土は第4号溝とほぼ同様で、底面付近には白色細砂礫が厚く堆積しており、その中には人頭大~拳大の礫が多数混在している。またその層に含まれる遺物はいずれも摩耗している。底面は凹凸が著しく、えぐられたような状況も見受けられる。壁面は全体的に急激に立ち上がっており、V字型を呈する箇所もあるが、緩やかな部分もある。遺物は杯・皿・高台付杯・柱状高台付杯(皿)の柱状部、灰釉陶器碗・瓶、緑釉陶器碗・皿、須恵器甕片などが見られた。このうち杯は第129図1のように内面が黒色で、ロクロナゲの後、底面付近に回転ヘラケズリを持つもの、3の壁面に線刻を持つもの、5・6のように箱形で暗文を持つものなどが出土した。8は杯で小型化しており、特に底面は肥厚化するものが見られた。10は灯明皿に利用されたものと思われ、口縁部に灯芯の跡が焦げて残存する。12~16は高台付杯・柱状高台で、12は足高台、13~15は付け高台、16は柱状高台である。第129図・第130図17~26は灰釉陶器である。種類に富んでいるがいずれも破片であり、全体の様相を知ることができるものはほとんどなかった。17~20は碗である。21~26は瓶で、21・22は口縁部で口唇部は折り返されており、24・25は長頸瓶の頸部であると思われ、23・26は底部である。27~36は緑釉陶器片である。いずれも小片であり、器種を特定するのさえ困難なものも見られた。28は印刻が見られる。33は段皿である可能性が高い。37・38は須恵器破片である。これらの遺物の年代は非常に幅があり、直ちに本溝の属層年代を決定することはできない。

第6号溝(第41図、第130図) 本溝はB-34・35グリッドに位置し、標高379.000mを測る。全長3.90m、幅0.60m、深さ0.30m前後を測る。北東側に第32号住居跡が、南側には第35号住居跡・第36号住居跡が隣接する。覆土は粗い砂質粒子及び親指大〜拳大の礫で構成されており、これらの中に摩耗した平安時代の土器が含まれていた。底面はやや凹凸があり、えぐり込まれたような痕跡も見受けられた。また本溝北東端にはテラス状を呈する箇所が見受けられ、その部分にやや遺物が集中する傾向が認められた。壁面はやや急激に立ち上がっており、場所によっては底面から確認面までがオーバーハングするようなどころもある。遺物は摩耗が著しく、図化できるものは少ない。第130図1は須恵器薬片を利用した転用硯である。磨り面が確認できた。2は高台杯片である。内面に墨痕が僅かに確認できた。3は須恵器長頸瓶片である。

第7号溝(第42図、第130図、第131図) 本溝はB・C-39〜43グリッド付近に位置し、標高378.000m前後を測る。全長約20.00m、幅1.00m前後、深さ約1.50m前後を測る。C-42グリッド付近で西へ枝分かれする。本溝東側には第8号溝が、西側には第9号溝が所在し、第7号溝〜第9号溝は調査区北側に並列するように所在する。この箇所には住居跡の分布は見られず、集落が途切れているものと思われる。覆土は確認面から約0.15mは表土が堆積する。しかしその下層は厚く、何層もの砂礫層が堆積していた。砂礫層は溝が流路として機能していたことを想定させるものである。底面は起伏が見られ、壁面は直に立ち上がるか、オーバーハングして立ち上がる箇所が広く見受けられた。遺物は本溝の南東端から集中して出土した。逆にそれ以外の箇所からはほとんど遺物の出土は見られなかった。第130図・第131図1〜12は本溝から出土した遺物である。いずれもB-43グリッド底面付近で出土した。ほとんど摩耗していない。1〜5は杯である。このうち1・2・4は灯明皿に用いられたものと思われ、内面が著しくすすけており、灯芯の痕跡も見受けられる。口縁部は肥厚化及び面取りされており、底面は厚い。6〜9は緑釉陶器である。いずれも小片であるが、碗であると思われる。10は鉢である。外面は縦方向のハケが見られ、内面はケズリにより調整される。11・12は羽釜である。どちらも突出部分が断面で三角形を呈する。これらの遺物はいずれも時期にそれほど差異がなく、11世紀代には確実に本溝が所在したことが窺える。

第8号溝(第42図、第131図、第132図) 本溝はA・B-41〜43グリッドに所在し、標高377.800m前後を測る。全長約5.00m、幅0.70m前後、深さ0.50m前後を測る。西側に第7号溝が並行して所在する。覆土は主に砂礫層が堆積しており、それらは複数層が観察できる。底面は平坦面が多く、壁面はほとんど直に立ち上がっている。遺物は中央部のやや溝幅が広がった箇所集中して所在する傾向が見られた。薬・羽釜・杯・皿・高台杯・柱状高台杯・須恵器片等が見られた。第131図1〜5は杯である。1は灯明皿で、口縁部及び内面底部付近には黒くスガが付着している。成形は粗く、ロクロのみである。2はやや法量が大いもので、口縁部が若干内湾するものである。3〜5はいずれもロクロのみで成形され、ヘラケズリが施されるものもあり、口縁部が玉縁状に肥厚化するものである。6は小型の皿である。底部が肥厚化している。第131図・第132図12〜14は羽釜である。外面はタテハケ、内面はヨコハケにより調整される。15は把手をもつ甕である。これらの遺物は年代の幅があり、帰属年代を断定できないが、おおよその傾向から10世紀後半〜11・12世紀代に推定できるのではないかと考える。

第9号溝(第43図、第132図) 本溝はC-43・44グリッドに所在し、標高377.500m前後を測る。北西から南東へ傾斜する台地の傾斜変換点付近に位置するため、地形を利用した自然流路であった可能性もある。全長13.00m前後、幅4.00m前後、深さは0.10m前後を測る。溝は浅く、不整形で北側は調査区外に延びている。南側は自然に終わっている。底面は若干の凹凸が見られ、砂礫が堆積していた。壁面は非常に緩やかで、自然に立ち上がる。遺物は少なく、出土したものも摩耗した破片が大部分である。杯・薬・灰釉陶器等が見られた。第132図4の薬は内外面ともにナデにより調整されており、口縁部の屈曲も明瞭ではない。5は片口鉢で、内外面共にナデにより調整されている。2は灰釉陶器の瓶の頸部、3は皿である。6は江戸期の湯飲み茶碗片である。

## 第4節 谷

南側谷部(第44図、第132図、第133図) 調査区の最も南西側は集落跡をのせる台地が終わり、谷状に1.00mほど急激に落ち込んでいる。その台地縁辺部では、広い範囲で焼土跡が確認され、薬・杯・皿等の遺物が出土した。

また谷部分では、縁辺部より若干下がったテラス部分を中心に、多数の遺物が出土した。遺物は甕・羽釜・杯・皿・高台杯片等ほとんど平安時代に位置づけられるものだが、若干古墳時代前期末のものも含む。第132図・第133図はこれらの遺物を図化したものである。1～9は杯である。このうち1～4は口縁部が玉縁化し、外反している。底部付近に回転ヘラケズリの調整が施される。法量には様々なものが見られる。5～8はやや肥厚化し、主にロクロ成形によるものである。10～12は皿である。10は口縁部が玉縁化しており、底部付近には回転ヘラケズリによる調整が見られる。底部は広く、内面には線刻が見られる。14は高台杯片(皿)である。15～17は灰輪陶器片である。碗・高台片・瓶などがある。18～20は甕・鉢である。18は外面はタテハケ、内面はナナメハケにより調整される。口縁部は屈曲がやや明瞭であるものの、肥厚化が著しい。19はナデ及び指頭痕により調整されている。20は底部に木葉痕が見られる。21・22は羽釜である。21は突出部分上部に線刻が見られるが、意味は不明である。23・24は須恵器甕破片である。25はS字状口縁台付甕である。口縁部の屈曲が不明瞭であること、外面にヨコハケが見られないことなどから古墳時代前期末のものであると思われる。26は江戸期の皿である。

## 第5節 ビット群 (第46図)

本ビット群はA～D-15～17グリッドに集中して所在する。標高は380.500m前後を測る。ビットは直径0.30m前後、深さ0.40m前後を測り、合計7基を確認した。これらの規模はほぼ一定しており、掘立柱建物跡の柱穴であった可能性もある。しかし、規格性が明確ではないため、その様相については詳しくはわからない。柱穴の規模は二種に大別できるため、時代の違う2棟が所在した可能性もある。帰属年代は遺物が伴っていないため不明であるが、平安時代の住居跡である第22号住居跡より新しいので、平安時代後半より後出のものであると思われる。

## 第6章 中世の遺構と遺物

### 第1節 墓

第1号墓(第45図) 本遺構はB-19グリッドに所在し、標高380.400m前後を測る。平安時代の住居跡(第19号住居跡)・溝及び本遺構が重複しており、本墓坑が最も新しいものと思われる。墓坑北側に集中する礫は墓坑より古い溝のものであると思われる。形状は南北に長い楕円形で、南北1.45m、東西0.70m、深さ0.30m前後を測る。壁面立ち上がりはやや緩やかであり、底面は広く、平坦であった。本墓坑からは人骨1体が出土した。頭部は北側に脚部は南側に位置し、両足を抱え込むように折り畳んでいる。顔面は西側を向く。頭部は最も残存状態が良好であり、歯部は上下ともよく残存していた。さらに両腕部、左脚部の脛部分は比較的良好な状態で残存していた。一方胸部はほとんど残存しておらず、骨片がやや残存する程度であった。また腰部付近は骨片が集中していた。人骨鑑定の結果、壮年男性と推定された。副葬品等は納められていなかったが、墓坑の形態などから中世のものと思われる。

第2号墓(第45図、第133図) 本遺構はA-30グリッドに所在し、標高378.600m付近に位置する。確認面から非常に浅く、第1号墓坑と比較しても人骨の残存状況は良好とはいえない。形状は南北に長い楕円形で、南北1.05m、東西0.50m、深さ0.15m前後を測る。人骨は頭部が北側に、脚部が南側に位置し、顔面は西側を向いた状態であった。頭蓋骨及び右上腕骨、脚部は部位を確認できる程度の残存状況であったが、その他は骨片が散在する状態で、部位を確認することはできなかった。右手付近ではかわらけが認められた。おそらく副葬されたものと思われる。このかわらけの年代から本墓坑は15世紀代のもものと推測される。

第3号墓(第45図) 本遺構はA・B-31グリッドに所在し、標高378.700m前後を測る。形状は南北に長い不整形楕円形を呈し、南北1.85m、東西0.50m、深さ0.20m前後を測る。第31号住居跡と重複しており、遺構の新旧関係は平安時代に属する第31号住居跡→本墓坑の順番である。壁は底面からほぼ直に立ち上がっており、底面は平坦である。他の2基の墓坑と異なり、本墓坑からはまとまった人骨の出土は見られなかった。しかし、微細な骨片が多数出土することなどから墓坑と判断したものである。墓坑の方位が南北に並行であること、平安時代の住居跡の上に造っていること等から中世のものである可能性が高いと推測する。

## 第7章 北側谷部の調査

98年度に調査を行った大木戸遺跡では、河岸段丘状の台地の上に展開する縄文時代前期及び中期の集落跡を検出した。そのため99年度にはこの集落跡の北側部分について試掘調査を行ったところ、集落をのせる台地が、北側に向かって緩やかに下る谷状の地形を呈することが確認できた。この谷部分には、集落跡で出土した時期の遺物とほぼ同時期の遺物が多量に廃棄されていたため、そのまま本調査を行う運びとなった。なお工事の都合上、調査は99年度と02年度の2カ年にわたって行われた。道路を長軸に沿って分割し、北東側を99年度に、南西側を02年度にそれぞれ調査を行った。ここでは各年度ごとに自然谷の調査内容を明らかにした上で、得られた資料について報告したい。

### 第1節 99年度の調査

谷の調査(第137図～第145図) 2分割した道路のうち、北東側を調査した。南側が狭く、北側に広い台形状の調査区を呈する。調査区南側は、著しくカクランを受けていた。また調査区北側中央部にも一部カクランが見られる。標高は最も高い箇所が382.300m、調査区中、谷の最も低い箇所が381.250mを測る。谷は南東から北西に向かって50cmほど緩やかに傾斜し、その後急激に傾斜する。調査区南東側はおそらく98年度の調査区から続く台地であり、調査区外へと延びる。集落をのせる台地の縁辺部であることを理解することができる。本調査区内においては、遺構は見られなかった。また調査区全域で多数の遺物が出土した。縄文時代前期及び中期、古墳時代前期、平安時代の遺物が見られる。これらの遺物はいずれもほとんど破片で出土し、接合できるものは非常に少なかった。またB-IIグリッドでは土坑状の落ち込みで底部を欠損する深鉢が正位で出土した。また隣接してやはり底部を欠損する有孔銅付土器が横たわるような状態で出土した。いずれも傾斜がゆるやかなテラス状の箇所でも出土した。これと類似する出土形態で出土した土器が02年度の調査区内でも見られた。

縄文時代前期の遺物(第140図) 諸磯a式期及びb式期の遺物はほとんど混在するように、谷部分の最も下層で、ほぼ同じレベルの土層中より出土した。いずれも非常に数は少ない。

諸磯a式期のものとしては、第140図1～4のように縦位に円形竹管文を配し、それらを經由しながら横位に肋骨文を配するもの、5のように口縁部文様帯を連続する半載竹管文で区画し、胴部は縄文を施すものなどが見られる。諸磯b式期の古い段階のものとしては、6～8のように連続爪形文を施すものである。8は胴部上半部の文様帯の最も下段に、円形竹管文を横位に配するものである。9～11は浮線文を施すものである。9のように口縁部がくの字状に屈曲するもの、10のように口縁部に獣面突起が退化して円形貼付文状になったものなどが見られる。12は縄文を施すものである。また13は前期最終末に位置付けられる十三菩提式期のミニチュアの深鉢である。口縁部に矢羽状の沈線が施され、胴部は横位の沈線で2段に区画され、上段は矢羽状、下段は縦位の沈線を充填する。胴部下半部は膨らみ、その後底部に至るようであるが、底部を欠損する。

縄文時代中期の遺物(第140図、第141図) 14～24は中期初頭五領ヶ台式期の遺物である。五領ヶ台式期の遺構は大木戸遺跡全体を通して非常に数が少なく、わずかに土坑が1基確認されたのみであるが、谷部では比較的多く遺物の分布が見られた。これらは集合沈線文系土器と縄文系土器の2種が存在する。このうち前者は17・19・24等であり、横位に区画した中に矢羽状や縦位の沈線文を充填する。後者は18・20～23等であり、渦巻文などが施される。

第141図26～33及び第142図34～47は中期中葉に大別されるものである。26は口縁部と底部を欠損するが、胴部は横位に区画され楕円区画文が施される。楕円区画文と楕円区画文の間は隆帯による渦巻文等独自のモチーフが施される箇所もある。口縁部と底部は無文帯である。26・28等は縦位に文様帯が展開するパネル文である。28は底部を欠損する有孔銅付土器で、26とともに一括で廃棄されていた。34・35はへびをかたどったものである。43・44は浅鉢である。さらに45～47は台形土器である。46・47はミニチュアの台形土器である。

第143図48～63は中期後葉曾利式期の土器で、とくに曾利I～III式期を中心に出土が見られた。98年度の集

落跡の調査では、当該時期の遺構は見られなかったが、99・02年度の谷部の調査では数多くの曾利式土器が出土した。口縁部文様帯は48・50のように重弧文を施すものが認められる。また胴部は53～56のように条線を地文とするもの、52・59・61～63のように縄文を地文とするものなどが見られ、その上面に粘土紐で縦位に区画を施す。61のようにJ字を施すものも見られる。

古墳時代の遺物(第144図、第145図) 古墳時代の遺物は壺・壺・高杯・器台・小型丸底鉢・碗などが見られた。64～71は壺である。64は小型丸底壺で、外面及び内面口縁部は縦方向のミガキを施す。65は口縁部を折り返すタイプのものである。66はヒサゴ壺の口縁部であると思われる。内湾しながら上方に開いており、かなり形骸化したものである。67は埴の口縁部で頸部が有段である。68～70は壺の肩部で、横位の文様帯部分である。68は櫛書きで文様が施され、円形貼付文が配される。72～81は台付甕である。72は下膨れを呈し、器壁にケズリによる調整が認められる。73は折り返し口縁をもつ台付甕で、外面をハケ、内面をケズリにより調整される。74～78及び81はS字状口縁台付甕(以下S字甕)である。口縁部の屈曲は形骸化し、鈍化する。肩部を巡るヨコハケは消滅し、タテハケはあらく形骸化する。内面は指頭圧痕で調整される他、ケズリも見られる。75はこの時期特有の大型のもので発達した口縁部をもつタイプであると思われる。79は台付甕胴部である。外面は粗いハケ調整、内面はケズリによる調整である。80は台付甕台部である。第145図82～86は高杯である。82は小型で、赤色塗彩を施したものである。X脚をもつタイプで盆地内では出土例は数少ない。83は縦方向のミガキが細かく施され、口縁部端部はつまみ上げられている。84は摩耗が著しい。杯部が碗形を呈する。85は高杯脚部である。脚部はどちらかというと棒状で、裾部でハの字状に開く。円孔が見られる。また外面には縦方向に、内面は横方向にケズリが施される。86はハの字状に開く脚部を持つ高杯である。調整は杯部は縦方向のミガキで、脚部はケズリで行われている。90～92は小型丸底鉢である。主にミガキで調整される。64の小型丸底壺とともに当該期に非常に特徴的な器種である。以上のように調整にケズリが数多く見られること、S字甕のヨコハケが消滅しハケが形骸化すること、85のように高杯脚部に棒状のものが見られること、小型丸底壺・小型丸底鉢が見られること、しかしながら小型丸底壺は主にミガキにより調整されることなどを考え合わせて、これらは古墳時代前期末の土器群である。これは大木戸遺跡の第2号溝の時期と同時期であるとともに、下西畑遺跡の方形周溝墓群や五反田遺跡の集落跡と同時期のものである。

平安時代の遺物(第145図) 平安時代の遺物はごく僅かであるが出土した。これらは大木戸遺跡の集落跡から出土したものと時代的に矛盾しないものと思われる。94は杯である。ロク口調整で成形される。96は足高台杯(皿)である。97・98は灰釉陶器碗である。99は緑釉陶器瓶の底部である。100は壺口縁部である。ケズリにより調整される。

## 第2節 02年度の調査

谷の調査(第146図～第196図) 2分割した道路のうち、99年度に調査を行うことができなかった南西側を調査した。北側が狭く、南側に広い台形状の調査区を呈する。基本的に99年度の調査区から継続するように、北東方面へ低くなる谷状地形を形成していたが、遺物の分布は99年度の調査区より密であった。調査区南側では集落跡をのせる台地が継続しており、台地の北西側縁辺部が確認された。その台地縁辺部には、古墳時代前期末の住居跡1軒が位置していた。またD-IVグリッドでは標高382.000m付近で平安時代の住居跡1軒を確認した。このレベルに平安時代の住居跡が所在するという事は、少なくとも縄文時代及び古墳時代前期までは谷状の地形を呈していた当該地が、平安時代までには埋没して平坦な地形に変化していたと推測される。

北西方向へ傾斜する谷は、標高381.400m付近でやや平坦になる。遺物はD-IVグリッドのベルト観察から、標高381.600m付近では中期後葉曾利式土器が、それより下層では中期中葉内式土器及び井戸尻式土器が、その下層では諸磯b式期が確認され、最下層では諸磯b式期古段階及び諸磯a式期の土器片が確認された。また最下層の380.800m付近ではやや平坦になり、傾斜変換点かテラス状を呈するものと思われる。さらにD-IVグリッドは台地縁辺部直下で、北側へ向かってやや傾斜がきつくなっているのであるが、その箇所では傾斜を利用した土坑状

の落ち込みを確認した。縄文時代前期諸磯b式期のもので、その落ち込みを中心に浅鉢破片が多量に分布した。しかし全体の様相を知ることができるものはほとんどなかった。

縄文時代前期の遺構と遺物(第146図～第172図) 本谷部より出土した遺物のうち、最も古い段階に位置づけられる土器群は諸磯a式期段階の一群である。第146図の上から2番目の分布図は諸磯a式期の遺物のもので、その分布は非常にまばらで数も少ない。最下層から出土しており、谷部初現のものであることを理解することができる。しかし諸磯a式期の土器群と諸磯b式期の古段階に位置づけられる爪形文系の土器群は、出土地点においてほとんど差異はなく、長い時期谷の堆積が進まなかったことを物語るものである。第148図～第151図及び第152図1は当該時期に該当する土器である。このうち第148図1は早期判ノ木山西式の土器片である。この時期の遺物はこの1片のみである。また1～4は諸磯a式期の中では最古相の一群である。櫛描文で縦位に区画し、その左右をX状に施文する。口縁部から縦位の区画にかけては櫛状工具による連続の列点が施される。図中1と2は同一個体である。口縁部は若干肥厚化し内湾する。3は口縁部が張り付けにより、肥厚化するもので、端部に櫛状工具により刺突される。4は縦位の区画が円形竹管文によるものである。また5～20は沈線または円形竹管文により縦位に区画され、そこを起点として肋骨状に半載竹管により施文するものである。5～13のように弧状の沈線が上下に組み合わせるもの、16・17のように一方向のもの、18・19のように直線的なもの等が見られる。また口縁部は9のように丸棒状の工具で押圧を加えるものや爪形文を横位に巡らせ、16のように口縁部の文様帯を構成するものも見られる。21～25は米字のモチーフを施すものである。爪形文で施文するものや24のように爪形文と半載竹管状工具による沈線を併用するもの等も認められる。26・27は半載竹管状工具による2本の沈線が交互に交わりながら横位に展開するもの、29は縦位の円形竹管文に横位の櫛状工具により波状文と直線文が交互に配されるもの、31～34はいずれも櫛状工具により波状文が横位に巡らされるものである。35はこのようなモチーフの空間に円形竹管文がランダムに配され、上半部の文様帯の下段には円形竹管文が横位に巡らされるものである。36～39は円形竹管文が縦位のみではなく、横位にも配されるものや縦2列に配されるものである。

第149図1～10は口縁部に連続爪形文が施されるものである。口縁部はいずれもほぼ直立するように立ち上がるもので、連続爪形文で区画された文様帯は無文でミガキが施されている。またこれら文様帯の下部は縄文が施される。10は下部に爪形による肋骨文が施される。14は口縁部にほど近い部位であると思われるが、円形貼付文が施され、横位に爪形文が施される。15は半載竹管を押し引きにより施すものである。また16～29は爪形文もしくは半載竹管状工具による沈線により木葉文を施文する土器である。16～18は口縁部に連続する爪形文を巡らせる。19は浅鉢であると思われ、口縁部は刻みが施される。20・21・25・26・27・29などのように区画された内面に縄文が施され外面は無文であるものと、22・23等のようにそれとは反対のものが認められる。24～33、第150図34～40は爪形文がやや形骸化し、2条から3条が単位の文様を構成するものである。このうち34は土器の文様構成を理解しやすいものである。土器は上部にかけて大きく逆ハの字状に開く。文様帯は口縁部から胴部に施され、胴中央部から底部にかけては縄文が施されるものと思われる。口縁部は2条、胴中央部は3条の爪形文が横位に巡り文様帯を区画する。その内部を上下一対の半円状の文様とやはり上下一対の三角形の文様が交互に配される。類似した土器が塩山市獅子之前遺跡で見られる。35～37は34と同様の文様構成を持つものである。第150図・第151図41～73は爪形文と爪形文の間に浮線文が施されるものである。41・42は浮線は極細で、とくに42は爪形文を施文する際に押し出された粘土が盛り上がり浮線状になった、浮線文の初現期のものである。43～46は浮線の上に棒状の工具で押圧を加えるもので、口唇部にも丸棒状の工具により押圧を加えている。48～73は浮線文の定着が進み、浮線上に一方向に斜位の刻みを施すものである。爪形文の形骸化はかなり進む。また61のように渦巻文を呈するものや、65・66のように円形竹管文が配されるものも見られる。さらに第152図1は半載竹管状の工具で土器の口縁部から胴中央部に施文するもので、第150図34が形骸化したものと見られる。胴下半部は縄文がすり消されている。器形はわずかに口縁部に向かって開き、底部へむかってややすぼまっている。器壁は厚い。

第153図～第158図は浮線文系の土器群である。第146図の上から3番目の分布図は浮線文を施す土器の分布図

である。これらの遺物の分布が最も濃厚であり、集落跡とあわせて本遺跡の中心的な時期であったことを知ることが出来る。また垂直分布図から遺物が谷の落ち込み部分に集中し、2層と3・4層の間が特に遺物の分布が濃厚である。谷部の底面がやや埋没して上昇していることが伺われる。第153図1～13は浮線文の上部に縄文が施されるものである。口縁部は緩やかに内湾するもの(2・4・5)、単純に立ち上がるもの(3)が主流だが中には6のようにくの字状に屈曲するものも見られた。3・4のように口縁部を丸棒状工具で押圧するものも見られ、このような様相は前段階から引き継いでいるものと思われる。また13のように胴部下半部に文様帯が設定されるものも見受けられる。第154図14・15は浮線文上に縄文と刻み目の両方が施されるもので、時間的な過渡期の中にあるものと思われる。第154図・第155図16～35は浮線文上に同一方向へ刻み目を施すものである。口縁部はゆるやかにくの字状に屈曲し、17のようにイノシシの獣面突起を施すものも見られる。地文は縄文で、25のように結節縄文を施すものも認められる。25・28のように口縁部文様帯は蕨手を施すものや26・27のように渦巻文を施すもの、29のように楕円を横位に並べるもの等が見られる。第156図・第157図36～52は浮線文が完全に定着化した段階のものである。口縁部の屈曲はさらに進み、39や41のように内部に入り込むような形状のものも認められる。また46～49のようにくの字状に屈曲するものも見られる。さらに後出のものも捉えられる。浮線文上は2本で1対というように交互に向かい合う綾杉状の刻み目を施す。36～42は口縁部から胴部まで一連の文様が施される。しかし46～48は渦巻文も形骸化し、口縁部文様帯と胴部文様帯は分離する傾向にある。また胴部は3条から4条の浮線文が1単位となって横位に巡る。52のようにそのうちの1本が波状を呈するものなども見られる。また上記には分類できない個性的な浮線文を持つものも見られる。第158図54は細かい列点を施すような浮線文を有する。口縁部は、ほぼくの字を呈し、口縁部は直立する。文様は形骸化が進んでいる。また61・62のように綾杉状の文様の間に刺突を施すもの、63のように線路状のものも認められる。

第159図～第161図は沈線文系の土器群である。第159図1～12は諸磯b式期古段階のものと思われる。1はキャリパー状の器形を呈する。口縁部は丸棒状の工具により押圧が加えられ、胴部には渦巻文が施される。3は波状文が、6は鋸歯文が施される。10・11のように口縁部が突起するものも見られる。13～16は口縁部に向かって大きく開き、急激に内湾する深鉢である。口縁部と胴部の文様が屈曲する後縁を境界としてそれぞれ独立する。口縁部が外折するもの(13)、獣面突起が形骸化するもの(15)等が見られる。17～21は口縁部の屈曲がさらに進むもので、ほとんどくの字状を呈する。17・18は鋸歯文を呈するもの、19・20は波状の突起部分から縦位の沈線が施されるもの、21は渦巻文が形骸化したものである。上記からやや後出のものも捉えられる。第161図22～35は胴部から底部にかけての土器である。22～24は胴中央部が段部である。円形竹管文を呈するもの等が見られる。また25～33は胴下半部である。25・26は文様が施される。34・35は底部付近である。

第162図～第166図は縄文系の遺物である。浮線文系・沈線文系の土器と異なり、縄文系の遺物は施文の様子から新旧関係を知ることはほとんど出来ず、むしろその器形を他の土器と比較することで、土器の時期を決定した。第162図1～14は器壁に縄文を施する口縁部である。1～4・7～9などのようにやや口縁部で外側に開くタイプのもの、5・10～14のように口縁部がゆるやかに内湾するもの等が見られる。1～5は口唇部に丸棒状の工具により押圧が加えられたものである。また4・11・14のように口縁部に獣面突起が形骸化したモチーフを貼付するものも見受けられた。縄文は結節縄文のものが主流だが、それ以外のものも見受けられる。また第163図15・16・19～24や第164図28～35は口縁部がくの字状に屈曲するものである。18・23・28などのように胴中央部から上部へ向かって大きく開き、口縁部が屈曲するものと16・22等のように直に立ち上がりながら口縁部付近で屈曲するものが見られる。また25～27のように屈曲しないものも見受けられる。17・18のように口唇部に浮線文を施すものや21～24・32・33などのように円形貼付文を施すものもある。第165図に見られるように胴部は胴部中央部で一度やすばまり、底部へかけてやや膨らむ。36・40などでその様子がうかがわれる。45のようにほとんど胴部が直立するものも見られた。

第166図1～3は無文のものである。全体的に無文のものはわずかである。いずれもへら状の工具により横位にナデを施した痕跡を観察することが出来る。1は波状で円形貼付文が施される。

第166図1～14は当該時期の外來系の土器群である。1～3は畿内の高島式のものである。貝殻状の工具により器壁を施文する。また12・13は朱が塗彩されたものである。14は大歳山式期の口縁部である。

第146図の最下段の分布図は浅鉢の出土状況を示したものである。99年度に調査した谷部や98年度に調査した集落跡と比較して、今回の調査区では浅鉢の出土が非常に目立った。浅鉢は谷のほぼ全体で出土しているが、とくに調査区中央部には谷の傾斜変換点に土坑状の落ち込みが所在し、そこには多数の浅鉢片が集中していた。またその周辺にもこれらと接合することが出来る土器片が出土した。しかしいずれも完全な形を伺うことが出来るものではなく、壊れたものを廃棄したのであろうか。

第167図～第172図は浅鉢である。いずれも粘土は精製され、表面はミガキが施されている。このうち1～5は口縁部である。口唇部は直に立ち上がり、それに沿うような形で円孔が口縁部を巡る。円孔はいずれも外側から内側へ穿たれている。胴部は口縁部から直して下部へのび、弧を描きながら底部へ至る。1・3～6などのように口縁部と胴部の接続部は突起状に外面へ突き出すものも見られる。また7のように円形貼付文が施されるものや、9のように胴部に縄文が施されるものも見られる。10～39は器壁に施文が見られるものである。浅鉢の中では数少なく、全体の1割程度である。このうち1～26は胴部に入り組み木葉文が施される。木葉文は爪形文により施されるものと半裁竹管状工具によるものが見られる。また10は朱が施されている。口縁部に沿って円孔が施されるものと施されないものがある。また27～39は浮線文が施されるものである。36・37のように口縁部が直に立ち上がり、口縁部内面に浮線文が施されるものもある。40～45は口縁部からややカーブのきつい弧を描くように胴部へ至るものである。口縁部は外折するものも少ないのがみられ、円孔も同様である。46～50は口縁部から胴部への屈曲がきついものである。また51・59のように胴部へかけて緩やかに弧を描きながら底部へ至ると思われるもの、53のように口唇部が反り返るもの等も見られた。60～83は浅鉢の胴部から底部である。61・64～72・75～79のように胴部下段で一段稜線を有するものが多数見られる。また71・73・74のように底部付近でも稜線を有するものも見られる。また79のように稜線を張り出しによって表現し、浮線文状に施文するものも見受けられた。84は中期有孔罍付土器のように見えるが、胎土と技法が諸磯式期の浅鉢と同様であるため、浅鉢に分類するものである。口縁部には円孔が施されるが、法則性を伺うことは出来ない。また口縁部には隆線が巡らされ、途中で胴部に垂下する。円孔の下部にはドーナツ状の隆線が施される。85は半裁竹管文状の工具により施文された土器である。全体的に薄く、粘土は精製されており、表面は赤色塗彩されている。一の沢西遺跡第40号土坑で類似した浅鉢が出土している。

第173図1～3は前期最終末十三菩提様式に分類できる土器である。1は口縁部で4単位で構成されるものと思われる。上部へ向かって反っている。3はソーメン状の極細の粘土紐を貼付するものである。地文は縄文である。縄文時代中期の遺物(第173図～第180図) 第173図1～16及び第174図17～21は中期初頭五領ヶ台式に位置づけられる土器である。調査区全体で出土が見られたが全体的に数は少ない。1～7は集合沈線文系の土器である。このうち1は全体の様相を知ることが出来るものである。器壁はよくミガキが施され、地文には縄文が施される。全体に沈線により施文されるが、胴部屈曲部及び胴部下部には横位で区画された沈線内に鋸歯状の沈線が巡る。また4～7は横位に区画された文様帯にくの字状またはZ状の沈線で充填されるもの、上から下への沈線で充填されるものなどで展開される。11～21は縄文系の遺物である。13・16・17は橋状把手が見られる。また21は底部である。

第152図4～6及び第174図1～6、第175図・第176図は縄文時代中期中葉の遺物である。第152図5と6は同一個体である。これらと4は調査区西側で一括で出土した。当該期の土器は99年度の調査でも2個体前後の土器がまとめて出土する事例が見られた。第174図・第175図1～8は新道式期の遺物である。主に三角形の角押文が隆線にそって施文されるものが中心である。当該期の遺物は非常に数が少なかった。第175図・第176図9～23は藤内・井戸尻式期の遺物である。これらに混在して18・19のような加曾利b式期の土器も見られた。24は筒状を呈するかもしくは脚部なのであろうか。無文で、最下部は面取りが施される。第176図1～3は台形土器である。1・2等のように脚部に円孔が施されるものも見られる。

第152図7及び第177図～第180図は縄文時代中期後葉曾利式期の土器である。98年度に調査を行った本遺跡の集落跡の調査では、曾利式の遺構・遺物については一切確認されなかった。しかし99年度の谷部の調査でも数は少ないが曾利式期の遺物が出土していることから、この台地上に曾利式期の集落が展開する場所があることを示唆するものである。第152図7は谷部間際の台地上で出土した。底面から頸部まで、全体の4分の1ほどの側面しか残存しない。曾利I式のものである。第177図1・2及び13～16は曾利I式期のものである。口縁部は短く、頸部には波状の隆線が施される。3～9は曾利II式期の口縁部である。大型で内面にく字状に肥厚化し、文様が施されるものも見られる。また20～22のように大型の裝飾把手を付されるものや、23～33及び34～45のように地文に沈線が施され、その上部に隆線によりJ字状に垂下するものや縦位に付されるものが見られる。また37～45のように地文に縄文が施されるものも見受けられた。第180図46～52は口縁部に列点が巡らされるものである。46・47のように隆線で区画されるもの、49・50のように沈線で区画されるものも見られる。48は4単位で口縁部に円形貼付文が施され、それを起点に縦位にも列点が施される。こうした形態の文様には地文に縄文が施される。曾利II式期のものであろうか。また56～60は曾利III式期のものである。これらの時期の遺物の出土はごく僅かで、これ以降の時期の遺物はほとんど見られない。

土製品(第181図～第183図) 第181図1～6及び第182図7・8は土偶である。1は頭部である。端部に穿孔が3箇所見られる。よくミガキが施される。2は腕部である。3は腹部である。4は胸部である。平坦でミガキが施される。5は腰部である。腰部のうち2分の1が残存する。沈線による施文が見られる。曾利式期のものである。6はやはり腰部である。展開図が示すとおり、内部が穿孔され、へそ部あたりに繋がるような形態である。7・8は脚部である。ミガキが施される。

第182図1～20は土製円盤である。いずれも土器片の断面にミガキを施し、二次的に利用したものである。しかし19・20については土器片の利用ではなく、当初から土製円盤を作成したものである。第183図1～16はミニチュア土器である。小片がほとんどであるため、時期は確定できない。

第183図1～12は耳栓である。1はピアス状に耳たぶの孔にはめ込むタイプのもの、2～12は耳たぶの孔を通すタイプのものである。また1～3は石製で球状耳飾りである。

古墳時代の遺構と遺物(第191図・第192図) 第38号住居跡はC・D-I・IIグリッドに位置し、標高382.000m付近に所在する。台地の際に位置している。形状は方形を呈し、西側は調査区外へ延びている。覆土は黒色土で金雲母を含んでいた。床面は平坦で、住居跡中央部に焼土跡が見られたが、明確な堆積ではなかった。とくに東側と南側の壁面が非常によく残存しており、南側コーナー部分の壁面は床面から約0.50mが残存していた。壁面は床面からほとんど直に立ち上がっている。ピットはコーナー付近で2基を確認した。おそらく住居跡に伴うものと思われる。直径0.30m前後、深さ0.60mを測る。遺物は住居跡東側壁面で壺・高杯・S字状口縁台付甕が見られた。第192図1～17は本住居跡出土の遺物である。東側の本住居跡より後出の溝にも流れ込んでいるものと判断できた。第192図1～6は壺である。このうち5は住居跡東側で出土したものである。6とともにケズリにより調整されるものである。また4は小型丸底壺である。5・6と同様にケズリにより調整される。3は北陸系の流れをくむ壺であると思われる。口縁部が僅かであるが、5の字状の形状を示す。1・2は二重口縁壺である。7～12は台付甕である。このうち7～10はS字状口縁台付甕である。7は5・13と一括で出土したものである。本来のハケによる調整は見られず、全体にケズリが施されるものである。また10はS字状口縁台付甕の胴部であるが、こちらはハケ調整が施されている。ハケからケズリに移行する過渡期に位置する住居跡であると思われる。13～16は高杯である。13の脚部は2分の1が柱状化しており、脚部中央でハの字状に開く。円孔は下部に施される。杯部内面は細かなミガキが施されるのだが、外面及び脚部はケズリにより調整される。西田遺跡第52号住居跡から出土した高杯と類似する。また15・16は高杯杯部で内外面ともにミガキを施すものである。17は器台の脚部である。杯部との接合部が孔を有する。ハの字状を呈し、円孔を確認した。小型丸底壺が登場し、S字甕や壺の胴部にケズリが施されることから、本住居跡は古墳時代前期末に位置づけられるものと思われる。

平安時代の遺構と遺物(第193図～第196図) 第37号住居跡はD-III・IVグリッドに位置する。標高は382.000m

付近に位置する。このレベルに平安時代の住居跡が所在することは、この時期までには谷部は埋没していたことを示すものである。形状は方形を呈し、北東側壁面中央部にカマドを有する。住居跡中央部にトレンチを設定したため、床面を一部失ってしまったが、地山が砂質土で構成されるため床面は軟弱であった。壁面は床面から緩やかに立ち上がっているが、その後は直に立ち上がる。カマドは煙出しがやや長く、扁平の巨礫及び甕破片で覆われていた。袖部は人頭大の礫を組んで構築されており、内面に平坦な部分を向けていた。また人頭大の礫の間隙には拳大の礫で補強していた。火床面は床面より一段掘り窪められており、焼土が厚く堆積していた。遺物はカマド周辺を中心に出土した。特にカマド西側部分には杯が多数所在していた。1～5は杯である。ロクロにより成形されており、器壁が肥厚化するものも見られる。6は皿である。ケズリにより壁面を調整するものも見られる。7～16は甕である。外面は縦方向のハケにより、内面は横方向のハケにより調整される。ハケがケズリにかわるものもある。口縁部は肥厚化し、屈曲が不明瞭である。また17～19は羽釜である。調整は甕と共通である。また第196図4は本住居跡から出土した鉄鏝である。カマド前面から出土した。これらの遺物から本住居跡は10世紀後半の所産である。

鉄製品(第196図) 1は青銅製の刀装具である。D-Vグリッドより出土した。共存した遺物から10世紀後半に位置付けられる。4は鉄鏝である。第37号住居跡カマド前で床面直上で出土した。住居跡に伴うものと理解している。2・5はD-IVグリッドから出土した。3はD-Iグリッドより出土した。いずれも用途は不明である。鉄製である。

遺構外出土遺物(第196図) 1は第37号住居跡の東側から出土した鉢である。外面をケズリ、内面をヨコハケにより調整する。また2～6はD-Vグリッドより出土した。第196図1の刀装具に伴うものである。2・3は皿、4は高台付杯、5・6は杯である。いずれもロクロにより成形されており、10世紀後半代に位置づけられる。しかし遺構は確認できなかったため、どのような性格のものかは不明である。

第196図1～12は古墳時代前期末に位置づけられるものである。1は壺である。2～7は台付甕である。このうち4・5はS字状口縁台付甕である。口縁部が形骸化している。8～10は高杯である。杯部は内外面にミガキが施され、口縁端部は面取りされている。9は柱状化する高杯脚部である。下部に円孔が認められる。10はハの字状に開くものと思われる。11・12は小型丸底鉢である。ミガキが施される。

## 第8章 分析

### 第1節 大木戸遺跡出土の人骨について

聖マリアンナ医科大学解剖学教室 星野敬吾・平田和明

大木戸遺跡から出土した中世の人骨2体の形質鑑定所見について記載する。2体の発掘人骨は、それぞれ1号人骨、2号人骨とする。

#### 1号人骨(壮年期男性人骨)

保存状態は不良で、頭骨、下肢長骨数本、その他多量の骨片が残存する。頭蓋骨片は全景を確認するに至らず、土砂に埋もれて観察は困難である。歯列は比較的によく残り、主にその側面像を観察可能である。以下に歯式を示す。

××××××××1 | 1 2 3 4 5 6 7 8

××××××××2 | 1 2 3 4 5 6 7 8

アラビア数字(1～8)：永久歯

×：破損・欠損

咬耗はMartinの2度を示す。成人ではあるが、それほど年齢には達していず、壮年と推定する。歯列弓は単純な放物線を描き、そこから外れる歯はなく、咬耗も平らで一様である。大臼歯、中切歯など、歯冠は大きい。男性と推定される。

下肢長骨は、左右の大腿骨骨幹部および左頭骨骨幹部が確認できる。他には左右不明の寛骨(腸骨翼)が認められる。

#### 第2号人骨(壮年期女性人骨)

保存状態は不良で、頭蓋、腕骨と推定される長骨骨幹が1本、部位不明の長骨骨幹(上腕骨か?)が2本、残存する。頭蓋の中で、左半の歯列弓および幾本かの遊離歯冠片を確認できる。歯式を以下に示す。

×××54321 | 1 2 3 4 5×7×

×7×××32× | 1 2 3 4 5×××

咬耗はMartinの1～2度を示す。成人、それも壮年期に属すると推定できる。顎骨は小さくきゃしゃで女性と推定される。

#### まとめ

大木戸遺跡から出土した人骨は2体の成人骨である。保存が悪いために多くは推定できないが、主に歯・顎骨の所見から、いずれも壮年期成人男女1名ずつである。

## 第2節 大木戸遺跡出土動物遺存体の分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

大木戸遺跡は、山梨県塩山市下於曾に所在し、甲府盆地東部の重川右岸に連続する高台に立地している。これまでの発掘調査で、縄文時代前期および中期の住居址や平安時代の住居址・溝址・土坑、さらに墓坑などが検出されている。特に平安時代後半に比定される堅穴住居址が20軒ほど検出されており、当該期の集落跡を中心とした遺跡であることが確認されている。

本報告では、C-15から検出されたで平安時代の所産とされる1号土坑から出土した動物遺存体を対象とし、種類や性格に関する情報を得ることを目的として動物遺存体分析を実施する。

### 1. 試料

試料は、C-15・1号土坑から出土した動物遺存体である。動物遺存体には、それぞれ遺物No. が付されており、対象となる試料は遺物No. 7～9である。なお、遺物No. 7・9は、骨細片が多数あり、観察の結果、部位が同一のものとは異なるものに分類された。試料の詳細を表1に記す。これら試料は、平面的には1号土坑北東側に点在し、ほぼ土坑覆土中位～上位から出土しているが、出土状況を見る限り解剖学的位置は保っていないと考えられる。なお、試料はパラロイドB72による保存処理が施されている。

### 2. 分析方法

肉眼およびルーペにより形態や表面の状態を観察し、骨格図(加藤, 1983など)や標本との比較により同定する。また、デジタルノギスを用いて計測をし、その値を基に形質の検討を行う。なお、骨の名称や用語は加藤(1983)、および久保・松井(1999)に基づいている。

### 3. 結果

各試料の詳細を表1に示す。部位が同定できた試料は、ウマである。検出部位を図2に示す。解剖学的位置を保たないため、同一個体由来するかは不明であるが、保存状態や成長状態は類似する。No. 7およびNo. 9の部位不明骨は、種の特徴を残す部位がなく、種の同定ができない。ただし、ウマと同定された骨と状態が類似し、これらもウマの可能性はある。以下、各試料について記載を行う。

#### ・遺物 No. 7

部位不明の骨体である。現存長138mm、幅29.3mmを測る長骨である。土圧でつぶれていると思われるが、断面は平たい楕円形を呈する。これらの形状から、ウマの手中骨の可能性はあるが、断定はできない。

#### ・遺物 No. 8

右肩甲骨である。遠位端の関節上結節部分、および背縁を含む近位部を欠いている。

#### ・遺物 No. 9

左腕骨・尺骨、および部位不明破片である。保存状

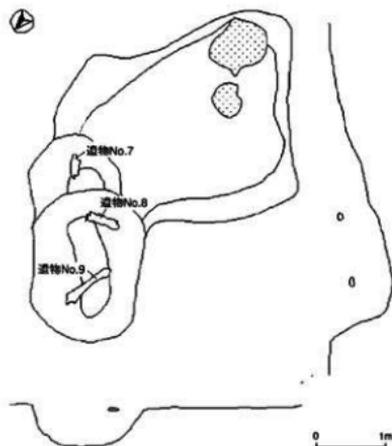


図1 1号土坑動物遺存体出土状況平面・断面図

態は良好である。ヒトでは橈骨と尺骨は独立した骨であるが、ウマの尺骨は骨体中位において橈骨と結合し、遠位部は退化して橈骨の一部となる。本試料は、橈骨の近位端外側と遠位端の一部、および尺骨の肘頭を欠いている。

観察可能な部分に幾つかの切創が見られるが、切り口が新鮮なことから、取上げ時に付いたものと推定される。土壌が付着しているため正確な計測ができないが、橈骨全長は330mm程度である。また、橈骨近位端幅72.3 ± mm、同骨体中央幅37.1mmである。詳細な年齢推定はできないが、近位端・遠位端の化骨が終了することから、少なくとも3.5才以上と推定される。

#### 4. 考察

大木戸遺跡C-15区1号土坑から出土した動物遺存体はウマの四肢骨であった。ここでは、ウマの利用および骨格から推測される形質について考察する。

##### 1) ウマの利用について

1号土坑から出土したウマは、出土状況(図1)を見ると、遺物No. 7~9の試料は、土坑北東部に50cm程度の距離をおいて点在する。それぞれの骨の向きは一定でなく、明らかに解剖学的位置を保たず、意図的に配置している状況も看取されない。さらに、試料の保存状態が良いにもかかわらず、全身の一部の骨のみ出土する。したがって、一頭分のウマの全身が埋納されたとは考えられず、ウマの骨格の一部が廃棄された可能性が考えられる。一方、骨表面に残る痕跡については、土壌が付着したまま樹脂で固まっている部分もあり、十分な観察ができなかった。観察可能な部分においても、カットマークなど人為的な破損痕跡を確認することができず、解体等の人為的痕跡の有無は不明である。また、ネズミ等による齧り痕も確認されないため、ネズミ等の動物が影響を及ぼすような野晒しの状態で放置されることなく、短期間で埋没した可能性が高い。

遺跡から出土する馬骨は、目的をもって殉殺した犠牲馬と、廃馬を投棄した斃馬との区別が可能であるとされる(松井・神谷, 1994)。上記の観察結果に加え、祭祀的遺物が共存しないことを考慮すると、本事例の場合は祭祀において犠牲にされたとは考え難く、現状では土坑の埋没する過程の産地等を利用して、ウマの遺体の一部を処理した痕跡と推定される。

古墳時代から中世におけるウマやウシの利用について、遺存体や文献史料の調査事例では、古代の人々はウマを農耕などに労役する一方、死後は皮や肉を取り利用することがあったとされている。757年に施行された「養老律令」の「厩牧令」には斃死した牛馬の扱い方に関する規定があり、ウマに関しては、官のウマが死んだ場合は皮や鬘を取ること、官私によらず駅馬や伝馬として使用中に死んだ場合は現地で皮と肉を売り代金を納めること、という規定があると述べている(松井, 1987)。さらに、殺生・肉食の禁令発布から、家畜の飼料としてだけでなく、人々自身も肉食をしていたことが伺えるとしている(松井, 1987)。このような時代背景を考えると、本試料の場合も、廃棄される前に皮や肉が利用された可能性もある。

「延喜左馬寮式」には、9世紀に甲斐国には3つの御牧が設けられ毎年60頭のウマが貢上されたことが記され、同様に御牧が設定された武蔵国・信濃国・上野国と並び、優秀なウマの産地であったとされている(高島, 1996)。また、周辺地域におけるウマの遺存体の出土例として、甲府市埴塚遺跡の4世紀後半に比定される方形周溝墓の周溝から、犠牲行為の可能性のあるウマの歯牙が検出されており、当地域における最古の事例とされている(村石,

表1 1号土坑出土動物遺存体

遺構名	遺物No.	分類群	部位	左右	部分	成熟	備考
1号土坑	No. 7	ウマ?	不明		骨体	無	
	No. 8	ウマ	肩甲骨	右	dis・骨体	無	ラベルなし
		ウマ	橈骨・尺骨	左	pro・骨体dis	無	ラベルなし
	No. 9	ウマ	尺骨	左	骨体片	無	上欄試料と接合する
		ウマ?	不明		破片	無	

pro: 近位端, dis: 遠位端

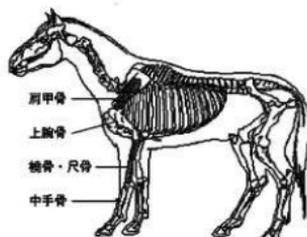


図2 1号土坑出土ウマの検出部位

久保・松井(1999)に加筆。  
ただし、肩甲骨は右、橈骨・尺骨は左。

1998) (註)。これら事例により、甲斐国には御牧設置以前からウマが存在し、「延喜左馬寮式」などの記述を考慮すると、当地域では古代以来ウマとの関わりが深いことが窺える。

## 2) ウマの形質について

遺物No. 9の左挽骨は、計測値などから少なくとも3.5才に達すると想定され、成体の体格を有すると考えられる。この試料について、骨長推定式Ⅱ(西中川ほか、1991)により、近位端幅と骨体中央幅を基に算出した挽骨全長の平均値は308mmである。この挽骨推定全長を用いて、体高推定式Ⅲ(林田・山内、1957)で体高を推定すると、128.4cmとなる。この値を在来馬の体高と比較すると、これに最も近い値を示す来馬は御崎馬の雄である(西中川ほか、1988)。したがって、遺物No. 9の挽骨は、御崎馬の雄程度の中型馬に由来すると推定される。なお、頭蓋骨や寛骨を伴わないため、性別については言及できない。なお、周辺地域における事例としては、姥塚遺跡(東八代郡)から古墳時代～平安時代のウマの歯牙が出土し、その計測値から体高138.38cmと推定され、中型馬でも大きい方に属すると報告(西中川ほか、1991)などがある。

今後は、周辺地域における同事例の情報収集や比較検討、さらに、大木戸遺跡から検出された同時期の遺構の分析を通して当遺構の性格などの検討を行い、ウマと集落との関わりについても言及できればと考えている。また、これまでの山梨県内におけるウマの出土事例などを収集し、当該期を含め古代以降の甲斐国で飼養されたウマの形質などについて分析を行い、当遺跡から出土したウマの形質について再評価したいと考えている。

## (註)

久保・松井(1999)によれば、鹿児島大学西中川氏の教示として、長崎県福江島の大浜遺跡で弥生時代のウマが出土し、放射性炭素年代によっても弥生時代の年代が出ていることが紹介されている。しかし、久保・松井(1999)は単発的な搬入である可能性を指摘し、全国的に普及するのは5世紀中頃としている。

## 引用文献

- 加藤嘉太郎 1983『家畜比較解剖図説 上巻』p.290、養賢堂
- 久保和士・松井 章 1999「家畜その2-ウマ・ウシ」『考古学と自然科学2 考古学と動物学』西本豊弘・松井章編、p.169-208、同成社
- 林田重幸・山内忠平 1957「馬における骨長より体高の推定法」『鹿児島大学農学部学術報告』6、p.146-156
- 西中川 駿・上村俊雄・松元光春 1988「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の起源、系統に関する研究-とくに日本在来種との比較」『昭和63年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書』p.95、鹿児島大学農学部獣医学科
- 西中川 駿・本田道輝・松元光春 1991「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」『平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書』p.197、鹿児島大学農学部獣医学科
- 松井 章・神谷正弘 1994「古代の朝鮮半島および日本列島における馬の殉殺について」『考古学雑誌』80-1、p.57-94、日本考古学協会
- 松井 章 1987「養老院教令の考古学的考察-覽れ馬牛の処理をめぐって」『信濃』39-4、p.231-256、信濃史学会
- 村石眞澄 1998「甲斐の馬生産の起源-塩部遺跡SY3方形周溝墓出土のウマ歯から」『動物考古学』10、p.17-36、動物考古学研究会
- 高島英之 1996「牧と古代の土地開発」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』7、p.107-136、帝京大学山梨文化財研究所

### 第3節 塩山市大木戸遺跡より出土した炭化種実

吉川純子（古代の森研究会）

#### 1. はじめに

大木戸遺跡において平安時代末の住居跡である23号住居跡の竈および第29号住居跡の竈と煙道の覆土を発掘担当者が水洗選別したところ炭化物が得られた。また縄文時代中期の8号土坑の土器内堆積物からも少量の炭化物が得られた。筆者はこれら炭化物から実体顕微鏡を用いて炭化種実を選びだし、同定を行った。出土した炭化種実を表1に示す。

#### 2. 出土傾向と若干の考察

第29号住居跡の竈からは栽培植物のモモ、マメガキ、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、ダイズ属近似種などのほかオニグルミや雑草であるイヌコウジュ属も出土した。また、穀類が焼けただけとみられる炭化した塊を多く出土した。煙道からの出土個数は少なく、オオムギ、堅果破片と子のう菌をわずかに出土した。第23号住居跡の竈はやや多く、イネ、オオムギ、コムギ、オニグルミと堅果破片、炭化した塊も出土した。第23号住居跡、第29号住居跡ともにややイネが多くこれにコムギ、オオムギといったムギ類が随伴するという傾向にみえる。柳原(1999)によれば山梨県内での穀類出土データは、地域によって差があるものの平安時代まではイネが多量に出土して比率も高く、平安時代末になるにしたがってムギの比率が高くなる傾向にある。塩山市のある甲府盆地では10世紀半から、イネ優勢からムギへと変化する傾向が認められ(柳原, 1999)、この遺跡も同様の結果が得られた。

4号土坑内の土器は縄文時代中期のものであるが、土器内堆積物からはオニグルミのほかにイネの小さな破片、コムギ、ムギ類と炭化した塊を出土した。これらの栽培植物が縄文時代に存在していたかどうかは穀粒自体の年代測定以外には確認できない。土壌では植物根や昆虫、小動物などによる生物的攪乱が多く、これらの炭化物は後世に混入した可能性の方が高いと考えられる。

表1 大木戸遺跡より出土した炭化種実

分類群	学名	出土部位	29号住		23号住	4号土坑
			竈	煙道	竈	AB19土器内
オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	内果皮片	4		4	1
モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch.	核破片	1			
マメガキ	<i>Diospyros lotus</i> L.	果実半分	3			
イネ	<i>Oryza sativa</i> L.	胚乳完形	11		7	
		胚乳破片	4		3	3
オオムギ	<i>Hordeum vulgare</i> L.	種子	2	1	2	
オオムギ近似種	cf. <i>Hordeum</i>	種子焼け影れ	1			
コムギ	<i>Triticum aestivum</i> L.	種子	6		3	1
ムギ類	<i>Hordeum</i> or <i>Triticum</i>	種子	7		4	1
アワ	<i>Setaria italica</i> Beauv.	種子	1			
ダイズ属近似種	cf. <i>Glycine</i>	種子	1			
マメ科	Gramineae	種子	2			
イヌコウジュ属	<i>Mosla</i>	果実	1			
堅果破片			2	2	15	
子のう菌	Ascomycotina	菌核		1		
炭化塊			47		20	1

### 3. 出土した炭化種実の記載

オニグルミ (*Juglans ailanthifolia* Carr.) : 内果皮破片を産出した。破片は数ミリ程度の細かいものが多い。内果皮壁は緻密で堅く、内側は複雑な曲面で構成されている。

マメガキ (*Diospyros lotus* L.) : シナノガキともいう。果実半分を産出した。小さくて果肉が少なく、洗を採取するため奈良前後に中国から持ち込まれたと考えられている。

イネ (*Oryza sativa* L.) : 胚乳を産出した。焼け膨れたものが多く、穎は産出されていない。炭化状況のよいものは表面に細かいしわがよっているため、種皮のついている玄米の状態でも炭化したとわかるものも部分的にある。

オオムギ (*Hordeum vulgare* L.) : 種子を産出した。かなり焼け膨れたものが多い。

コムギ (*Triticum aestivum* L.) : 種子を産出した。オオムギのように基部が尖らず丸みを帯びて厚さと幅がほぼ同じか厚みの方がまさる。脱穀しても堅いため粒食にはむかないとされるが、住居覆土から出土することが多く、最近では粒食があった可能性を議論されている。

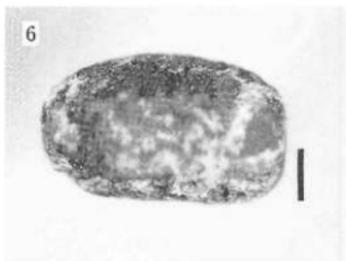
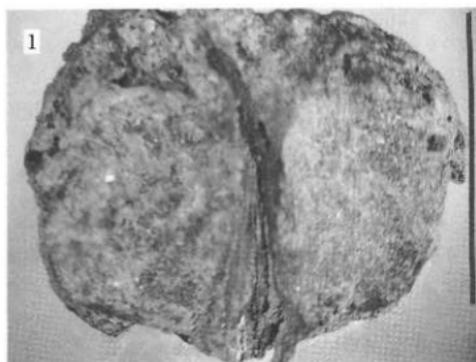
アワ (*Setaria italica* Beauv.) : 種子を産出した。丸みが強く、産出した穀類の中では最も小さい。

子のう菌 (*Ascomycotina*) : 菌核を産出した。以前担子菌としていたものと同じものと考えられる。落ちて腐りかけた木材の表面に生育している。

炭化塊 : 穀類、果実の果肉部分などが焼けて灰化する前の生成物と考えられる。土器の外側に着いたおこげなどはほぼこの状態で産出されるのではないかとみられる。ここでは穀類粒とわかる外形が残っているものが半数程度ある。

#### 引用文献

柳原功一 1999 「炭化種実から探る食生活 - 古代~中世を中心に -」 「食の復元 - 遺跡・遺物から何を読みとるか」 「研究会報告集」 2、p.81-98、帝京大学山梨文化財研究所



図版 大木戸遺跡より出土した炭化種実

1. マメガキ、果実 2. イネ、胚乳 3・4. オオムギ、種子 5. コムギ、種子  
6. マメ科、種子(第29号住居跡電より出土、スケールは1mm、1のみ1cm)

## 第4節 大木戸遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定

望月明彦 (沼津高等専門学校)

### 分析法

試料にX線を照射すると、試料に含まれる元素ごとに違った波長(エネルギー)をもつ蛍光X線が発生する。発生した蛍光X線の波長(エネルギー)から含まれている元素の種類がわかり、それぞれの元素の蛍光X線強度から元素組成を知ることができる。これが蛍光X線分析の簡単な原理である。試料をまったく損傷せずに分析でき、迅速に分析ができることが最大の特長である。分析装置にはセイコーインスツルメンツ社のSEA-2110L 蛍光X線分析装置を用いた。

測定条件は以下のとおりである。

印加電圧: 50 kV	印加電流: 産地原石 17 $\mu$ A	遺跡出土試料 自動設定
雰囲気: 真空	測定時間: 産地原石 500 sec	遺跡出土試料 240 sec
		照射径: 10 mm

### 分析試料

産地原石: 北海道から九州まで  
主な産地の原石はほとんど分析されている。ここでは、東日本の産地について示す。第1図は黒曜石産地の位置、第1表はそれらの産地名、判別群、分析数などを示す。

遺跡出土試料: 山梨県埋蔵文化財センターによって行われた大木戸遺跡発掘調査で出土した黒曜石製石器である。分析に供された試料は、肉眼で長野県以外の黒曜石産地のものである可能性がある、とされた試料である。

### 産地推定法

蛍光X線分析による産地推定法では、あらかじめ産地から採取した原石を分析しておき、産地原石によるデータベースを作成しておく。同様に遺跡出土試料を分析し、原石のデータベースと比較して産地を推定する。推定法としては図を用いて推定を行う判別図法と多変量解析法である判別分析の二つの方法を用いた。これらの方法で用いた指標は以下のとおりである。

各元素の蛍光X線強度から次のような産地推定のための指標を計算する。

$A = (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度})$  とした時、

$\text{Rb 分率} = \text{Rb 強度} \times 100/A$        $\text{Sr 分率} = \text{Sr 強度} \times 100/A$        $\text{Zr 分率} = \text{Zr 強度} \times 100/A$

$\text{Mn 強度} \times 100/\text{Fe 強度}$        $\log(\text{Fe 強度}/\text{K 強度})$



1図 東日本の黒曜石産地

これらの方法で用いた指標は以下のとおりである。

各元素の蛍光X線強度から次のような産地推定のための指標を計算する。

$A = (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度})$  とした時、

$\text{Rb 分率} = \text{Rb 強度} \times 100/A$        $\text{Sr 分率} = \text{Sr 強度} \times 100/A$        $\text{Zr 分率} = \text{Zr 強度} \times 100/A$

$\text{Mn 強度} \times 100/\text{Fe 強度}$        $\log(\text{Fe 強度}/\text{K 強度})$

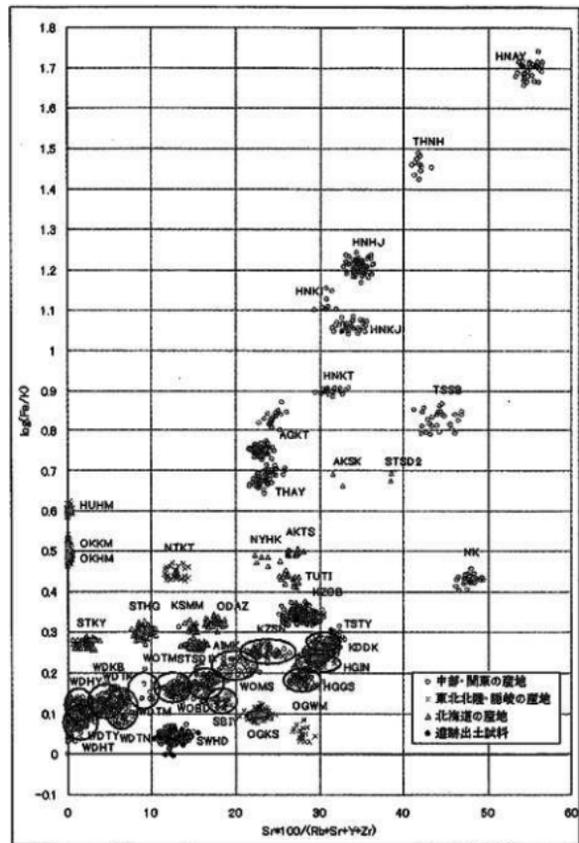
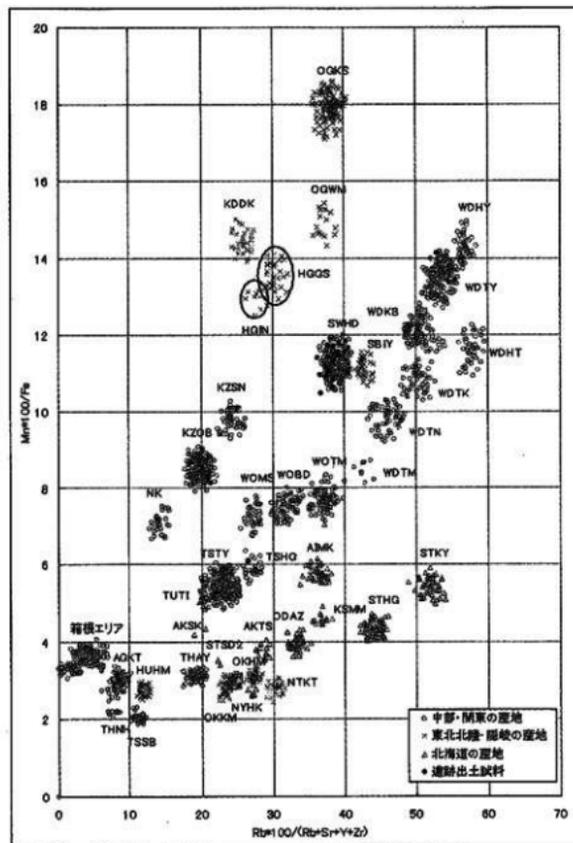
1表 判別図に用いた産地原石判別群 (SEA-2110L蛍光X線分析装置による)

都道府県	地図No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地(分析数)
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂(19)、八号沢露頭(31)、八号沢(79)、黒曜の沢(6)、 美加林道(4)
	2		黒曜の沢群		STKY		
	3	上十勝	三歌群		KSMH		十三ノ沢(16)
	4		安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)
	5	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台(6)、朋砂台(5)、春光台(5)
	6		春光台群		AKSK		
	7	名寄	布川群		NYHK		布川(10)
	8	新十津川	須田群		STSD		須田(6)
9	曲川群			AIMK		曲川(25)、土木川(15)	
青森	10	津浦	豊島群		TUTI		豊島(16)
	11		出来島群		KDDK		出来島海岸(34)
秋田	11	男鹿	八森山群		HUHM		八森山公權(8)、六角沢(8)、岡崎浜(40)
			金ヶ崎群		OGVS		金ヶ崎温泉(37)、龍本海岸(98)
山形	12	羽黒	龍本群		OGWM		龍本海岸(16)
			月山群		HGGS		月山荘園(30)、朝日町代沢(18)、鶴引町中沢(18)
新潟	13	新津	今野川群		HGIN		今野川(9)、大瀧川(5)
	14		金津群		NTKT		金津(29)
栃木	15	高原山	飯山群		SBIY		飯山牧場(40)
			甘湯沢群	高梨山1群	THAY	TKH1	甘湯沢(50)、飯沢(20)
長野	16	和田(WD)	七尋沢群	高梨山2群	THNH	TKH2	七尋沢(9)、自然の家(9)
			鷹山群	和田時1群	WDTY	WDT1	
			小深沢群	和田時2群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田時3群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田時4群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田時5群	WDTM	WDT5	
			美香ヶ下群		WDHY		
			古幹群		WDHT		
			フツ沢群	男女倉1群	WOBD	OMG1	
			牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2	
	高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMG3			
	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	
				星ヶ台第1鉱区(36)、星ヶ台第2鉱区(36)、星ヶ台A(36)、 星ヶ台B(11)、水月窟園(36)、水月公園(13)、星ヶ塔のりこし(36)			
	18	夢科	冷山群	夢科系	TSTY	TTS	
				冷山(33)、妻草峠(36)、妻草峠東(33)、洗ノ湯(29)、美し森(4)、 八ヶ岳(17)、八ヶ岳9(18)、夏子池(34)			
	神奈川	20	箱根	双子山群		TSHG	
権鉢山群					TSSB		権鉢山(31)、亀甲池(8)
芦ノ湯群				芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯(34)
畑畑群				畑畑	HNHJ	HTJ	畑畑(71)
黒岩橋群				黒根系A群	HNKI	HKNA	黒岩橋(9)
静岡	21	天城	鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋(30)
			上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀(18)
東京	23	神津島	柏崎群	柏崎	AGKT	KSW	柏崎(80)
			恩賜島群	神津島1群	KZOB	KOZ1	恩賜島(100)、長浜(43)、沢尻湾(8)
			砂崎崎群	神津島2群	KZSN	KOZ2	砂崎崎(40)、長浜(5)
鳥取	24	陸岐	久見群		OKHM		久見ノローラ石中(30)、久見権現場(18)
			笠浦群		OKMU		笠浦海岸(30)、加茂(19)、岸浜(35)
			碑群		OKMT		碑地区(16)
その他			NK群		NK		中ヶ原1G、5G(道跡試料)、原石産地は未発見

判別図法ではZr分率を除く指標をプロットしてグラフ化する。以下の図で淡色の記号は産地原石を示し、黒色の●は大木戸遺跡出土の黒曜石を示す。第2-1図は横軸にRb分率、縦軸にMn強度×100/Fe強度をプロットした図である。第2-2図は横軸にSr分率、縦軸にlog(Fe強度/K強度)をプロットした図からなる。●がプロットされたところの原石群がその試料の推定産地となる。

判別分析では、前述のすべての指標を用いる。判別図法で産地を推定する時は、遺跡出土試料のプロットと最も近い所にプロットされる産地をその試料の産地と判別する。言い換えれば、試料と各産地群の中心との距離を比較して、その距離がもっとも短い産地をその試料の産地としている。判別図法の場合には、縦軸と横軸だけの2次元であるが、数学的には3次元以上でも距離を計算することが可能である。判別分析では遺跡出土の各試料毎に各産地との距離(マハラノビス距離と呼ばれる)を計算する。試料との距離がもっとも小さい産地がその試料の産地である、と推定される。また、それぞれの産地とのマハラノビス距離から、試料が各産地に属する確率も計算される。確率が1に近いほど信頼性が高い推定である、といえる。

判別図法と判別分析との結果は非常に一致度が高いが、和田鷹山群と和田小深沢群など元々類似した群の場合には異なる結果となる場合もある。このような場合は判別分析の結果を採用している。



## 産地推定結果

第2-1図、第2-2図中の●は大木戸遺跡から出土した各試料のプロットである。これらのプロットを淡色で示した記号と比較することにより、分析した82点のうち80点の産地が推定可能であった。

分析試料は前述のとおり長野県以外の黒曜石産地の可能性が高いとされた試料であるが、19点が長野産の黒曜石であった。内訳は和田エリア19点(芙蓉ライト群1、鷹山群3、小深沢群9、土屋横北群3、土屋横西群1)、諏訪エリア2点で、蓼科エリアの黒曜石は含まれていなかった。蓼科エリアの黒曜石が含まれていない理由は、泡を含むことが多いなどの外見に特徴があり、肉眼による産地判別がしやすいことが考えられる。和田エリアの黒曜石が多く含まれる理由は、見掛けの異なる黒曜石がかなり多く、中には神津島の黒曜石とかなり類似する場合があるからであろう。特に碎片など小さい試料になると外見による判別はより困難となる。

天城エリア、箱根エリアの黒曜石はそれぞれかなり特徴的な外見を持っており、長野県産の黒曜石との肉眼による判別は比較的容易であると考えられる。天城エリア柏峠群は40点の多くを数えた。箱根エリアの黒曜石で一般に用いられるのは畑宿群であるが、本遺跡では畑宿群1点のほかに鍛冶屋群2点が検出された。試料の状態も良好で信頼できる結果と考えられる。箱根に近い三島市や沼津市の分析例では鍛冶屋群の黒曜石が石器として使用された例はほとんどない。しかし、大木戸遺跡にも近い塩瀬下原遺跡の第4次調査でも鍛冶屋の黒曜石が検出されている。

神津島エリアの黒曜石は18点が検出された。すべて恩馳島群である。しかし、大木戸遺跡における神津島の黒曜石をすべて含んでいるか、という点から見ると確実であるとはいいがたい。前述したように和田エリアと神津島エリアとは判別しがたい場合があるからである。

旧石器時代から縄文時代まで広い範囲で出土する長野県産(和田エリア、諏訪エリア、蓼科エリア)の黒曜石が、本遺跡から多く出土するのは当然である。また、神津島エリアの黒曜石も広い範囲に分布していることは知られていることである。しかし、箱根エリア、天城エリアのような小産地の黒曜石は非常に限られた範囲の分布にとどまると考えられがちであった。最近の産地推定からこれらの産地の黒曜石の分布範囲は従来考えられていたよりも広がる傾向にある。しかし、その分布の様相は地域によって異なっているようである。ここではまだ最近の推定結果を明らかにすることはできないが、大木戸遺跡のように、長野県以外の産地に着目して各地域の黒曜石の産地推定を行うことにより、より細かな黒曜石の流通の様相や地域間の関連についての情報が得られるものと考えられる。

個々の試料の産地推定結果は以下のとおりである。

2表 大木戸遺跡出土黒曜石製石器の産地推定結果

研究室 年回番	分析番号	推定産地	判別因 判別群	判 別 分 析					
				第1候補産地			第2候補産地		
				判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK02-9465	OKD-1	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.85	1	HNKT	108.18	0
MK02-9466	OKD-2	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.8	1	HNKT	99.86	0
MK02-9467	OKD-3	天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.21	1	HNKT	116.5	0
MK02-9468	OKD-4	和田小深沢群	WDKB	WDKB	3.82	1	WDTY	26.95	0
MK02-9469	OKD-5	天城柏峠群	AGKT	AGKT	11.26	1	HNKT	174.97	0
MK02-9470	OKD-6	和田鶴山群	WDTY	WDTY	1.87	1	WDKB	32.41	0
MK02-9471	OKD-7	天城柏峠群	AGKT	AGKT	14.08	1	HNKT	87.03	0
MK02-9472	OKD-8	和田小深沢群	WDKB	WDKB	11.43	0.9996	WDTY	27.92	0.0004
MK02-9473	OKD-9	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.98	1	HNKT	122.97	0
MK02-9474	OKD-10	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6	1	KZSN	49.72	0
MK02-9475	OKD-11	天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.23	1	HNKT	130.27	0
MK02-9476	OKD-12	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.3	1	HNKT	140.79	0
MK02-9477	OKD-13	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.46	1	HNKT	113.86	0
MK02-9478	OKD-14	天城柏峠群	AGKT	AGKT	11.5	1	THAY	113.92	0
MK02-9479	OKD-15	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.66	1	KZSN	49.51	0
MK02-9480	OKD-16	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.38	1	HNKT	131.6	0
MK02-9481	OKD-17	箱根鍛冶屋群	HNKJ	HNKJ	7.92	1	HNKI	73.94	0
MK02-9482	OKD-18	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	2.54	1	KZSN	62.12	0
MK02-9483	OKD-19	天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.53	1	HNKT	129.43	0
MK02-9484	OKD-20	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.03	1	HNKT	117.45	0

研究室 年間通番	分析番号	鑑定産地	判別図 判別群	判 別 分 析					
				第1候補産地			第2候補産地		
				判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK02-9485	OKD-21	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.78	1	HNKT	125.47	0
MK02-9486	OKD-22	和田小深沢群	WDBK	WDBK	18.76	0.9452	WDTK	22.91	0.0545
MK02-9487	OKD-23	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	2.71	1	KZSN	77.16	0
MK02-9488	OKD-24	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	6.64	1	KZSN	52.52	0
MK02-9489	OKD-25	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	22.5	1	KZSN	62.88	0
MK02-9490	OKD-26	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.8	1	HNKT	16.6	0
MK02-9491	OKD-27	藤原山ヶ台群	SWHD	SWHD	2.07	1	WDTN	92.21	0
MK02-9492	OKD-28	和田小深沢群	WDBK	WDBK	9.9	0.995	WDTK	18.92	0.005
MK02-9493	OKD-29	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	10.76	1	KZSN	63.66	0
MK02-9494	OKD-30	和田土屋橋北群	WDTK	WDTK	5.7	1	WDBK	29.2	0
MK02-9495	OKD-31	和田土屋橋北群	WDTK	WDTK	6.69	0.9669	WDTN	13.66	0.0331
MK02-9496	OKD-32	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.45	1	HNKT	111.22	0
MK02-9497	OKD-33	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.18	1	HNKT	127.25	0
MK02-9498	OKD-34	天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.75	1	HNKT	149.69	0
MK02-9499	OKD-35	和田天香ヶ台群	WDHY	WDHY	0.79	1	WDTY	28.57	0
MK02-9500	OKD-36	天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.11	1	HNKT	160.71	0
MK02-9501	OKD-37	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.88	1	HNKT	146.46	0
MK02-9502	OKD-38	藤原山ヶ台群	SWHD	SWHD	1.61	1	SBYI	76.48	0
MK02-9503	OKD-39	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.99	1	HNKT	109.51	0
MK02-9504	OKD-40	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	7.91	1	KZSN	56.79	0
MK02-9505	OKD-41	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	0.81	1	KZSN	59.16	0
MK02-9506	OKD-42	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.43	1	HNKT	126.47	0
MK02-9507	OKD-43	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.35	1	HNKT	119.69	0
MK02-9508	OKD-44	和田小深沢群	WDBK	WDBK	21.55	0.6364	WDTY	23.53	0.3312
MK02-9509	OKD-45	天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.02	1	HNKT	121.31	0
MK02-9510	OKD-46	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	7.47	1	KZSN	43.16	0
MK02-9511	OKD-47	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	14.11	1	KZSN	66.65	0
MK02-9512	OKD-48	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	3.13	1	KZSN	33.65	0
MK02-9513	OKD-49	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.19	1	HNKT	148.14	0
MK02-9514	OKD-50	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	2.11	1	KZSN	37.7	0
MK02-9515	OKD-51	和田土屋橋北群	WDTK	WDTK	2.21	1	WDBK	27.71	0
MK02-9516	OKD-52	猪俣畑田群	HNHJ	HNHJ	4.95	1	HNKI	100.28	0
MK02-9517	OKD-53	和田小深沢群	WDBK	WDBK	10.98	0.9944	WDTY	22.02	0.0056
MK02-9518	OKD-54	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	2.43	1	KZSN	56.71	0
MK02-9519	OKD-55	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.01	1	HNKT	121.93	0
MK02-9520	OKD-56	和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	4.42	1	WDTM	34.7	0
MK02-9521	OKD-57	初田鷹山群	WDTY	WDTY	4.09	1	WDBK	23.7	0
MK02-9522	OKD-58	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2	1	HNKT	137.79	0
MK02-9523	OKD-59	和田小深沢群	WDBK	WDBK	9.76	0.9963	WDTY	21.65	0.0037
MK02-9524	OKD-60	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	20.49	1	KZSN	94.62	0
MK02-9525	OKD-61	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	11.05	1	KZSN	38.1	0
MK02-9526	OKD-62	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.98	1	HNKT	109.96	0
MK02-9527	OKD-63	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.63	1	HNKT	122.57	0
MK02-9528	OKD-64	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.36	1	HNKT	125.58	0
MK02-9529	OKD-65	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.13	1	HNKT	112.44	0
MK02-9530	OKD-66	天城柏峠群	AGKT	AGKT	15.49	1	HNKT	168.7	0
MK02-9531	OKD-67	和田小深沢群	WDBK	WDBK	10.34	0.9999	WDHT	27.86	0.0001
MK02-9532	OKD-68	天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.86	1	HNKT	113.24	0
MK02-9533	OKD-69	猪俣畑田風群	HNKJ	HNKJ	2.12	1	HNKI	40.31	0
MK02-9534	OKD-70	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.76	1	HNKT	98.13	0
MK02-9535	OKD-71	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.52	1	HNKT	118.53	0
MK02-9536	OKD-72	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.19	1	HNKT	131.01	0
MK02-9537	OKD-73	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3	1	HNKT	121.22	0
MK02-9538	OKD-74	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK02-9539	OKD-75	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.29	1	HNKT	131.7	0
MK02-9540	OKD-76	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.28	1	HNKT	107.44	0
MK02-9541	OKD-77	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.43	1	HNKT	108.73	0
MK02-9542	OKD-78	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	1.85	1	KZSN	41.33	0
MK02-9543	OKD-79	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK02-9544	OKD-80	初田鷹山群	WDTY	WDTY	7.16	0.9972	WDBK	18.28	0.0028
MK02-9545	OKD-81	和田小深沢群	WDBK	WDBK	15.73	0.9923	WDTK	24.66	0.0052
MK02-9546	OKD-82	神津島恩賜島群	KZOB	KZOB	7.12	1	KZSN	51.6	0

上記表において、判別図判別群の列は判別図法による結果を示す。判別分析の候補1、候補2の列は判別分析による推定産地の第1候補、第2候補を示す。また、距離1、距離2は個々の試料と候補1、候補2の産地間のマハラノビス距離を、確率1、確率2は個々の試料が候補1、候補2の産地に属する確率を示す。本遺跡では判別図法と判別分析の結果は一致している。

## 第5節 大木戸遺跡の黒曜石分析の目的と成果

### 1. 分析の目的

大木戸遺跡の3次にわたる調査で、総計9270.32gもの黒曜石が出土した。その中に、肉眼観察で神津島産や天城柏峠産と思われる黒曜石が確認できた。もし非信州系黒曜石が確認された場合、これまでの信州系のみと認識していた縄文時代の黒曜石の流通の在り方を考え直す必要性がでてくる。大木戸遺跡の中部山岳地域における縄文時代遺跡の分布から考えた地理的位置からしても、大きな認識変革が必要となってくる。しかし、膨大な出土量であり、分析の進め方の検討が必要である。

そこで、まず母岩分類法で、非信州系の可能性のある黒曜石を絞り込む。次にその資料を全て産地分析することとした。抽出した資料について、国立沼津高等専門学校の望月明彦氏に依頼して、蛍光X線分析による産地推定を実施していただいた。産地分析の結果から導き出せる事象を提示するとともに、今回の方法で非信州系黒曜石がどの程度把握できるか評価し、今後の分析の一助としたい。

### 2. 母岩分類法による資料の抽出

出土した黒曜石全点を白色の紙の上に出して反射光で色調や夾雑物の入り具合などを観察し、分別作業を行なった。天城柏峠産は濃緑色の不透明で、神津島産は濃緑から青灰色の不透明ないしは部分的に透明部分が少しあり、白色の微細な夾雑物が入るといふ認識である。信州系の黒曜石はまったく透明なもの、黒色や白色のスジが入るもの、黒色不透明なものなどである。筆者の丘の公園第2遺跡(保坂・望月・池谷、2001)、天神堂遺跡(保坂・望月・池谷、2003)の旧石器時代遺跡で透過光による分類の経験を生かしている。ただし、この2つの遺跡で行なった、母岩分類手法とその後の黒曜石産地分析によって、同一母岩とした資料の中に2~3の産地に分解されるものが3割ほど出現した。しかし、これは信州系の産地内部での行き来であり、信州系と神津島産などの非信州系とは、かなりの確度で分別が可能と考えた。

### 3. 分析の成果

82点の分析資料の内、40点、266.21gが天城柏峠群、18点、48.17gが神津島産群、2点が箱根鍛冶屋群、1点が箱根畑宿群で、総計61点75%が非信州系と分析された。残り20点の内、2点は測定不可、18点が信州系である。

出土した遺構、グリッドは別表のとおりである。遺跡内での分布を見ると、1~8区、I~V区については、諸磯b式期の住居跡が密集し同時期の遺物も密集しているため、この部分での出土品は諸磯b式期に帰属するものとみてよいだろう。しかし16~20区については新道式期の住居跡が1軒で、他の縄文時代遺構は見当らない。諸磯b式期の遺構の密集区域からやや離れており、中期新道式期に帰属する可能性も考えられる。この部分では天城柏峠群1点、神津島産群2点、箱根畑宿群1点が出土している。

出土量を見ると、諸磯b式期の2号住居跡で天城柏峠群の180gの石核が1点出土しており、住居跡内出土の全黒曜石441.87gに対し、40.7%もの占有率である。これ以外は、黒曜石の出土量の少ない平安時代の遺構・グリッドを除くと3%以下の占有率である。信州系の黒曜石の持ち込み量と比較して、極微量と表現できるものである。今回の母岩分類法という方法の問題点から、見逃された非信州系の黒曜石があったとしても、信州系の量を凌駕するほどに持ち込まれていたとは到底考えられない。

しかし、圧倒的な信州系黒曜石の入手経路が確保されているにもかかわらず、非信州系黒曜石の入手を断念しないことの背景を検討する意義は大きい。特に、今回確認された天城柏峠群は一般的に縄文時代石器への使用があまり確認されていないこと、にもかかわらず神津島産群を量的に凌駕していること、さらに箱根鍛冶屋群のように一般的に石器への使用が確認されていない黒曜石がごく少量ながらも確認されたことなどをふまえると、希少石材へのこだわりが大木戸遺跡の住人にはあったものと理解できる。信州系黒曜石の流通構造とは別に、大木

戸遺跡人が独自に確保した天城柏峠群や箱根系の流通構造が存在した可能性がある。天城柏峠群は中期末から後期初頭の西桂町宮ノ前遺跡(望月、2003)でも確認されている。また、箱根鍛冶屋群は後期中葉の大月市塩瀬下原遺跡(望月、2000)で確認されており、これらの遺跡を含む山梨県東部・南部地域で伝統的に天城柏峠群の採取を行っていた可能性も考えられる。神津恩馳島群の入手については、これを採取し流通させる伝統的な集団と構造が存在していたと考えられていることから、大木戸遺跡では、信州系黒曜石の流通構造、神津島産黒曜石の流通構造、天城柏峠群や箱根産の入手構造の3つの黒曜石流通構造が存在していた可能性が高い。

#### 4. 母岩分類法の評価

依頼した資料は82点であるが、透明で明らかに信州系と思われる掻器1点が手続き間違いで分析資料の中に入ってしまった(OKD-27; 諏訪屋ヶ台)。信州系の内訳は、和田小深沢群が9点と最も多く、和田鷹山群3点、和田土屋橋北群3点、和田土屋橋西群1点、和田芙蓉ライト群1点、諏訪屋ヶ台群1点である。信州系の中でも、蓼科エリアはそもそも縄文時代に少ない可能性もあるが、排除できたと考える。また、諏訪屋ヶ台群もほぼ排除できたとと思われる。信州系と非信州系とを肉眼で区別する場合、混入しやすいのは、和田エリアである。特に今回、和田小深沢群が多いが、これらは不透明で濃緑色の特色を持つ。しかし、改めて神津恩馳島群や天城柏峠群と比較してみると、比較的単調なあめ色のような濃緑色であるのに対し、神津恩馳島群や天城柏峠群では緑色味が弱くうねるような灰色の帯が入る点で違いが認められる。今後、これをスタンダードとして両者を区別することは可能と考える。

ただし、望月氏も懸念するとおり、神津恩馳島群の中に濃緑色のスジが入り、透明部分をもつ一群は、信州系の諏訪エリアの一般的なものの中に入ってしまうと区分できない可能性もある。神津恩馳島群の特長とされる微細な白色粒子も信州系の中に皆無ではない。肉眼観察によって完全に区別するという事はかなり困難であることは認めざるを得ない。

しかし、確実に分別できるものの存在も明らかであり、たとえば今回のように黒曜石の出土量が10kgにもおよび、また山梨県下などの中部山岳地域の縄文時代遺跡ではこれに近い多量の出土量がほとんどで、出土黒曜石全点を対象とする分析は困難である現状を考えると、当面は肉眼での母岩分類法による分別で、中部山岳地域の縄文時代遺跡にも非信州系黒曜石が持ち込まれているという事実の確認を優先させるべきであろう。

#### 引用文献

- 保坂康夫・望月明彦・池谷信之 2001 「黒曜石原産地と石材の搬入・搬出-一丘の公園第2遺跡の原産地分析から-」『研究紀要』17、山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 保坂康夫・望月明彦・池谷信之 2003 「石材管理と石器製作-山梨県天神堂遺跡の黒曜石原産地推定と原産地クラスターの抽出から-」『研究報告』第11集、帝京大学山梨文化財研究所(寄稿中)
- 望月明彦・保坂康夫 「西桂町宮ノ前遺跡(下水道建設)の黒曜石分析」『宮ノ前遺跡』山梨県埋蔵文化財センター(寄稿中)
- 望月明彦 「塩瀬下原遺跡の黒曜石分析」『塩瀬下原遺跡(第4次調査)』山梨県埋蔵文化財センター

黒曜石計測表

出土位置	黒曜石(g)	製品(g)	合計(g)
1号住居	234.04	63.74	297.78
2号住居	422.83	19.04	441.87
3号住居	87.55	13.04	100.59
4号住居	877.67	133.34	1011.01
5号住居	68.09	0.54	68.63
6号住居	214.74	143.98	358.72
7号住居	436.51	142.57	579.08
8号住居	475.00	109.21	584.21
9号住居	64.99	46.48	111.47
11号住居	111.00	7.40	118.40
13号住居	97.79	15.93	113.72
14号住居	11.38		11.38
15号住居	12.20	2.24	14.44
16号住居	13.0	2.78	15.78
19号住居	19.83		19.83
20号住居	1.16		1.16
22号住居	14.35		14.35
26号住居	161.11	9.42	170.53
29号住居			0
31号住居	11.38		11.38
34号住居	1.74		1.74
37号住居		0.37	0.37
小計	3336.36	710.08	4046.44

出土位置	黒曜石(g)	製品(g)	合計(g)
1号溝	12.60		12.60
2号溝	109.46	13.30	122.76
3号溝		2.36	2.36
4号溝	100.75	11.91	116.79
5号溝	94.27	1.91	99.18
7号溝	2.73	1.04	3.77
8号溝	5.87		5.87
9号溝		2.57	2.57
1号土坑	18.77		18.77
2号土坑	3.04		3.04
小計	347.49	33.09	380.58

出土位置	黒曜石(g)	製品(g)	合計(g)
A-I	8.27	1.28	9.55
A-II	4.80		4.8
A-IV	161.34	34.96	196.3
A-V	20.79	7.60	28.39
B-I	40.08	1.03	41.11
B-II	27.08	0.97	28.05
B-III	34.94	1.51	36.45
B-IV	113.50	2.89	116.39
B-V	70.75	0.83	71.58
C-I	27.7	0.85	28.55
C-II	44.7	6.13	50.83
C-III	52.07	0.74	52.81
C-IV	44.55	14.77	59.32
C-V	168.47	2.97	171.44
D-I	59.5	2.17	61.67
D-II	263.6	7.63	271.23
D-III	739.02	40.17	779.19
D-IV	980.96	35.5	1016.46
D-V	666.56	16.52	683.08
小計	3528.68	178.52	3707.2

出土位置	黒曜石(g)	製品(g)	合計(g)
A-4	6.72		6.72
A-6	0.49		0.49
A-12	40.43	2.15	42.58
A-13	8.46		8.46
A-18	0.99	0.25	1.24
B-1	8.51		8.51
B-2	4.50	4.48	8.98
B-3	13.73	0.87	14.60
B-4	21.81		21.81
B-5	8.01		8.01
B-6	5.46		5.46
B-7	1.24	2.13	3.37
B-8	33.48	1.61	35.09
B-10	2.26		2.26
B-11	40.72	1.15	41.87
B-12	16.90	9.59	26.49
B-13	23.08	4.66	27.74
B-18	5.88		5.88
B-19	6.20		6.2
B-35	5.85		5.85
B-46		1.01	1.01
C-2	6.03		6.03
C-3	41.29		41.29
C-4	259.92	27.77	287.69
C-5	12.53	4.81	17.34
C-6	44.32		44.32
C-7	11.81		11.81
C-8	4.61		4.61
C-17	12.77	0.64	13.41
C-18	3.32		3.32
C-19	21.63		21.63
C-20	12.80	7.88	20.68
C-21	13.23		13.23
C-29	4.92		4.92
D-2	2.63	1.47	4.1
D-3	13.08		13.08
D-4	43.95	12.00	55.95
D-5	20.29		20.29
D-6	0.34		0.34
D-11	6.41		6.41
小計	797.09	82.47	879.56

出土位置	黒曜石(g)	製品(g)	合計(g)
北側谷部	6.04		6.04
遺構外	54.03	1.16	55.19
表探	188.62	6.69	195.31
小計	248.69	7.85	256.54

出土位置	黒曜石(g)	製品(g)	合計(g)
合計	8258.31	1012.01	9270.32

## 大木戸黒曜石表

		黒曜石全体(g)	天城柏峠(点数)	特津恩馳島	箱根系	信州系
1住	諸磯b2	297.78	8.14 (4) 2.7% (石核1)			和田小深沢 4.82 (1)
2住	諸磯b1	441.87	180.0 (1) 40.7% (石核1)			和田鷹山 8.63 (1)
4住	諸磯b3	1011.01	21.58 (7) 2.1% (石籠1)	8.22 (3) 0.8% (模型石器1)	鍛冶屋 1.42 (1) 0.1% (石籠1)	和田小深沢 2.97 (1)
6住	諸磯b	358.72	1.67 (1) 0.5%			
7住	藤内	579.08	2.74 (2) 0.5%	4.61 (3) 0.8%		和田小深沢 9.99 (2)
8住	井戸尻	584.21		9.35 (2) 1.6% (石核1)		和田土屋橋北 4.61 (2) 和田小深沢 3.46 (1)
9住	諸磯b3	111.47	3.29 (2) 3.0%			
11住	諸磯b3	118.40	1.13 (1) 1.0%	1.97 (1) 1.7%		諏訪屋ヶ台 1.58 (1)
22住	平安	14.35		3.32 (1) 23.1% (模型石器1)		
1溝	平安	12.60		1.00 (1) 7.9%		
2溝	古墳	122.76	2.91 (2) 2.4%			
4溝	平安	116.79			畑宿 1.18 (1) 0.5% (石籠1)	和田小深沢 2.95 (1)
5溝	平安	99.18	3.00 (1) 3.0%			
7溝	平安	3.77				諏訪屋ヶ台 1.58 (1) (僅存)
A-4	諸磯b	6.72		0.41 (1) 0.2%		
A-18	平安	1.24		0.99 (1) 79.8%		
B-3	諸磯b	14.60				和田芙蓉ライト 0.87 (1) (石籠1)
B-18	平安	5.88	2.82 (1) 48.0%			
C-4	諸磯b	287.69	6.49 (3) 2.3% (小型石器1・石籠1・模形石器1)			
C-19	平安	21.63				和田土屋橋北 11.40 (1)
A-V		28.39		6.13 (1) 21.6% (削器1)		和田小深沢 1.53 (1)
C-IV		59.32	1.60 (1) 2.7%			和田土屋橋西 2.25 (1)
C-V		171.44	0.63 (1) 0.4%			和田鷹山 4.25 (1)
D-III		779.19	17.61 (7) 2.3% (本型石器1・模形石器1)	11.31 (2) 1.5% (石核2)		和田小深沢 11.65 (2)
D-IV		1016.46	12.60 (5) 1.2% (模形石器1)	0.86 (1) 0.1% (石籠1)	鍛冶屋 4.9 (1) 0.5% (模形石器1)	不可 2.73 (2) (石籠1)
D-V		683.08	1.06 (1) 0.2%			和田鷹山 1.70 (1) (石籠1)
位置不明				1.02 (1) (石籠1)		
合計		9206.84		49.19 (18)	鍛冶屋 6.32 (2) 畑宿 1.18 (1)	和田小深沢 37.37 (9) 和田土屋橋北 16.01 (3) 和田鷹山 14.58 (3) 諏訪屋ヶ台 3.16 (2) 和田土屋橋西 2.25 (1) 和田芙蓉ライト 0.87 (1) 不可 2.73 (2)

## 第9章 まとめ

### 第1節 縄文時代前期の住居跡の変遷について

本調査区の北西側は、重川へせり出すように東西に長い台地を呈する。この台地上に縄文時代前期から中期の集落跡が広く展開する。今回の発掘調査は台地の一部を調査するような形で行われ、調査の結果縄文時代の遺構については、前期の諸磯a式期～諸磯b式期の住居跡10軒・中期の住居跡4軒の合計14軒を確認した。また台地北西側には北側に向かって落ちる自然谷が存在し、この谷に縄文時代前期から多数の遺物が廃棄されていたことも今回の調査で明らかになった。谷は平安時代までには埋没したらしい。

これら台地上で確認された住居跡はいずれも重複が著しく、またとくに前期の住居跡はプランがはっきりしないものが多かった。しかし出土遺物はそれぞれの住居跡で一括性が明確で、それらの住居跡に時間的な前後関係を知ることができるものが存在するため、ここでは調査中もしくは整理作業中に気づいたことを書き留めておきたいと思う。

今回の調査区で確認された住居跡のうち、もっとも初現の段階に位置づけられるのは第16号住居跡である。プランの大部分は調査区外に位置するため、出土遺物は少なくプランも詳細については不明である。口縁部に爪形文で区画し、胴部に縄文が施される深鉢が出土した。本遺跡より北東に位置する獅子之前遺跡(註1)第6号住居跡でもほぼ同時期の住居跡が確認されている。また谷部の最下層で確認した遺物も当該期のものであり、この時期に極少ないのであるが、住居跡がこの地域に点在を知ることができる。

第16号住居跡に続く住居跡として第2号住居跡・第15号住居跡をあげることができる。この2軒の住居跡はほとんど同時期のものと思われ、いずれもラップ状に開く深鉢上半部分に連続爪形文により施文される土器が見られる。第2号住居跡では第54図11～24、第15号住居跡では第79図4・5及び第82図1～9がそれにあたるが、第2号住居跡出土の遺物の中には第54図12等のように爪形文と爪形文の間に浮線文が見られるものも所在し、もしかしたら第15号住居跡より後出であるかもしれない。また第2号住居跡出土の遺物のうち第55図29は床面直上の出土であることから上記の爪形文系の土器群に共存する可能性が高いと思われる。小型の鉢であるが、地文が縄文で胴部下半部にJ字もしくは逆J字状の浮線が施される。浮線文上にも縄文が施され、これが浮線文の古い様相を呈するものと理解したい。これらの住居跡は諸磯b式期古段階に位置づけられるものと考えている。

これらの住居跡に後続する住居跡としては第1号住居跡・第5号住居跡があげられ、これらは浮線文が確立化する前後の段階のものである。とくに第1号住居跡出土の土器群は種類が豊富で、浮線文の古い様相を備えているものが数多く認められる。また第1号住居跡はプランも比較的明確であった。第2号住居跡で見られた浮線上に縄文が施されるものは本住居跡でも主観的に見られるが、これらはラップ状に口縁部が開く形状を呈するものも見受けられる。また同様にラップ状に口縁部が開きながら浮線が極細であるもの(第49図16・17)、ラップ状に開きながら口縁部文様帯の下部で細くしまり、口唇部を丸棒状の工具で押圧するもの(第49図4・5・7)、口縁部文様帯が椀区画文のようなモチーフのものなどは、浮線文土器が定型化する直前の段階のものと思われる。一方第47図1～3のように口縁部が内湾し、胴部中央部でくびれ部をもつタイプも見られ、これらは前述したものよりやや後出のものであるように思われる。諸磯b式期の古～中段階に位置づけられるものであろうか。

諸磯b式期新段階に位置づけられる住居跡は、本遺跡の中では多くは見受けられないが、第4号住居跡で出土した浮線文系の遺物群はこの時期に位置づけられると思われる。口縁部がややきつい角度で内湾するものである。もしくは谷部分でもこの時期の遺物が数多く出土する。形態のみに着目すれば、この谷部ではこの段階のものであろうと思われる沈線文系の土器群が数多く見られ、これらが沈線文系の初現であろうと思われる。住居跡では第4・9・11・13号住居跡など沈線文系土器が主体となる住居跡群がまとまって確認されている。しかしいずれも口縁部がくの字状に屈曲する諸磯b3式段階からb3新式段階のもので、しかもそれらの終焉がいまひとつ明確でない。胴部下半部が膨らみを持ち、そこに文様帯を持つ第9号住居跡が、もっとも新相の住居跡と理解している。

以上、本遺跡ではじめの画期となる諸磯b式段階について、住居跡の変遷を追った。それらは獅子之前遺跡と

共通の様相を持ち、甲府盆地東部の特徴を色濃く示すものと思われる。

その他縄文時代中期前葉新道式期の住居跡が2軒、中葉藤内式期が1軒、井戸尻式期が1軒出土している。谷部でも当該時期の遺物が一括廃棄されており、谷部が非日常的な空間であったことを窺い知るものである。また遺構はまったく確認されていないのであるが、谷部では多数の曽利式土器が出土した。また調査区外の台地上を踏査すると、台地東側で曽利式土器を表採することができた。このようなことから若干居住空間を異にして、曽利式段階の集落が存在することを推測することができる。

## 第2節 古墳時代前期末の様相について

古墳時代の遺構は溝一条及び住居跡1軒とそれほど濃い分布状況ではなかった。しかし溝と住居跡は、周辺に所在する下西畑遺跡(註2)の方形周溝墓群や五反田遺跡(註3)で出土した住居跡と同時期のものであり、この時期の重川周辺の様相を知る上で非常に興味深いものである。これらはいずれも古墳時代前期末に位置づけられるもので、本遺跡第38号住居跡から出土した高杯は脚が細く棒状で、柱状屈折脚を連想させるものであった。さらにこの高杯に伴った壺・S字状口縁台付甕の破片はいずれも器壁の調整にケズリが施され、すでに土器の作成技法に過渡的な様相が看取できた。一方下西畑遺跡の方形周溝墓群からもケズリを施したS字甕や壺、また前期末から中期中葉に見られる小型丸底鉢が出土するなど、本住居跡との同時期性を裏付けるものである。小型丸底鉢の出土は五反田遺跡でも確認されている。このようなことから今回の一連の調査において、墓域とそれに対応する集落跡がやや明確になったものと思われる。ただ五反田遺跡で確認された当該期の住居跡は数少なく、本遺跡においても当該時期の住居跡は1軒しか出土していないことから、ただちにこれらの住居跡が方形周溝墓群に対応するものと判断することはできない。今後の調査事例の増加が望まれるところである。

いずれにしてもこれらの遺構の調査から、重川右岸の河岸段丘上では古墳時代前期末に安定した集落が営まれる一つの画期となる時期であると推測される。

## 第3節 平安時代重川右岸の様相について

本遺跡では重川に沿うように平安時代の住居跡が屢々と所在した。それらの検出数は21軒にのぼり、最も古いものは9世紀前半に、最も新しいものは12世紀代に位置づけることができる。また塩山東バイパス関連遺跡のうち、現在のところ最も北東限に位置する西畑遺跡、そこから南側へ向かって下西畑遺跡、旧河川を挟んで影井遺跡・大木戸遺跡、そして最も南西に位置する五反田遺跡が所在し、大木戸遺跡以外の遺跡で確認されたものを含めると40軒以上の住居跡が調査されたことになる。これら一連の調査で得られた資料から、塩山市東部の平安時代の集落跡の変遷や土器様相などが明らかになってきた。ここではそれらについて若干まとめていきたいと考える。

これまでの調査からこの地域では、8世紀前半代から9世紀後半代までは住居跡数は少なく、西畑遺跡・下西畑遺跡・五反田遺跡などにぼつんぼつんと点在するように分布していたものと思われる。この時期の住居跡は大木戸遺跡では確認していないので、標高390m付近と標高370m付近の地点にそれぞれ住居跡が細々と所在していたことになる。このような状況の中で、この時期にやや主体的に集落跡が展開されるのが、西畑遺跡である。西畑遺跡で確認された住居跡は6軒と規模が大きいとは言えないが、それらは8世紀後半及び9世紀前半に各1軒が所在し、10世紀前半に3軒が存在する。10世紀前半から12世紀代に集落跡がピークを迎えることを考えると、西畑遺跡はそれに先駆けて存在した集落と理解することができる。

一方現在のところ大木戸遺跡で古相の住居跡は9世紀前半代に位置づけられる。第31号住居跡がそれで、西側壁面中央部にカマドを持つ。杯と甕が出土しており、杯は見込み部にも暗文を持つ甲斐型杯、甕は器壁の薄い甲斐型甕である。また9世紀後半には第29号住居跡が所在する。暗文が残る杯もみられるが、器形は口縁部が大きく底部が小さくなる傾向にあり、形骸化が進んでいる。これらも周辺の事情に同調しており、点在して所在していたことが窺われる。

10世紀前半になると住居跡がやや増加する傾向が窺われる。第23・35号住居跡及び南側谷部に所在する土器群などがこの時期のものである。また前述したように西畑遺跡の集落のピークがこの時期であり、拠点集落が入れ替わる画期にある可能性もある。

10世紀後半から11世紀前半になると大木戸遺跡をはじめとして周辺遺跡ともに住居跡は一挙に増加する。杯はロクロのみで成形され、器壁や底面等は肥厚化する傾向がある。また第30号住居跡では足高高台付杯(皿)や高台付皿等が見られるなど、土器様相に変化が見られる時期でもある。五反田遺跡でもこの時期にピークが見られ、やはり足高高台付杯をもつ住居跡が分布している。次第に拠点になる集落跡が重川台地の上部から下部へ移っていく様子が窺われる。

11世紀後半から12世紀代にも引き続き数多くの住居跡が営まれていたものと思われる。第21・22・33・34号住居跡等がこの時期に属する。杯は小皿化し、底部が肥厚化する。また柱状高台杯が見られる。甕は口縁部が平坦でややずん胴のもの等も見られる。また第34号住居跡に見られるように把手状の舌が外面につく甕等も登場する。また第4・5号溝はこの時期を中心に所在したのもと思われる。いずれからも破片ではあるが、多くの緑釉陶器を出土した。緑釉陶器は住居跡からの出土はほとんど認められず、特殊な性格を持っていたものと思われる。この時期に集中して緑釉陶器が見られ、また完形の緑釉陶器段皿の出土も認められる。この時期甲府盆地外との交流が非常に活発であったことを物語る資料である。また大木戸遺跡の北東に位置する影井遺跡では3軒の住居跡が確認されたが、いずれも当該時期に帰属するものである。とくに第3号住居跡出土の土器群はこの地域のセット関係を顕著に示しているものと思われる。また第3号住居跡からはこれらの土器とともに鉄製鋤が出土している。今回発掘調査を行った大木戸遺跡でも影井遺跡に隣接する箇所から青銅製の刀装具が出土するなど、特殊な遺物が相次いで出土している。このようなことを勘案すると、当該時期においては交通の要所など当地が拠点集落の一つであった可能性を示すものであると思われる。

この後これらの住居跡に続く住居跡は確認されていないので、その後の様相については不明である。しかし塩山市には於曾屋敷が所在することや中世からの流れを汲む黒川金山衆の存在など、中世の様相も明らかになっている部分が多い。これらの集落跡はこうしたものの基盤的な存在であったものと理解している。また多くの集落跡が明らかになったことに伴い、本地域が所在する於曾郷の存在も気になるところである。これらの郡衙跡の存在についても今後明らかになってほしいと思う。

雑駁ではあるが、大木戸遺跡及びその周辺遺跡について発掘調査・整理作業を行い、考えていたことをまとめてみた。最初の調査を行った下西畑遺跡から既に5年が、大木戸遺跡からも4年が経過している。その間に遺構・遺物について助言をいただいた方々、お世話になった各諸機関の方々、遺跡に携わってくださった作業員の皆さんにここに感謝を記す。ほんとうにありがとうございました。この報告書がこれからの研究の一助になれば幸甚です。

(註1) 山梨県教育委員会・山梨県土木部 1991 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第61集『獅子之前遺跡』

(註2) 山梨県教育委員会 2001 山梨県埋蔵文化財センター第197集『下西畑遺跡』

(註3) 山梨県教育委員会 2001 山梨県埋蔵文化財センター第194集『五反田遺跡』

土偶・土製品観察表

押印 No.	出土地点	グリッド 番号	器種	法 量				色 調	胎 土	注 記 No.	備 考	
				長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)					
88	5住	D-3	1	土偶	5.4	3.7	1.4	-	照褐色	炭灰母 内四石	5住 D-3-127	褐色彫影
88	7住	C-6	2	土偶	5.3	5.0	1.5	-	褐色	金色雲母 内四石 砂層	7住 C-6-56	褐色彫影
88	7住	-	3	土偶	3.2	3.8	1.2	-	暗褐色	金色雲母 内四石 砂層	7住	
88	15住	A-5	4	土偶	4.6	3.2	1.6	-	赤褐色	金色雲母	15住 A-5	褐色彫影
88	7住	B-6	5	土偶 (胴部)	5.8	6.9	5.9	-	赤褐色	石灰 金色雲母 砂粒子	7住 B-6-322	
88	7住	C-6	6	土偶 (一体)	5.1	2.8	2.2	-	暗褐色	石灰 金色雲母 砂粒子	7住 C-6-465	
88	7住	-	7	土偶 (胴部)	2.6	3.8	2.2	-	明褐色	石灰 金色雲母	7住	
88	-	D-5	8	土偶 (胴部)	4.0	4.1	2.9	-	にがい黄褐色	石灰 金色雲母	D-5	
88	-	B-11	9	土偶 (胴部)	4.0	3.1	3.8	-	灰黄褐色	石灰 金色雲母	B-11	
88	7住	-	10	土偶 (胴部)	3.0	4.3	1.9	-	にがい黄褐色	石灰 金色雲母	7住	
88	7住	-	11	土偶 (胴部)	5.0	6.4	3.4	-	褐色	石灰 内四石	7住	
88	2庫	B-7	12	土偶 (胴部)	5.1	3.2	2.2	-	褐色	石灰	2庫 B-7	
88	3庫	B-12	13	土偶 (胴部)	3.3	6.5	2.4	-	暗褐色	石灰 内四石 小石多い	3庫 B-12-57	
89	-	D-2	14	土偶	2.5	1.8	1.8	-	赤褐色	石灰 金色雲母 砂粒子	D-2	
89	7住	-	15	土偶 (胴部)	3.8	1.9	1.4	-	明褐色	石灰	7住	
89	7住	-	16	土偶 (胴部)	3.2	5.4	5.0	-	暗褐色	石灰	7住	
89	8住	-	17	土偶 (胴部)	4.0	3.0	1.9	-	黒褐色	金色雲母	8住	
89	7住	-	18	土偶 (胴部)	6.4	3.7	3.6	-	暗褐色	石灰 金色雲母 砂粒子	7住	
89	8住	-	19	土偶 (胴部)	3.6	4.9	3.1	-	褐色	石灰 金色雲母	8住	
89	8住	B-6	20	土偶 (胴部)	5.1	5.8	5.8	-	褐色	石灰 金色雲母 炭粒子	8住 B-6-87	
89	9住	A-4	21	土偶 (胴部)	6.2	5.1	4.8	-	褐色	石灰 内四石 金色雲母	9住 A-4-80	
89	北新分庫	B-8	22	土偶 (胴部)	6.0	6.5	4.4	-	にがい赤褐色	石灰 金色雲母 砂粒子	B-8-327	
90	25住	A-19	23	土偶 (胴部)	8.3	6.4	9.5	-	にがい褐色	石灰 金色雲母	25住 A-19-169	
90	46住	C-3	24	土偶 (胴部)	2.0	2.3	2.0	-	赤褐色	金色雲母 砂粒子	46住 C-3-53	
90	7住	B-7	25	土偶 (胴部)	3.8	3.7	5.0	-	赤褐色	石灰 金色雲母	7住 B-7-585	
90	8住	C-6	26	土偶 (胴部)	4.1	3.5	3.4	-	明褐色	石灰	8住 C-6-24	
90	8住	-	27	土偶 (胴部)	2.3	1.5	1.7	-	にがい褐色	石灰 金色雲母	8住 392	
91	11住	A-3	28	土偶 (胴部)	3.1	4.6	5.5	-	にがい黄褐色	石灰 金色雲母	11住 A-3-107	
91	26住	B-19	29	土偶 (胴部)	3.6	3.8	4.2	-	赤褐色	石灰 金色雲母	26住 B-19-108 26住 B-19	
91	26住	B-18	30	土偶 (胴部)	2.6	4.0	4.9	-	明褐色	石灰多量	26住 B-18-284	
91	北新分庫	C-N	31	土偶 (胴部)	3.0	2.5	2.2	-	暗褐色	石灰	C-N	
91	北新分庫	A-1	32	土偶 (胴部)	5.1	3.4	3.3	-	赤褐色	石灰	A-1-11	
91	-	C-4	33	土偶 (胴部)	3.8	3.3	3.0	-	にがい黄褐色	白色雲母	C-4-296	
92	8住	-	1	土器	4.0	5.6	1.2	32	金色雲母	金色雲母	8住	
92	26住	B-18	2	土器	5.1	5.7	1.4	39	明褐色	金色雲母	26住 B-18-704	
92	8住	-	3	土器	4.1	5.8	1.4	41	黄褐色	石灰 金色雲母	8住	
92	8住	-	4	土器	3.6	5.0	1.4	28	暗褐色	石灰	8住	
92	8住	-	5	土器	2.8	3.0	0.9	8	赤褐色	石灰	8住	
92	1住	-	1	土器内蓋	5.1	5.0	1.2	35	にがい黄褐色	石灰 金色雲母	1住	
92	25住	B-18	2	土器内蓋	4.7	4.6	1.9	34	にがい褐色	石灰 金色雲母	25住 B-18	
92	2住	C-2	3	土器内蓋	5.1	5.7	1.1	39	赤褐色	石灰 金色雲母	2住 C-2-367	
92	1庫	B-6	4	土器内蓋	4.7	4.9	1.3	30	褐色	石灰 金色雲母	1庫 B-6	
92	7住	B-6	5	土器内蓋	3.9	3.7	1.4	23	褐色	石灰 金色雲母	7住 B-6-576	
92	7住	B-6	6	土器内蓋	2.9	3.1	1.1	13	褐色	石灰 金色雲母	7住 B-6-232	
92	7住	-	7	土器内蓋	2.8	2.9	1.1	10	明褐色	石灰	7住	
92	1庫	B-6	8	土器内蓋	3.6	3.9	1.1	18	にがい褐色	石灰 金色雲母	1庫 B-6	
92	7住	B-7	9	土器内蓋	4.0	4.1	1.2	23	灰褐色	金色雲母	7住 B-7-548	
92	2庫	B-7	10	土器内蓋	3.4	3.5	1.1	13	にがい褐色	石灰 金色雲母	2庫 B-7	
92	7住	B-6	11	土器内蓋	3.4	3.4	1.1	14	にがい褐色	石灰 金色雲母	7住 B-6-1039	
92	7住	-	12	土器内蓋	4.6	4.3	1.4	32	にがい黄褐色	石灰 金色雲母	7住	
92	7住	B-6	13	土器内蓋	3.8	3.7	1.4	25	褐色	石灰 金色雲母	7住 B-6	
92	7住	B-7	14	土器内蓋	4.7	7.7	1.2	33	褐色	石灰 金色雲母 スコリア	7住 B-7-567	
92	7住	B-7	15	土器内蓋	5.6	6.3	1.3	33	明褐色	石灰 金色雲母	7住 B-7-557	
92	7住	-	16	土器内蓋	4.0	3.6	0.9	16	褐色	石灰 金色雲母	7住	
92	7住	B-7	17	土器内蓋	4.0	4.0	0.9	13	褐色	石灰	7住 B-7-802	
92	8住	C-6	18	土器内蓋	3.9	3.8	1.1	13	明褐色	石灰 金色雲母	8住 C-6	
92	8住	C-6	19	土器内蓋	3.4	3.3	1.2	13	にがい赤褐色	石灰 内四石	8住 C-6	
92	8住	B-6	20	土器内蓋	3.3	3.6	0.9	12	褐色	金色雲母	8住 B-6	
92	8住	-	21	土器内蓋	3.7	4.0	1.0	14	黄褐色	石灰 金色雲母	8住	
92	8住	C-6	22	土器内蓋	3.2	3.4	1.0	12	にがい褐色	石灰 金色雲母	8住 C-6	
92	8住	C-6	23	土器内蓋	3.5	3.6	1.5	17	明赤褐色	石灰 内四石 金色雲母	8住 C-6-446	
92	8住	-	24	土器内蓋	3.4	3.0	1.2	13	褐色	石灰 金色雲母	8住	
92	8住	C-6	25	土器内蓋	4.8	4.8	1.2	27	褐色	石灰 金色雲母 黒色粒子	8住 C-6	底面竹筴 文様あり
92	8住	C-6	26	土器内蓋	4.2	4.5	1.3	31	にがい褐色	石灰 金色雲母	8住 C-6-212	
92	8住	-	27	土器内蓋	2.9	3.1	1.3	12	褐色	石灰 内四石 金色雲母	8住	
92	8住	C-6	28	土器内蓋	6.1	6.4	1.3	51	褐色	石灰 金色雲母 炭粒子	8住 C-6-50	
93	26住	B-18	29	土器内蓋	4.4	4.9	1.5	35	明褐色	石灰 金色雲母	26住 B-18-808	
93	26住	A-18	30	土器内蓋	4.6	5.2	1.3	27	褐色	石灰 金色雲母 炭粒子	26住 A-18-282	

採出 No.	出土地点	グリッド	番号	器 種	法 量			色 調	粘 土	注 記 No.	備 考
					長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)				
93	26 庄	B-18	31	土製内蓋	3.8	4.0	1.3	20	褐色	石灰 金色雲母	26 庄 B-18-809
93	26 庄	B-18	32	土製内蓋	3.0	3.1	1.3	14	明黄褐色	石灰 金色雲母	26 庄 B-18
93	26 庄	B-18	33	土製内蓋	3.0	3.0	0.8	9	暗灰黄色	石灰 金色雲母	26 庄 B-18-827
93	26 庄	B-18	34	土製内蓋	4.7	4.9	1.5	40	褐色	金色雲母	26 庄 B-18
93	26 庄	B-18	35	土製内蓋	3.6	2.9	1.1	15	褐色	石灰 金色雲母	26 庄 B-18
93	26 庄	A-18	36	土製内蓋	3.8	3.9	1.3	19	明褐色	石灰 金色雲母	26 庄 A-18-259
93	26 庄	A-19	37	土製内蓋	3.6	3.8	0.9	16	褐色	石灰 金色雲母 黑色砂子	26 庄 A-19
93	26 庄	A-18	38	土製内蓋	6.7	6.1	1.2	42	褐色	石灰 金色雲母	26 庄 A-18-24
93	11 庄	A-3	39	土製内蓋	4.3	4.6	1.2	29	にんげい褐色	石灰 金色雲母	11 庄 A-3
93	2 溝	C-8	40	土製内蓋	4.5	4.3	1.0	23	にんげい黄褐色	石灰 金色雲母	2 溝 C-8
93	2 溝	B-8	41	土製内蓋	3.2	3.5	1.2	16	明黄褐色	石灰	2 溝 B-8
93	-	B-5	42	土製内蓋	3.7	3.3	1.3	16	にんげい褐色	石灰	B-5-338
93	北観谷部	B-#	43	土製内蓋	6.8	7.2	1.0	54	明黄褐色	石灰 金色雲母	B-#-274
93	北観谷部	C-#	44	土製内蓋	5.3	5.6	1.3	42	にんげい黄褐色	石灰 金色雲母	C-#-117
93	北観谷部	B-V	45	土製内蓋	5.3	5.2	1.1	37	褐色	石灰 金色雲母 黑色砂子	B-V
93	北観谷部	C-V	46	土製内蓋	3.4	3.4	1.2	14	褐色	石灰 金色雲母	C-V#
93	9 庄	A-5	47	土製内蓋	4.2	3.3	1.2	13	褐色	石灰 金色雲母	9 庄 A-5
93	7 庄	C-5	1	土製	2.8	2.0	2.0	16	褐色	石灰 金色雲母 砂子	7 庄 C-5-44
95	8 庄	C-6	2	土製	3.4	2.1	2.0	13	にんげい褐色	内四石 金色雲母 スコリア	8 庄 C-6-431
95	7 庄	B-6	3	土製	2.8	1.6	1.5	5	にんげい褐色	内四石 スコリア	7 庄 B-6-992
95	8 庄	C-6	4	土製	2.2	1.5	1.1	3	灰褐色	石灰 内四石	8 庄 C-6-374
95	7 溝	B-42	5	土玉	1.8	1.9	1.7	4	褐色	石灰 内四石	7 溝 B-42-26
95	7・8 庄	B-6	6	土玉	1.7	1.7	1.9	5	にんげい褐色	石灰 金色雲母 砂子	7・8 庄 B-6-1638
95	4 溝	C-21	7	土玉	0.8	1.5	1.5	1	褐色	石灰 金色雲母	4 溝 C-21-36
95	7 庄	B-6	8	有孔内蓋	3.4	3.4	1.9	14	褐色	石灰 金色雲母	7 庄 B-6-210
95	4 溝	C-21	9	有孔内蓋	5.3	4.7	1.1	25	にんげい黄褐色	石灰 スコリア 砂子	4 溝 C-21-169
95	8 庄	C-7	10	砂状土製品	2.1	0.9	0.9	1	褐色	石灰 金色雲母	8 庄 C-7-748
95	北観谷部	A-#	11	砂状土製品	3.9	1.0	0.7	2	黒褐色	金色雲母	A-#
95	2 溝	B-7	1	土製耳飾り	2.5	2.5	2.0	6	暗褐色	石灰 金色雲母 砂子	2 溝 B-7
95	7 庄	B-7	2	土製耳飾り	2.4	2.3	2.1	9	黄褐色	石灰 スコリア	7 庄 B-7-692
95	2 溝	C-7	3	土製耳飾り	3.5	3.1	2.4	19	にんげい褐色	石灰 金色雲母 砂子	2 溝 C-7
95	7 庄	B-6	4	土製耳飾り	2.5	2.5	1.9	6	暗褐色	石灰 砂子	7 庄 B-6-189
95	北観谷部	B-#	5	土製耳飾り	2.5	2.4	1.2	5	灰黄色	石灰 金色雲母 砂子	B-#-380
95	4 庄	C-3	6	土製耳飾り	3.8	3.9	1.3	15	褐色	石灰 金色雲母 砂子	4 庄 C-3-1209
95	4 庄	-	7	土製耳飾り	3.0	(1.2)	1.4	6	褐色	石灰 内四石 金色雲母	4 庄
95	4 庄	-	8	土製耳飾り	3.8	(1.2)	1.4	9	灰褐色	石灰 金色雲母	4 庄 1105
95	4 庄	C-2	9	土製耳飾り	3.7	(1.3)	1.1	7	褐色	石灰 内四石 金色雲母	4 庄 C-2-492
95	4 庄	-	10	土製耳飾り	(3.3)	(1.2)	2.0	7	灰黄色	石灰 スコリア 砂子	4 庄
95	4 庄	-	11	土製耳飾り	4.2	(1.5)	1.3	11	暗赤褐色	石灰 金色雲母	4 庄
95	4 庄	-	12	土製耳飾り	(3.2)	(1.5)	1.3	6	にんげい褐色	石灰 金色雲母 スコリア	4 庄
95	5 庄	D-3	13	土製耳飾り	(3.6)	(1.4)	1.4	7	灰黄色	石灰 スコリア	5 庄 D-3
95	7 庄	B-6	14	土製耳飾り	(3.9)	(1.3)	1.6	9	褐色	石灰 内四石 金色雲母	7 庄 B-6
95	8 庄	C-6	15	土製耳飾り	(3.8)	(1.8)	1.5	8	にんげい黄褐色	石灰 内四石 金色雲母 砂子	8 庄 C-6-427
95	8 庄	C-6	16	土製耳飾り	3.7	(1.2)	1.3	8	赤褐色	石灰 金色雲母 砂子	8 庄 C-6-156
95	-	C-6	17	土製耳飾り	(3.2)	(1.4)	1.3	5	灰褐色	石灰 金色雲母	C-6-885
95	11 庄	A-3	18	土製耳飾り	(3.3)	(1.3)	1.4	6	赤褐色	石灰 金色雲母 砂子	11 庄 A-3-108
95	26 庄	B-18	19	土製耳飾り	(1.8)	(0.8)	1.0	2	にんげい褐色	石灰 金色雲母	26 庄 B-18
95	1 土	C-4	20	土製耳飾り	(3.4)	(1.6)	1.0	5	暗褐色	石灰 金色雲母 砂子	1 土 C-4
95	8 土	A-19	21	土製耳飾り	(2.7)	(1.3)	1.1	4	にんげい褐色	石灰 金色雲母	8 土 A-19-113
95	2 溝	C-8	22	土製耳飾り	4.1	(1.6)	1.3	11	にんげい褐色	内四石 金色雲母 スコリア	2 溝 C-8-100
95	2 溝	C-8	23	土製耳飾り	4.0	(1.2)	1.8	13	黒褐色	石灰 金色雲母 砂子	2 溝 C-8
95	3 溝	A-12	24	土製耳飾り	3.6	(1.1)	1.1	5	にんげい赤褐色	石灰 金色雲母 砂子	3 溝 A-12-52
95	北観谷部	A-#	25	土製耳飾り	(3.8)	(1.4)	1.5	8	にんげい黄褐色	石灰 金色雲母 砂子	A-#
95	北観谷部	C-#	26	土製耳飾り	(3.6)	(1.2)	1.7	8	暗褐色	石灰 金色雲母	C-#
95	-	A-4	27	土製耳飾り	3.6	(1.4)	1.2	6	褐色	石灰 砂子	A-4
95	-	C-4	28	土製耳飾り	(3.9)	(1.8)	1.5	10	黄褐色	石灰 内四石	C-4-164
181	北観谷部	D-V	1	土製(彫部)	6.0	6.9	2.7	-	赤褐色	石灰 金色雲母	D-V-726
181	北観谷部	D-V	2	土製(彫部)	2.6	3.6	1.0	-	赤褐色	石灰	D-V
181	北観谷部	D-#	3	土製(彫部)	3.4	4.3	2.1	-	明赤褐色	石灰 金色雲母	D-#-288
181	北観谷部	D-V	4	土製(彫部)	4.0	5.2	2.0	-	褐色	石灰 金色雲母	D-V-659
181	北観谷部	D-V	5	土製(彫部)	3.7	4.1	4.2	-	黄褐色	石灰	D-V-136
181	北観谷部	D-V	6	土製(彫部)	6.0	4.3	2.8	-	赤褐色	石灰 金色雲母	D-V-437
181	北観谷部	D-#	7	土製(彫部)	2.4	2.8	2.3	-	明赤褐色	石灰 金色雲母	D-#
181	北観谷部	D-#	8	土製(彫部)	3.9	3.5	5.7	-	明黄褐色	石灰 金色雲母	D-#-85
182	北観谷部	C-#	1	土製	3.7	1.7	0.9	10	灰褐色	砂子	C-#
182	北観谷部	D-#	1	土製	3.5	4.6	1.1	21	明赤褐色	金色雲母 砂子	D-#
182	北観谷部	D-#	2	土製内蓋	4.7	4.9	1.2	42	明褐色	金色雲母 砂子	D-#-1345
182	北観谷部	D-V	3	土製内蓋	4.3	5.0	1.4	42	明褐色	金色雲母 石灰	D-V
182	北観谷部	D-#	3	土製内蓋	4.7	2.4	0.9	12	赤褐色	金色雲母 砂子	D-#

博図 No.	出土地点	グランド	番号	器種	法 量			色 調	胎 土	注 記 No.	備 考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)				
182	北瀬谷部	D-V	4	土製円筒	3.7	3.8	1.1	褐色	砂漚	D-V	
182	北瀬谷部	D-II	5	土製円筒	2.8	2.7	1.0	褐色	石灰 金色雲母	D-II-79	
182	北瀬谷部	D-V	6	土製円筒	3.6	4.1	1.3	明褐色	石灰 金色雲母	D-V	
182	北瀬谷部	D-I	7	土製円筒	4.2	4.1	1.6	褐色	金色雲母 砂漚	D-I	
182	北瀬谷部	D-IV	8	土製円筒	2.9	3.0	1.2	褐色	金色雲母	D-IV-870	
182	北瀬谷部	D-III	9	土製円筒	4.4	4.2	1.2	褐色	金色雲母 砂漚	D-III	
182	北瀬谷部	D-I	10	土製円筒	3.0	3.3	1.5	褐色	砂漚	D-I	
182	北瀬谷部	C-II	11	土製円筒	2.2	2.4	1.2	明赤褐色	砂漚	C-II	
182	北瀬谷部	C-III	12	土製円筒	3.1	1.9	0.9	明褐色	金色雲母	C-III	
182	北瀬谷部	D-III	13	土製円筒	3.3	2.5	1.0	明褐色	砂漚	D-III	
182	北瀬谷部	D-IV	14	土製円筒	2.7	3.4	1.1	褐色	金色雲母 砂漚	D-IV	
182	北瀬谷部	D-III	15	土製円筒	3.3	3.4	0.9	にぶい黄褐色	金色雲母 砂漚	D-III	
182	北瀬谷部	D-II	16	土製円筒	5.4	5.7	0.8	褐色	金色雲母	D-II-525	
182	北瀬谷部	D-III	17	土製円筒	3.1	3.2	1.3	にぶい黄褐色	金色雲母	D-III	
182	北瀬谷部	D-IV	18	土製円筒	3.7	3.4	1.1	にぶい黄褐色	砂漚	D-IV-9	
182	北瀬谷部	D-III	19	土製円筒	4.3	4.5	1.3	褐色	金色雲母 砂漚	D-III-914	
182	北瀬谷部	D-V	20	土製円筒	3.5	3.3	0.6	褐色	金色雲母 砂漚	D-V	
183	北瀬谷部	D-IV	1	土製耳飾	2.1	2.2	0.7	褐色	金色雲母	D-IV	
183	北瀬谷部	D-III	2	土製耳飾	3.2	1.1	1.2	赤褐色	金色雲母	D-III	
183	北瀬谷部	D-III	3	土製耳飾	(3.4)	3.3	1.3	褐色	金色雲母	D-III	
183	北瀬谷部	D-III	4	土製耳飾	(2.3)	1.2	1.3	赤褐色	金色雲母	D-III	
183	北瀬谷部	D-V	5	土製耳飾	(2.9)	1.3	0.9	褐色	金色雲母	D-V-2	
183	北瀬谷部	D-III	6	土製耳飾	4.5	1.4	1.4	明褐色	金色雲母	D-III-287	
183	北瀬谷部	D-III	7	土製耳飾	4.9	1.8	0.8	にぶい褐色	金色雲母	D-III-372	
183	北瀬谷部	D-V	8	土製耳飾	(3.4)	1.3	1.1	明褐色	金色雲母	D-V	
183	北瀬谷部	D-III	9	土製耳飾	(2.8)	1.3	1.2	明褐色	金色雲母	D-III	
183	北瀬谷部	D-III	10	土製耳飾	(3.5)	0.9	1.3	明褐色	金色雲母	D-III-184	
183	北瀬谷部	D-III	11	土製耳飾	(3.1)	1.5	1.3	褐色	金色雲母	D-III	
183	北瀬谷部	D-IV	12	土製耳飾	(3.2)	1.2	1.7	褐色	金色雲母	D-IV	
183	北瀬谷部	D-III	1	鉄製耳飾	(3.4)	1.6	0.6	-	-	D-III-826	
183	北瀬谷部	D-V	2	鉄製耳飾	(4.5)	1.9	0.5	-	-	D-V-714	
183	北瀬谷部	D-IV	3	鉄製耳飾	(2.5)	1.9	1.0	-	-	D-IV-963	

石器観察表

博物館 No.	調査 No.	出土 層位	遺物	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	注記 No.	備考
96	1	A-1	1住	石鏃	1.5	2.0	0.5	1.61	黒曜石	151	
96	2	10	e-オ	1住	石鏃	1.3	1.3	0.25	0.5	黒曜石	19
96	3	11	-	1住	石鏃	0.95	1.05	0.30	0.30	黒曜石	
96	4	12	-	1住	石鏃	1.5	1.2	0.4	0.72	黒曜石	152
96	5	13	-	1住	石鏃	2.3	1.9	1.05	4.29	黒曜石	非製品
96	6	14	-	1住	石鏃	2.0	1.8	0.6	1.74	チャート	髹漆欠損
-	7	-	-	1住	石鏃	3.1	1.8	0.9	3.61	黒曜石	
-	8	-	-	1住	石鏃	1.8	2.2	0.9	4.96	黒曜石	
-	9	-	-	1住	石鏃	4.2	1.9	0.96	6.81	黒曜石	
-	10	-	-	1住	石鏃	2.15	1.4	0.7	1.79	黒曜石	
-	11	-	-	1住	石鏃	1.3	1.6	0.3	1.10	黒曜石	
-	12	-	-	1住	石鏃	1.8	1.8	0.4	1.07	黒曜石	
-	13	-	-	1住	石鏃	2.2	1.6	0.3	0.97	黒曜石	
-	14	-	-	1住	石鏃	2.3	1.8	0.5	1.45	黒曜石	
96	15	101	B-2	1住	石鏃	1.1	1.2	0.4	0.46	チャート	211
96	16	15	-	2住	石鏃	1.5	1.2	0.4	0.55	黒曜石	髹漆 1/2欠損
96	17	16	-	2住	石鏃	2.0	1.1	0.3	0.61	黒曜石	髹漆 1/2欠損
96	18	17	-	2住	石鏃	1.2	1.4	0.45	1.06	黒曜石	非製品
-	19	-	-	2住	石鏃	1.3	1.2	0.4	0.63	黒曜石	
-	20	-	-	2住	石鏃	1.4	1.2	0.4	0.63	黒曜石	1/3欠損
-	31	-	-	2住	石鏃	1.2	0.75	0.35	0.29	黒曜石	
-	22	-	-	2住	石鏃	1.25	1.3	0.3	0.45	黒曜石	
96	23	18	B-3	3住	石鏃	2.3	1.4	0.65	2.12	黒曜石	4
96	24	19	B-3	3住	石鏃	1.7	1.6	0.4	1.21	黒曜石	非製品
96	25	20	B-4	3住	石鏃	1.2	1.3	0.35	0.45	黒曜石	髹漆、 先端部欠損
-	26	-	-	4住	石鏃	1.4	1.3	0.3	0.38	黒曜石	
96	27	1	B-4	4住	石鏃	1.1	1.5	0.5	0.84	水晶	先端部 1/2欠損
96	28	24	C-4	4住	石鏃	1.3	1.0	0.3	0.38	黒曜石	
96	29	21	-	4住	石鏃	1.25	1.55	0.4	0.85	黒曜石	1060 髹漆欠損
96	30	22	-	4住	石鏃	2.1	1.6	0.4	0.95	黒曜石	
96	31	26	-	4住	石鏃	1.6	1.7	0.35	0.92	黒曜石	
96	32	29	-	4住	石鏃	1.2	1.5	0.25	0.45	黒曜石	先端部 欠損
96	33	25	-	4住	石鏃	2.1	1.6	0.3	1.2	黒曜石	1/3欠損
96	34	27	-	4住	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.67	黒曜石	髹漆 1/2欠損
96	35	28	-	4住	石鏃	1.5	1.0	0.35	0.61	黒曜石	髹漆欠損
96	36	23	-	4住	石鏃	2.3	1.3	0.4	1.17	黒曜石	髹漆 1/2欠損
96	37	30	-	4住	石鏃	2.1	1.8	0.65	1.79	黒曜石	684 髹漆 1/4欠損
-	38	-	-	4住	石鏃	1.4	1.3	0.3	0.40	黒曜石	
-	39	-	-	4住	石鏃	1.9	1.7	0.35	1.27	黒曜石	
-	40	-	-	4住	石鏃	1.4	1.3	0.3	0.42	黒曜石	
-	41	-	-	4住	石鏃	1.8	1.4	0.3	0.72	黒曜石	非製品
-	42	-	-	4住	石鏃	2.2	2.2	0.3	1.57	黒曜石	非製品
-	43	-	-	4住	石鏃	1.7	1.7	0.6	1.60	黒曜石	非製品
-	44	-	-	4住	石鏃	1.4	1.9	0.5	1.30	黒曜石	非製品
-	45	-	-	4住	石鏃	1.4	1.0	0.3	0.85	黒曜石	非製品
96	46	31	-	4住	石鏃	1.5	2.1	0.3	0.81	チャート	685 髹漆 欠損
96	47	32	-	4住	石鏃	1.1	1.4	0.45	1.32	チャート	1021 先端部 欠損
96	48	33	-	4住	石鏃	2.9	2.1	0.35	2.12	チャート	髹漆 1/2欠損
96	49	34	-	4住	石鏃	2.0	1.4	0.3	0.50	チャート	髹漆 1/3欠損
96	50	35	-	4住	石鏃	1.9	1.6	0.4	1.34	チャート	1207 先端部 磨字欠損
96	51	36	-	4住	石鏃	1.7	1.6	0.3	0.73	チャート	1228
96	52	37	-	4住	石鏃	1.6	1.6	0.3	0.66	黒曜石	1098
96	53	38	D-3	5住	石鏃	1.1	1.1	0.3	0.25	黒曜石	
-	54	-	-	5住	石鏃	1.2	1.0	0.35	0.39	黒曜石	
96	55	110	-	5住	石鏃	1.1	0.9	0.2	0.24	黒曜石	748
96	56	111	-	5住	石鏃	1.0	1.3	0.4	0.45	黒曜石	630
96	57	112	-	6住	石鏃	0.9	1.2	0.4	0.4	黒曜石	髹漆、 先端部欠損
96	58	114	-	6住	石鏃	1.1	1.0	0.3	0.32	黒曜石	2/3欠損
96	59	113	-	6住	石鏃	1.7	1.3	0.45	1.14	黒曜石	
96	60	115	-	6住	石鏃	1.8	1.1	0.4	0.66	黒曜石	髹漆 1/2欠損
96	61	17	-	6住	石鏃	1.7	1.0	0.4	0.75	黒曜石	
-	62	-	-	6住	石鏃	1.7	1.1	0.4	0.75	黒曜石	非製品
-	63	-	-	7住	石鏃	1.9	1.5	0.4	0.93	チャート	
96	64	43	B-6	7住	石鏃	1.5	1.5	0.7	1.4	黒曜石	113 髹漆欠損
96	65	46	B-7	7住	石鏃	1.7	1.9	0.3	0.92	黒曜石	
96	66	44	-	7住	石鏃	1.6	1.1	0.5	0.91	黒曜石	
96	67	40	-	7住	石鏃	1.2	1.2	0.3	0.34	黒曜石	
96	68	42	-	7住	石鏃	1.1	1.7	0.3	0.75	黒曜石	
96	69	47	-	7住	石鏃	1.3	1.3	0.55	0.86	黒曜石	296 先端部 1/4欠損
96	70	41	-	7住	石鏃	1.1	0.53	0.35	0.25	黒曜石	髹漆 1/2欠損
96	71	8	-	7住	石鏃	2.0	1.5	0.3	0.68	黒曜石	857 髹漆欠損
-	72	-	-	7住	石鏃	1.7	1.3	0.6	0.90	黒曜石	非製品
-	73	-	-	7住	石鏃	1.6	1.4	0.3	0.73	黒曜石	非製品
-	74	-	-	7住	石鏃	2.2	1.8	0.5	1.64	黒曜石	非製品
-	75	-	-	7住	石鏃	1.7	0.8	0.25	0.38	黒曜石	
96	76	2	-	7住	石鏃	1.2	1.4	0.5	1.03	水晶	1/2欠損 先端部欠損
96	77	39	B-6	7住	石鏃	0.8	1.4	0.25	0.4	黒曜石	4 先端部 欠損
96	78	45	B-6	7住	石鏃	2.4	1.6	0.45	1.6	チャート	髹漆 1/2欠損
96	79	50	B-6	8住	石鏃	1.3	1.2	0.4	0.53	チャート	髹漆 1/2欠損
-	80	-	-	8住	石鏃	3.8	1.3	0.8	2.85	黒曜石	
96	81	49	C-6	8住	石鏃	1.5	1.3	0.5	0.97	黒曜石	733 髹漆 1/2欠損
96	82	56	C-6	8住	石鏃	1.5	1.3	0.45	0.53	黒曜石	734 髹漆 1/4欠損
96	83	53	C-6	8住	石鏃	2.3	2.3	0.55	2.27	チャート	先端部、 髹漆欠損
96	84	48	C-6	8住	石鏃	1.4	1.35	0.3	0.55	チャート	612
96	85	4	C-7	8住	石鏃	2.2	1.9	0.4	0.95	水晶	816
96	86	55	-	8住	石鏃	1.4	1.1	0.35	0.36	黒曜石	髹漆欠損
96	87	51	-	8住	石鏃	1.2	1.3	0.5	0.81	黒曜石	先端部、 髹漆欠損
96	88	52	-	8住	石鏃	2.1	1.3	0.4	1.15	黒曜石	髹漆 1/2欠損
96	89	58	-	8住	石鏃	1.4	1.8	0.3	0.53	黒曜石	髹漆欠損
-	90	-	-	8住	石鏃	3.3	2.5	1.4	13.49	黒曜石	非製品
-	91	-	-	8住	石鏃	2.6	2.3	0.8	4.86	黒曜石	非製品
-	92	-	-	8住	石鏃	3.8	3.0	0.7	2.93	黒曜石	非製品
96	93	57	-	8住	石鏃	2.2	1.9	0.25	1.05	チャート	髹漆、 先端部欠損
96	94	54	-	8住	石鏃	1.8	1.2	0.4	0.56	チャート	1/2欠損
-	95	-	-	8住	石鏃	2.4	2.3	0.7	2.93	チャート	非製品
96	96	3	-	8住	石鏃	1.7	1.3	0.3	0.71	水晶	髹漆 1/2欠損
-	97	124	B-4	9住	石鏃	2.4	2.1	0.45	2.03	チャート	1
96	98	59	A-3	11住	石鏃	1.2	1.9	0.6	1.21	チャート	1
96	99	60	A-4	11住	石鏃	1.8	2.0	0.4	1.03	チャート	1 先端部、 髹漆欠損
96	100	61	A-4	11住	石鏃	1.2	1.3	0.3	0.99	チャート	先端部、 髹漆 1/2欠損
-	101	-	-	11住	石鏃	1.2	1.9	0.6	1.21	黒曜石	非製品
96	102	104	A-4	11住	石鏃	1.6	1.5	0.35	0.57	チャート	
-	103	-	-	13住	石鏃	2.1	1.8	1.1	3.57	黒曜石	非製品
-	104	-	-	13住	石鏃	1.6	1.6	0.35	1.21	黒曜石	非製品
-	105	-	-	13住	石鏃	1.6	1.3	0.6	1.07	黒曜石	非製品
-	106	-	-	13住	石鏃	1.7	1.5	0.7	1.47	黒曜石	非製品
96	107	82	B-4	13住	石鏃	1.6	1.6	0.7	1.53	黒曜石	髹漆 1/4欠損
96	108	83	D-4	16住	石鏃	1.3	1.3	0.45	0.78	黒曜石	髹漆 1/2欠損
-	109	-	-	16住	石鏃	2.2	1.4	0.6	2.00	黒曜石	非製品
96	110	85	A-19	28住	石鏃	1.4	1.3	0.3	0.46	黒曜石	非製品
96	111	84	-	28住	石鏃	1.5	0.9	0.35	0.71	黒曜石	髹漆欠損

押群 No.	図例 No.	山土 グランド	造構	部材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	石材	注記 No.	備考
97 112	85	A-18	26住	石積	1.3	1.05	1.2	0.25	黒曜石		
97 113	69	B-7	2階	石積	1.7	2.0	0.65	2.36	黒曜石		水製品
- 114	-	B-7	2階	石積	1.3	2.2	0.3	1.45	チャート		
97 115	66	B-8	2階	石積	1.4	1.5	0.4	0.69	黒曜石	2	
- 116	-	C-7	2階	石積	1.2	1.7	0.6	1.41	黒曜石		水製品
97 117	68	C-8	2階	石積	1.9	1.8	0.35	1.18	黒曜石	32	脚部 1/2欠損
97 118	67	C-8	2階	石積	1.6	1.8	0.8	1.76	黒曜石		
97 119	70	C-5	2階	石積	1.4	1.35	0.62		黒曜石		先端部、 脚部欠損
97 120	72	A-12	3階	石積	0.9	1.1	0.25	0.39	黒曜石	87	
97 121	71	A-13	3階	石積	1.2	1.7	0.3	0.83	黒曜石	106	
97 122	73	A-13	3階	石積	1.1	1.5	0.45	0.72	黒曜石	33	1/6欠損
- 123	-	-	4階	石積	1.7	0.8	0.3	0.52	黒曜石		
97 124	76	C-17	4階	石積	1.0	2.5	0.3	0.8	黒曜石		脚部 1/2欠損
97 125	78	C-17	4階	石積	1.3	0.2	0.23		黒曜石	111	脚部 1/2欠損
97 126	79	C-17	4階	石積	1.0	0.7	0.3	0.26	黒曜石	112	脚部 1/2欠損
96 127	3	C-17	4階	石積	1.5	1.5	0.45	0.72	水産		
97 128	80	C-17	4階	石積	1.4	1.3	0.3	0.6	泥岩	23	
97 129	74	C-19	4階	石積	1.2	1.4	0.45	1.18	黒曜石	141	脚部 1/5欠損
97 130	75	C-19	4階	石積	1.3	1.3	0.35	0.92	黒曜石	183	
97 131	77	C-19	4階	石積	1.3	1.6	0.35	0.72	黒曜石	40	先端部、 脚部欠損
97 132	81	C-35	5階	石積	1.4	1.75	0.4	0.73	黒曜石	34	先端部、 脚部1/2欠損
97 133	83	C-35	5階	石積	1.8	1.7	0.35	0.61	黒曜石	65	脚部 1/2欠損
97 134	82	C-37	5階	石積	1.8	1.5	0.3	0.57	黒曜石	1	
97 135	84	B-42	7階	石積	2.1	1.3	0.3	1.04	黒曜石	20	先端部、 脚部欠損
96 136	94	A-12	遊構外	石積	1.2	1.73	0.3	0.69	黒曜石		先端部 1/2欠損
- 137	-	A-12	-	石積	1.6	1.2	0.4	0.73	黒曜石		水製品
96 138	103	A-12	-	石積	1.9	1.9	0.55	1.76	チャート	27	脚部 1/2欠損
97 139	86	A-1	北側谷部	石積	1.8	1.1	0.45	1.28	黒曜石	47	脚部 1/2欠損
97 140	87	A-N	北側谷部	石積	1.8	1.5	0.35	0.92	黒曜石		脚部欠損
96 141	96	A-N	北側谷部	石積	1.6	1.6	0.35	0.71	黒曜石		1/2欠損
97 142	89	A-N	北側谷部	石積	2.1	1.9	0.55	1.57	黒曜石		1/2欠損
- 143	-	A-N	北側谷部	石積	2.6	1.9	0.9	3.50	黒曜石		水製品
96 144	6	A-N	北側谷部	石積	2.5	1.8	0.9	3.56	水産		水産品、 脚部 1/2欠損
- 145	-	A-N	北側谷部	石積	2.5	2.1	0.6	3.35	水産		水製品
- 146	-	A-N	北側谷部	石積	2.6	1.9	0.5	3.35	水産		水産品
96 147	117	B-3	遊構外	石積	1.6	1.9	0.35	0.87	黒曜石	17	
96 148	105	B-3	-	石積	1.1	1.8	0.45	0.94	チャート		先端部 欠損
96 149	93	B-11	遊構外	石積	1.25	1.1	0.35	0.35	黒曜石	123	
96 150	90	B-11	北側谷部	石積	0.9	1.2	0.2	0.20	黒曜石	22	
97 151	88	B-11	北側谷部	石積	1.2	1.5	0.35	0.53	チャート	6	脚部 若干欠損
96 152	81	B-11	北側谷部	石積	1.6	2.0	0.55	1.51	黒曜石		先端部、 脚部欠損
96 153	8	B-11	北側谷部	石積	2.1	1.7	0.5	3.09	水産		先端部 欠損
96 154	92	B-N	北側谷部	石積	1.6	1.5	0.35	0.65	黒曜石	149	
96 155	95	B-N	北側谷部	石積	2.1	1.5	0.3	0.92	黒曜石		
96 156	96	B-V	北側谷部	石積	2.0	1.6	0.4	0.83	黒曜石	84	脚部 1/2欠損
- 157	-	C-4	遊構外	石積	2.4	1.8	0.5	2.21	黒曜石		水製品
- 158	-	C-4	遊構外	石積	1.3	1.15	0.4	0.52	黒曜石		水製品
96 159	116	C-4	遊構外	石積	1.2	1.6	0.45	0.86	黒曜石		先端部 欠損
- 160	-	C-4	遊構外	石積	2.0	1.8	0.3	0.97	黒曜石		水産品
96 161	118	C-4	遊構外	石積	1.2	1.4	0.3	0.49	黒曜石	34	
96 162	119	C-4	遊構外	石積	1.8	1.5	0.3	0.82	チャート	1	脚部欠損

押群 No.	図例 No.	山土 グランド	造構	部材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	石材	注記 No.	備考
96 163	99	C-4	遊構外	石積	1.9	1.5	0.35	1.06	チャート	578	脚部 1/2欠損
96 164	109	C-17	遊構外	石積	1.6	1.4	0.4	0.64	黒曜石	120	
- 165	-	C-20	遊構外	石積	2.0	1.6	1.0	2.21	黒曜石		
96 166	97	C-31	北側谷部	石積	0.8	1.6	0.25	0.41	黒曜石	5	先端部 1/2欠損
96 167	100	C-31	北側谷部	石積	2.8	1.9	0.4	4.56	鉄石	87	
96 168	108	C-N	北側谷部	石積	1.2	1.1	0.3	0.73	黒曜石	533	
- 169	-	C-N	北側谷部	石積	2.3	2.0	0.9	4.79	黒曜石		
- 170	-	C-N	北側谷部	石積	0.3	1.8	0.7	2.70	黒曜石		水産品
- 171	-	C-N	北側谷部	石積	1.5	1.2	0.5	1.38	黒曜石		
- 172	-	C-N	北側谷部	石積	2.0	2.6	0.6	4.00	黒曜石		
96 173	102	C-V	北側谷部	石積	1.6	0.9	0.45	0.91	黒曜石	303	脚部 1/2欠損
96 174	107	C-V	北側谷部	石積	1.7	1.0	0.8	2.06	黒曜石		
96 175	106	C-V	北側谷部	石積	1.9	1.7	0.45	0.82	チャート	260	
- 176	-	-	遊構外	石積	2.1	1.5	0.3	1.00	黒曜石		水産品
96 177	120	表排	遊構外	石積	1.3	1.0	0.25	0.26	黒曜石		
96 178	122	表排	遊構外	石積	1.2	1.5	0.3	0.52	黒曜石		脚部 1/2欠損
96 179	125	表排	遊構外	石積	2.2	2.1	0.3	0.79	黒曜石		
96 180	121	表排	遊構外	石積	2.1	1.3	0.45	1.22	黒曜石		先端部、 脚部欠損
96 181	123	表排	遊構外	石積	1.8	0.9	0.45	0.86	黒曜石		1/2欠損
99 1	18	B-2	1住	フリル	3.1	1.6	0.75	5.16	頁岩	157	先端部 欠損
99 2	5	-	1住	フリル	1.9	1.6	0.35	1.17	黒曜石		3/4欠損
96 3	1	-	2住	フリル	2.1	1.0	0.65	1.40	黒曜石		つまみ部 欠損
96 4	3	C-3	4住	フリル	2.0	2.4	0.6	1.78	黒曜石	911	
96 5	4	C-4	4住	フリル	2.3	1.9	0.65	2.69	チャート		つまみ部 欠損
96 6	10	-	4住	フリル	2.9	2.05	0.6	3.64	黒曜石		先端部 2/1欠損
96 7	5	-	4住	フリル	1.3	1.2	0.3	0.63	黒曜石		つまみ部、 先端部 欠損
- 8	-	-	4住	フリル	2.5	2	0.6	2.61	黒曜石		
96 9	6	-	7住	フリル	2.3	0.8	0.45	0.88	黒曜石		つまみ部 欠損
96 10	7	-	7住	フリル	1.8	0.9	0.35	0.56	黒曜石		つまみ部 欠損
- 11	-	-	7住	フリル	2.2	1.3	0.4	0.95	黒曜石		
- 12	-	-	7住	フリル	1.7	1.0	0.6	0.88	黒曜石		
96 13	8	C-6	8住	フリル	2.9	1.8	0.9	3.82	チャート		つまみ部 欠損
- 14	-	-	8住	フリル	2.3	2.6	0.8	3.19	黒曜石		
- 15	-	-	8住	フリル	1.6	2.2	0.6	1.67	黒曜石		
- 16	-	-	8住	フリル	1.9	1.0	0.5	1.17	黒曜石		
- 17	-	-	8住	フリル	2.2	1.3	0.4	1.09	黒曜石		
96 18	12	B-4	13住	フリル	1.7	2.1	0.7	2.09	チャート		先端部 欠損
96 19	2	B-19	26住	フリル	1.9	1.7	0.65	1.76	黒曜石		つまみ部 欠損
99 20	21	B-19	26住	フリル	1.9	1.2	0.5	0.73	黒曜石		つまみ部 欠損
96 21	9	B-7	2階	フリル	1.7	2.7	0.25	1.98	チャート		
- 22	-	B-7	2階	フリル	1.2	0.5	0.3	0.24	黒曜石		
99 23	24	C-8	2階	フリル	3.1	0.8	0.55	1.61	チャート		3/1欠損
99 24	17	A-12	3階	フリル	3.5	2.0	0.65	4.17	砂岩	93	先端部 欠損
99 25	25	C-19	4階	フリル	1.3	0.8	0.3	0.4	黒曜石	155	
- 26	-	-	4階	フリル	2.2	1.3	0.3	0.57	黒曜石		
- 27	-	A-4	トレンチ	フリル	1.9	0.9	0.3	0.51	黒曜石		
96 28	10	A-4	北側谷部 トレンチ	フリル	1.6	1.4	0.4	0.65	黒曜石		
99 29	15	A-N	北側谷部	フリル	3.3	0.9	0.8	2.03	黒曜石		
99 30	17	B-7	遊構外	フリル	2.5	1.8	0.45	1.61	黒曜石		つまみ部 欠損
- 31	-	B-7	遊構外	フリル	2	0.7	0.3	0.52	黒曜石		
99 32	13	B-8	遊構外	フリル	2.3	1.8	0.45	1.61	黒曜石		つまみ部 欠損

採掘 No.	採 種 No.	出 土 No.	遺 構	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	注記 No.	備考
99	33	26	B-11	遺構外	ドリル	2.3	0.9	0.55	0.8	黒曜石	つまみ部 先端部 欠損
-	34	-	B-12	遺構外	ドリル	3.3	1.4	1.0	3.97	黒曜石	
99	35	11	B-13	遺構外	ドリル	2.3	1.9	0.6	2.02	黒曜石	
98	36	11	C-9	北原分館	ドリル	2.5	1.5	0.35	1.17	黒曜石	465
99	37	20	C-9	北原分館	ドリル	3.8	3.7	0.90	7.05	緑色黒岩	477
99	38	16	D-5	遺構外	ドリル	1.8	1.7	0.65	2.14	チャート	
-	39	-	-	-	ドリル	1.5	0.7	0.35	0.42	黒曜石	
99	40	19	表録	-	ドリル	2.8	1.6	0.7	2.5	チャート	
-	1	-	B-2	1位	スライバ	2.0	1.6	0.6	3.02	黒曜石	
-	2	-	4位	スライバ	2.5	1.1	0.3	0.90	黒曜石		
-	3	-	4位	スライバ	2.0	1.5	0.9	3.73	黒曜石		
-	4	-	4位	スライバ	2.1	1.8	0.7	2.87	黒曜石		
-	5	-	4位	スライバ	2.2	2.2	0.7	2.33	黒曜石		
-	6	-	4位	スライバ	1.9	1.83	0.3	1.21	黒曜石		
-	7	-	4位	スライバ	2.6	2.2	0.9	5.64	黒曜石		
-	8	-	4位	スライバ	1.1	2.0	0.7	1.85	黒曜石		
-	9	-	4位	スライバ	2.1	1.8	0.75	3.18	黒曜石		
-	10	-	4位	スライバ	2.2	3.2	0.7	3.32	黒曜石		
-	11	-	4位	スライバ	4.8	2.0	0.8	9.66	黒曜石		
99	12	22	C-6	7位	スライバ	3.2	1.0	0.75	2.29	黒曜石	浅部品
-	13	-	7位	スライバ	4.3	2.3	1.20	9.84	黒曜石		
-	14	-	8位	スライバ	1.5	2.0	0.5	1.37	黒曜石		
-	15	-	8位	スライバ	1.8	1.8	1.2	3.95	黒曜石		
-	16	-	8位	スライバ	3.0	2.8	0.7	5.42	チャート		
99	17	18	-	8位	スライバ	1.0	0.8	0.2	0.18	黒曜石	
99	18	19	-	8位	スライバ	1.2	1.1	0.35	0.77	黒曜石	
99	19	20	-	8位	スライバ	2.4	1.6	0.35	1.67	黒曜石	
-	20	-	A-4	9位	スライバ	3.4	1.6	0.5	3.28	黒曜石	
99	21	23	A-3	11位	スライバ	2.6	1.7	0.7	2.7	黒曜石	
-	22	-	A-5	15位	スライバ	3.1	1.5	0.5	2.24	黒曜石	
-	23	-	D-4	16位	スライバ	4.1	2.5	1.3	8.03	黒曜石	
-	24	-	-	4位	スライバ	1.4	1.1	0.2	0.41	黒曜石	
-	25	-	A-9	北原分館	スライバ	4.5	2.1	1.5	14.88	黒曜石	
-	26	-	A-9	北原分館	スライバ	3.3	1.5	0.3	1.66	黒曜石	使用済
-	27	-	C-20	-	スライバ	2.6	2.1	0.6	3.46	黒曜石	
-	28	-	表録	-	スライバ	1.9	1.7	1.1	4.89	黒曜石	
99	2	15	C-3	2位	機形石磨	1.8	3.7	0.7	2.53	黒曜石	
-	3	-	4位	機形石磨	1.1	1.30	0.6	0.96	黒曜石		
-	4	-	4位	機形石磨	1.9	2.2	0.45	1.69	黒曜石		
-	5	-	4位	機形石磨	2.7	2.9	1.0	8.34	チャート		
-	6	-	4位	機形石磨	1.6	2.0	0.8	2.32	黒曜石		
-	7	-	C-6	7位	機形石磨	1.9	1.1	0.5	0.82	黒曜石	
-	8	-	C-6	7位	機形石磨	1.6	1.6	0.5	1.94	黒曜石	
-	9	-	7位	機形石磨	2.1	1.8	1.2	3.67	黒曜石		
-	10	-	7位	機形石磨	2.8	1.2	0.5	2.05	黒曜石		
-	11	-	7位	機形石磨	2.3	2.8	0.8	4.09	黒曜石		
-	12	-	7位	機形石磨	1.2	1.9	0.35	1.09	黒曜石		
-	13	-	7位	機形石磨	1.5	1.1	0.4	0.75	黒曜石		
-	14	-	7位	機形石磨	1.6	1.1	0.4	0.65	黒曜石		
-	15	-	7位	機形石磨	1.7	1.2	0.35	0.80	黒曜石		
-	16	-	7位	機形石磨	1.1	1.5	0.25	0.43	黒曜石		
-	17	-	8位	機形石磨	1.5	1.5	0.45	0.99	黒曜石		
-	18	-	8位	機形石磨	1.7	0.7	0.5	0.78	黒曜石		
-	19	-	8位	機形石磨	1.6	2.3	0.8	3.18	黒曜石		
-	20	-	8位	機形石磨	3.2	2.7	1.3	8.15	チャート		
-	21	-	A-3	11位	機形石磨	1.5	1.6	0.7	2.09	黒曜石	
-	22	-	A-9	北原分館	機形石磨	2.5	1.5	0.5	2.56	水産	
-	23	-	B-8	北原分館	機形石磨	2.4	2.1	0.3	0.77	黒曜石	
-	24	-	B-46	遺構外	機形石磨	1.8	1.0	0.5	1.01	黒曜石	
-	25	-	C-4	遺構外	機形石磨	1.4	1.7	0.7	1.67	黒曜石	
-	26	-	C-4	遺構外	機形石磨	1.7	1.6	0.4	0.95	黒曜石	
-	27	-	C-4	遺構外	機形石磨	1.7	1.7	0.5	1.96	黒曜石	
-	28	-	C-4	遺構外	機形石磨	1.9	0.8	0.4	0.87	黒曜石	
-	29	-	C-4	遺構外	機形石磨	2.3	3.0	1.4	10.19	黒曜石	
-	30	-	-	遺構外	機形石磨	1.5	1.2	0.5	0.91	黒曜石	
-	31	-	-	遺構外	機形石磨	1.1	1.3	0.45	0.59	黒曜石	
-	32	-	-	遺構外	機形石磨	1.1	1.5	0.6	1.28	黒曜石	
99	-	33	-	遺構外	機形石磨	1.7	1.4	0.25	0.71	黒曜石	
-	34	-	-	遺構外	機形石磨	1.7	1.4	0.5	0.69	黒曜石	
-	35	-	B-31	遺構外	機形石磨	1.0	1.1	1.24	水産		
-	1	-	I-E	1位	石核	3.9	2.1	2.0	14.82	黒曜石	蓋
-	2	-	-	1位	石核	2.1	1.5	1.1	4.14	黒曜石	
-	3	-	B-3	3位	石核	1.8	2.1	1.2	5.16	黒曜石	
-	4	-	B-3	3位	石核	2.0	2.3	1.1	6.92	黒曜石	
-	5	-	-	4位	石核	2.3	3.4	0.9	5.37	黒曜石	
-	6	-	-	4位	石核	3.5	1.4	1.15	4.91	黒曜石	
-	7	-	-	4位	石核	1.8	1.3	1.2	3.50	黒曜石	
-	8	-	-	4位	石核	2.5	1.8	0.7	3.30	黒曜石	
-	9	-	B-6	7位	石核	4.3	1.9	0.8	6.30	黒曜石	
-	10	-	B-6	7位	石核	2.3	2.0	1.2	6.16	黒曜石	
-	11	-	B-6	7位	石核	2.1	1.0	0.6	1.42	黒曜石	
-	12	-	-	7位	石核	2.6	2.9	1.9	8.20	黒曜石	
-	13	-	-	7位	石核	2.8	2.1	1.3	7.53	黒曜石	
-	14	-	-	7位	石核	2.8	1.6	1.5	4.73	黒曜石	
-	15	-	-	7位	石核	1.9	1.1	1.2	2.83	黒曜石	
-	16	-	-	7位	石核	1.2	1.2	0.7	0.75	黒曜石	
-	17	-	C-6	8位	石核	2.3	1.9	0.8	4.25	黒曜石	
-	18	-	D-4	8位	石核	3.3	2.0	1.3	8.34	黒曜石	
-	19	-	B-6	8位	石核	3.0	2.4	1.2	6.66	黒曜石	
-	20	-	-	8位	石核	3.0	2.8	1.8	13.56	黒曜石	
-	21	-	-	8位	石核	3.0	2.5	1.7	11.95	黒曜石	
-	22	-	-	8位	石核	2.2	1.8	1.5	6.55	黒曜石	
-	23	-	A-4	9位	石核	2.5	2.3	0.8	5.54	黒曜石	
-	24	-	-	9位	石核	3.2	1.7	1.7	8.70	黒曜石	
-	25	-	-	9位	石核	3.5	0.9	0.9	2.51	黒曜石	
-	26	-	-	9位	石核	2.9	2.7	2.1	21.85	黒曜石	
-	27	-	-	遺構外	石核	4.0	2.7	1.1	9.05	黒曜石	
-	28	-	-	遺構外	石核	4.1	3.2	1.2	17.45	黒曜石	
-	29	-	-	遺構外	石核	3.1	1.3	0.8	2.85	黒曜石	
-	30	-	-	遺構外	石核	3.0	2.6	1.5	8.20	黒曜石	
-	31	-	-	遺構外	石核	3.2	2.9	1.4	12.67	黒曜石	
-	32	-	-	遺構外	石核	2.1	2.5	2.0	9.96	黒曜石	
-	33	-	-	遺構外	石核	2.5	1.8	0.9	3.13	黒曜石	
-	34	-	-	遺構外	石核	2.0	1.9	0.9	2.78	黒曜石	
99	1	13	C-2	2位	ポイント	4.9	2.6	0.8	12.11	頁頁	428
-	2	-	-	7位	ポイント	1.8	1.2	0.8	1.7	黒曜石	
99	3	12	D-4	遺構外	ポイント	3.0	2.1	0.7	3.97	黒曜石	
99	4	16	D-3	遺構外	ポイント	3.3	2.1	0.7	3.66	チャート	
-	1	-	I-F	1位	不明	1.7	2.3	0.85	3.63	水産	38
-	2	-	-	1位	不明	3.8	1.6	0.3	1.30	黒曜石	調整付
-	3	-	-	1位	不明	3.1	1.8	0.5	2.44	黒曜石	調整付
-	4	-	-	1位	不明	3.6	1.7	0.6	2.84	黒曜石	調整付
-	5	-	-	1位	不明	2.6	2.7	1.1	7.15	チャート	調整付
-	6	-	-	1位	不明	2.9	2.2	1.2	6.36	チャート	調整付
-	7	-	C-2	2位	不明	4.4	1.8	0.8	4.34	黒曜石	調整付
-	8	-	C-2	2位	不明	2.7	1.1	0.6	2.15	黒曜石	調整付
-	9	-	-	2位	不明	2.1	1.5	0.8	1.90	黒曜石	調整付
-	10	-	-	2位	不明	1.2	1.7	0.25	1.08	黒曜石	調整付
-	11	-	-	2位	不明	1.3	2.1	0.4	1.07	黒曜石	調整付
-	12	-	-	2位	不明	1.8	1.3	0.5	1.35	黒曜石	調整付
-	13	-	-	2位	不明	1.7	1.3	0.3			

種類 No.	番号	関係 No.	出土 グリップ	遺構	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	注記 No.	備考
-	31	-	-	4住	不明	1.6	1.5	0.5	1.51	黒曜石		調整片
-	32	-	-	4住	不明	2.8	1.8	1.2	4.17	黒曜石		調整片
06	33	-	-	4住	不明	3.9	1.5	0.8	0.73	水晶		調整片
-	34	-	-	4住	不明	1.7	1.0	0.6	6.00	青岩		調整片
-	35	-	-	4住	不明	3.5	2.3	0.5	3.46	黒曜石		調整片
99	36	9	B-6	7住	不明	2.3	2	0.5	2.35	黒曜石	1003	調整片
-	37	-	C-6	7住	不明	2.8	2.0	0.8	3.76	黒曜石		調整片
-	38	-	-	7住	不明	4.0	1.4	0.6	2.10	黒曜石		調整片
-	39	-	-	7住	不明	3.8	1.9	0.7	3.77	黒曜石		調整片
-	40	-	-	7住	不明	3.6	1.8	0.5	3.45	黒曜石		調整片
-	41	-	-	7住	不明	3.3	1.5	0.8	4.87	黒曜石		調整片
-	42	-	-	7住	不明	2.3	1.5	1.0	4.39	黒曜石		調整片
-	43	-	-	7住	不明	3.3	1.7	0.4	1.52	黒曜石		調整片
-	44	-	-	7住	不明	1.6	1.4	0.8	1.46	黒曜石		調整片
-	45	-	-	7住	不明	3.0	1.9	1.2	4.82	黒曜石		調整片
-	46	-	-	7住	不明	2.4	1.8	0.4	1.48	黒曜石		調整片
-	47	-	-	7住	不明	3.6	1.0	0.4	1.81	黒曜石		調整片
-	48	-	-	7住	不明	2.0	1.6	1.3	3.50	黒曜石		調整片
-	49	-	-	7住	不明	1.4	1.3	0.4	0.91	黒曜石		調整片
-	50	-	-	7住	不明	3.4	1.3	0.6	1.51	黒曜石		調整片
-	51	-	-	7住	不明	2.7	1.4	0.25	1.00	黒曜石		調整片
-	52	-	-	7住	不明	2.7	1.8	0.4	1.28	黒曜石		調整片
-	53	-	-	7住	不明	2.6	2.7	0.5	2.67	黒曜石		調整片
-	54	-	-	7住	不明	3.2	1.4	1.0	3.95	黒曜石		調整片
-	55	-	-	7住	不明	2.2	1.4	0.7	1.91	黒曜石		調整片
-	56	-	-	7住	不明	1.7	1.1	0.3	0.54	黒曜石		調整片
-	57	-	-	7住	不明	1.5	1.6	0.3	0.38	黒曜石		調整片
-	58	-	-	7住	不明	1.5	1.2	0.5	1.25	黒曜石		調整片
99	59	6	-	7住	不明	2.2	1.7	0.35	1.08	黒曜石		調整片
99	60	7	-	7住	不明	1.3	1.4	0.3	0.63	黒曜石		調整片
-	61	-	-	7住	不明	1.3	0.7	0.35	0.42	黒曜石		調整片
-	62	-	B-6	7-8住	不明	2.1	2.2	1.2	4.02	黒曜石		調整片
-	63	-	A-8	8住	不明	3.5	2.1	1.2	8.56	チャート		調整片
-	64	-	C-6	8住	不明	3.3	1.7	0.7	3.61	黒曜石		調整片
-	65	-	C-6	8住	不明	4.7	2.7	0.9	10.02	チャート	918	調整片
-	66	-	-	8住	不明	2.3	2.4	0.7	2.16	黒曜石		調整片
-	67	-	-	8住	不明	2.5	1.5	0.8	2.86	黒曜石		調整片
-	68	-	-	8住	不明	1.5	1.5	0.5	0.85	黒曜石		調整片
-	69	-	-	8住	不明	2.0	1.0	0.5	1.53	黒曜石		調整片
-	70	-	-	8住	不明	1.7	1.0	0.4	0.78	黒曜石		調整片
-	71	-	-	8住	不明	2.2	1.1	0.8	1.84	チャート		調整片
-	72	-	-	9住	不明	3.8	2.0	0.8	6.10	黒曜石		調整片
-	73	-	-	9住	不明	3.0	1.6	0.2	1.09	黒曜石		調整片
-	74	-	-	9住	不明	2.3	1.0	0.4	1.20	黒曜石		調整片
-	75	-	-	9住	不明	2.0	1.6	0.5	1.31	黒曜石		調整片
-	76	-	A-3	11住	不明	2.2	1.4	0.4	1.49	黒曜石		調整片
-	77	-	B-4	13住	不明	2.8	1.4	0.5	2.43	黒曜石		調整片
-	78	-	B-4	13住	不明	3.2	1.5	0.6	2.74	黒曜石		調整片
-	79	-	B-4	13住	不明	1.8	1.3	0.7	1.91	黒曜石		調整片
-	80	-	B-18	26住	不明	4.8	2.1	1.5	3.66	黒曜石		調整片
-	81	-	B-18	26住	不明	3.3	0.9	0.7	2.1	黒曜石		調整片
-	82	-	C-19	4溝	不明	3.8	1.6	0.6	3.57	黒曜石		調整片
-	83	-	-	4溝	不明	1.8	1.5	0.3	0.75	黒曜石		調整片
-	84	-	-	4溝	不明	2.0	1.6	0.6	2.10	黒曜石		調整片
-	85	-	-	9溝	不明	3.4	1.9	0.5	2.57	黒曜石		調整片
-	86	-	A-12	遺構外	不明	1.7	1.2	0.4	0.73	黒曜石		調整片
-	87	-	A-7	北側倉庫	不明	1.8	2.2	0.4	1.72	黒曜石		調整片
-	88	-	A-7	北側倉庫	不明	2.5	1.5	0.6	1.54	黒曜石		調整片
-	89	-	A-V	北側倉庫	不明	2.8	1.3	0.3	1.47	黒曜石		調整片
96	90	9	B-11	遺構外	不明	1.4	1.4	0.4	1.19	水晶		調整片
-	91	-	B-12	3溝	不明	2.4	0.8	0.2	0.61	黒曜石		調整片
99	92	27	B-12	3溝	不明	3.3	1.9	0.8	5.01	琥珀石		調整片
-	93	-	B-13	3溝	不明	2.3	1.7	0.5	2.84	黒曜石		調整片
-	94	-	B-1	北側倉庫	不明	1.4	1.7	0.4	1.83	黒曜石		調整片
-	95	-	B-4	北側倉庫	不明	3.1	1.1	0.8	1.32	黒曜石		調整片
-	96	-	C-8	遺構外	不明	2.3	1.1	0.8	1.81	黒曜石		調整片
-	97	-	C-20	遺構外	不明	1.7	1.6	0.3	0.73	黒曜石		調整片
-	98	-	C-20	遺構外	不明	2.4	1.3	0.3	1.46	黒曜石		調整片
-	99	-	D-3	遺構外	不明	1.8	1.1	0.7	1.47	黒曜石		調整片
-	100	-	D-14	遺構外	不明	2.9	2.0	0.6	4.81	黒曜石		調整片
-	101	-	-	遺構外	不明	3.0	1.4	0.7	3.02	黒曜石		調整片
-	102	-	-	遺構外	不明	2.3	1.7	0.6	1.89	黒曜石		調整片
-	103	-	-	遺構外	不明	1.1	2.4	0.35	0.85	黒曜石		調整片
-	104	-	-	遺構外	不明	1.8	2.3	0.8	2.30	黒曜石		調整片

## 92年度

種類 No.	番号	関係 No.	出土 グリップ	遺構	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	注記 No.	備考
184	1	32	D-7	27住	石鏝	1.3	1.4	0.5	0.37	黒曜石		10
184	2	56	C-1	北側倉庫	石鏝	2.6	1.3	0.5	1.82	チャート		72
184	3	5	C-1	北側倉庫	石鏝	2.3	1.6	0.3	0.35	黒曜石		164
184	4	4	C-2	北側倉庫	石鏝	2.0	1.4	0.4	0.68	黒曜石		89
184	5	1	C-2	北側倉庫	石鏝	1.4	1.1	0.3	0.22	黒曜石		195
184	6	2	C-2	北側倉庫	石鏝	1.6	1.35	0.3	0.33	黒曜石		119
184	7	46	D-1	北側倉庫	石鏝	1.9	1.3	0.6	1.00	チャート		72
184	8	62	D-1	北側倉庫	石鏝	1.9	1.4	0.3	0.66	黒曜石		185
185	9	79	D-1	北側倉庫	石鏝	2.0	1.95	0.75	2.34	水晶		調整片
184	10	6	D-1	北側倉庫	石鏝	1.7	1.4	0.25	0.51	黒曜石		275
184	11	7	D-1	北側倉庫	石鏝	1.9	1.65	0.2	0.62	黒曜石		317
184	12	47	D-3	北側倉庫	石鏝	1.5	1.4	0.4	0.53	チャート		339
184	13	3	D-3	北側倉庫	石鏝	1.8	1.4	0.4	0.54	黒曜石		361
184	14	8	D-3	北側倉庫	石鏝	1.8	1.6	0.4	0.78	黒曜石		365
184	15	10	D-3	北側倉庫	石鏝	1.3	1.3	0.5	0.73	黒曜石		614
184	16	9	D-3	北側倉庫	石鏝	1.7	1.1	0.3	0.52	黒曜石		調整片
184	17	22	D-3	北側倉庫	石鏝	2.3	1.3	0.3	0.75	黒曜石		10
184	18	21	D-3	北側倉庫	石鏝	1.4	1.1	0.3	0.44	黒曜石		12
184	19	16	D-3	北側倉庫	石鏝	2.4	1.5	0.3	0.82	黒曜石		148
184	20	24	D-3	北側倉庫	石鏝	2.7	2.15	0.45	1.43	琥珀石		243
184	21	18	D-3	北側倉庫	石鏝	1.9	1.4	0.3	0.50	琥珀石		474
184	22	23	D-3	北側倉庫	石鏝	1.4	0.85	0.3	0.39	黒曜石		543
184	23	20	D-3	北側倉庫	石鏝	1.6	1.0	0.4	0.46	黒曜石		543
184	24	46	D-3	北側倉庫	石鏝	1.6	1.1	0.2	0.42	チャート		545
184	25	14	D-3	北側倉庫	石鏝	1.4	1.23	0.3	0.42	黒曜石		590
184	26	12	D-3	北側倉庫	石鏝	1.35	1.5	0.45	0.75	黒曜石		717
184	27	25	D-3	北側倉庫	石鏝	1.7	1.7	0.45	0.97	黒曜石		720
184	28	19	D-3	北側倉庫	石鏝	1.5	1.2	0.4	0.44	黒曜石		982
185	29	63	D-3	北側倉庫	石鏝	1.65	1.45	0.2	0.47	黒曜石		1077
184	30	17	D-3	北側倉庫	石鏝	1.8	1.55	0.3	0.57	黒曜石		1183
184	31	11	D-3	北側倉庫	石鏝	1.35	1.35	0.25	0.29	黒曜石		1227
184	32	49	D-3	北側倉庫	石鏝	1.98	1.6	0.4	1.11	黒曜石		1337
184	33	13	D-3	北側倉庫	石鏝	1.65	1.85	0.3	0.66	黒曜石		1590
184	34	57	D-3	北側倉庫	石鏝	3.55	2.6	0.4	2.22	鈉質頁岩		1300

神代 No.	調査 No.	出土 アリ	遺物	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	注記 No.	備考
184	35	15	D-N	北條岩部	石蔵	2.7	1.23	0.4	0.97	黒曜石	脚部 1/2欠損
184	36	2	D-N	北條岩部	石蔵	2.5	1.4	0.45	1.41	黒曜石	即石蔵
184	37	60	D-N	北條岩部	石蔵	1.3	1.8	0.3	0.49	安山岩	先巻部 欠損
184	38	61	D-N	北條岩部	石蔵	2.9	2.4	0.5	2.70	シルト岩	91
184	39	38	D-N	北條岩部	石蔵	1.8	1.3	0.5	0.62	黒曜石	脚部 1/2欠損
184	40	59	D-N	北條岩部	石蔵	1.4	1.4	0.25	0.34	シルト岩	脚部 1/2欠損
184	41	30	D-N	北條岩部	石蔵	1.85	1.6	0.45	0.94	チャート	脚部 1/2欠損
184	42	39	D-N	北條岩部	石蔵	3.7	1.48	0.3	0.69	黒曜石	171
184	43	26	D-N	北條岩部	石蔵	2.2	1.7	0.3	0.52	加層石	178
184	44	34	D-N	北條岩部	石蔵	1.7	1.1	0.5	0.61	黒曜石	230
184	45	30	D-N	北條岩部	石蔵	1.35	1.55	0.3	0.39	黒曜石	273
184	46	31	D-N	北條岩部	石蔵	1.3	1.0	0.25	0.27	黒曜石	337
47	D-N	北條岩部	石蔵	2.06	1.1	0.3	0.41	黒曜石	449	脚部 1/2欠損	
184	48	38	D-N	北條岩部	石蔵	2.2	1.48	0.3	0.80	黒曜石	795
184	49	36	D-N	北條岩部	石蔵	2.6	1.95	0.5	1.09	黒曜石	993
184	50	27	D-N	北條岩部	石蔵	1.8	1.4	0.4	0.53	黒曜石	999
184	51	58	D-N	北條岩部	石蔵	3.1	2.4	0.55	2.67	シルト岩	1047
184	52	33	D-N	北條岩部	石蔵	2.05	1.25	0.35	0.59	黒曜石	1078
33	D-N	北條岩部	石蔵	2.15	1.6	0.6	1.10	黒曜石	1115	未製品	
184	54	35	D-N	北條岩部	石蔵	1.7	1.0	0.3	0.39	黒曜石	1139
184	55	39	D-N	北條岩部	石蔵	1.15	1.8	0.4	0.48	黒曜石	1208
184	56	40	D-N	北條岩部	石蔵	2.2	1.1	0.5	1.04	黒曜石	1306
184	57	65	D-N	北條岩部	石蔵	1.8	1.15	0.5	0.59	黒曜石	未製品
184	58	67	D-N	北條岩部	石蔵	2.15	2.2	0.7	3.76	チャート	未製品
184	59	68	D-N	北條岩部	石蔵	1.8	2.3	0.6	2.13	チャート	未製品
184	60	51	D-V	北條岩部	石蔵	1.65	1.5	0.3	0.64	チャート	13
184	61	44	D-V	北條岩部	石蔵	1.6	1.95	0.3	0.59	黒曜石	87
184	62	53	D-V	北條岩部	石蔵	2.1	1.6	0.3	0.75	チャート	107
184	63	55	D-V	北條岩部	石蔵	1.9	1.4	0.4	0.69	チャート	153
184	64	45	D-V	北條岩部	石蔵	1.8	1.35	0.3	0.52	黒曜石	167
184	65	54	D-V	北條岩部	石蔵	2.3	2.3	0.3	1.47	チャート	184
184	66	43	D-V	北條岩部	石蔵	2.0	1.7	0.4	1.06	黒曜石	231
184	67	41	D-V	北條岩部	石蔵	1.2	1.4	0.37	0.56	黒曜石	231
184	68	42	D-V	北條岩部	石蔵	1.1	1.0	0.3	0.21	黒曜石	
184	69	32	D-V	北條岩部	石蔵	2.4	1.5	0.4	0.84	チャート	脚部 1/2欠損
184	70	66	D-V	北條岩部	石蔵	2.0	1.85	1.3	1.43	黒曜石	未製品
184	71	69	D-V	北條岩部	石蔵	2.5	2.4	0.85	4.12	チャート	未製品
185	1	73	D-V	北條岩部	ワリ	2.8	0.9	0.8	1.51	黒曜石	
185	2	74	D-V	北條岩部	ワリ	2.6	0.8	0.7	0.97	黒曜石	339
185	3	88	D-V	北條岩部	ワリ	2.65	1.5	0.8	2.95	チャート	570
185	4	75	D-V	北條岩部	ワリ	1.85	1.4	0.6	1.00	黒曜石	
185	5	76	D-V	北條岩部	ワリ	2.6	1.1	0.55	1.48	黒曜石	
185	6	94	D-N	北條岩部	ワリ	2.4	0.85	0.45	0.74	安山岩	129
185	7	93	D-N	北條岩部	ワリ	2.46	0.9	0.5	1.27	チャート	288
185	8	79	D-N	北條岩部	ワリ	2.2	2.0	0.4	1.56	黒曜石	481
185	9	77	D-N	北條岩部	ワリ	2.75	1.2	0.7	2.39	黒曜石	547
185	10	78	D-N	北條岩部	ワリ	2.0	0.55	0.4	0.36	黒曜石	1036
185	11	80	D-N	北條岩部	ワリ	2.4	1.4	0.6	1.64	出露石	
185	12	81	D-N	北條岩部	ワリ	3.3	1.8	0.65	3.39	出露石	
185	13	82	D-N	北條岩部	ワリ	2.9	2.5	0.65	3.58	出露石	
185	14	83	D-N	北條岩部	ワリ	2.7	1.1	0.8	1.95	出露石	
185	15	96	D-N	北條岩部	ワリ	3.5	1.1	0.5	1.99	出露石	115
185	16	84	D-N	北條岩部	ワリ	2.1	0.9	0.85	1.23	出露石	173

神代 No.	調査 No.	出土 アリ	遺物	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	注記 No.	備考
185	17	97	D-N	北條岩部	ワリ	3.3	1.1	0.5	1.14	頁岩	785
185	18	72	D-N	北條岩部	ワリ	2.05	1.05	0.6	1.84	黒曜石	941
185	19	71	D-N	北條岩部	ワリ	3.5	2.5	1.4	9.43	黒曜石	未製品
185	20	85	D-N	北條岩部	ワリ	2.2	0.8	0.4	0.67	黒曜石	
185	21	86	D-N	北條岩部	ワリ	2.1	0.8	0.4	0.86	黒曜石	
185	22	87	D-N	北條岩部	ワリ	1.8	0.6	0.3	0.32	黒曜石	
23	D-N	北條岩部	ワリ	2.5	2.0	0.5	1.58	黒曜石		1/2欠損	
185	1	90	D-N	北條岩部	ワリ	0.9	1.2	0.35	0.48	黒曜石	
185	2	92	D-N	北條岩部	ワリ	1.8	1.65	0.7	2.02	チャート	
185	3	99	D-N	北條岩部	ワリ	3.1	1.3	1.1	4.77	チャート	
185	4	89	D-N	北條岩部	ワリ	1.7	1.6	0.6	1.56	黒曜石	5
185	5	91	D-N	北條岩部	ワリ	1.8	1.8	0.43	1.61	黒曜石	
6	D-N	北條岩部	ワリ	1.4	1.7	0.7	1.43	水晶			
186	1	101	D-N	北條岩部	ワリ	1.55	1.6	0.4	0.94	黒曜石	1
186	2	100	D-N	北條岩部	ワリ	2.1	1.2	0.5	2.00	黒曜石	1019
186	3	103	D-N	北條岩部	ワリ	1.5	3.25	0.75	3.91	水晶	116
186	4	102	D-N	北條岩部	ワリ	2.7	1.3	0.7	2.55	黒曜石	521
186	5	106	D-N	北條岩部	ワリ	2.45	1.5	0.8	2.86	黒曜石	
186	6	105	D-N	北條岩部	ワリ	2.2	1.4	0.4	1.33	黒曜石	
184	1	1	D-V	北條岩部	チャート 石蔵	2.5	1.4	0.5	1.87	黒曜石	即石蔵
186	1	104	D-V	北條岩部	不明	1.65	2.1	0.25	1.56	黒曜石	使用済
神代 No.	調査 No.	出土 アリ	遺物	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	注記 No.	備考
99	1	1	B-2	2位	黒長石	3	1.5	0.45	1.45	出露石	205
100	2	1	B-2	2位	石	2.1	2.6	0.9	3.30	チャート	312
100	3	2	B-2	2位	石	3.1	5.6	0.9	12.03	頁岩	
100	4	3	B-4	3位	石	(1.8)	(4.4)	(3.1)	6.43	チャート	つまみ部 欠損
100	5	5	C-3	4位	石	3.0	4.8	1.1	16.24	チャート	
100	6	6	C-3	4位	石	4.2	(5.6)	0.9	16.78	泥岩	918
100	7	4	-	4位	石	3.4	3.8	0.7	6.53	チャート	1022
100	8	7	-	5位	石	3.9	6.6	0.6	12.75	チャート	115
100	9	8	-	5位	石	(1.9)	(3.0)	(6.3)	1.68	チャート	15
99	10	2	B-6	7位	黒長石	3.7	1.2	0.6	3.60	黒曜石	
99	11	3	B-6	7位	黒長石	4.0	1.6	0.7	4.02	頁岩	681
100	12	11	B-6	7位	石	2.7	6.5	1.0	12.46	頁岩	878
100	13	12	B-7	7位	石	3.9	(4.0)	0.6	7.20	頁岩	830
100	14	13	C-6	8位	石	1.4	2.6	0.6	1.06	チャート	606
100	15	17	B-18	26位	石	5.1	8.9	1.0	35	かんフューズ	847
100	16	18	A-N	北條岩部	石	(1.8)	5.4	0.9	6.44	黒曜石	つまみ部 欠損
100	17	9	B-6	過剰外	石	2.9	3.5	0.8	5.74	チャート	782
100	18	10	C-5	過剰外	石	2.9	4.5	0.7	10.44	チャート	171
100	19	14	C-4	過剰外	石	2.7	(3.3)	0.6	5.43	チャート	18
100	20	15	C-4	過剰外	石	2.2	2.8	0.9	3.89	チャート	
100	21	16	C-4	過剰外	石	(2.3)	(5.2)	1.0	13.16	チャート	つまみ部 欠損
99	22	4	B-7	2位	黒長石	3.3	1.9	0.7	3.51	黒曜石	
100	23	19	B-7	2位	石	4.1	5.0	0.6	13.79	かんフューズ	
101	24	21	B-7	2位	石	(2.0)	(3.1)	0.8	7.15	チャート	一巻欠損
101	25	20	B-8	2位	石	1.9	3.1	0.5	1.53	黒曜石	
101	26	22	B-13	3位	石	3.0	4.9	0.8	6.12	頁岩	30
101	27	23	-	3位	石	2.2	4.0	0.5	4.35	チャート	
101	28	24	-	3位	石	5.1	(4.3)	1.2	19.60	頁岩	17
神代 No.	調査 No.	出土 アリ	遺物	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	注記 No.	備考
186	1	116	C-N	北條岩部	石	2.2	2.4	1.0	5.23	黒曜石	154
186	2	117	C-N	北條岩部	石	2.7	1.6	0.4	4.36	頁岩	
186	3	107	D-N	北條岩部	黒長石	4.4	1.8	0.5	3.74	チャート	1202
186	4	118	D-N	北條岩部	石	3.5	3.9	0.7	11.96	頁岩	292
186	5	119	D-N	北條岩部	石	2.9	2.5	0.7	5.8	シルト岩	1310
186	6	120	D-N	北條岩部	石	4.9	4.9	1.15	25.96	粘板岩	718
186	7	109	D-N	北條岩部	石	2.75	3.95	0.7	5.47	安山岩	286

時期	種類	地区	用途	形状	長さ	幅	高さ	石種	注記	備考	時期	種類	地区	用途	形状	長さ	幅	高さ	石種	注記	備考		
No.	No.	No.			(cm)	(cm)	(cm)		No.		No.	No.	No.		(cm)	(cm)	(cm)		No.				
186	8	110	D-Ⅱ	北東谷砂	石灰	2.5	3.4	0.6	2.76	チャート	1483	-	84	C-6	7住	打穿	9.5	4.3	1.0	44	安山岩	440	
186	9	111	D-Ⅱ	北東谷砂	石灰	3.25	4.6	0.6	6.25	頁岩	820	-	85	C-6	7住	打穿	12.1	5.0	2.1	118	軟砂岩	440	
186	10	112	D-Ⅱ	北東谷砂	石灰	2.6	4.6	0.8	8.87	頁岩	627	102	96	20	C-6	7住	打穿	10.1	3.8	0.5	39	軟砂岩	446
186	11	113	D-Ⅱ	北東谷砂	石灰	3.1	3.9	0.6	7.30	頁岩	236	101	97	48	C-6	7住	打穿	6.1	4.5	1.5	53	軟砂岩	453
186	12	114	D-Ⅱ	北東谷砂	石灰	1.8	4.5	0.5	2.65	チャート		-	88	C-6	7住	打穿	5.1	5.3	1.3	44	軟砂岩	460	
186	13	115	D-Ⅱ	北東谷砂	石灰	1.3	3.30	0.4	0.94	チャート		109	69	44	-	7住	打穿	8.3	3.6	0.9	32	軟砂岩	460
186	14	108	D-Ⅱ	北東谷砂	石灰	3.65	3.2	0.6	5.85	黒曜岩	213	103	78	34	-	7住	打穿	9.7	4.7	1.8	109	軟砂岩	460
186	15	121	D-Ⅱ	北東谷砂	石灰	2.15	6.65	0.3	11.74	頁岩	435	-	71	-	7住	打穿	12.6	4.7	0.9	71	軟砂岩	460	
												102	72	27	-	7住	打穿	8.7	4.9	1.5	79	軟砂岩	460
												102	73	18	-	7住	打穿	16.0	4.0	1.9	116	軟砂岩	460
												102	74	33	-	7住	打穿	10.0	4.2	1.9	119	軟砂岩	460
												102	75	17	-	7住	打穿	15.3	5.2	2.1	187	軟砂岩	460
												-	76	-	7住	打穿	7.7	5.6	1.1	58	軟砂岩	460	
												-	77	-	7住	打穿	8.2	3.7	0.5	29	軟砂岩	460	
												-	78	-	7住	打穿	11.1	4.8	1.1	62	軟砂岩	460	
												-	79	-	7住	打穿	7.7	6.5	1.0	78	軟砂岩	460	
												103	80	32	-	7住	打穿	12.3	6.0	1.6	131	軟砂岩	460
												-	81	-	8住	打穿	10.8	4.4	1.2	58	軟砂岩	460	
												-	82	-	8住	打穿	8.8	5.9	1.3	108	軟砂岩	460	
												103	83	42	B-6	7-8住	打穿	10.2	4.1	1.6	82	軟砂岩	460
												103	84	41	B-6	7-8住	打穿	11.4	5.0	1.2	88	軟砂岩	460
												-	85	-	8住	打穿	8.1	6.0	1.6	90	軟砂岩	460	
												103	86	49	B-6	7-8住	打穿	7.4	4.5	0.8	40	軟砂岩	460
												-	87	-	8住	打穿	7.8	4.2	1.2	40	軟砂岩	460	
												-	88	-	8住	打穿	7.9	5.4	1.5	80	軟砂岩	460	
												-	89	-	8住	打穿	5.8	3.4	1.9	65	軟砂岩	460	
												-	90	-	8住	打穿	10.0	6.0	2.1	135	軟砂岩	460	
												-	91	-	8住	打穿	8.8	5.0	1.3	65	軟砂岩	460	
												-	92	-	8住	打穿	7.0	4.9	1.1	54	軟砂岩	460	
												-	93	-	8住	打穿	12.9	5.7	1.2	123	頁岩	461	
												-	94	-	8住	打穿	8.5	5.5	0.8	62	軟砂岩	468	
												-	95	-	8住	打穿	7.9	5.0	0.9	44	軟砂岩	471	
												-	96	-	8住	打穿	7.5	4.5	0.9	41	軟砂岩	472	
												-	97	-	8住	打穿	6.5	6.6	1.5	136	軟砂岩	460	
												-	98	-	8住	打穿	10.4	5.0	0.9	71	軟砂岩	460	
												-	99	-	8住	打穿	11.2	4.7	1.6	97	軟砂岩	460	
												-	100	-	8住	打穿	8.2	4.9	1.3	69	軟砂岩	460	
												-	101	-	8住	打穿	8.8	4.5	1.2	59	軟砂岩	460	
												-	102	-	8住	打穿	12.5	4.5	1.2	78	軟砂岩	460	
												-	103	-	8住	打穿	10.0	5.6	1.8	119	軟砂岩	460	
												-	104	-	8住	打穿	10.8	5.1	1.1	82	軟砂岩	460	
												103	105	55	C-8	8住	打穿	12.8	5.1	1.7	130	軟砂岩	460
												-	106	-	8住	打穿	8.5	5.7	1.8	128	軟砂岩	460	
												-	107	-	8住	打穿	6.3	5.5	1.1	59	軟砂岩	460	
												-	108	-	8住	打穿	9.8	4.7	1.3	73	軟砂岩	460	
												-	109	-	8住	打穿	8.0	3.8	0.8	39	軟砂岩	460	
												-	110	-	8住	打穿	10.4	6.0	1.2	88	軟砂岩	460	
												-	111	-	8住	打穿	9.0	5.7	1.4	89	軟砂岩	460	
												-	112	-	8住	打穿	11.0	5.0	1.3	93	軟砂岩	460	
												103	113	54	C-8	8住	打穿	13.2	7.5	1.3	139	軟砂岩	460
												-	114	-	8住	打穿	9.5	5.5	1.3	99	軟砂岩	460	
												103	115	53	C-8	8住	打穿	11.6	4.9	1.2	98	軟砂岩	460
												-	116	-	8住	打穿	9.0	6.2	1.3	101	軟砂岩	460	
												103	117	47	C-8	8住	打穿	10.3	5.0	1.1	74	軟砂岩	460
												-	118	-	8住	打穿	10.0	4.5	1.5	71	軟砂岩	460	
												103	119	38	C-8	8住	打穿	11.9	4.7	1.4	104	軟砂岩	460
												-	120	-	8住	打穿	8.8	4.5	1.6	80	軟砂岩	460	
												-	121	-	8住	打穿	9.5	4.4	1.7	72	軟砂岩	460	
												103	122	46	C-8	8住	打穿	10.3	3.9	1.2	57	軟砂岩	460
												-	123	-	8住	打穿	11.0	4.7	1.6	110	軟砂岩	460	
												103	124	56	C-8	8住	打穿	10.6	4.9	1.5	96	軟砂岩	460
												-	125	-	8住	打穿	6.6	6.4	1.2	96	軟砂岩	460	
												-	126	-	8住	打穿	3.5	4.7	0.7	21	軟砂岩	460	
												-	127	-	8住	打穿	5.4	6.2	1.3	62	軟砂岩	460	
												-	128	-	8住	打穿	11.7	4.5	2.1	158	軟砂岩	460	
												-	129	-	8住	打穿	7.1	2.8	0.9	15	軟砂岩	460	
												-	130	-	8住	打穿	12.9	5.3	1.2	107	軟砂岩	460	
												103	131	43	C-7	8住	打穿	10.0	4.3	1.2	78	軟砂岩	460
												-	132	-	8住	打穿	8.0	4.7	1.3	78	軟砂岩	460	
												-	133	-	8住	打穿	9.4	4.9	1.5	83	頁岩	460	
												-	134	-	8住	打穿	6.6	5.2	1.3	37	軟砂岩	460	
												104	135	59	A-4	9住	打穿	12.4	4.5	1	81	軟砂岩	460
												-	136	-	8住	打穿	10.9	5.2	2.4	153	軟砂岩	460	
												-	137	-	8住	打穿	9.0	5.5	0.9	56	軟砂岩	460	

種類 No.	番号	区画 No.	土出 グロット	遺構	階層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	高さ (cm)	石材	注記 No.	備考		
-	138	B-4	13位	打穿	7.7	4.5	1.1	46	ホコシラ	2				
-	139	A-5	15位	打穿	10.7	4.4	1.0	56	ホコシラ	5.4				
-	140	B-19	19位	打穿	17.4	11.5	4.5	107	ホコシラ	235				
-	141	A-18	26位	打穿	7.9	6.3	1.2	77	粘板岩	148				
-	142	A-18	26位	打穿	10.4	5.8	1.4	94	ホコシラ	149				
104	143	66	A-18	26位	打穿	13.9	4.9	1.6	119	ホコシラ	152			
-	144	A-18	26位	打穿	8.2	5.3	0.9	33	ホコシラ	169				
-	145	A-18	26位	打穿	10.5	5.0	1.1	84	ホコシラ	173				
104	146	67	A-18	26位	打穿	12.4	5.2	1.5	116	ホコシラ	262			
104	147	66	A-18	26位	打穿	11.2	5.5	0.9	76	ホコシラ	317			
-	148	B-18	26位	打穿	12.7	5.7	2.0	174	ホコシラ	92				
-	149	B-18	26位	打穿	11.6	6.3	1.9	154	ホコシラ	227				
-	150	B-18	26位	打穿	9.0	5.1	1.3	77	粘板岩	294				
104	151	68	B-18	26位	打穿	9.6	4.5	1.7	106	ホコシラ	354			
-	152	B-18	26位	打穿	12.4	8.0	1.5	109	粘板岩	380				
-	153	B-18	26位	打穿	8.5	5.0	2.2	118	ホコシラ	378				
-	154	B-18	26位	打穿	10.9	5.4	3.3	265	ホコシラ	675				
-	155	B-18	26位	打穿	11.2	6.7	2.0	191	ホコシラ	699				
-	156	B-18	26位	打穿	12.0	6.5	2.7	211	ホコシラ	791				
-	157	B-18	26位	打穿	10.3	6.0	1.3	117	ホコシラ	854				
-	158	B-18	26位	打穿	10.7	5.1	1.4	103	ホコシラ	864				
-	159	B-18	26位	打穿	14.5	5.7	1.8	176	ホコシラ	941				
-	160	B-19	26位	打穿	5.3	6.8	0.5	23	ホコシラ	112				
104	161	63	B-19	26位	打穿	9.7	4.8	1.6	92	ホコシラ	197			
104	162	68	B-19	26位	打穿	10.4	4.3	1.7	85	ホコシラ				
-	163	B-31	31位	打穿	11.4	4.8	2.7	165	ホコシラ	37				
-	164	B-6	7	1層	10.7	5.7	1.6	106	ホコシラ					
-	165	A-7	2層	打穿	9.5	4.0	0.7	41	ホコシラ					
-	166	A-7	2層	打穿	7.7	4.5	1.4	62	ホコシラ					
-	167	A-7	2層	打穿	11.0	4.8	0.9	96	ホコシラ					
-	168	A-7	2層	打穿	9.3	3.5	1.0	40	ホコシラ					
-	169	B-7	2層	打穿	10.7	7.3	1.7	159	頁岩	1				
-	170	B-7	2層	打穿	12.2	4.2	0.7	52	ホコシラ	3				
-	171	B-7	2層	打穿	11.0	6.0	1.8	144	ホコシラ	10				
-	172	B-7	2層	打穿	12.9	5.6	1.3	139	頁岩	11				
-	173	B-7	2層	打穿	9.5	4.9	1.2	85	頁岩					
-	174	B-7	2層	打穿	12.0	5.5	1.5	121	粘板岩					
-	175	B-7	2層	打穿	6.0	5.6	1.1	45	粘板岩					
-	176	B-7	2層	打穿	9.8	4.5	1.3	65	ホコシラ					
-	177	B-7	2層	打穿	12.7	5.2	1.4	134	ホコシラ					
-	178	B-7	2層	打穿	5.2	4.8	0.7	20	ホコシラ					
-	179	B-7	2層	打穿	12.6	5.6	1.4	122	ホコシラ					
-	180	B-7	2層	打穿	8.6	4.5	1.4	79	ホコシラ					
-	181	B-7	2層	打穿	5.0	4.4	1.1	34	ホコシラ					
-	182	B-7	2層	打穿	7.4	3.3	0.8	37	ホコシラ					
-	183	B-7	2層	打穿	9.0	3.7	1.3	42	ホコシラ					
-	184	B-7	2層	打穿	6.5	3.6	0.8	28	ホコシラ					
-	185	B-7	2層	打穿	9.0	3.5	1.0	45	ホコシラ					
-	186	B-7	2層	打穿	9.2	5.8	1.3	89	ホコシラ					
-	187	C-8	2層	打穿	10.2	4.2	1.0	56	粘板岩	1				
-	188	C-7	2層	打穿	12.3	5.4	1.4	137	頁岩	19				
-	189	C-7	2層	打穿	7.2	3.6	0.8	26	頁岩	43				
-	190	C-7	2層	打穿	8.8	5.9	0.9	57	粘板岩	51				
-	191	C-8	2層	打穿	11.0	5.7	1.8	137	ホコシラ	76				
-	192	C-8	2層	打穿	4.4	3.1	0.4	7	ホコシラ	89				
-	193	A-12	3層	打穿	8.1	5.0	1.4	80	ホコシラ	38				
-	194	A-12	3層	打穿	7.4	3.3	0.8	27	頁岩	86				
-	195	A-12	3層	打穿	5.6	5.3	0.8	31	粘板岩	92				
-	196	A-12	3層	打穿	8.7	5.9	1.3	78	ホコシラ	19				
-	197	A-12	3層	打穿	6.7	4.0	1.0	42	ホコシラ	27				
-	198	B-10	3層	打穿	12.3	3.3	0.8	42	ホコシラ	1				
-	199	B-11	3層	打穿	6.0	5.1	1.4	56	ホコシラ	154				
-	200	B-12	3層	打穿	7.6	4.0	1.1	39	ホコシラ	22				
-	201	B-29	3層	打穿	11.2	4.9	1.3	91	ホコシラ	10				
-	202	B-19	4層	打穿	9.7	6.1	2.8	73	ホコシラ	5				
-	203	B-19	4層	打穿	11.7	4.5	0.8	126	ホコシラ	6				
-	204	B-19	4層	打穿	13.1	8.7	1.5	273	ホコシラ	64				
-	205	C-17	4層	打穿	5.7	5.3	1.0	36	粘板岩	83				
-	206	C-17	4層	打穿	3.5	5.3	0.6	18	粘板岩	85				
-	207	C-17	4層	打穿	11.9	6.3	1.2	113	ホコシラ	97				
-	208	C-17	4層	打穿	10.9	4.3	1.5	78	ホコシラ	126				
-	209	C-18	4層	打穿	7.5	4.0	0.9	34	ホコシラ	53				
-	210	C-20	4層	打穿	10.0	5.6	2.4	187	頁岩	142				
-	211	C-21	4層	打穿	11.5	6.5	1.2	112	ホコシラ	84				
-	212	C-37	5層	打穿	5.8	2.6	0.6	13	ホコシラ	84				
-	213	C-37	5層	打穿	11.4	5.7	1.15	66	ホコシラ	87				
-	214	B-41	7層	打穿	7.3	5.4	1.0	52	ホコシラ	7				
-	215	A-42	8層	打穿	11.2	5.0	1.7	110	ホコシラ	5				
-	216	B-4	2層	打穿	13.0	5.5	1.0	93	ホコシラ	2				
104	217	76	B-5	遺構外	8.7	5.8	1.5	171	ホコシラ	492				
104	218	70	B-5	遺構外	11.5	6.7	2.1	173	ホコシラ	509				
-	219	B-5	遺構外	打穿	5.7	4.9	1.1	36	ホコシラ	520				
104	220	72	B-5	遺構外	10.4	5.5	1.4	188	ホコシラ	635				
-	221	B-5	遺構外	打穿	9.5	4.4	2.1	87	ホコシラ	626				
-	222	B-5	遺構外	打穿	11.0	5.3	2.0	157	ホコシラ	632				
104	223	73	B-5	遺構外	9.4	3.5	0.9	36	ホコシラ	657				
-	224	B-5	遺構外	打穿	11.1	4.5	2.1	143	ホコシラ	763				
104	225	79	B-5	遺構外	5.8	2.7	0.6	11	ホコシラ					
104	226	78	B-5	遺構外	6.2	2.5	0.5	11	ホコシラ					
104	227	77	B-5	遺構外	6.6	5.5	1	56	ホコシラ					
104	228	76	B-5	遺構外	11.4	7	1.9	150	ホコシラ					
104	229	75	B-5	遺構外	8.5	5.9	1.2	99	ホコシラ					
-	230	B-5	遺構外	打穿	12.0	5.3	1.4	112	ホコシラ					
-	231	B-6	6層	遺構外	打穿	12.4	4.3	1.0	61	粘板岩				
-	232	B-8	8層	遺構外	打穿	11.0	5.1	0.9	79	頁岩	4			
-	233	B-8	8層	遺構外	打穿	12.1	4.4	1.1	56	ホコシラ	65			
-	234	B-30	30層	遺構外	打穿	6.3	5.0	0.8	46	粘板岩	5			
-	235	B-44	44層	遺構外	打穿	11.0	4.8	1.4	102	頁岩				
-	236	C-4	4層	遺構外	打穿	8.9	4.1	1.2	48	粘板岩	2			
104	237	62	C-4	4層	遺構外	11.6	3.4	2.0	287	頁岩	3			
-	238	C-4	4層	遺構外	打穿	7.3	3.2	0.9	22	砂岩	5			
103	239	52	C-4	4層	遺構外	12.0	4.2	2.2	133	ホコシラ	13			
-	240	C-4	4層	遺構外	打穿	8.4	4.2	1.0	38	ホコシラ	19			
-	241	C-4	4層	遺構外	打穿	5.8	4.3	1.4	42	粘板岩	22			
-	242	C-4	4層	遺構外	打穿	7.6	5.0	1.4	72	粘板岩	22			
104	243	60	C-4	4層	遺構外	10.8	5	1.3	76	ホコシラ	22			
104	244	61	C-4	4層	遺構外	7.4	3.8	1.2	42	ホコシラ	5			
-	245	C-5	5層	遺構外	打穿	12.8	6.2	1.7	156	頁岩	26			
-	246	71	C-5	5層	遺構外	打穿	10.5	4.5	1.2	86	ホコシラ	30		
-	247	74	C-5	5層	遺構外	打穿	7.3	4.9	1.5	87	ホコシラ	477		
-	248	69	D-6	6層	遺構外	11.5	4.6	1.1	113	ホコシラ	740			
-	249	A-1	北東谷部	打穿	14.3	5.4	1.9	170	ホコシラ	7				
-	250	A-1	北東谷部	打穿	9.5	5.3	1.5	99	ホコシラ	14				
-	251	A-1	北東谷部	打穿	10.2	4.7	1.6	110	ホコシラ	21				
-	252	A-1	北東谷部	打穿	10.3	4.4	1.3	95	ホコシラ					
-	253	A-1	北東谷部	打穿	6.9	4.1	0.9	31	ホコシラ					
-	254	A-3	北東谷部	打穿	12.5	5.0	2.4	166	ホコシラ					
-	255	A-4	北東谷部	打穿	10.8	5.0	1.1	75	ホコシラ					
-	256	A-4	北東谷部	打穿	7.5	4.5	1.7	70	ホコシラ	115				
-	257	A-4	北東谷部	打穿	14.9	6.9	2.2	230	ホコシラ	148				
-	258	A-4	北東谷部	打穿	12.5	6.9	1.7	148	ホコシラ	169				
-	259	A-4	北東谷部	打穿	11.2	6.4	1.5	142	粘板岩	201				
-	260	A-4	北東谷部	打穿	10.8	7.7	1.8	213	ホコシラ	327				
-	261	A-4	北東谷部	打穿	5.9	4.5	0.8	31	ホコシラ					
-	262	A-4	北東谷部	打穿	5.7	4.5	0.8	31	ホコシラ					
-	263	A-4	北東谷部	打穿	11.7	6.5	1.3	133	ホコシラ	7				
-	264	A-4												

Table with columns: 申請No., 国庫No., 出上グループ, 道標, 器種, 長さ(m), 幅(m), 厚さ(m), 高さ(m), 石材, 注記No., 商号. Rows include various construction projects such as '北軽谷部 打穿' and '北軽谷部 打穿' with associated measurements and materials.

Table with columns: 申請No., 国庫No., 出上グループ, 道標, 器種, 長さ(m), 幅(m), 厚さ(m), 高さ(m), 石材, 注記No., 商号. Rows include various construction projects such as '北軽谷部 打穿' and '北軽谷部 打穿' with associated measurements and materials.

昭和年度

神測 No.	香号	関係 No.	出土 グラフ	遺構	階級	長さ (m)	幅 (cm)	厚さ (cm)	高さ (g)	石材	記記 No.	備考
-	1	-	C-1	北側倉庫	打穿	3.5	3.3	0.4	9.0	頁岩		
187	2	2	C-2	北側倉庫	打穿	12.6	6.0	1.3	128.0	砂岩・セメント	1	
187	3	3	C-2	北側倉庫	打穿	10.3	4.5	1.4	90.0	砂岩・セメント	13	
-	4	-	C-2	北側倉庫	打穿	10.8	4.5	1.9	130.0	砂岩・セメント	87	
187	5	23	C-3	北側倉庫	打穿	16.4	4.6	1.6	133.0	砂岩・セメント	117	
-	6	-	C-2	北側倉庫	打穿	5.0	4.2	0.6	22.0	砂岩・セメント	121	
-	7	-	C-2	北側倉庫	打穿	5.5	4.5	1.0	45.0	砂岩・セメント	125	
-	8	-	C-3	北側倉庫	打穿	4.5	5.5	1.5	43.0	砂岩・セメント	138	
-	9	-	C-2	北側倉庫	打穿	6.2	4.5	1.1	43.0	頁岩	229	
-	10	-	C-2	北側倉庫	打穿	10.0	3.1	1.1	61.0	砂岩・セメント		
187	11	5	C-3	北側倉庫	打穿	12.4	5.0	1.6	133.0	砂岩・セメント	28	
187	12	4	C-3	北側倉庫	打穿	5.8	5.7	1.7	112.0	砂岩・セメント	36	
-	13	-	D-1	北側倉庫	打穿	13.7	5.5	1.2	110.0	砂岩・セメント	67	
-	14	-	D-1	北側倉庫	打穿	6.2	4.6	1.0	45.0	砂岩・セメント	91	
-	15	-	D-1	北側倉庫	打穿	8.9	5.2	1.4	96.0	砂岩・セメント	107	
-	16	-	D-1	北側倉庫	打穿	11.0	4.8	1.0	61.0	砂岩・セメント	155	
187	17	6	D-1	北側倉庫	打穿	9.0	4.0	1.4	70.0	砂岩・セメント	158	
-	18	-	D-1	北側倉庫	打穿	7.0	5.0	0.7	39.0	砂岩・セメント	169	
-	19	-	D-1	北側倉庫	打穿	8.7	4.0	1.7	55.0	砂岩・セメント	195	
-	20	-	D-1	北側倉庫	打穿	7.4	4.3	0.8	38.0	砂岩・セメント		
-	21	-	D-1	北側倉庫	打穿	6.5	6.0	0.8	49.0	砂岩・セメント		
-	22	-	D-1	北側倉庫	打穿	5.5	5.2	1.3	47.0	砂岩・セメント		
-	23	-	D-1	北側倉庫	打穿	14.0	4.5	1.7	113.0	砂岩・セメント	15	
-	24	-	D-2	北側倉庫	打穿	13.8	5.5	1.3	70.0	砂岩・セメント	47	
187	25	7	D-3	北側倉庫	打穿	10.9	5.4	1.4	89.0	砂岩・セメント	60	
-	26	-	D-3	北側倉庫	打穿	8.5	3.4	0.9	31.0	砂岩・セメント	92	
-	27	-	D-3	北側倉庫	打穿	4.1	6.5	0.7	38.0	砂岩・セメント	103	
-	28	-	D-3	北側倉庫	打穿	8.1	4.4	0.7	48.0	砂岩・セメント	121	
-	29	-	D-3	北側倉庫	打穿	6.6	4.5	0.8	39.0	頁岩	186	
-	30	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.5	3.0	1.2	46.0	砂岩・セメント	197	
-	31	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.3	2.3	1.1	48.0	砂岩・セメント	229	
-	32	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.9	4.0	0.6	30.0	砂岩・セメント	230	
-	33	-	D-3	北側倉庫	打穿	6.7	4.5	1.7	57.0	砂岩・セメント	249	
187	34	8	D-3	北側倉庫	打穿	11.7	5.0	2.4	151.0	砂岩・セメント	264	
-	35	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.8	4.5	0.6	35.0	砂岩・セメント	281	
187	36	1	D-3	北側倉庫	打穿	18.7	12.3	3.5	200.0	砂岩・セメント	283	
-	37	-	D-3	北側倉庫	打穿	13.0	5.4	1.1	118.0	砂岩・セメント	219	
-	38	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.5	5.2	1.0	57.0	砂岩・セメント	304	
-	39	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.3	5.5	1.2	89.0	砂岩・セメント	343	
-	40	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.4	5.0	1.2	63.0	砂岩・セメント	344	
-	41	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.2	6.5	1.8	166.0	砂岩・セメント	347	
-	42	-	D-3	北側倉庫	打穿	10.0	4.8	0.8	61.0	砂岩・セメント	365	
-	43	-	D-3	北側倉庫	打穿	11.1	4.8	1.1	78.0	砂岩・セメント	396	
-	44	-	D-3	北側倉庫	打穿	12.8	5.5	1.2	98.0	頁岩	396	
-	45	-	D-3	北側倉庫	打穿	8.8	8.5	1.7	194.0	砂岩・セメント	399	
-	46	-	D-3	北側倉庫	打穿	11.3	5.0	1.6	135.0	砂岩・セメント	607	
-	47	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.8	4.5	1.1	52.0	砂岩・セメント	609	
-	48	-	D-3	北側倉庫	打穿	5.0	3.8	0.6	22.0	凝灰岩		
-	49	-	D-3	北側倉庫	打穿	5.5	5.3	0.9	49.0	砂岩・セメント		
-	50	-	D-3	北側倉庫	打穿	5.5	4.5	0.7	36.0	砂岩・セメント		
-	51	-	D-3	北側倉庫	打穿	5.5	4.0	1.2	41.0	砂岩・セメント		
-	52	-	D-3	北側倉庫	打穿	6.8	4.5	1.7	64.0	砂岩・セメント		
-	53	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.8	5.2	1.1	77.0	砂岩・セメント	4	
-	54	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.5	5.2	0.9	61.0	砂岩・セメント	62	
-	55	-	D-3	北側倉庫	打穿	8.8	5.6	1.4	102.0	砂岩・セメント	71	
-	56	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.2	3.4	1.3	48.0	砂岩・セメント	108	
-	57	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.5	8.5	1.3	133.0	砂岩・セメント	160	
-	58	-	D-3	北側倉庫	打穿	6.2	5.1	1.2	72.0	砂岩・セメント	182	
-	59	-	D-3	北側倉庫	打穿	6.0	4.0	0.9	33.0	砂岩・セメント	226	
-	60	-	D-3	北側倉庫	打穿	12.5	5.9	1.7	131.0	砂岩・セメント	282	
-	61	-	D-3	北側倉庫	打穿	2.9	2.6	0.6	8.0	砂岩・セメント	388	
190	62	8	D-3	北側倉庫	打穿	9.7	6.8	1.2	102.0	砂岩・セメント	840	
-	63	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.3	4.2	1.7	44.0	砂岩・セメント	891	
-	64	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.4	3.1	0.7	21.0	砂岩・セメント	546	
-	65	-	D-3	北側倉庫	打穿	12.7	4.9	0.9	82.0	砂岩・セメント	394	
-	66	-	D-3	北側倉庫	打穿	3.2	1.6	0.7	5.0	頁岩	619	
-	67	-	D-3	北側倉庫	打穿	10.0	5.2	1.9	73.0	砂岩・セメント	727	
-	68	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.0	4.3	1.5	78.0	砂岩・セメント	792	
-	69	-	D-3	北側倉庫	打穿	10.3	4.2	1.2	60.0	砂岩・セメント	875	
-	70	-	D-3	北側倉庫	打穿	10.1	5.5	1.0	52.0	砂岩・セメント	982	
187	72	9	D-3	北側倉庫	打穿	10.5	6.3	1.3	91.0	砂岩・セメント	967	
-	73	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.5	6.3	1.1	66.0	砂岩・セメント	999	
-	74	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.6	6.5	1.6	116.0	砂岩・セメント	1007	
-	75	-	D-3	北側倉庫	打穿	11.5	3.8	1.3	69.0	砂岩・セメント	1179	ビ
-	76	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.5	4.3	1.4	87.0	砂岩・セメント	1227	
-	77	-	D-3	北側倉庫	打穿	12.0	3.2	1.0	67.0	砂岩・セメント	1314	
-	78	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.5	6.6	1.0	74.0	砂岩・セメント	1315	
187	79	10	D-3	北側倉庫	打穿	8.5	3.0	0.6	17.0	砂岩・セメント	1361	
-	80	-	D-3	北側倉庫	打穿	10.0	5.4	1.3	96.0	砂岩・セメント	1370	
-	81	-	D-3	北側倉庫	打穿	11.0	6.0	1.3	93.0	砂岩・セメント	1371	
-	82	-	D-3	北側倉庫	打穿	5.3	3.4	0.6	15.0	砂岩・セメント	1455	
-	83	-	D-3	北側倉庫	打穿	11.7	3.5	0.9	45.0	砂岩・セメント		
-	84	-	D-3	北側倉庫	打穿	6.3	3.4	0.9	30.0	砂岩・セメント		
-	85	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.0	4.6	1.5	71.0	砂岩・セメント		
-	86	-	D-3	北側倉庫	打穿	4.2	3.5	0.9	16.0	砂岩・セメント		
-	87	-	D-3	北側倉庫	打穿	4.5	5.5	0.6	24.0	砂岩・セメント		
-	88	-	D-3	北側倉庫	打穿	4.9	3.8	1.2	33.0	砂岩・セメント		57
-	89	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.4	4.8	1.1	50.0	砂岩・セメント		100
187	90	14	D-3	北側倉庫	打穿	13.0	5.4	1.2	131.0	砂岩・セメント	181	
-	91	-	D-3	北側倉庫	打穿	11.5	5.6	1.2	95.0	砂岩・セメント		208
-	92	-	D-3	北側倉庫	打穿	5.5	4.2	1.5	72.0	砂岩・セメント	192	
-	93	-	D-3	北側倉庫	打穿	5.6	1.8	0.5	9.0	砂岩・セメント	226	
187	94	11	D-3	北側倉庫	打穿	10.0	4.7	1.2	76.0	砂岩・セメント	245	
-	95	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.2	4.8	0.6	28.0	凝灰岩	257	
187	96	12	D-3	北側倉庫	打穿	8.9	5.4	2.0	108.0	砂岩・セメント	261	
-	97	-	D-3	北側倉庫	打穿	8.2	4.0	1.4	65.0	砂岩・セメント	270	
-	98	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.8	5.0	1.1	48.0	砂岩・セメント	300	
-	99	-	D-3	北側倉庫	打穿	8.0	5.5	1.1	75.0	砂岩・セメント	340	
-	100	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.8	5.0	1.3	83.0	砂岩・セメント	461	
-	101	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.8	7.8	1.7	196.0	砂岩・セメント	413	
187	102	16	D-3	北側倉庫	打穿	11.0	5.9	2.0	159.0	砂岩・セメント	486	
-	103	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.2	3.4	0.5	13.0	砂岩・セメント	496	
-	104	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.0	4.3	1.3	67.0	砂岩・セメント	507	
-	105	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.8	8.2	1.3	73.0	頁岩	518	
-	106	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.2	4.5	1.1	78.0	砂岩・セメント	538	
-	107	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.7	5.2	1.6	133.0	砂岩・セメント	557	
-	108	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.6	3.3	0.9	29.0	砂岩・セメント	368	
-	109	-	D-3	北側倉庫	打穿	10.0	4.2	0.9	56.0	砂岩・セメント	368	
-	110	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.5	6.0	1.7	165.0	砂岩・セメント	578	
187	111	15	D-3	北側倉庫	打穿	13.0	5.7	1.6	132.0	砂岩・セメント	593	
-	112	-	D-3	北側倉庫	打穿	10.0	4.5	1.1	79.0	砂岩・セメント	625	
-	113	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.6	5.2	1.2	69.0	砂岩・セメント	633	
-	114	-	D-3	北側倉庫	打穿	11.4	5.0	1.4	28.0	砂岩・セメント	642	
187	115	17	D-3	北側倉庫	打穿	10.3	3.6	0.6	42.0	凝灰岩	655	
-	116	-	D-3	北側倉庫	打穿	5.6	2.5	0.4	9.0	砂岩・セメント	681	
-	117	-	D-3	北側倉庫	打穿	8.5	4.6	0.5	31.0	砂岩・セメント	697	
-	118	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.3	4.3	1.1	43.0	砂岩・セメント	703	
-	119	-	D-3	北側倉庫	打穿	7.0	3.8	0.9	35.0	砂岩・セメント	702	
-	120	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.7	5.0	1.0	67.0	砂岩・セメント	806	
-	121	-	D-3	北側倉庫	打穿	9.5	5.0	1.2	87.0	砂岩・セメント	825	
187	122	18	D-3	北側倉庫	打穿	10.8	5.0	1.0	70.0	砂岩・セメント	842	
-	123</											

押形 No.	図面 No.	土台 グラウト	造層	部材	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (kg)	石材	注記 No.	備考	
- 148	-	D-V	北照谷部	打穿	9.0	3.8	1.5	72.0	ホソシユメス	260		
- 149	-	D-V	北照谷部	打穿	10.2	4.5	0.7	51.0	ホソシユメス	260		
187	150	21	D-V	北照谷部	打穿	13.3	6.0	2.1	106.0	ホソシユメス	307	
- 151	-	D-V	北照谷部	打穿	9.0	4.2	0.9	53.0	ホソシユメス	324		
- 152	-	D-V	北照谷部	打穿	11.5	5.0	1.0	87.0	扇状岩	326		
187	153	22	D-V	北照谷部	打穿	12.0	6.3	2.2	171.0	ホソシユメス	332	
- 154	-	D-V	北照谷部	打穿	11.0	6.3	1.2	89.0	ホソシユメス	349		
- 155	-	D-V	北照谷部	打穿	6.5	4.5	1.0	67.0	ホソシユメス	361		
- 156	-	D-V	北照谷部	打穿	11.3	5.6	1.0	87.0	ホソシユメス	367		
187	157	20	D-V	北照谷部	打穿	13.4	6.1	1.0	131.0	ホソシユメス	377	
- 158	-	D-V	北照谷部	打穿	7.5	4.8	0.6	35.0	ホソシユメス	384		
- 159	-	D-V	北照谷部	打穿	7.0	3.6	1.5	61.0	ホソシユメス	391		
- 160	-	D-V	北照谷部	打穿	9.9	6.0	1.9	146.0	扇状岩	406		
187	161	19	D-V	北照谷部	打穿	9.6	4.2	1.5	70.0	ホソシユメス	435	
- 162	-	D-V	北照谷部	打穿	10.5	4.0	1.1	52.0	扇状岩	609		
- 163	-	D-V	北照谷部	打穿	11.7	6.8	3.4	333.0	ホソシユメス	677		
- 164	-	D-V	北照谷部	打穿	10.1	6.6	1.1	118.0	ホソシユメス	783		
- 165	-	D-V	北照谷部	打穿	4.6	6.4	1.4	59.0	ホソシユメス	787		
- 166	-	D-V	北照谷部	打穿	7.1	4.2	0.5	21.0	ホソシユメス			
- 167	-	D-V	北照谷部	打穿	5.2	4.3	1.1	34.0	ホソシユメス			
187	168	24	表土	北照谷部	打穿	10.9	4.2	1.4	84.0	ホソシユメス		
- 169	-	表土	北照谷部	打穿	10.3	4.6	1.5	117.0	ホソシユメス			
- 170	-	表土	北照谷部	打穿	5.2	5.5	0.7	34.0	ホソシユメス			
- 1	-	C-1	北照谷部	巻石	8.0	7.8	2.1	156.0	扇状岩	34		
- 2	-	C-1	北照谷部	巻石	14.5	6.5	6.6	320.0	花崗岩	150		
- 3	-	C-2	北照谷部	巻石	12.0	6.6	5.4	499.0	巻石	37		
- 4	-	C-2	北照谷部	巻石	5.5	5.5	3.3	192.0	扇状岩	128		
188	5	1	C-2	北照谷部	巻石	11.0	8.0	6.0	607.0	安山岩	178	
188	6	2	C-2	北照谷部	巻石	6.2	7.6	4.2	291.0	閃緑岩		
188	7	3	D-1	北照谷部	巻石	8.5	8.0	4.7	422.0	安山岩	60	
- 5	-	D-1	北照谷部	巻石	7.2	5.8	3.0	177.0	扇状岩	82		
188	9	4	D-2	北照谷部	巻石	9.5	8.0	3.5	524.0	安山岩	366	
- 10	-	D-2	北照谷部	巻石	10.5	7.5	3.7	325.0	安山岩	2		
188	11	5	D-2	北照谷部	巻石	8.4	7.1	5.3	457.0	閃緑岩	40	
188	12	6	D-2	北照谷部	巻石	8.9	6.5	3.7	263.0	安山岩	371	
- 13	-	D-2	北照谷部	巻石	11.0	8.6	3.0	604.0	安山岩	488		
- 14	-	D-2	北照谷部	巻石	14.5	7.5	6.4	992.0	閃緑岩	661		
- 15	-	D-2	北照谷部	巻石	10.5	7.8	4.2	456.0	安山岩	741		
- 16	-	D-2	北照谷部	巻石	10.0	6.2	4.0	337.0	ホソシユメス	932		
- 17	-	D-2	北照谷部	巻石	10.0	6.5	6.2	596.0	扇状岩	1100		
188	18	9	D-2	北照谷部	巻石	9.7	6.9	4.5	437.0	閃緑岩	1169	と
188	19	8	D-2	北照谷部	巻石	9.8	8.2	4.5	367.0	安山岩	1221	
- 20	-	D-2	北照谷部	巻石	7.0	7.7	4.0	317.0	安山岩	1254		
- 21	-	D-2	北照谷部	巻石	10.3	7.6	4.2	362.0	花崗岩	1267		
- 22	-	D-2	北照谷部	巻石	8.9	6.0	4.6	357.0	安山岩	1268		
188	23	7	D-2	北照谷部	巻石	7.0	8.0	3.3	311.0	安山岩	1374	
188	24	10	D-2	北照谷部	巻石	7.0	6.0	4.6	301.0	安山岩	1450	
- 25	-	D-2	北照谷部	巻石	7.6	7.7	6.2	442.0	安山岩	477		
188	26	12	D-2	北照谷部	巻石	8.5	6.5	4.6	400.0	閃緑岩	553	
188	27	11	D-2	北照谷部	巻石	10.5	7.4	4.7	320.0	閃緑岩	717	
- 28	-	D-2	北照谷部	巻石	15.0	10.5	7.1	1098.0	花崗岩	809		
- 29	-	D-2	北照谷部	巻石	6.5	5.8	4.7	211.0	安山岩			
189	30	13	D-V	北照谷部	巻石	11.8	6.5	79.0	巻石	333		
189	31	14	D-V	北照谷部	巻石	11.7	7.4	5.3	632.0	安山岩	675	
- 32	-	D-V	北照谷部	巻石	12.0	7.8	4.8	440.0	扇状岩	676		
189	33	15	D-V	北照谷部	巻石	6.0	5.5	4.0	166.0	安山岩	822	
189	1	2	C-2	北照谷部	石蔵	15.2	20.2	8.5	3406.0	安山岩	190	
189	2	3	D-2	北照谷部	石蔵	22.0	24.0	6.6	4920.0	安山岩	202	
189	3	1	D-2	北照谷部	石蔵	15.5	5.0	7.1	619.0	安山岩	386	
- 4	-	D-2	北照谷部	石蔵	15.0	18.0	12.0	4020.0	花崗岩	639		
189	5	4	D-2	北照谷部	石蔵	13.5	9.0	3.9	668.0	花崗岩	1026	
190	1	3	C-1	北照谷部	巻石	8.4	6.0	3.5	248.0	扇状岩	30	
190	2	6	C-2	北照谷部	巻石	4.6	4.0	2.7	50.0	扇状岩		
190	3	9	D-1	北照谷部	巻石	4.0	1.8	0.9	7.0	緑色凝灰岩		
190	4	5	D-2	北照谷部	巻石	3.8	4.3	2.5	38.0	扇状岩	119	
- 5	-	D-2	北照谷部	巻石	3.75	1.15	0.5	4.72	凝灰岩	23		
190	6	1	D-2	北照谷部	巻石	15.1	4.4	3.3	299.0	緑色凝灰岩	1255	
190	7	7	D-2	北照谷部	巻石	3.4	3.8	1.3	22.0	緑色凝灰岩		
- 8	-	D-2	北照谷部	巻石	2.7	1.25	0.85	3.54	巻石	271		
- 9	-	D-V	北照谷部	巻石	6.8	4.1	3.3	133.0	扇状岩	212		

押形 No.	図面 No.	土台 グラウト	造層	部材	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (kg)	石材	注記 No.	備考
190	10	2	D-V	北照谷部	巻石	10.6	2.5	2.7	1170.0	扇状岩	743
190	1	1	C-2	北照谷部	巻石	5.0	1.7	1.2	21.0	巻石	68
190	2	5	D-2	北照谷部	巻石	7.5	3.7	2.3	106.0	巻石	252
190	3	3	D-2	北照谷部	巻石	4.6	2.0	0.9	14.0	巻石	20
190	4	2	D-2	北照谷部	巻石	4.0	3.0	1.5	34.0	巻石	101
190	5	4	D-2	北照谷部	巻石	4.0	2.4	1.1	18.0	巻石	
190	6	6	D-V	北照谷部	巻石	9.7	2.5	2.2	96.0	巻石	222
190	7	7	D-V	北照谷部	巻石	29.8	13.0	6.9	800.0	ホソシユメス	278

土器観察表

検出 No.	出土地点	器物 No.	種 別	形 種	口径 (cm)			調 整	色 調	胎 土	残存 率	注 記 No.	そ の 他
					口 径	底 径	高 径						
114	6号住	1	土師	杯	(11.8)	2.2	6.4	ロクロナデ 底部未切痕	褐色	金色雲母 5mm 程度のみ	60%	6住 B-5-537 B-C-5	外周部コケアリ
114	6号住	2	土師	杯	(10.7)	2.6	(5.2)	ロクロナデ 底部ヘナゲナズリ痕 赤褐色	にぶい褐色	金色雲母 スコリア	66%	6住 B-5-604・608・ 609	
114	6号住	3	土師	杯	(11.3)	2.5	5.2	ロクロナデ 底部付近赤褐色なく不整形 赤切痕	褐色	金色雲母	66%	6住 C-5-745	
114	6号住	4	土師	杯	(8.8)	2.6	(4.7)	ロクロナデ 底部未切痕	褐色	金色雲母 石灰粒	20%	6住 B-5-455 C-5-750	
114	6号住	5	土師	杯	(11.8)	2.6	(5.6)	ロクロナデ 口縁部 底部未切痕	にぶい褐色	金色雲母 白砂子	38%	6住 B-5-581 B-C-5	
114	6号住	6	土師	杯	(11.6)	(2.8)	-	ロクロナデ	褐色	金色雲母	38%	6住 C-5-83・88	
114	6号住	7	土師	杯	(12.6)	(3.7)	-	ロクロナデ	明褐色	金色雲母	25%	6住 6住 B-5-757	
114	6号住	8	土師	杯	-	(1.7)	(6.0)	ロクロナデ 底部未切痕	にぶい褐色	金色雲母 スコリア	35%	6住 C-5-483	
114	6号住	9	土師	杯	-	(1.2)	(7.0)	ロクロナデ 底部未切痕	褐色	金色雲母 白砂子	42%	6住 B-5-706	
114	6号住	10	土師	杯	-	(6.9)	(6.0)	ロクロナデ 底部未切痕	にぶい褐色	金色雲母 スコリア	30%	6住 C-5-130	
114	6号住	11	土師	高台付杯	-	(1.5)	(6.3)	ロクロナデ 底部未切痕ヘラナゲ	褐色	金色雲母 石灰 スコリア	15%	6住 C-5-116	原料入か?
114	6号住	12	土師	高台付杯	-	(3.2)	(5.3)	ロクロナデ	褐色	金色雲母 スコリア 石灰	20%	6住 C-5-232	
114	6号住	13	土師	高台付杯	-	(1.8)	(4.5)	ロクロナデ 底部未切痕	にぶい褐色	金色雲母 石灰	15%	6住 C-5-57	
114	6号住	14	土師	高台付杯	-	(2.0)	-	ロクロナデ	にぶい褐色	金色雲母 スコリア 石膏	20%	6住 B-5-281	
114	6号住	15	土師	高台付杯	-	(4.0)	-	ロクロナデ	にぶい褐色	金色雲母 石灰 スコリア	10%	6住 B-5-263	
114	6号住	16	土師	柱状高台付杯	-	(1.8)	5.0	ロクロナデ 底部未切痕	褐色	金色雲母 スコリア	10%	6住 C-5-85	
114	6号住	17	灰輪陶器	高台付杯	(11.2)	3.2	6.0	ロクロナデ 底部未切痕	灰白色	石灰	50%	6住 B-5-220・535	底部付近で輪轡 確認可也みち
114	6号住	18	灰輪陶器	杯	(12.0)	(1.8)	-	ロクロナデ	淡褐色	磁片	6住	底部付近で輪轡 確認可也みち	
114	6号住	19	灰輪陶器	高台付杯	-	(2.2)	(8.0)	ロクロナデ 底部未切痕	灰白色		15%	B-5-46 C-5-241・242・243・ 248・256・256・370・ 387・645 B-5-198・254・300・ 301・311・600・605・ 609・644・674	底部付近で輪轡 確認可也みち
114	6号住	20	土師	壺	(34.4)	(10.4)	-	外ナゲハケ 内ヨコハケ	黄褐色	金色雲母 石灰	10%		
114	6号住	21	須恵器	甕	-	(9.5)	-	外内ナゲキ	黄灰色	磁片	B-5-346	灰用甕	
114	6号住	22	須恵器	甕	-	(8.6)	-	外内ナゲキ	黄灰色	磁片	B-5-350		
114	6号住	23	須恵器	甕	-	(8.2)	-	外内ナゲキ	黄灰色	磁片	B-5-345		
115	17号住	1	土師	杯	12.8	3.4	5.8	ロクロナデ 底部未切痕	褐色	3-5mm程度の褐色 金色雲母 スコリア	100%	17住 C-5-18	灯明皿
115	17号住	2	土師	杯	12.8	2.2	5.0	ロクロナデ	褐色	金色雲母 スコリア	75%	17住 C-5 C-5-61	
115	17号住	3	土師	杯	(13.8)	(2.6)	-	ロクロナデ	褐色	石灰 スコリア	15%	17住 D-5	
115	17号住	4	土師	蓋カマヤド	-	(11.0)	-	内ヨコハケ 外ナゲハケ	赤褐色	石灰 金色雲母	10%	17住 C-5-61	
115	18号住	1	土師	鉢	(28.0)	(5.5)	-	外ナゲ、一部ナズリ 内ヘナゲナズリ	暗茶褐色	白色砂子	磁片	D-17-4	
115	18号住	2	灰輪陶器	瓶	-	(3.7)	-	外自然焼 内ロコナデ	灰白色褐色	灰色砂子 白色砂子	磁片	D-17-1	
115	18号住	3	須恵器	甕	-	(4.8)	(16.0)	外ナゲキ・ナズリ 内ナゲ	にぶい褐色 にぶい赤褐色	白色砂子 白砂子	磁片	D-17-2	
115	18号住	4	須恵器	甕	-	(2.7)	(2.3)	外ナゲキ・ヘラナゲ 内ナゲ	暗茶褐色	茶褐色砂子 白色砂子	磁片	D-17-3	
115	19号住	1	土師	杯	10.4	1.8	4.7	ロクロナデ 底部未切痕	にぶい褐色	金色雲母 砂塵 白色スリ	100%	19住ヨマド A-20-20	一部スアリ
115	19号住	2	土師	杯	(10.6)	3.0	4.2	ロクロナデ 底部未切痕	褐色	白色砂子	45%	19住ヨマド A-20-17	
115	19号住	3	土師	杯	(12.8)	4.1	(6.0)	ロクロナデ ナズリ 底部未切痕	赤褐色	赤色砂子	38%	B-19-42・50	
115	19号住	4	土師	杯	(11.8)	3.8	(7.0)	ロクロナデ 底部未切痕 増粘	還元褐色	白色砂子	25%	19住 B-20-16	
115	19号住	5	土師	杯	(14.6)	3.8	(7.0)	ロクロナデ	にぶい還元褐色	赤色砂子	66%	B-20-16・15・13	
115	19号住	6	土師	皿	(12.0)	2.2	3.8	ロクロナデ 底部未切痕	黄茶褐色	茶褐色砂子 スコリア	65%	19住 B-20-18 B-20-21	
115	19号住	7	土師	皿	(13.0)	2.7	6.0	ロクロナデ 底部未切痕	褐色	赤色砂子	90%	B-20-22・23	
115	19号住	8	土師	皿	(12.8)	2.1	6.0	ロクロナデ 底部未切痕	明赤褐色	赤色砂子	50%	B-20-50	
115	19号住	9	土師	皿	(13.4)	1.5	(6.0)	ロクロナデ 底部未切痕	明赤褐色	黒色砂子	93%	19住 B-19-38	
115	19号住	10	土師	皿	(13.6)	(2.3)	-	ロクロナデ	褐色	赤色砂子 黒色砂子	磁片	B-20-11	
116	19号住	11	土師	柱状高台付杯	-	(2.2)	(6.0)	ロクロナデ 底部未切痕	明褐色	赤色砂子	磁片	B-19	
116	19号住	12	土師	柱状高台付杯	-	(3.1)	(7.0)	ロクロナデ	明褐色	白色砂子	磁片	B-20-7	
116	19号住	13	土師	柱状高台付杯	-	(2.2)	(5.3)	ロクロナデ	明褐色	黒色砂子	磁片	B-19-19	
116	19号住	14	灰輪陶器	杯	(14.8)	(2.1)	-	ロクロナデ	灰白色	白色砂子	磁片	B-19-19	
116	19号住	15	灰輪陶器	高台付杯	-	(2.3)	(6.0)	ロクロナデ	にぶい黄褐色	磁片	B-19-28		
116	19号住	16	灰輪陶器	甕	-	(2.6)	-	ロクロナデ	灰白色	磁片	B-19-23		
116	19号住	17	灰輪陶器	瓶	-	(3.2)	(14.0)	ロクロナデ	にぶい黄褐色	赤色砂子	磁片	B-19-51	
116	19号住	18	土師	甕	(16.0)	(3.5)	-	外ハケ調整 内ナゲ	外赤茶褐色 内暗茶褐色	金色雲母 白色砂子	磁片	B-20-9	
116	19号住	19	土師	甕	(23.8)	(14.2)	-	外ナズリ調整 内周部圧痕ナズリ	明褐色	金色雲母 白色砂子	磁片	A-20 A-20-7・8・ 17 A-19-10 A-20-8マド A-20 A-20-3・4・5・6・ 10・11・12・22・23・ 25・26・27・29・30	
116	19号住	20	土師	甕	(25.0)	(9.0)	-	外ナゲ 内輪部痕	明赤褐色	金色雲母 白色砂子	20%	A-20-8マド-2 A-20-14・16・19	
116	19号住	21	土師	甕	(25.0)	(9.0)	-	外ヘラナズリ 内ハケ後ヘラ指部圧痕	明赤褐色	金色雲母 白色砂子	20%	A-20-8マド-2 A-20-14・16・19	
116	19号住	22	土師	甕	(35.0)	(8.5)	-	外ハケ後ヘラ指部圧痕 内ハケ後ヘラ調整痕	暗茶褐色	金色雲母 白色砂子	20%	A-20-8マド-9 A-20-2	

探検 No.	出土地点	器物 No.	材質	器名	法長 (cm)		調整	色調	胎土	残存 率	注記 No.	その他	
					口径	高さ							
116	19号住	23	土師	罎	(20.8)	(16.6)	-	外ハケ後脚部直前 内脚ハケ後脚部直前	暗茶褐色	金色雲母 白色粒子	30%	A-20-13・15・18・19	
116	19号住	24	土師	甕	-	13.4	-	外ハケ調整 内口コナ	暗茶褐色	金色雲母	破片	19号住B-19-25	
116	19号住	25	瀬色	杯	-	13.7	-	外タナキ 内ナデ	灰白色	白色粒子	破片	B-20-3	
116	19号住	26	瀬色	杯	-	13.3	-	外タナキ 内ナデ	灰白色	白色粒子	破片	B-19-49	
117	20号住	1	土師	杯	(12.0)	3.5	(8.0)	ロクロナデ	明赤褐色	金色雲母 白色粒子	65%	B-22-7	
117	20号住	2	土師	杯	(8.8)	3.3	4.4	ロクロナデ 底部糸切痕	褐色	白色粒子 赤色粒子	80%	B-22-20	
117	20号住	3	土師	杯	-	12.3	(5.6)	ロクロナデ 底部糸切痕	褐色	金色雲母	10%	20住	
117	20号住	4	土師	高台付杯	-	(1.5)	(4.6)	内口ロクロナデ 底部付近脚部ヘラナズリ	暗茶褐色	金色雲母	15%	B-23-24	
117	20号住	5	土師	高台付杯	-	(1.7)	(7.8)	ロクロナデ	明赤褐色	白色粒子 赤色粒子	15%	B-22-16	
117	20号住	6	灰輪陶器	瓶	-	(3.0)	-	ロクロナデ	灰白色	白色砂粒子	破片	B-22	
117	20号住	7	灰輪陶器	瓶	(13.8)	(2.75)	-	ロクロナデ	灰白色	白色砂粒子	破片	B-22-6	
117	20号住	8	灰輪陶器	高台付杯	-	(1.85)	(8.0)	ロクロナデ	灰色	白色砂粒子	破片	B-22-3	
117	20号住	9	土師	罎	(27.2)	(9.3)	-	外内ヘラナデ 筋襷痕	外脚褐色 内脚赤褐色	金色雲母 白色粒子	破片	B-22-43	
117	20号住	10	土師	罎	(30.6)	(3.9)	-	外内ナデ	明褐色	金色雲母 白色粒子	破片	B-22-36・44	
117	20号住	11	土師	罎	(27.5)	(40.3)	(44.8)	外ヘラナデ 内ヘラナデ	灰褐色	砂 白色粒子	20%	B-22-28・33・47	炭化物付着
117	20号住	12	瀬色	罎	-	7.6	-	外タナキ 内ナデ	暗緑灰色	白色粒子	破片	B-22-13	
117	21号住	1	土師	杯	(14.3)	(3.0)	-	ロクロナデ	明赤褐色	砂粒子	10%	B-23-6	
117	21号住	2	土師	杯	(11.8)	3.2	(4.4)	ロクロナデ 底部糸切痕	明赤褐色	金色雲母 赤色粒子	破片	C-22-23	
117	21号住	3	土師	杯	-	(1.7)	4.4	ロクロナデ 底部糸切痕	明赤褐色	角閃石 白色粒子	30%	C-23-7	
117	21号住	4	土師	柱状高台付杯	-	(2.7)	7.0	外ヘラナデ 内口ロクロナデ 底部糸切痕	茶褐色	金色雲母 白色粒子	20%	B-23-17 C-23 C-25-10	
117	21号住	5	灰輪陶器	高台付罎	(11.0)	(3.2)	-	ロクロナデ	灰緑色	砂粒子	10%	C-23-22	
117	21号住	6	土師	罎	(24.8)	-	(17.0)	外内ヘラナズリ	赤茶褐色	金色雲母 白色粒子	40%	21住 B-23-2・13・ 18・19・20・21・23・25 B-23-24マド・3 C- 23	糖灰あり 一部スチフ着
118	22号住	1	土師	杯	(9.4)	2.6	4.4	ロクロナデ	明褐色	角閃石 スコリア	破片	22住 B-16-2	
118	22号住	2	土師	杯	(9.2)	2.8	(4.8)	ロクロナデ	明褐色	角閃石 スコリア	50%	C-16-10	
118	22号住	3	土師	柱状高台付杯	-	(3.1)	7.0	ロクロナデ 底部糸切痕	淡茶褐色	石灰	50%	C-16-6	
118	22号住	4	土師	高台付杯	-	(2.7)	(9.0)	ロクロナデ	明褐色	石灰 金色雲母 スコリア	20%	B-16-2	
118	22号住	5	土師	柱状高台付杯	-	(4.1)	(8.0)	ロクロナデ	淡茶褐色	角閃石 石英 金色雲母	50%	B-16-12	
118	22号住	6	土師	高台付杯	-	(2.0)	(2.8)	ロクロナデ	淡茶褐色	石灰 金色雲母	20%	B-16-9	
118	22号住	7	灰輪陶器	瓶	(10.8)	(3.0)	-	ロクロナデ	灰褐色	白色粒子	10%	C-16-9	
118	22号住	8	灰輪陶器	杯	(16.8)	(4.3)	-	ロクロナデ	灰白色	白色粒子	25%	B-16-13	
118	22号住	9	土師	甕	(24.0)	(3.5)	-	外ヘラナデ 内ハケ調整 突起跡り付け	赤褐色	角閃石 石英 金色雲母 砂	10%	C-16-5	
118	22号住	10	瀬色	罎	-	-	-	外タナキ 内ナデ	灰茶褐色	石灰 砂	10%	C-16	
118	22号住	11	瀬色	罎	-	-	-	外タナキ 内ナデ	灰色	石灰 砂	10%	C-16	
118	23号住	1	土師	杯	(10.4)	(9.3)	(8.0)	外口ロクロナデ・ヘラナズリ 内口ロクロナデ	褐色	角閃石 石英 スコリア	10%	B-24-15	片口
118	23号住	2	土師	杯	12.4	3.2	4.5	外口ロクロナデ・ヘラナズリ 内口ロクロナデ 底部糸切痕	褐色	角閃石 金色雲母 赤色粒子	99%	B-24-16	
118	23号住	3	土師	杯	(11.1)	4.0	(4.0)	外口ロクロナデ・ヘラナデ 内口ロクロナデ	外脚赤褐色 明赤褐色	石英 スコリア	10%	C-23-1	糖灰「蓋」あり
118	23号住	4	土師	罎	(14.0)	-	-	ハケ調整	外にぶい褐色 内脚赤褐色	角閃石 石英 金色雲母	10%	B-24-9	
118	23号住	5	土師	罎	(30.5)	(20.0)	-	外ハケ調整 内ハケ調整	暗茶褐色	石灰 金色雲母	30%	B-24-3・4・5・6・7・ 8・10・11・12・13・14・ 17・18・19	
118	23号住	6	土師	鹿子カマド	-	(3.5)	(32.4)	ハケ調整 指痕正痕あり	外脚赤褐色 内脚赤褐色	角閃石 石英 金色雲母 砂	破片	23住 23住B-C-24	
119	24号住	1	土師	罎	-	-	(12.4)	ナズリ 指痕正痕 底部木炭痕 あり	外脚赤褐色 内脚赤褐色	角閃石 石英 金色雲母 スコリア	10%	B-26 B-26-3・4	3と同一個体
119	25号住	1	土師	杯	(6.7)	(4.7)	-	ロクロナデ	明褐色	角閃石 石英 金色雲母	破片	25住 A-26-3	
119	25号住	2	土師	罎	(10.6)	7.5	(4.3)	ロクロナデ 底部糸切痕	褐色	石灰 金色雲母 スコリア	20%	B-26-1	
119	25号住	3	土師	高台付杯	-	(1.1)	(7.0)	ロクロナデ 内底	淡茶褐色	石灰 スコリア	20%	B-26-2	
119	25号住	4	土師	杯	-	(3.0)	(2.1)	ロクロナデ 底部糸切痕	暗茶褐色	石灰 金色雲母	30%	A-26-1	
119	25号住	5	灰輪陶器	高台付杯(蓋)	-	(1.8)	(7.0)	ロクロナデ	灰色	石灰	20%	A-26-4	
119	27号住	1	土師	杯	(1.7)	3.0	6.0	ロクロナデ 底部糸切痕	褐色	角閃石 石英 スコリア	100%	B-28-2	
119	27号住	2	土師	杯	(10.4)	3.7	5.6	ロクロナデ 底部糸切痕	明褐色	角閃石 石英 スコリア	30%	A-28-25	幻明底
119	27号住	3	土師	杯	(1.6)	(3.6)	-	ロクロナデ	褐色	角閃石 石英 金色雲母 スコリア	破片	B-28-10・30	
119	27号住	4	土師	杯	(32.0)	3.4	(6.8)	ロクロナデ	灰色	角閃石	20%	B-28-12・17	
119	27号住	5	土師	杯	(11.3)	3.3	(6.8)	ロクロナデ	褐色	石灰	30%	B-28-22	
119	27号住	6	灰輪陶器	杯	(12.8)	(3.4)	-	ロクロナデ	灰白色	角閃石 石英	破片	B-28-26	
119	27号住	7	灰輪陶器	杯	(16.0)	(1.8)	-	ロクロナデ	灰白色	石灰	破片	A-28-7	
119	27号住	8	灰輪陶器	杯	(17.8)	2.7	-	ロクロナデ	灰黄色	角閃石 石英	破片	B-28-6	

河川 No.	土地点 No.	地物 No.	種類	形状	寸法 (cm)			調査	色調	粘土	備考	注記 No.	その他
					口徑	高さ	底径						
119	27号住	9	瓦葺陶器	瓶	-	(1.8)	(6.8)	ロクロナデ	灰白色	石英	破片	A-27-9 A-28-4・5 B-27-1・4・5・7・8・ 10・11・12・16 B-28 B-28-16・32	
119	27号住	10	瓦葺陶器	瓶	-	(3.0)	-	ロクロナデ	オリーブ青		10%	B-27-2	
119	27号住	11	鉢陶器	杯	(9.0)	(1.8)	-		褐色		破片	27住 A-28-2	
119	27号住	12	鉢陶器	杯	-	(2.4)	-		青オリーブ色 内緑色		破片	27住 A-28-6	
119	27号住	13	鉢陶器	段皿	(14.0)	(0.8)	-		オリーブ色		破片	27住 B-27-14	
119	27号住	14	鉢陶器	段皿	-	(1.2)	-		オリーブ色		破片	27住 B-28-9	
119	27号住	15	土師	壺	(7.2)	(1.8)	-	ロクロナデ	褐色	石英 金色雲母	破片	A-28	
119	27号住	16	土師	壺	-	-	-	外ケズリ 指図正儀	茶褐色	石英 金色雲母	20%	B-28-29・30	
120	27号住	17	土師	鉢	(41.8)	(16.3)	-	外ケチハケ 内ヨコハケ 指図正儀 輪紋供	茶褐色	石英 金色雲母	60%	A-27-9 A-28-4・5 B-27-1・4・5・7・8・ 10・11・12・16 B-28 B-28-16・32	
120	27号住	18	土師	羽釜	-	(4.3)	-	ハケ後ナデ	にぶい赤褐色	角四石 石英 金色雲母	10%	B-27-3	
120	27号住	19	須恵	壺	-	(7.2)	-	外ケチキ 内ナデ	緑灰色	石英 スコリア	破片	B-28-17	
120	28号住	1	土師	杯	(11.0)	3.4	5.0	ロクロナデ 底部糸切痕	明褐色	石英 スコリア	75%	C-27-15	
120	28号住	2	土師	杯	(10.0)	3.2	5.5	ロクロナデ 底部糸切痕	赤褐色	石英 金色雲母	20%	C-27-35・36	
120	28号住	3	土師	杯	(12.0)	4.2	4.8	ロクロナデ 底部糸切痕	淡茶褐色	金色雲母 スコリア	50%	C-27-34・40	
120	28号住	4	土師	杯	(11.4)	2.8	6.2	ロクロナデ 底部糸切痕	赤褐色	石英 金色雲母	20%	C-27-33・39	
120	28号住	5	土師	杯	11.8	3.7	7.0	底部糸切痕	淡茶褐色	石英 金色雲母	80%	C-27-21	
120	28号住	6	土師	杯	(12.7)	3.5	5.8	ロクロナデ	赤褐色	石英 スコリア	70%	C-27-13・27・32	灯明土
120	28号住	7	土師	小皿蓋	(17.0)	(13.1)	(8.0)	外ケナデ 内面ナデ 底部糸切痕あり	茶褐色	石英 金色雲母	30%	C-27-3・20・26・28	
120	28号住	8	土師	壺	(32.0)	(5.8)	-	外ケナデ 指図正儀 内ヨコハケ ヘラナデ	褐色	角四石 石英 金色雲母	破片	C-27-19・25	
120	28号住	9	土師	壺	(27.8)	(5.7)	-	外ケナデ 指図正儀 内ケナデ	外沢褐色 内沢赤色	角四石 金色雲母	破片	C-27-7	
121	29号住	1	土師	杯	(15.8)	3.2	(7.4)	外ケロクロナデ後部付近指図ヘ ラケズリ 内面文 割り出し具 存	褐色	角四石 金色雲母 赤色粒子	75%	C-26-14・15・16・ 17・18・20・24・29・44	
121	29号住	2	土師	杯	(11.0)	4.3	13.2	外ケロクロナデ後部付近指図ヘ ラケズリ 内面文	淡茶褐色	金色雲母	80%	C-26 C-26-10・25・26	底部層付「道田」
121	29号住	3	土師	杯	-	(2.3)	(5.8)	外ケロクロナデ後部付近指図ヘ ラケズリ 内面文	淡茶褐色	石英	30%	29住 C-26 C-26- 40	
121	29号住	4	土師	杯	(11.0)	4.3	13.0	外ケロクロナデ後部付近指図ヘ ラケズリ 内面文	淡茶褐色	金色雲母 スコリア	50%	C-26 C-26-13・27	
121	29号住	5	土師	杯	(12.0)	3.7	5.8	外ケロクロナデ後部付近指図ヘ ラケズリ	淡茶褐色	金色雲母	70%	C-26 C-27-16	
121	29号住	6	土師	杯	-	(5.8)	(2.8)	底部糸切痕	灰青色	角四石 石英 金色雲母 赤色粒子	45%	C-26-32・33	
121	29号住	7	土師	皿	(14.0)	1.9	(10.8)	内内ロクロナデ	茶褐色	金色雲母 石英	40%	C-26	
121	29号住	8	土師	フタ	(14.0)	(2.0)	-	内内ロクロナデ	茶褐色	金色雲母 石英	40%	C-26	
121	29号住	9	土師	壺	(15.8)	(6.2)	-	外ケチハケ 内ヨコハケ蓋	褐色	角四石 石英 金色雲母	破片	C-26 C-26-39	
121	29号住	10	土師	壺	(15.8)	(2.8)	-	外ケチハケ 内ヨコハケ蓋	茶褐色	角四石 金色雲母	破片	C-26-75	
121	29号住	11	土師	壺	-	(3.0)	-	外ケチ 内ヨコハケ	茶褐色	金色雲母	10%	C-26	
121	29号住	12	土師	壺	-	(5.0)	-	外ケチ 内ヨコハケ	茶褐色	石英 金色雲母	10%	C-26-34	
121	29号住	13	土師	壺	-	(8.5)	-	外ケチ 内ヨコハケ	茶褐色	金色雲母	10%	C-26-31	入土付者
121	29号住	14	土師	鹿ヶキマド	-	(5.7)	(16.3)	外ケチ 内ヨコハケ	明茶褐色	石英 金色雲母	10%	C-26-6	
121	29号住	15	須恵	フタ	(18.6)	(3.0)	-	ロクロナデ	緑灰色	石英	破片	29住 C-26-35・36・ 37	
121	29号住	16	須恵	壺	-	(6.1)	-	外ケチキ 内ナデ	黄灰色	角四石 石英 磁	破片	C-26-53・54	転用磁
122	30号住	1	土師	杯	13.8	4.9	6.3	底部糸切痕	褐色	石英 金色雲母 スコリア	80%	C-27-58	
122	30号住	2	土師	杯	(13.2)	4.7	(6.8)	ロクロナデ 底部糸切痕	褐色	石英 スコリア	50%	C-27 C-28 C-28-28・9	
122	30号住	3	土師	杯	(13.8)	3.3	(6.8)	ロクロナデ 底部糸切痕	褐色	石英 金色雲母 スコリア	50%	C-27 C-27-48	
122	30号住	4	土師	杯	12.0	4.0	5.8	ロクロナデ 底部糸切痕	赤褐色	石英 スコリア	100%	C-27-58	
122	30号住	5	土師	杯	(11.0)	4.8	(4.2)	ロクロナデ 底部糸切痕	淡茶褐色	石英 金色雲母	60%	C-27 C-27-63・64	
122	30号住	6	土師	杯	(11.8)	3.6	(7.8)	ロクロナデ 底部糸切痕	褐色	角四石 金色雲母 スコリア	40%	C-27 C-27-47	
122	30号住	7	土師	杯	(10.8)	2.9	(4.0)	ロクロナデ 底部糸切痕	暗褐色	石英 金色雲母	90%	C-27-51	
122	30号住	8	土師	杯	12.0	3.7	5.0	铭文状痕あり 底部糸切痕	淡茶褐色	石英 金色雲母 スコリア	80%	C-27-50	
122	30号住	9	土師	杯	(14.0)	(2.8)	-	外ケロクロナデ 内面文	暗茶褐色	角四石	10%	C-28-1	
122	30号住	10	土師	杯	-	(3.0)	-	外ケロクロナデ 内面文	明茶褐色	金色雲母	破片	C-28-4	
122	30号住	11	土師	杯	-	(2.5)	4.8	外ケロクロナデ 内面文	褐色	石英	70%	C-27-42	
122	30号住	12	土師	杯	(10.3)	2.1	(5.8)	外ケロクロナデ 内面文 底部糸 切痕	淡茶褐色	石英 金色雲母	20%	C-27-52 C-28 C-28-16	

神領 No.	出土地点	遺物 No.	種別	別種	度量 (cm)			調査	色調	胎土	残存 率	注記 No.	その他
					口径	径	底径						
122	30号住	13	土師	甕	(11.4)	(2.0)	-	外口コナナ 内脣文 底部赤 磁	暗茶褐色	石英 金色葉母	10%	C-27 C-28-7	
122	30号住	14	土師	高台付甕	(12.2)	1.3	(8.9)	外口コナナ 内脣文 底部赤 磁	暗茶褐色	石英 金色葉母	20%	C-26-47	
122	30号住	15	土師	高台付杯	-	(1.8)	(2.3)	内 内脣 つけ高台 コナナ	褐色	石英	磁片	C-28-11	
122	30号住	16	土師	足高合付杯	-	(4.1)	(11.8)	コナナ	褐色	角閃石 石英	磁片	C-27 C-27-41	
122	30号住	17	土師	甕	(27.8)	(13.7)	-	外ハケ調整 内ハケ 筋線圧痕 輪轆痕	赤褐色	角閃石 石英 金色葉母	磁片	B-28-1 C-28-20, 24, 27	
122	30号住	18	土師	甕	(14.8)	(5.8)	-	外タテハケ 内コナナ	褐色	角閃石 石英	磁片	C-27-40	
122	30号住	19	土師	甕	(15.4)	(2.6)	-	外タテハケ 内ヨコハケ	褐色	角閃石 石英 金色葉母	磁片	C-28 C-28-13	
122	30号住	20	土師	甕	-	(4.7)	(9.4)	外タテハケ 内ヨコハケ	にぶい褐色	角閃石 石英 金色葉母	磁片	C-27-50+66 C-28-23	
122	31号住	1	土師	杯	(11.4)	4.2	(5.4)	コナナ	赤褐色	石英 スコリア	50%	B-31-50, 51	
122	31号住	2	土師	杯	(12.4)	(3.8)	-	外口コナナ 内脣文	赤褐色	金色葉母 スコリア	50%	B-31-80	
123	31号住	3	土師	杯	(10.8)	(4.1)	-	外口コナナ 底部付足筋線ヘラケズリ 内脣 文	外赤褐色 内黄褐色	金色葉母 スコリア	磁片	B-31-130	
123	31号住	4	土師	杯	-	(2.4)	(6.5)	外口コナナ後ヘラナナ 内脣 文	褐色	角閃石 スコリア	20%	B-31-36, 44, 45	
123	31号住	5	土師	杯	-	(1.3)	(6.5)	外口コナナ 内脣文 底部赤 磁	赤褐色	角閃石 金色葉母 スコリア	40%	B-31-59	
123	31号住	6	土師	杯	-	(1.3)	(6.2)	コナナ 後ヘラナナ 底部赤 磁	赤褐色	角閃石 金色葉母	30%	B-31-87	
123	31号住	7	灰輪陶器	高台付甕	-	(2.8)	(7.0)	コナナ つけ高台	灰色	石英	10%	B-31	
123	31号住	8	土師	甕	(19.5)	(12.8)	(8.5)	外タテハケ 内ヨコハケナナ 木葉 筋線圧痕 輪轆痕	茶褐色	角閃石 石英 金色葉母 砂粒子	40%	B-31 B-31-54, 98	
123	31号住	9	土師	甕	(21.9)	(23.0)	-	外タテハケ 内ヨコハケナナ 筋線圧痕 輪 轆痕	茶褐色	石英 金色葉母	40%	B-31-8マド, 96, 100, 111	
123	31号住	10	土師	甕	(11.0)	(8.3)	-	外タテハケ 内ヨコハケナナ	赤褐色	角閃石 石英 金色葉母	磁片	カマド B-31-110	
123	31号住	11	土師	甕	(22.2)	3.1	-	ハケ調整	褐色	角閃石 石英 金色葉母	磁片	B-31-30	
123	31号住	12	土師	甕	(27.4)	(2.7)	-	ハケ調整	褐色	角閃石 石英	磁片	A-31-144	
123	31号住	13	土師	甕	24.4	(2.1)	-	コナナ	赤褐色	角閃石 石英	磁片	A-31-134	
123	31号住	14	灰輪陶器	甕	-	(5.2)	-	外タテハケ 内ヨコナナ	灰褐色	石英	10%	B-31-129	
123	31号住	15	灰輪陶器	甕	-	(4.3)	-	外タテハケ 内ヨコナナ	灰褐色	石英	10%	B-31-135	
124	32号住	1	土師	杯	(12.3)	(4.0)	-	コナナ 下平唇ケズリ	淡茶褐色	石英 金色葉母 スコリア	10%	A-34-4, 5	
124	33号住	1	土師	杯	(14.5)	4.4	7.8	コナナ 底部赤磁	黄茶褐色	石英 金色葉母 スコリア	70%	C-35-1, 16, 17, 18	
124	33号住	2	土師	杯	-	(3.2)	(6.3)	コナナ 底部赤磁	淡茶褐色	石英 スコリア	40%	C-35-23	
124	33号住	3	土師	柱状高台付杯	-	(4.8)	(8.2)	外口コナナ後ヘラケズリ 内口コナナ 底部赤磁	暗茶褐色	石英 金色葉母	60%	C-35-16	
124	33号住	4	土師	甕	-	(15.3)	-	外タテハケ 内コナナ	茶褐色	石英	10%	C-35-8, 9, 10	
124	34号住	1	土師	甕	(10.7)	(1.2)	-	コナナ	暗茶褐色	石英	10%	B-36-9	
124	34号住	2	土師	杯	-	(4.4)	4.0	コナナ 底部赤磁	暗茶褐色	石英 金色葉母	10%	B-36-2	
124	34号住	3	土師	柱状高台付杯	-	(2.8)	(10.0)	コナナ 底部赤磁 輪轆 痕	暗茶褐色	石英 金色葉母	20%	B-37-4	
124	34号住	4	土師	柱状高台付杯	-	(2.6)	-	コナナ	暗茶褐色	石英 スコリア	30%	B-36-12	
124	34号住	5	灰輪陶器	甕	(10.3)	(2.8)	-	コナナ	灰白色	10%	C-36-5		
124	34号住	6	灰輪陶器	灰輪甕	-	(4.6)	-	コナナ	灰白色	石英 角閃石	10%	B-36-22	
124	34号住	7	土師	甕	(30.0)	(11.8)	-	外ハケ後ヘラナナ 内脣文 筋線 ハケ調整	茶褐色	石英 金色葉母	10%	B-36 B-36-20, 24 B-37-2, 15, 16	
124	34号住	8	土師	甕	(5.3)	-	-	外ハケ 内ハケ後ヘラ調整	黄褐色	角閃石 石英 金色葉母	10%	B-37-12	
125	35号住	1	土師	杯	(18.3)	4.1	3.8	外口コナナ 底部付足筋線ヘラケズリ 底部赤磁	茶褐色	角閃石 金色葉母 スコリア	60%	A-35-8, 15	
125	35号住	2	土師	杯	(17.8)	5.4	(5.8)	外口コナナ 底部付足筋線ヘラケズリ	淡茶褐色	石英 スコリア	40%	カマド A-35-31, 32, 33	
125	35号住	3	土師	杯	(12.4)	(2.6)	-	コナナ	褐色	角閃石 スコリア	磁片	A-35-2, 19	
125	35号住	4	土師	杯	(15.4)	(2.5)	-	コナナ	褐色	角閃石	磁片	A-35-4, 5	
125	35号住	5	土師	柱状高台付杯	-	(3.8)	(7.8)	底部赤磁	黄褐色	角閃石 石英 スコリア	80%	A-36-8	
125	35号住	6	灰輪陶器	不明	-	(3.3)	-		灰白色	石英	10%	A-35-19 灰輪甕	
125	35号住	7	土師	甕	(20.8)	-	-	外タテハケ 内ヨコハケ 筋線圧痕 輪轆 痕	暗茶褐色	角閃石 石英 金色葉母 砂母	10%	A-35 A-35-3, 6, 7, 12, 14, 16, 22, 35 A-36 A-36-7	
125	35号住	8	須恵	甕	-	(4.8)	-	コナナ	灰白色	石英	磁片	A-35-18	
125	35号住	9	須恵	甕	-	(3.5)	-	コナナ	灰褐色	角閃石 石英	30%	A-36-2	
125	35号住	10	土師	甕	-	(2.5)	-	外タテハケ 内ヨコハケ	茶褐色	石英 金色葉母	10%	A-35-11	
125	36号住	1	土師	甕	(12.6)	(4.0)	-	外タテハケ 内ヨコハケ	暗茶褐色	角閃石 石英 金色葉母	10%	A-35-36	

標頭 No.	出土地点	遺物 No.	種類	器種	法長 (cm)		調査	色調	胎土	残存 率	注記 No.	その他	
					口径	高さ							
125	1号溝	1	土師	罎	(14.7)	2.7	4.9	外口クロナテ 底部付近側部へラケズリ 内ハケのちナテ	褐色	赤色粒子 金色葉母	25%	7位 B-6-827	
125	1号溝	2	土師	高台付杯	(16.5)	6.6	7.5	外口コハテ 内口コハテナテ	褐色	金色葉母 白色粒子	25%	7位 B	
125	1号溝	3	土師	杯	(14.4)	(3.3)	-	外ハケ調整 内ユビナテ	明褐色	金色葉母 白色粒子 赤色粒子	40%	7位 B-6	
125	1号溝	4	土師	杯	(14.7)	(3.3)	-	外口クロナテ一部ケズリ 内ナ テ	明褐色	金色葉母 白色粒子 赤色粒子	25%	7位 B-6	
125	1号溝	5	土師	杯	(21.0)	(7.8)	-	外口クロナテケズリ 内ナ テ	褐色 褐色色	白色粒子 赤色粒子	25%	7位 B-6 7A位 B-6-629	
125	1号溝	6	土師	杯	(24.0)	(6.5)	-	外口クロナテのちナズリ 内ナ テ	にぶい褐色 褐色色	白色粒子	20%	7位 B-6 7位	
125	1号溝	7	土師	杯	(13.5)	5.7	6.3	外口クロナテ 内ナテ	にぶい褐色 褐色色	金色葉母	40%	7位 B-6	
125	1号溝	8	土師	高台付杯	-	(1.8)	6.3	外口クロナテ 底部陥り付 内ナテ	褐色色	金色葉母	20%	7位 B-6溝	
125	1号溝	9	土師	高台付杯	-	(1.5)	(6.0)	外口クロナテ 底部陥り付 内ナテ	にぶい褐色 褐色色	不明	10%	7位 B-6-361	
125	1号溝	10	埴輪陶器	甗	(15.6)	4.5	(7.5)	内外造輪 コクロナテ	にぶい黄褐色		30%	7位 B-6-806	
125	1号溝	11	埴輪陶器	甗	(18.0)	(1.8)	-	内外造輪 コクロナテ	赤褐色	白色粒子	破片	1溝 B-7	
125	1号溝	12	埴輪陶器	甗	-	(1.8)	-	内外造輪 コクロナテ	赤褐色	石灰 白色粒子	破片 表層	1溝 B-7	
125	1号溝	13	埴輪陶器	甗	-	(2.1)	-	内外造輪 コクロナテ	赤褐色	石灰	破片	1溝 B-7	
125	1号溝	14	埴輪陶器	甗	-	(1.8)	(8.1)	内外造輪 コクロナテ	赤褐色	金色葉母 白色粒子	破片	7位 B-6-167	
125	1号溝	15	埴土	甗	-	(3.8)	-	外造輪	黄褐色 灰白色	金色葉母 白色粒子	破片	7位 B-6	
111	2号溝	1	土師	甗	13.3	31.3	7.4	外ハケ後ナテ 内ハケ	褐色	金色葉母 白・黒・赤色粒子 砂粒子	80%	C-7 C-7-3-4 C-8 D-7 D-7-1	
111	2号溝	2	土師	甗	(10.6)	17.2	7.2	外ハケ後ミダキ 内口縁部ハテ 製器跡僅残	褐色 灰黄褐色	金色葉母 石灰	80%	C-7 D-7-2	
111	2号溝	3	土師	甗	10.0	17.8	3.3	外ナテのちミダキ 内口コハテ	明赤褐色	金色葉母 白・黒・赤色粒子 砂粒子	60%	B-8-179	
111	2号溝	4	土師	甗	20.6	16.7	-	外口縁部コクロナテ 距離ミダキ 内ナミダキ	明赤褐色	金色葉母 石灰 スコリア	20%	B-8-79	
111	2号溝	5	土師	甗	13.8	(5.3)	-	外ハケ後ミダキ 内口コハテ	褐色	金色葉母	20%	C-7 D-7-1	
111	2号溝	6	土師	甗	16.8	(4.0)	-	外ミダキ 赤色後部あり 内口コハテ	明赤褐色 褐色色	金色葉母 石灰 砂粒子	10%	C-7-72 C-8	
111	2号溝	7	土師	甗	71.3	(8.7)	-	内外ミダキ	にぶい褐色	金色葉母 砂粒子	破片	C-8	
111	2号溝	8	土師	甗	8.0	(8.0)	-	外ミダキ 赤色後部あり 内口コハテ	赤褐色 にぶい黄色	金色葉母 白・黒・赤色粒子	破片	B-8-151 B-7	
111	2号溝	9	土師	甗	(13.6)	14.6	-	外ハケ 内ユビナテ	褐色	金色葉母 石灰	30%	B-8 C-8-41	
111	2号溝	10	土師	甗	-	-	-	外ハケ 内ユビナテ	赤褐色	金色葉母 石灰	破片	B-8-47-80	
112	2号溝	11	土師	甗	-	-	-	外ハケ 内ユビナテ	にぶい褐色	金色葉母 砂粒子	破片	C-7-16-25	
112	2号溝	12	土師	甗	-	-	-	外ハケ 内ユビナテ・ナテ	褐色色 褐色	金色葉母 白・黒・赤色粒子	20%	C-7 C-7-21-22-23-25	
112	2号溝	13	土師	甗	-	(14.8)	-	外ハケ 内ユビナテ・ナテ	赤褐色	金色葉母 白色粒子	30%	B-8 B-8-64-65-73 C-8 C-8-7-3-74- C-7	
112	2号溝	14	土師	甗	-	-	-	外ハケ 内ユビナテ・ナテ	明褐色 褐色	金色葉母 白・黒・赤色粒子	破片	C-7 C-7-25	
112	2号溝	15	土師	高杯	17.0	3.0	-	内外ナテ	赤褐色 明赤褐色	金色葉母 赤・白色粒子	60%	B-7-7	
112	2号溝	16	土師	高杯	-	(6.0)	(13.0)	外ミダキ 内ハケ調整 円孔あり	褐色	金色葉母 赤・褐色粒子	30%	C-7 C-7-34-130	
112	2号溝	17	土師	高杯	-	5.3	-	外ミダキ 内ケズリ 円孔あり	褐色 明褐色	金色葉母	10%	B-8 B-8-85	
112	2号溝	18	土師	小型丸底鉢	16.0	6.0	-	外ナテ一部ケズリ 内ミダキ	褐色	金色葉母 石灰	破片	C-8-41	
112	2号溝	24	土師	甗	-	-	-	外ナテハテ 内口コハテ	明赤褐色	石灰 砂粒子	破片	B-7	
113	2号溝	25	土師	高台付杯	-	(3.8)	(6.0)	クロナテ	褐色	金色葉母 石灰 スコリア	20%	B-7-208	
113	2号溝	26	土師	甗	-	-	(32.8)	外ナテハテ 内口コハテ 出願痕あり	にぶい赤褐色	金色葉母 石灰	破片	B-8-97-105	
126	3号溝	1	土師	杯	(12.0)	5.6	(6.4)	クロナテ 底部糸切痕 内製	褐色	金色葉母	10%	A-12-4	
126	3号溝	2	土師	杯	(15.5)	(4.8)	-	クロナテ	褐色	金色葉母 赤色粒子	20%	B-12-67	
126	3号溝	3	土師	杯	(13.0)	(2.8)	-	クロナテ	褐色	石灰 スコリア	20%	B-11-141	
126	3号溝	4	土師	杯	(13.1)	2.2	(6.0)	クロナテ 底部糸切痕	褐色	内河石	25%	A-12 B-11-119-140	
126	3号溝	5	土師	杯	-	(1.1)	(6.0)	クロナテ 底部糸切痕 内製	褐色	金色葉母 白色粒子	25%	A-12-13	
126	3号溝	6	土師	杯	-	(1.1)	(4.4)	クロナテ後部へラケズリ 底部へラケナテ 内製	褐色	石灰	25%	B-12-37	底部糸切痕あり
126	3号溝	7	土師	杯	-	(8.5)	(4.8)	クロナテ 底部糸切痕 内製	褐色	内河石	25%	B-10-15	底部糸切痕あり

時期 No.	出土地点	動物 No.	種別	器種	法長 (cm)		用途	産地	色調	出土	保存 率	注記 No.	その他	
					口径	器高								
126	3号溝	8	土師	高台付杯	-	(2.7)	16.9	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	角閃石 石英	25%	B-11-155	
126	3号溝	9	土師	柱状高台付杯	-	(1.5)	16.9	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	角閃石 石英	60%	B-11-129	
126	3号溝	10	土師	柱状高台付杯	-	(2.1)	18.9	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	石英 金色雲母 砂鉄子	20%	A-13-30	
126	3号溝	11	土師	柱状高台付杯	-	(1.8)	(3.2)	ヘラケズリ 紐部ナデナデ	底部未切痕	褐色	石英	50%	B-11-132	
126	3号溝	12	土師	甕	(12.9)	(11.3)	-	ロクロナデ	ケズリ 断面圧痕	赤褐色	角閃石 金色雲母	10%	B-11-7	
126	3号溝	13	埴土	甕	(17.8)	(33.3)	-	ロクロナデ		灰色	石英 金色雲母	10%	B-11-126	
126	4号溝	1	土師	杯	(1.9)	3.9	3.5	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	石英 金色雲母	100%	C-21	皿-1
126	4号溝	2	土師	杯	(3.9)	4.2	6.9	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	石英 金色雲母	100%	C-21-60	
126	4号溝	3	土師	杯	(12.1)	3.1	6.9	ロクロナデ		褐色	金色雲母 スコリア	40%	C-21-170	
126	4号溝	4	土師	杯	(11.4)	3.1	16.0	内口ロクロナデ	底部未切痕	褐色	金色雲母 砂鉄	40%	C-21-1	
126	4号溝	5	土師	甕	(11.8)	3.1	14.8	ロクロナデ	内面ナデ	褐色	金色雲母	25%	C-19-180	
126	4号溝	6	土師	甕	(11.1)	2.1	15.4	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	金色雲母	100%	C-21 皿-6	
126	4号溝	7	土師	甕	(9.2)	2.2	4.8	ロクロナデ		褐色	金色雲母 霞	50%	C-19-13・23	底部にコケあり
126	4号溝	8	土師	杯	8.0	2.1	1.9	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	石英 金色雲母	100%	C-18-64	
126	4号溝	10	土師	杯	11.6	2.3	4.8	ロクロナデ		緑褐色	金色雲母 スコリア 白色砂子	70%	D-21-3	
126	4号溝	11	七瀬	杯	(13.0)	2.3	-	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	金色雲母 スコリア	30%	C-21 C-21-177	外スス付着
126	4号溝	12	土師	高台付杯	-	(3.1)	(2.8)	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	石英 金色雲母	50%	C-19-38	
126	4号溝	13	土師	高台付杯	-	(2.8)	-	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	石英 金色雲母	90%	C-22-204	
126	4号溝	14	土師	柱状高台付杯	-	(2.8)	7.8	ロクロナデ		褐色	石英 金色雲母	40%	C-18-64	
126	4号溝	15	土師	柱状高台付杯	-	(2.6)	(2.8)	ロクロナデ	底部未切痕	褐色	石英	60%	C-18-198	
126	4号溝	16	土師	柱状高台付杯	-	(1.7)	(4.4)	ロクロナデ		褐色	石英	25%	C-20	
126	4号溝	17	土師	甕	(18.0)	(25.1)	-	ロクロナデ		褐色	黄砂子	30%	C-17 C-18-5	
126	4号溝	18	長輪陶器	甕	(17.2)	(23.1)	-	ロクロナデ		灰白色	赤色砂子	10%	C-21-213	
126	4号溝	19	長輪陶器	甕	(11.2)	(13.1)	-	ロクロナデ		灰色	黒色砂子	10%	C-22-216	
126	4号溝	20	長輪陶器	甕	(10.4)	(13.1)	-	ロクロナデ		灰色	赤コリア 白色砂子	10%	C-21	
127	4号溝	21	長輪陶器	甕	(10.6)	(16.1)	-	ロクロナデ		灰一アープ色	赤砂子	10%	4皿-50	
127	4号溝	22	長輪陶器	甕	-	(2.1)	(2.8)	繋ぎ付け		灰色	白色砂子	30%	4皿-6・112	
127	4号溝	23	長輪陶器	甕	-	(1.8)	6.0	繋ぎ付け		灰白色	白色砂子	40%	C-21-皿-4	
127	4号溝	24	長輪陶器	甕	-	(1.3)	16.6	繋ぎ付け		灰一アープ色	白色砂子	30%	C-18-228	
127	4号溝	25	長輪陶器	甕	-	(4.8)	(8.0)	繋ぎ付け		白色砂子	40%	C-21-皿-5		
127	4号溝	26	長輪陶器	甕	(16.3)	(15.1)	-	ロクロナデ		灰白色	白色砂子	10%	4皿-106	
127	4号溝	27	長輪陶器	甕	(10.6)	(14.0)	-	ロクロナデ		浅黄色	白色砂子	20%	4皿-179	
127	4号溝	28	長輪陶器	甕	-	-	-	ナデ 内面圧痕		灰色	石英 角閃石	甕片	4皿-17	
127	4号溝	29	長輪陶器	長甕	-	(3.2)	-	ロクロナデ		灰白色	白色砂子	20%	4皿-1	
127	4号溝	30	長輪陶器	甕	-	(5.0)	(8.4)	ロクロナデ		灰白色	白色砂子 黒色砂子	70%	C-17-13・15・17	
127	4号溝	31	長輪陶器	甕	-	(2.0)	(8.4)	ロクロナデ	底部未切痕	灰白色	石英	20%	C-19-147	
127	4号溝	32	長輪陶器	甕	(12.6)	(11.3)	-			緑色	甕片	4皿-5		
127	4号溝	33	長輪陶器	甕	(15.0)	(12.1)	-			淡青褐色	甕片	C-20		
127	4号溝	34	長輪陶器	甕	(11.6)	(11.1)	-			濃緑色	甕片	4皿-48		
127	4号溝	35	長輪陶器	甕	-	(1.5)	-			緑色	甕片	B-21		
127	4号溝	36	長輪陶器	甕	-	(1.1)	-			緑色	甕片	4皿-67		
127	4号溝	37	長輪陶器	甕	-	(1.7)	-			灰一アープ色	甕片	C-20		
127	4号溝	38	長輪陶器	甕	-	(1.6)	-			緑色	甕片	4皿-221		
127	4号溝	39	長輪陶器	甕	12.9	2.1	6.9	ロクロナデ		褐色	C-21 4皿-18	100%	C-21 4皿-18	
127	4号溝	40	長輪陶器	甕	-	(1.0)	-			灰一アープ色	甕片	C-18		
127	4号溝	41	長輪陶器	甕	-	(0.8)	-			淡緑色	甕片	4皿-121		
127	4号溝	42	長輪陶器	高台付杯	-	(1.1)	-			淡青褐色	甕片	4皿-23		
127	4号溝	43	長輪陶器	高台付杯	-	(1.2)	-			淡青褐色	甕片	C-17-48		
127	4号溝	44	長輪陶器	杯	-	(3.8)	-			灰色	10%	B-21・136 C-21		
127	4号溝	45	長輪陶器	甕	-	(3.8)	(8.6)			内面灰色 外面緑色	10%	C-21-212		
127	4号溝	46	長輪陶器	長甕	-	(7.3)	-	ロクロナデ		灰白色	白色砂子	20%	C-18-119 C-20-49	
127	4号溝	47	惣土	甕	-	(7.0)	-	内口ロクロナデ		灰褐色	石英	甕片	C-20-21	
127	4号溝	48	惣土	甕	-	(4.1)	-	ロクロナデ		オリーブ褐色	角閃石 石英 砂鉄子	甕片	C-17-146	
127	4号溝	49	惣土	甕	-	(5.7)	-	ロクロナデ		灰白色	白色砂子	甕片	C-17-34	
127	4号溝	50	惣土	甕	-	(5.7)	-	ロクロナデ		灰白色	白色砂子	甕片	B-18-1	転用後
127	4号溝	51	惣土	甕	-	(4.1)	-	ロクロナデ		灰色	白色砂子	甕片	C-20	
127	4号溝	52	惣土	発付内直甕	-	(2.1)	-	ロクロナデ		褐色	石英 砂鉄子	甕片	C-19	
128	4号溝	53	土師	甕	(25.2)	(24.1)	-	外ナデハケ 内口コハケ		に濃い赤褐色	石英 金色雲母	10%	C-21-112	
128	4号溝	54	土師	甕	-	(14.5)	(8.0)	外ナデハケ 内口コハケ	断面圧痕	暗赤褐色	金色雲母 白色砂子 黒色砂子	45%	C-17 C-17-66・86・ 87・103 C-18-13・ 213 C-19 C-19-86・88・ 96・98・103・111 C- 22-14	
128	4号溝	55	土師	甕	(8.1)	(12.8)	-	ヘラケズリ		に濃い赤褐色	石英 金色雲母 砂鉄子	40%	C-21 C-21-40・66	惣土系
128	4号溝	56	土師	甕	12.8	(12.8)	-	外口コハケ 内ヘラケズリ 口縁部ナデコハケ 断面圧痕		褐色	石英 金色雲母	30%	C-20-120・131・148	

棟別 No.	土地地点	建物 No.	種 類	種 類	法長 (cm)		真 装	色 調	防 土	積 率	注 記 No.	そ の 他	
					口 径	深 度							
128	4号溝	57	土留	二重口縁面	22.8	(7.4)	-	ミガキ	褐色	石英 金色雲母 スコリア	20%	C-20 C-21-78	
128	4号溝	58	土留	壁	(15.8)	(9.9)	-	外内縁積み	灰褐色	金色雲母 スコリア 砂粒子	破片	C-20-168	
128	4号溝	59	土留	壁	-	(6.2)	-	外内縁積み	褐色	角閃石 石英 金色雲母 スコリア	破片	C-19-165	
128	4号溝	60	土留	壁	(17.7)	(4.7)	-	外内ミガキ	にぶい黄褐色	石英 金色雲母 スコリア 砂粒子	破片	C-17-28	
128	4号溝	61	土留	壁	-	(17.3)	-	外内ナゲミガキ 縁積戻	にぶい黄褐色	角閃石 石英 金色雲母	35%	C-20-25・72 C-21 C-21-5・83・121・147 C-22-148-168	
128	4号溝	62	土留	台付美	31.6	(19.7)	-	外口縁面ヨコナテ縁部タテハケ 内ヨコナテ縁ナテ 縁積戻	にぶい藍色	石英 金色雲母 砂粒子	85%	C-21-3・28・39・46	
129	4号溝	63	土留	壁	(17.8)	(6.5)	-	外ハケ内ミガキ	灰褐色	角閃石 石英 金色雲母	20%	C-21-6・119・122	
129	4号溝	64	土留	台付美	-	(10.1)	9.2	外タテハケ 縁積戻	にぶい藍色	石英 金色雲母 砂粒子	25%	C-20 C-20-124	
129	4号溝	65	土留	台付美	-	(5.5)	7.5	外ケズリ縁ハケ 内ハケ	にぶい藍色	石英 金色雲母 砂粒子	10%	C-21-42	
129	4号溝	66	土留	台付美	-	(5.5)	8.0	ヘラケズリ	にぶい赤褐色	石英 砂粒子	10%	C-21-82	
129	4号溝	67	土留	台付美	-	(5.1)	-	外ケズリ内ハケ	にぶい黄褐色	石英 金色雲母 砂粒子	10%	C-17-69	
129	4号溝	68	土留	高杯	-	(4.1)	-	外ヘラケズリ	にぶい赤褐色	石英 金色雲母 スコリア	10%	C-21-111	
129	4号溝	69	土留	高杯	-	(6.8)	-	外ヘラケズリ	褐色	石英 金色雲母 スコリア	10%	C-17-7	
129	4号溝	70	土留	小型鉢	13.8	(7.1)	-	ナゲ縁ハケ	にぶい褐色	石英 砂粒子	25%	C-21 C-21-171	
129	4号溝	71	土留	壁	(15.8)	(6.0)	-	外ハケ 内ヘラケズリ	明赤褐色	石英 金色雲母 黒色珪 スコリア	20%	C-21 C-21-142	
129	5号溝	1	土留	杯	(13.8)	5.3	(5.0)	ロクロナテ内端文 底部赤切戻 縁部付底縁ヘラケズリ	にぶい赤褐色	スコリア	25%	5溝 C-35-13	内縁
129	5号溝	2	土留	杯	(11.2)	4.8	(3.7)	ロクロナテ内端文 縁部付底縁ヘラケズリ	褐色	角閃石 石英 スコリア	20%	5溝 B-38-40	
129	5号溝	3	土留	杯	(13.4)	13.1	-	ロクロナテ底部付底ヘラケズリ 縁積	褐色	スコリア	20%	5溝 C-36	
129	5号溝	4	土留	杯	(13.8)	(4.5)	-	ロクロナテ 端文	にぶい褐色	角閃石 スコリア	10%	5溝 C-37	
129	5号溝	5	土留	杯	-	(2.8)	(7.0)	外ヘラケズリ 内ロクロナテ 端 文	にぶい藍色	石英 金色雲母	10%	5溝 B-38-29	
129	5号溝	6	土留	杯	-	(2.2)	(6.4)	端文 底部赤切戻	にぶい藍色	角閃石 金色雲母	30%	5溝 B-38-49 B-38	
129	5号溝	7	土留	杯	-	(2.7)	6.3	ロクロナテ 側面正戻 底部赤 切戻	にぶい褐色	石英 金色雲母	60%	5溝 C-36-116 C-37-88	
129	5号溝	8	土留	杯	(9.2)	2.1	6.0	ロクロナテ 底部赤切戻	灰褐色	石英 金色雲母 砂粒子	80%	5溝 C-37-70	
129	5号溝	9	土留	杯	(12.8)	2.9	(5.8)	ロクロナテ 縁部付底縁ヘラケズリ 底部赤切戻	灰褐色	石英 金色雲母 スコリア	25%	5溝 C-37-100・125	
129	5号溝	10	土留	杯	(11.8)	2.9	(5.0)	ロクロナテ 底部赤切戻	褐色	角閃石 金色雲母 スコリア	30%	C-36-31	灯明足
129	5号溝	11	土留	杯	(7.5)	2.2	(4.1)	ロクロナテ縁ヘラケナテ	褐色	角閃石	25%	5溝 A-39 B-38	
129	5号溝	12	土留	足高台付杯	-	(4.3)	(8.8)	ロクロナテ	褐色	角閃石	20%	5溝 C-36-31	
129	5号溝	13	土留	足高台付杯	-	(2.1)	-	ロクロナテ ヘラケズリ	にぶい褐色	石英 金色雲母 砂粒子 スコリア	20%	A-30-33	
129	5号溝	14	土留	高台付杯	-	(2.2)	6.5	ロクロナテ 筋ナテ 内縁	にぶい褐色	石英 金色雲母 スコリア	20%	5溝 C-35-38	
129	5号溝	15	土留	高台付杯	-	(1.8)	3.8	ロクロナテ ヘラケズリ	にぶい藍色	石英 金色雲母 砂粒子	10%	5溝 C-30-115	
129	5号溝	16	土留	柱状高台付杯	-	(2.3)	5.6	ロクロナテ 底部赤切戻	褐色	石英 金色雲母 砂粒子	20%	5溝 C-36-15	
129	5号溝	17	灰釉陶器	碗	(17.2)	5.7	(4.1)	ロクロナテ縁ヘラケナテ 筋つ け付	灰黄色	石英	20%	5溝 B-37-71 B-38-29	
129	5号溝	18	灰釉陶器	碗	(12.8)	2.6	-	ロクロナテ	褐色	砂粒子	15%	5溝 C-36-1	
129	5号溝	19	灰釉陶器	碗	-	(2.3)	5.5	ロクロナテ 底部赤切戻	灰白色	石英	20%	5溝 B-39-40	
129	5号溝	20	灰釉陶器	碗	-	(2.4)	6.0	ロクロナテ 底部赤切戻縁ナテ	灰黄色	石英	20%	5溝 B-37-20	
129	5号溝	21	灰釉陶器	高脚瓶	-	-	-	ロクロナテ	褐色	石英 白色砂子	破片	C-27	
129	5号溝	22	灰釉陶器	高脚瓶	-	-	-	ロクロナテ	灰白色	石英 砂粒子	10%	5溝 C-34-3	
129	5号溝	23	灰釉陶器	瓶	-	(3.1)	(9.4)	ロクロナテ縁ナテ	灰白色	石英 砂粒子	15%	5溝 A-39-46	
130	5号溝	24	灰釉陶器	高脚瓶	-	(5.2)	-	ロクロナテ	明緑灰色	石英	50%	5溝 C-37-29	
130	5号溝	25	灰釉陶器	瓶	-	4.7	-	ロクロナテ	灰白色	白色砂子	破片	5溝 C-37-11	
130	5号溝	26	灰釉陶器	赤黒高台付	-	(3.8)	(6.8)	ロクロナテ 底部赤切戻縁ナテ	褐色	石英 砂粒子	15%	5溝 A-39-43	
130	5号溝	27	磁器陶器	碗	(10.4)	12.4	-	ロクロナテ	灰褐色	石英	5%	C-36-113	
130	5号溝	28	磁器陶器	瓶	(13.8)	12.2	-	ロクロナテ 縁積あり	灰褐色	破片	5%	C-36-13	
130	5号溝	29	磁器陶器	碗	(10.5)	11.0	-	ロクロナテ	褐色	破片	5%	C-35	

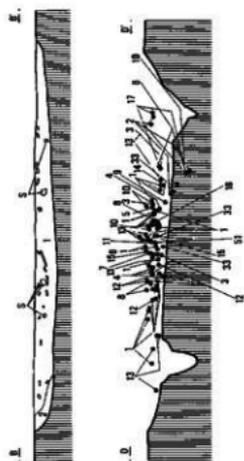
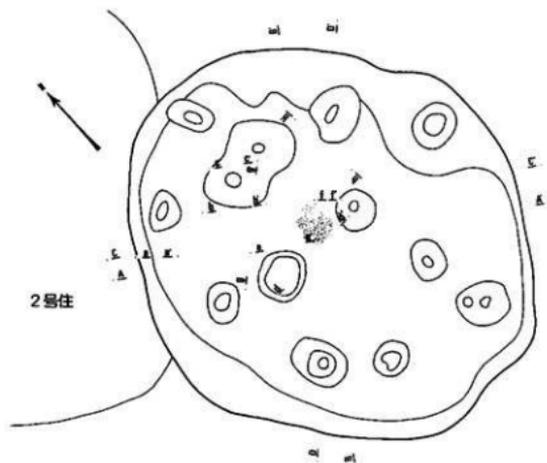
検体 No.	出土地点	遺物 No.	種別	器種	法量 (cm)			調製	色調	胎土	残存 率	注記 No.	その他
					口径	高さ	底径						
130	5号溝	30	緑釉陶器	小皿	-	-	-	緑色		焼片	5割	C-35	
130	5号溝	31	緑釉陶器	不明	-	11.51	-	白緑色		焼片	5割	C-35-95	
130	5号溝	32	緑釉陶器	不明	-	10.91	-	浅緑色		焼片	5割	C-37-26	
130	5号溝	33	緑釉陶器	不明	-	11.01	-	浅緑色		焼片	5割	C-39-50	
130	5号溝	34	緑釉陶器	不明	-	11.01	-	浅緑色		焼片	5割	C-36	
130	5号溝	35	緑釉陶器	不明	-	10.91	-	白緑色		焼片	5割	C-36	
130	5号溝	36	緑釉陶器	不明	-	10.91	-	緑色		焼片	5割	C-35-72	
130	5号溝	37	漆器	蓋	-	13.81	-	黒褐色	石英 砂粒子	焼片	5割	B-36-7	
130	5号溝	38	漆器	木蓋	-	13.51	14.81	黒褐色	石英 砂粒子	15%	5割	C-36-118	
130	6号溝	1	漆器	蓋	-	10.01	-	灰白色	角閃石 石英	20%	B-29-3・6	飯用碗	
130	6号溝	2	土師	高台付杯	-	11.61	17.21	灰白色	白色粒子	20%	B-34-2	飯用碗	
130	6号溝	3	漆器	瓶	-	16.61	-	褐色	石英 白色粒子	焼片	A-29-2		
130	7号溝	1	土師	杯	(13.2)	3.53	6.0	黒クロナダ 底部未切取	にぶい褐色	50%	B-43 B-43-14・15・17・34-26・27・43	灯明皿	
130	7号溝	2	土師	杯	(12.6)	3.5	(6.0)	黒クロナダ 底部未切取	黄褐色	石英 金色雲母 スコリア	80%	B-43-24・26	灯明皿
130	7号溝	3	土師	杯	-	(3.51)	(5.0)	黒クロナダ 底部未切取	褐色	金色雲母 砂粒子 スコリア	50%	B-42-1	
130	7号溝	4	土師	杯	-	(2.21)	(5.4)	黒クロナダ	灰黄色	金色雲母 スコリア	80%	B-42-5・6	灯明皿
130	7号溝	5	土師	杯	-	(1.4)	(5.0)	黒クロナダ 底部未切取	褐色	角閃石 金色雲母	50%	C-43-1・5	
130	7号溝	6	緑釉陶器	碗	(8.8)	1.81	-	緑色		焼片	7割	B-41-4	
130	7号溝	7	緑釉陶器	碗	(10.6)	1.11	-	灰ケリーブ色		焼片	7割	B-42-32	
130	7号溝	8	緑釉陶器	碗	-	11.01	-	灰ケリーブ色		焼片	7割	B-42	
130	7号溝	9	緑釉陶器	碗	-	12.01	-	灰ケリーブ色		焼片	7割	C-40-19	
131	7号溝	10	土師	鉢	(34.3)	18.51	-	外ナデハナ 内ヘラナデ 指図 有底 輪縁取	にぶい褐色	角閃石 石英 金色雲母	20%	B-43 B-43-1・2・5・20・28	
131	7号溝	11	土師	羽釜	(32.0)	19.01	-	外ナデ 内ヨコハケ 指図有底 輪縁取	にぶい黄褐色	石英 金色雲母	15%	B-43-11・22	
131	7号溝	12	土師	羽釜	(29.0)	16.31	-	内ヨコハケ	褐色	金色雲母 角閃石	焼片	C-42-4	
131	8号溝	1	土師	杯	(12.0)	3.4	5.2	黒クロナダ	褐色	角閃石 金色雲母 スコリア	100%	A-42-61	灯明皿
131	8号溝	2	土師	杯	(12.6)	6.1	(7.0)	黒クロナダ	浅黄褐色	石英	55%	B-42-3	
131	8号溝	3	土師	杯	(12.6)	5.2	(6.6)	黒クロナダ 底部未切取	浅黄褐色	石英	20%	A-42-64	
131	8号溝	4	土師	杯	(16.2)	3.6	(9.0)	黒クロナダ 底部未切取	褐色	石英 金色雲母	20%	A-42-7	
131	8号溝	5	土師	杯	(12.6)	2.7	(3.4)	黒クロナダ 内ヘラナデ 底部未切取	褐色	金色雲母 赤色粒子	30%	A-42-16 B-41-7	
131	8号溝	6	土師	蓋	(8.4)	2.3	(6.6)	黒クロナダ 底部未切取	褐色	石英 金色雲母	75%	B-41-10	
131	8号溝	7	土師	高足高台付杯	-	(2.0)	(9.2)	黒クロナダ 底部未切取	褐色	石英 金色雲母	30%	B-42-4・5	
131	8号溝	8	土師	形状高台付杯	-	(2.3)	(4.8)	黒クロナダ	浅黄褐色	石英 金色雲母	70%	A-42-23	
131	8号溝	9	土師	蓋	(23.0)	(3.5)	-	外ナデハナ ヨコナデ	明赤褐色	石英 金色雲母	25%	A-42-62	
131	8号溝	10	土師	蓋	(27.0)	(9.5)	-	内ヨコハケ ナデ	にぶい褐色	角閃石 金色雲母	20%	A-42-60	
131	8号溝	11	土師	蓋	(27.0)	(13.5)	-	ヨコナデ	明褐色	角閃石 石英 金色雲母	25%	A-41-3・6 B-41 B-41-1・4・5	
131	8号溝	12	土師	羽釜	(17.6)	14.81	-	ナデ 指図有底	褐色	角閃石 石英 金色雲母	20%	A-42-56	
132	8号溝	13	土師	羽釜	(21.6)	16.61	-	外ナデ 内ヨコハケ	明赤褐色	角閃石 金色雲母	70%	A-42-55	
132	8号溝	14	土師	羽釜	(23.0)	17.01	-	外ナデハナ 内ヨコハケ	明赤褐色	石英 金色雲母	25%	A-42-53	
132	8号溝	15	土師	蓋	(20.0)	(5.1)	-	ナデ 内ヘラナデ 指図有底	にぶい褐色	角閃石 金色雲母	20%	A-41-3・7	
132	8号溝	16	土師	杯	-	(6.2)	-	黒クロナダ	黄褐色	石英 黒色粒子	焼片	A-42 A-42-41	
132	8号溝	17	漆器	蓋	-	(7.2)	-	外ナデ	灰褐色	石英	焼片	A-42 A-43	
132	9号溝	1	土師	杯	(12.4)	3.1	(6.4)	黒クロナダ 底部未切取	褐色	石英 金色雲母	30%	C-44-30	
132	9号溝	2	灰釉陶器	花瓶	-	(4.4)	-	黒クロナダ	灰白色	白色粒子	30%	C-43-10	
132	9号溝	3	緑釉陶器	蓋	(15.0)	(2.0)	-	黒クロナダ	緑色	焼片	9割	C-44-15	
132	9号溝	4	土師	蓋	(24.0)	(16.2)	-	ナデ 指図有底 輪縁取	にぶい褐色	金色雲母	10%	C-44 C-44-12・23・24	
132	9号溝	5	土師	鉢	(29.0)	(3.6)	-	ナデ	褐色	角閃石 石英 金色雲母	35%	C-44-30	
132	南側部	1	土師	杯	(17.3)	5.6	(5.6)	黒クロナダ ヘラケズリ	褐色	金色雲母 スコリア	80%	B-48-4 C-46-29・80・111・123・124	外コゴケあり
132	南側部	2	土師	杯	(12.4)	4.8	(4.2)	黒クロナダ 外ヘラケズリ	にぶい黄褐色	金色雲母 スコリア	50%	C-46-31・49	底部コゴケあり
132	南側部	3	土師	杯	(12.6)	2.7	(4.8)	黒クロナダ 外ヘラケズリ	明赤褐色	金色雲母 スコリア	50%	C-46-137	外側面コゴケあり
132	南側部	4	土師	杯	(16.6)	4.2	(4.6)	外クロナダ ヘラケズリ	にぶい黄褐色	金色雲母 スコリア	40%	C-46-134	
132	南側部	5	土師	杯	(12.6)	5.6	(3.4)	黒クロナダ 底部未切取	褐色	金色雲母 スコリア	30%	C-45-25 C-46-2 C-47-2	
132	南側部	6	土師	杯	(11.4)	3.2	(6.0)	黒クロナダ 底部未切取	褐色	金色雲母 スコリア	29%	C-47-2	
132	南側部	7	土師	杯	(12.6)	(2.8)	-	黒クロナダ	褐色	金色雲母 スコリア	29%	C-46-34・73	
132	南側部	8	土師	杯	-	(2.2)	(6.2)	黒クロナダ 底部未切取	褐色	金色雲母 スコリア	49%	C-46-11・14・87	
132	南側部	9	土師	杯	-	(3.9)	1.6	ヘラケズリ 底部未切取	褐色	金色雲母 スコリア	30%	C-46-30	
132	南側部	10	土師	蓋	(12.4)	1.8	(9.2)	外クロナダ ヘラケズリ 内ナデ 輪縁あり	褐色	金色雲母 スコリア	40%	C-46-115	底部コゴケあり
132	南側部	11	土師	蓋	-	(1.2)	(6.8)	黒クロナダヘラケズリ	褐色	金色雲母 スコリア	30%	C-46-106・115	

探洞 No.	遺跡 No.	種別	器種	法長 (cm)		調査	色調	粘土	残存 率	注記 No.	その他	
				口径	高さ							
132	南陽分館 12	土師	甕	(12.2)	2.4	(5.6)	外口ロコナデ ヘラケズリ ナ デ	褐色	金色雲母	40%	C-45-5・6	
133	南陽分館 13	土師	杯	(14.6)	3.3	(7.8)	外口ロコナデ 底部糸切痕	明褐色	金色雲母 スコリア	30%	C-46-75	
133	南陽分館 14	土師	高台付杯	-	(1.8)	(9.2)	底部糸切痕	明赤褐色	金色雲母 スコリア	40%	C-46-41・56	
133	南陽分館 15	灰輪陶器	罎	(17.8)	(2.6)	-	ロコナデ	灰白色	石炭 黒色雲母	20%	C-46-35	
133	南陽分館 16	灰輪陶器	高台付杯	-	(1.4)	(7.0)	胴部ヘラケズリ	灰白色	石炭	15%	C-46	
133	南陽分館 17	灰輪陶器	罎	-	(6.8)	-	-	灰白色	黒色雲母	10%	C-46-76	
133	南陽分館 18	土師	甕	(26.4)	(5.4)	-	外口ナメハケ 内口コハケ	にぶい赤褐色	角閃石 石英 金色雲母	薄片	C-46-53	
133	南陽分館 19	土師	罎	(26.4)	(5.3)	-	ナデ縁部凹状痕 輪縁痕	褐色	石英 金色雲母 スコリア	薄片	C-46-1	
133	南陽分館 20	土師	罎	-	(3.1)	(8.0)	底部本蓋痕	にぶい赤褐色	石英 金色雲母	薄片	C-46-116・128	
133	南陽分館 21	土師	甕	-	(4.7)	-	外口コヘラナデ 内口ナメハケ	灰褐色	角閃石 石英 金色雲母	薄片	C-46-64	給文字の残欠も の
133	南陽分館 22	土師	甕	-	(4.1)	-	外口コヘラナデ 内口コハケ	赤褐色	角閃石 石英 金色雲母	薄片	C-46-12	
133	南陽分館 23	須恵	罎	-	(8.2)	-	外口ナメ	灰色	石英	薄片	C-46-125	
133	南陽分館 24	須恵	罎	-	(4.9)	-	ナメ	灰オリーブ色	石英	薄片	C-46-125	
133	南陽分館 25	土師	S字罎	12.2	(4.6)	-	外口ナメ 内口凹状痕	褐色	石英 金色雲母 砂鉄	15%	C-46-97・98・101・ 102	
133	南陽分館 26	磁器	罎	-	(1.8)	(9.6)	上蓋	灰白色	-	20%	C-46-18	
133	墓2号墓	土師	罎	14.2	2.9	(7.5)	ロコナデ 底部糸切痕	にぶい褐色	石英 金色雲母	100%	A-30-1	
136	遺跡外 99	土師	罎	(15.0)	(5.2)	-	外口ナデ	にぶい黄褐色	金色雲母	薄片	B-38-34	
136	遺跡外 100	土師	高杯	-	(2.8)	-	外口ナデ 内口ナメ	にぶい褐色	金色雲母	薄片	B-10-18	
136	遺跡外 101	土師	罎	(10.5)	6.4	4.8	外口ナデ	褐色	石英 金色雲母	98%	C-21-72	
136	遺跡外 102	磁輪陶器	杯	(10.4)	(1.2)	-	-	オリーブ灰色	薄片	A-35-8		
136	遺跡外 103	磁輪陶器	罎	(5.8)	(1.2)	-	-	黄褐色	薄片	C-18		
136	遺跡外 104	磁輪陶器	罎	(4.6)	(0.9)	-	-	褐色	薄片	C-6		
136	遺跡外 105	磁輪陶器	杯	-	(1.6)	-	-	緑色	薄片	B-10		
136	遺跡外 106	磁輪陶器	杯	-	(1.4)	-	-	オリーブ色	薄片	B-12		
136	遺跡外 107	磁輪陶器	杯	-	(1.0)	-	-	緑色	薄片	C-19		
136	遺跡外 108	磁輪陶器	杯	-	(1.8)	-	-	緑色	薄片	A-7		
136	遺跡外 109	磁輪陶器	杯	-	(1.5)	-	-	褐色	薄片	C-24		
136	遺跡外 110	磁輪陶器	罎	-	(0.8)	-	-	オリーブ色	薄片	C-19		
136	遺跡外 111	磁輪陶器	杯	-	(1.7)	-	-	緑色	薄片	C-19		
136	遺跡外 112	磁輪陶器	高台付杯	-	(1.2)	(6.4)	-	緑色	10%	D-21		
136	遺跡外 113	磁輪陶器	高台付杯	-	(1.2)	(6.0)	-	褐色	薄片	C-20		
136	遺跡外 114	磁輪陶器	高台付杯	-	(1.2)	(6.4)	-	褐色	薄片	B-11-103		
136	遺跡外 115	磁輪陶器	高台付杯	-	(0.8)	-	-	黄褐色	薄片	C-3-220		
136	遺跡外 116	磁器	甕蓋具	-	(4.6)	(3.9)	外上蓋 ロコナデ 底部糸切痕	にぶい黄褐色	金色雲母	70%	C-4-454	
136	遺跡外 117	磁器	罎	-	(1.8)	(6.0)	-	-	25%			
194	37住 1	土師	杯	14.4	5.2	7.4	ロコナデ 底部糸切痕	褐色	石英	100%	D-N-34カマド	灯明皿
194	37住 2	土師	杯	(11.8)	3.2	3.3	ロコナデ 底部糸切痕	褐色	石英	80%	D-N-40カマド	
194	37住 3	土師	杯	(11.5)	4.0	5.7	ロコナデ 底部糸切痕	褐色	金色雲母	70%	D-N-37カマド	
194	37住 4	土師	杯	(12.5)	2.9	5.6	ロコナデ 底部糸切痕	褐色	石英 金色雲母 砂鉄	40%	D-N-79・82	
194	37住 5	土師	杯	(12.0)	3.3	(8.2)	ロコナデ	褐色	石英 金色雲母 スコリア 砂鉄	70%	D-N-26	
194	37住 6	土師	罎	(10.8)	1.9	(4.5)	ロコナデヘラナデ 器縁穿孔 底部糸切痕	明赤褐色	金色雲母 スコリア 砂鉄	20%	D-N-4	
194	37住 7	土師	罎	(28.8)	(24.8)	-	外口ナメハケ 内口コハケ ヘラケズリ 輪縁	褐色	石英 金色雲母	20%	D-N-30カマド	
194	37住 8	土師	罎	(28.8)	(11.5)	-	外口ナメハケ 内口コハケ ヘラケズリ	にぶい赤褐色	石英 金色雲母	25%	D-N-39カマド	
194	37住 9	土師	罎	(26.4)	(11.5)	-	外口ナメハケ 内口コハケ ヘラケズリ 輪縁	にぶい赤褐色	石英 金色雲母	20%	D-N-47カマド	
194	37住 10	土師	罎	(26.4)	(7.7)	-	外口ナメハケ 内口コハケ ヘラケズリ 輪縁	明赤褐色	石英 スコリア 砂鉄	10%	D-N-5	
195	37住 11	土師	罎	(26.0)	(4.6)	-	外口ナメハケ 内口コハケ	にぶい褐色	石英 金色雲母	薄片	D-N-18	
195	37住 12	土師	罎	(22.0)	(4.0)	-	ヘラナデ	褐色	石英 金色雲母	薄片	D-N-15・22カマド	
195	37住 13	土師	罎	(26.0)	(5.5)	-	ヘラナデ 器縁正痕	にぶい赤褐色	金色雲母	薄片	D-N-70	
195	37住 14	土師	罎	-	(18.8)	-	外口ナメヘラナデ 内口コハケ器縁正痕	にぶい褐色	石英 金色雲母	薄片	D-N-41・44カマド	
195	37住 15	土師	罎	-	(8.0)	8.4	外口ナメヘラナデ 内口コハケ 底部本蓋痕	にぶい褐色	石英 金色雲母	薄片	D-N-29カマド	
196	37住 16	土師	罎	-	(3.9)	(9.0)	外口ナメヘラナデ 内口ナデ 底部本蓋痕	にぶい褐色	石英 金色雲母	薄片	D-N-11	
196	37住 17	土師	甕蓋	-	(1.7)	-	ナデ	赤褐色	石英 角閃石 金色雲母	薄片	D-N	

神鋼 No.	出土地点	遺物 No.	種類	器 種	法量 (cm)		調 整	色 調	動 上	残存 率	注 記 No.	その他	
					口径	高さ							
195	37 庄	18	土師	羽釜	(26.0)	(12.0)	-	ヘラナデ 裾部圧痕	にぶい橙	石英 内四石 金色雲母	破片	D-F-20・21	
195	37 庄	19	土師	羽釜	(26.0)	(9.3)	-	ヘラナデ	赤褐色	金色雲母 砂粒子	破片	D-F-50	
192	38 庄	3	土師	二重口縁壺	(18.6)	(2.9)	-	外ナデ 内ミゴキ	赤褐色	石英 砂粒子	破片	D-II	
192	38 庄	2	土師	二重口縁壺	-	(2.1)	-	外内ミゴキ	にぶい黄褐色	石英 金色雲母	破片	D-II	
192	38 庄	3	土師	壺	(20.2)	(4.1)	-	外内ナデ	にぶい黄褐色	石英 金色雲母 砂粒子	破片	D-II-19	
192	38 庄	4	土師	小型丸底壺	-	(4.6)	-	ヘラナズリ 内側部圧痕	明赤褐色	金色雲母	20%	D-II-35	
192	38 庄	5	土師	壺	-	(9.8)	4.2	ヘラナズリ ミゴキ	褐色	金色雲母 砂粒子	70%	D-II-127	
192	38 庄	6	土師	壺	-	(11.0)	-	外ナデ後ミゴキ 内ヘラナズリ	にぶい黄褐色	金色雲母 砂粒子	20%	C-I-70	
192	38 庄	7	土師	S字釜	(12.2)	(5.0)	-	外ヘラナズリ 内ナデ 指部圧痕	外栗褐色 内明褐色	石英 金色雲母 砂粒子	破片	D-II-129	
192	38 庄	8	土師	S字釜	(15.2)	(2.1)	-	ヨコナデ	外栗褐色 内褐色	金色雲母	破片	D-II	
192	38 庄	9	土師	S字釜	(16.2)	(1.9)	-	ヨコナデ	にぶい褐色	石英	破片	C-I-II	
192	38 庄	10	土師	S字釜	-	(7.2)	-	外ナデ	黒色	金色雲母	破片	D-II-353	
192	38 庄	11	土師	台付釜	-	(5.1)	8.6	外ナデ後ハケ 内ナデ 指部圧痕	褐色	石英 金色雲母	10%	C-I-167	
192	38 庄	12	土師	台付釜	(16.0)	(3.9)	-	ヘラナズリ 指部圧痕	褐色	石英 金色雲母	10%	D-II-107	
192	38 庄	13	土師	高杯	16.0	14.9	12.6	外ヨコナデ 外ヘラナズリ 内ミゴキ内孔3箇所	にぶい褐色	金色雲母 スコリア	93%	D-II-126	
192	38 庄	14	土師	高杯	(26.0)	(3.2)	-	ナデ	外栗褐色 内にぶい黄褐色	金色雲母 砂粒子	破片	D-I-197	
192	38 庄	15	土師	高杯	(24.0)	(7.9)	-	外内ミゴキ	外栗色 内褐色	石英 金色雲母	破片	C-II-20・153	
192	38 庄	16	土師	高杯	(18.0)	(5.3)	-	外内ミゴキ	明赤褐色	金色雲母	破片	C-I-9	
192	38 庄	17	土師	器台	-	(5.9)	11.9	ナデ 内孔2箇所	褐色	石英 砂粒子	50%	C-I-165・166	
196	土師中區	1	土師	鉢	(48.1)	16.1	-	外ヘラナズリ 内ヨコハケ 口縁部指部圧痕	外暗赤褐色 内にぶい赤褐色	金色雲母 砂粒	25%	C-II-4・5・7	
196	土師中區	2	土師	杯	(13.0)	2.1	14.9	ロクロナデ	褐色	金色雲母	40%	D-V	
196	土師中區	3	土師	杯	11.0	2.2	5.6	ロクロナデ 底部赤切痕	褐色	金色雲母 砂粒	100%	D-V-28	
196	土師中區	4	土師	高台付杯	-	(2.9)	-	ロクロナデ	明赤褐色	金色雲母	30%	D-V-6・32	
196	土師中區	5	土師	杯	(10.8)	2.6	5.7	ロクロナデ 底部赤切痕	褐色	石英 砂粒	25%	D-V-3	
196	土師中區	6	土師	杯	(18.6)	2.7	(5.0)	ロクロナデ 底部赤切痕	褐色	赤色雲母	20%	D-V-4	
196	遺構外	1	土師	壺	(12.0)	(3.7)	-	外ナデハケ 内ヨコハケ	にぶい黄褐色	砂粒	15%	D-II-27	
196	遺構外	2	土師	台付釜	(14.0)	(7.1)	-	外ハケ 内口縁部ハケ 輪部	褐色	金色雲母 砂粒	10%	D-II-19・48	
196	遺構外	3	土師	台付釜	(11.0)	(5.6)	-	外ハケ口縁部指部圧痕 内ハケ後ミゴキ	褐色	金色雲母 砂粒	破片	D-II-618	
196	遺構外	4	土師	S字釜	(15.8)	(3.8)	-	外ハケ 器壁穿孔	黄褐色	金色雲母	破片	D-II-89	
196	遺構外	5	土師	S字釜	(16.0)	(4.4)	-	外ハケ 内ナデ	褐色	金色雲母	10%	D-II-454	
196	遺構外	6	土師	台付釜	-	(4.6)	8.5	外ハケ後ナデ 内ヨコハケ後一部ミゴキ	明赤褐色	石英 金色雲母 白色粒子	50%	D-II-505	
196	遺構外	7	土師	台付釜	-	(4.5)	(4.8)	外ナズリ	明赤褐色	石英 金色雲母	破片	D-II	
196	遺構外	8	土師	高杯	(22.0)	(4.9)	-	外内ミゴキ 口縁部内面取付	褐色	金色雲母 白色粒子	15%	D-II-383	
196	遺構外	9	土師	高杯	-	(4.8)	-	外内ナズリ 内孔4箇所	褐色	石英	破片	D-II-149	
196	遺構外	10	土師	高杯	-	(2.5)	-	外ナズリ	褐色	金色雲母	破片	D-II	
196	遺構外	11	土師	小型丸底鉢	(11.6)	(4.8)	-	外ハケ後ミゴキ 内ミゴキ	明褐色	金色雲母	破片	D-II-293	
196	遺構外	12	土師	小型丸底鉢	(11.8)	(3.4)	-	外ハケ後ミゴキ 内ナデ後ミゴキ	にぶい黄褐色	金色雲母	破片	D-II	

鉄器計測表

遺物番号	器 種	法 量			重量 (g)	庫 料	備 考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)				
1	22951	刀鍔片	6.5	3.45	1.0	34.95	青銅	土師中區
2	22952	不明	3.3	0.7	0.4	3.15	鉄	
3	22955	不明	4.3	1.0	0.9	8.43	鉄	
4	22954	鉄鏃	11.7	1.3	0.4	13.88	鉄	第37号住跡跡
5	22953	不明	4.0	1.65	0.4	10.11	鉄	



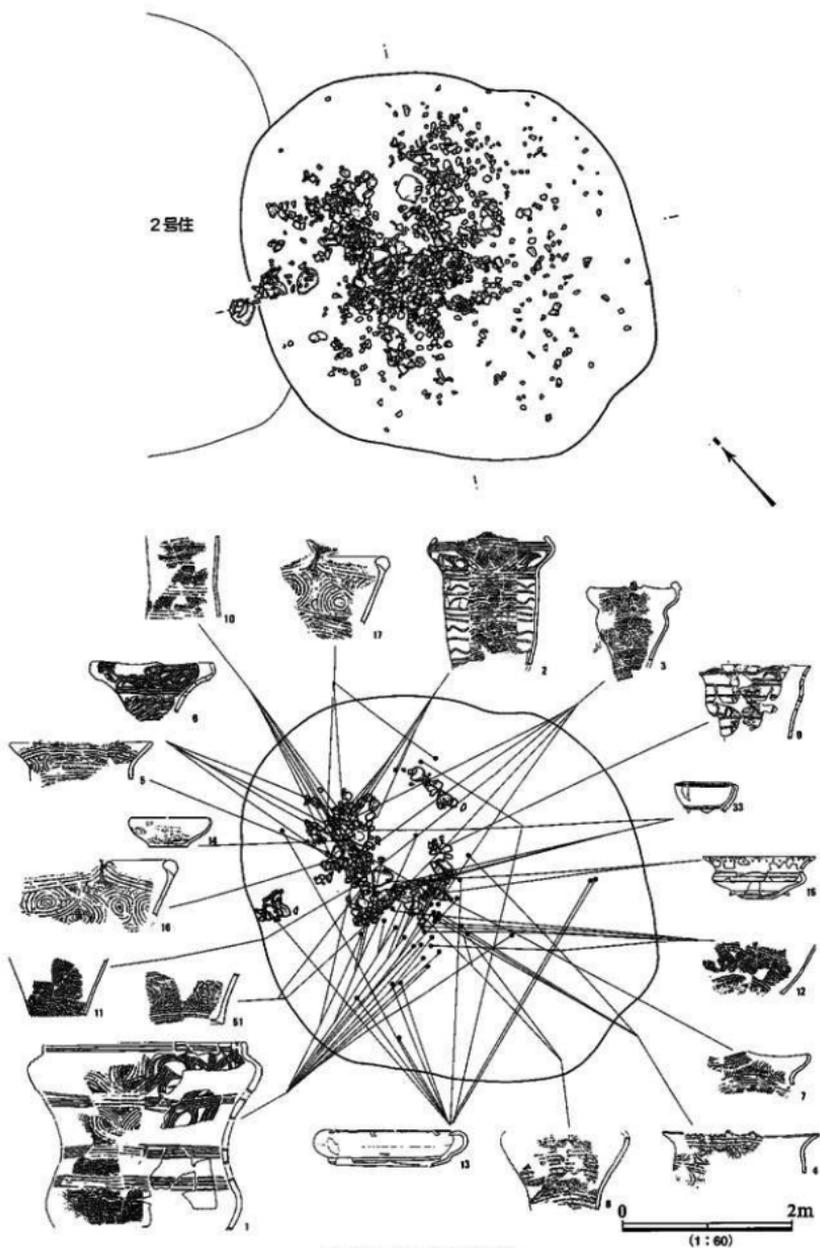
0 2m  
(1:60)

1. 黒褐色土 やわらかく、しめりはゆるい。  
金色顔料・土器を含む。
2. 黄茶褐色土 やわらかく砂質である。

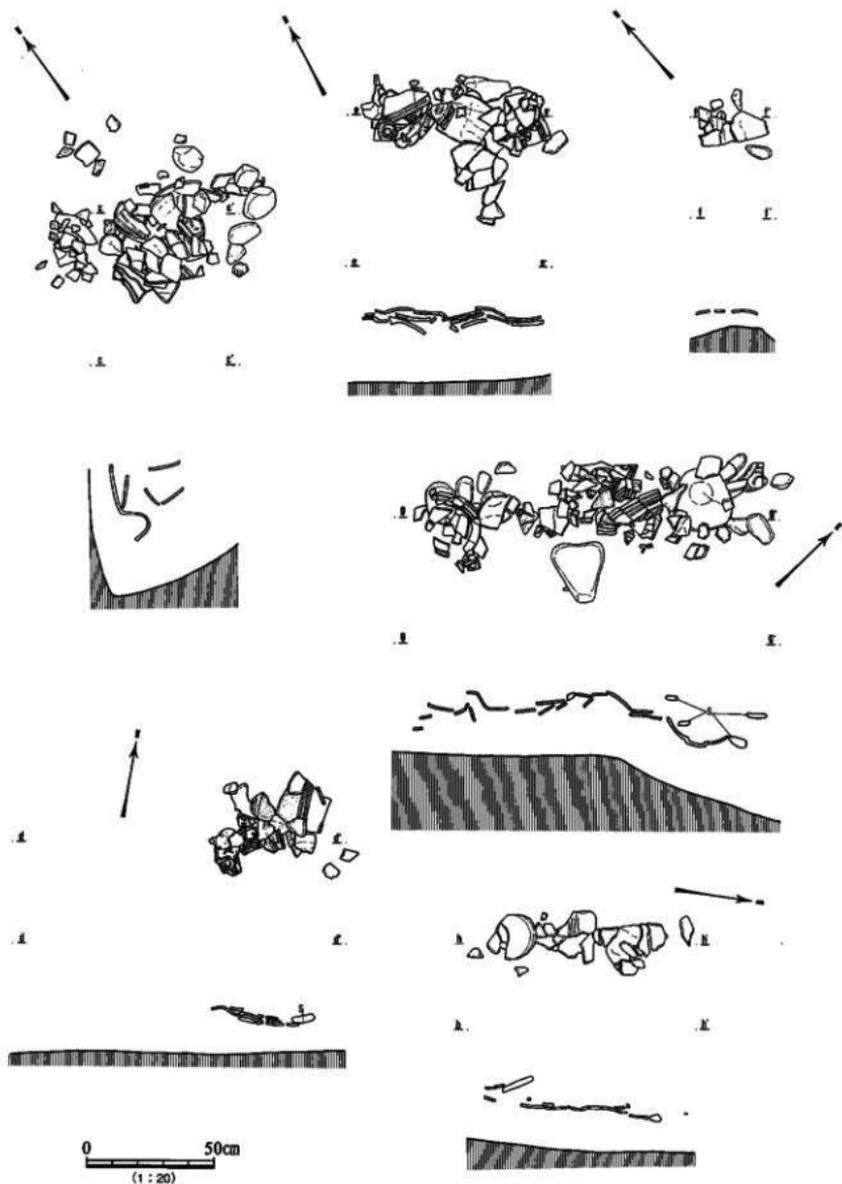


0 50cm  
(1:20)

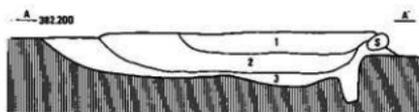
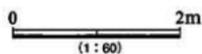
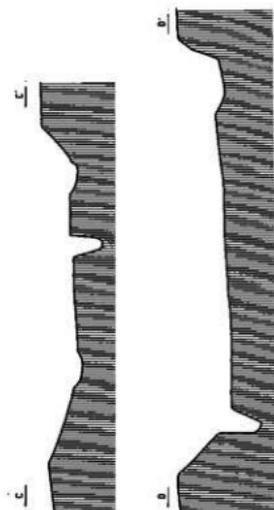
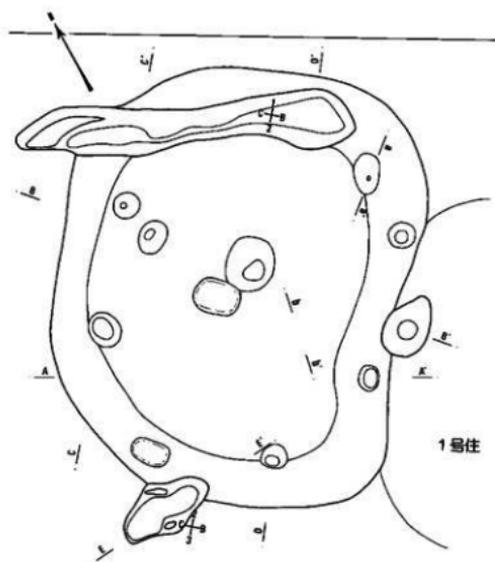
第2図 第1号住居跡(1)



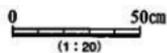
第3图 第1号住居跡(2)



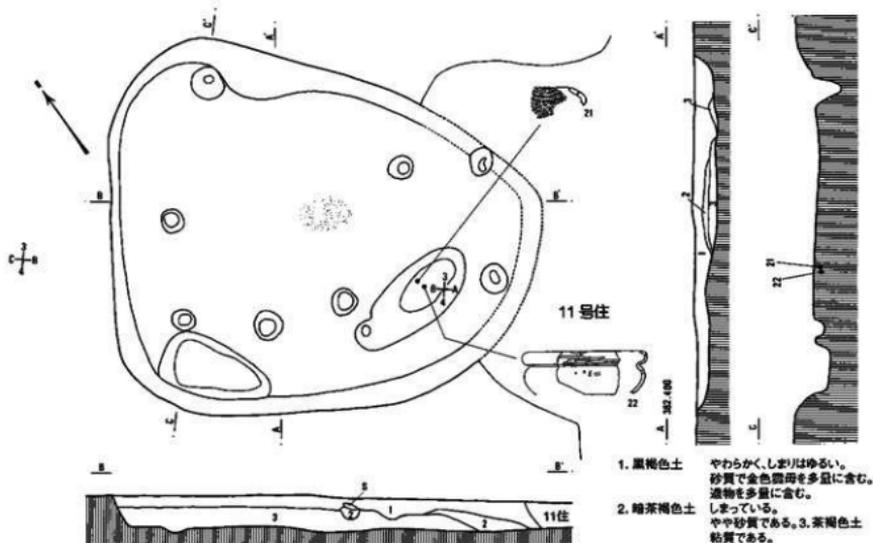
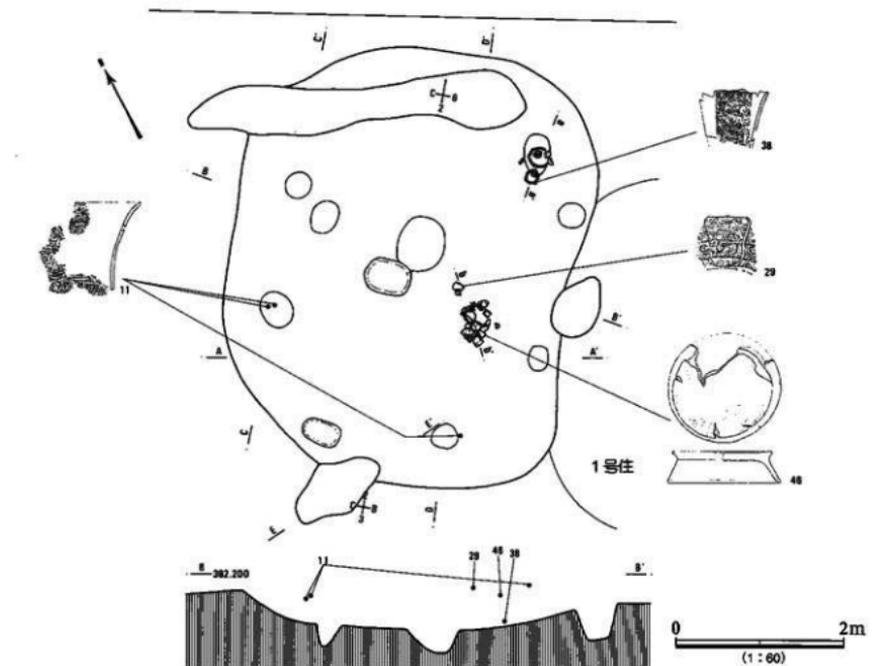
第4图 第1号住居跡(3)



1. 暗黒茶褐色土 かくよくしまっている。  
層・金色炭母・炭化物を含む。
2. 黄茶褐色土 しまりはゆるく、砂質である。
3. 黒褐色土 しまりはゆるい。遺物を少量含む。

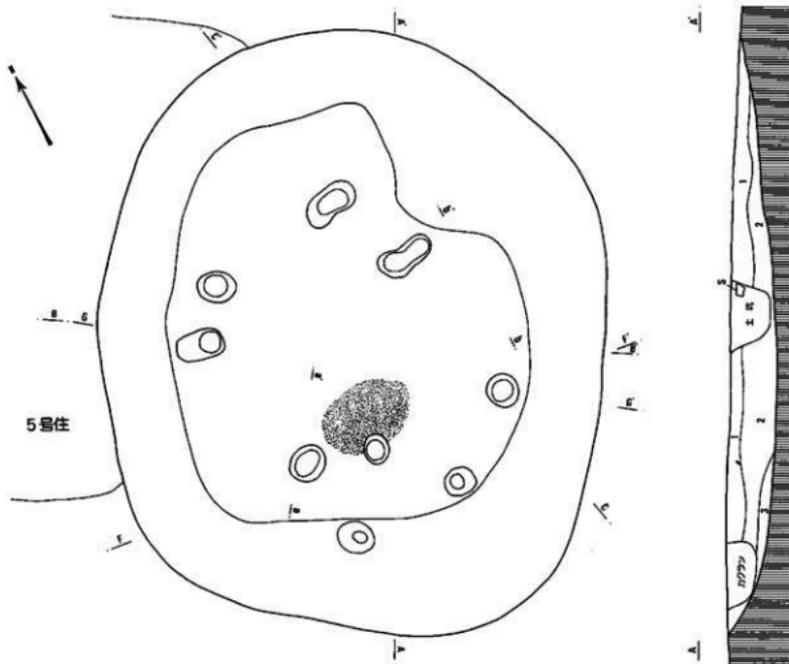


第5図 第2号住居跡(1)

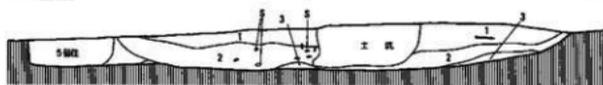


1. 黒褐色土 やわらかく、しまりはゆるい。砂質で金色微屑を多量に含む。遺物を多量に含む。
2. 暗茶褐色土 しまっている。やや砂質である。3. 茶褐色土 粘質である。

第6図 第2号住居跡(2)・第3号住居跡



382.500

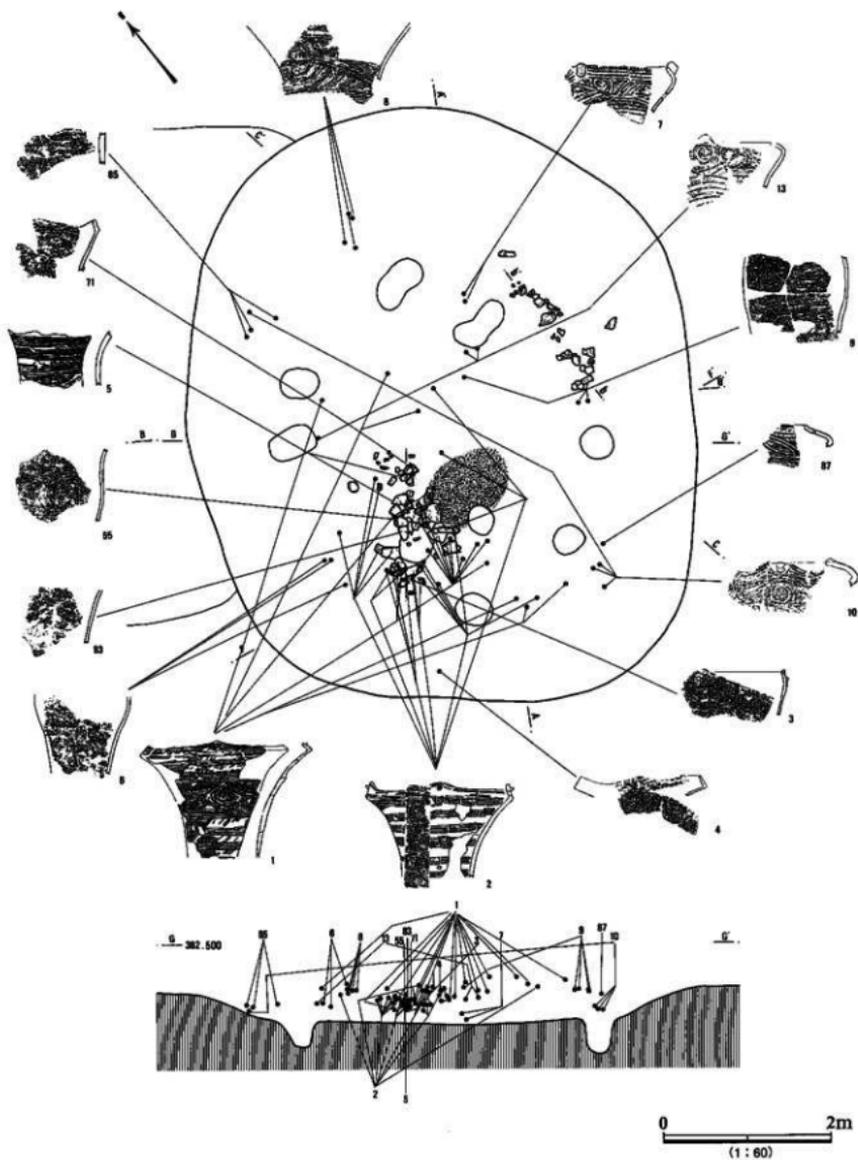


1. 茶黒褐色土 かくよくしまっている。5mm程度の白い塵を含む。縄文時代前期、中期の遺物を含む。
2. 暗黒褐色土 やわらかく、しまりはゆるい。炭化物・前期の遺物を含む。
3. 黄褐色砂質土 地山と覆土の混じり。

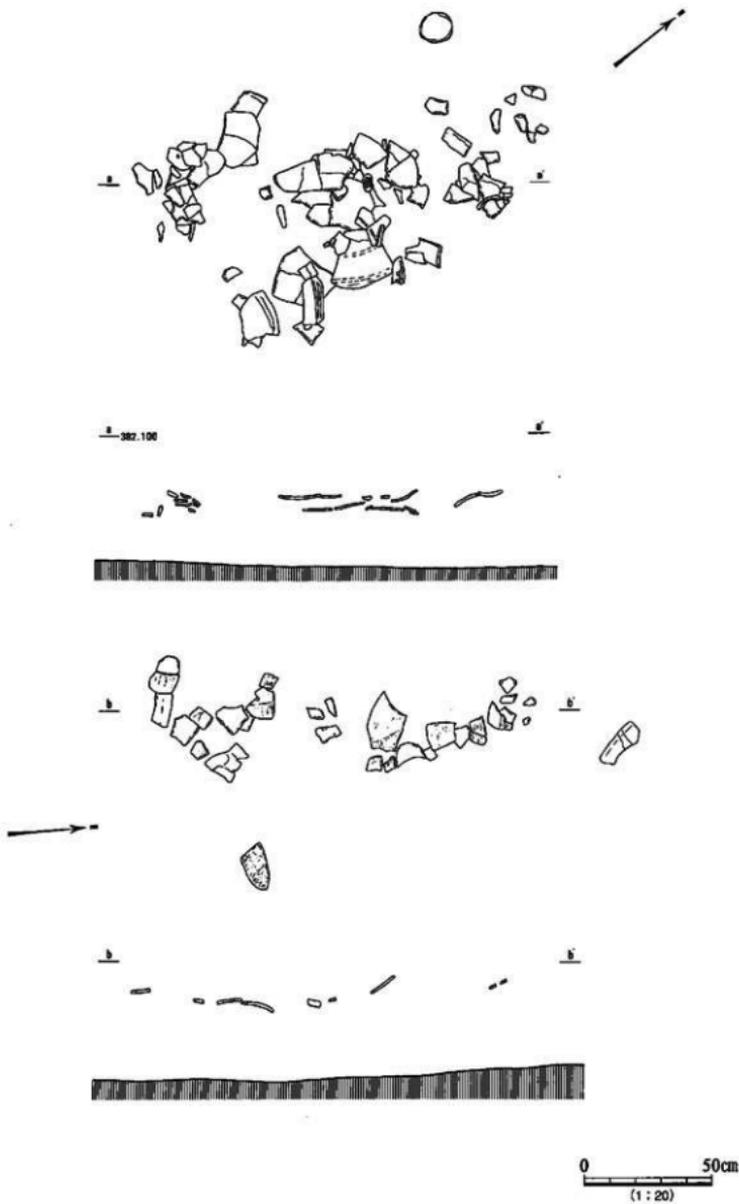


0 2m  
(1:60)

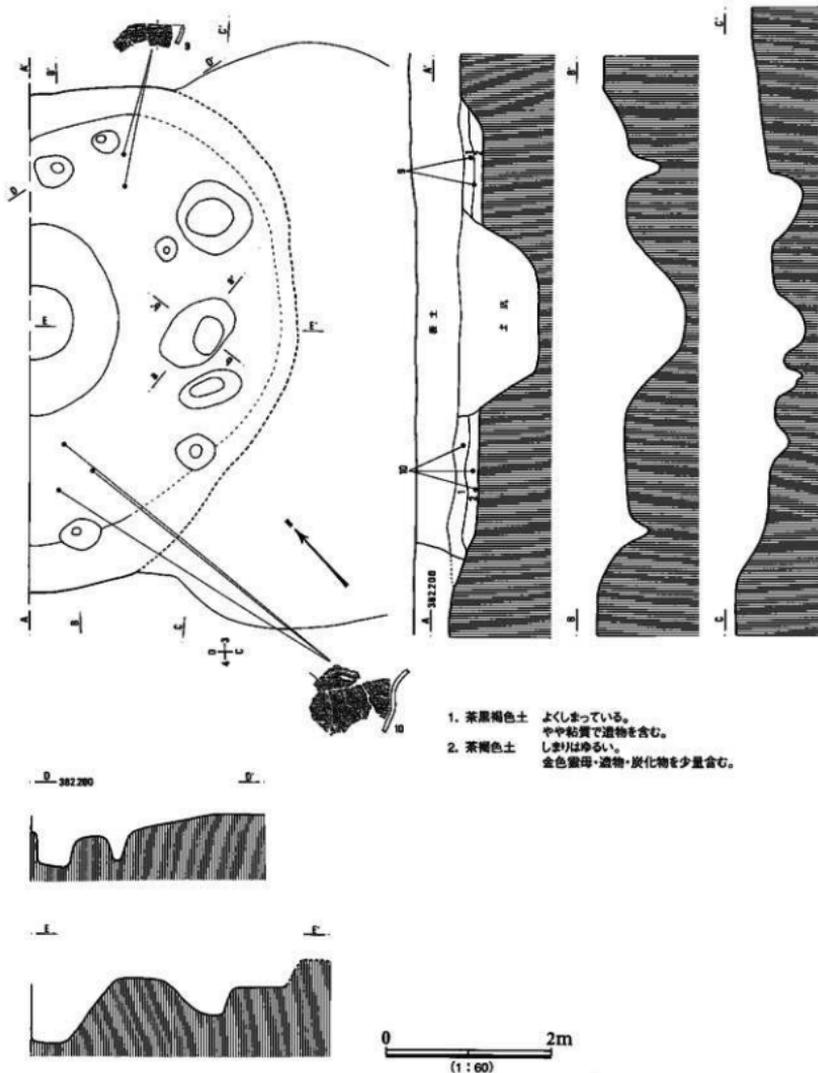
第7図 第4号住居跡(1)



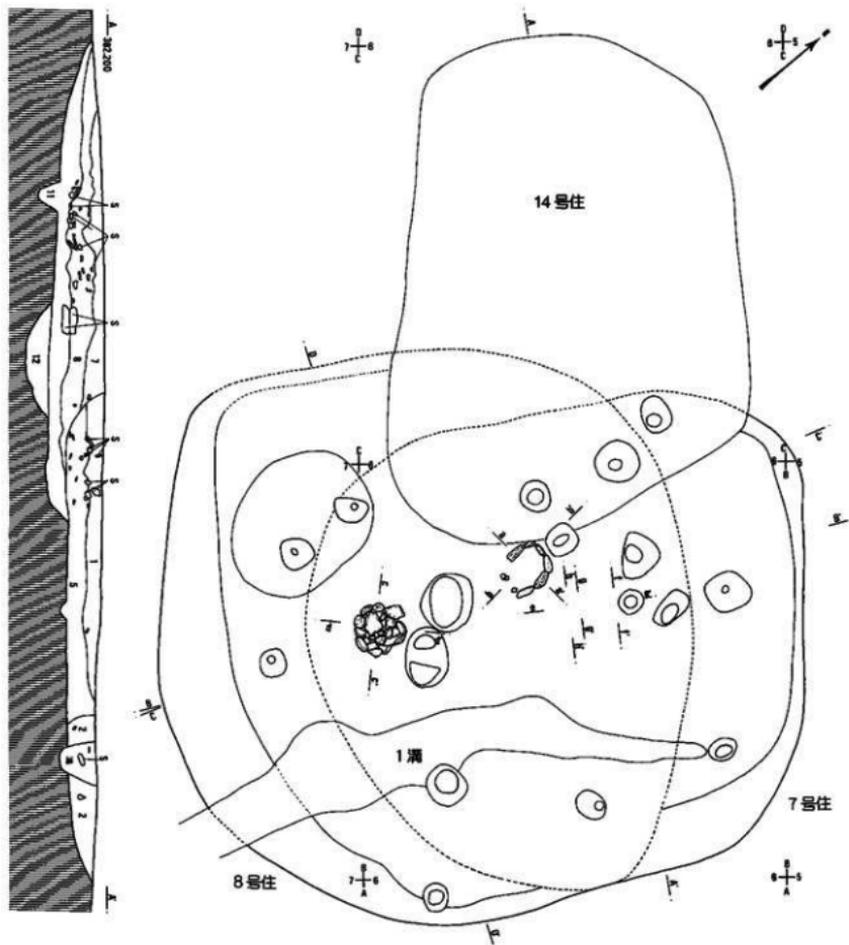
第8图 第4号住居跡(2)



第9図 第4号住居跡(3)



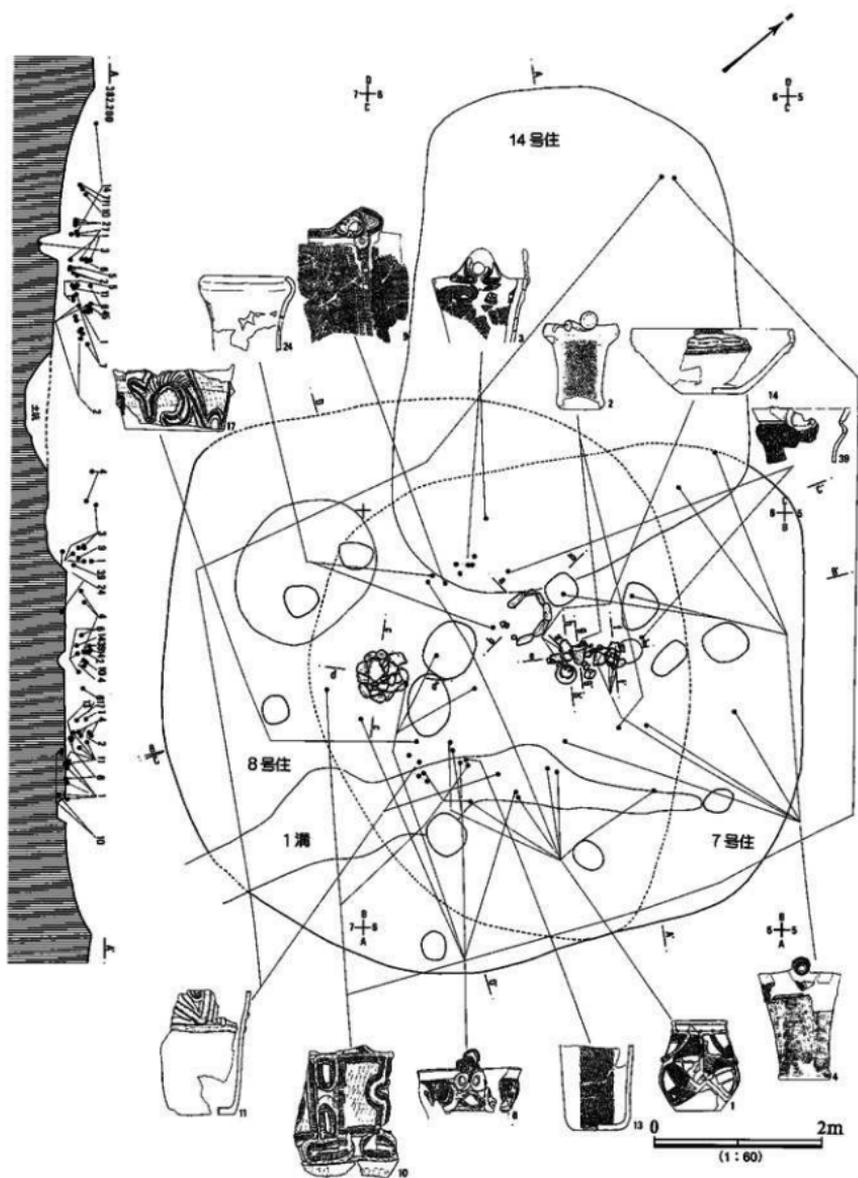
第10図 第5号住居跡



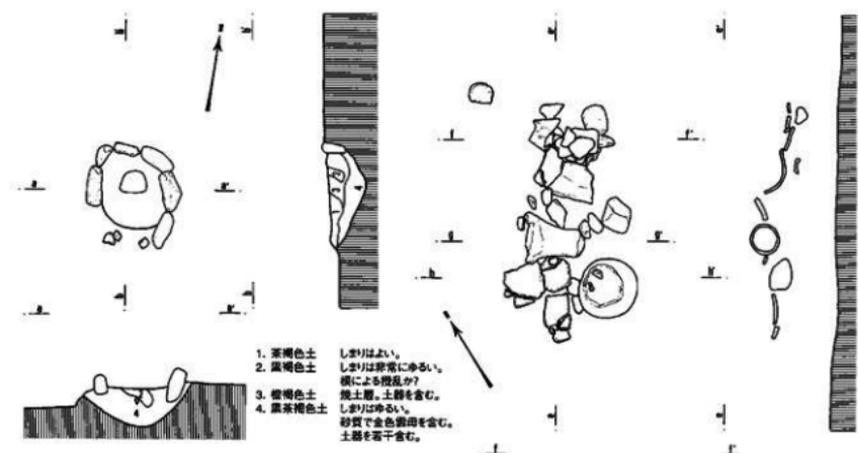
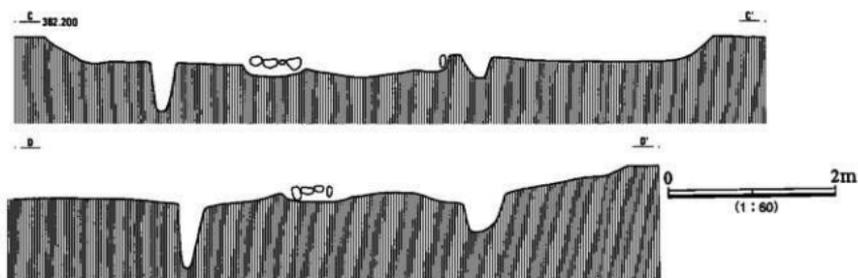
0 2m  
(1:60)

- |              |                                      |
|--------------|--------------------------------------|
| 1. 暗茶褐色土     | かたくよしまっている。                          |
| 2. 黒褐色土      | しりしりややゆらしい。縄文時代中期の遺物を多量に含む。          |
| 3. 暗黒褐色土     | しりしりゆらしい。遺物を多量に含む。炭化物・焼土粒子を若干含む。     |
| 4. 暗黄茶褐色砂質土  | 地山と覆土の混在する層である。                      |
| 5. 暗茶褐色土     | しりしりゆらしい。縄文時代中期の遺物を多量に含む。            |
| 6. 茶褐色土      | しりしりゆらしい。黄色態珪・炭化物を含む。縄文時代前期の土器を若干含む。 |
| 7. 黒褐色土      | しりしりややゆらく。若干粘質である。縄文時代中期の土器を多量に含む。   |
| 8. 暗茶褐色土     | ややしまっており。若干粘質である。縄文時代中期の土器を含む。       |
| 9. 黒茶褐色土     | よくしまっている。黄色態珪・炭化物・焼土粒子を含む。遺物を若干含む。   |
| 10. 黒黄茶褐色砂質土 | 地山と覆土の混在する層である。                      |
| 11. 暗黄茶褐色砂質土 | 地山と覆土が混在する。炭化物・焼土粒子を若干含む。            |
| 12. 黄茶褐色砂質土  | 地山と覆土が混在する。                          |

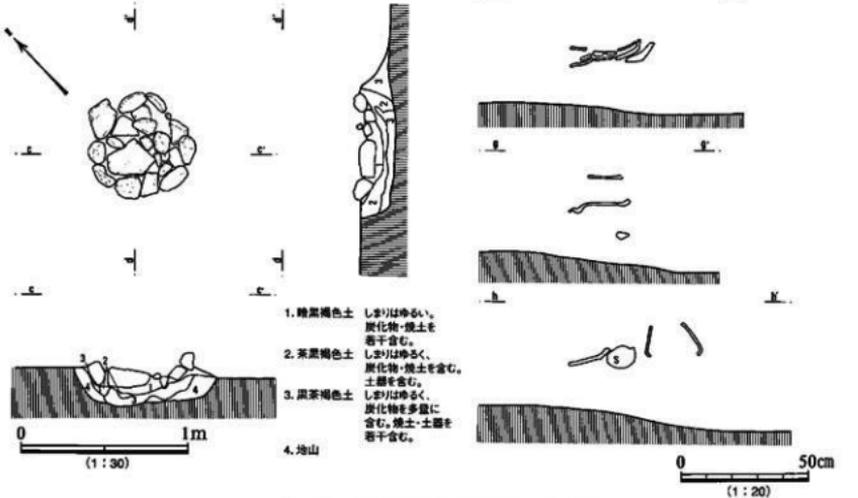
第11図 第7号・第8号・第14号住居跡(1)



第12图 第7号·第8号·第14号住居跡(2)



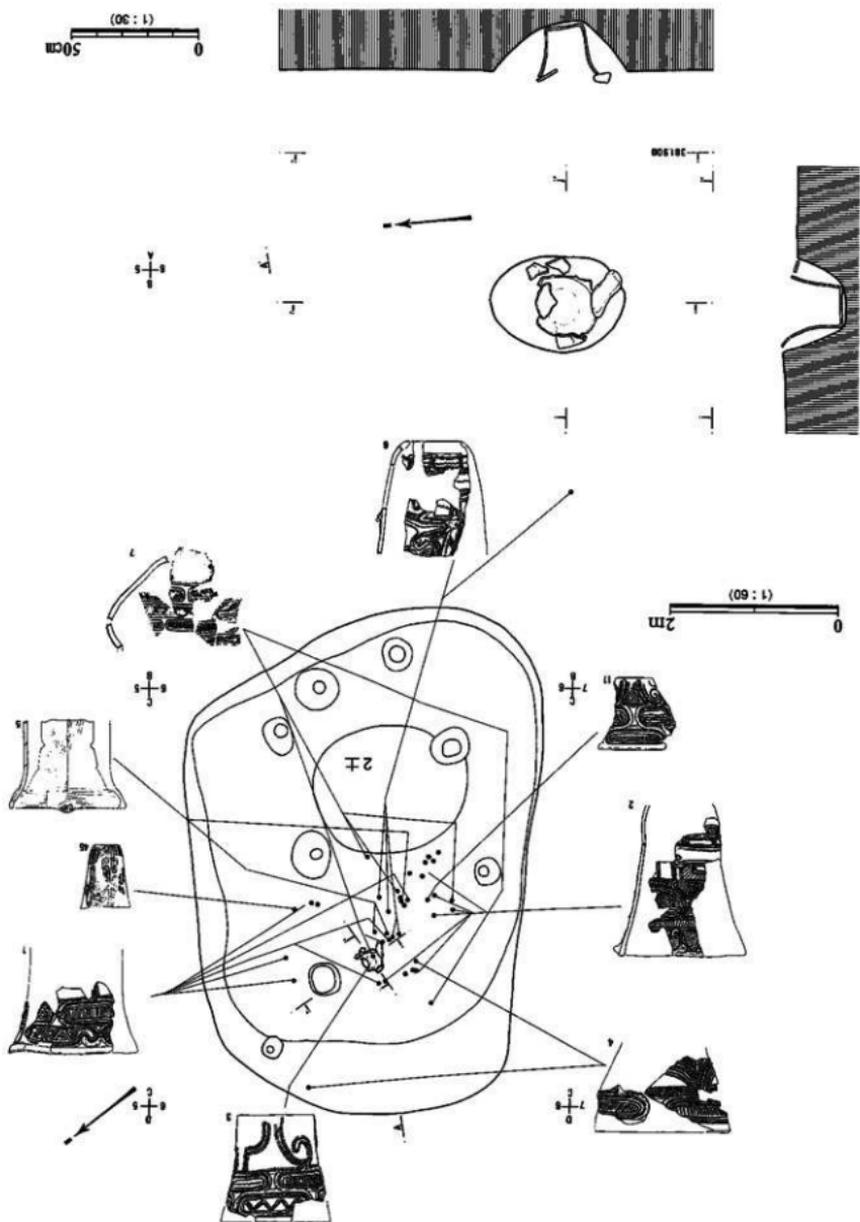
1. 茶褐色土 しまりはよい。しまりは非常にゆるい。横による擾乱か?
2. 黒褐色土 焼土層、土器を含む。しまりはゆるい。砂質で金色銅屑を含む。土器を若干含む。
3. 黄褐色土
4. 黒茶褐色土

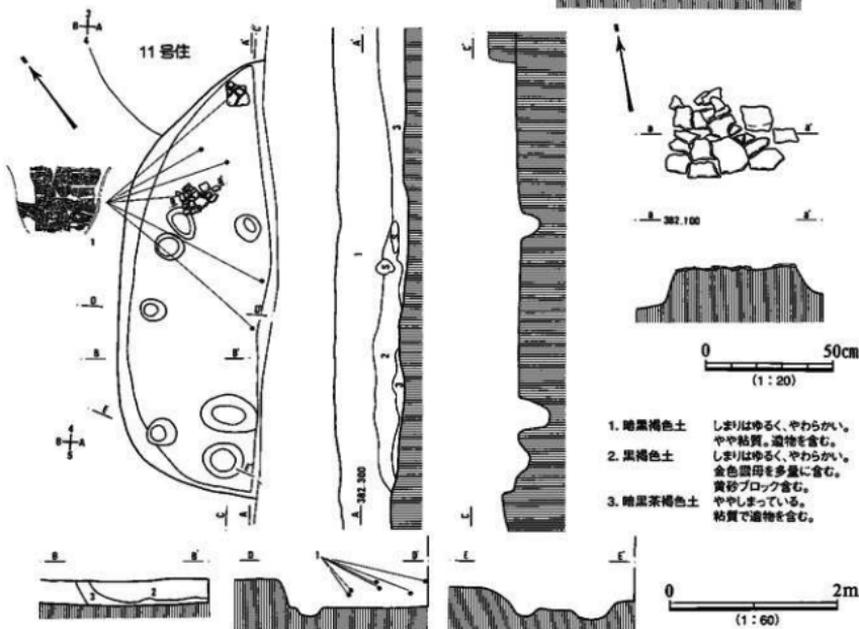
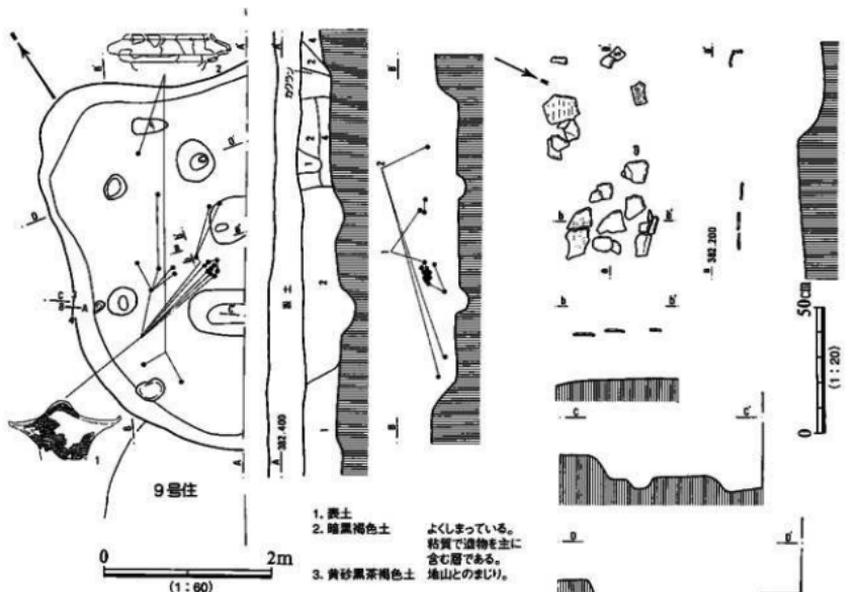


1. 暗黒褐色土 しまりはゆるい。炭化物・焼土を若干含む。
2. 茶黒褐色土 しまりはゆるく、炭化物・焼土を含む。土器を含む。しまりはゆるく、炭化物を多数に含む。焼土・土器を若干含む。
3. 黒茶褐色土
4. 地山

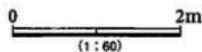
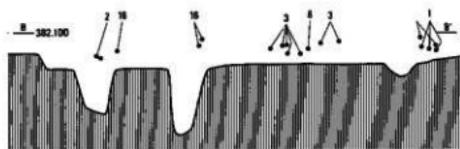
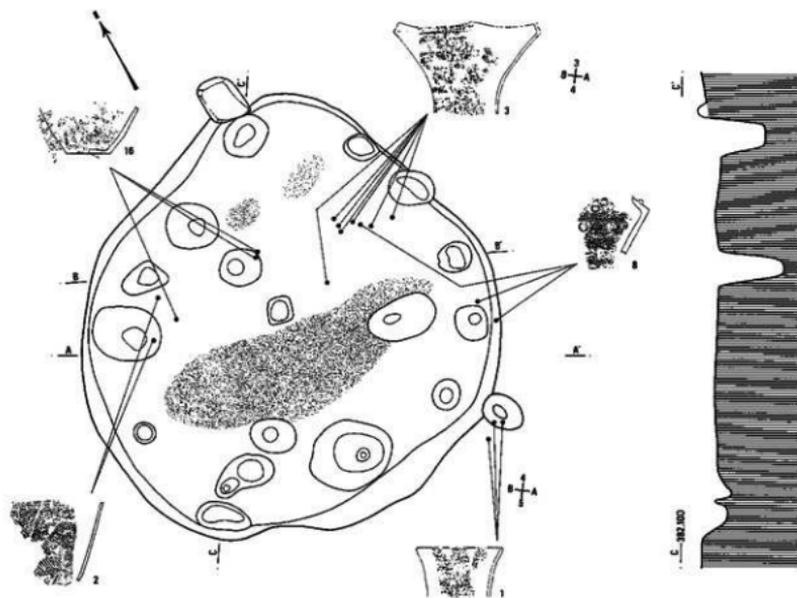
第13図 第7号・第8号・第14号住居跡(3)

第14图 第14号住居跡(1)



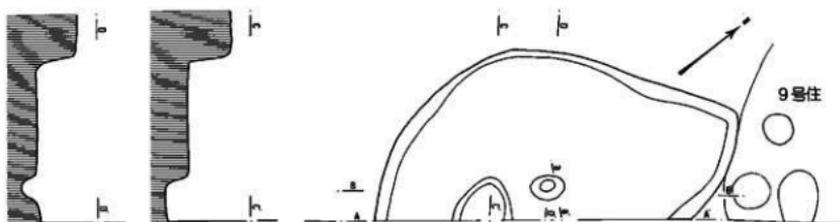


第15図 第11号・第9号住居跡



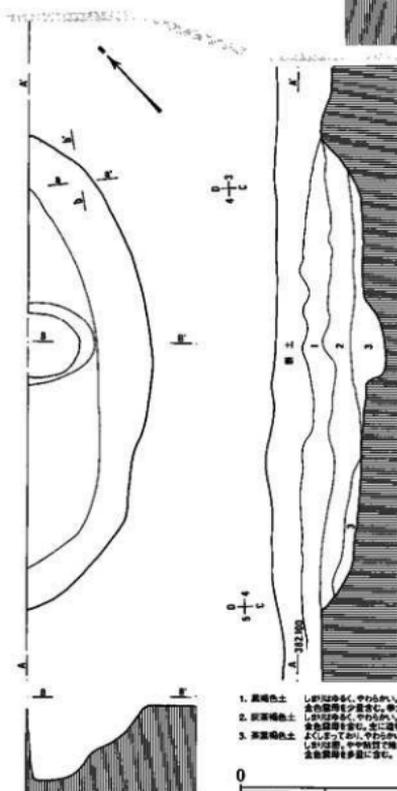
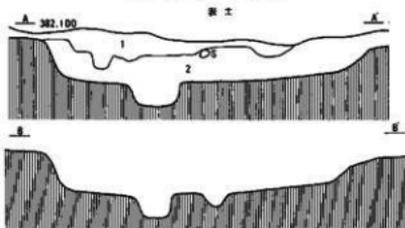
1. 黒茶褐色土 しまりはゆるい。遺物を含む。
2. 茶褐色土 しまりはゆるく、密である。若干砂質である。
3. 茶黒褐色土 しまりはゆるい。
4. 暗茶褐色土 ややしまっている。傘大の礫を含む。  
5mm前後の白色粒子を多量に含む。
5. 明茶褐色土 かく粘質である。上層に炭化粒子を多量に含んだ層が確認された。  
焼土粒子・炭化粒子を多量に含む。縄文時代前期の遺物を含む。

第16図 第13号住居跡



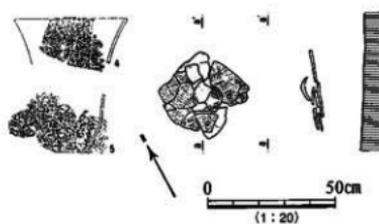
1. 黒色土 しがりはゆるい。遺物・炭化物を含む。
2. 茶黒褐色土 しがりは密。粘質で礫を含む。

0 2m  
(1:60)

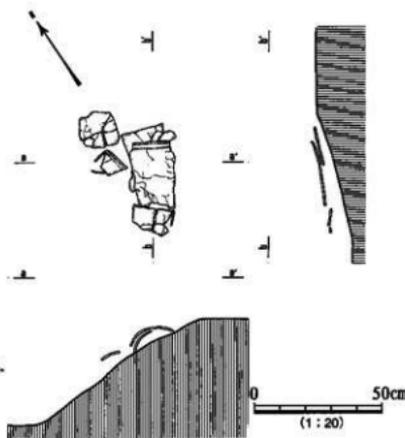


1. 黒褐色土 しがりはゆるく、やわらかい。土色は暗赤く、やわらかい。遺物を少なく含む。
2. 灰黒褐色土 しがりはゆるく、やわらかい。土色は暗赤く、やわらかい。遺物を少なく含む。土中に炭化物を含む層がある。
3. 茶黒褐色土 しがりは密、やわらかい。粘質で礫を含む。土中に炭化物を含む層がある。

0 2m  
(1:60)

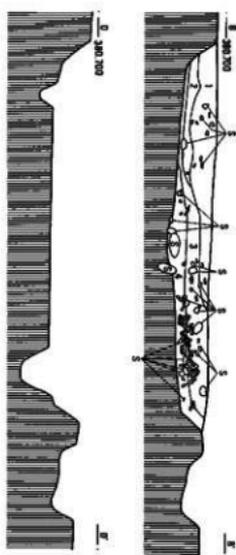


0 50cm  
(1:20)



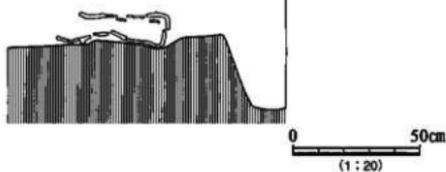
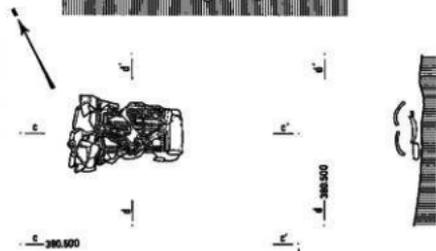
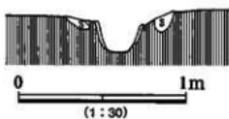
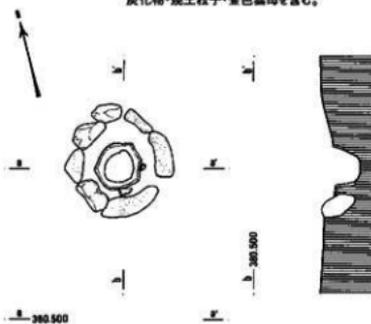
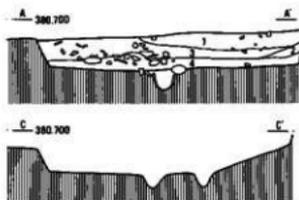
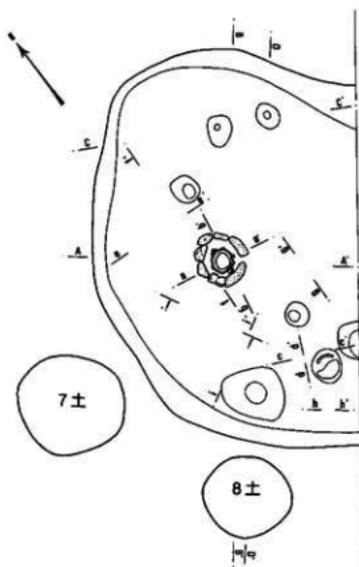
0 50cm  
(1:20)

第17図 第15号・第16号住居跡

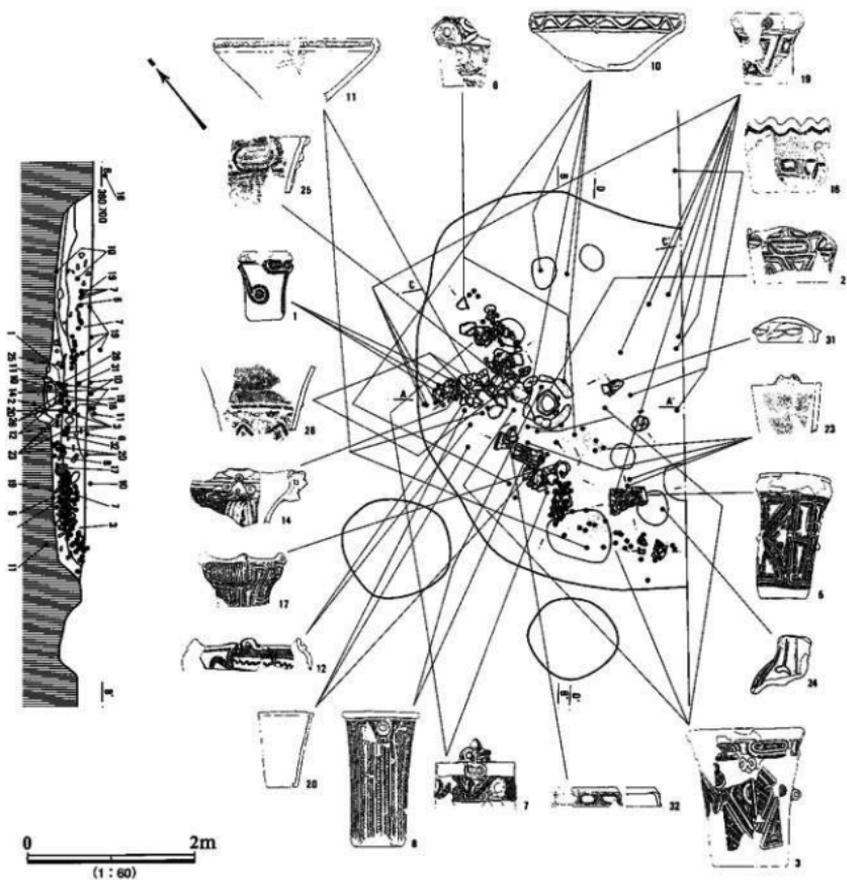


0 2m  
(1:60)

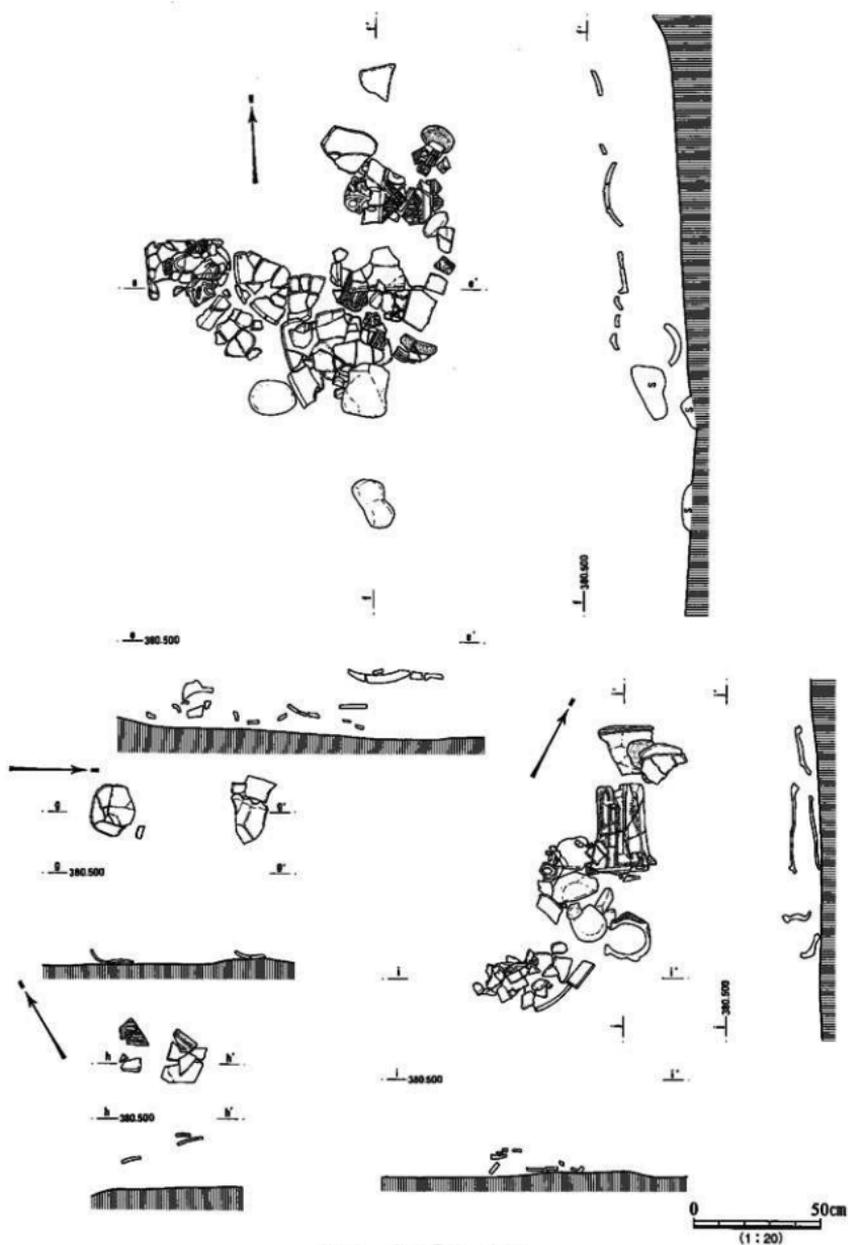
1. 黒茶褐色土 ややしまっている。遺物を含む。
  2. 暗茶褐色土 しまっており、密である。炭化物を若干含む。
  3. 黒褐色土 ややしまっている。縄文時代中期の遺物を多量に含む。
  4. 暗黄茶褐色土 しまりはゆるいが密である。遺物を多量に含む。
- 炭化物・焼土粒子を含む。  
炭化物・焼土粒子・金色燧石を含む。



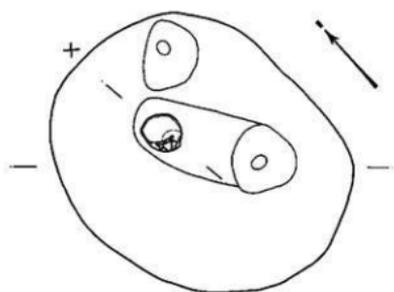
第18図 第26号住居跡(1)



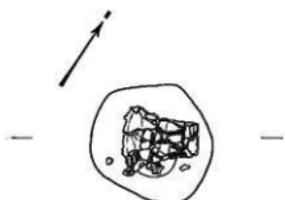
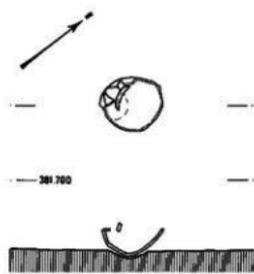
第19图 第26号住居跡(2)



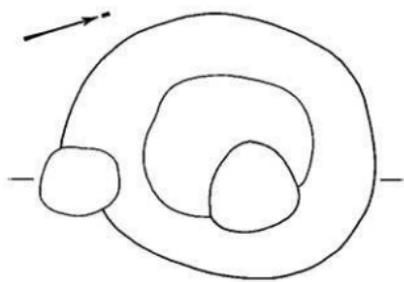
第20図 第26号住居跡(3)



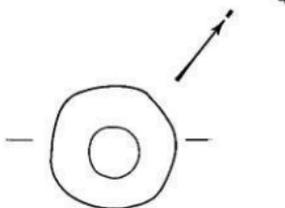
1号土坑



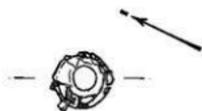
4号土坑



2号土坑



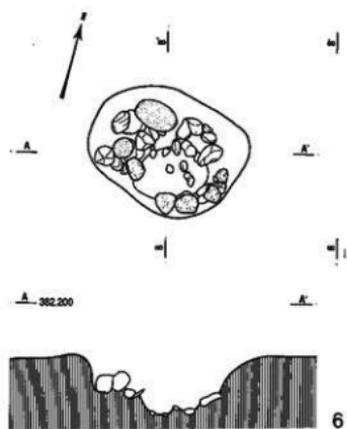
5号土坑



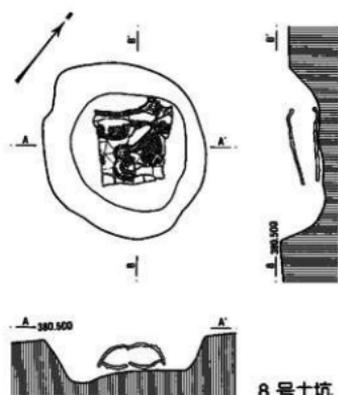
3号土坑



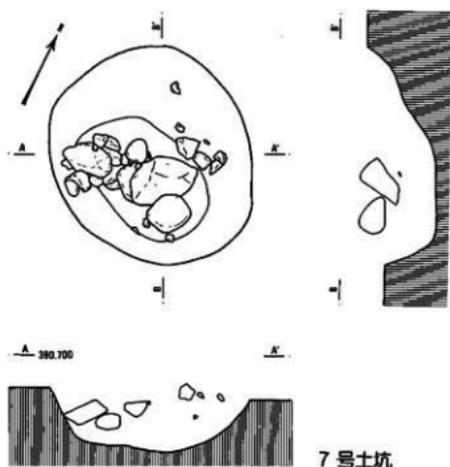
第21图 土坑(1)



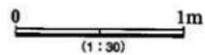
6号土坑



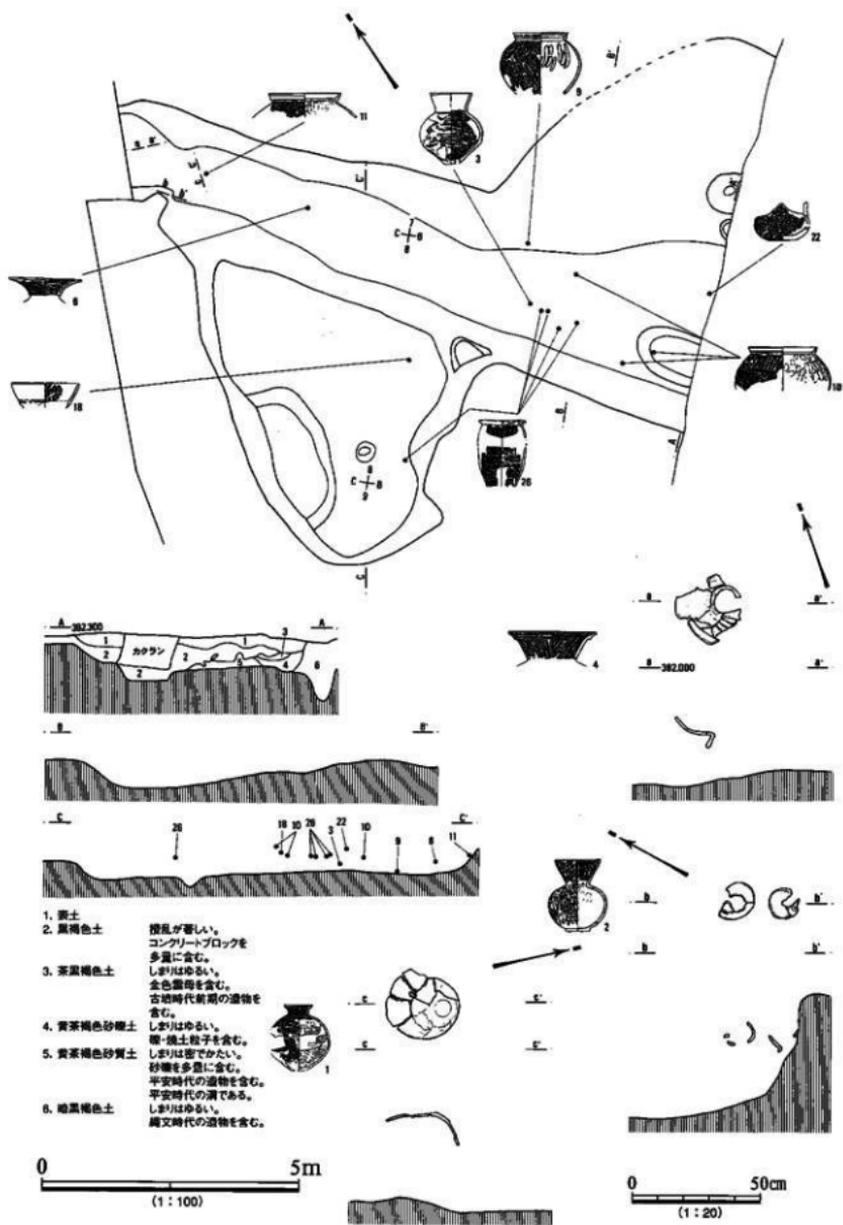
8号土坑



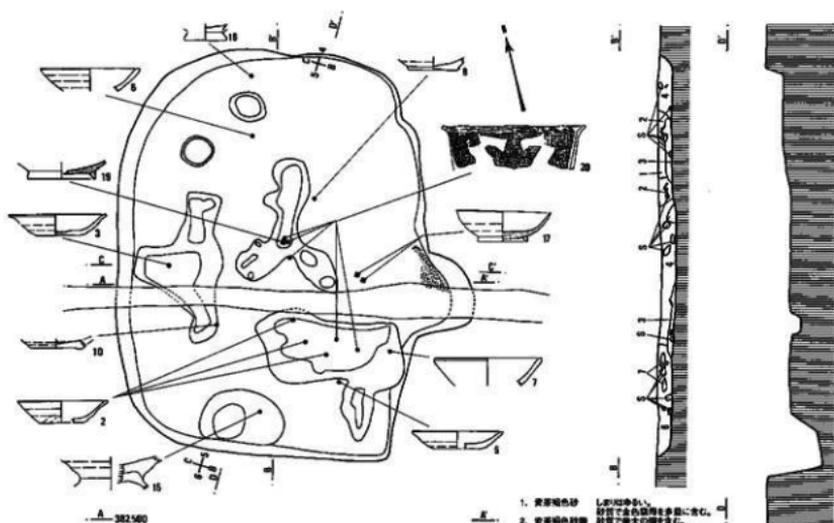
7号土坑



第22图 土坑(2)

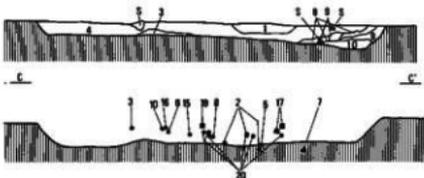


第23図 第2号溝

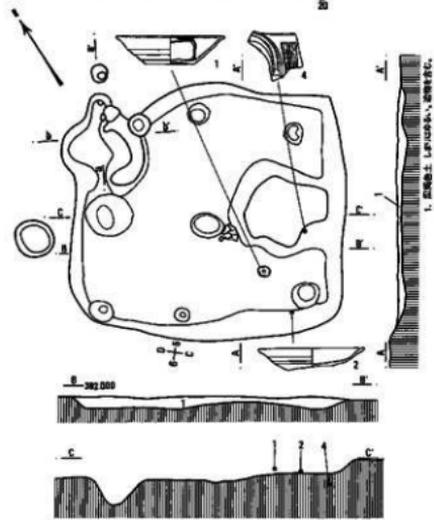


382,580

1. 黄茶褐色砂 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
2. 黄茶褐色砂 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
3. 黄茶褐色砂 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
4. 黄茶褐色土 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
5. 黄茶褐色土 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
6. 黄茶褐色土 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
7. 黄茶褐色土 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
8. 黄茶褐色土 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
9. 黄茶褐色土 土が少なく、砂質で中次の層を含む。

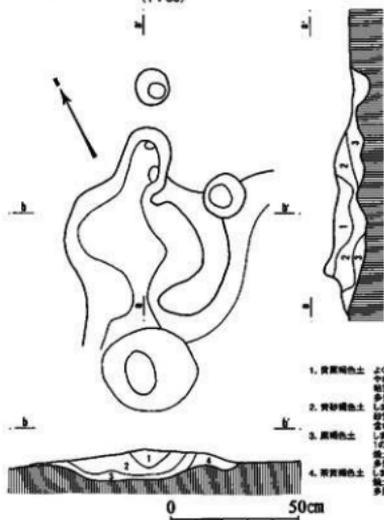


0 2m (1:60)



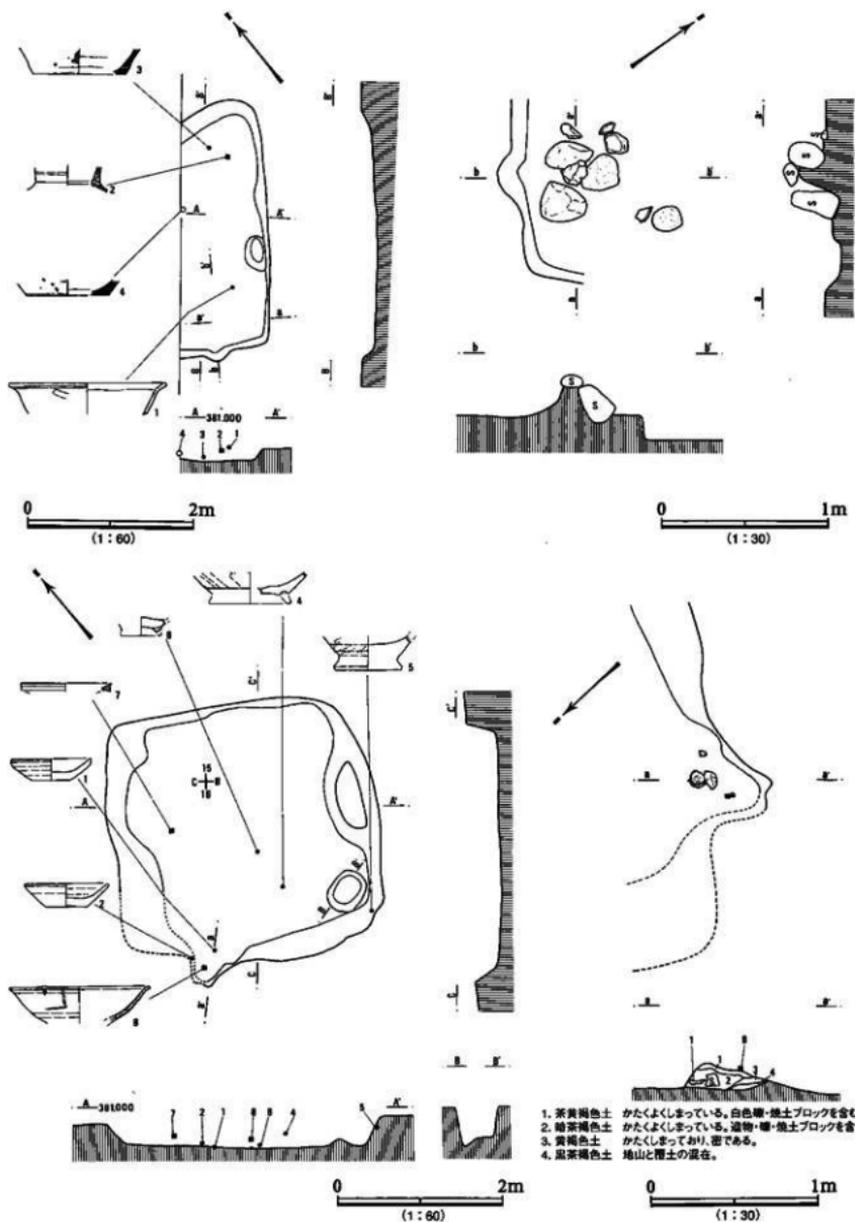
382,080

1. 黄茶褐色土 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
2. 黄茶褐色土 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
3. 黄茶褐色土 土が少なく、砂質で中次の層を含む。
4. 黄茶褐色土 土が少なく、砂質で中次の層を含む。

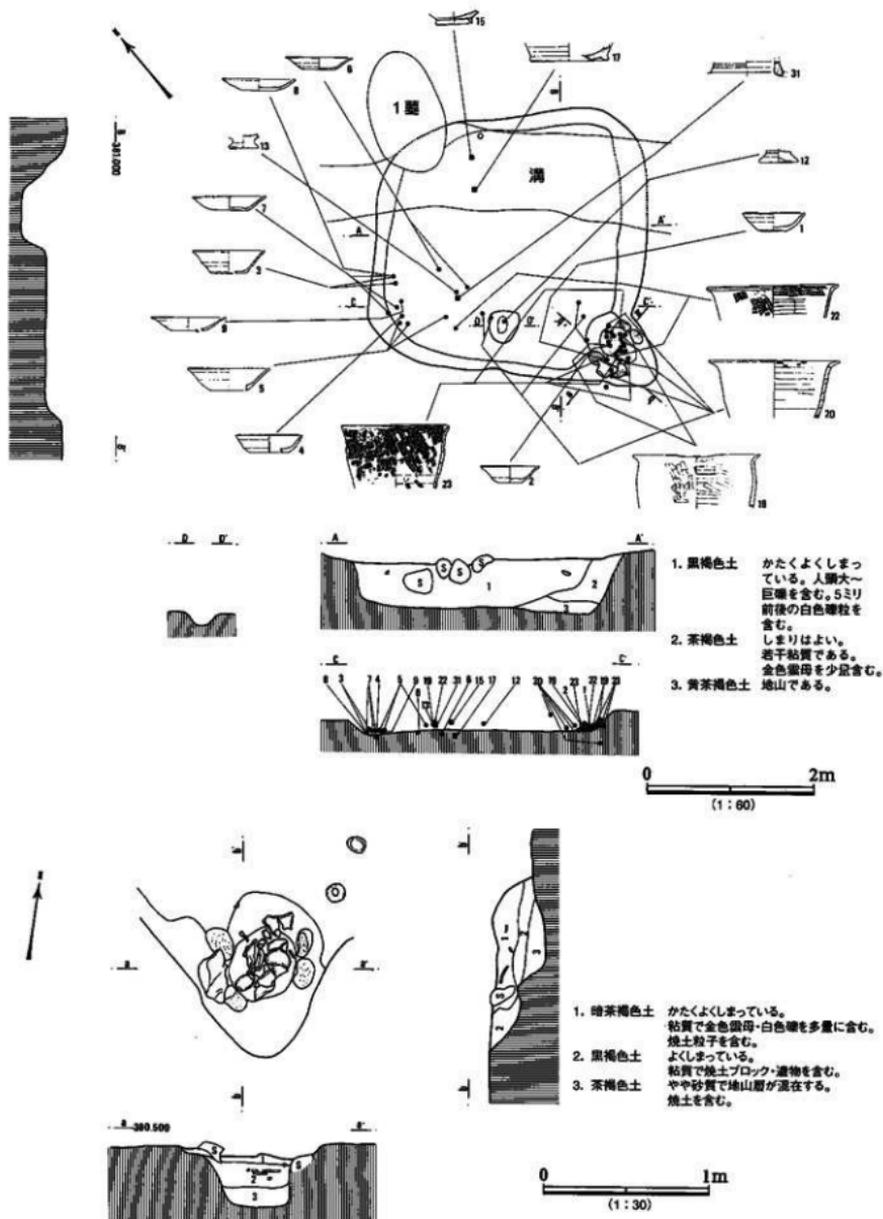


0 50cm (1:20)

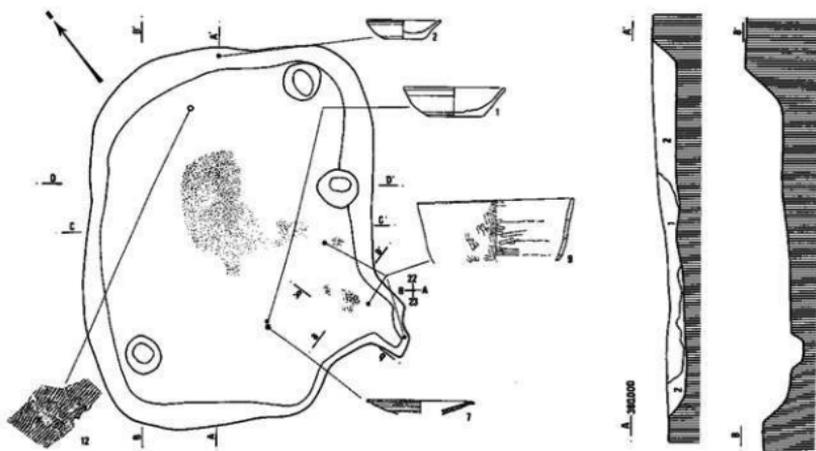
第24図 第6号・第17号住居跡



第25図 第18号・第22号住居跡

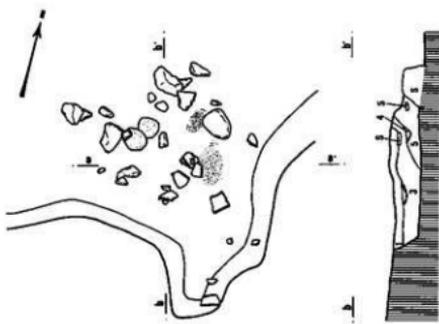
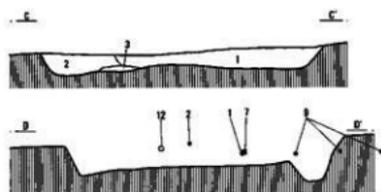


第26図 第19号住居跡

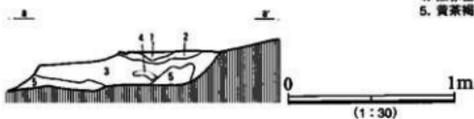


0 2m  
(1:60)

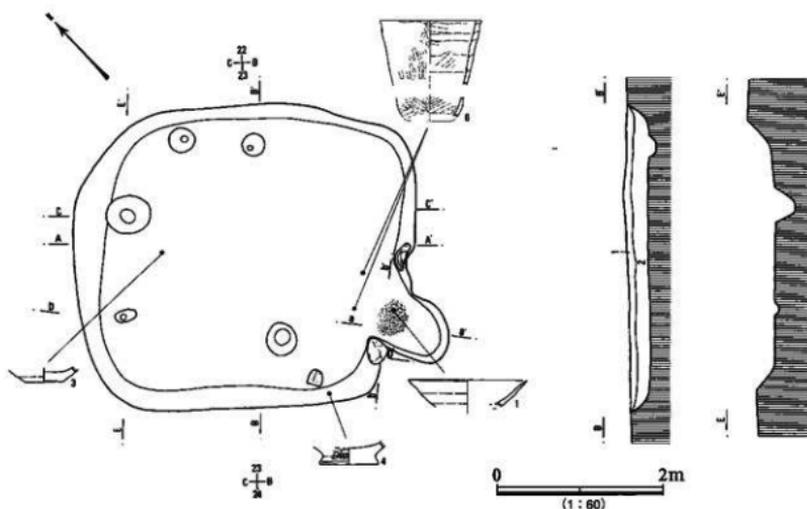
1. 黒褐色土 しまりはややゆるい。  
5mm程度の白色礫を含む。  
遺物・炭化物・焼土を含む。
2. 暗茶褐色土 しまりはゆるい。  
砂質で地山の土を少量含む。



1. 暗茶褐色土 かたくよじまっている。  
5mm程度の白色礫を含む。
2. 黄褐色土 かたくよじまっている。  
焼土粒子・炭化物を多量に含む。
3. 黒褐色土 ややしまりはゆるい。  
遺物を含む層であり、焼土を少量含む。
4. 黒赤褐色土 しまりはゆるい。焼土層である。  
しまりは非常にゆるい。
5. 黄茶褐色土 砂質で地山層と混在。



第27図 第20号住居跡

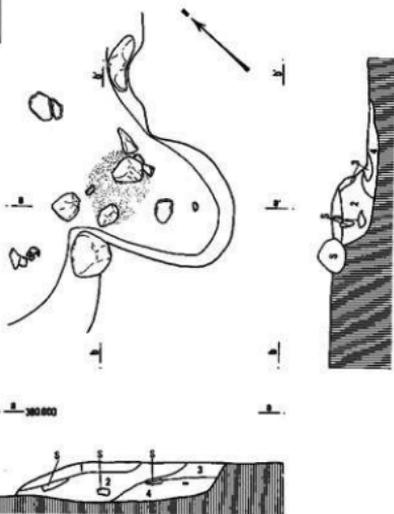


0 2m  
(1:60)

1. 暗茶褐色土 しまりはよく密である。  
5mm程度の白色礫を含む。
2. 黒褐色土 よくしまっている。  
遺物・炭化物・礫を含む。

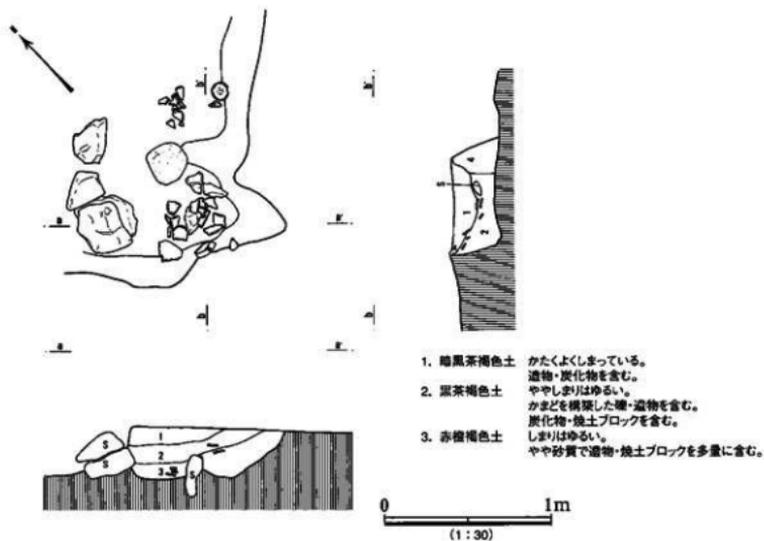
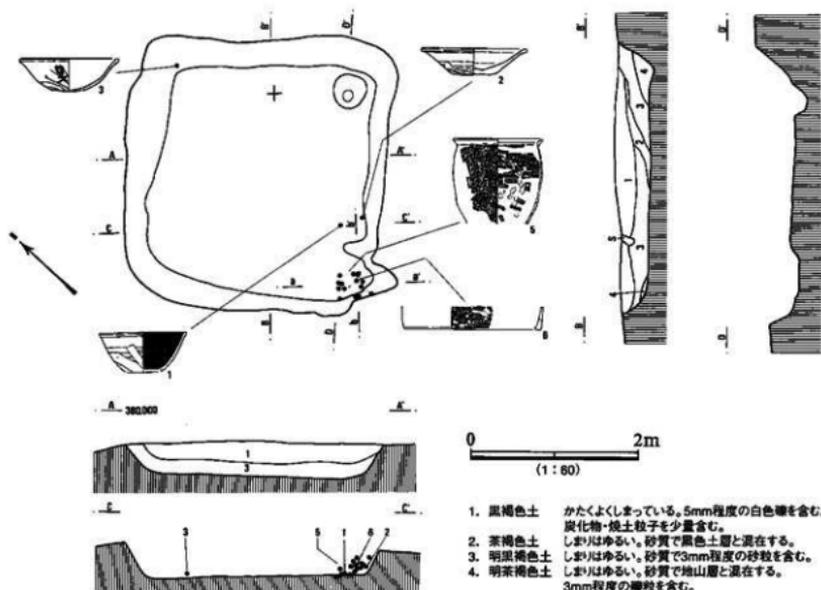


1. 黒褐色土 かくよくしまっている。  
粘質で5mm程度の白色礫を含む。  
しまりはゆるい。
2. 暗黒褐色土 土器・焼土・炭化物を多量に含む。  
しまりはややよい。
3. 赤褐色土 焼土粒子を多量に含む。  
しまりはよいが、ややゆるい。
4. 茶黒褐色土 砂質で地山層と混在する。

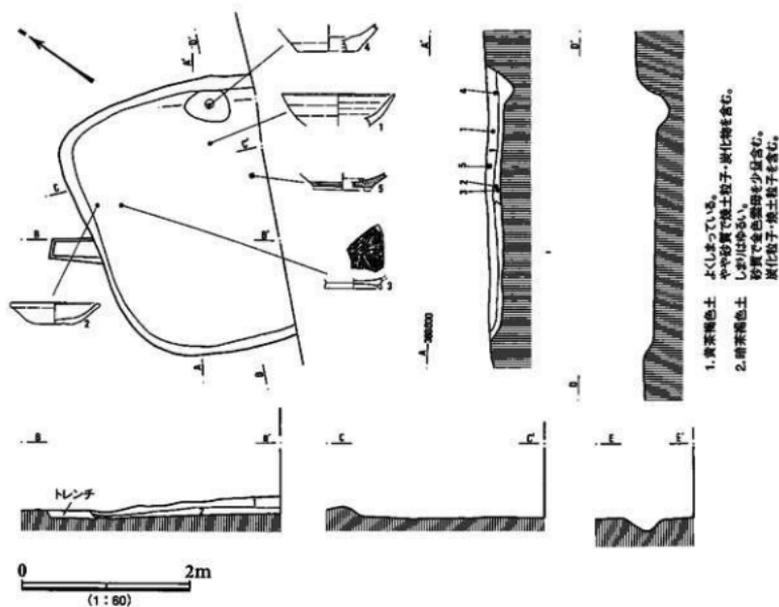
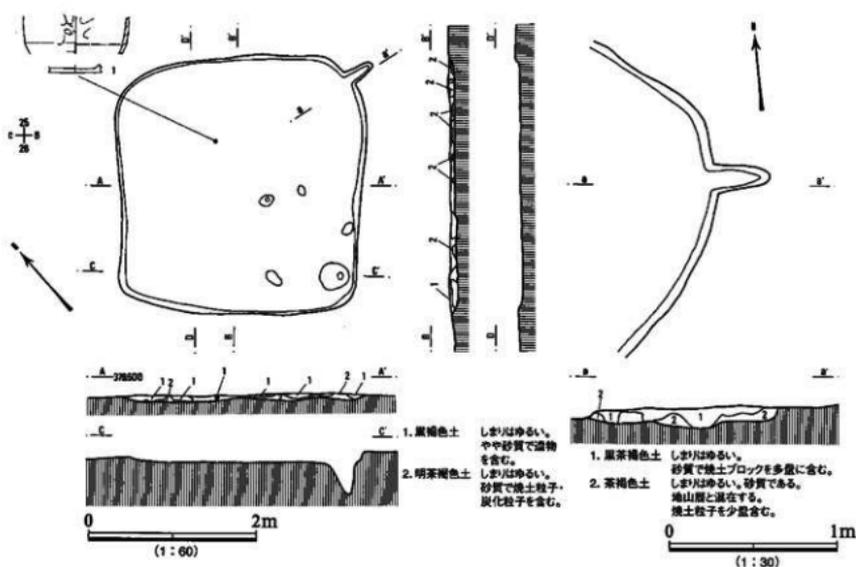


0 1m  
(1:30)

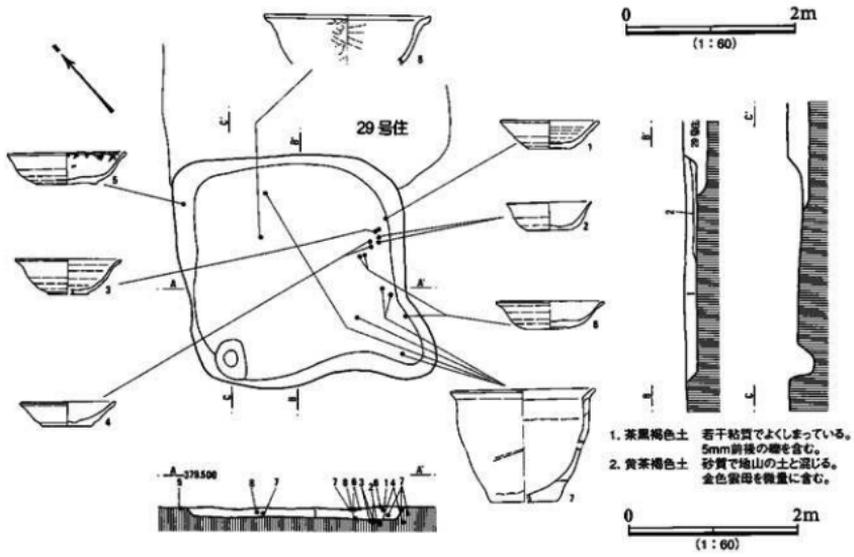
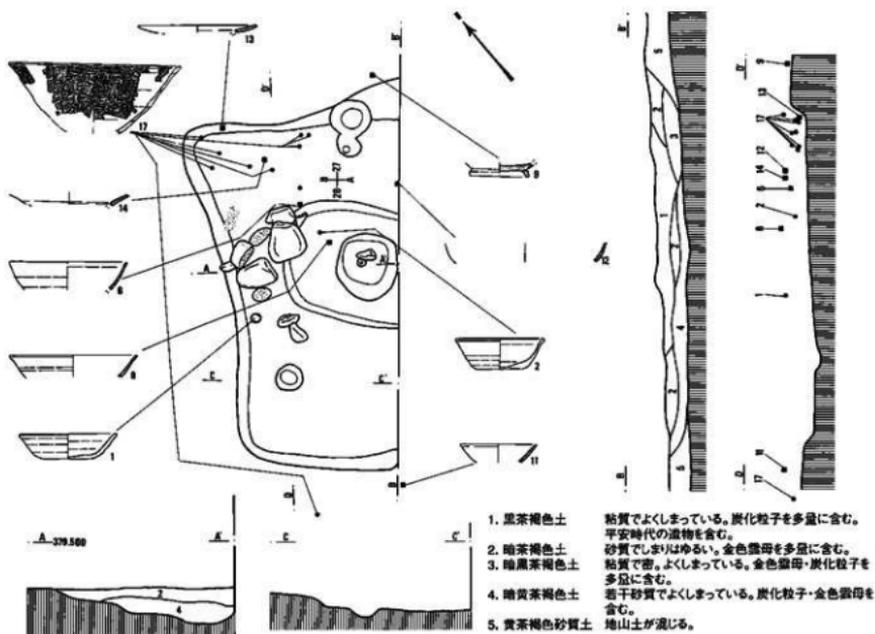
第28図 第21号住居跡



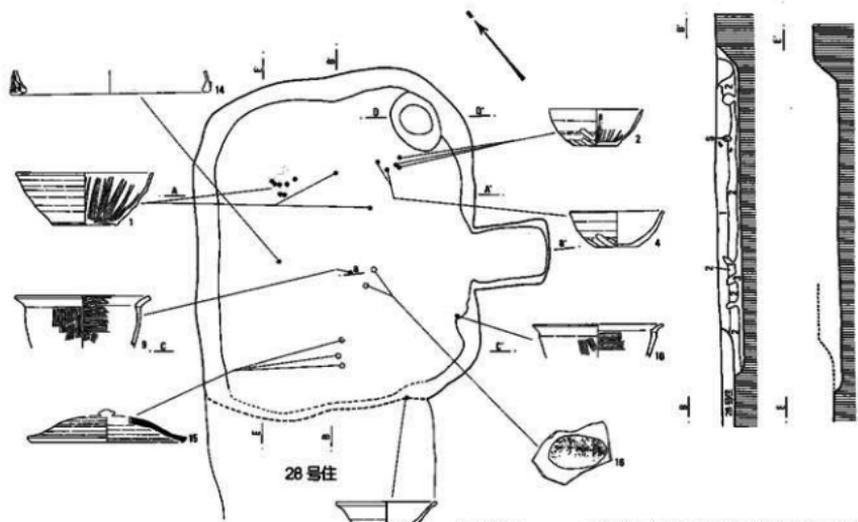
第29図 第23号住居跡



第30図 第24号・第25号住居跡

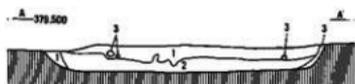


第31図 第27号・第28号住居跡



28号住

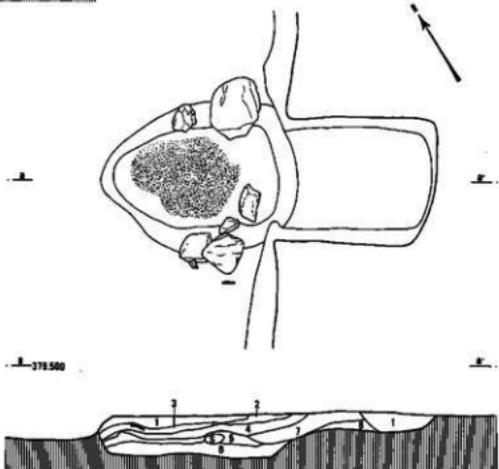
1. 黒褐色土 粘質でかたく、よくしまっている。炭化粒子・焼土粒子を多量に含む。金色遺物を微量に含む。
2. 暗黄茶褐色砂質土 しまりはゆるい。炭化粒子を微量に含む。焼土粒子を多量に含む。
3. 暗茶褐色砂質土 地山土が混じる。



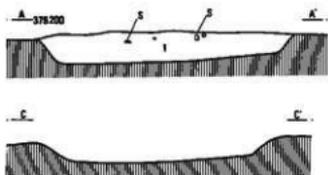
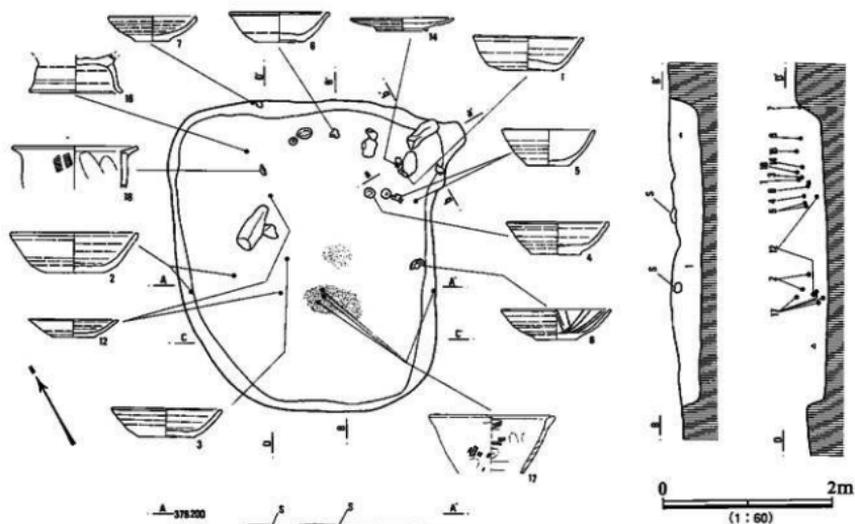
0 2m  
(1:60)

1. 赤褐色土 かたくよくしまっている。粘質で焼土ブロックを多量に含む。
2. 赤褐色土 かたくよくしまっている。焼土ブロックを多量に含む。
3. 黒褐色土 しまりはゆるい。焼土粒子を含む。
4. 赤褐色土 よくしまっている。焼土粒子を多量に含む。
5. 赤黄褐色土 やわらかい。やや砂質。焼土粒子を含む。
6. 黒褐色土 しまりはゆるく、ややわかい。
7. 黒茶褐色土 地山土と混在する。
8. 茶黄褐色砂質土 少量焼土粒子を含む。よくしまっている。

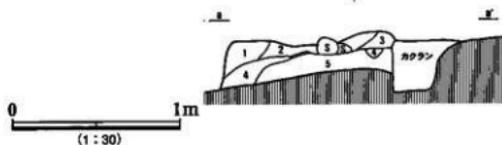
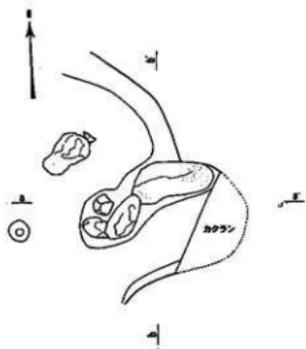
0 1m  
(1:30)



第32図 第29号住居跡

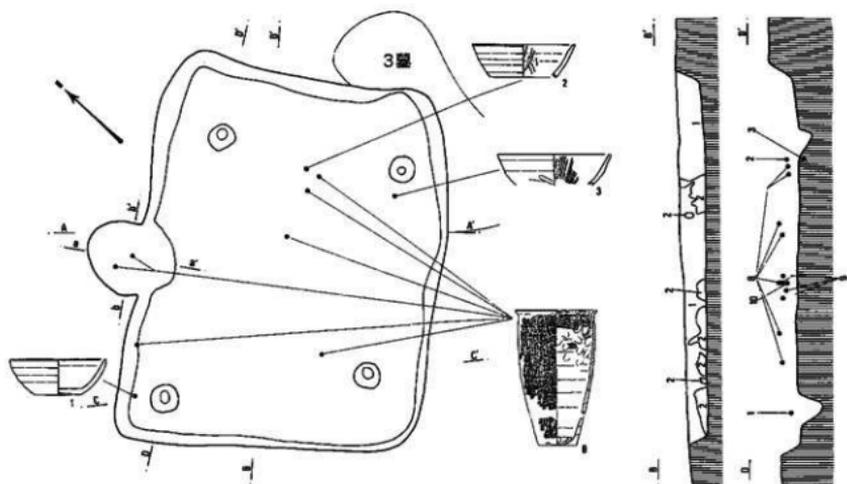


1. 茶褐色砂質 しまりはゆるい。砂質で遺物を含む。  
炭化物・焼土粒子多量含む。

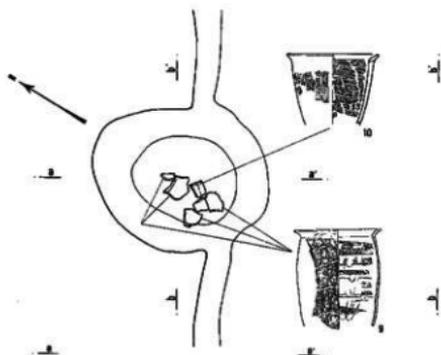


1. 黒褐色土 しまりはゆるい。  
白色燐粒を含む。  
2. 赤褐色土 しまりはゆるい。  
かまどの礎を含む。  
焼土ブロックを少量含む。  
3. 暗黒褐色土 しまりはゆるい。金色雲母を多量に含む。  
焼土ブロックを少量含む。  
4. 茶褐色土 しまりはゆるい。  
やや砂質で焼土ブロックを含む。  
5. 黄褐色土 砂質。地山。

第33図 第30号住居跡

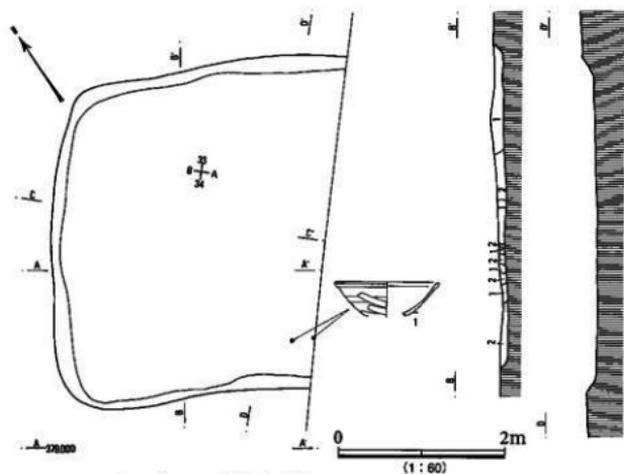


1. 黒褐色土 しまりはゆるい。  
やや砂質で地山層が混在する。
2. 茶褐色土 しまりはゆるい。

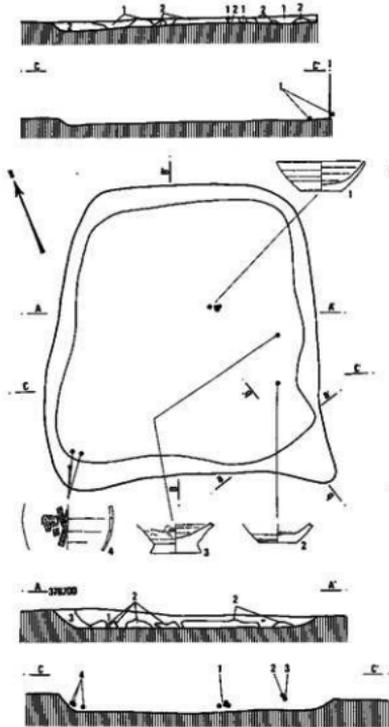


1. 黒褐色土 かくよくしまっている。  
土器を含む。焼土粒子・炭化物を多量に含む。
2. 黒赤褐色土 よくしまっている。
3. 明茶黒褐色土 金色霞母・焼土粒子を多量に含む。  
しまっている。
4. 黄茶褐色土 やや砂質で金色霞母・焼土粒子を多量に含む。  
地山層が混在する。金銀母を含む。

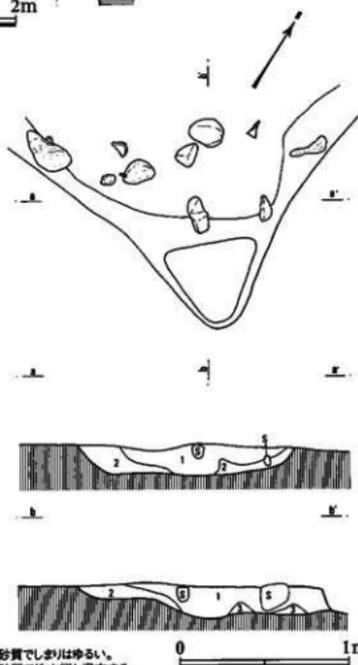
第34図 第31号住居跡



1. 黒褐色土 やや砂質で、しおりはゆるい。炭化灰子・焼土粒子を含む。
2. 黄褐色土 しおりはゆるい。地山層と混在する。

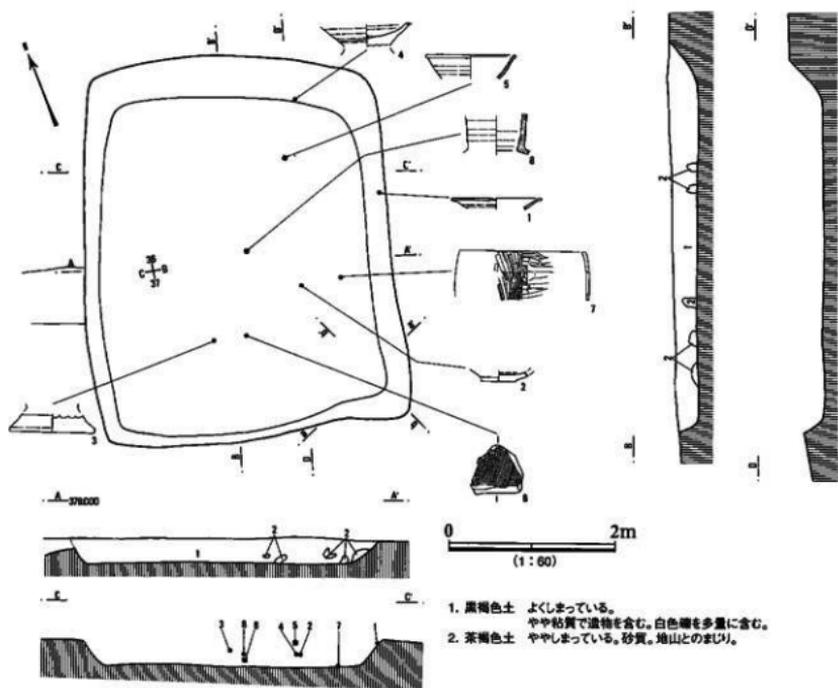


1. 黒褐色土 砂質でしおりはゆるい。砂質で地山層と混在する。
2. 黄褐色土 粘質でよくしまっている。
3. 暗黒褐色土 5号溝の埋土である。5mm前後の白色礫粒を含む。

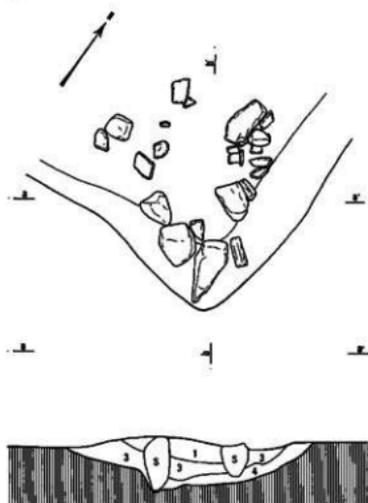


1. 黒褐色土 砂質でしおりはゆるい。炭化粒子・遺物を含む。
2. 黄褐色砂質土 地山層と混在する。
3. 赤褐色土 焼土層

第35図 第32号・第33号住居跡

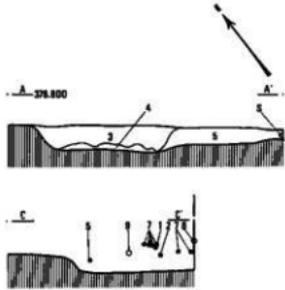
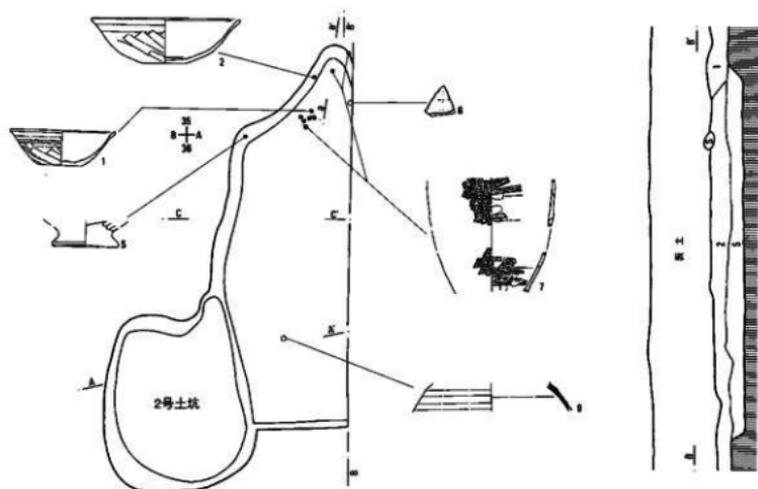


1. 黒褐色土 よくしまっている。  
やや粘質で遺物を含む。白色礫を多量に含む。
2. 茶褐色土 ややしまっている。砂質。地山とのまじり。

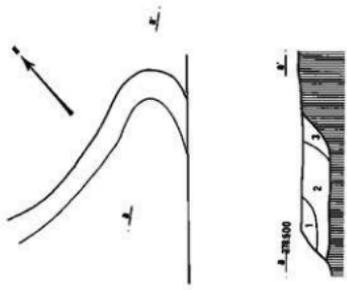
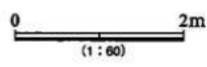


1. 黒褐色土 よくしまっている。遺物を含む。白色礫を多量に含む。
2. 茶褐色土 よくしまっている。1cm程度の礫を含む。焼土粒子少量含む。
3. 暗黒茶褐色土 しまりはゆるい。焼土粒・炭化物を多量に含む。
4. 茶褐色土 地山層が混在する。

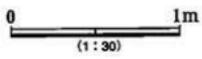
第36図 第34号住居跡



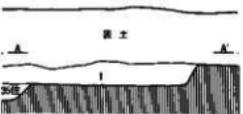
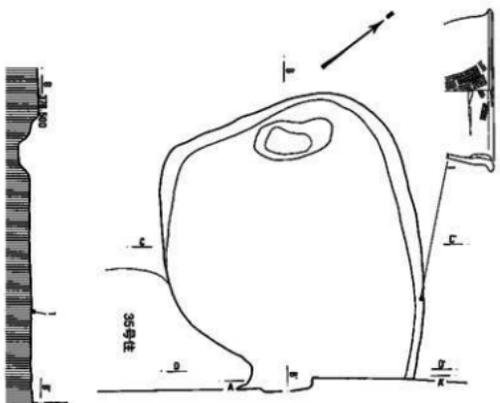
1. 黒褐色土 よくしまっており、密である。焼土ブロック・炭化粒子を多量に含む。遺物を含む。36号住居跡の埋土である。
2. 黒茶褐色土 密でしよりはゆるい。焼土粒子・炭化粒子を含む。5mm前後の白色粒子を含む。
3. 茶黒褐色土 砂質でしよりはゆるい。5mm前後の白色粒子を多量に含む。
4. 茶褐色土 砂質でしよりはゆるい。地山の土と混在する。
5. 明黒茶褐色土 ややしまっており、密。5mm前後の白色礫を多量に含む。炭化粒子・遺物を含む。



1. 黒褐色土 砂質でしよりはゆるい。炭化粒子を含む。
2. 黒茶褐色土 砂質でしよりはゆるい。焼土粒子・炭化粒子を含む。
3. 茶褐色土 砂質でしよりはゆるい。焼土ブロックを含む。

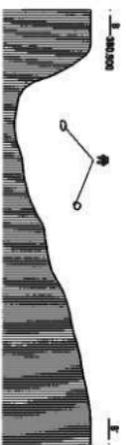
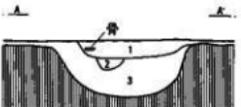
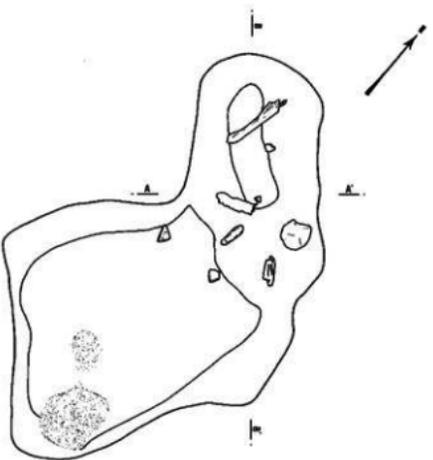


第37図 第35号住居跡・第2号土坑



1. 黄褐色土 灰土の層が厚く炭化粒子を多量に含む。  
 2. 暗黒茶褐色粘質土 粘質でかたくよくなっている。5mm前後の白色礫を含む。平安時代の遺物を含む。動物骨(馬骨)を含む層である。しまりはゆるい。炭化粒子・焼土を多量に含む。  
 3. 黄茶黒褐色土 地山の土を含む。焼土・炭化粒子を含む。

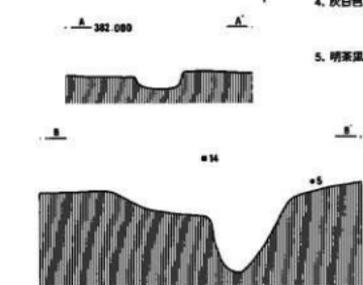
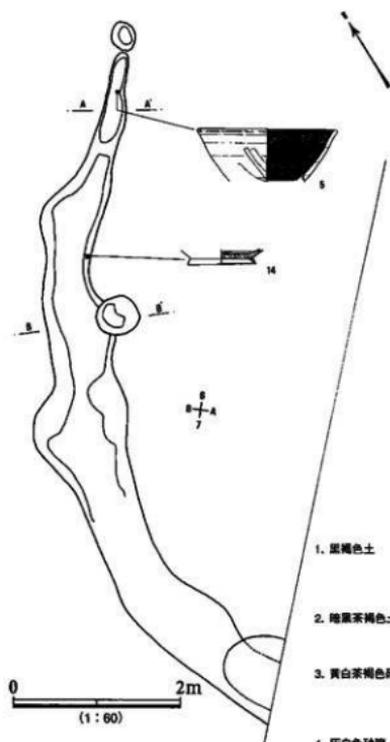
0 2m  
 (1:80)



1. 暗黒茶褐色粘質土 粘質でかたくよくなっている。5mm前後の白色礫を含む。平安時代の遺物を含む。動物骨(馬骨)を含む層である。しまりはゆるい。炭化粒子・焼土を多量に含む。  
 2. 暗黒褐色土  
 3. 黄茶黒褐色土 地山の土を含む。焼土・炭化粒子を含む。

0 1m  
 (1:30)

第38図 第36号住居跡・第1号土坑



1. 黒褐色土

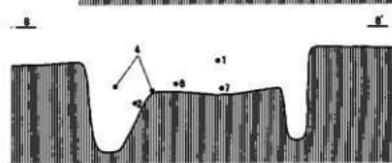
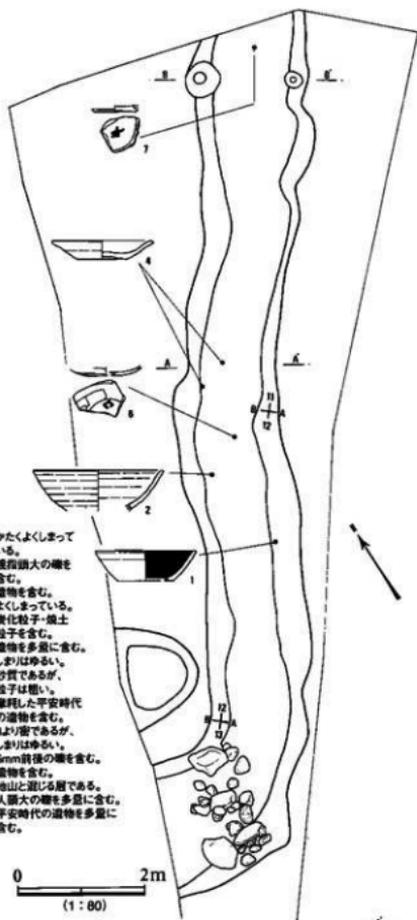
2. 暗茶褐色土

3. 黄白茶褐色砂礫土

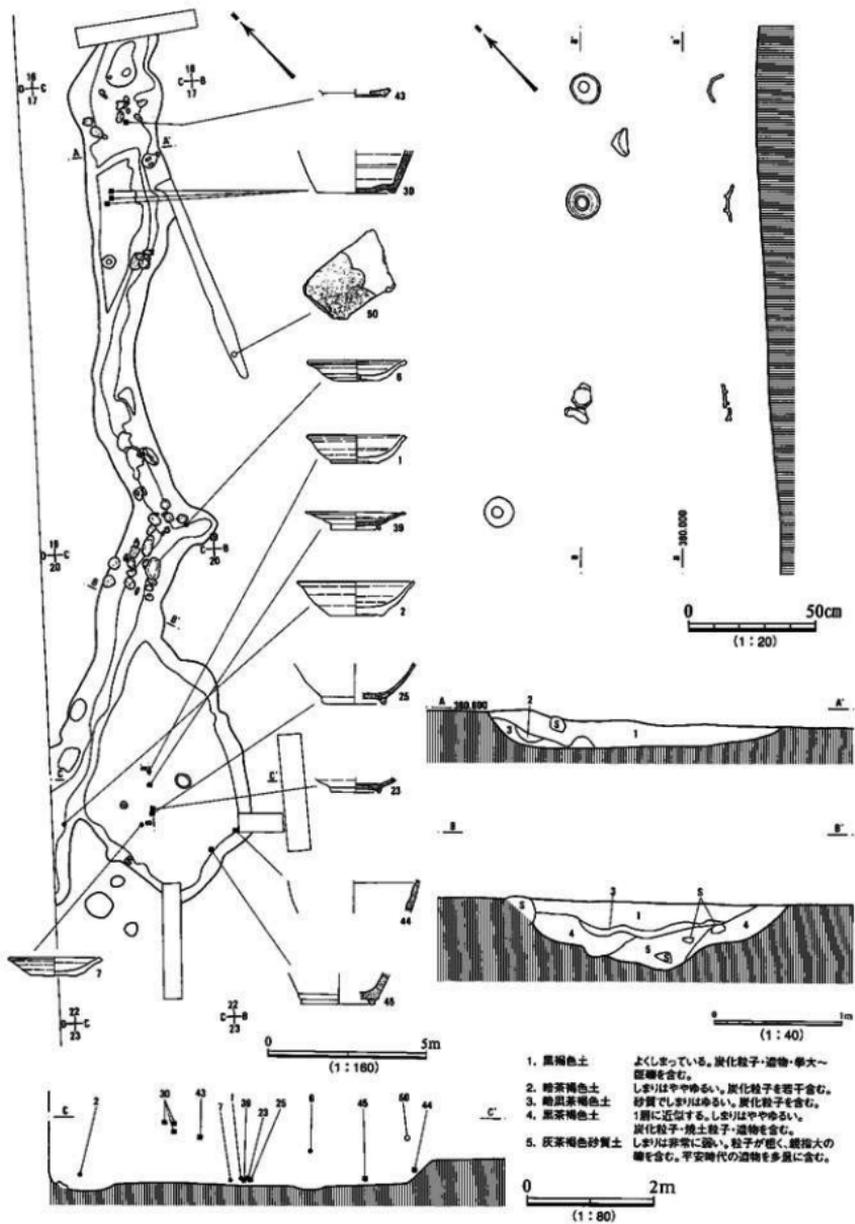
4. 灰白色砂礫

5. 明茶褐色土

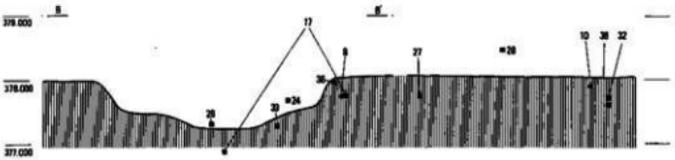
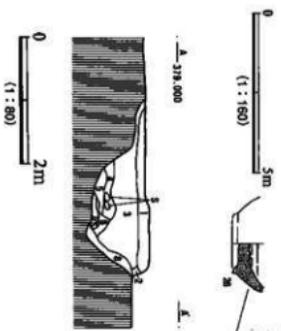
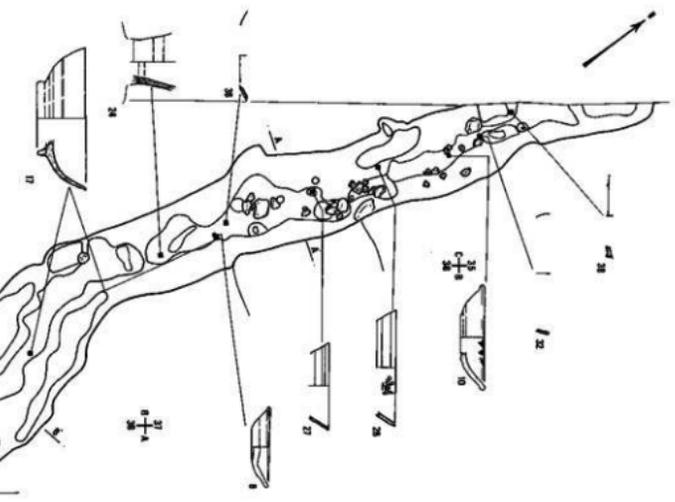
かたくよじまっている。  
鏡面鏡大の礫を含む。  
遺物を含む。  
よじまっている。  
炭化種子・黒土  
粒子を含む。  
遺物を多量に含む。  
しまりはゆるい。  
砂質であるが、  
粒子は粗い。  
厚肉した平安時代の  
遺物を含む。  
より厚であるが、  
しまりはゆるい。  
5mm前後の礫を含む。  
遺物を含む。  
地山と混じる層である。  
人頭大の礫を多量に含む。  
平安時代の遺物を多量に  
含む。



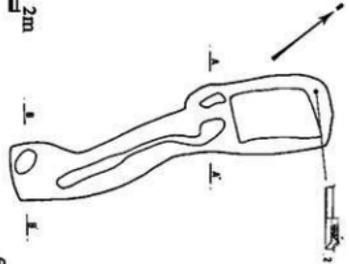
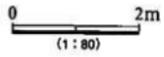
第39図 第1号・第3号溝



第40図 第4号溝



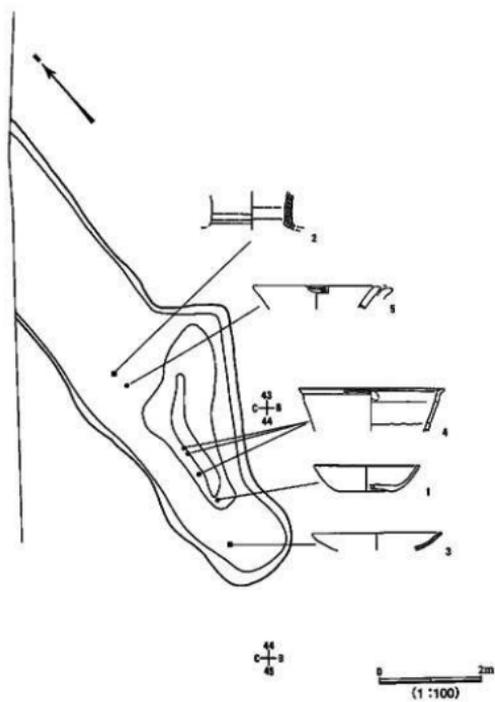
1. 黒褐色土 若干粘質でよくしまっている。5mm前後の白色粒子を多量に含む。
2. 暗黒褐色土 33号住居跡の覆土である。よくしまっている。白色粒子を多量に含む。
3. 陶黒茶褐色土 炭化粒子・焼土粒子を含む。
4. 黄茶褐色砂質土 しまりはややゆるい。炭化物・金色雲母を含む。人糞大の礫を多量に含む。しまりは非常にゆるい。砂質で粒子は細かい。金色雲母・溜物を含む。
5. 黄褐色砂質土 しまりが、しらはゆるい。金色雲母・溜物を含む。
6. 黒褐色砂質土 しまりが、しらはゆるい。金色雲母・溜物を含む。
7. 明茶黄褐色砂質土 しまりがゆるい。粒子は粗い。若干溜物を含む。
8. 明黄褐色土 地山層



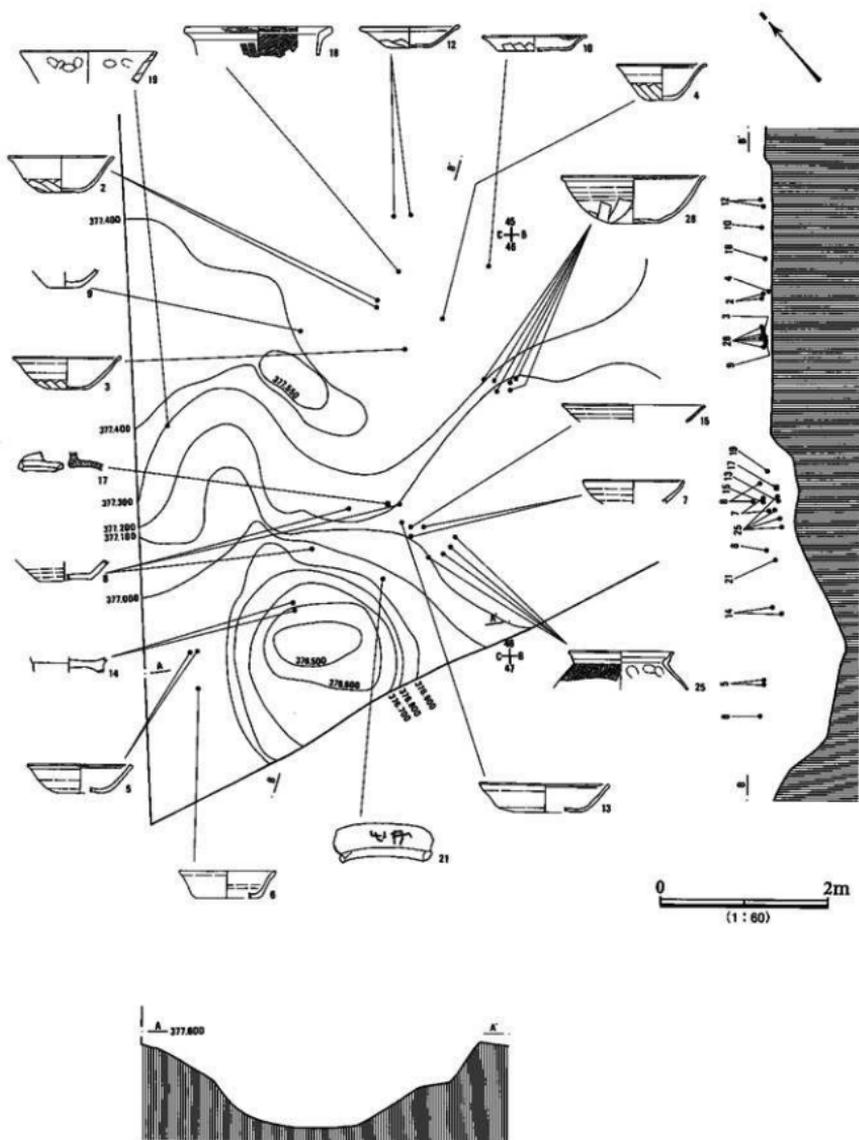
6号溝

第41図 第5号・第6号溝

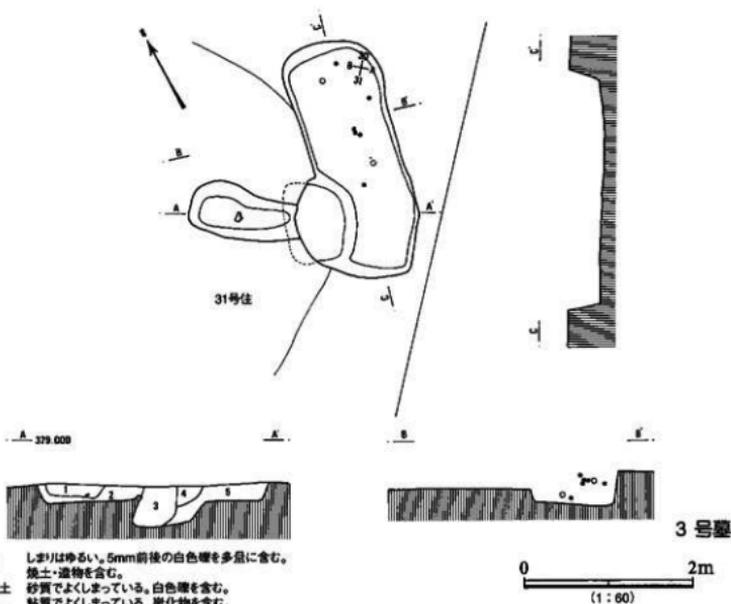
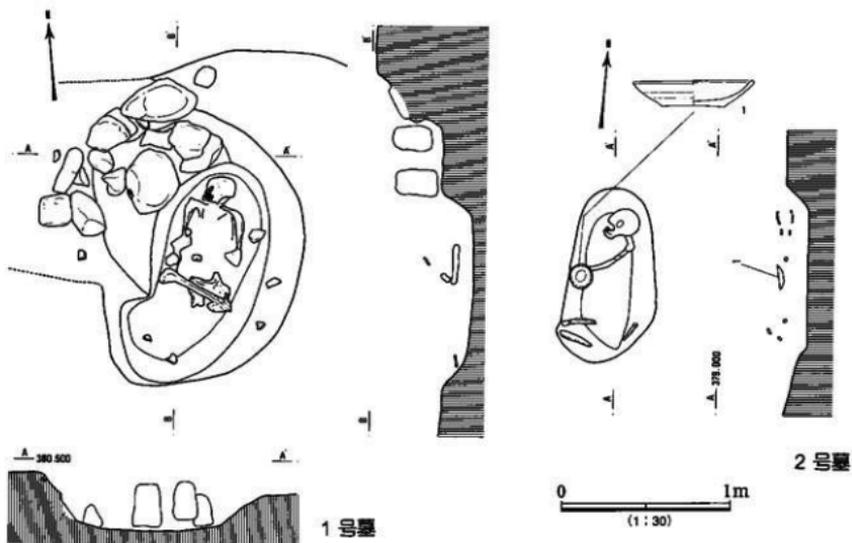




第43图 第9号井

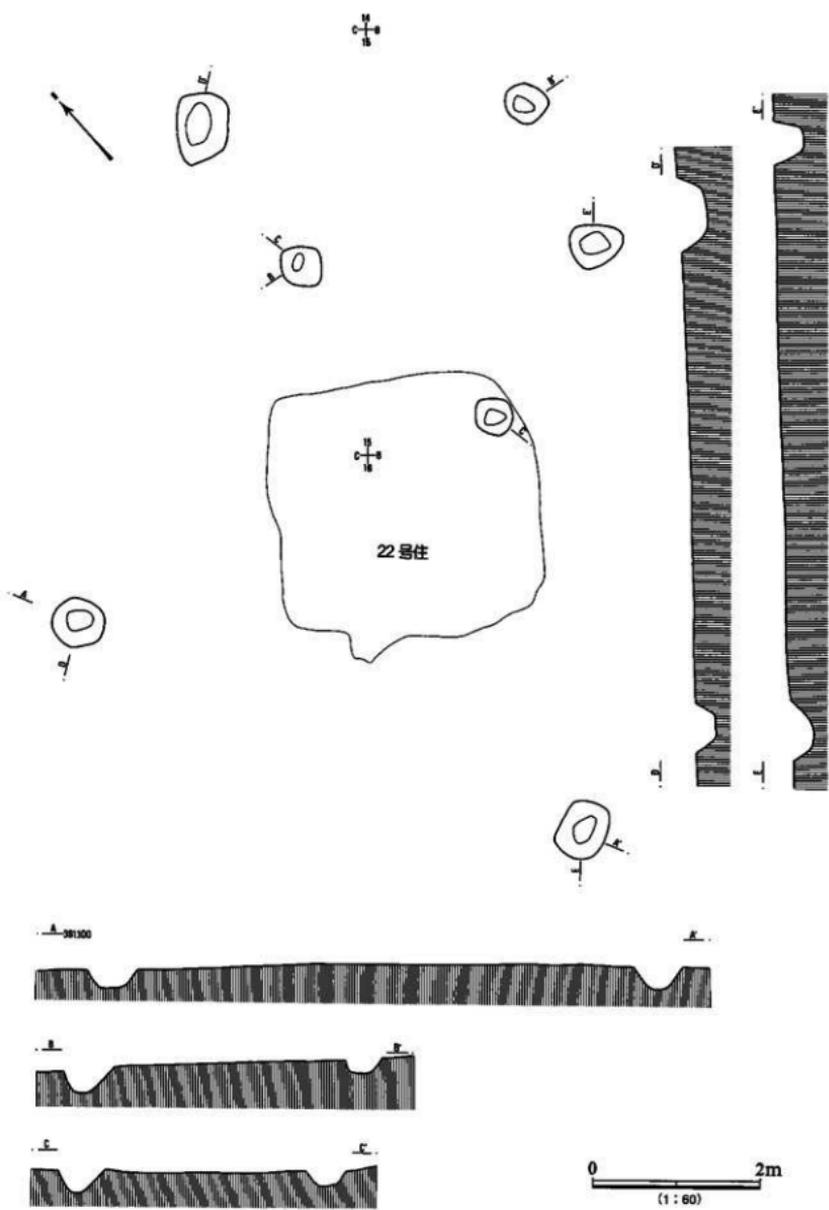


第44図 南側谷部

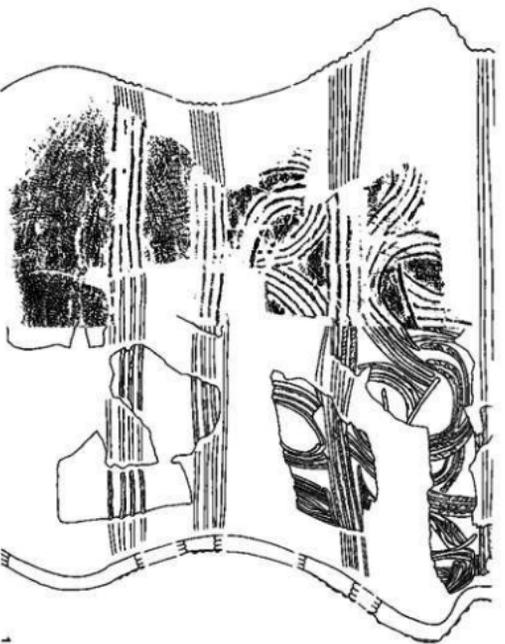


1. 茶黒褐色土 しまりはゆるい。5mm前後の白色礫を多量に含む。焼土・遺物を含む。
2. 明黄茶褐色土 砂質でよくしまっている。白色礫を含む。
3. 明黒褐色土 粘質でよくしまっている。炭化物を含む。
4. 明黄茶褐色土 よくしまっている。地山層が混在する。
5. 黒褐色土 しまりはゆるい。金雲母・炭化粒子・焼土を含む。

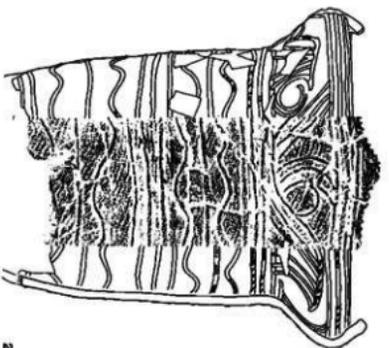
第45図 第1号・第2号・第3号墓



第46図 ピット群



1



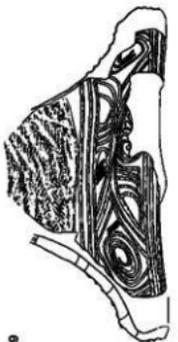
2



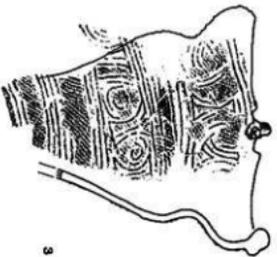
4



5



6



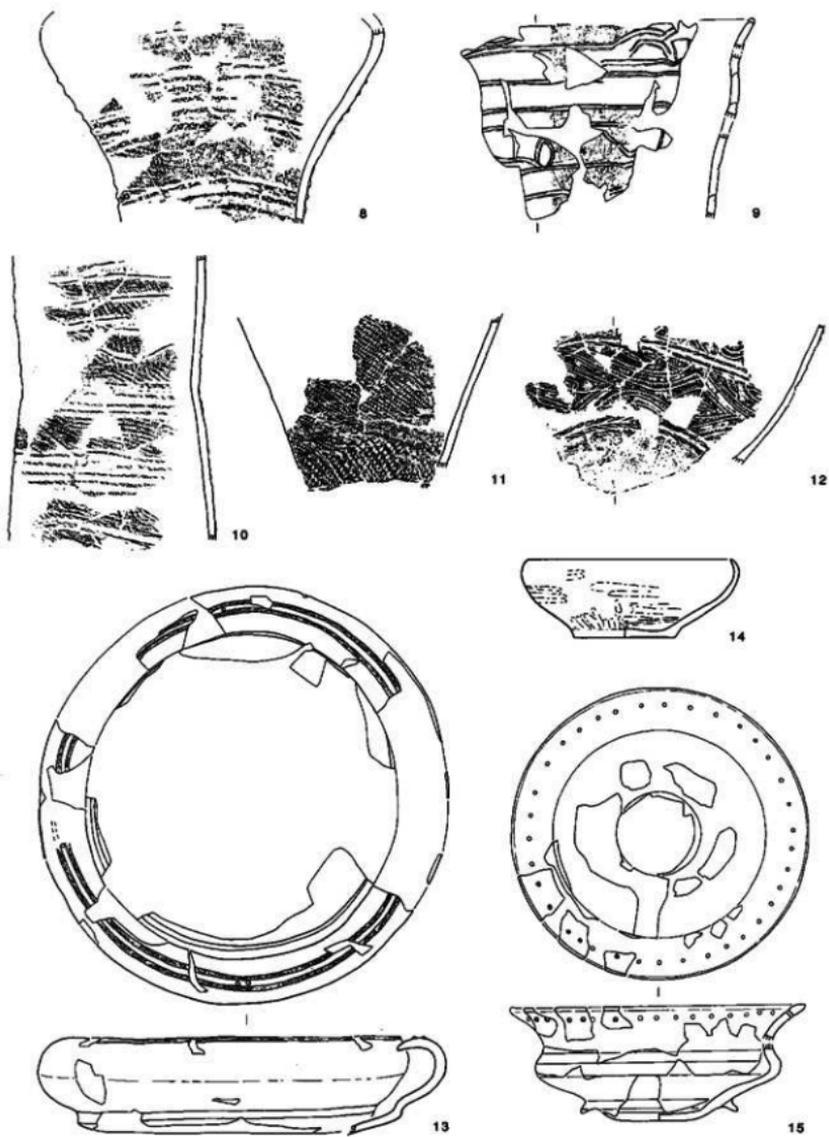
3



7

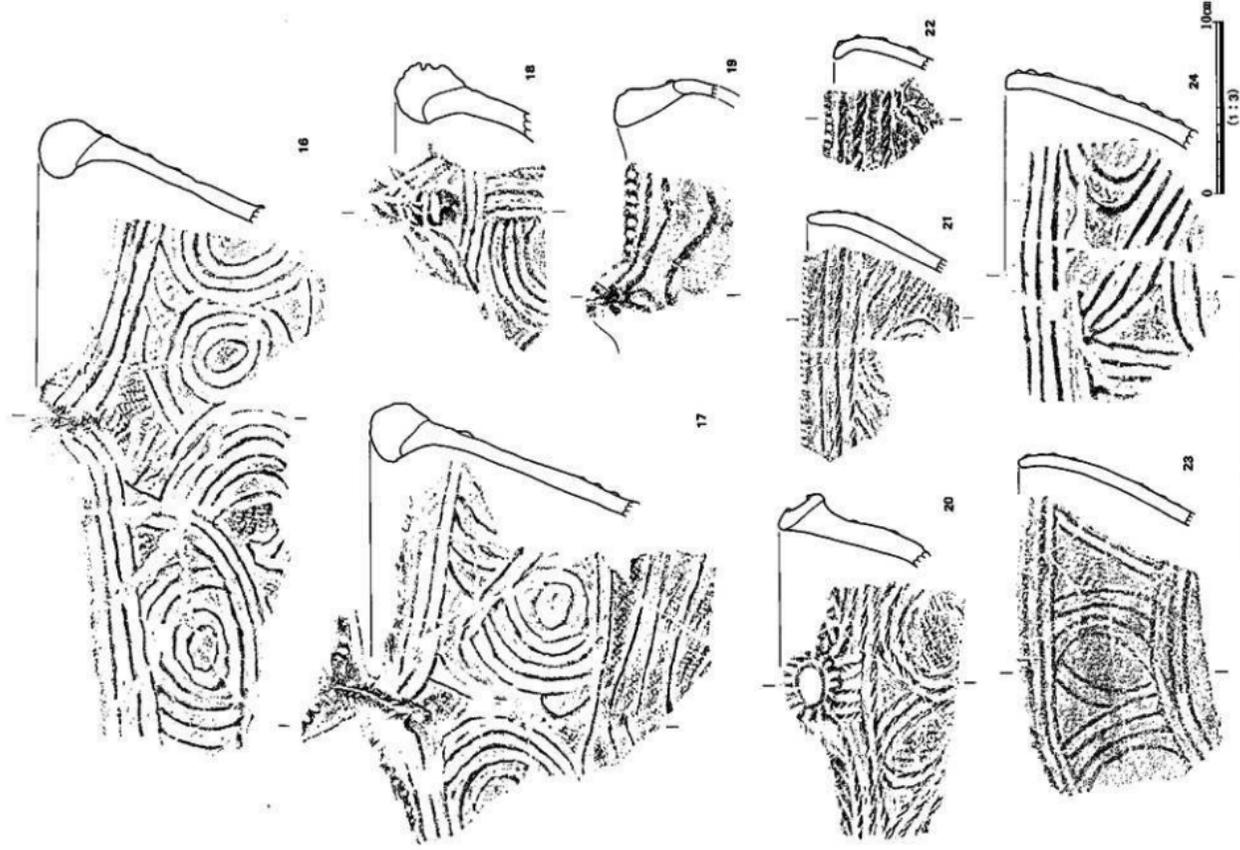


第47图 第1号住居跡出土遺物(1)

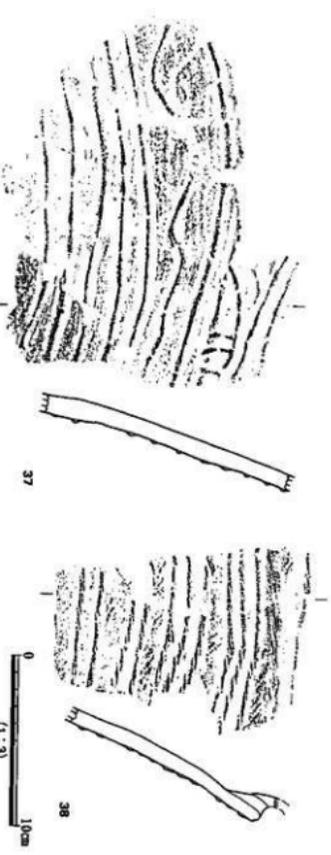
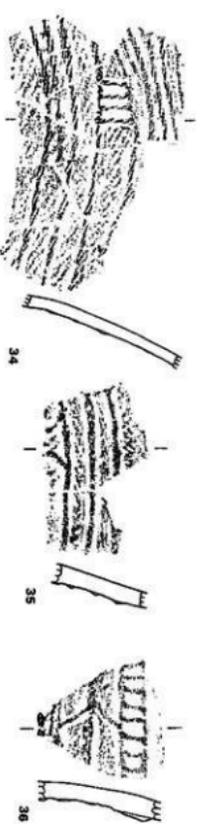
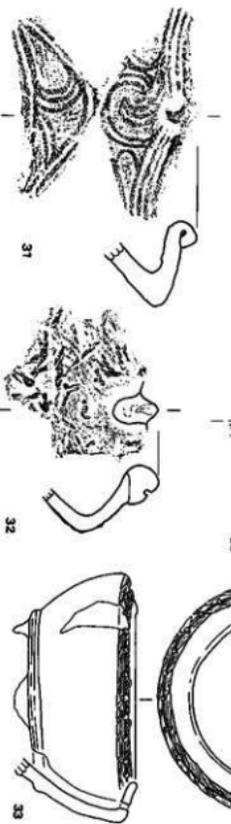


0 10cm  
(1:6)

第48图 第1号住居跡出土遺物(2)

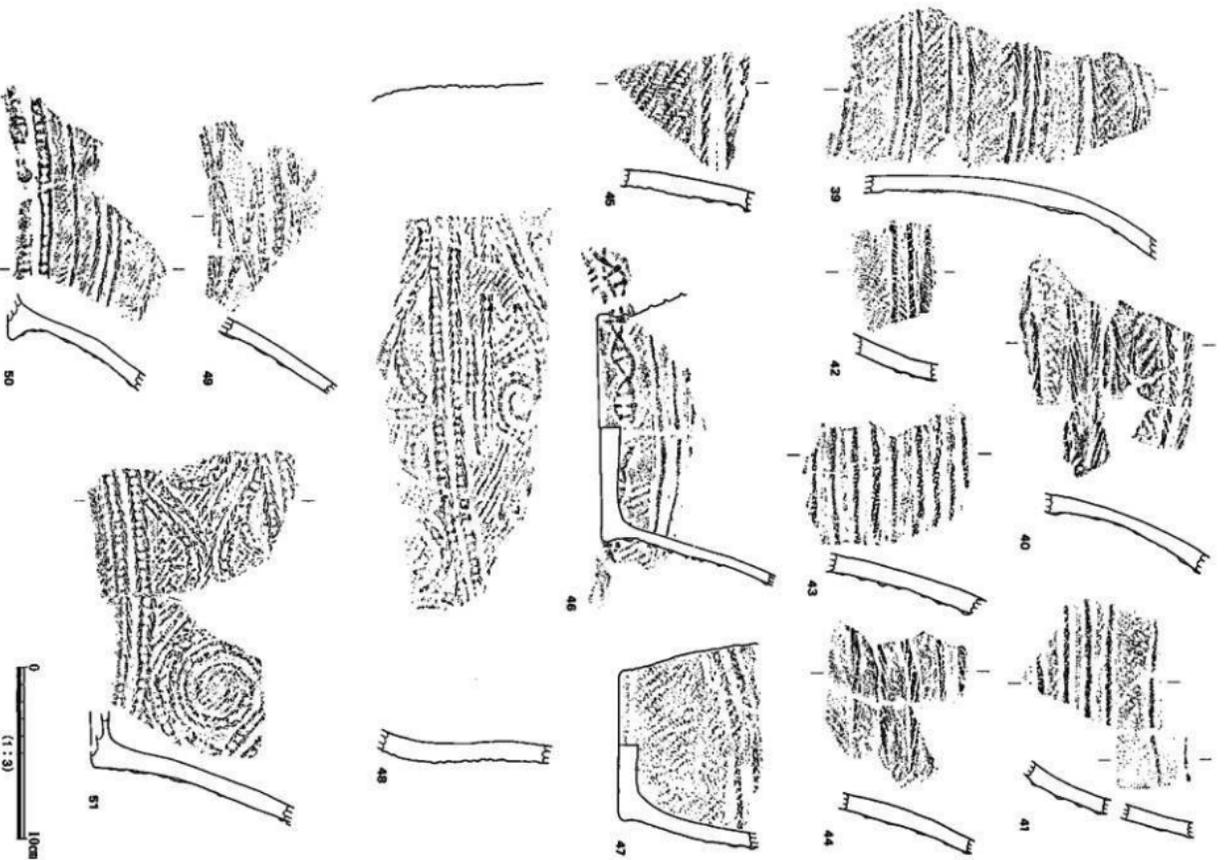


第49図 第1号住居跡出土遺物(3)

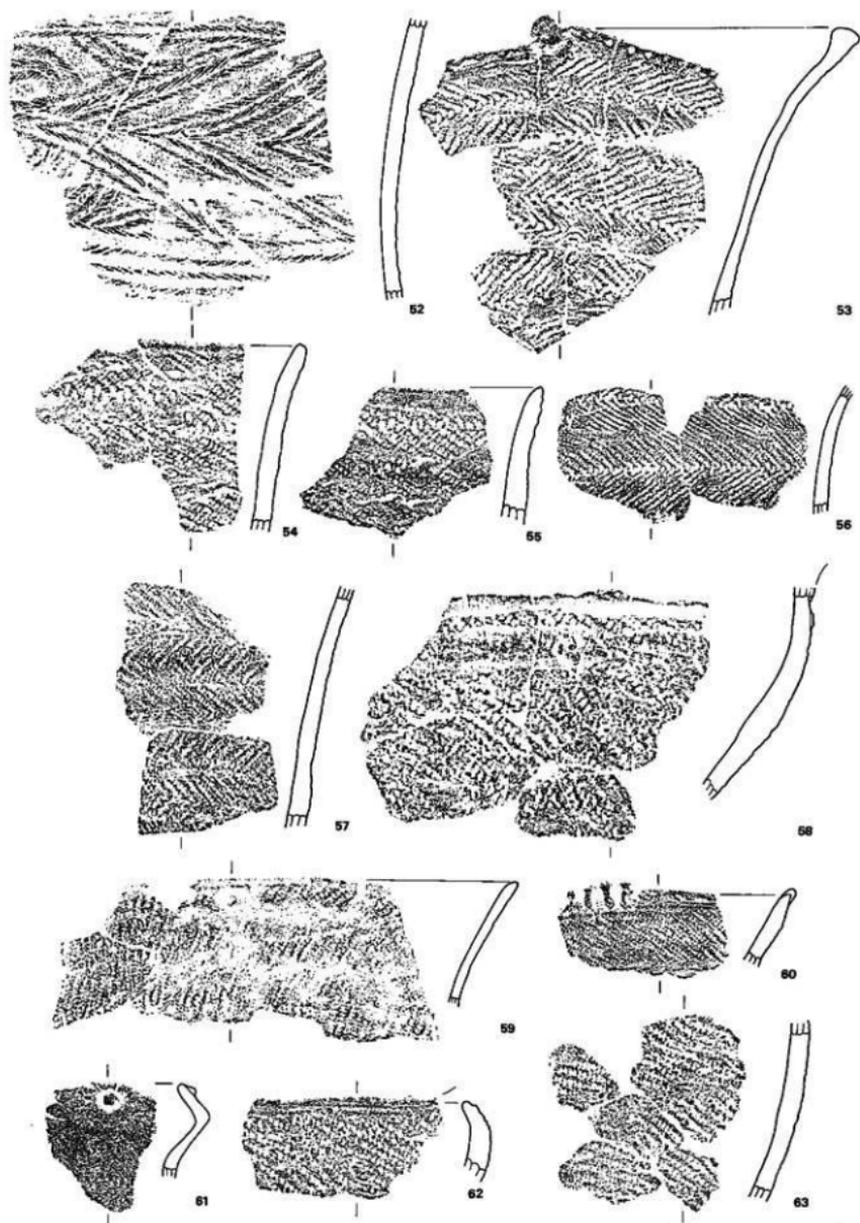


0 10cm  
(1:3)

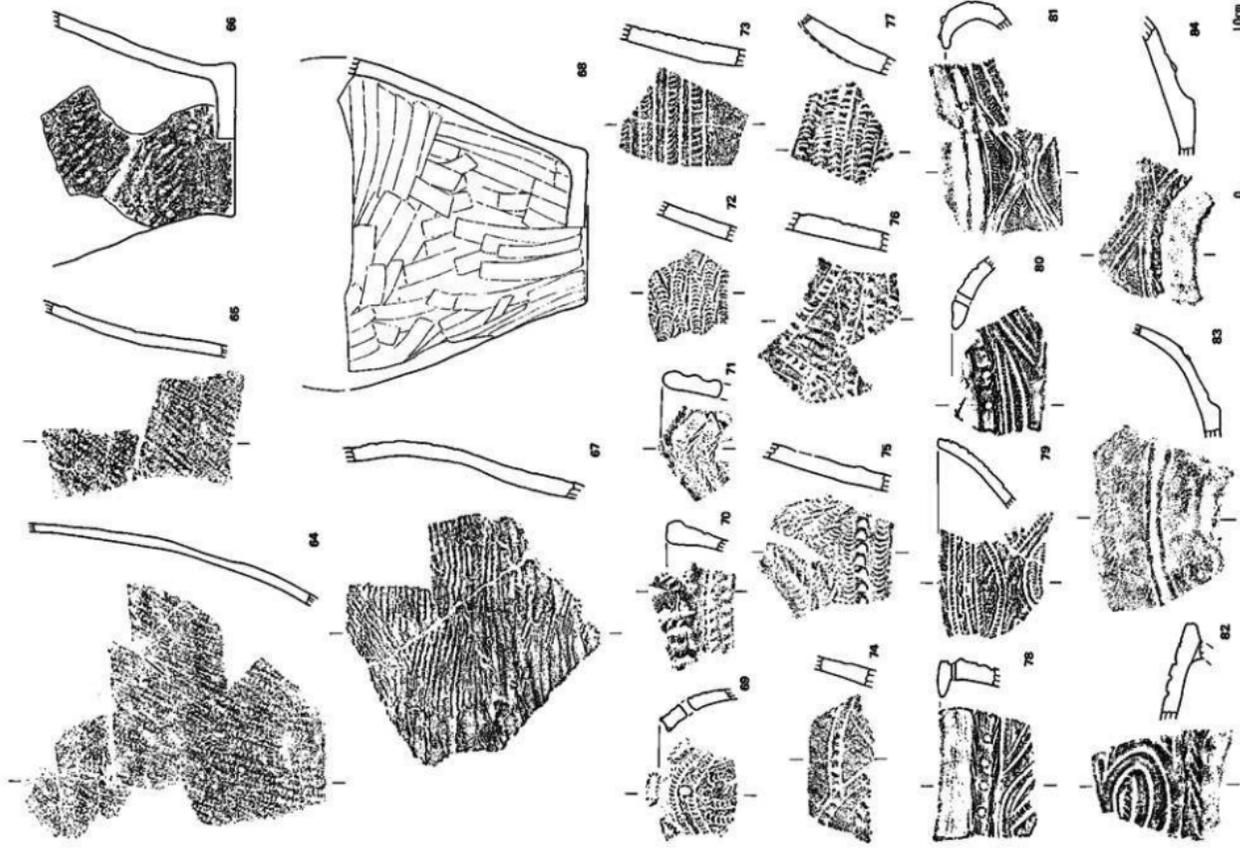
第50图 第1号住居跡出土遺物(4)



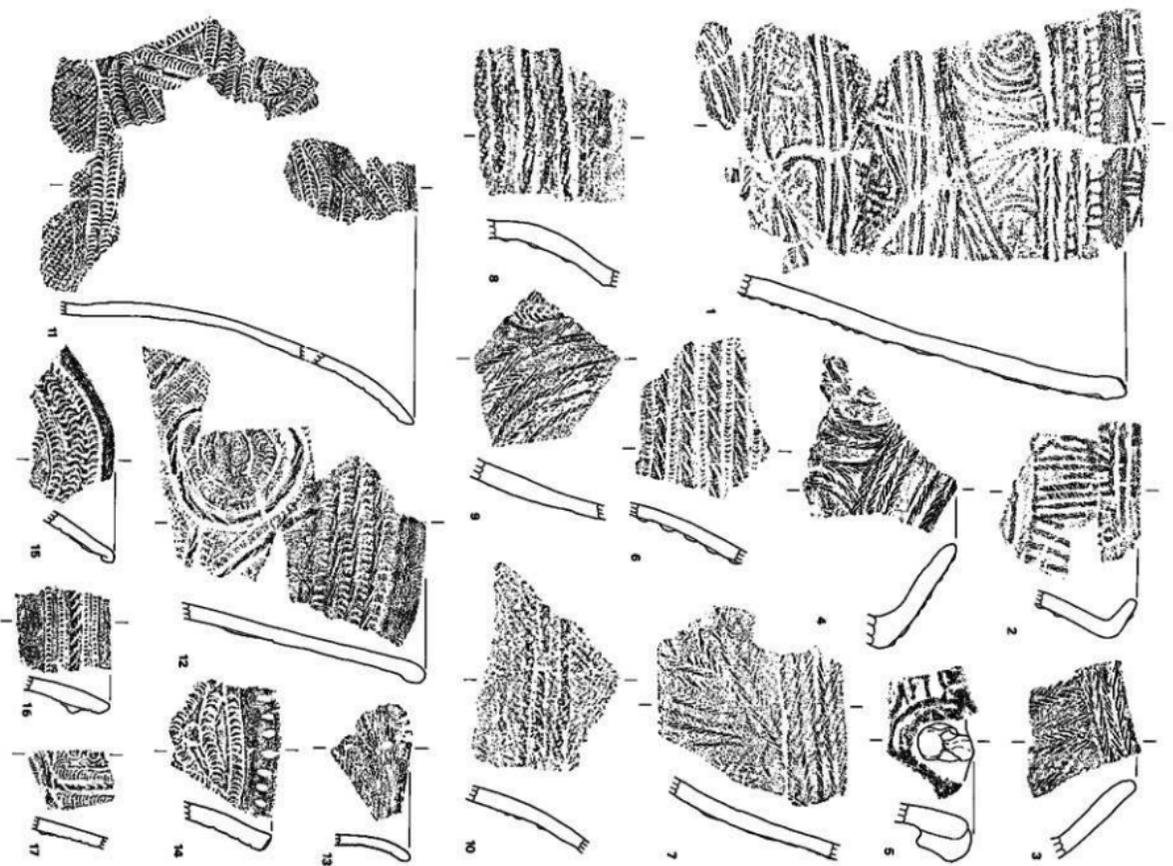
第51图 第1号住居跡出土遺物(5)



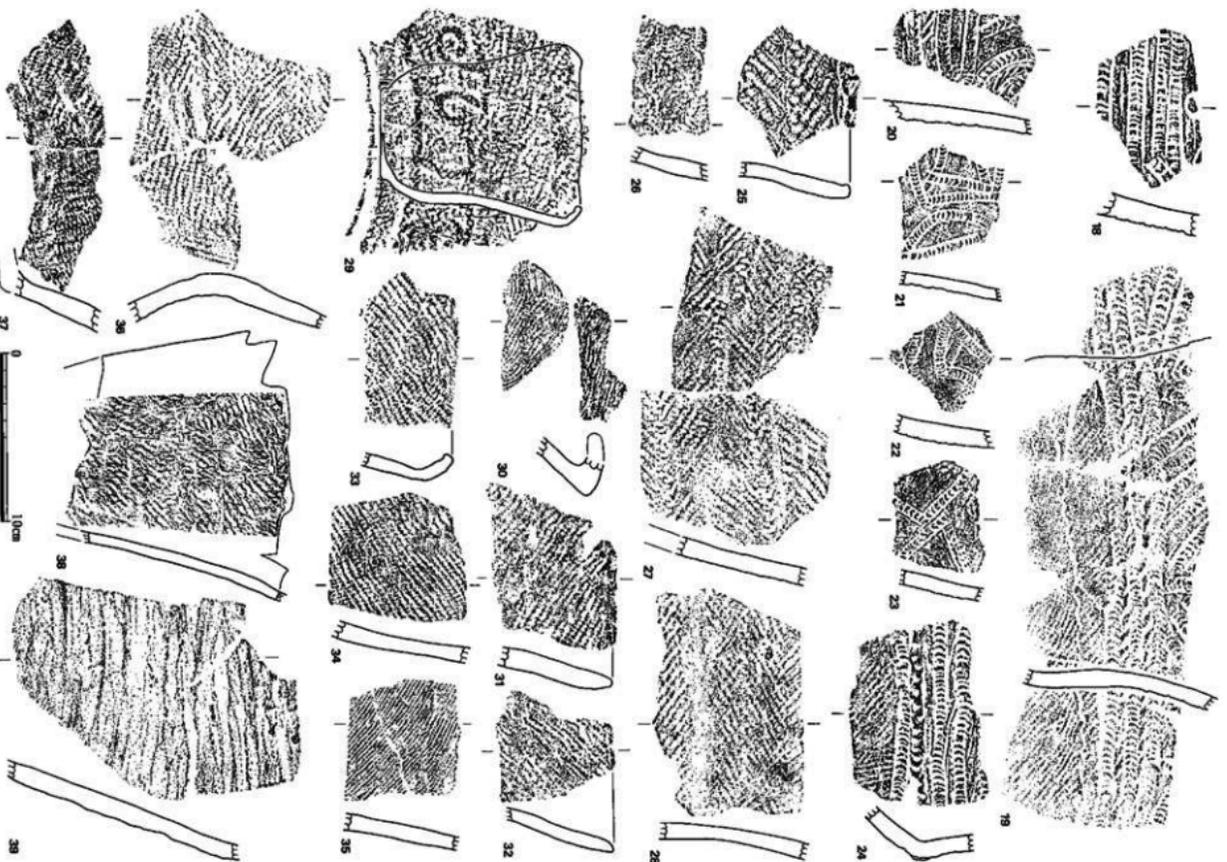
第52图 第1号住居跡出土遺物(6)



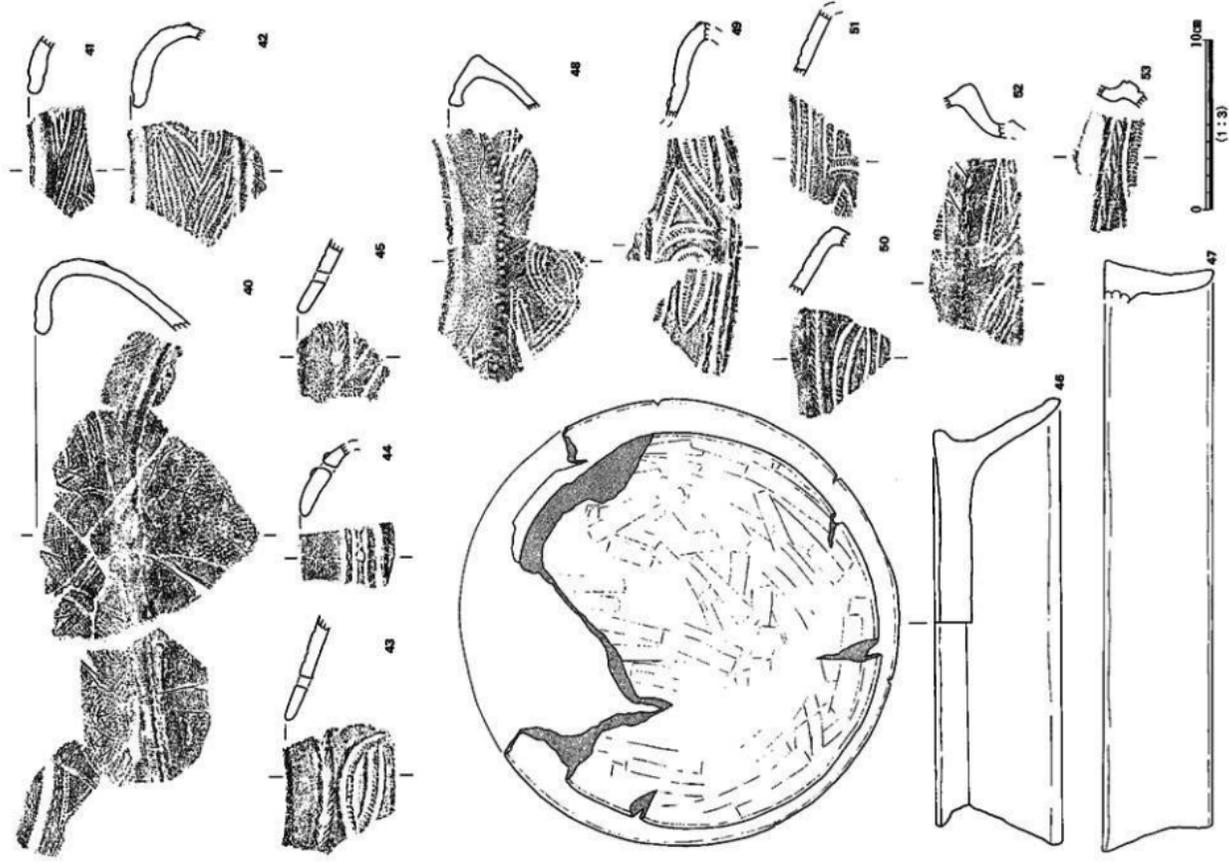
第53图 第1号住居跡出土遺物(7)



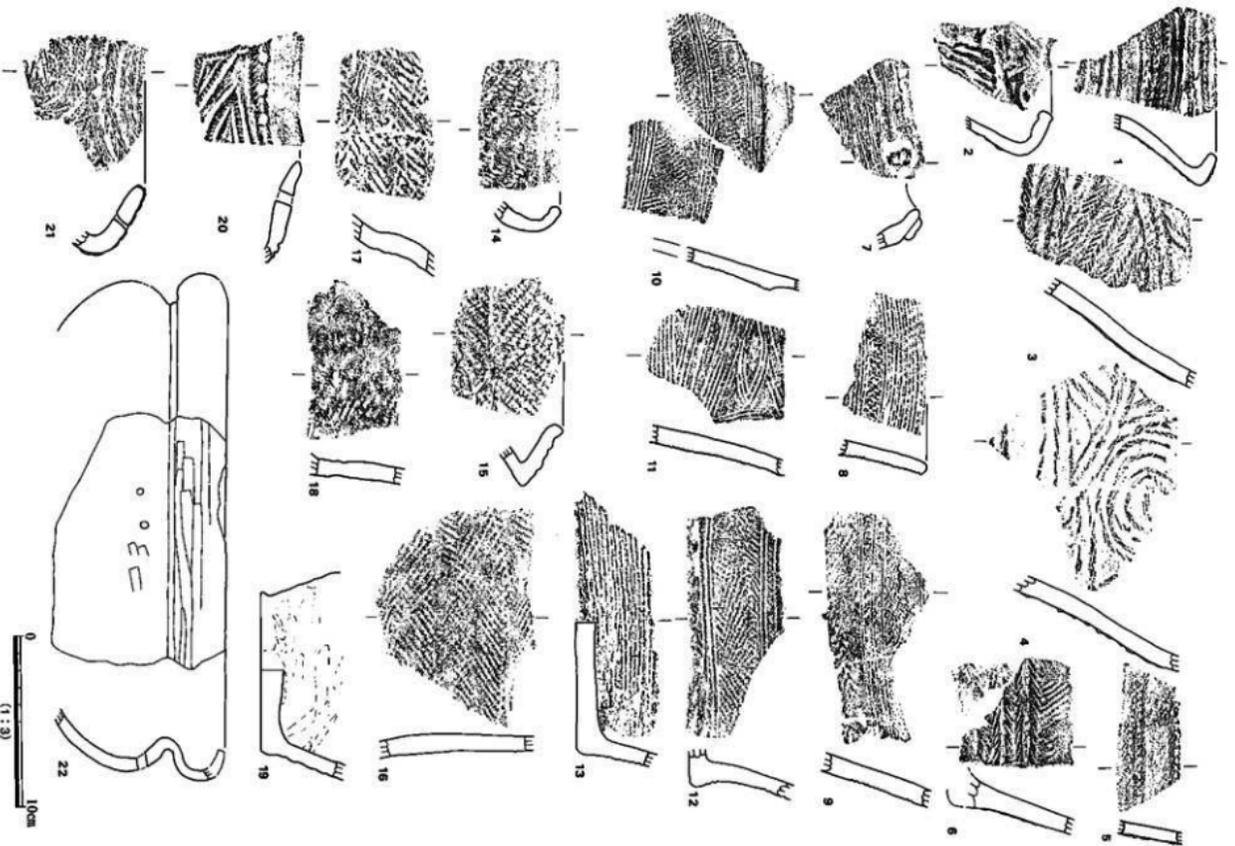
第54图 第2号住居跡出土遺物(1)



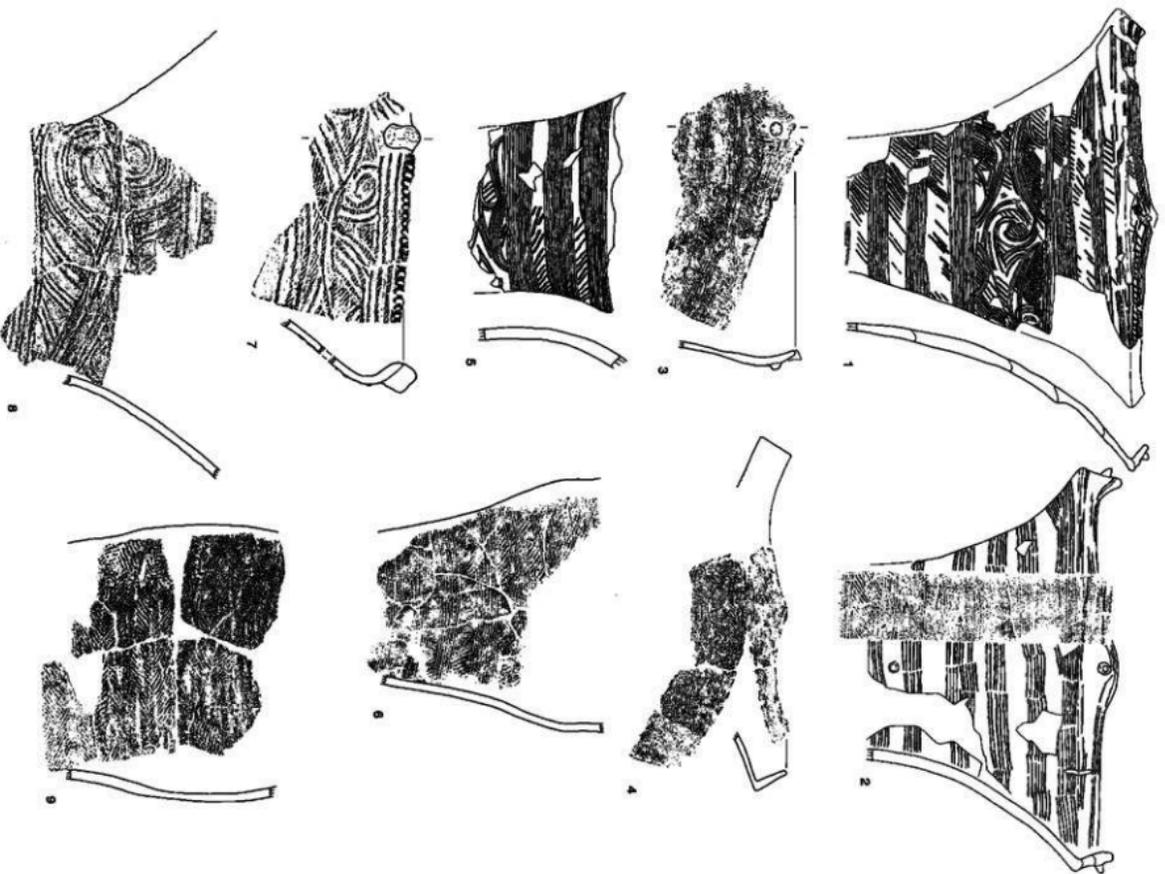
第55图 第2号住居跡出土遺物(2)



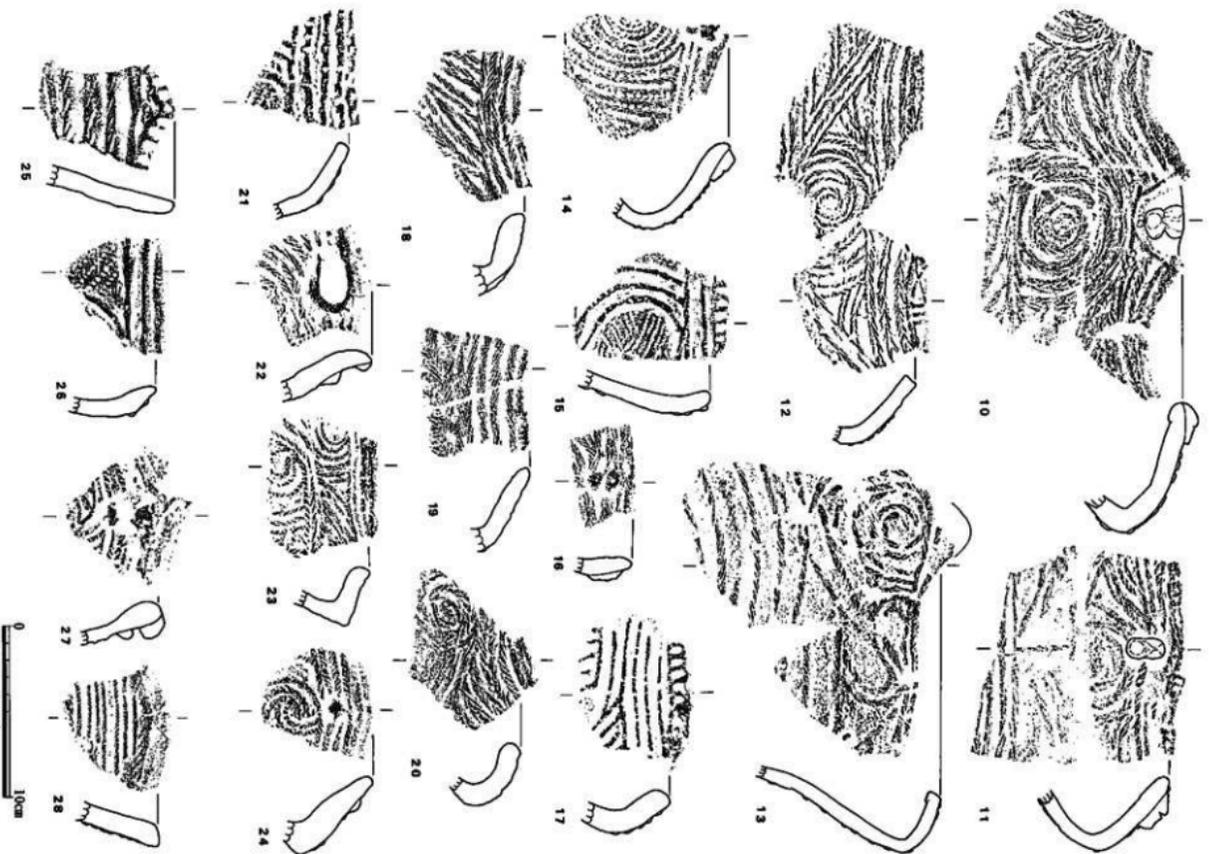
第56图 第2号住居跡出土遺物(3)



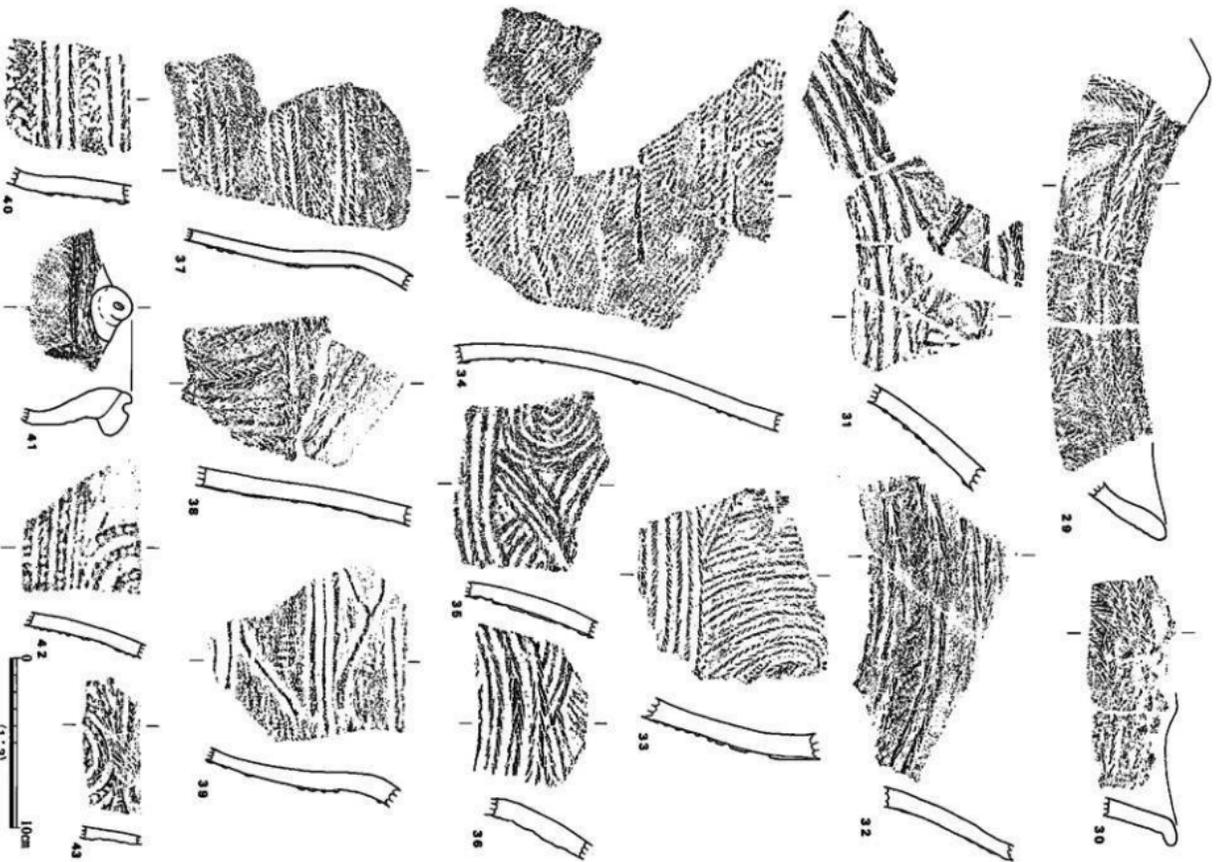
第57图 第3号住居跡出土遺物



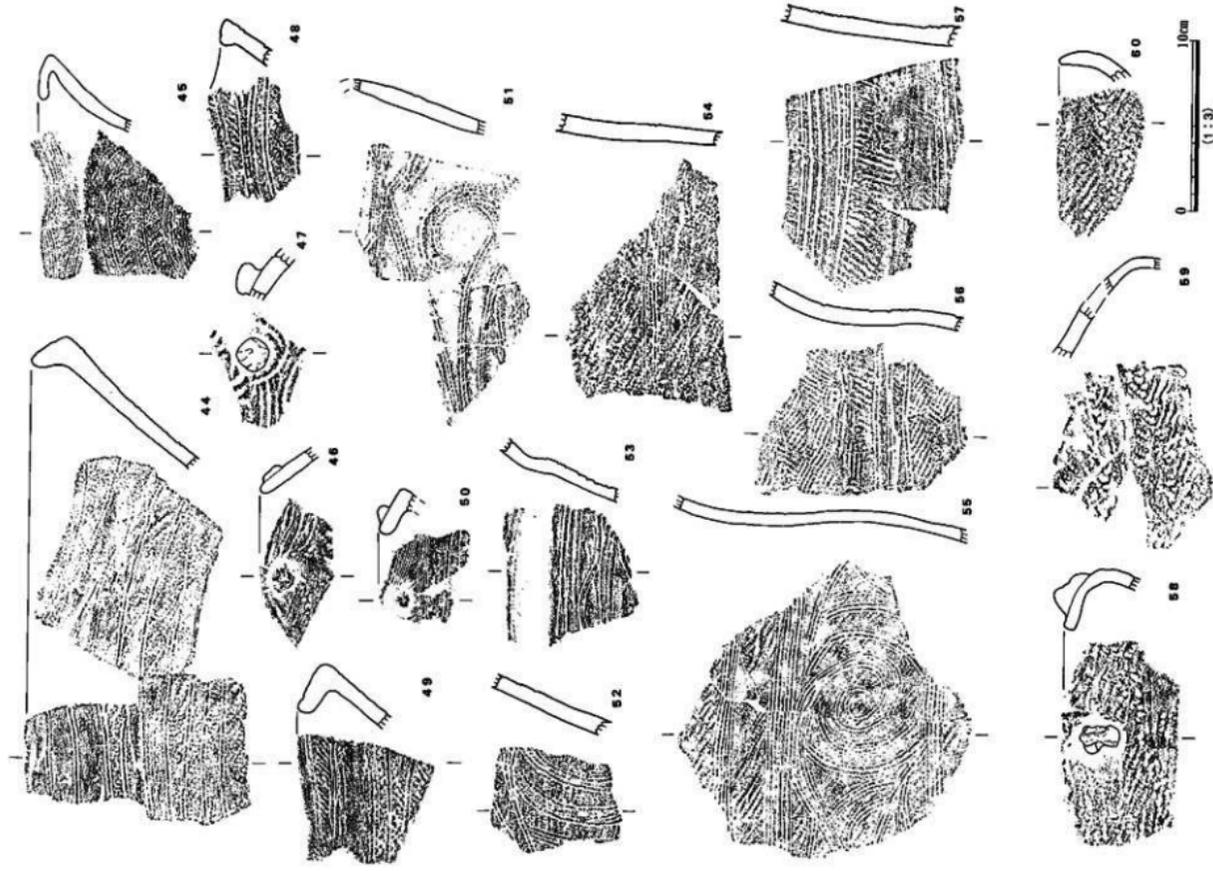
第58图 第4号住居跡出土遺物(1)



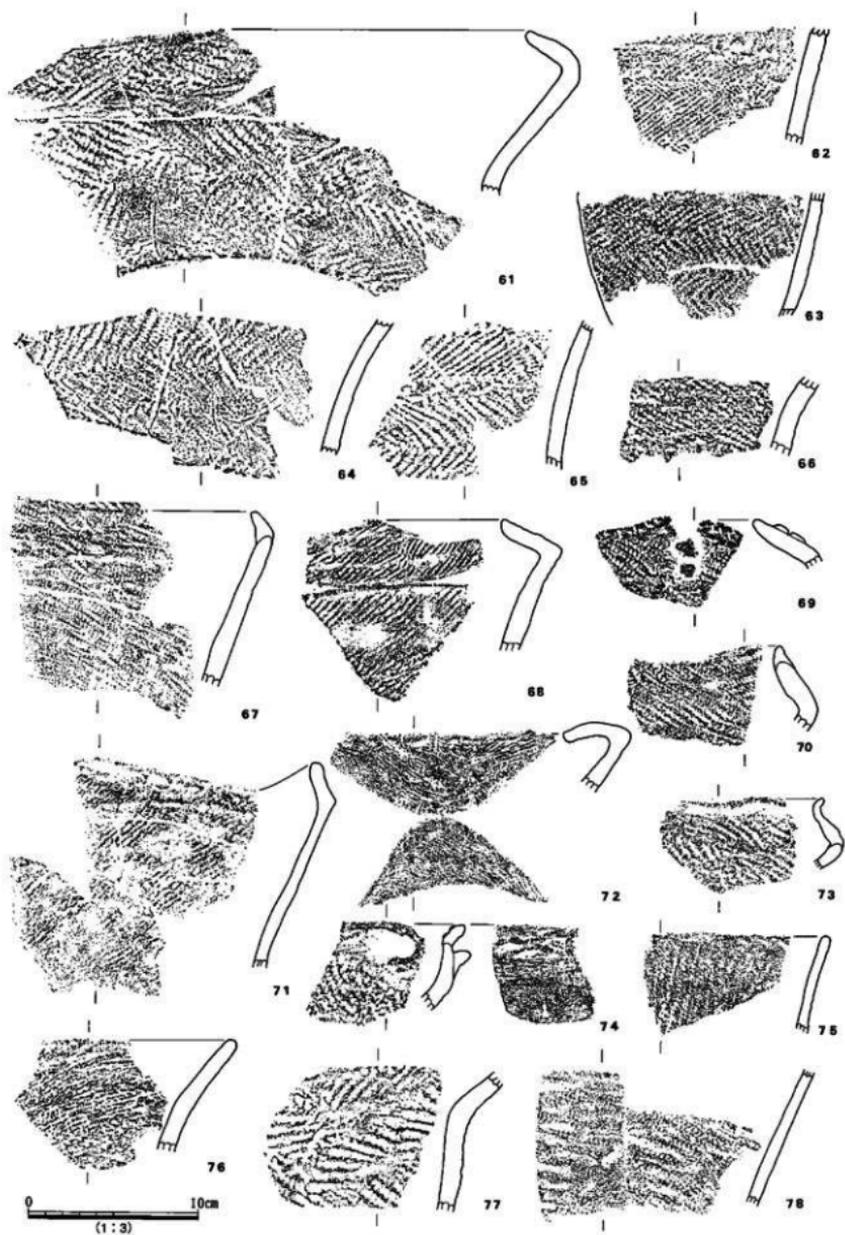
第S9图 第4号住居跡出土遺物(2)



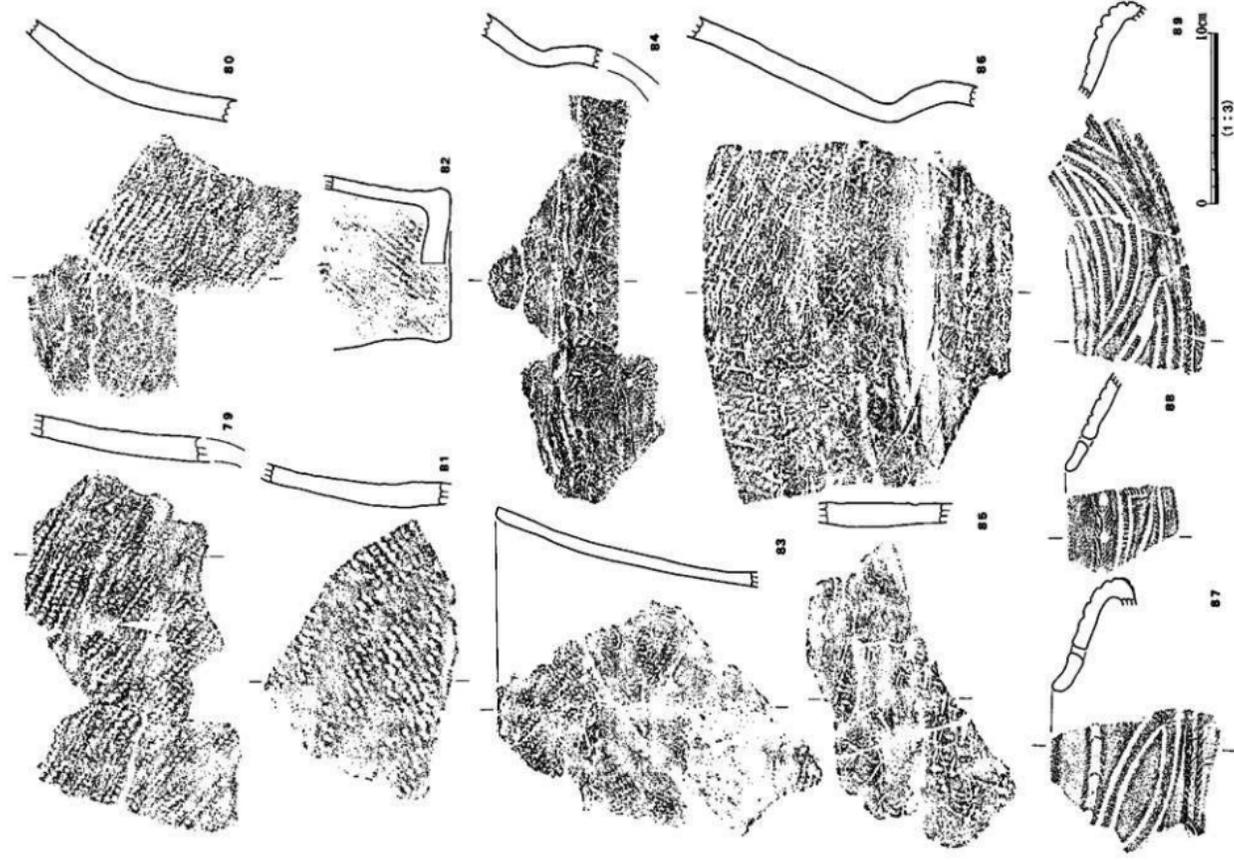
第60图 第4号住居跡出土遺物(3)



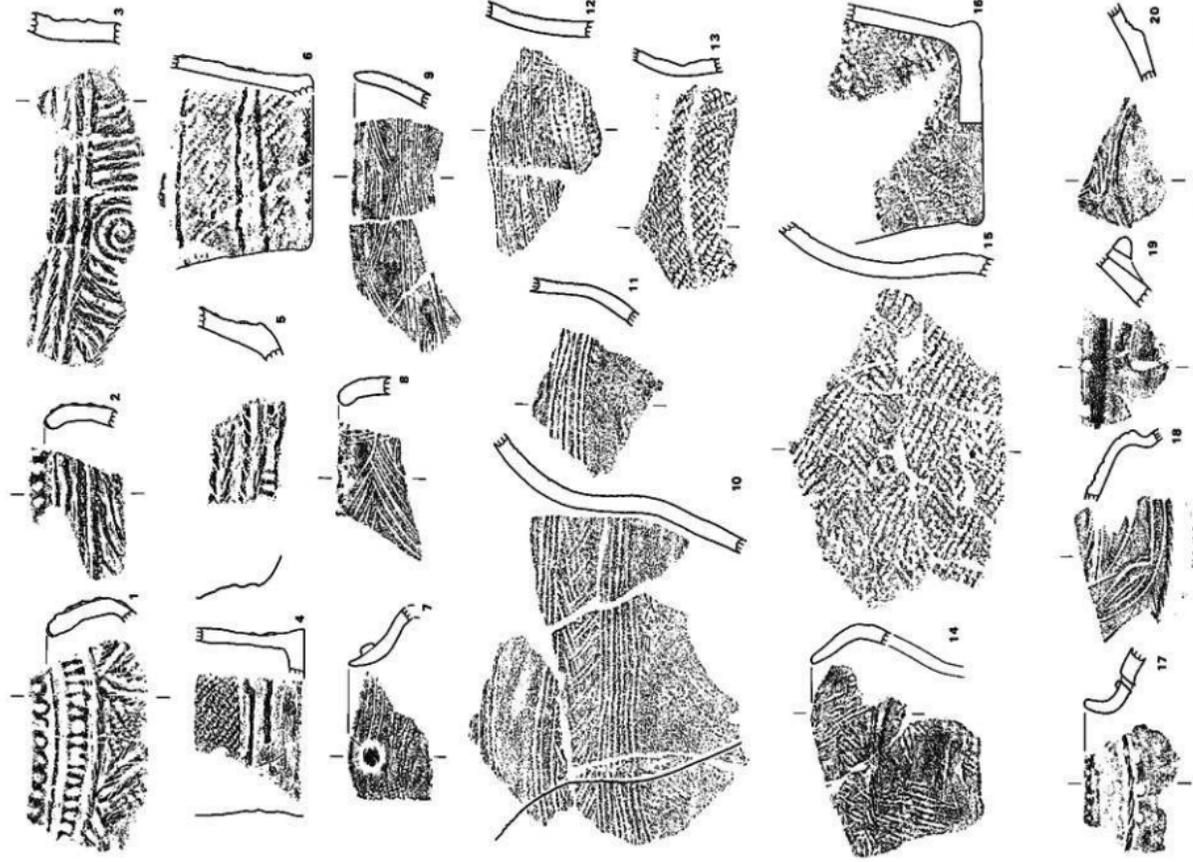
第61图 第4号住居跡出土遺物(4)



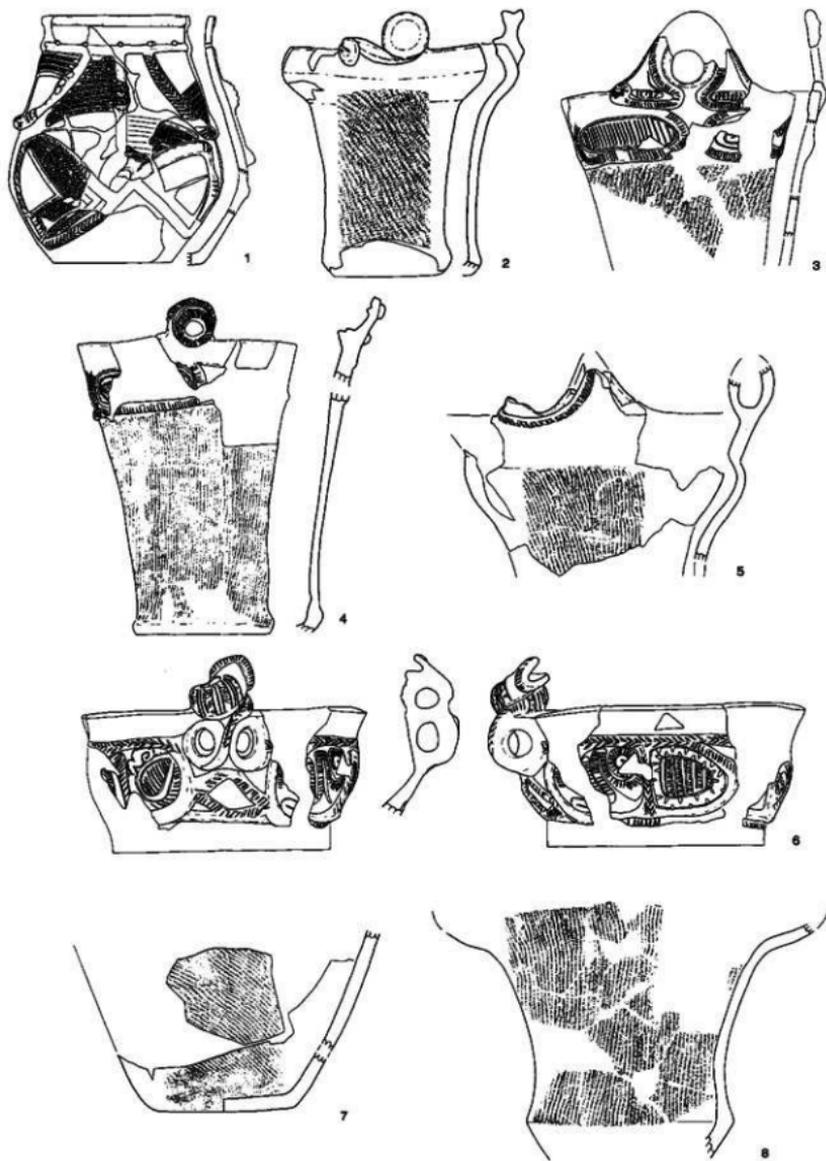
第62図 第4号住居跡出土遺物(5)



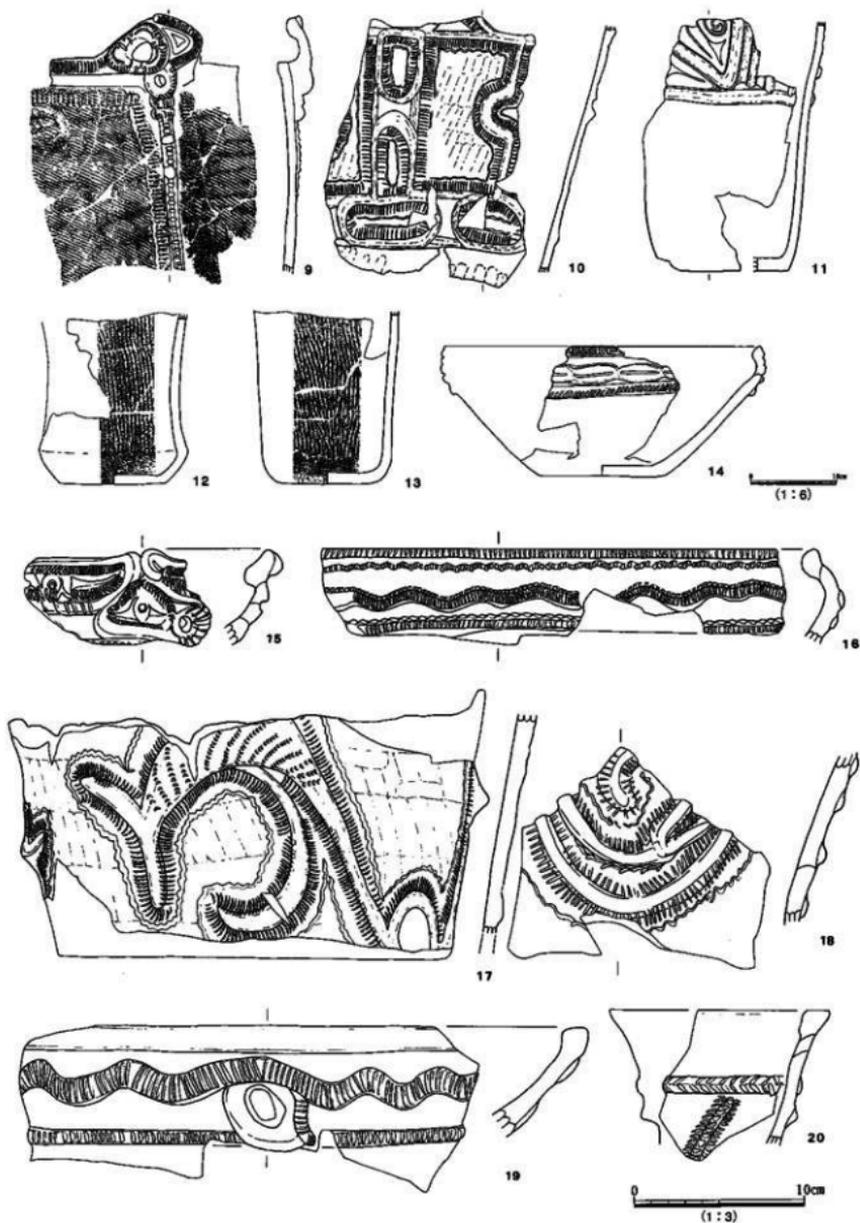
第63图 第4号住居跡出土遺物(6)



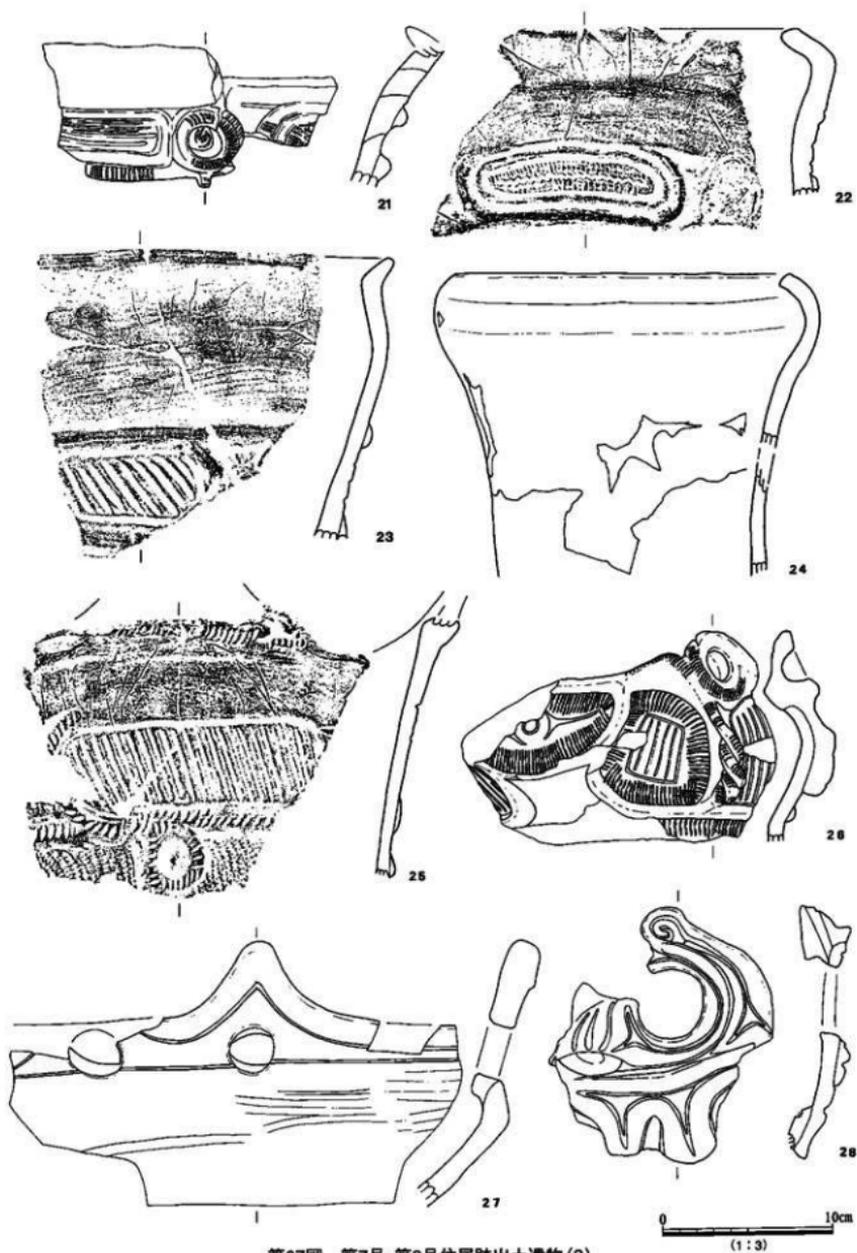
第64图 第5号住居跡出土遺物



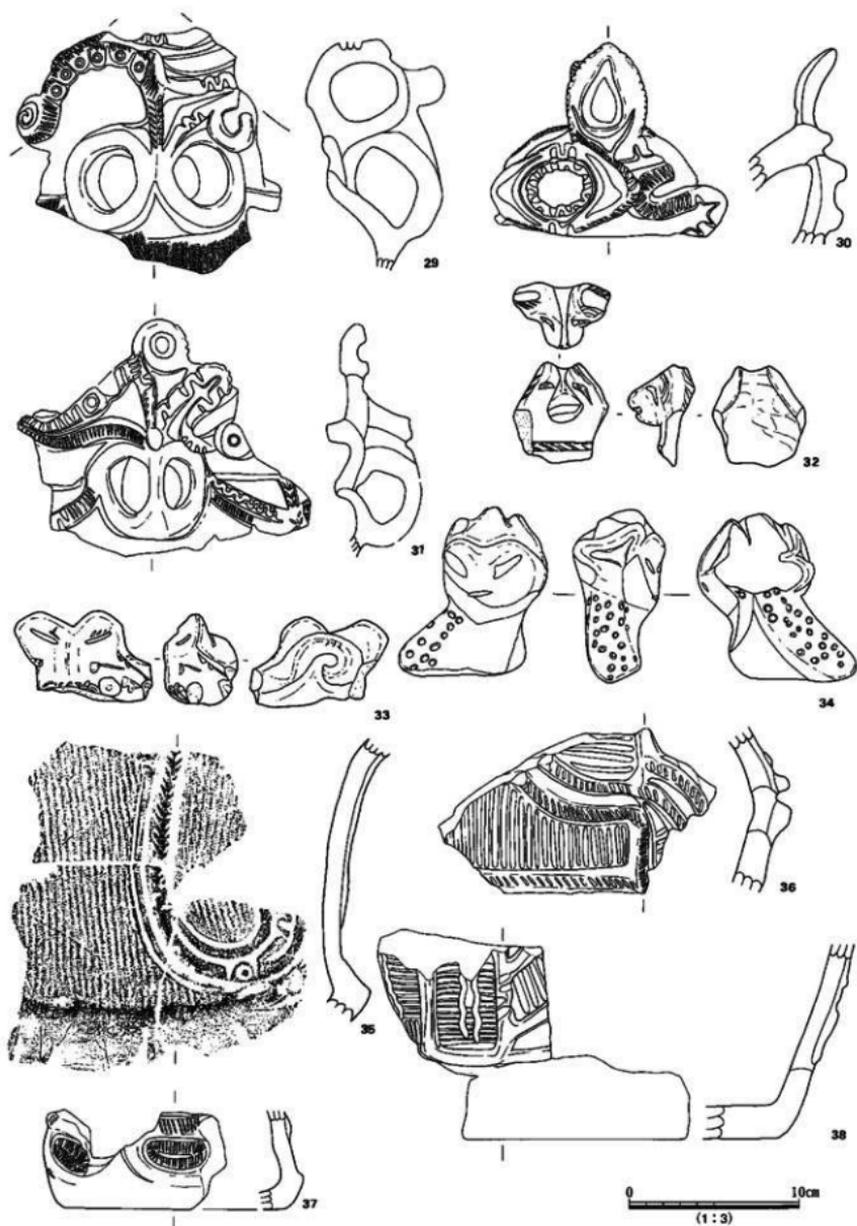
第65图 第7号-第8号住居跡出土遺物(1)



第66图 第7号·第8号住居跡出土遺物(2)

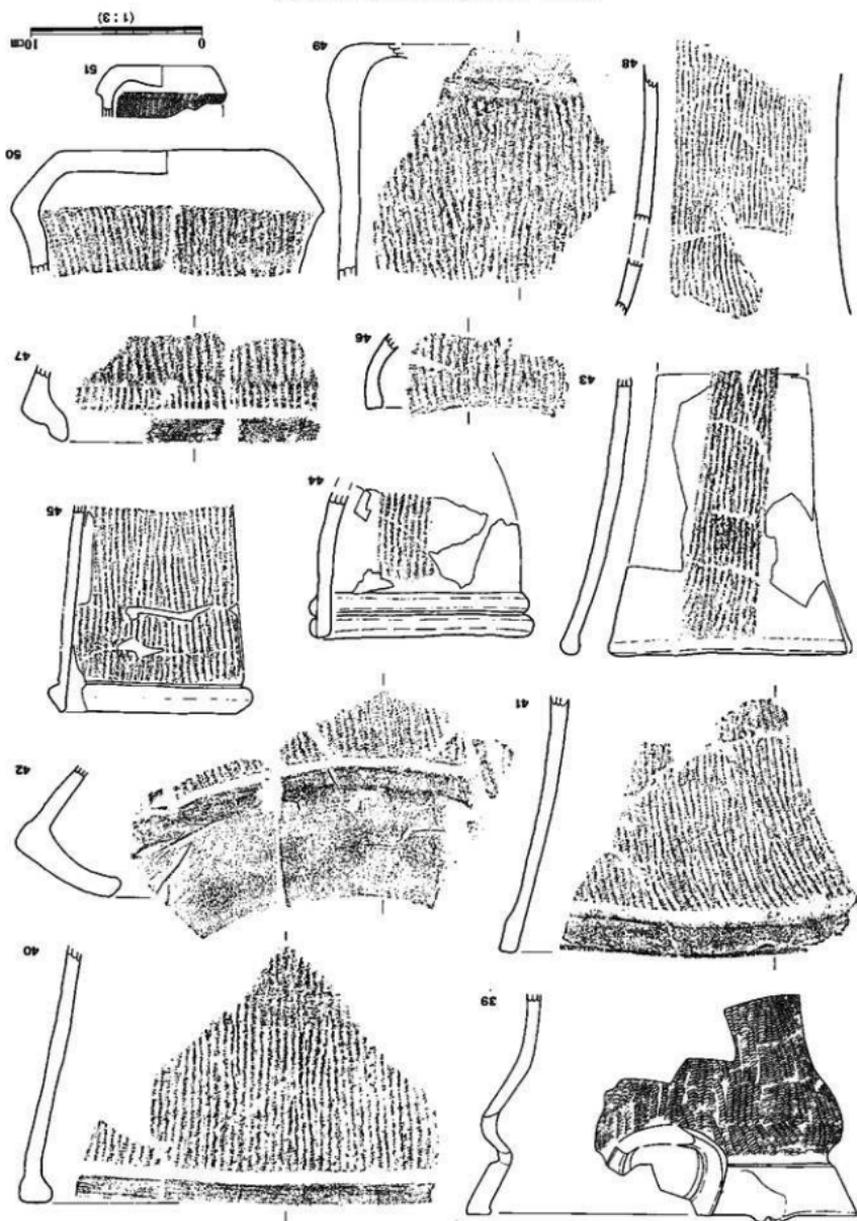


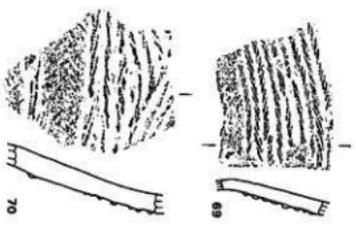
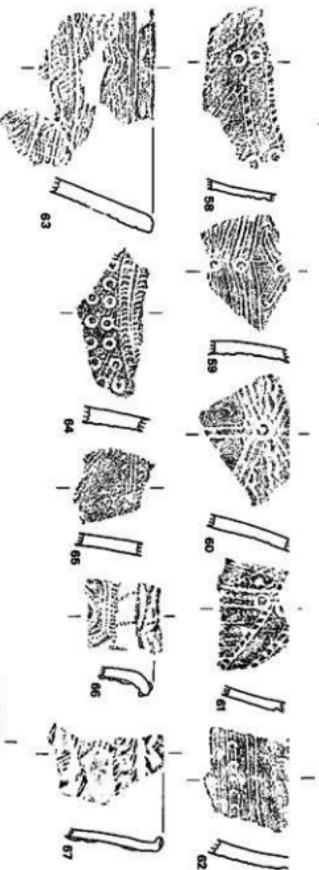
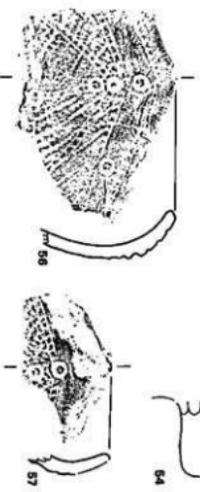
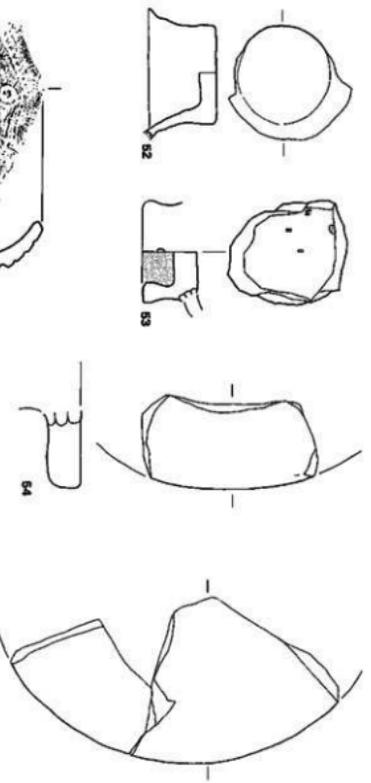
第67图 第7号·第8号住居跡出土遺物(3)



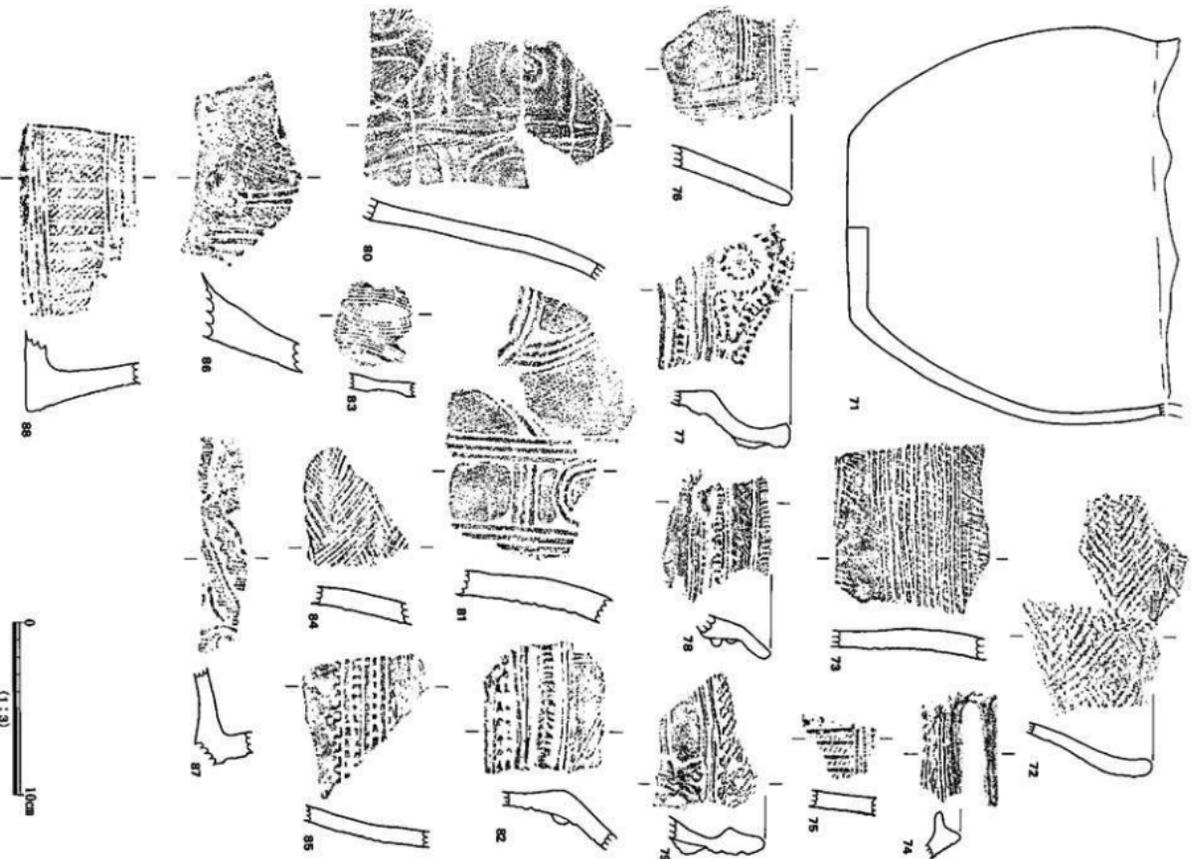
第68图 第7号·第8号住居跡出土遺物(4)

第69区 第7号・第8号住居跡出土遺物(5)

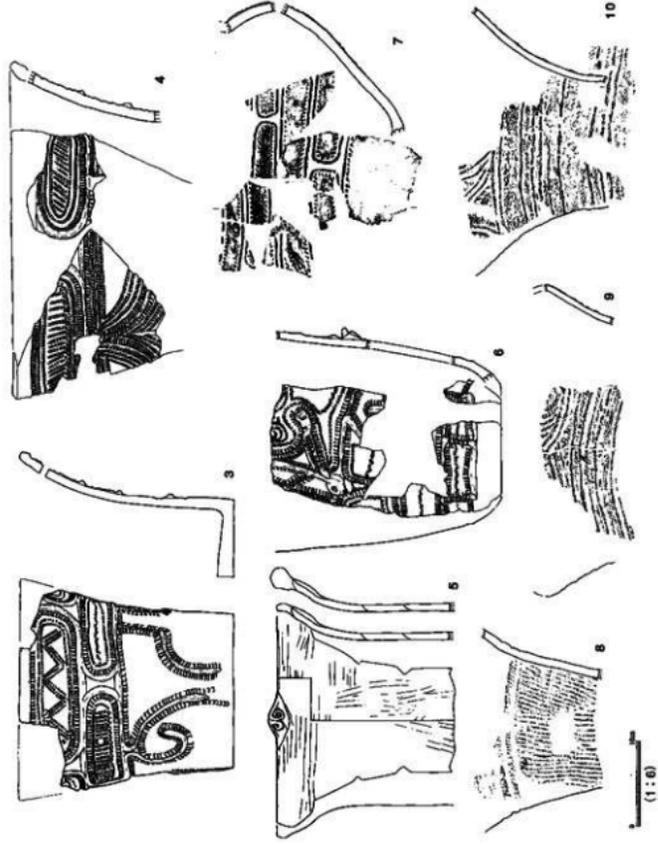
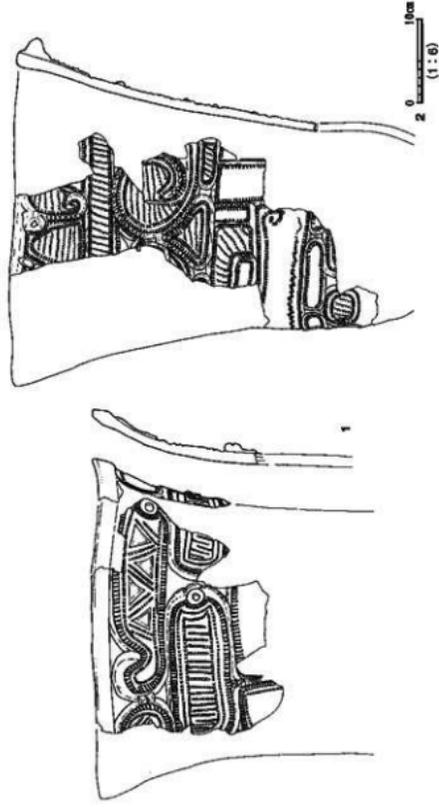




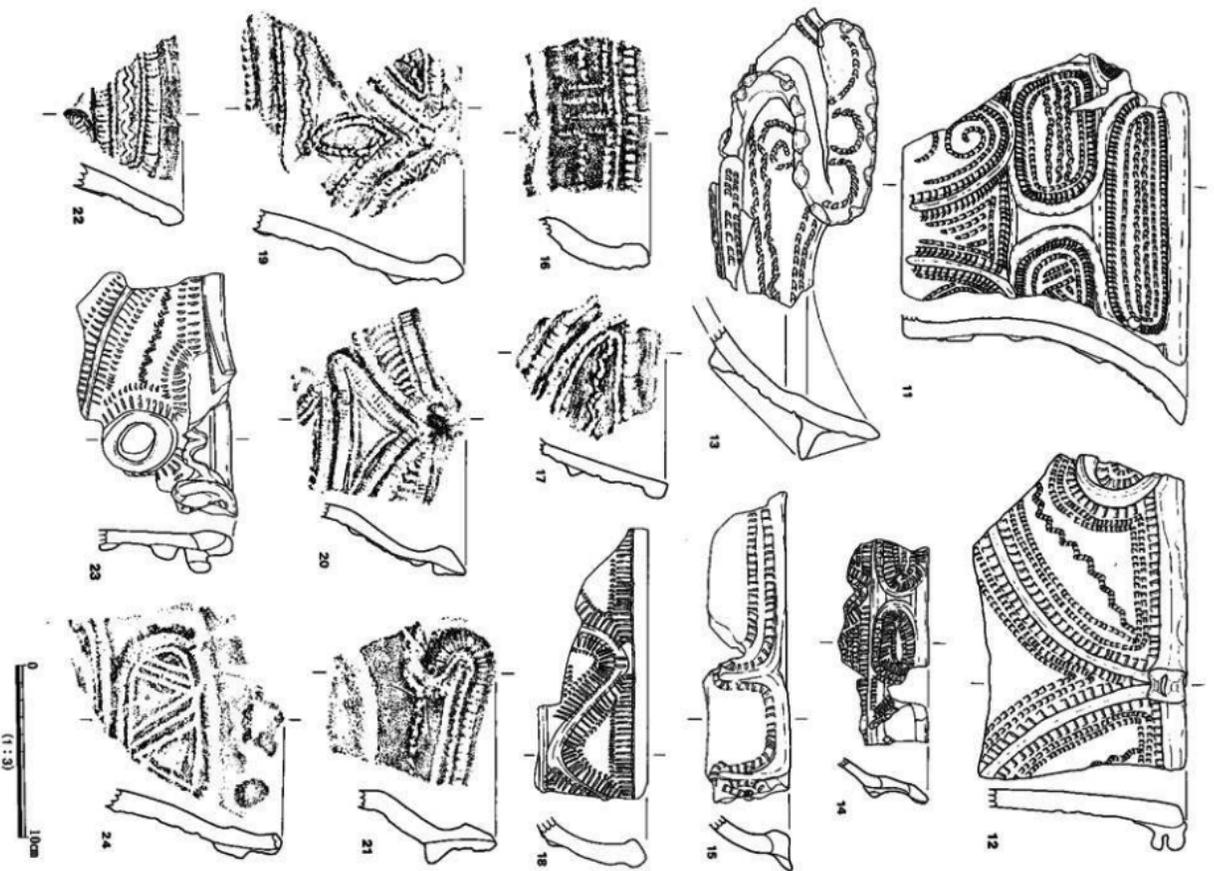
第70图 第7号·第9号住居跡出土遺物(6)



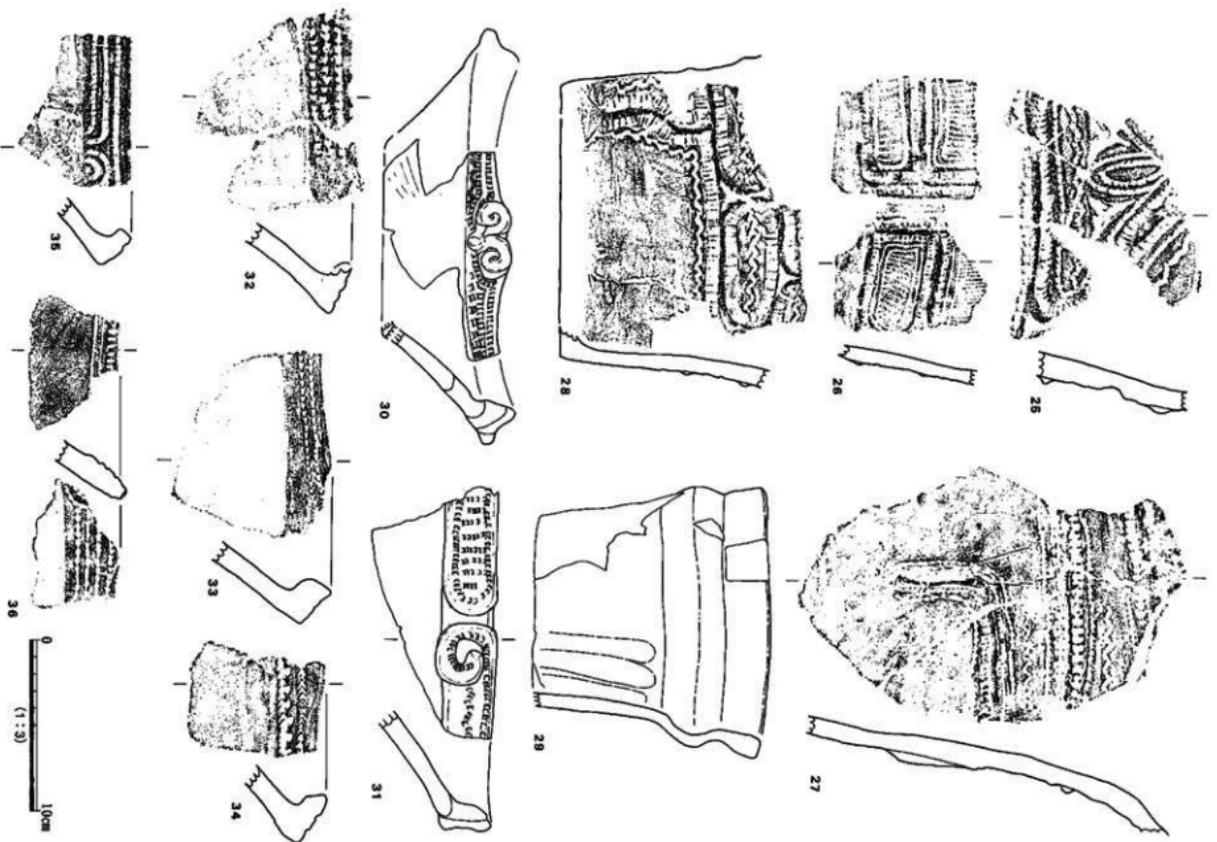
第71图 第7号·第8号住居跡出土遺物(7)



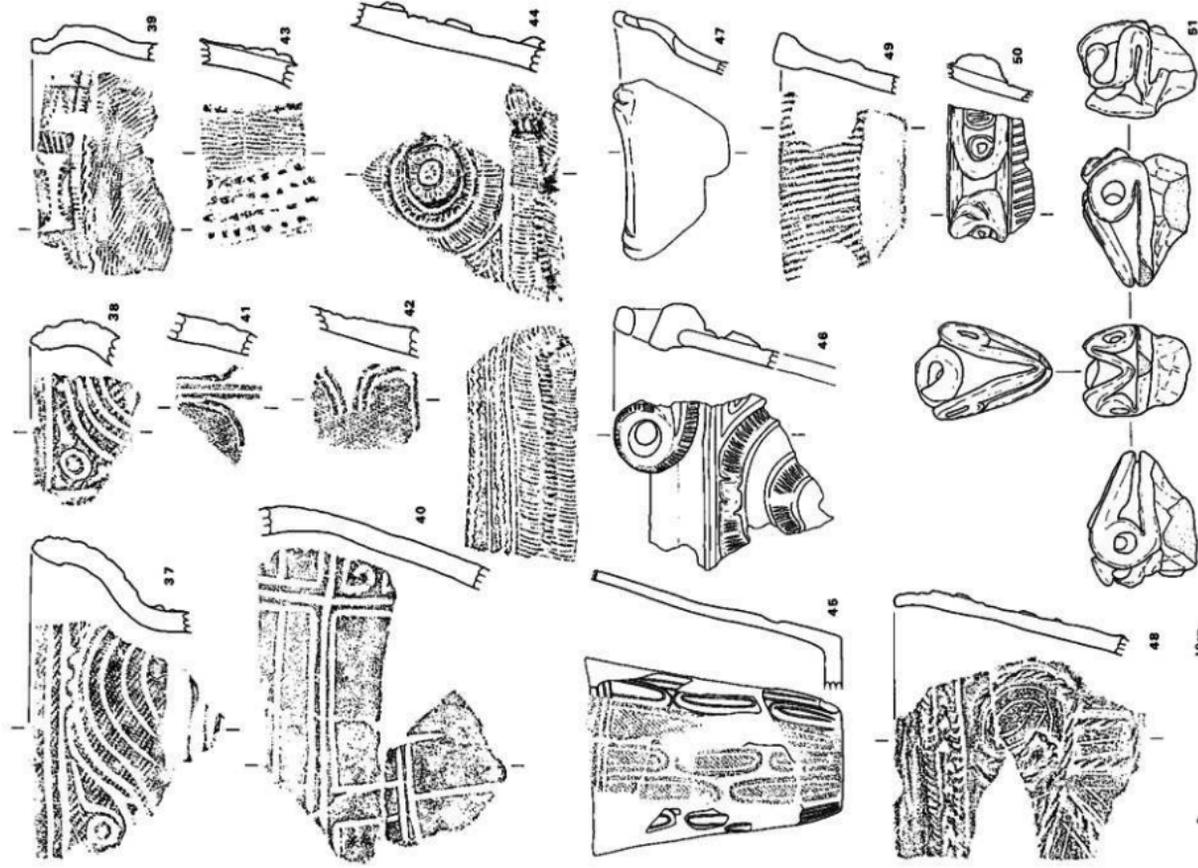
第72图 第14号住居跡出土遺物(1)



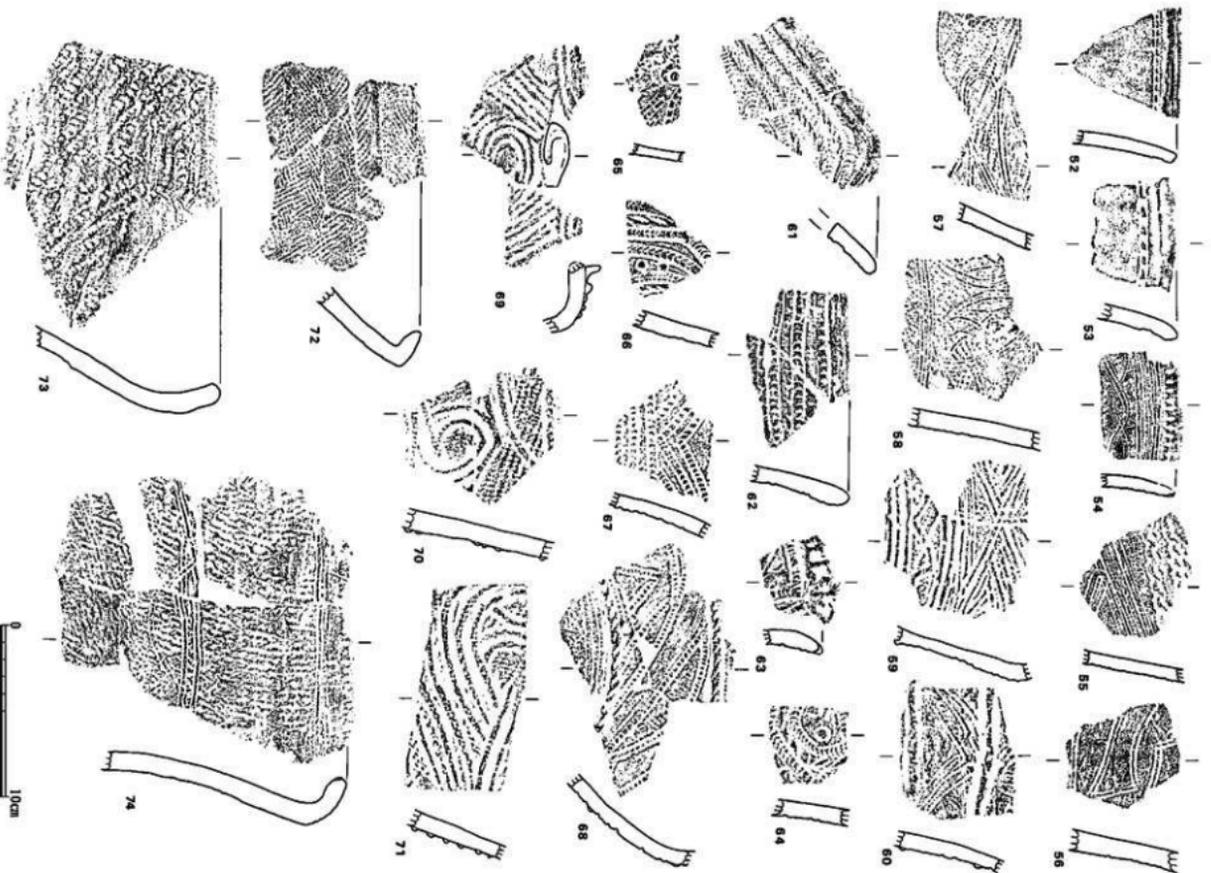
第73图 第14号住居跡出土遺物(2)



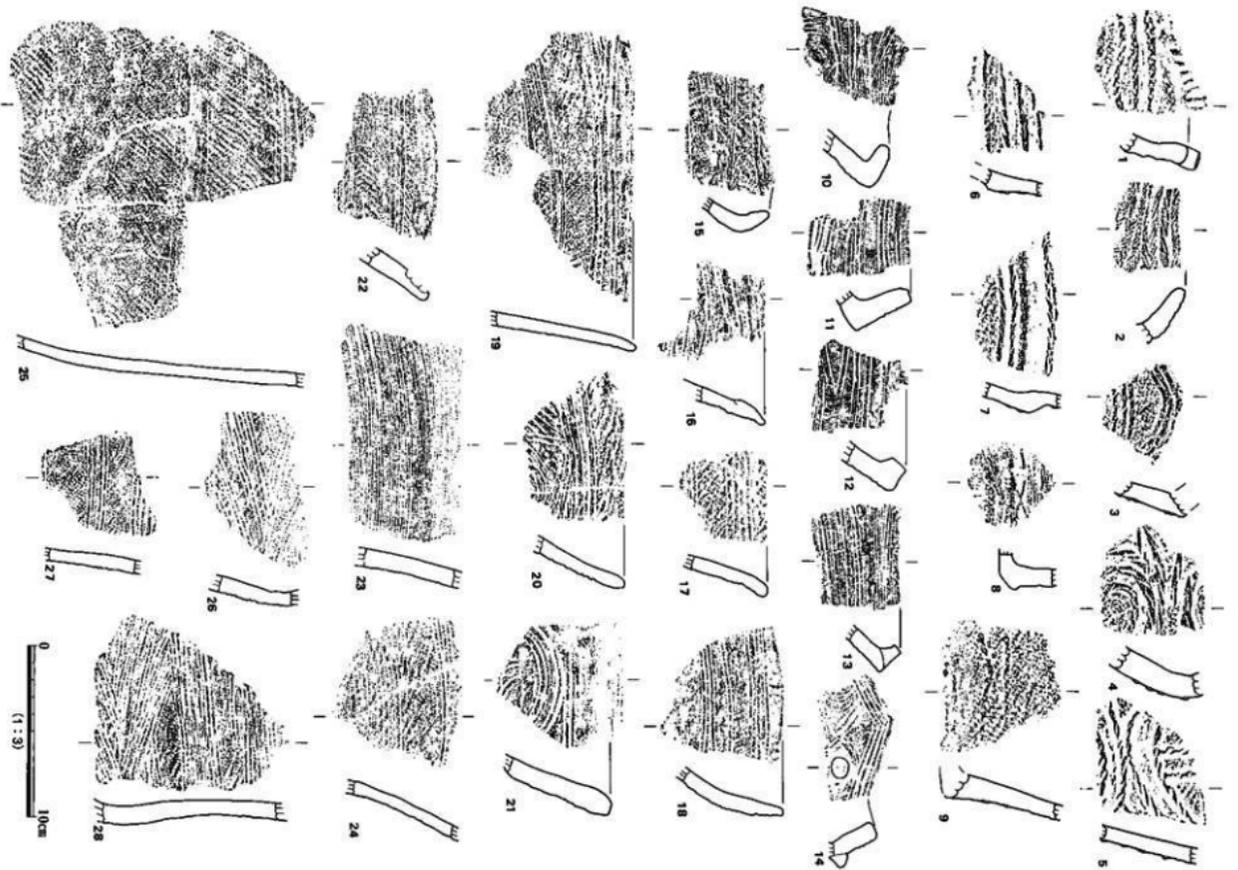
第74图 第14号住居跡出土遺物(3)



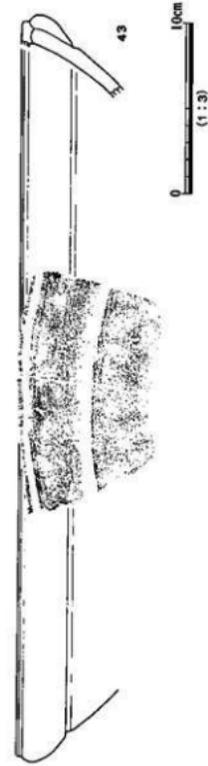
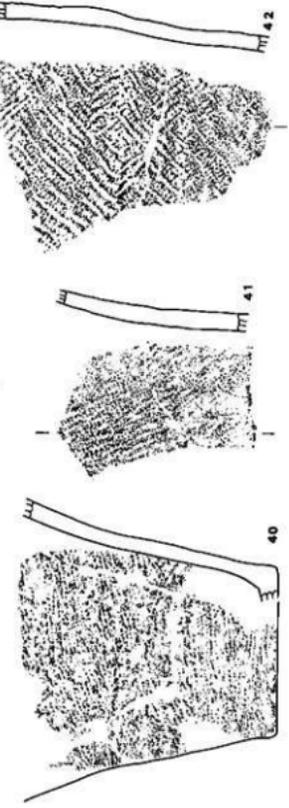
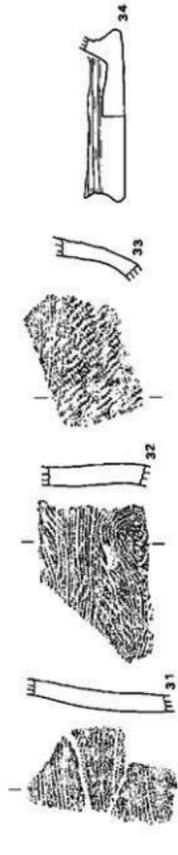
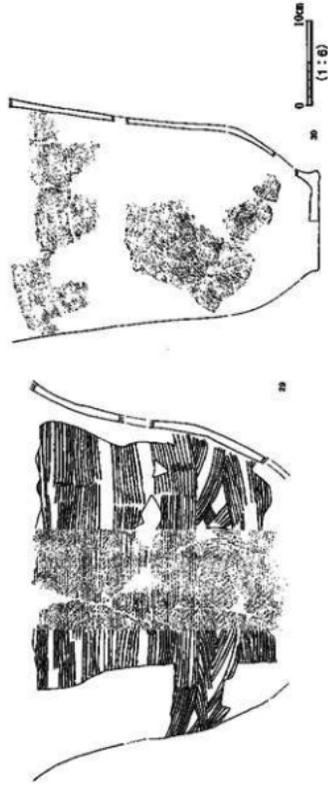
第75图 第14号住居跡出土遺物(4)



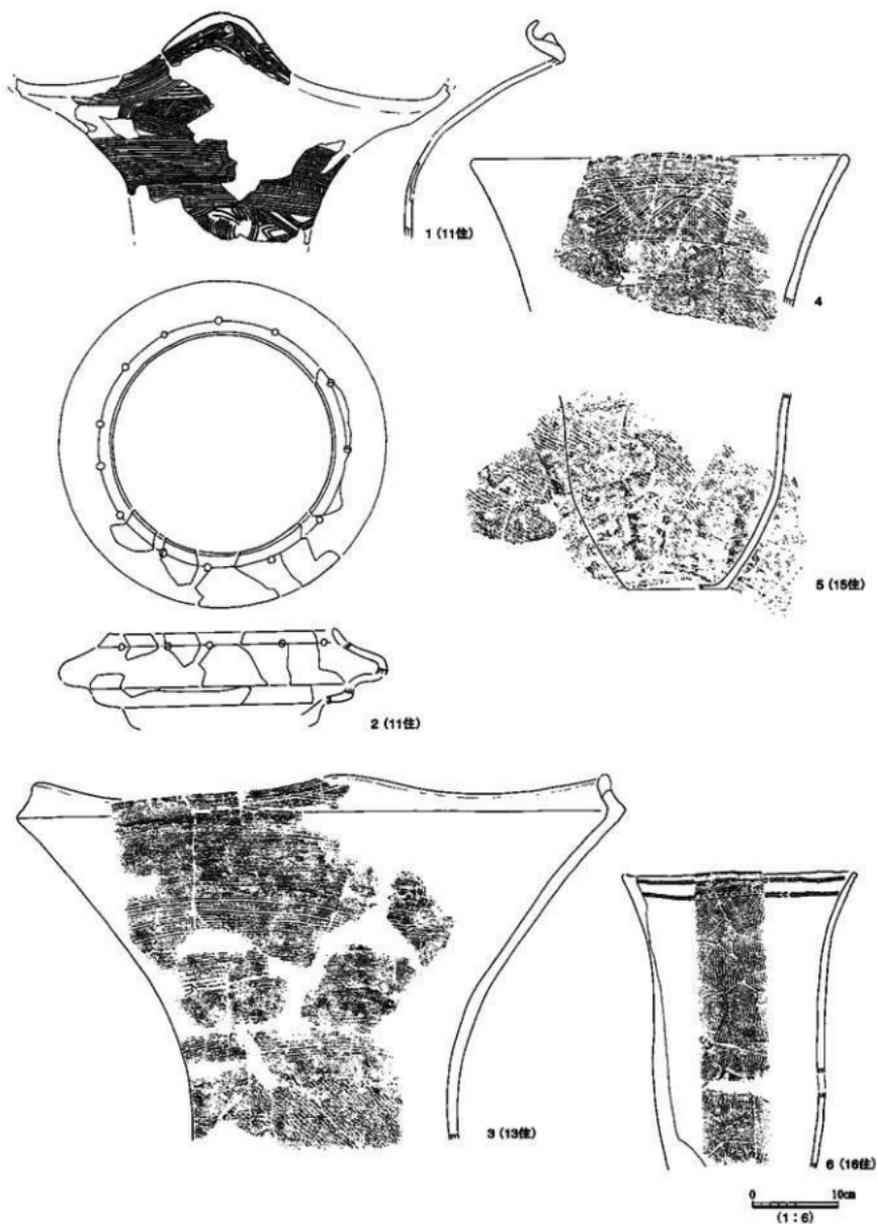
第76图 第14号住居跡出土遺物(5)



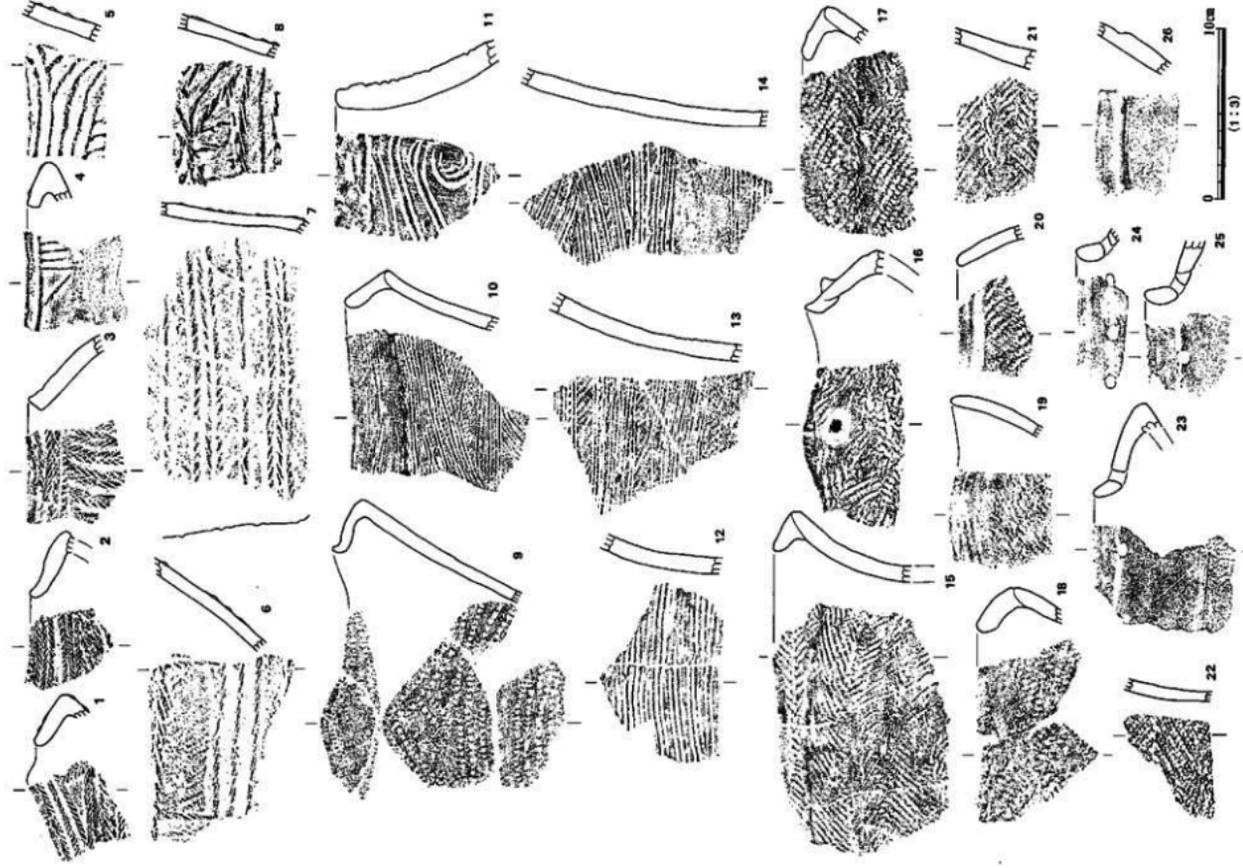
第77图 第9号住居跡出土遺物(1)



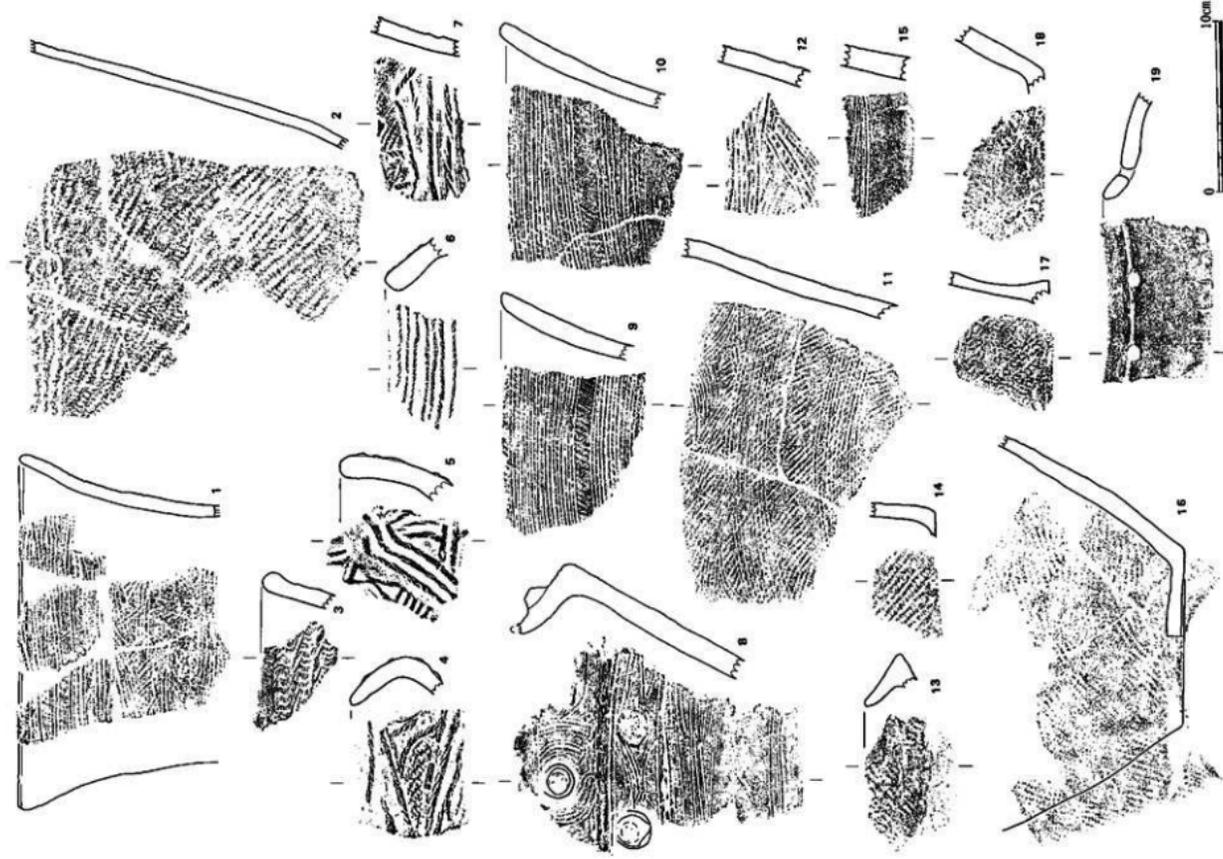
第78图 第9号住居跡出土遺物(2)



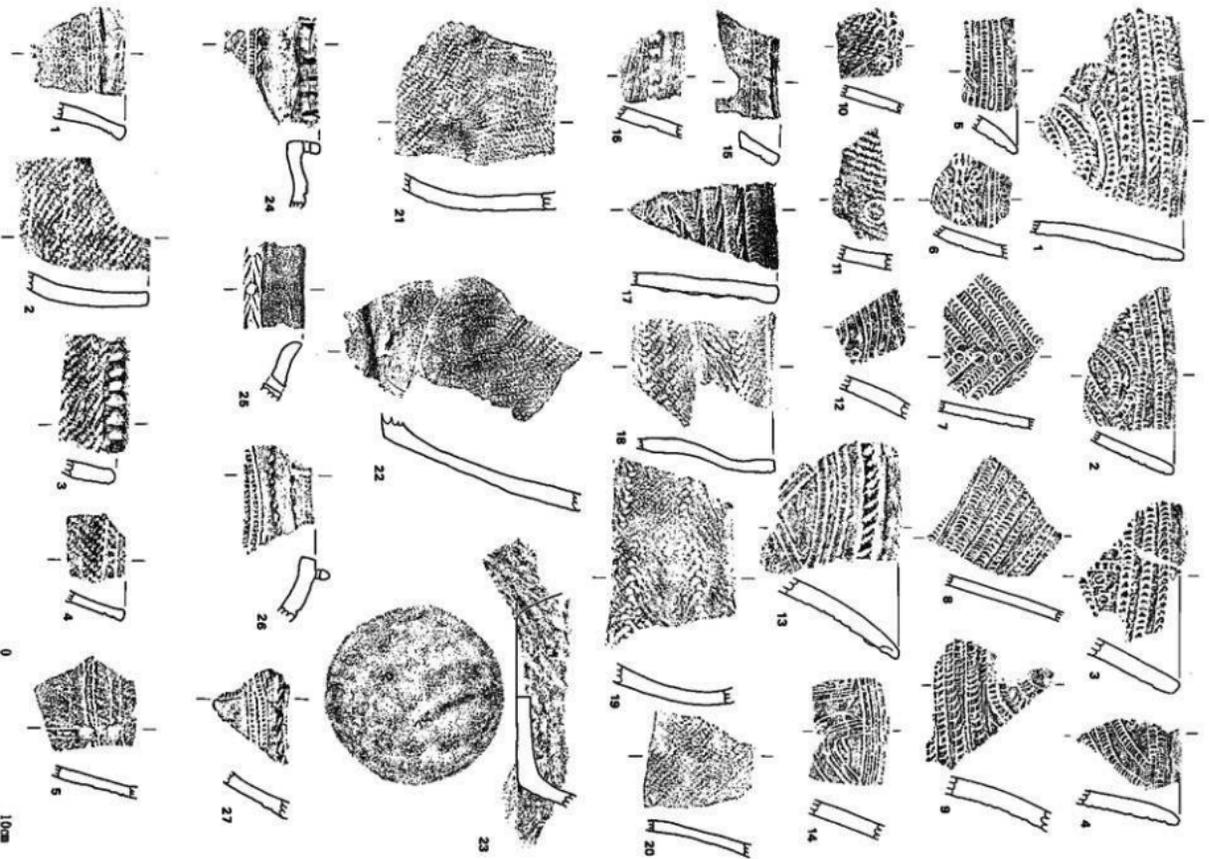
第79図 第11号・第13号・第15号・第16号住居跡出土遺物



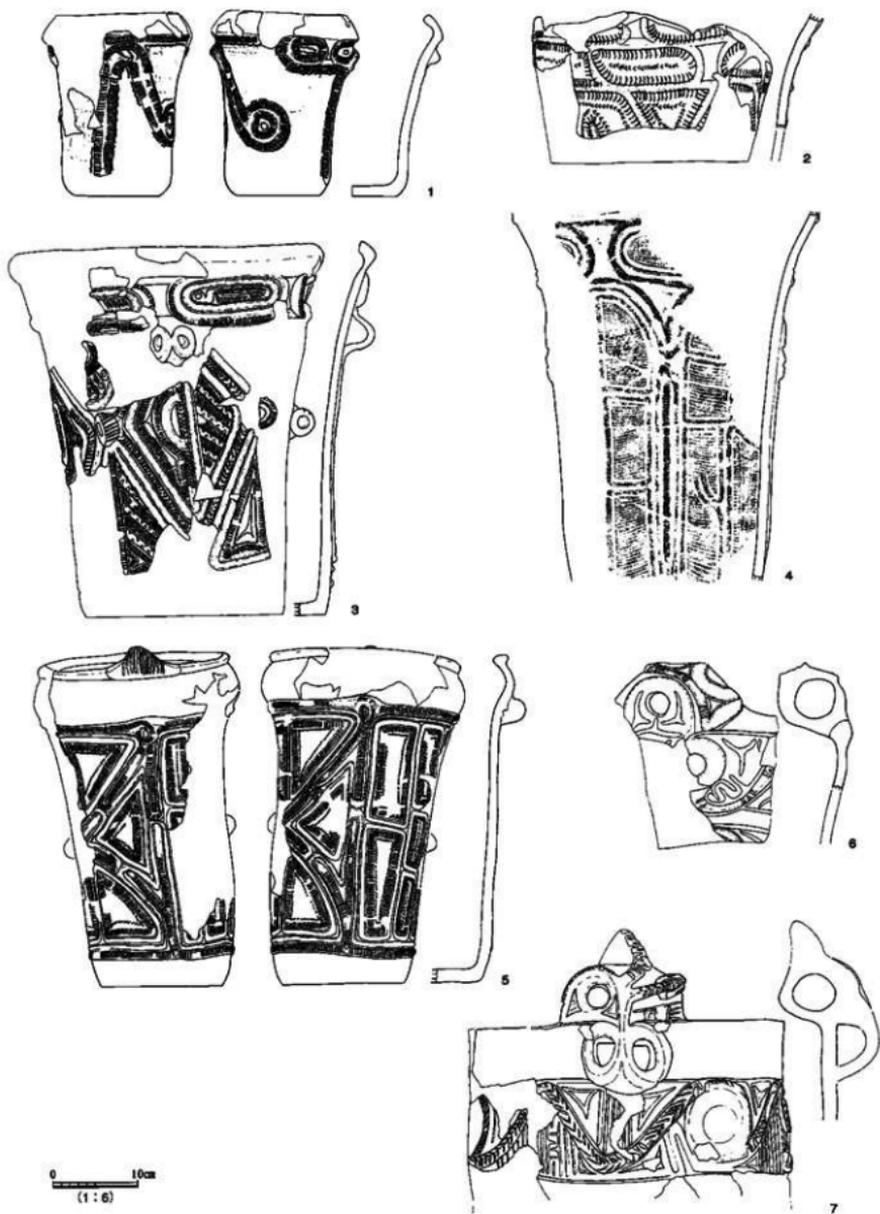
第80圖 第11号住居跡出土遺物



第61圖 第13号住居跡出土遺物

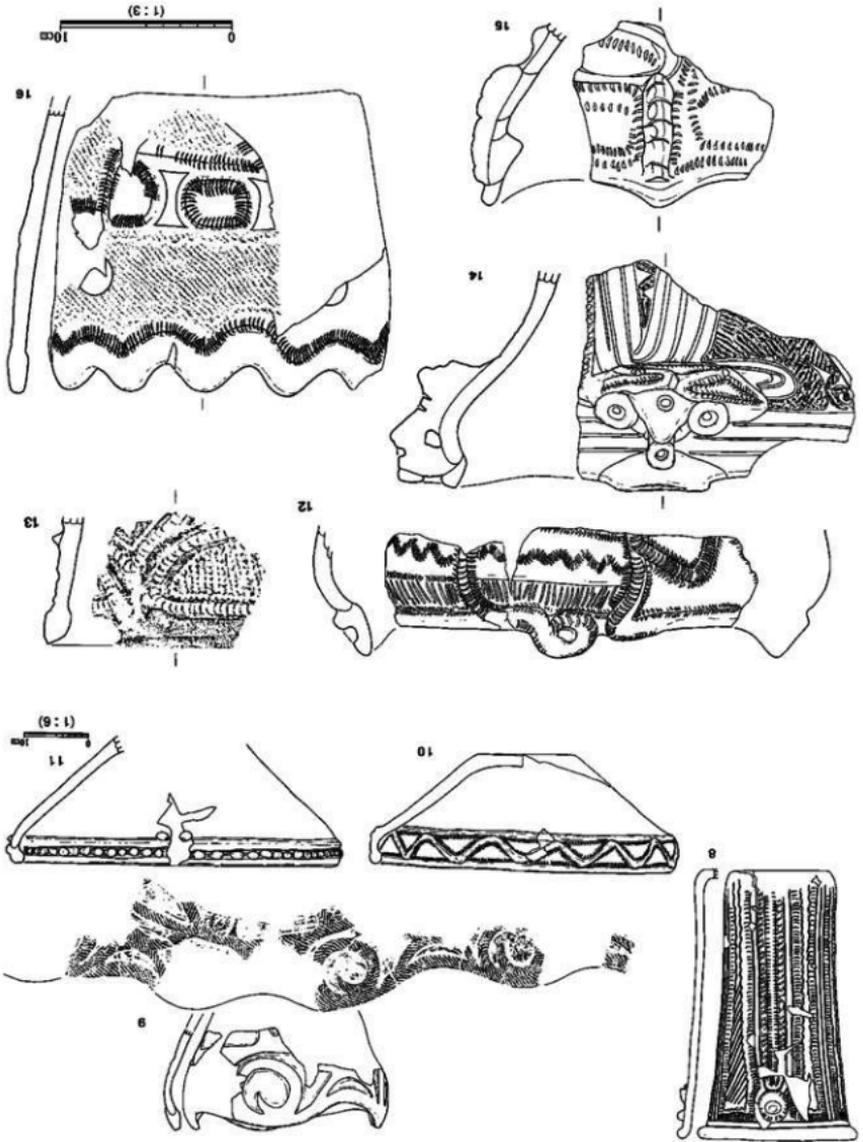


第82图 第15号·第16号住居跡出土遺物

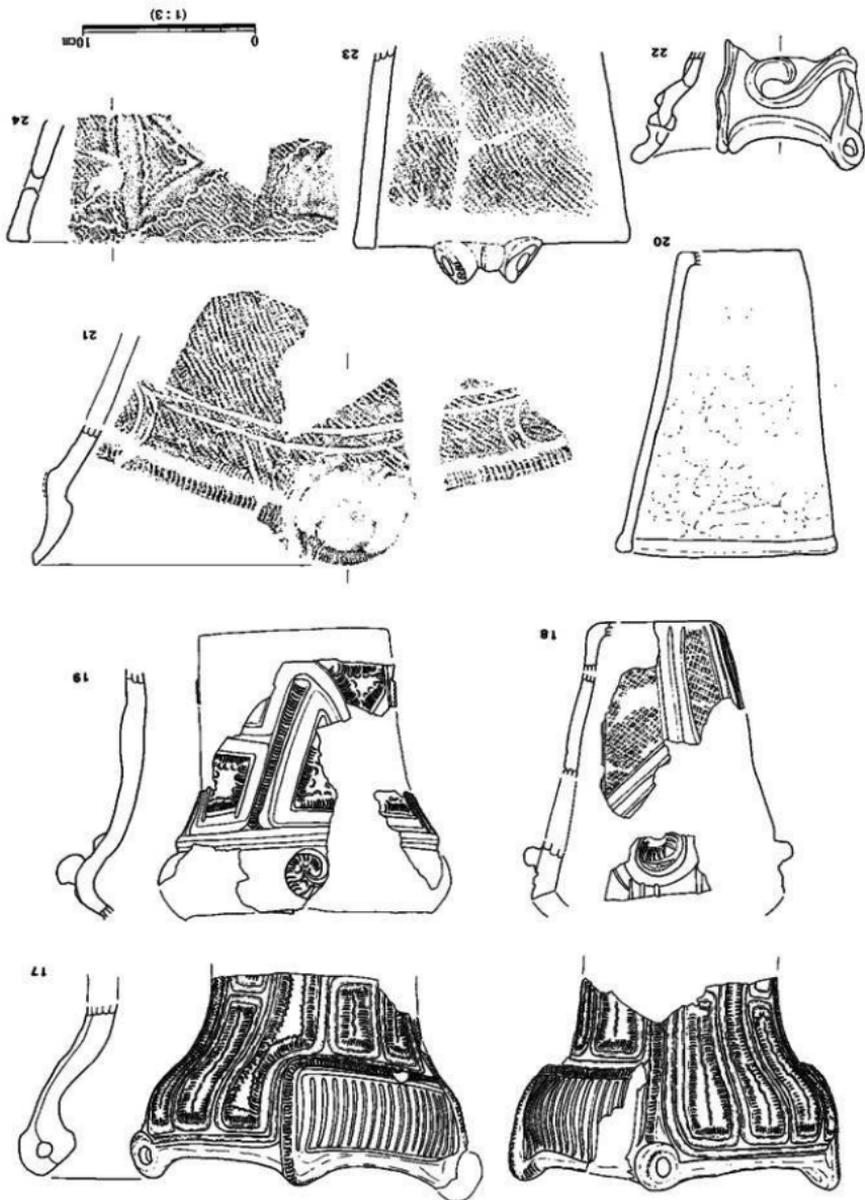


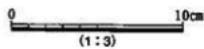
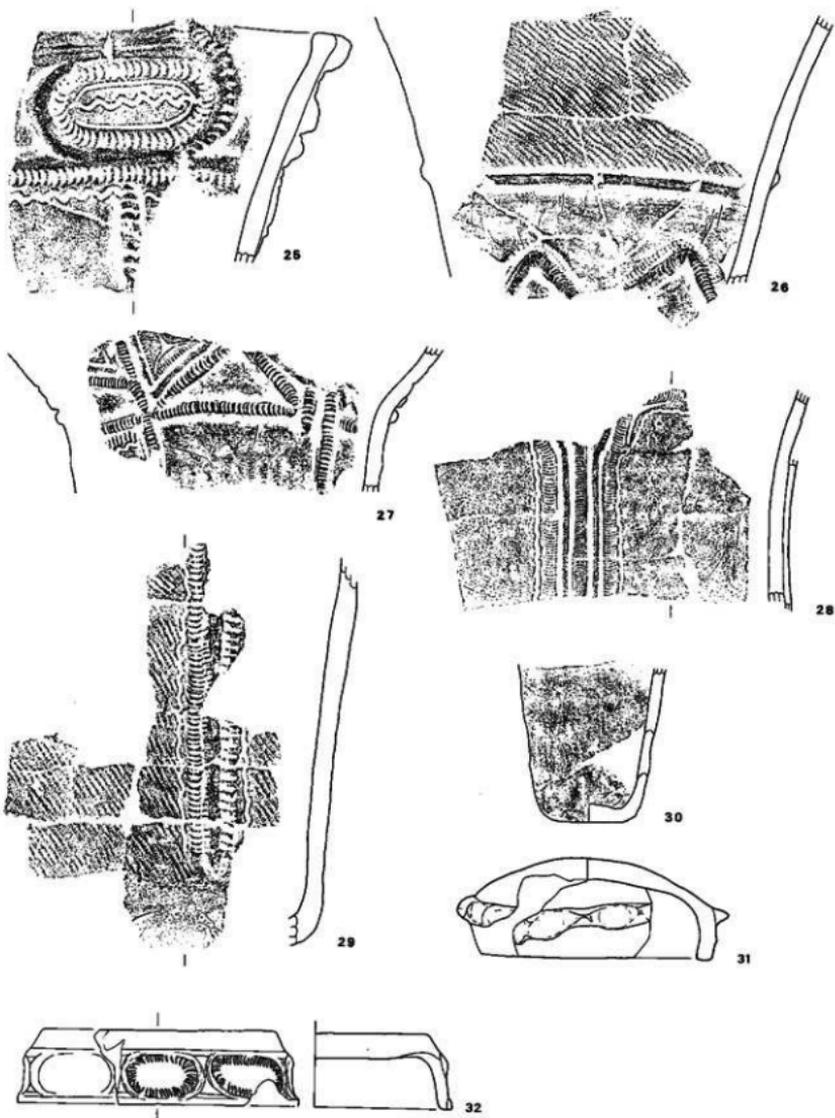
第83图 第26号住居跡出土遺物(1)

第84圖 第26号住居跡出土遺物(2)

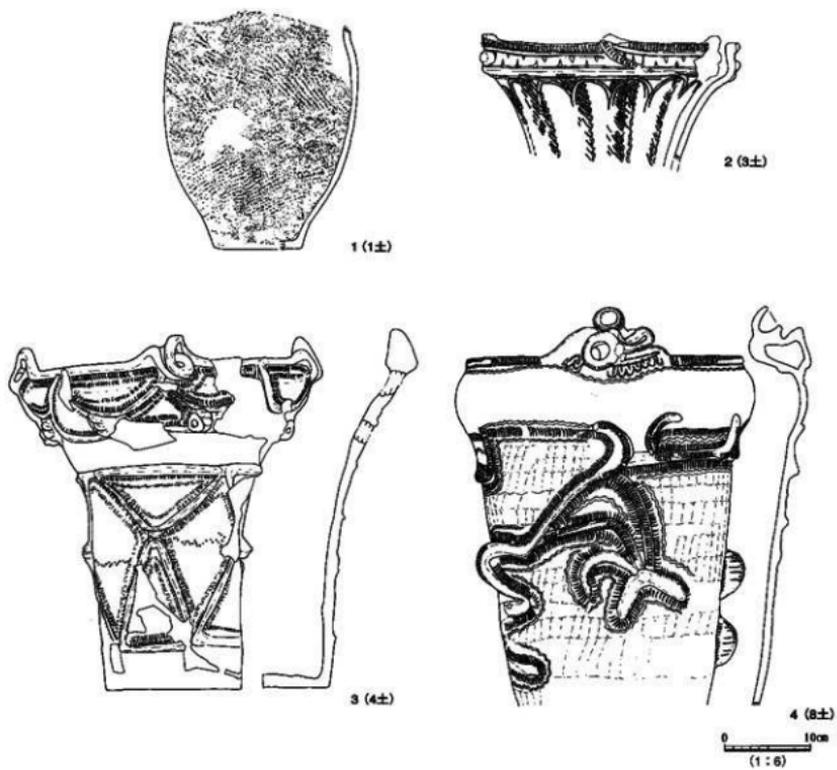


第85圖 第26号住居跡出土遺物(3)

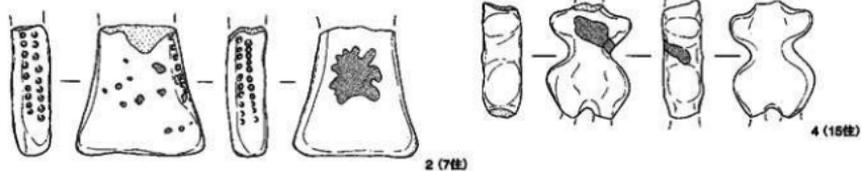
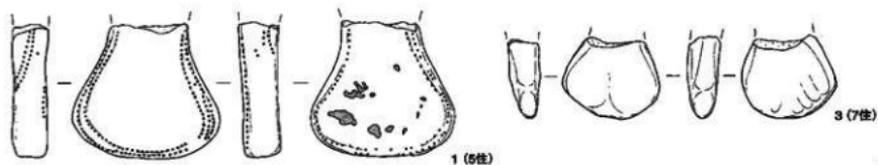




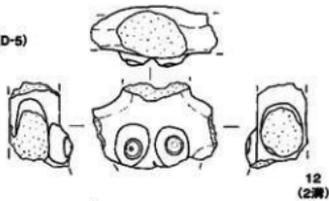
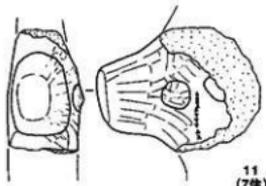
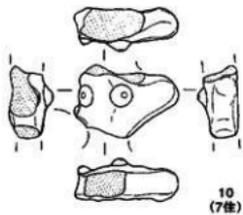
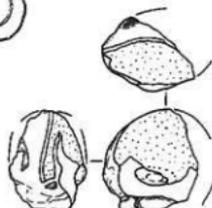
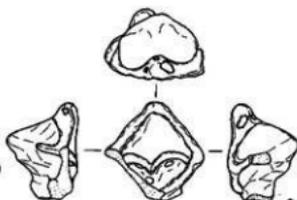
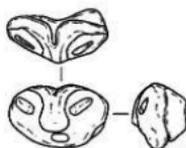
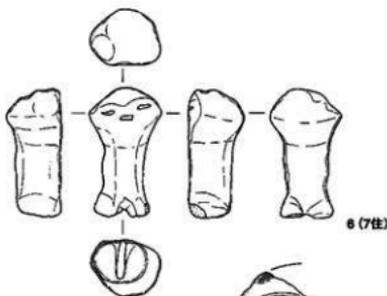
第86図 第26号住居跡出土遺物(4)



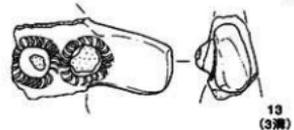
第87图 土坑出土遗物



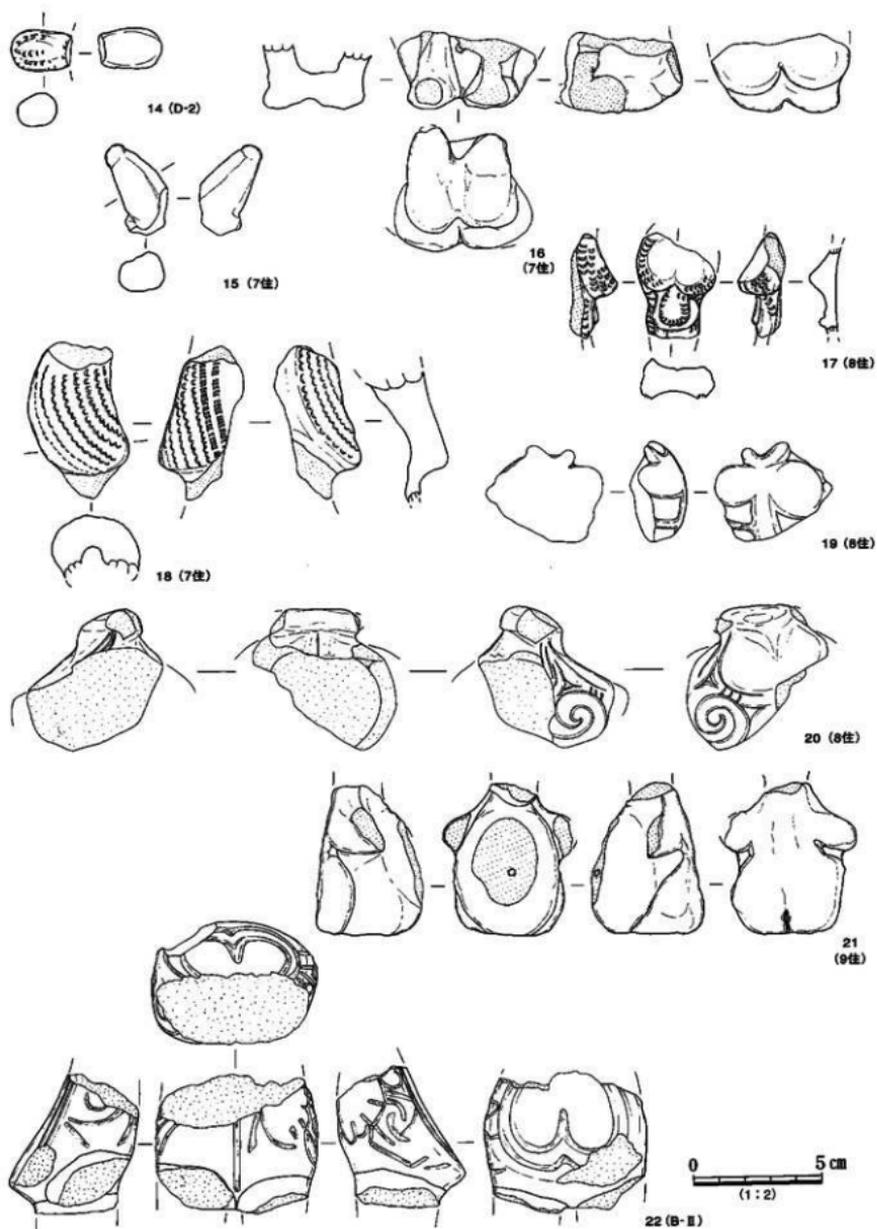
5 (7件)



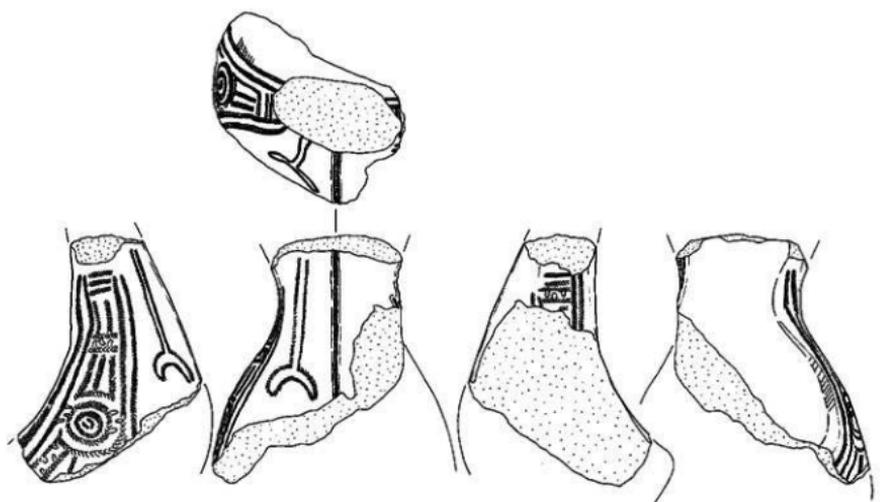
0 5 cm  
(1:2)



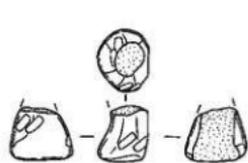
第88圖 土 偶 (1)



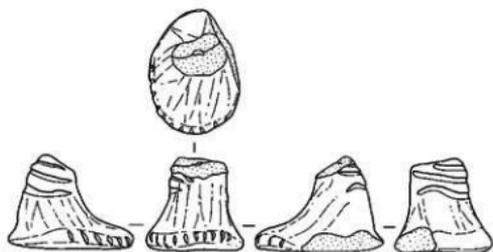
第89圖 土 偶 (2)



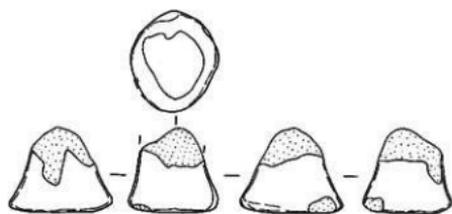
23  
(26件)



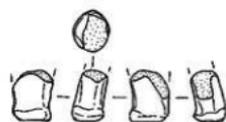
24 (4件)



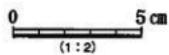
25 (7件)



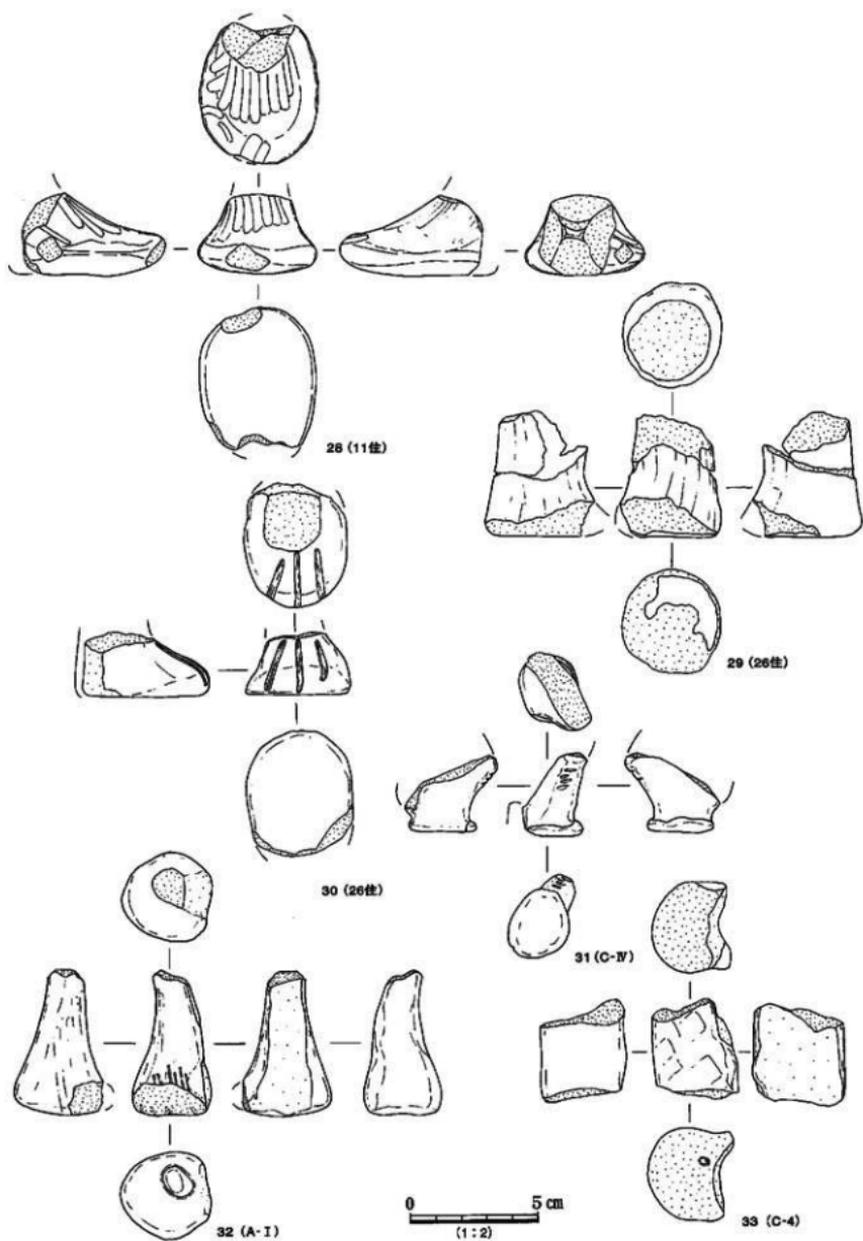
26 (8件)



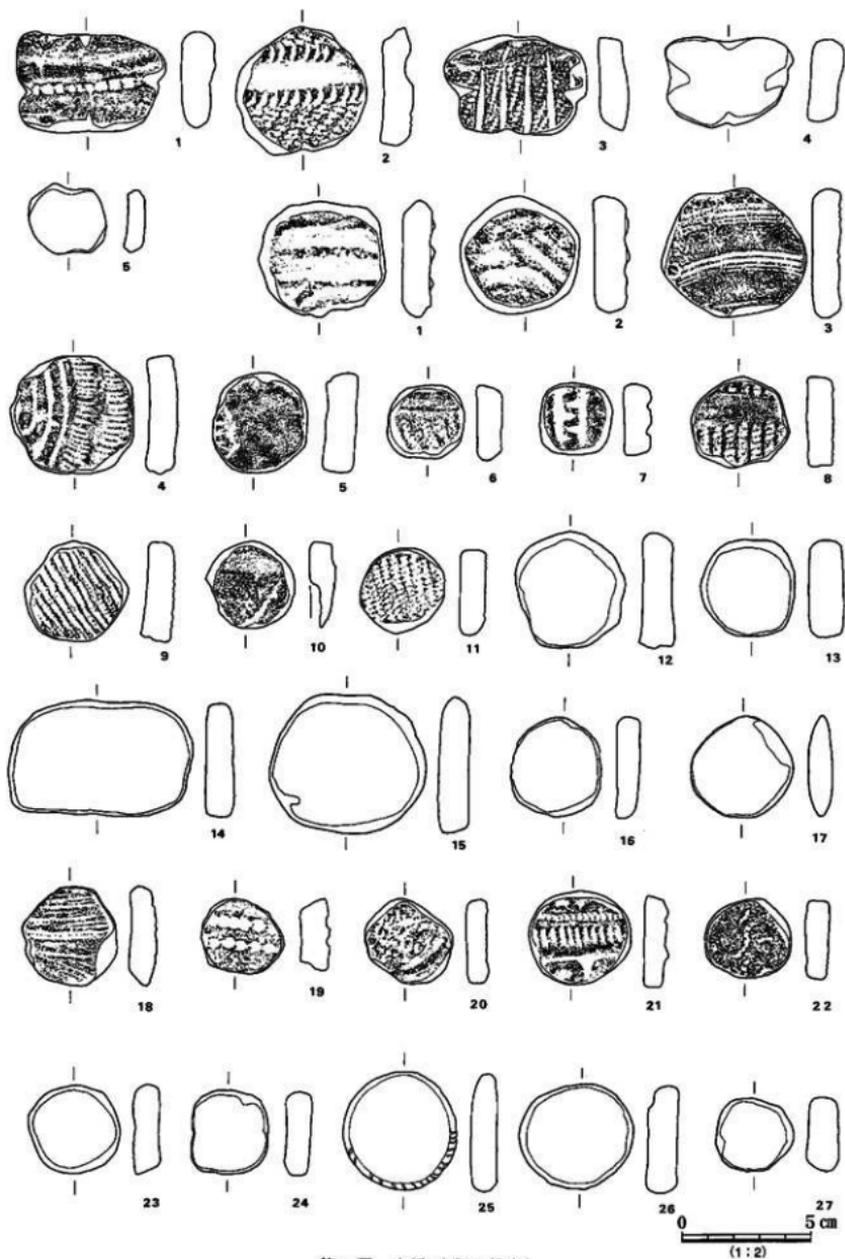
27 (8件)



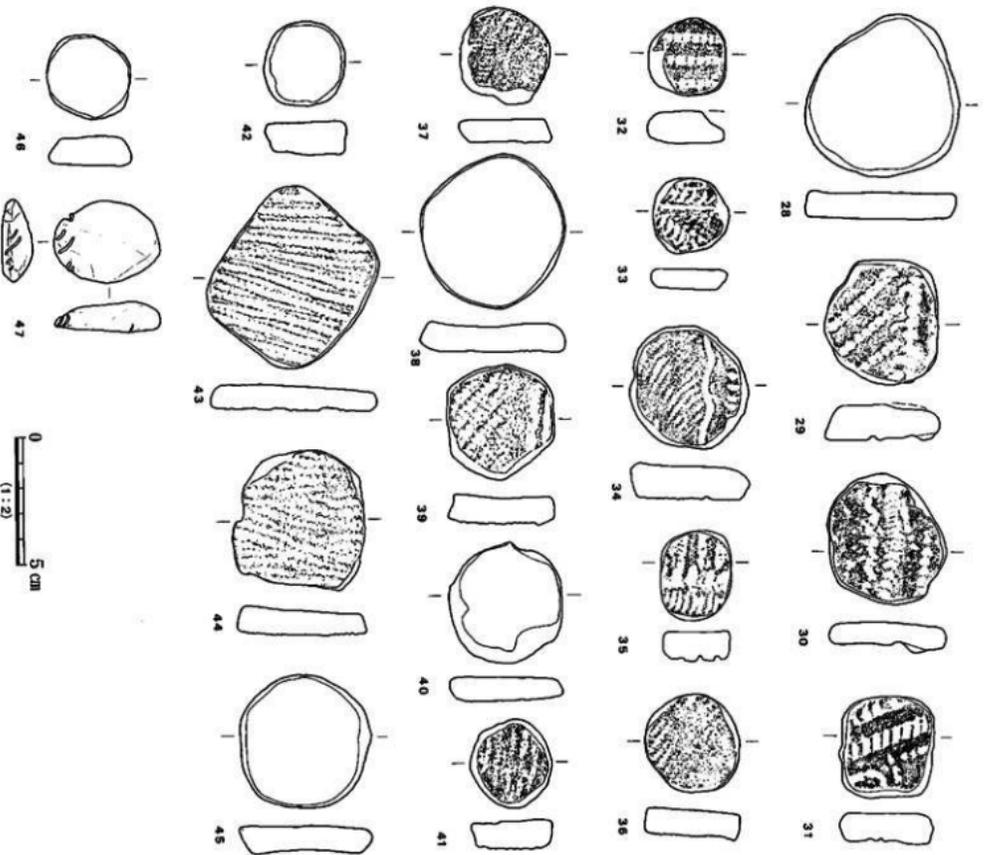
第90圖 土 偶 (3)



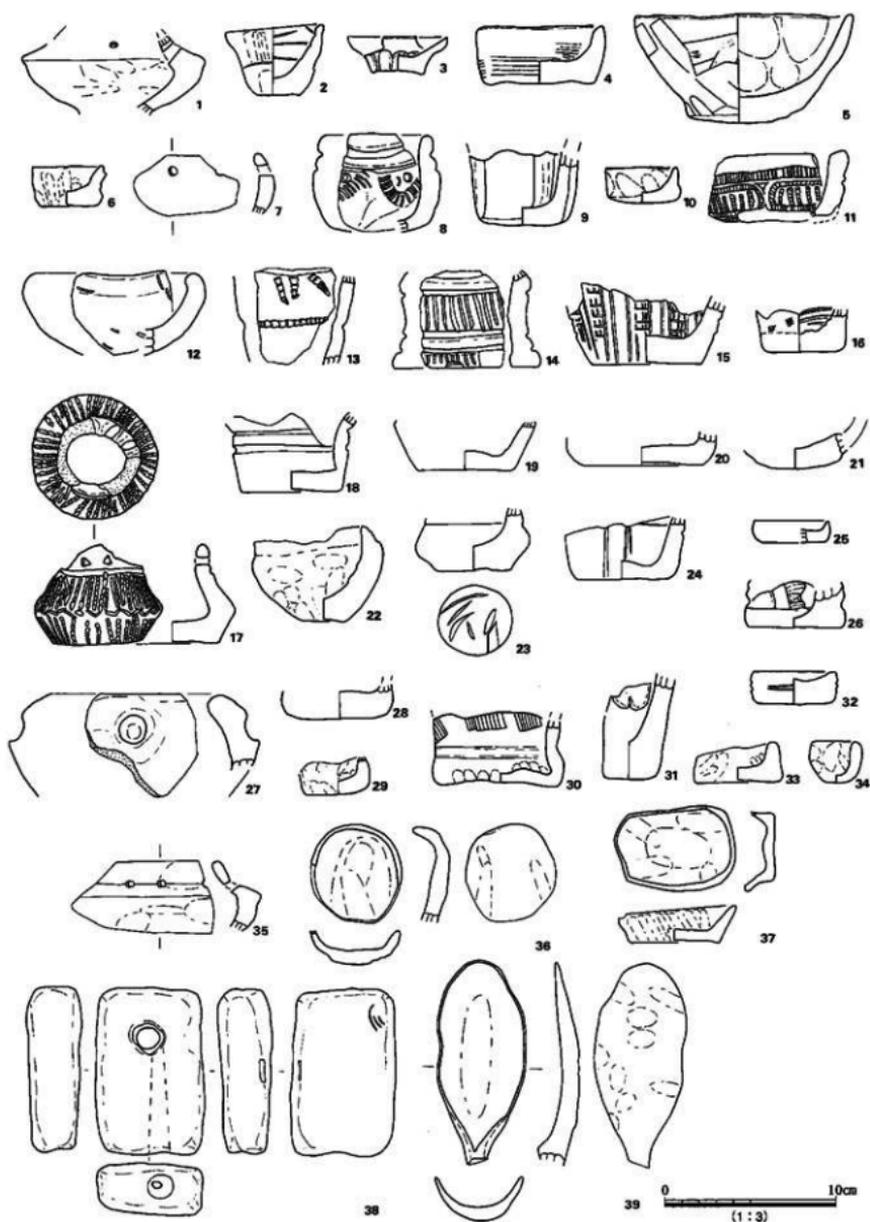
第91図 土 偶 (4)



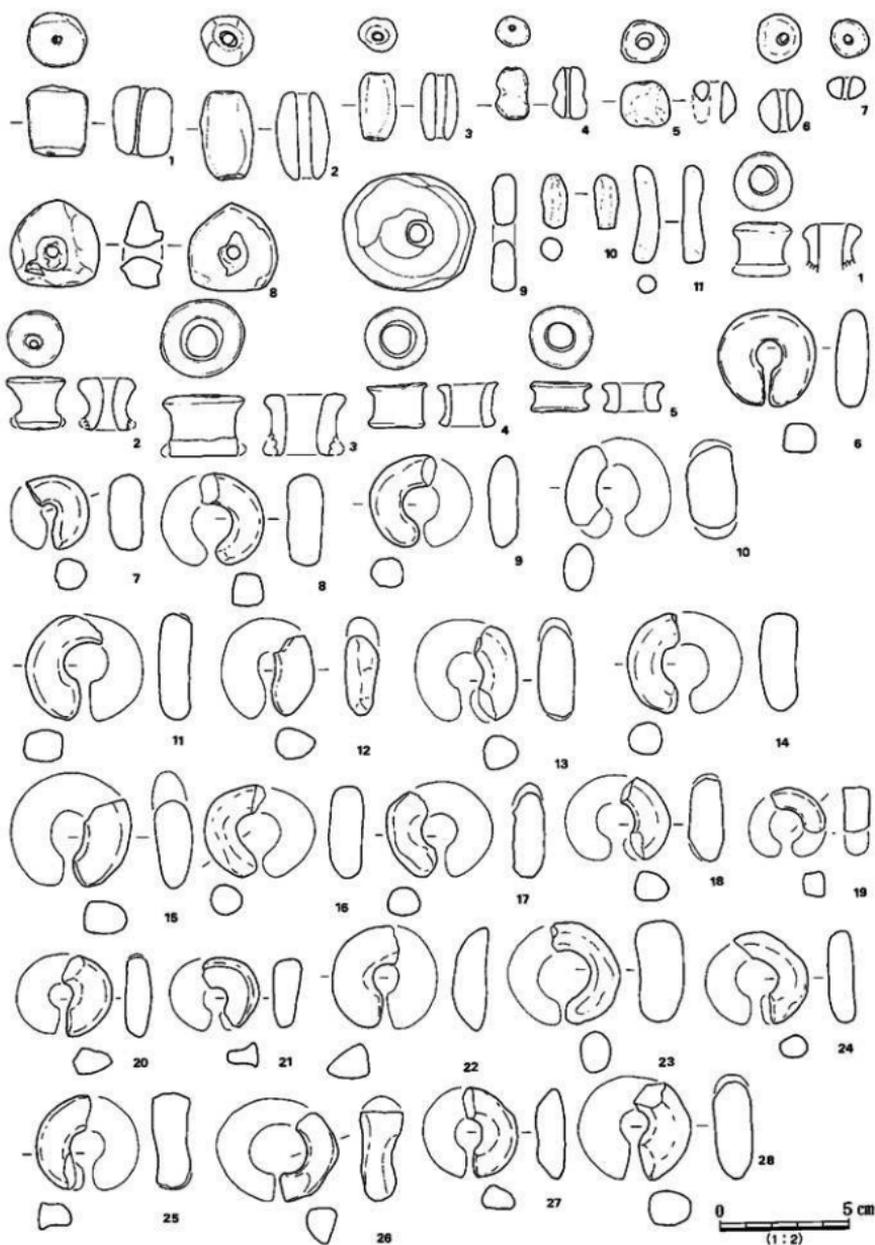
第92圖 土錘・土製内盤(1)



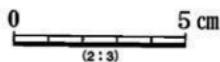
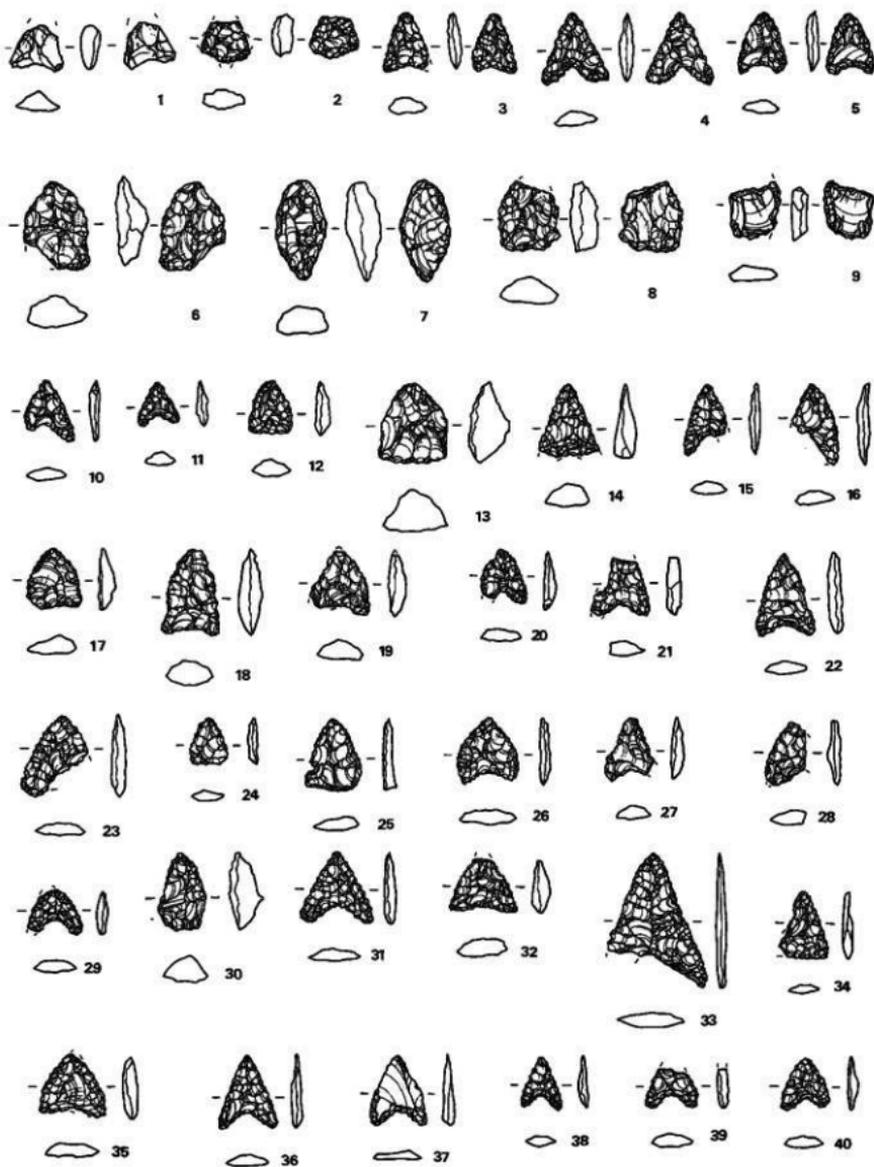
第93圖 土陶片殘(2)



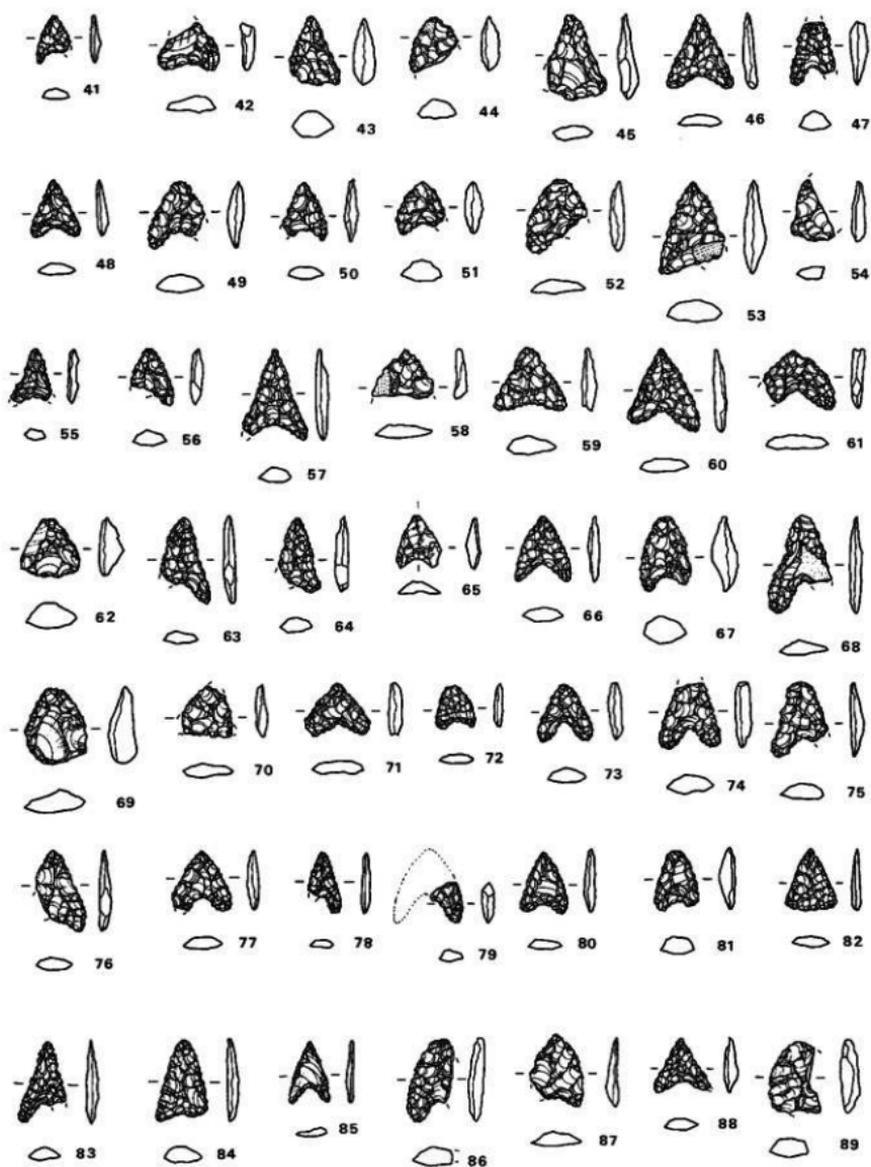
第94図 ミニチュア土器・土製品(1)



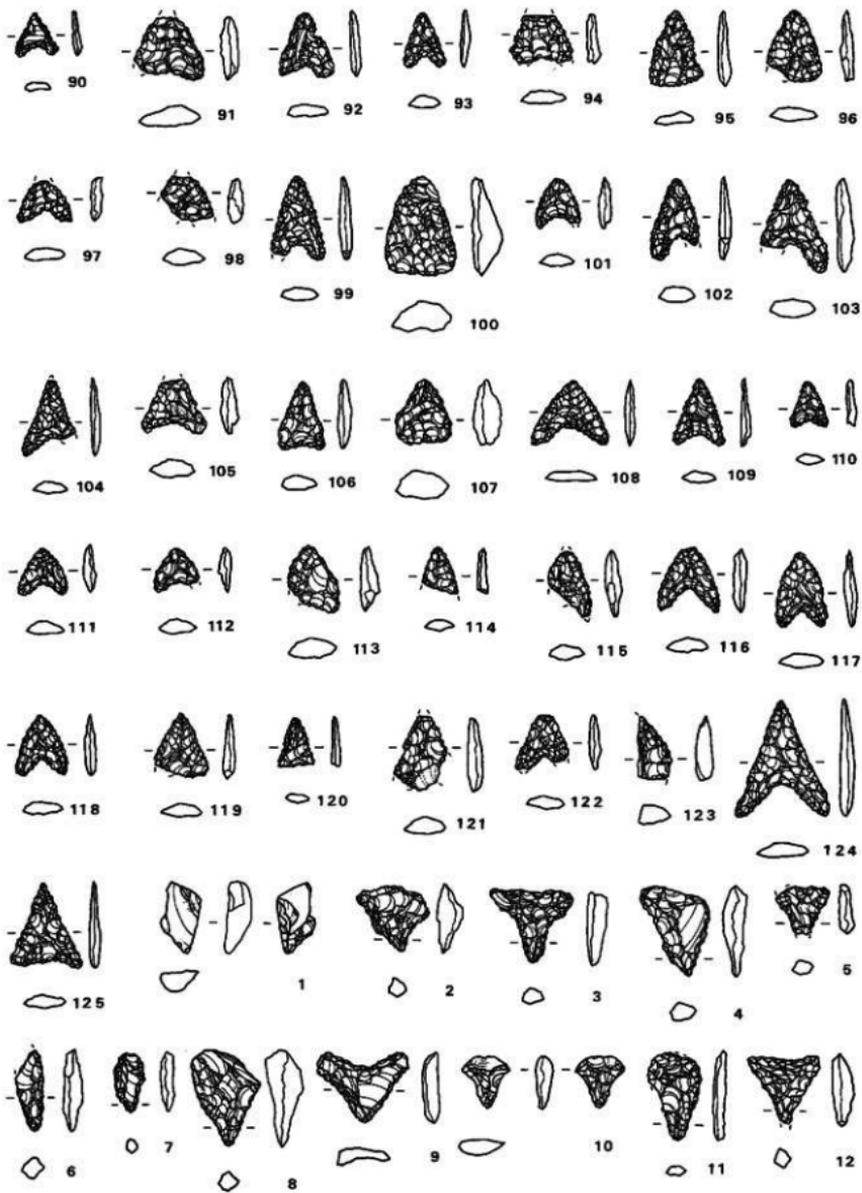
第95圖 土製品(2)・耳飾)



第96圖 水晶製石器・石鏃(1)

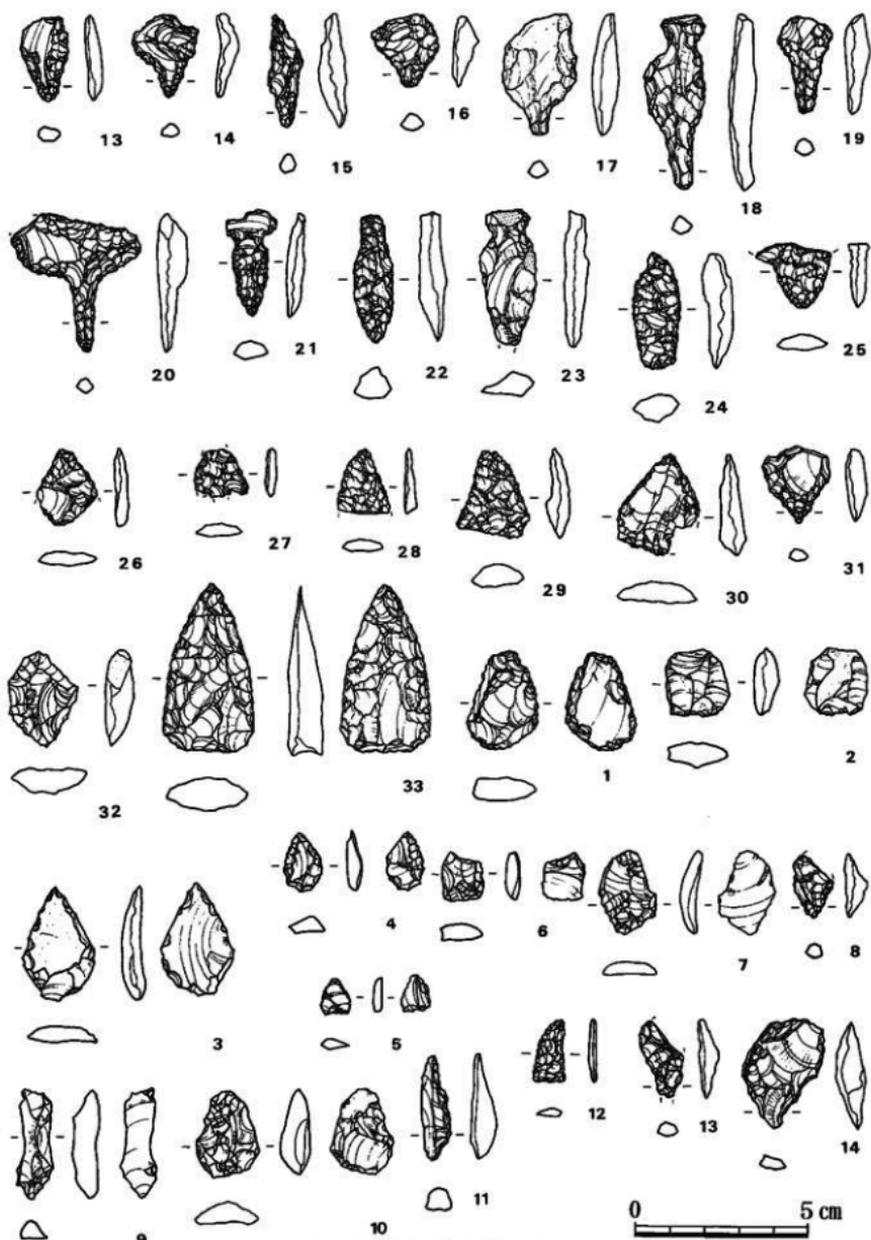


第97圖 石 鏃 (2)

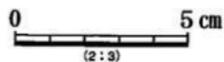


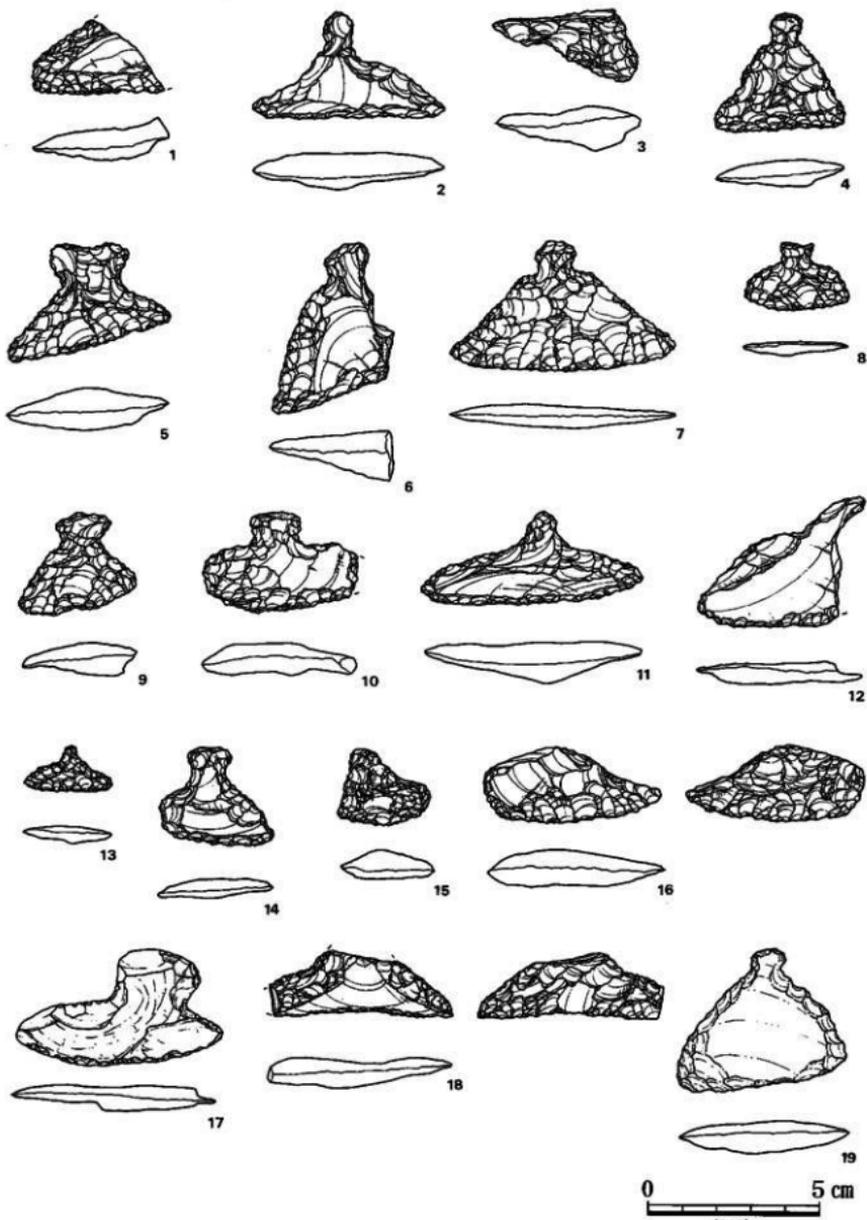
第98図 石鏃(3)・ドリル(1)

0 5 cm  
(2:3)

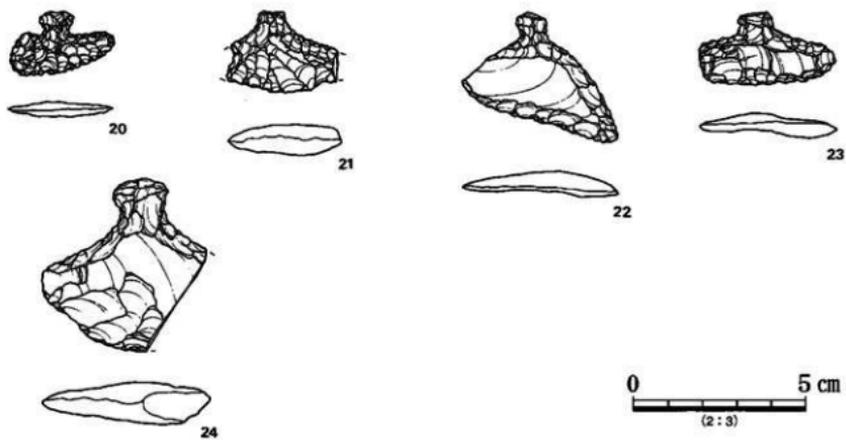


第99図 ドリル(2)・スクレーパー

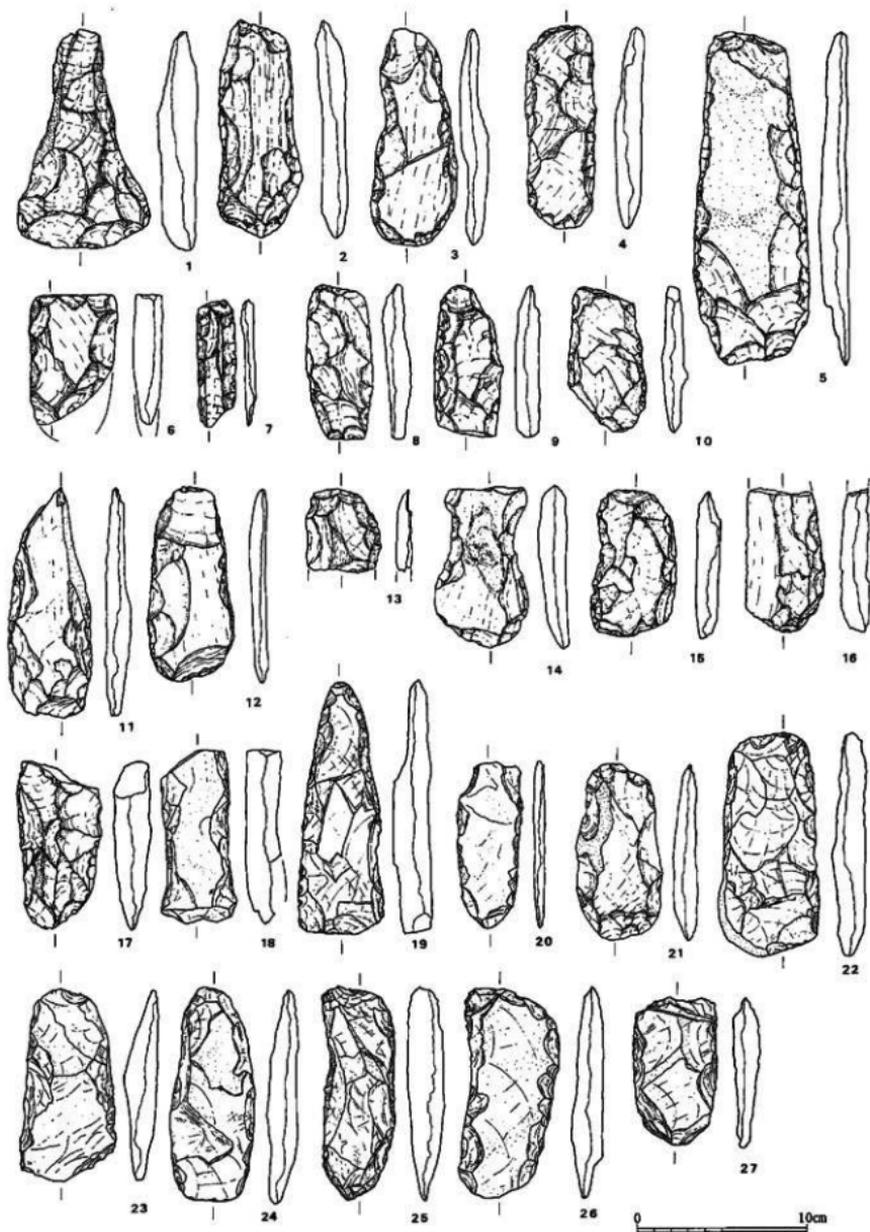




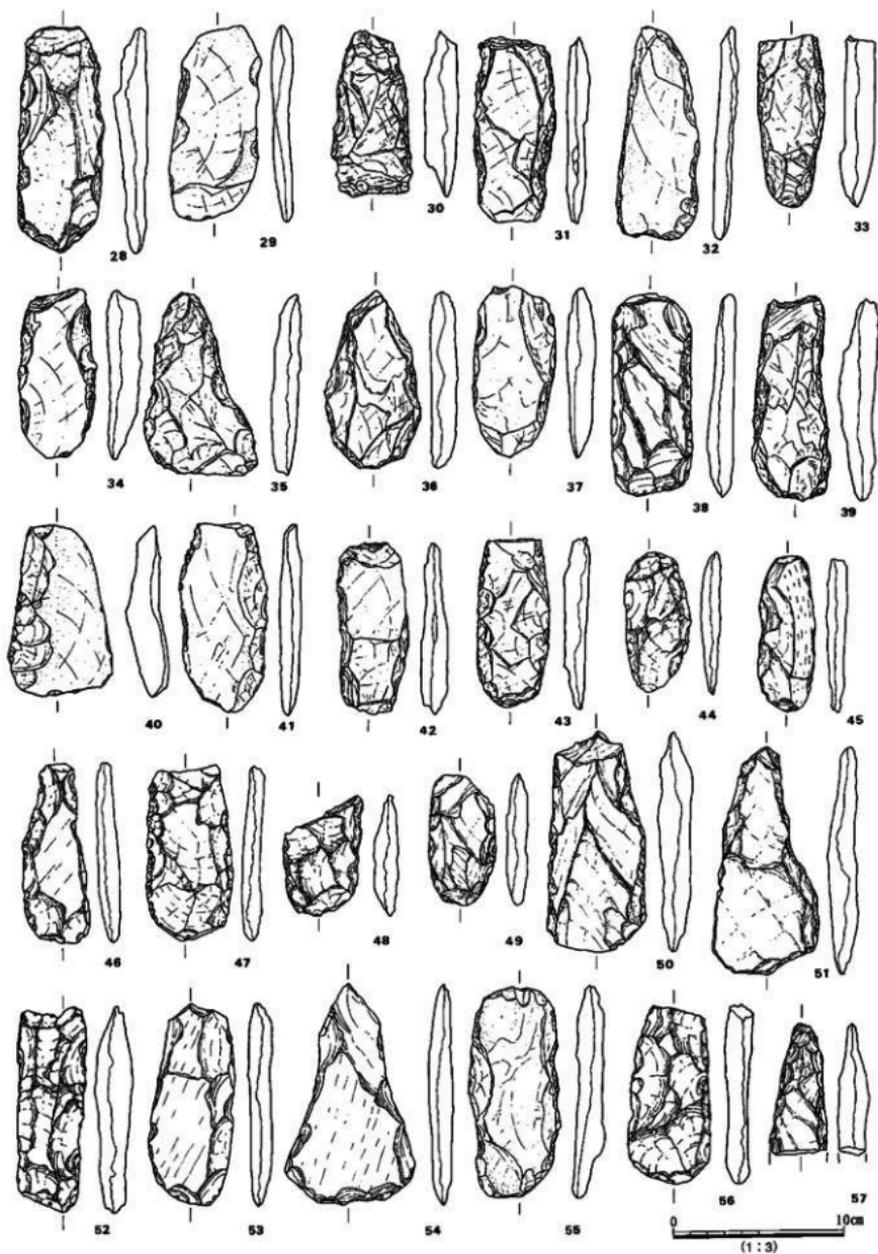
第100图 石 匙 (1)



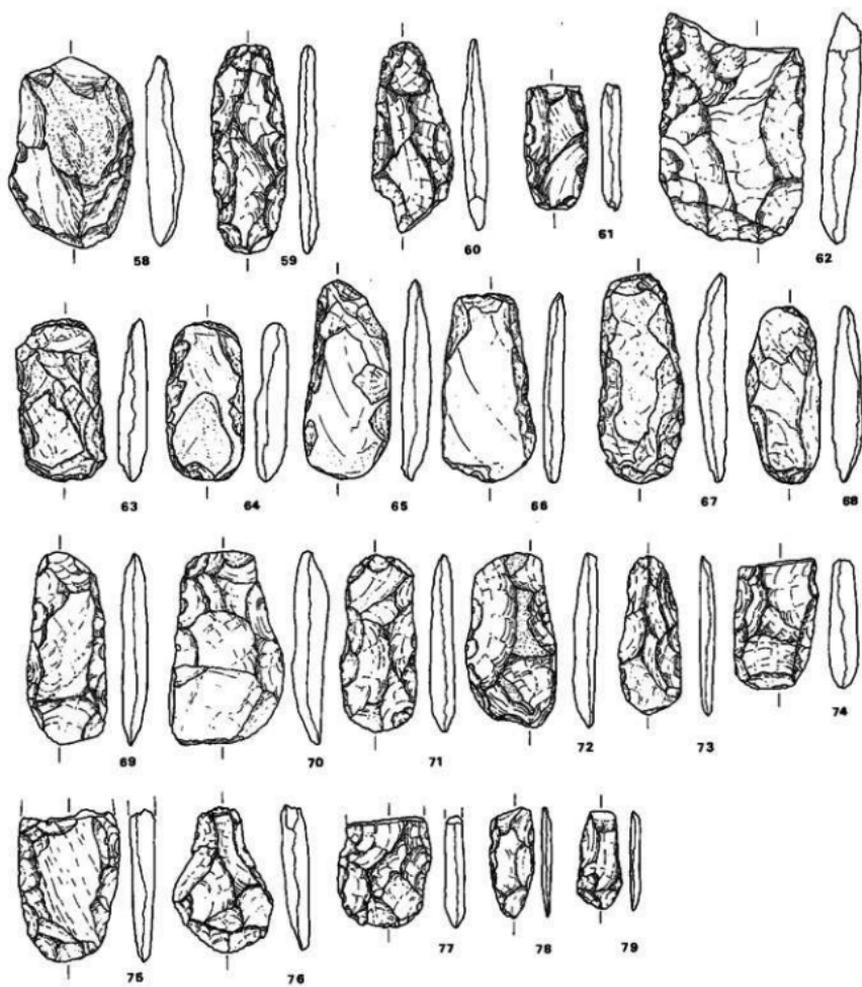
第101图 石 匙 (2)



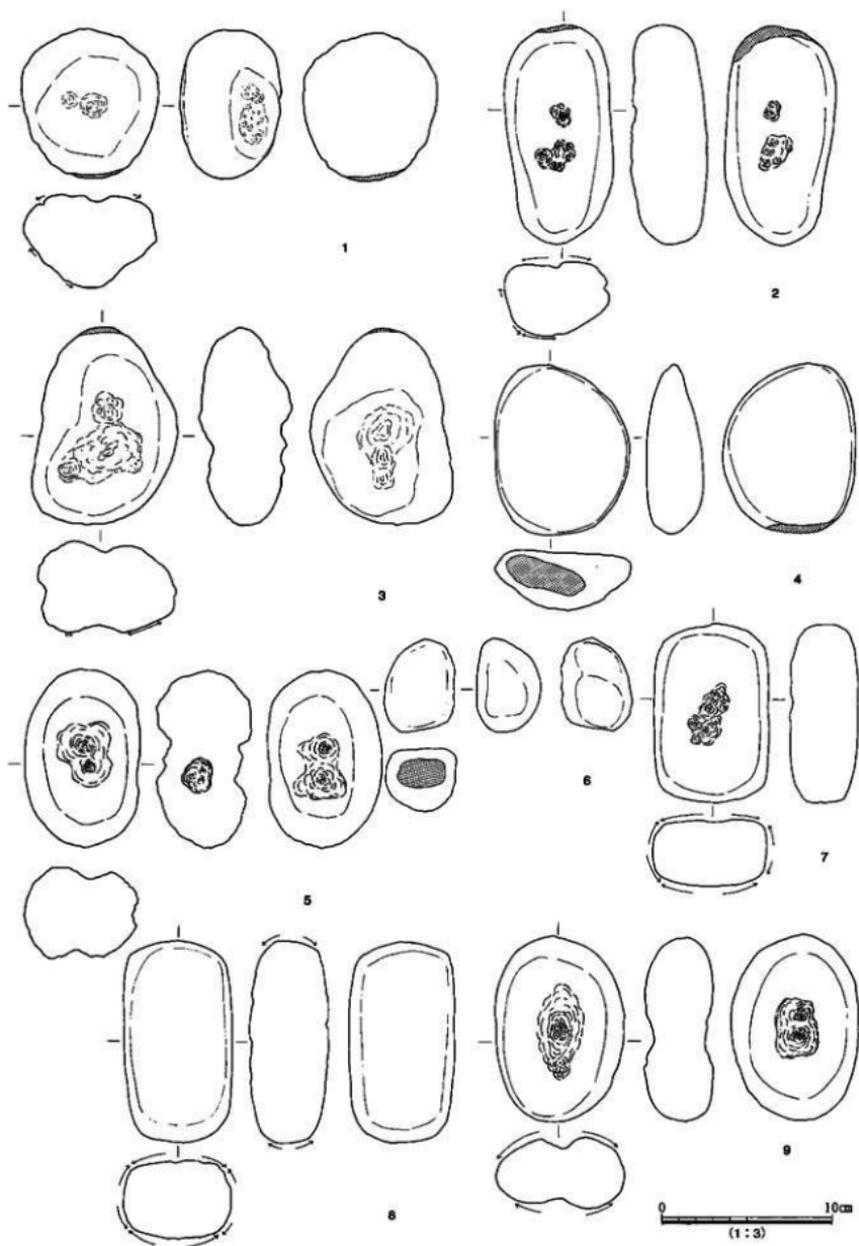
第102圖 打製石斧(1)



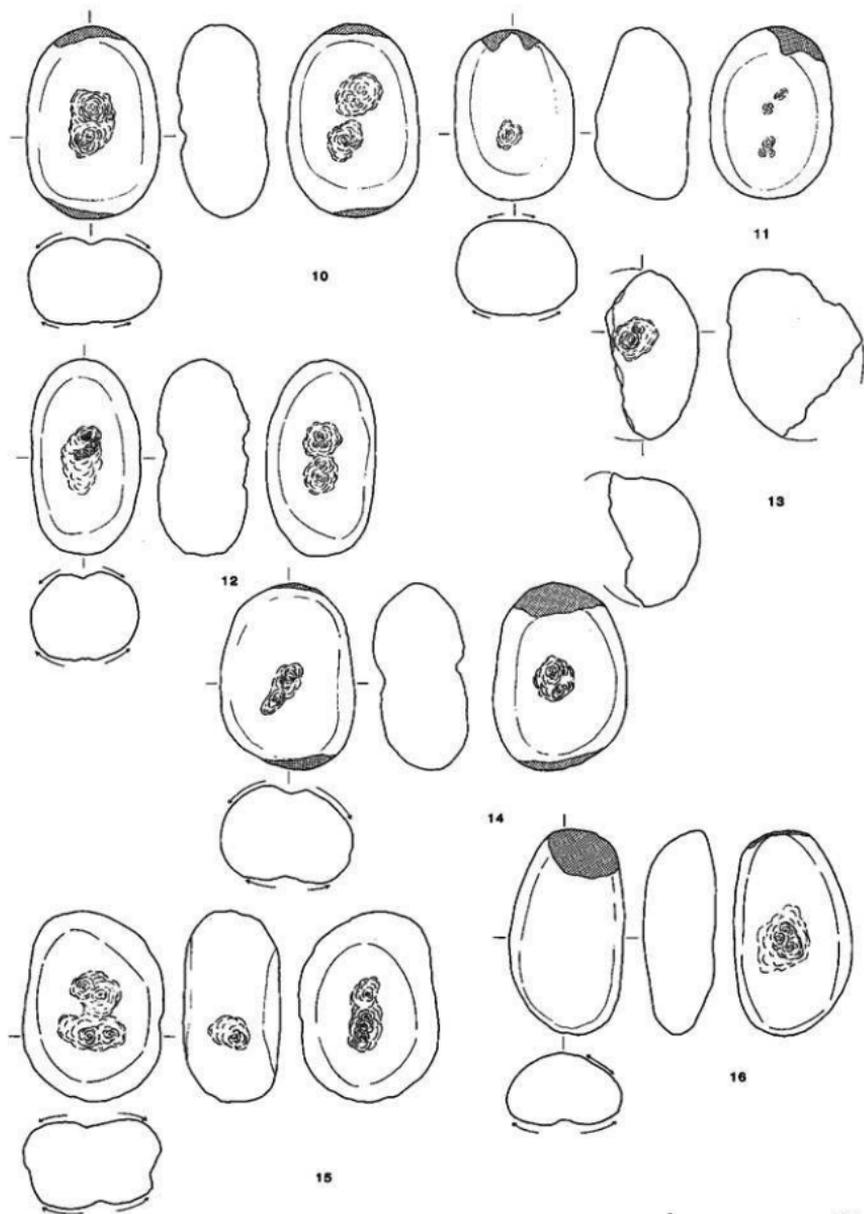
第103圖 打製石斧(2)



第104圖 打製石斧(3)

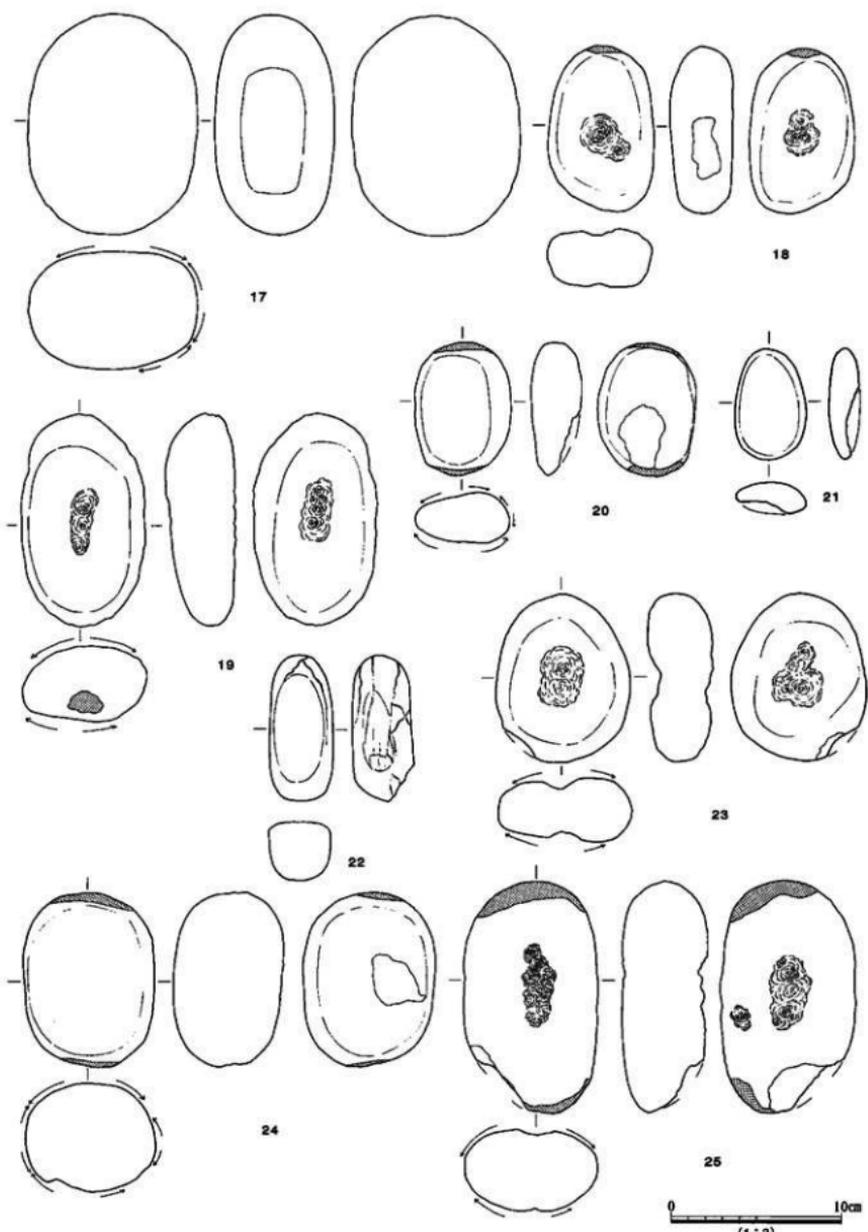


第105図 磨石 (1)

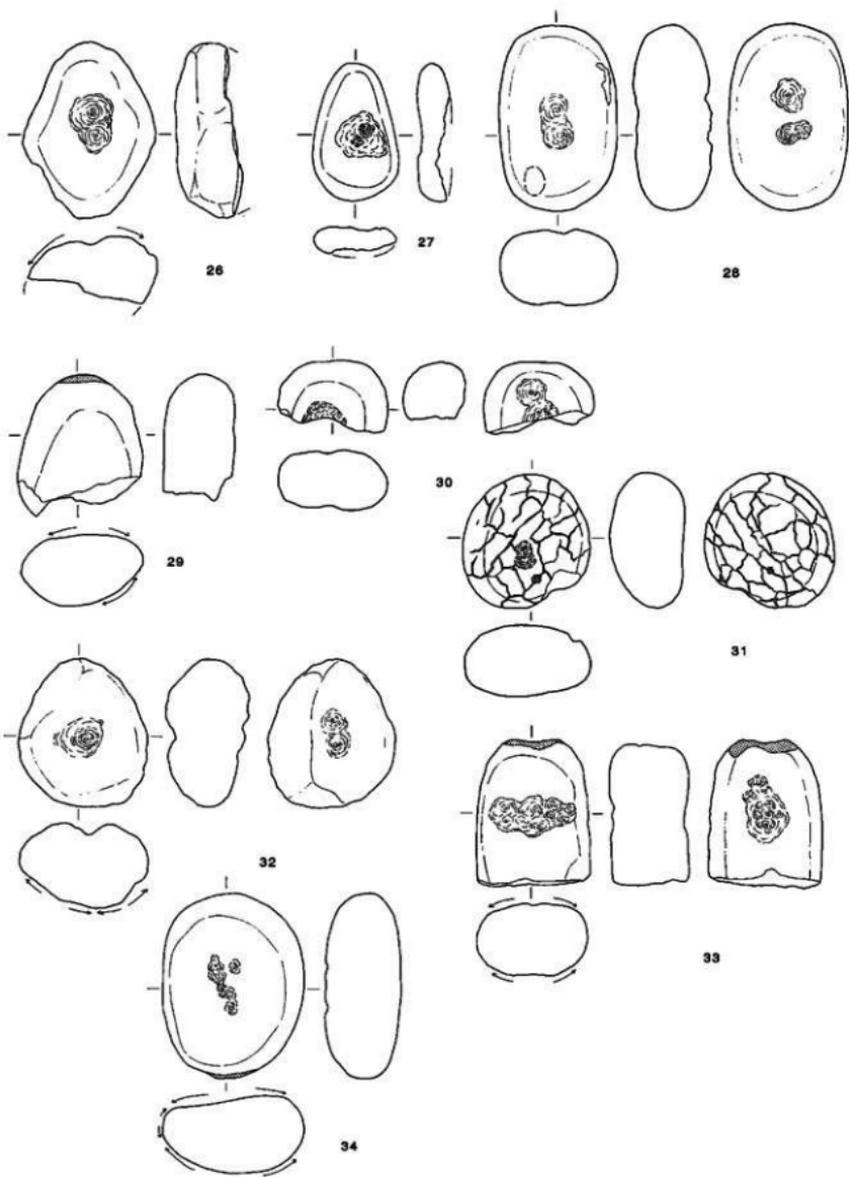


第106圖 磨石(2)

0 10cm  
(1:3)

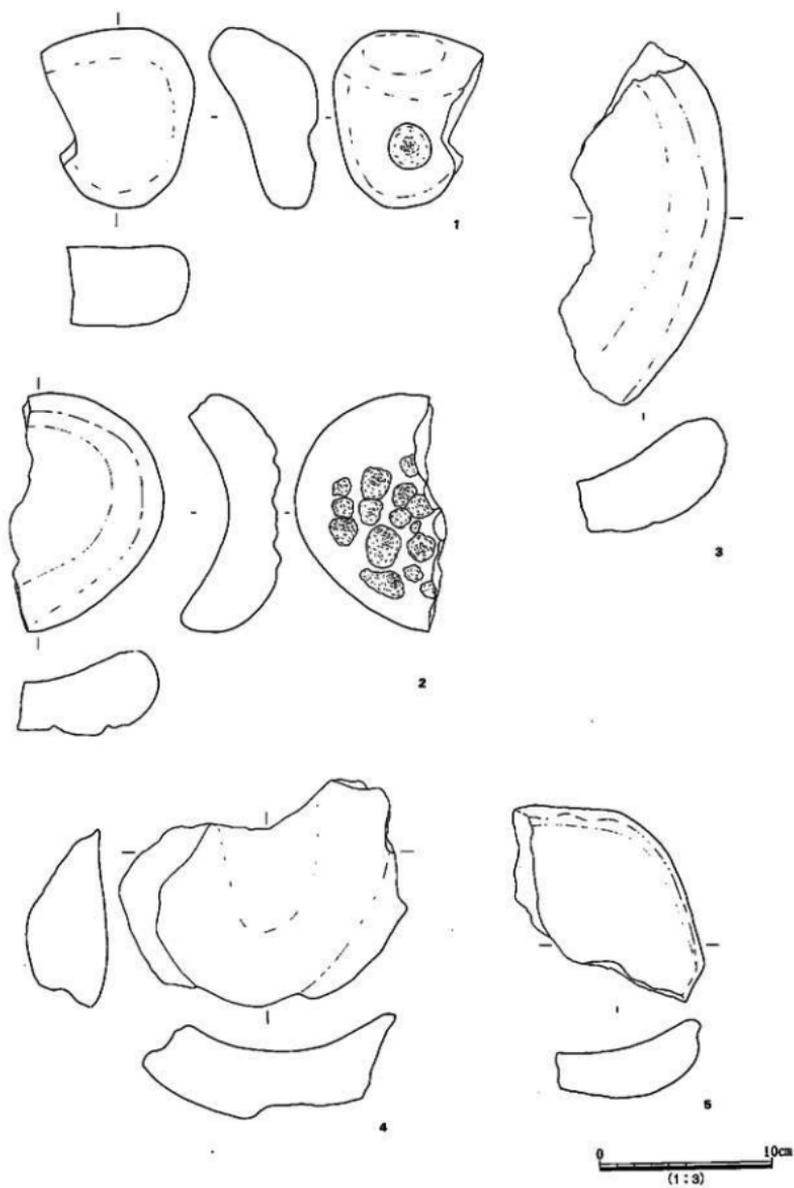


第107図 磨石(3)

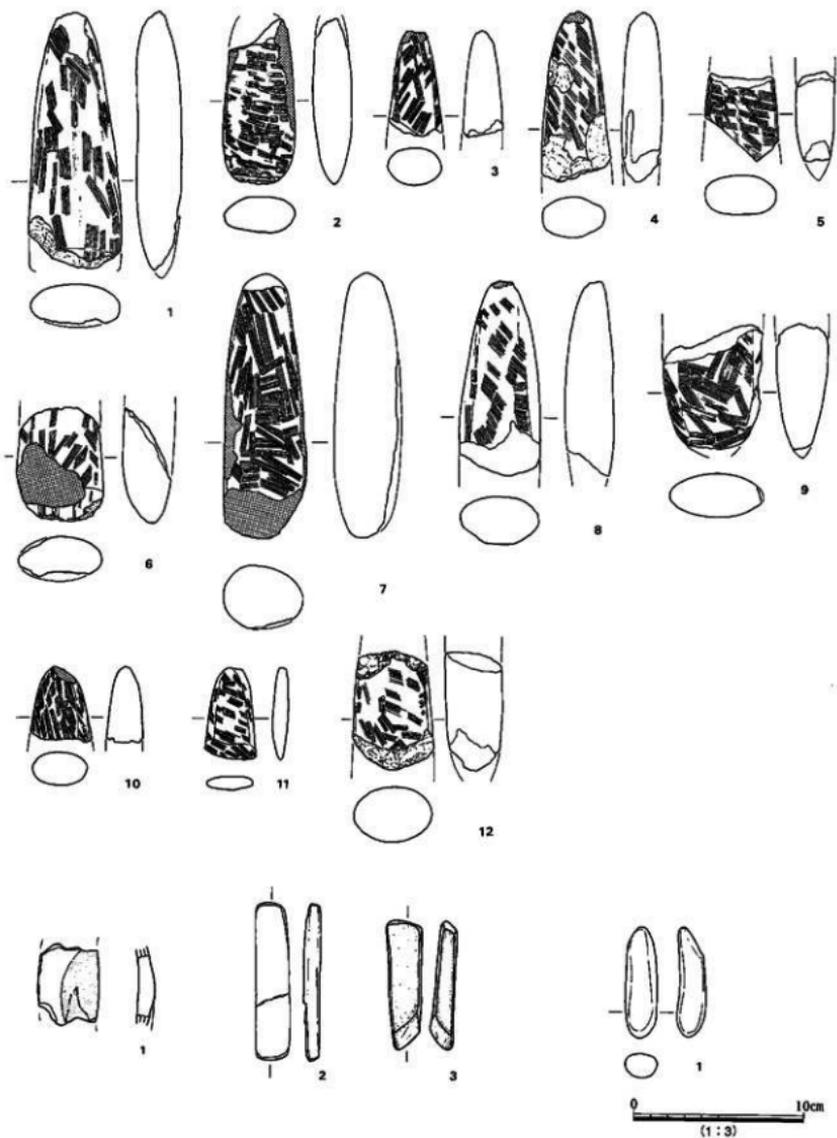


第108回 磨石 (4)

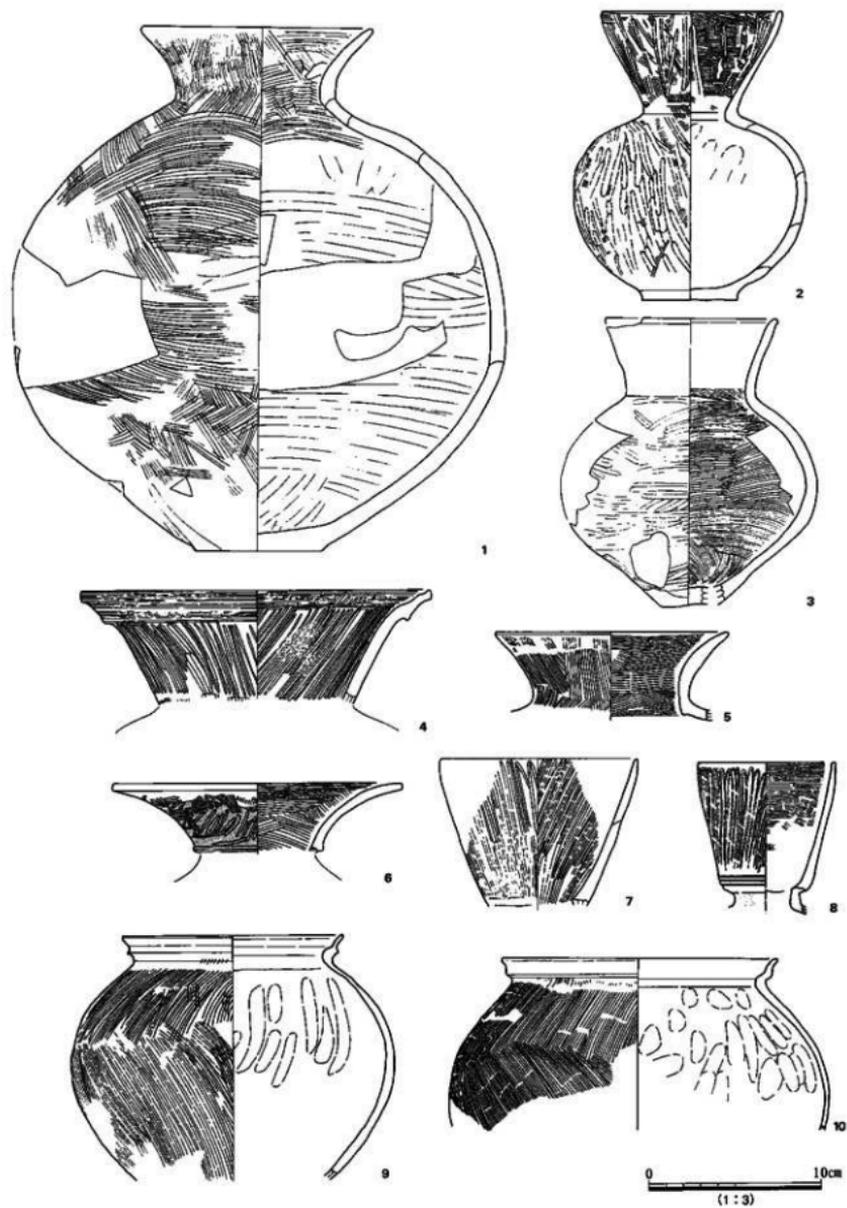
0 10cm  
(1:3)



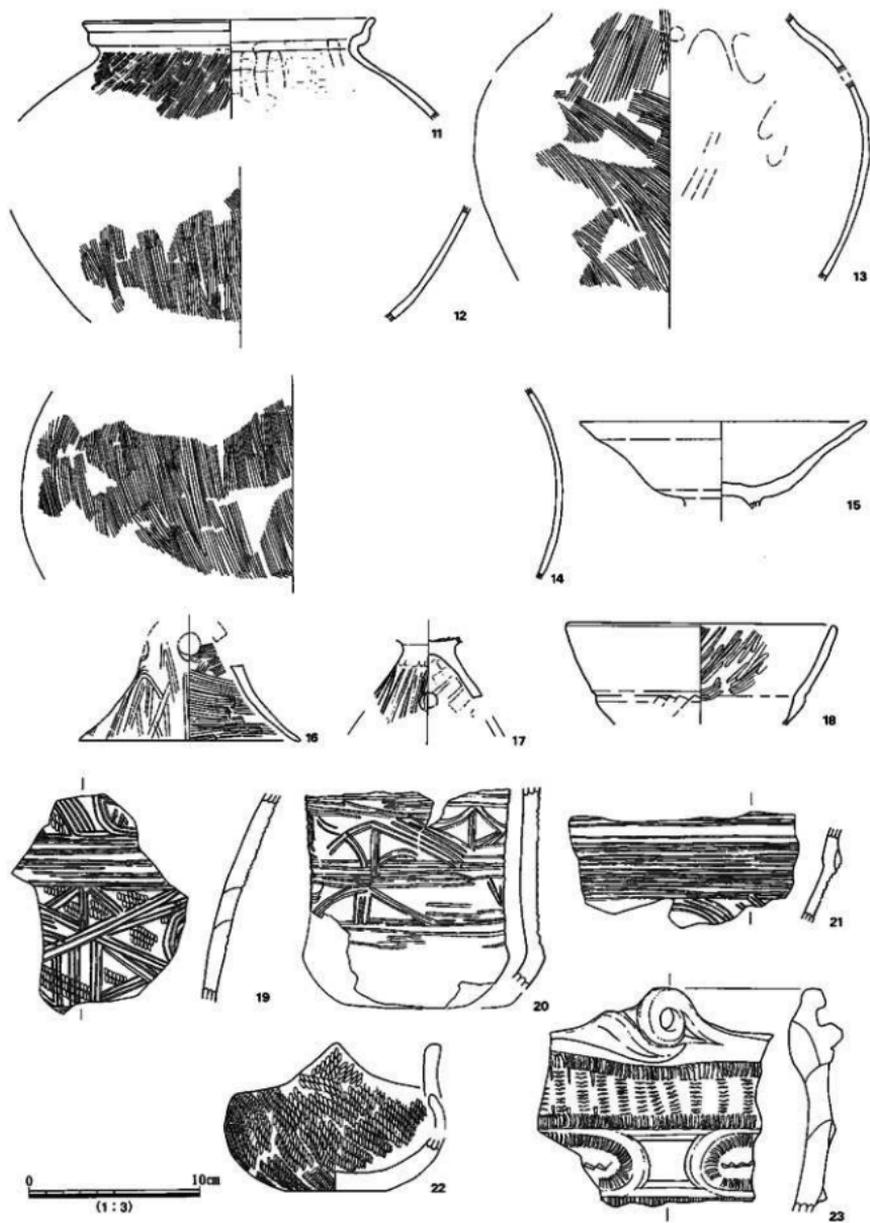
第109圖 石 皿



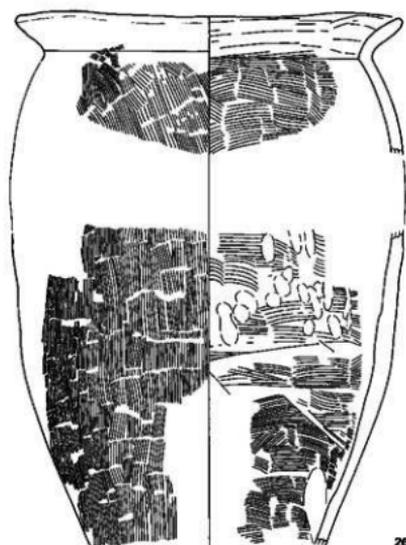
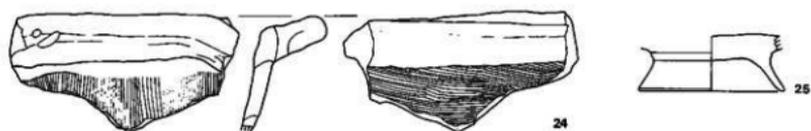
第110图 磨製石斧·砾石



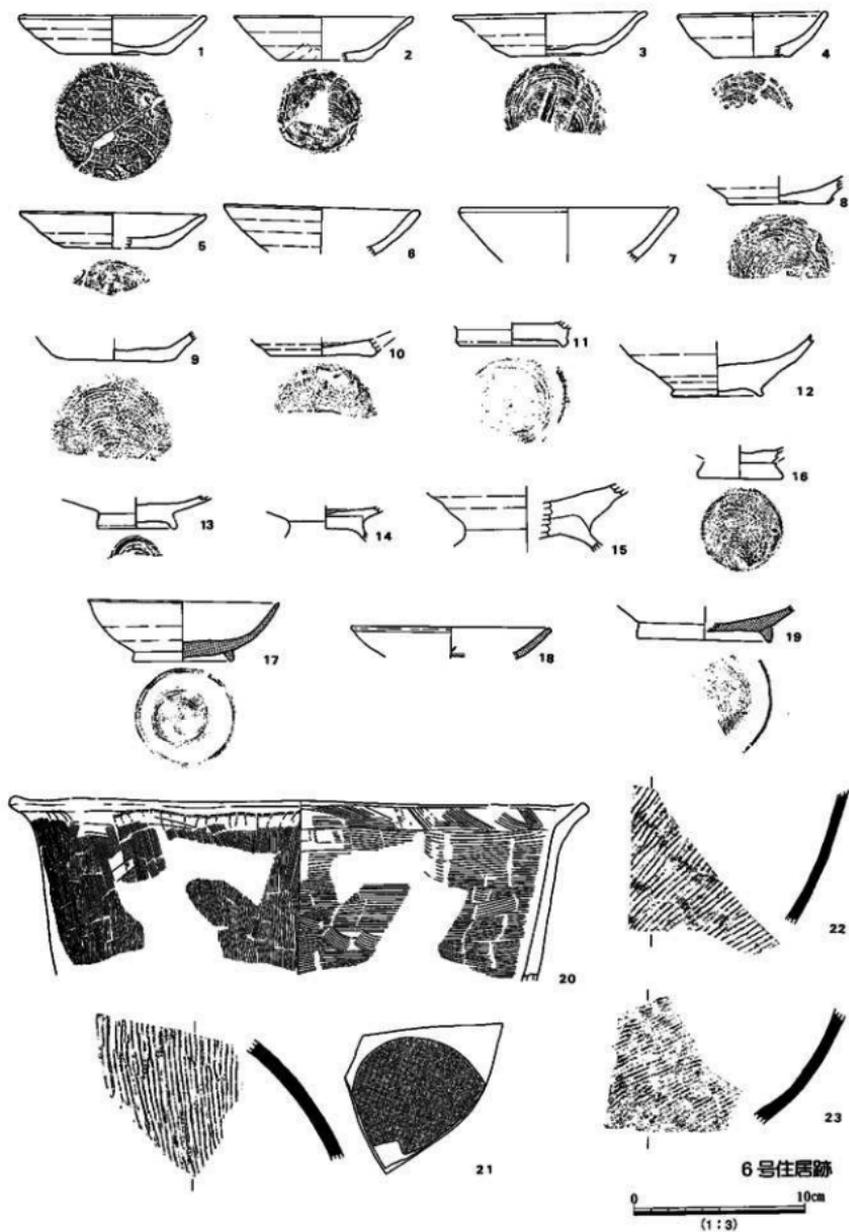
第111图 第2号沟出土遗物(1)



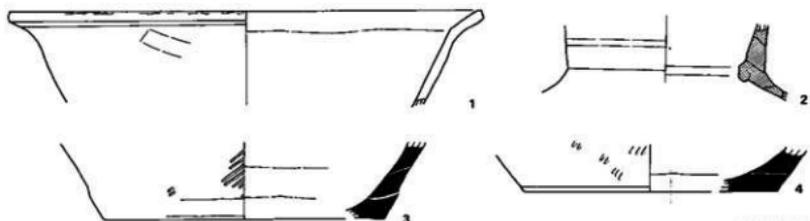
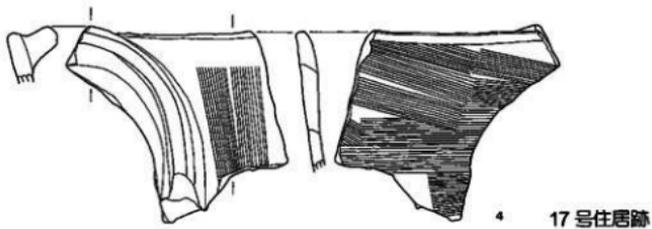
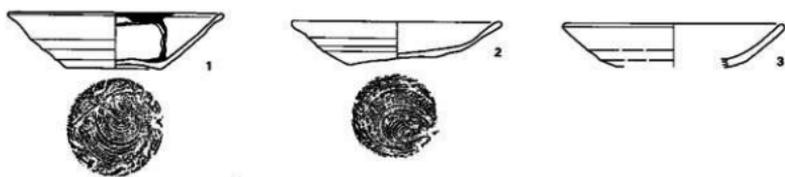
第112图 第2号溝出土遺物(2)



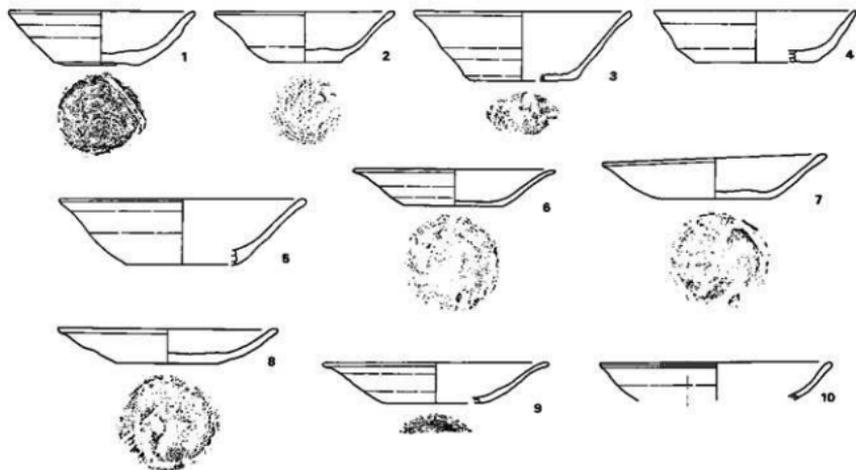
第113図 第2号清出土遺物(3)



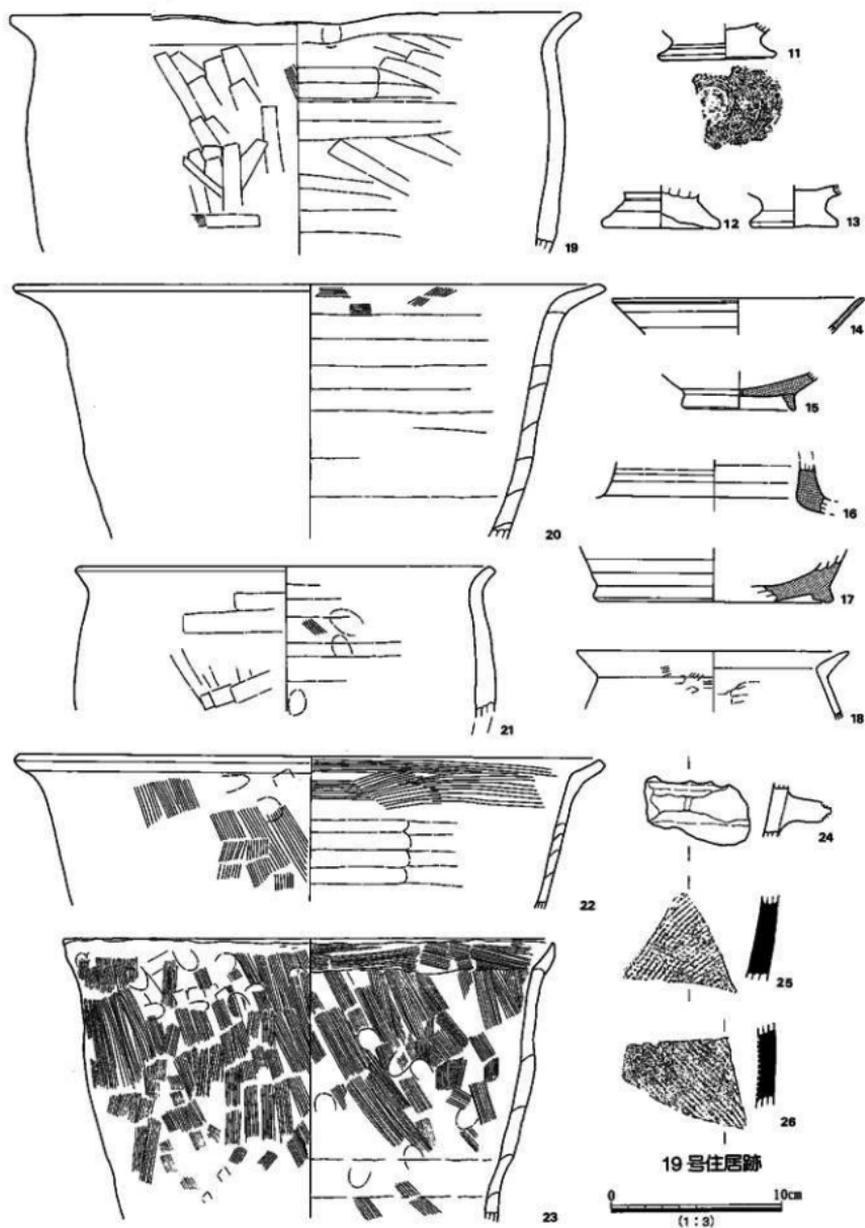
第114图 第6号住居跡出土遺物



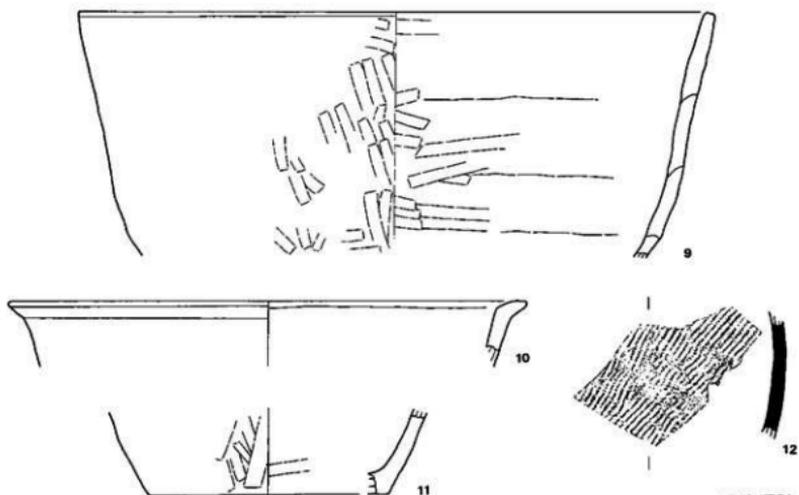
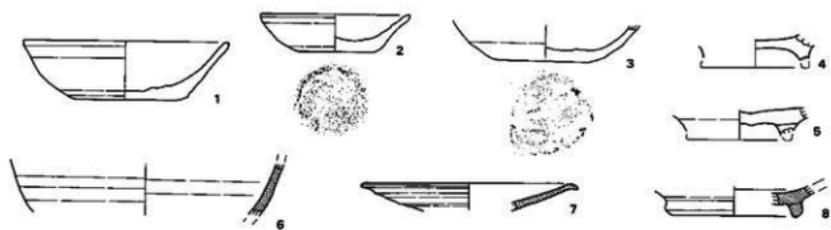
18号住居跡



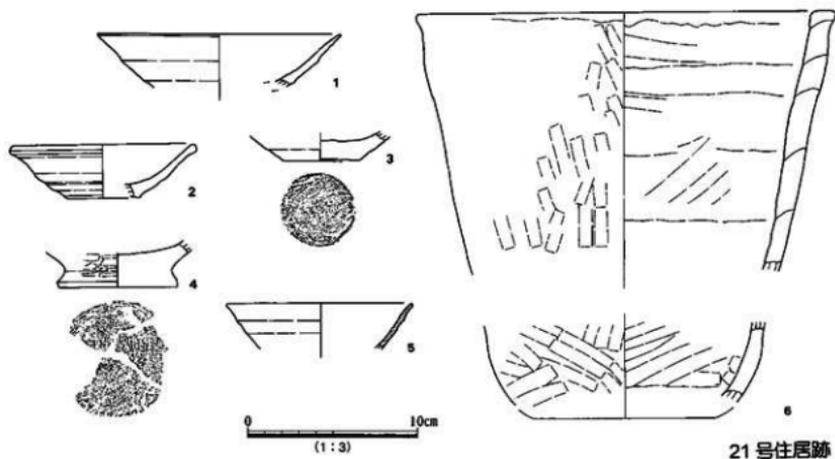
第115图 第17号·第18号住居跡·第19号住居跡(1)出土遺物



第116图 第19号住居跡出土物(2)

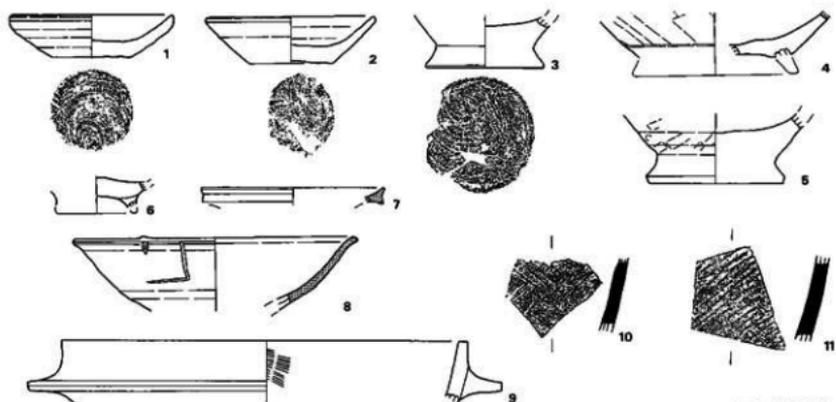


20号住居跡

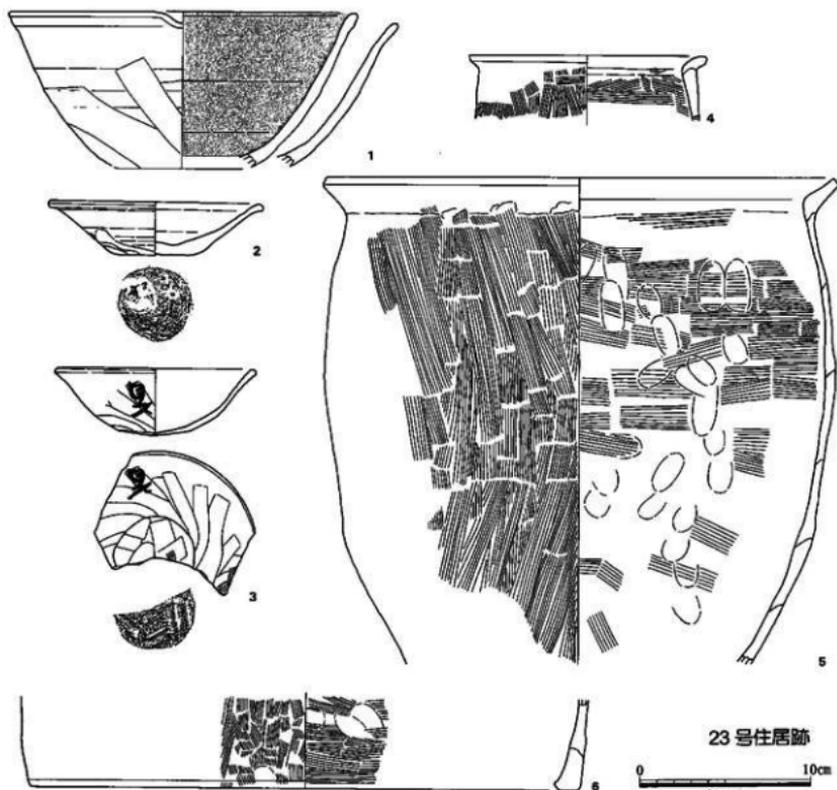


21号住居跡

第117图 第20号·第21号住居跡出土遺物

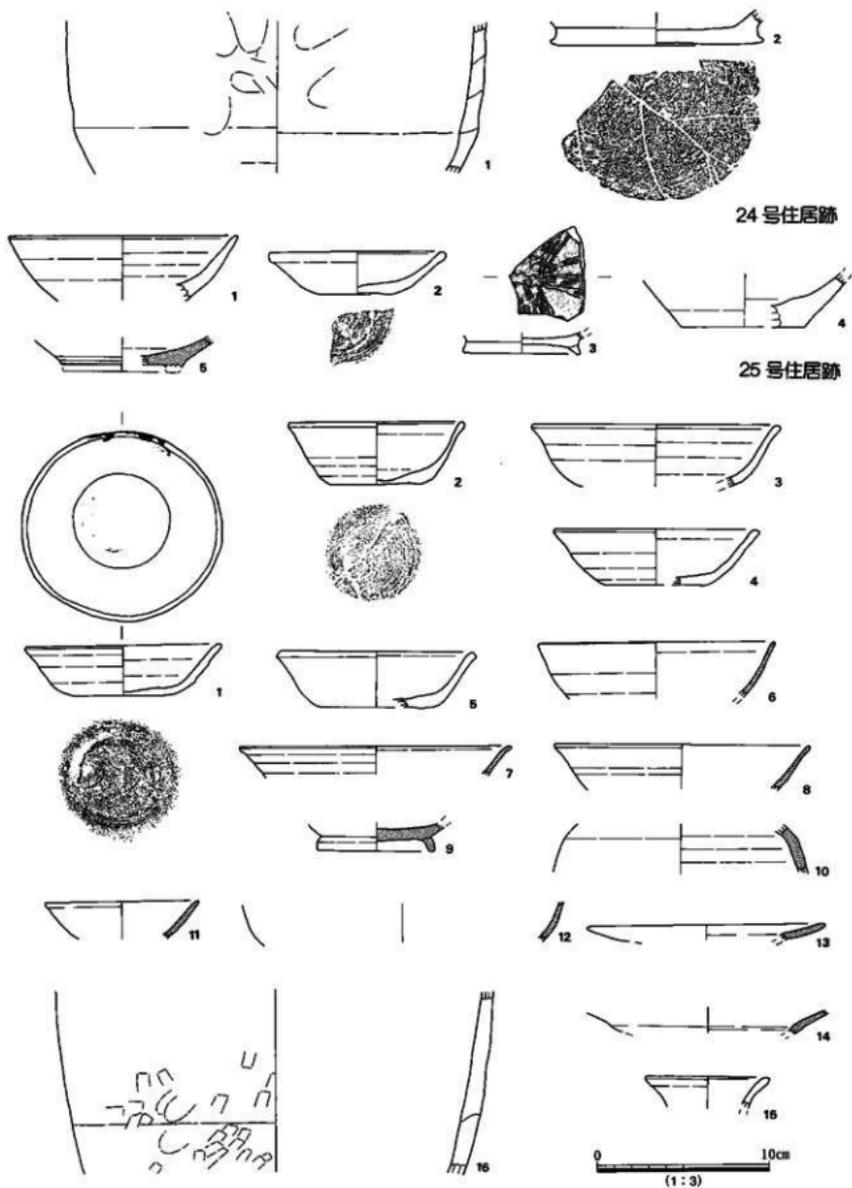


22号住居跡

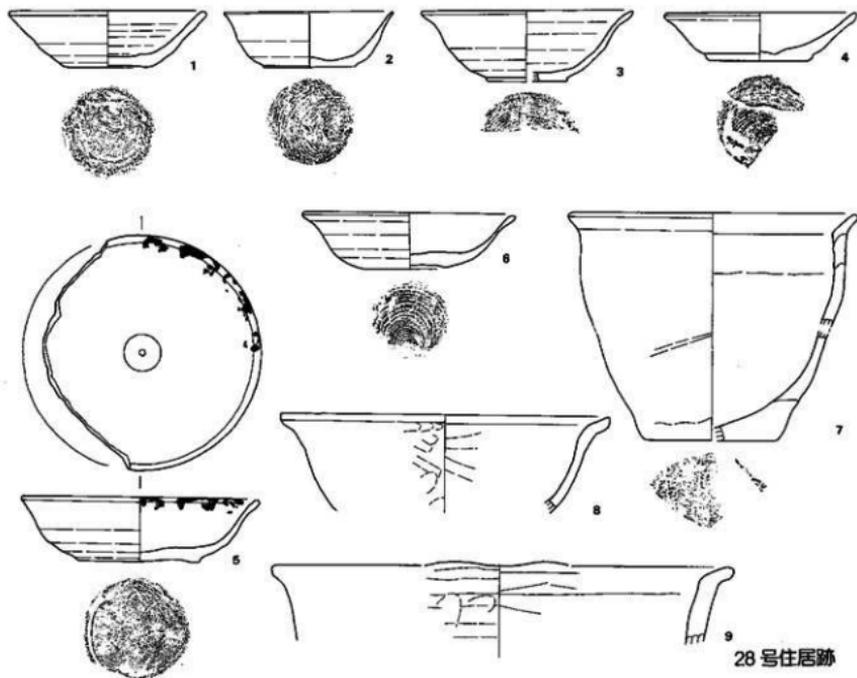
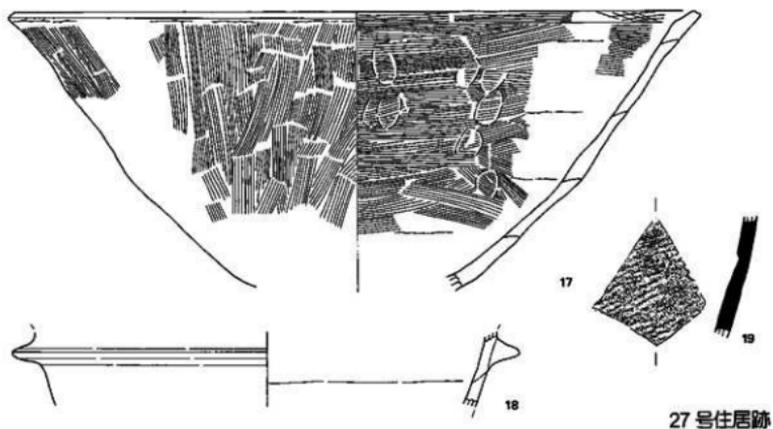


23号住居跡

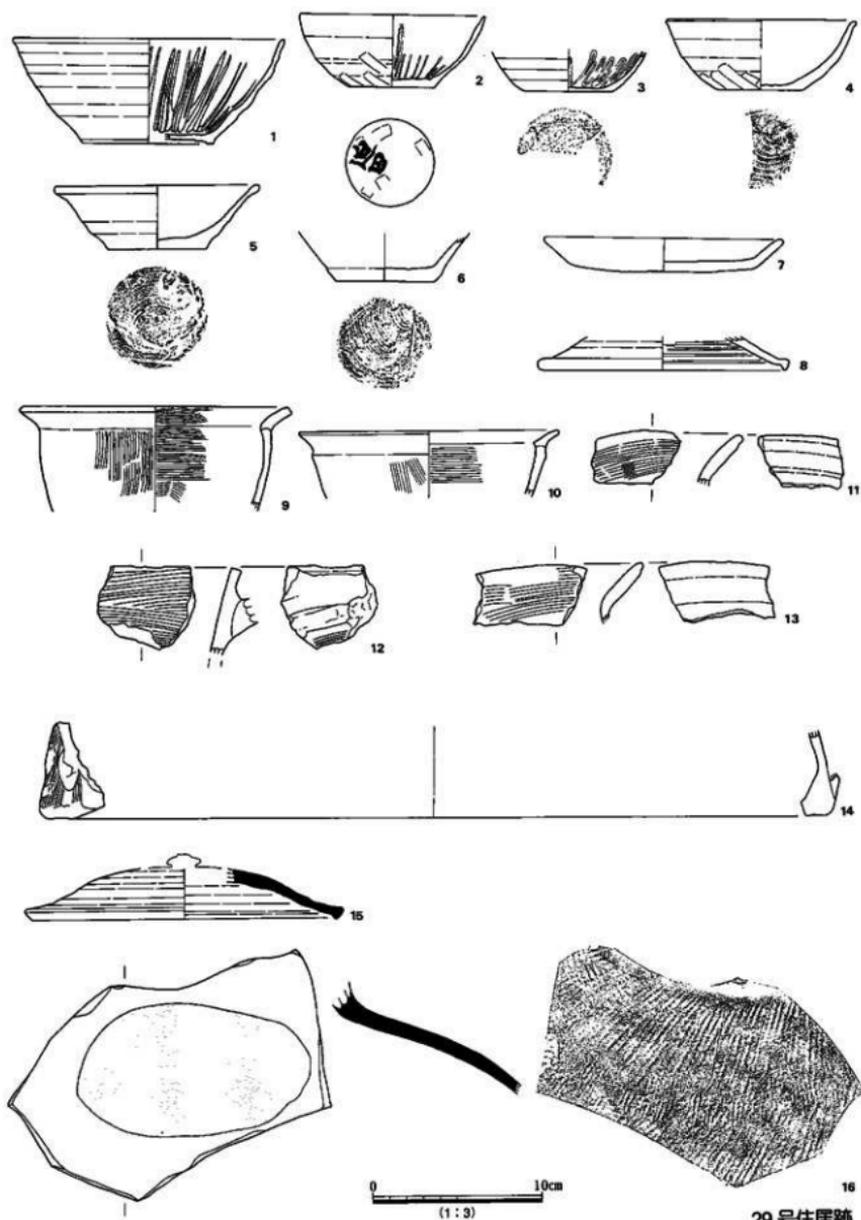
第118図 第22号・第23号住居跡出土遺物



第119図 第24号・第25号住居跡・第27号住居跡(1)出土遺物



第120図 第27号住居跡(2)・第28号住居跡出土遺物



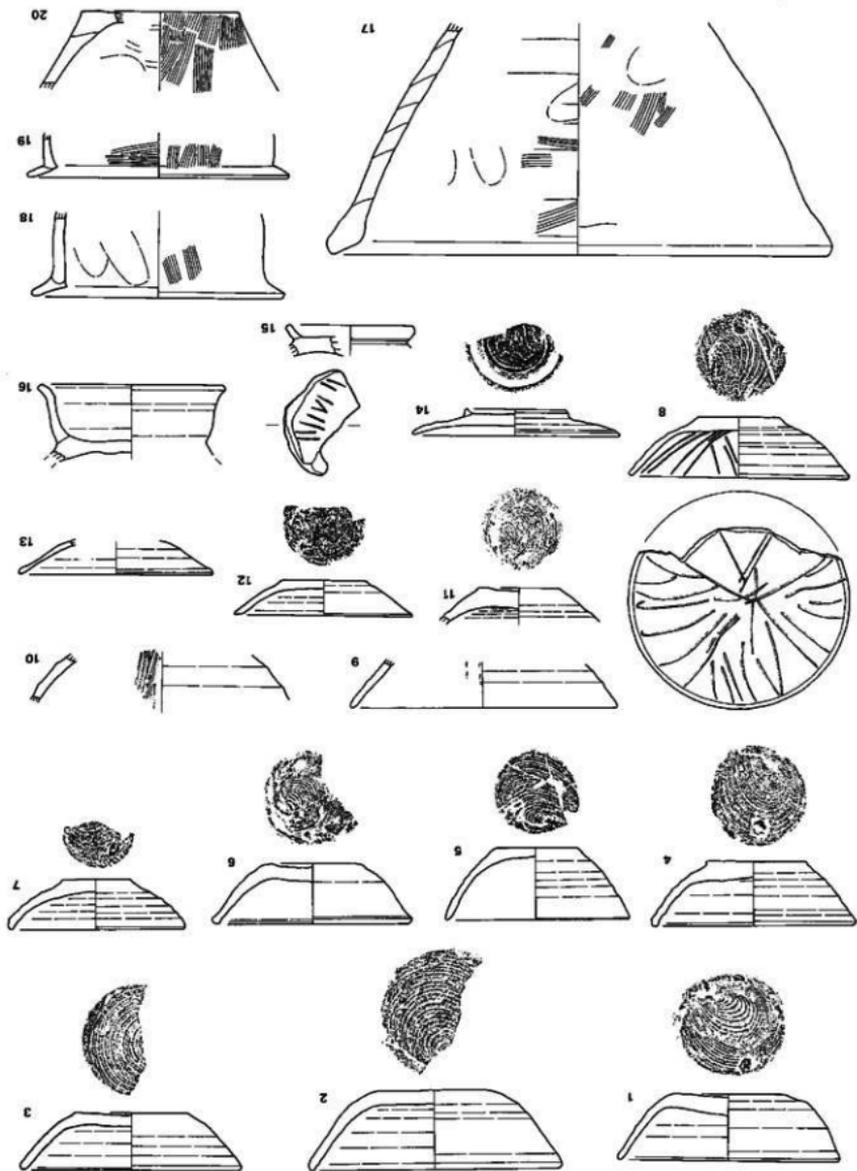
29号住居跡

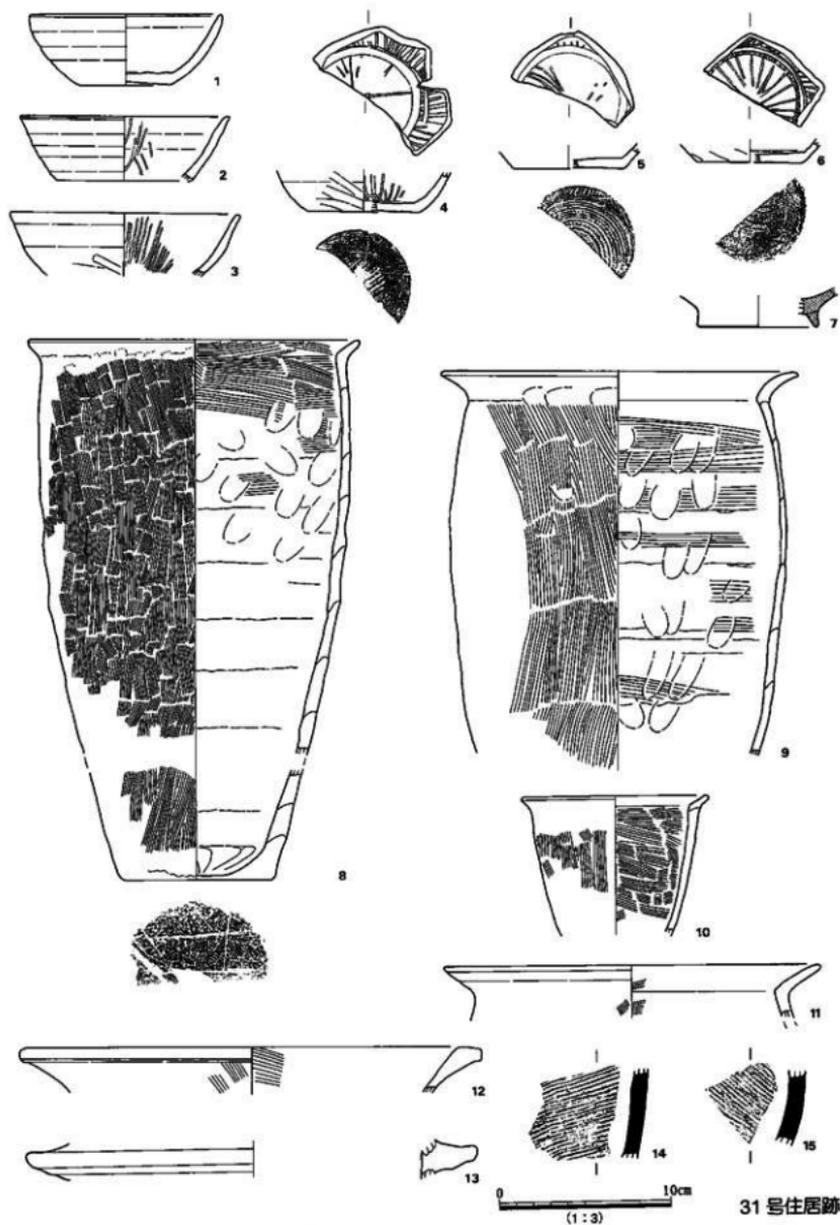
第121図 第29号住居跡出土遺物

第122图 第30号住居跡出土遺物

30号住居跡

(1:3)  
0 10cm



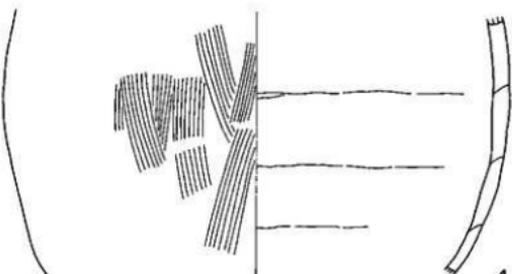
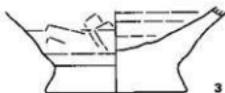
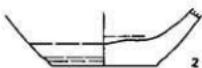


31号住居跡

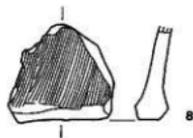
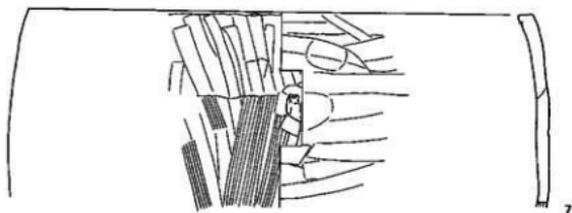
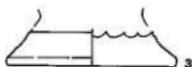
第123図 第31号住居跡出土遺物



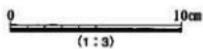
32号住居跡



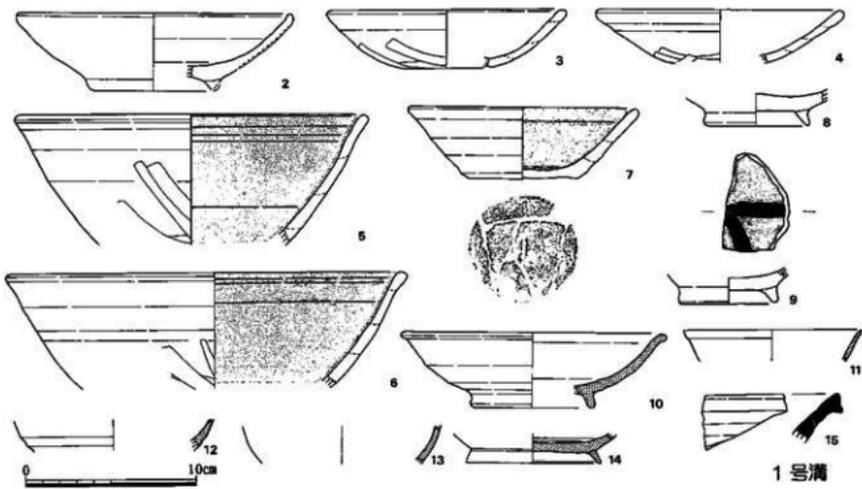
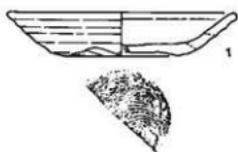
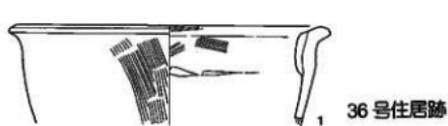
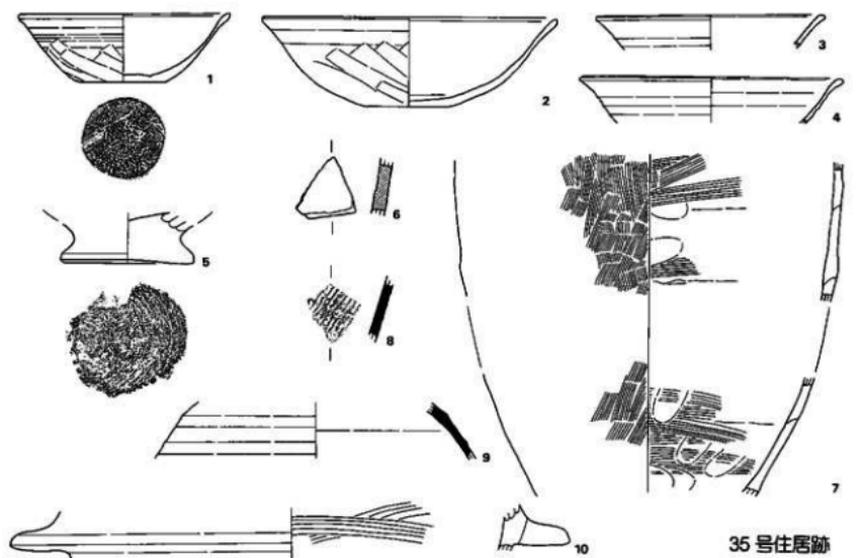
33号住居跡



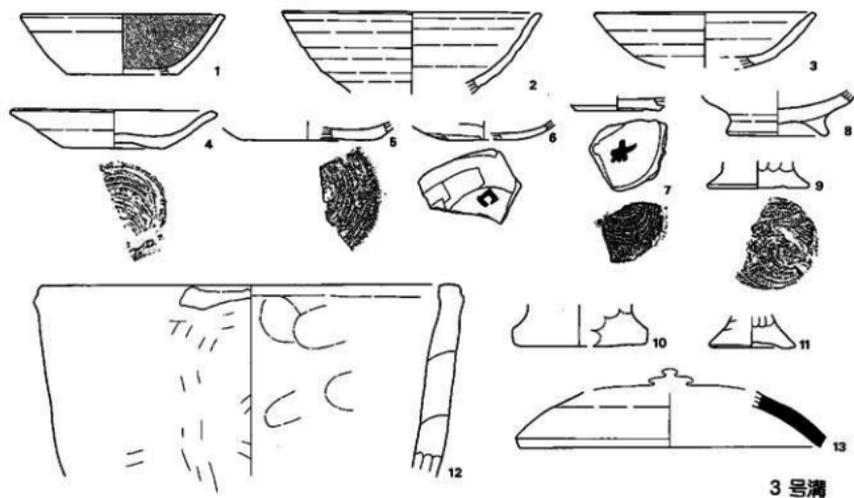
34号住居跡



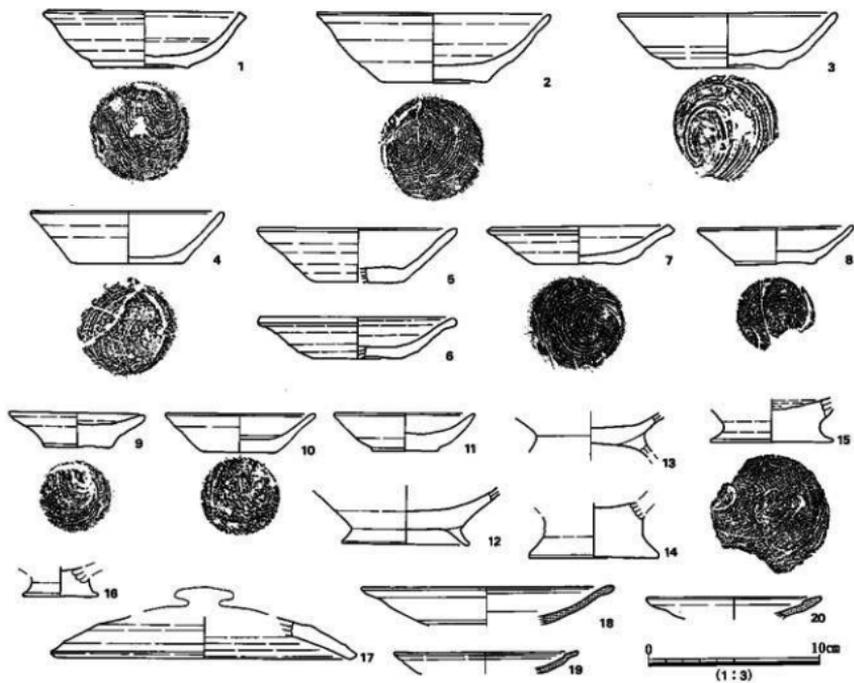
第124图 第32号·第33号·第34号住居跡出土遺物



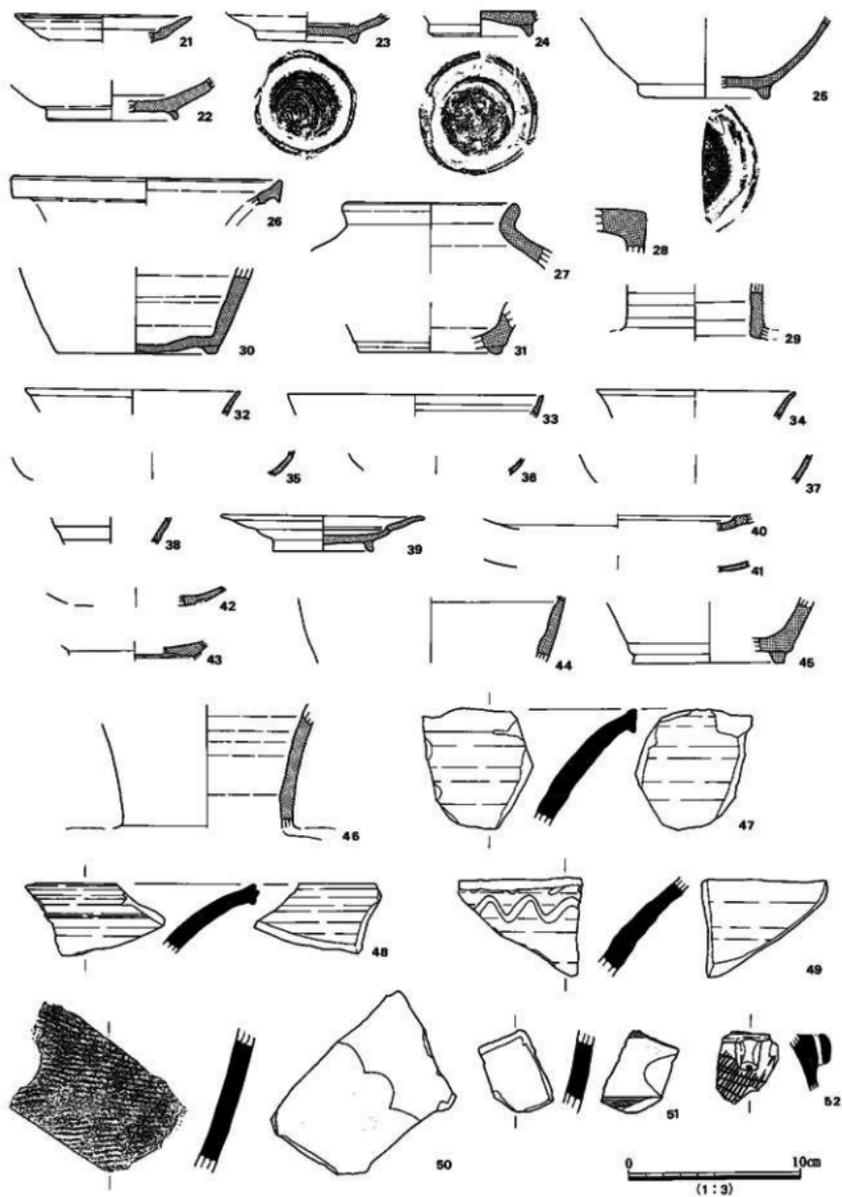
第125図 第35号・第36号住居跡・第1号溝出土遺物



3号沟

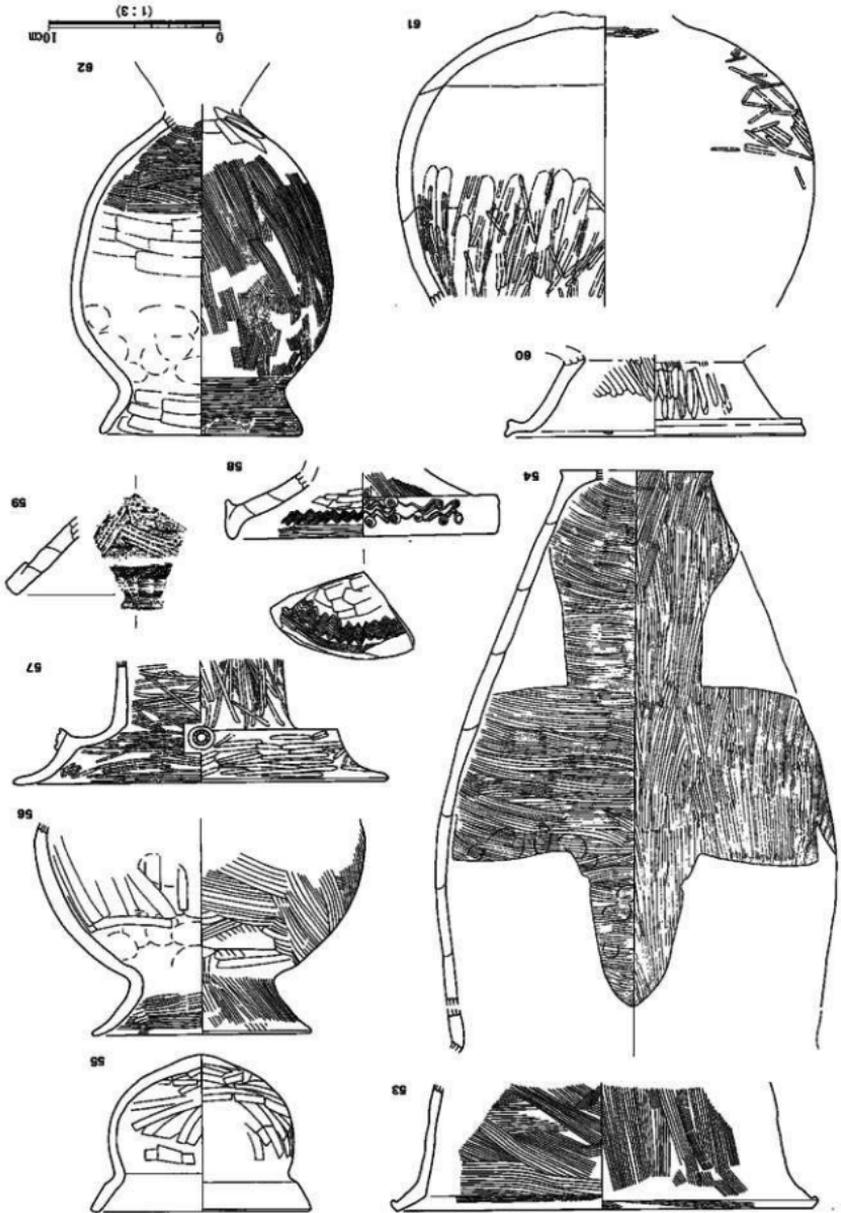


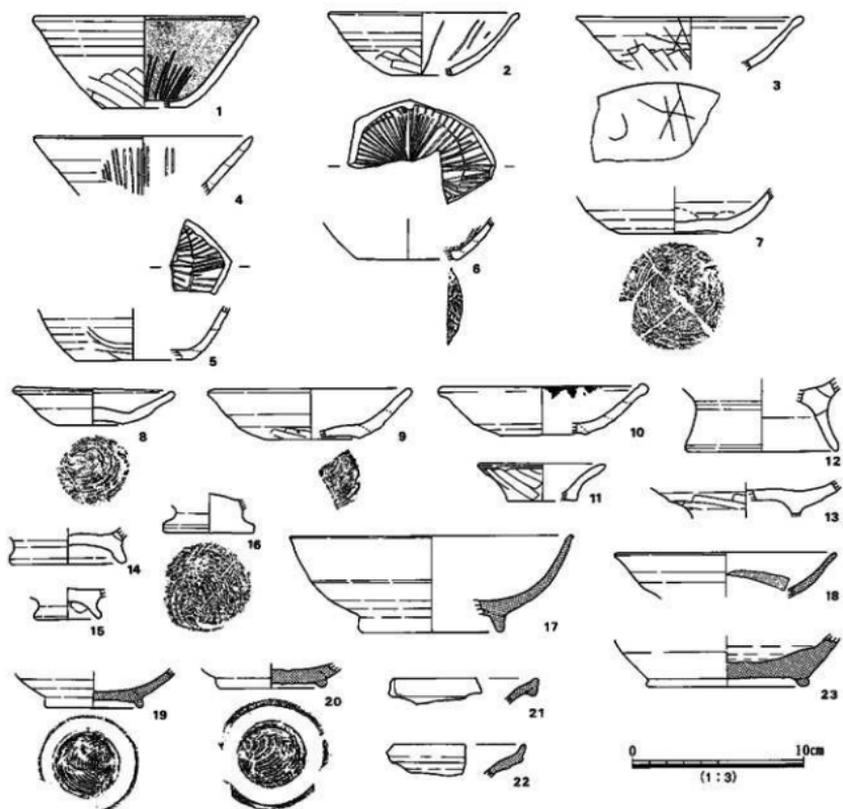
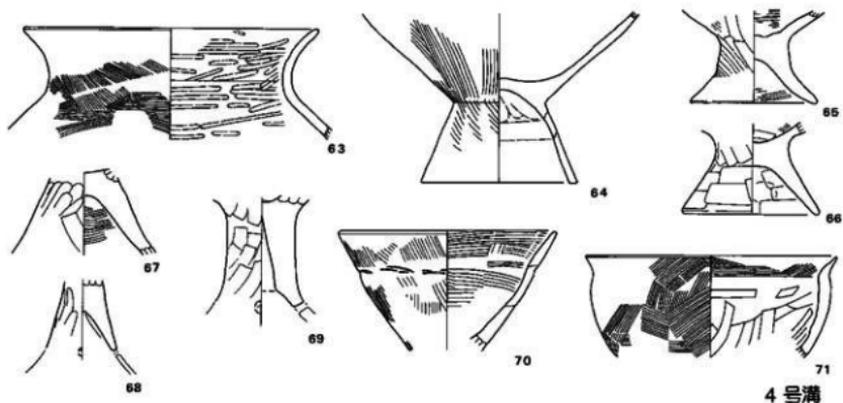
第126图 第3号沟·第4号沟(1)出土遗物



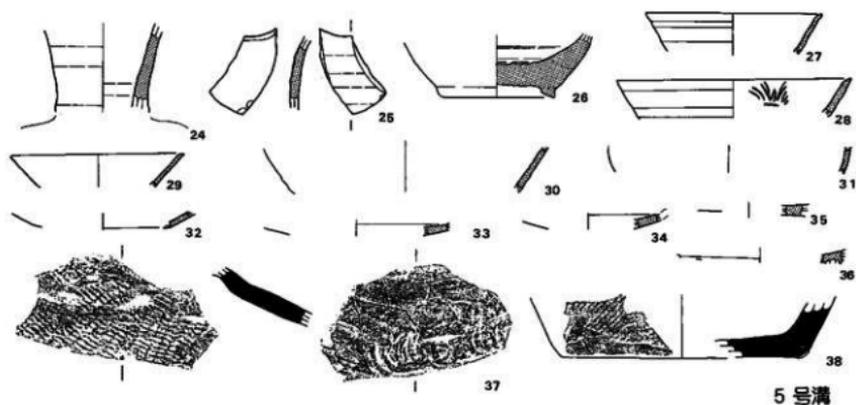
第127图 第4号溝出土遺物(2)

第128图 第4号墓出土器物(3)

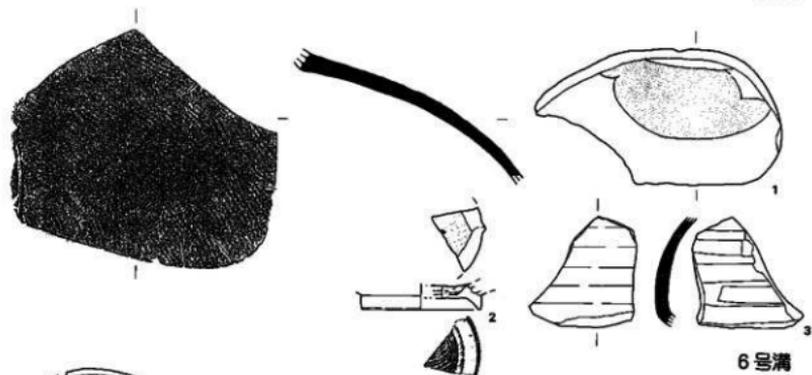




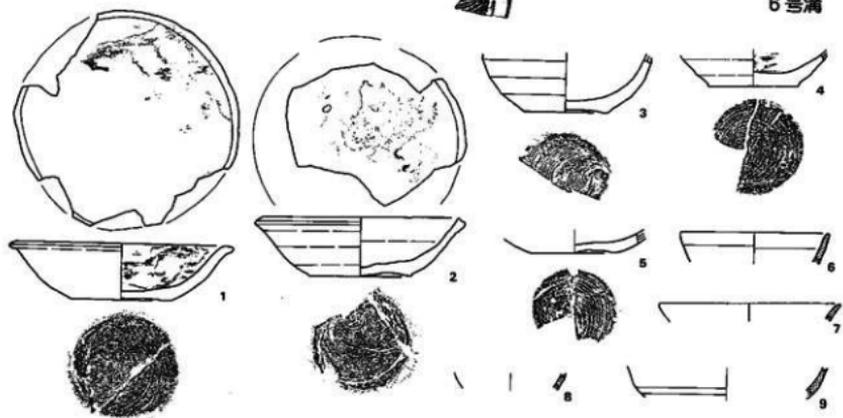
第129圖 第4号溝(4)・第5号溝(1)出土遺物



5号沟

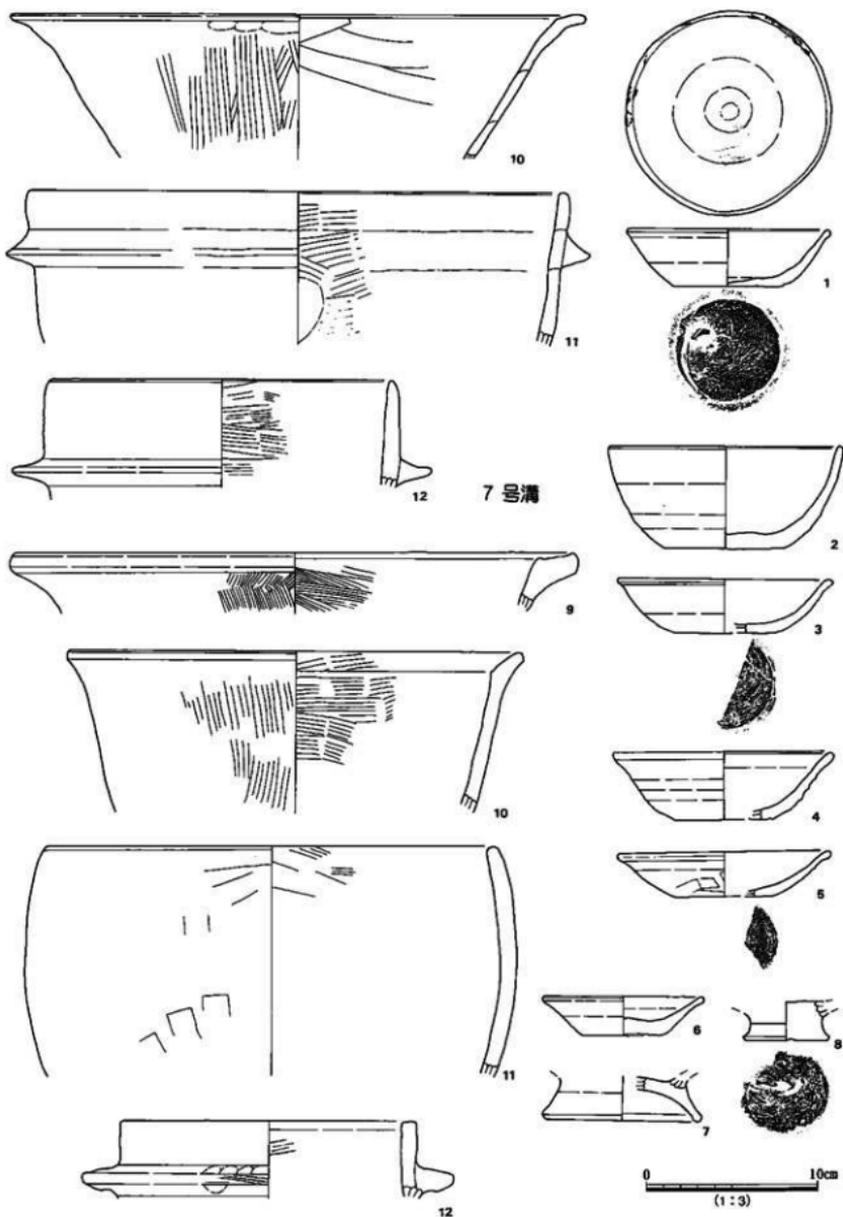


6号沟

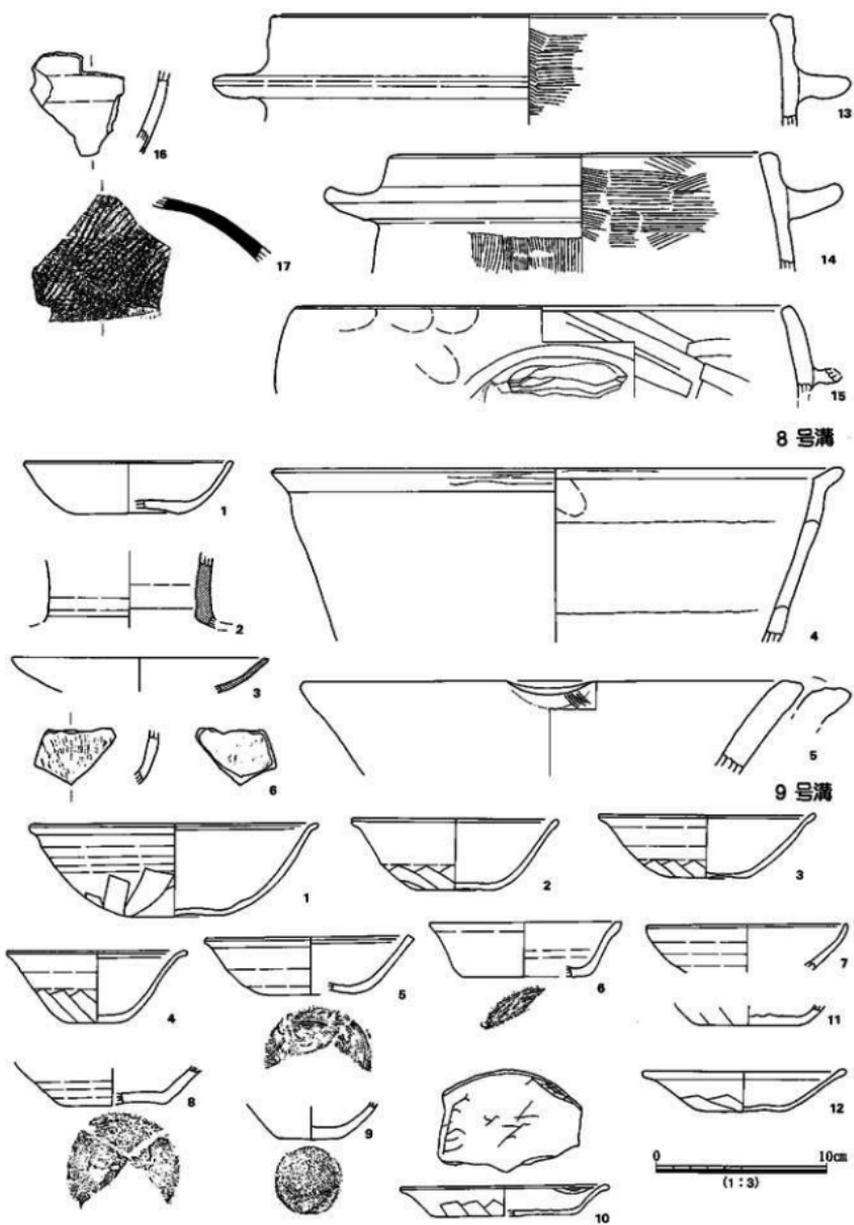


第130图 第5号沟(2)·第6号沟·第7号沟(1)出土遗物

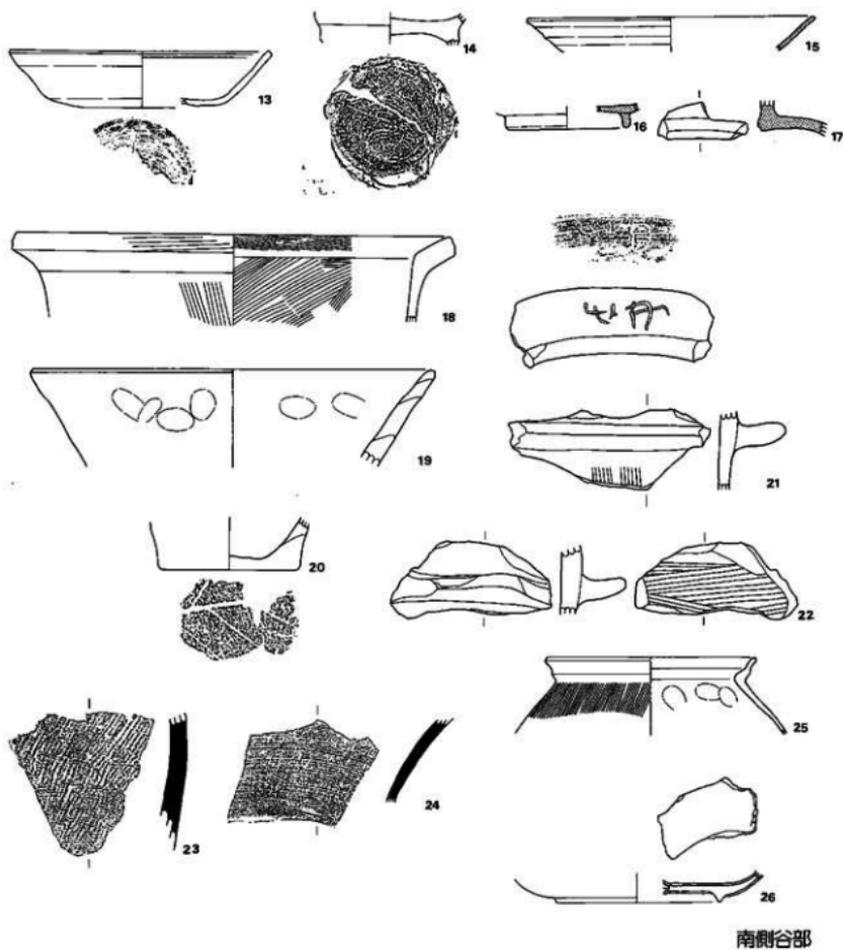
(1:3)



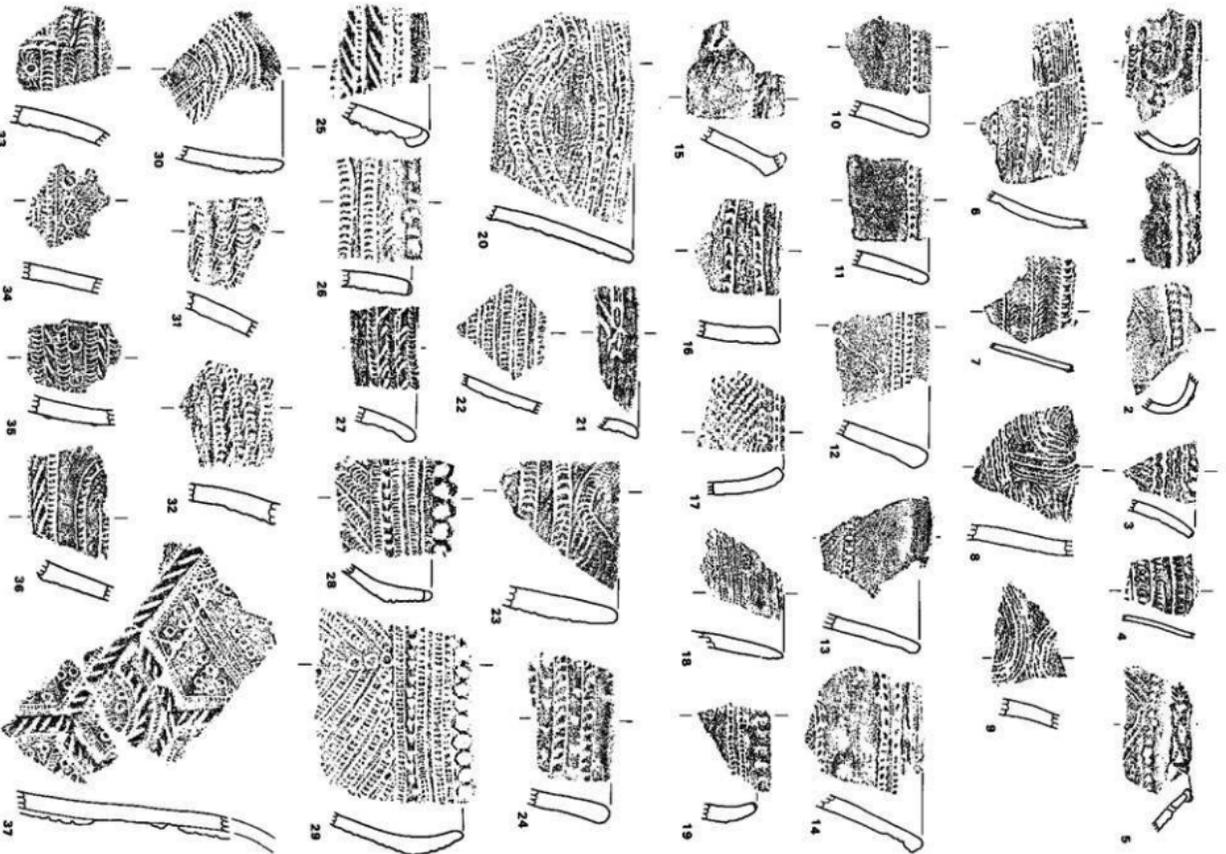
第131图 第7号溝(2)·第8号溝(1)出土遺物



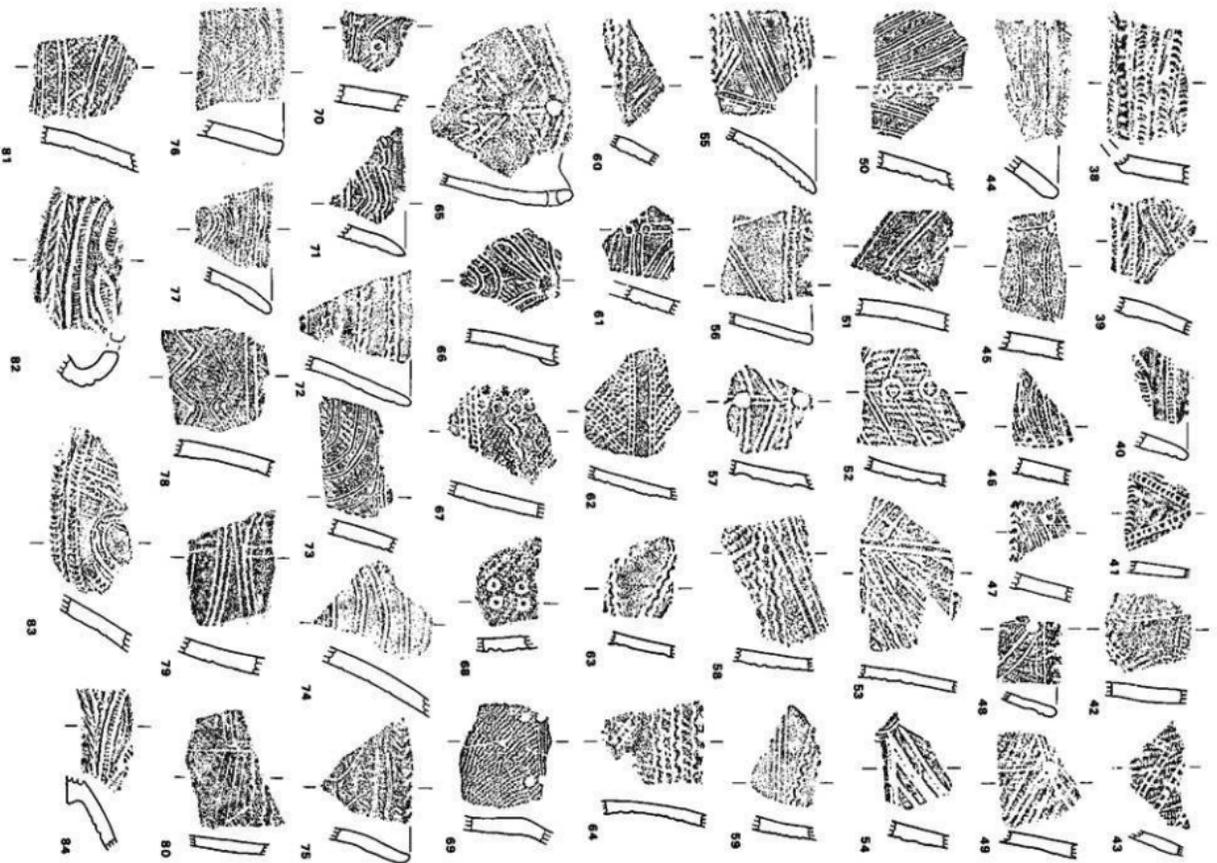
第132图 第8号溝(2)・第9号溝・南側谷部(1)出土遺物



第133圖 南側谷部(2)・第2号墓出土遺物

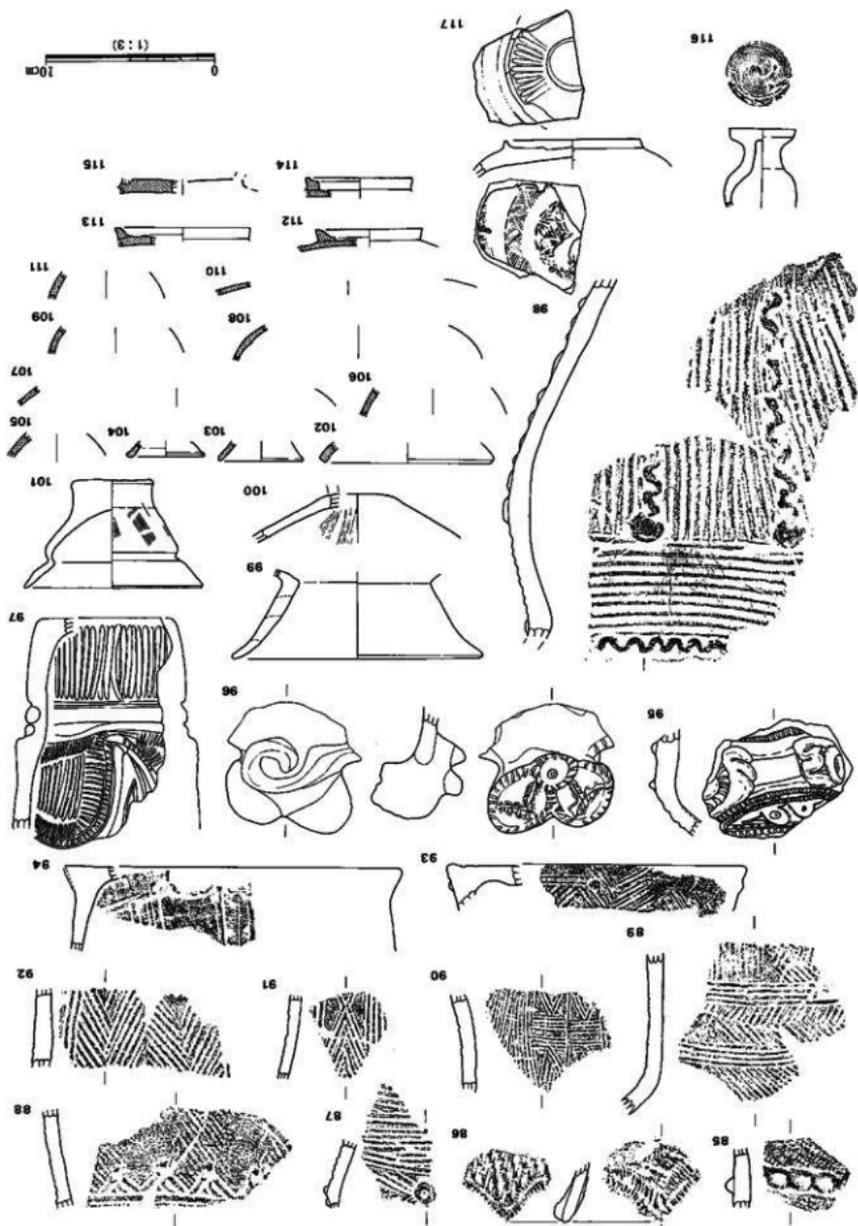


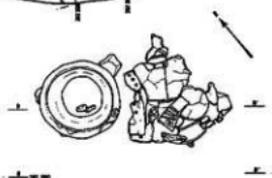
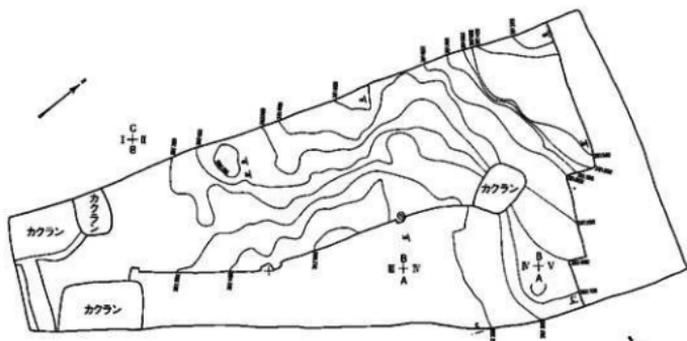
第134圖 遺構外出土遺物(1)



第135圖 遺構外出土遺物(2)

第136圖 通橋外出土遺物(3)





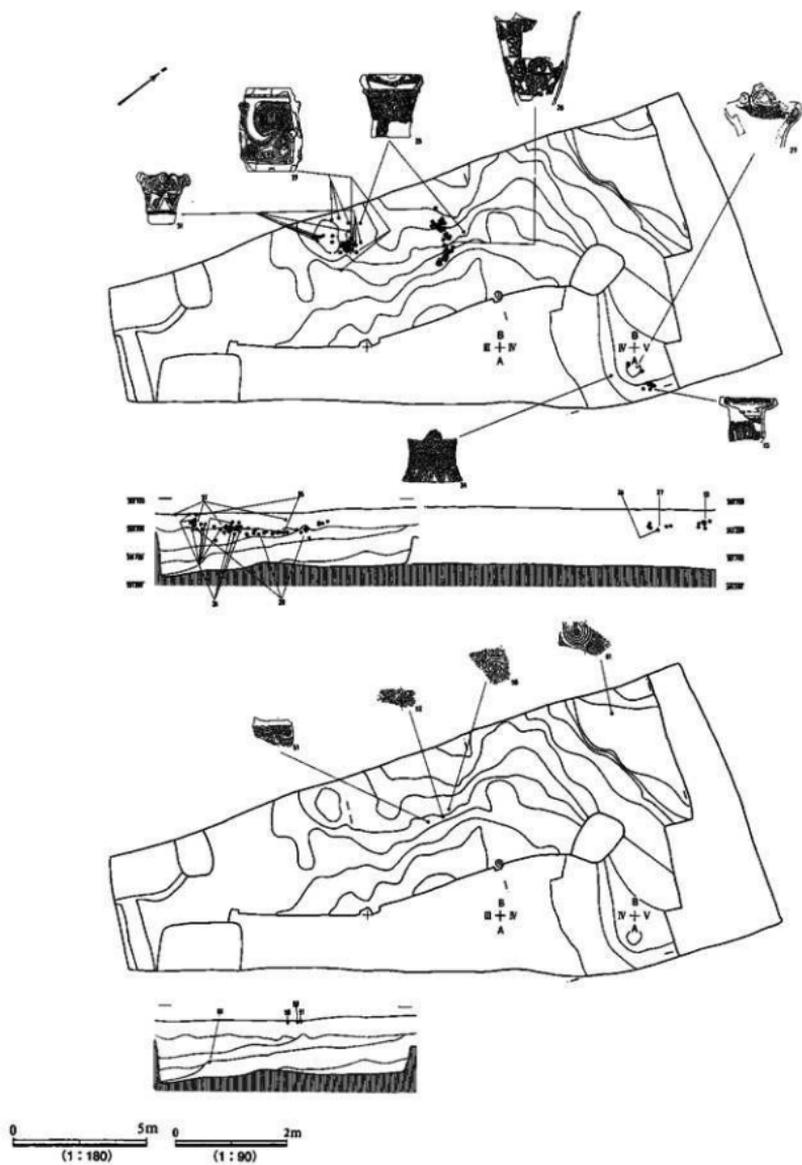
0 50cm  
(1:30)

1. 暗茶褐色土 かくよくしまっており、縄文・古墳時代の遺物、拳大の礫を含む。しまりはややゆるい。主に縄文時代中期の遺物を含む。炭化物を含む。
2. 黒褐色土 よくしまっており、硬である。砂質の暗茶褐色土をブロック状に含む。
3. 茶黒褐色土 また5mm程度の白色粒子を多量に含む。炭物を多量に含む。
4. 暗黒褐色土 しまりはある。遺物を多量に含む。炭化物・焼土粒子を含む。
5. 暗黒茶褐色土 かくよくしまっている。金色塚田・遺物を多量に含む。焼土粒子・炭化物を若干含む。
6. 暗黄茶褐色砂質土 地山と上層との混在する層である。
7. 黄茶褐色砂質土 地山層

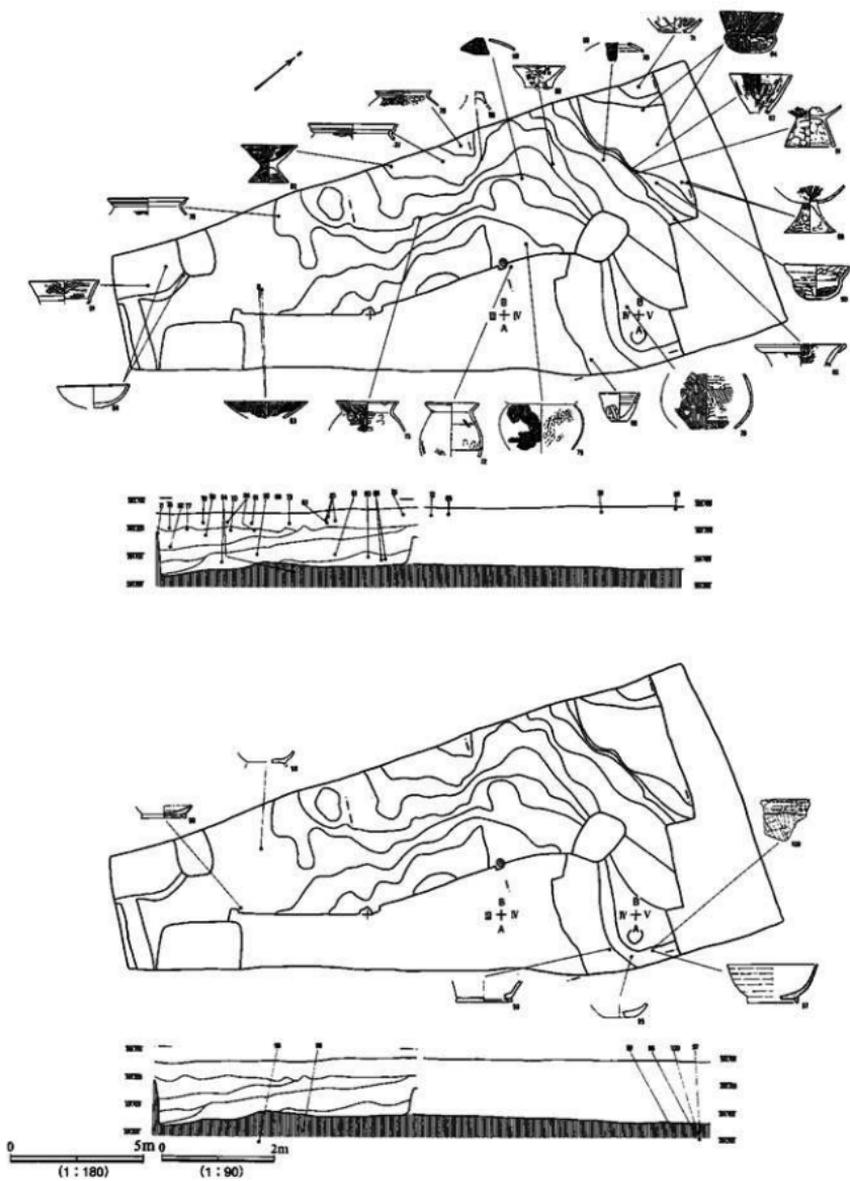


0 5m 0 2m  
(1:100) (1:90)

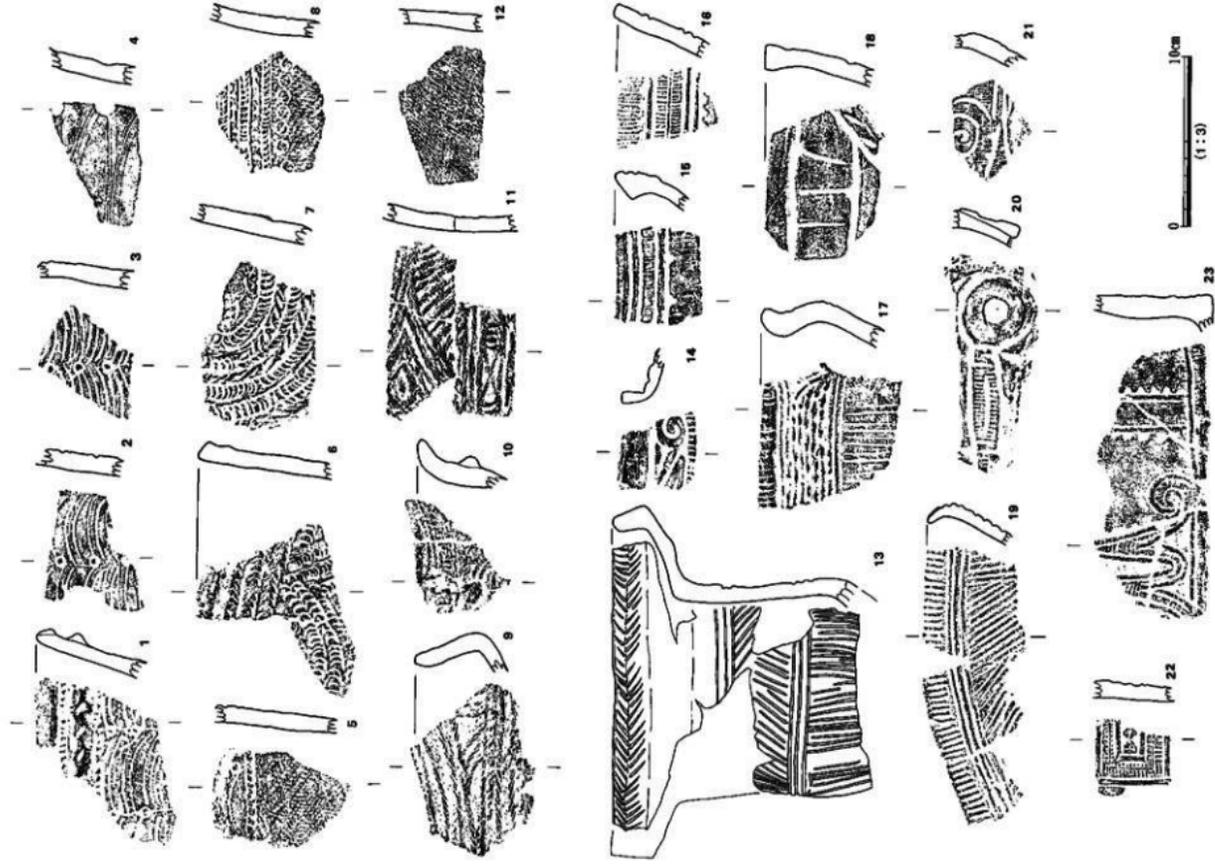
第137図 99年度北側谷部及び遺物分布図(1)



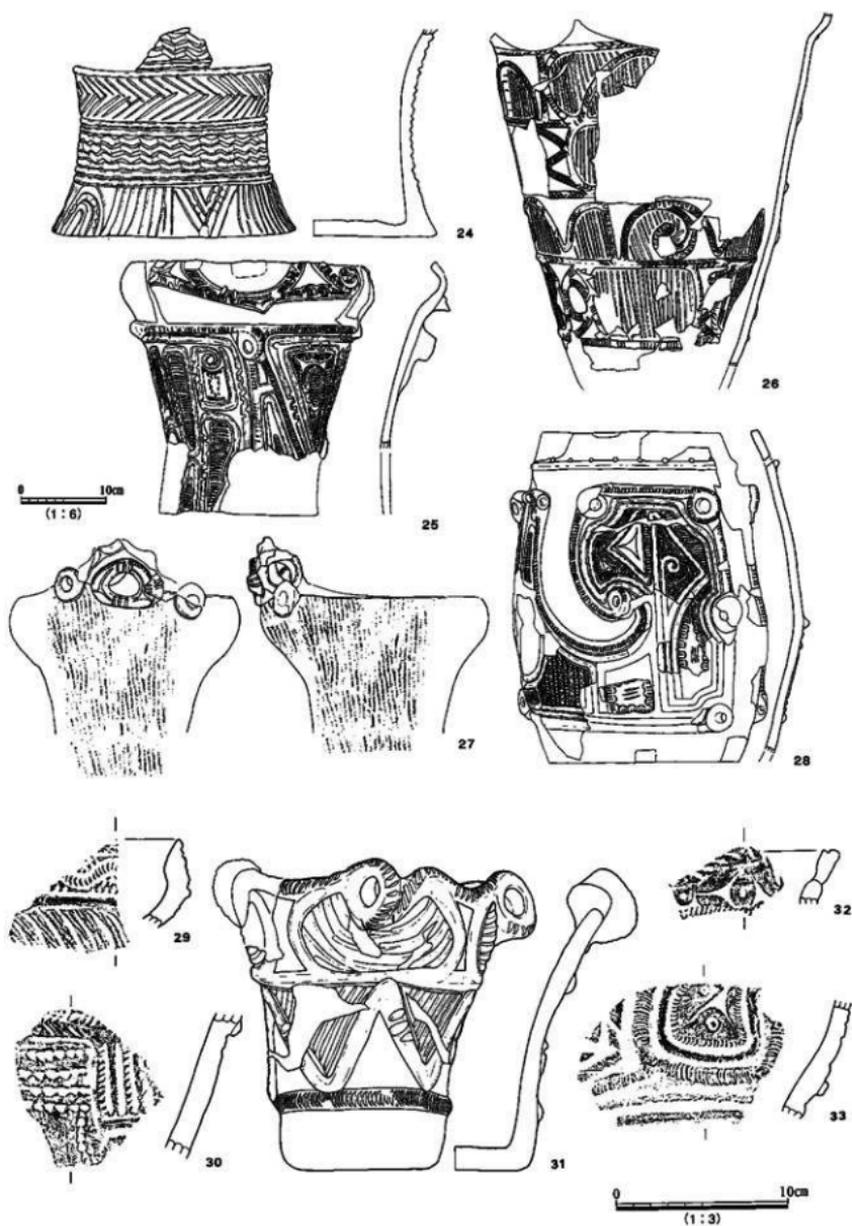
第138圖 99年度北側谷部遺物分布圖(2)



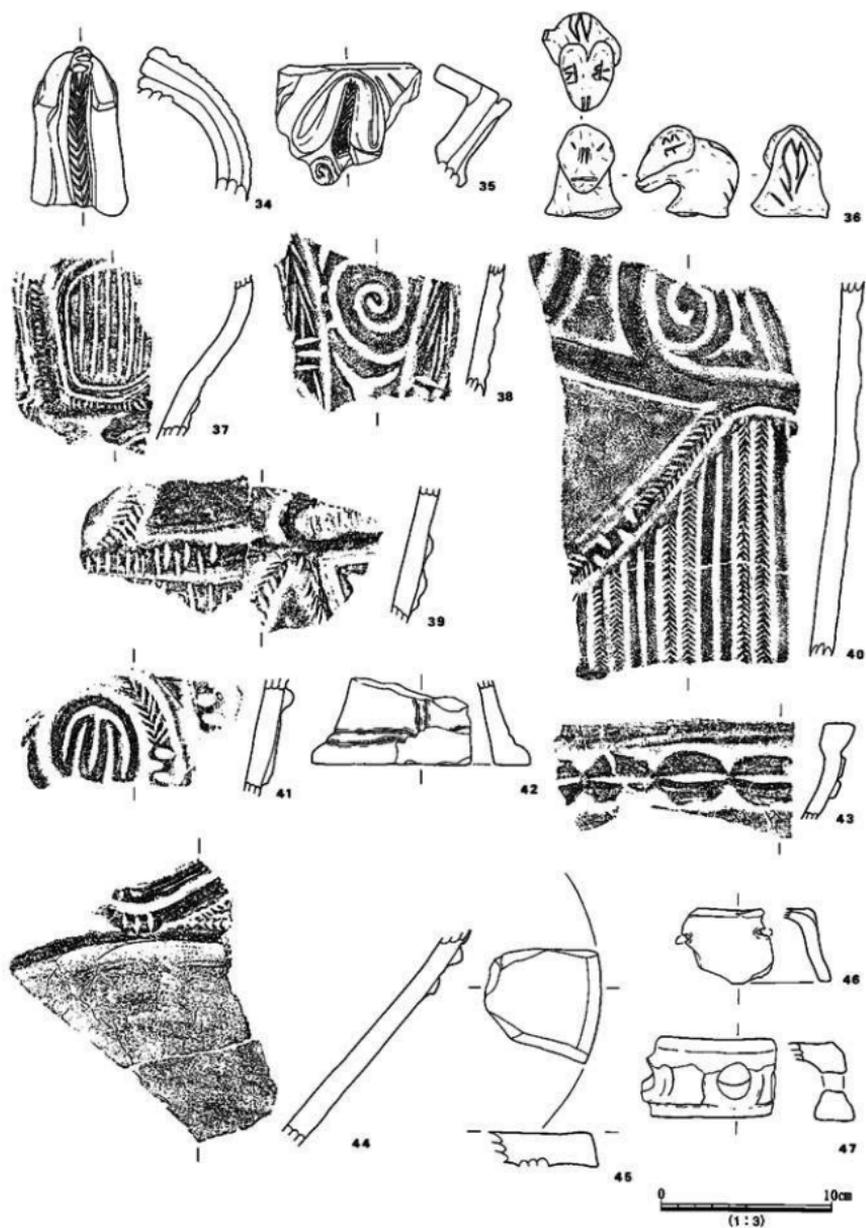
第139图 99年度北側谷部遺物分布图(3)



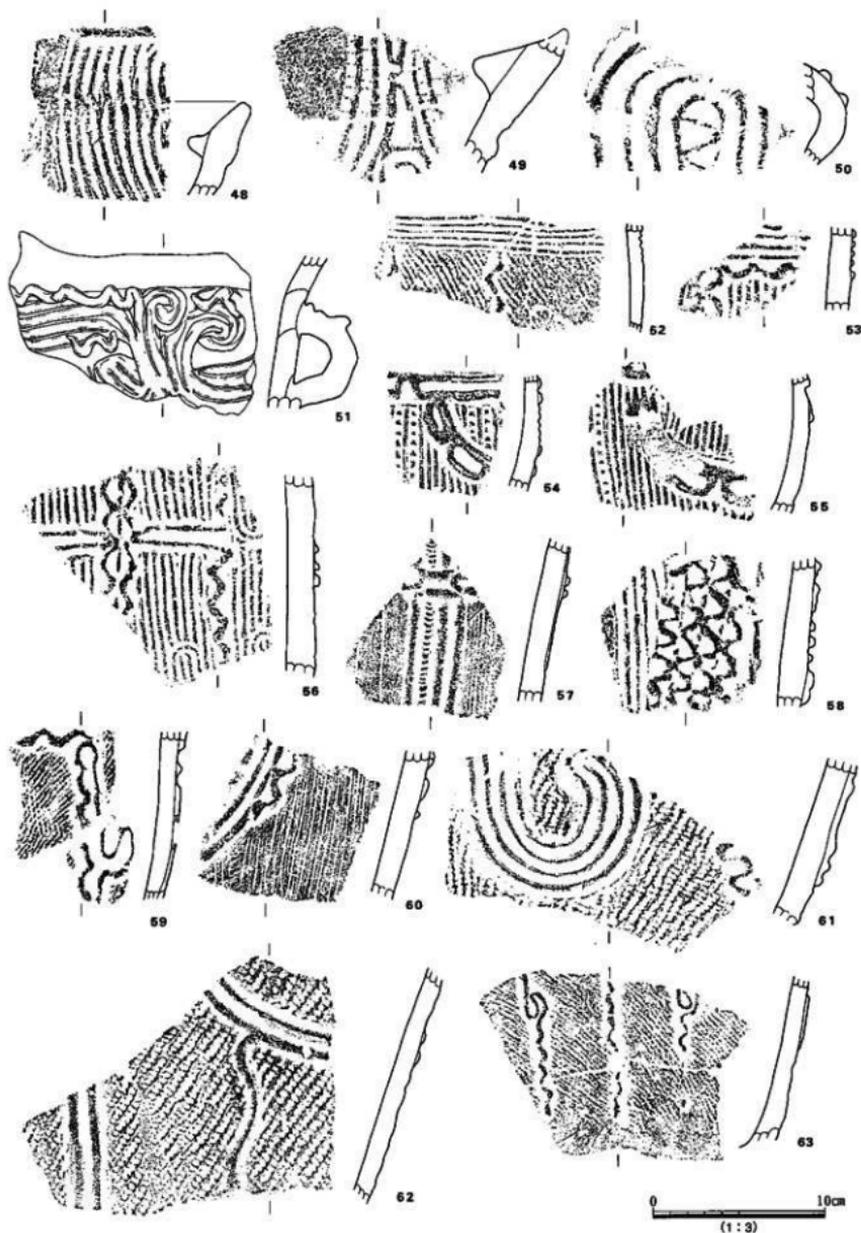
第140圖 北側谷部出土遺物(1)



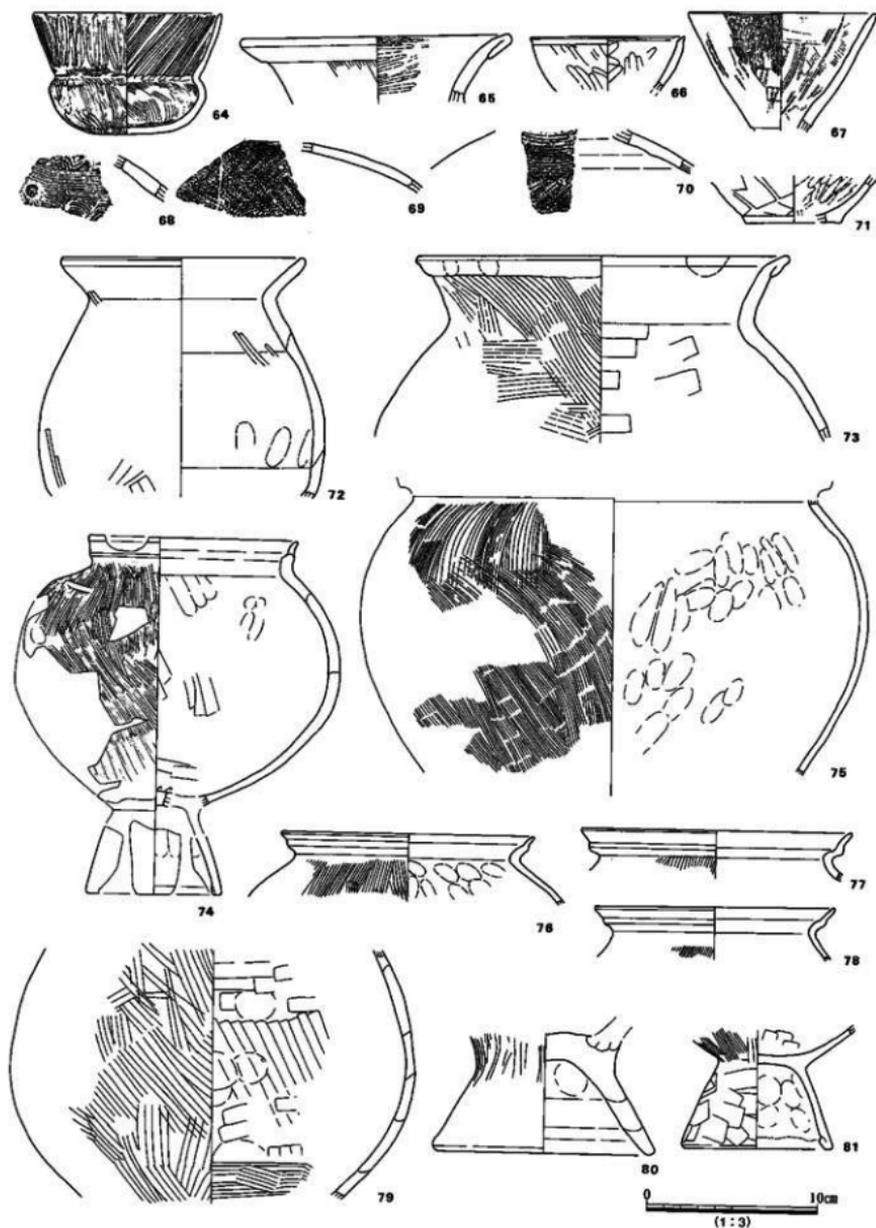
第141圖 北側谷部出土遺物(2)



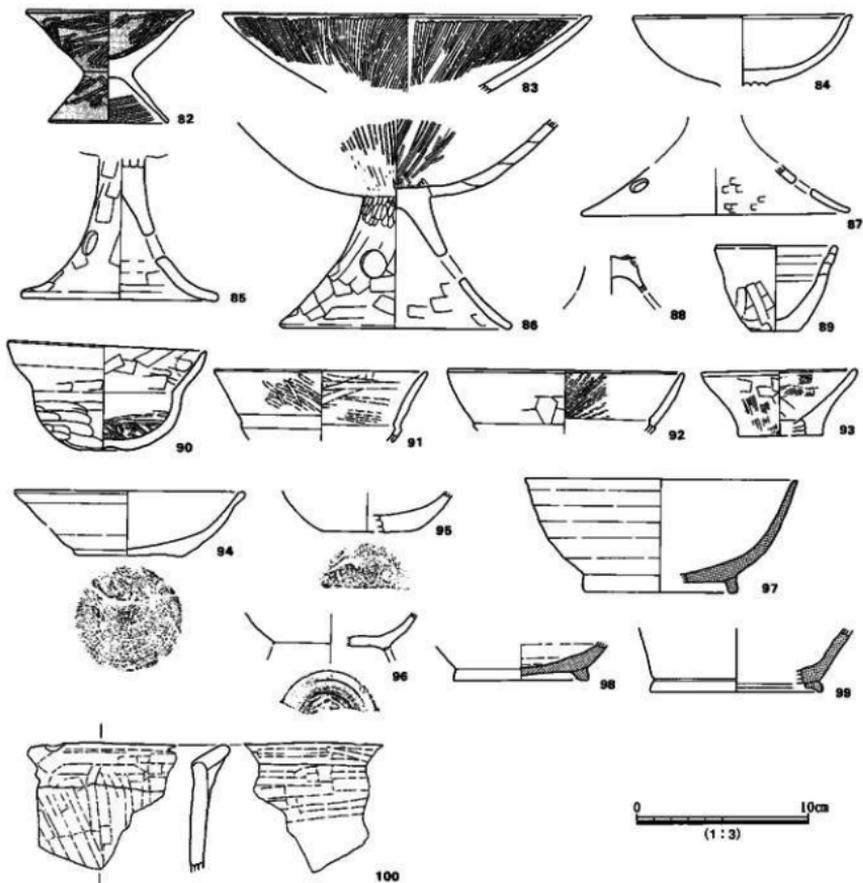
第142圖 北側谷部出土遺物(3)



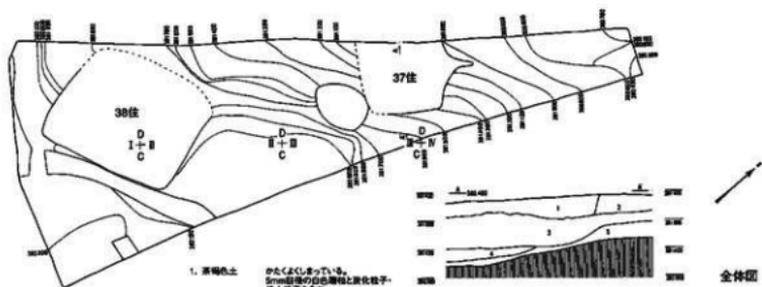
第143図 北側谷部出土遺物(4)



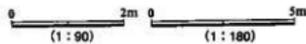
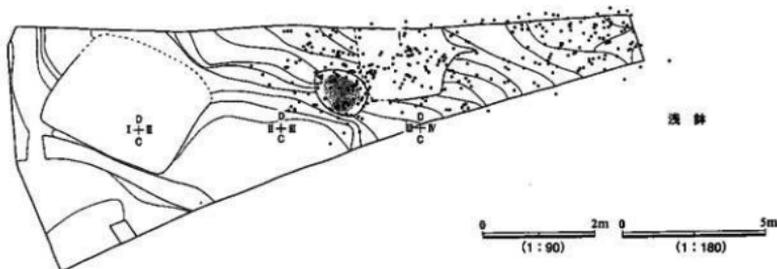
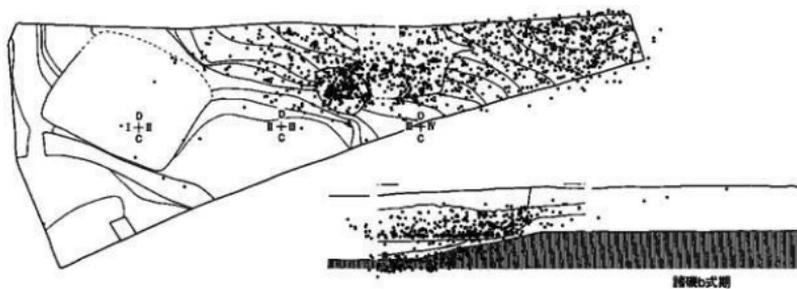
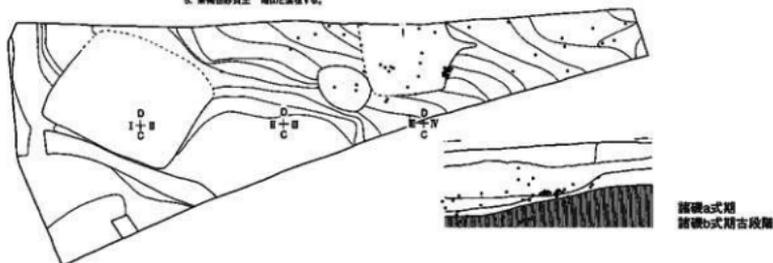
第144圖 北側谷部出土遺物(5)



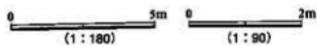
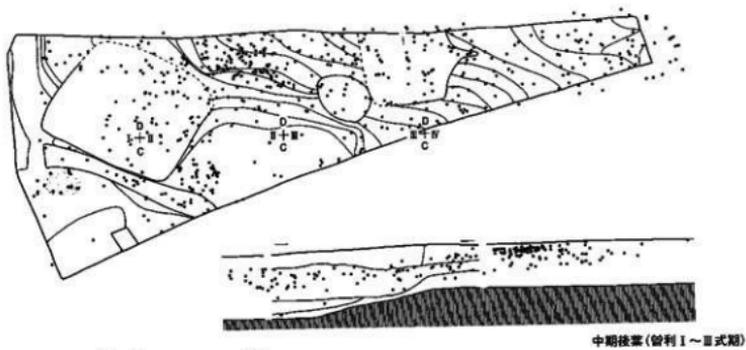
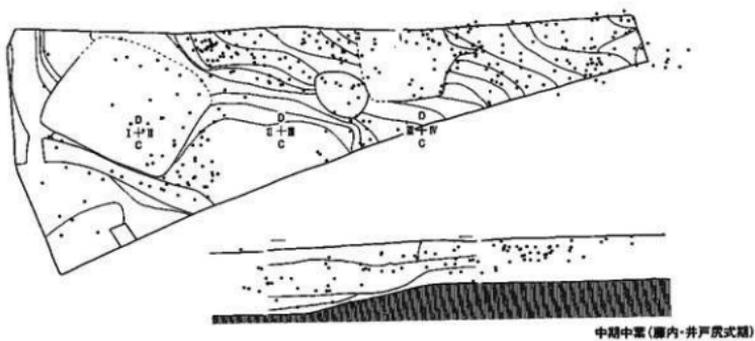
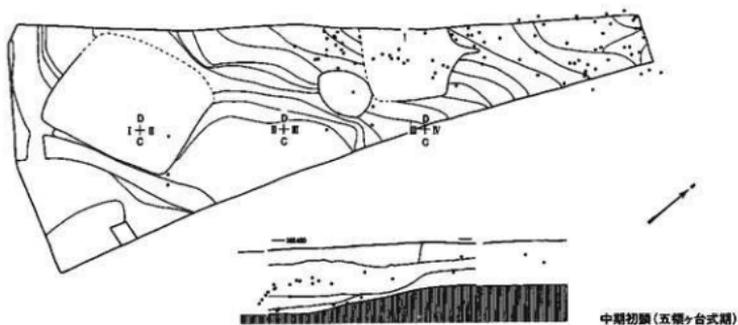
第145図 北側谷部出土遺物(6)



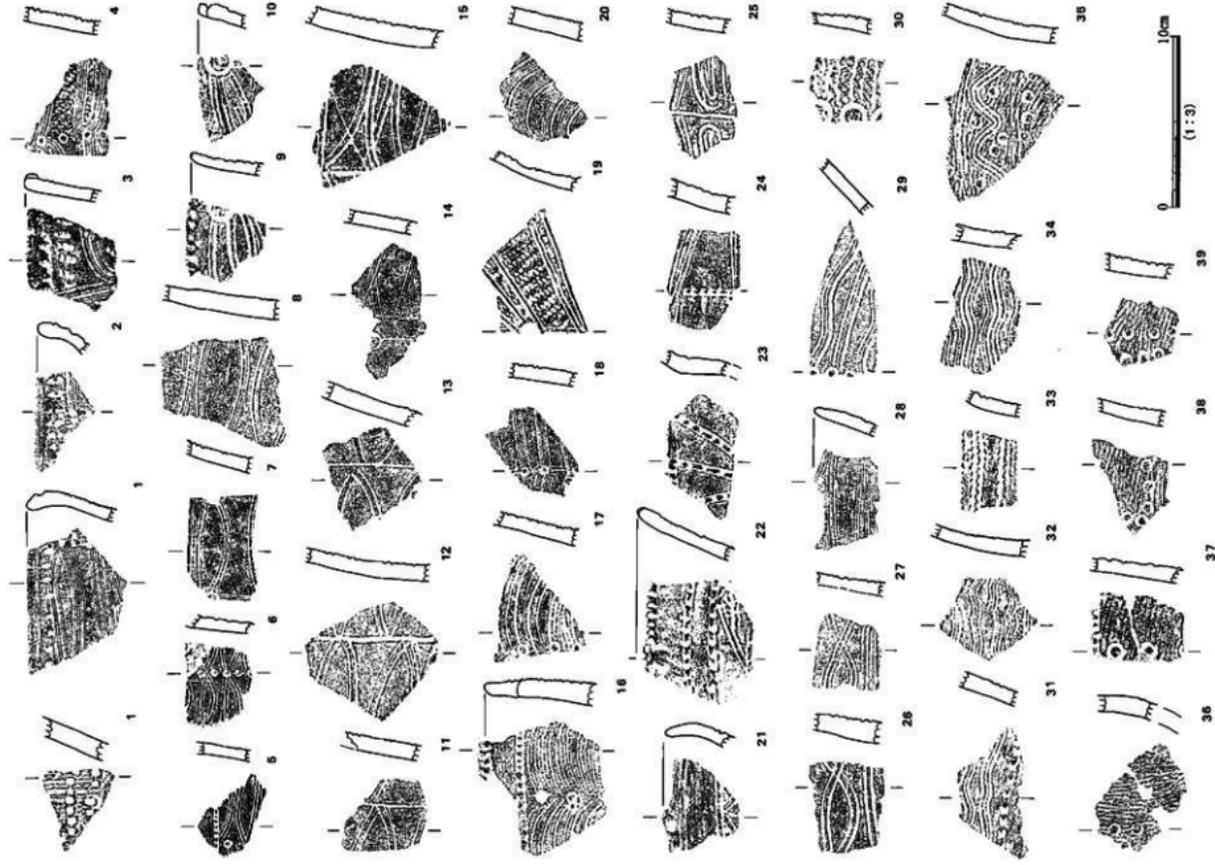
1. 黒褐色土  
が広く分布している。  
5m前後の白色層は土壌化粒子-  
炭土粒子を含む。  
27号は埋没の遺構である。
2. 黒褐色土  
が広く分布している。5m前後の白色層を多量に含む。平安時代の遺物を含む。
3. 黒褐色土  
が広く分布している。5m前後の白色層を多量に含む。
4. 黒褐色土  
が広く分布している。5m前後の白色層を多量に含む。
5. 黒褐色土  
が広く分布している。



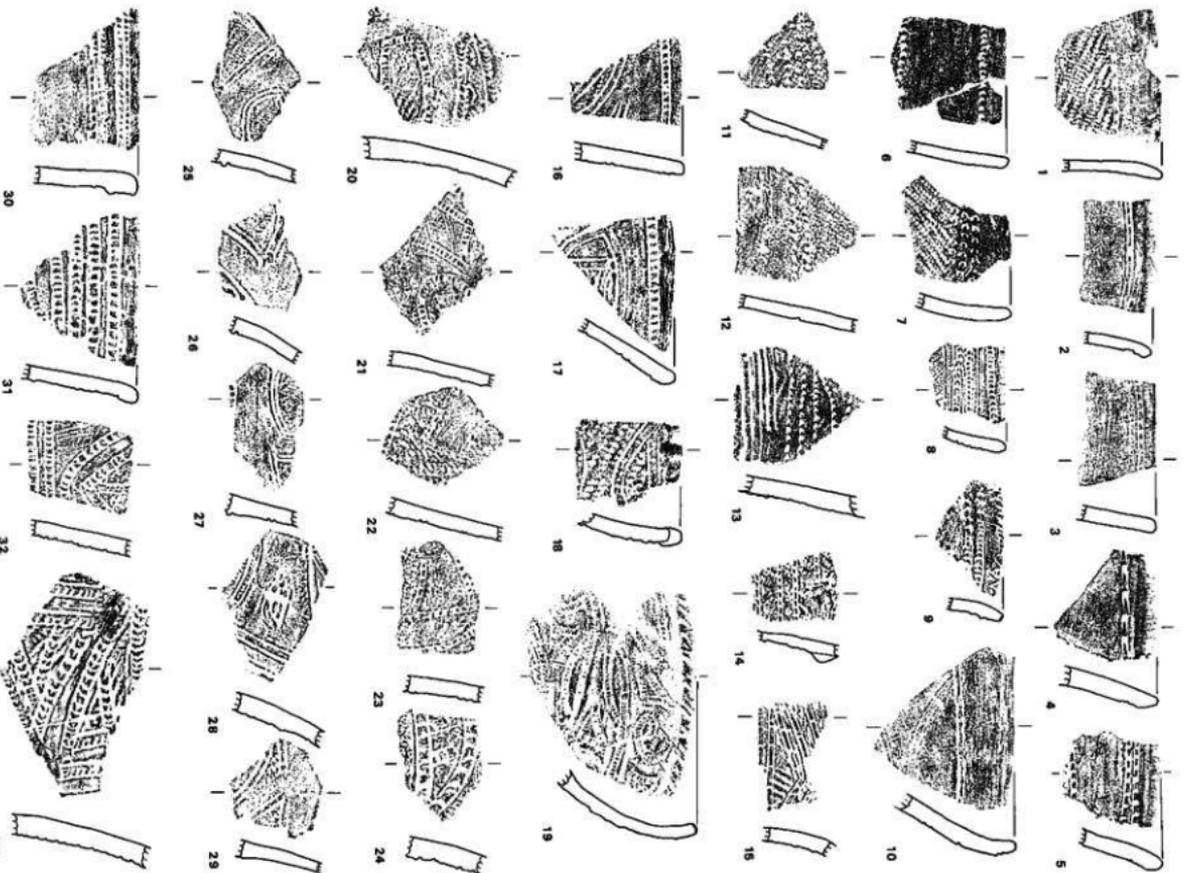
第146図 02年度北側谷部及び遺物分布図(1)



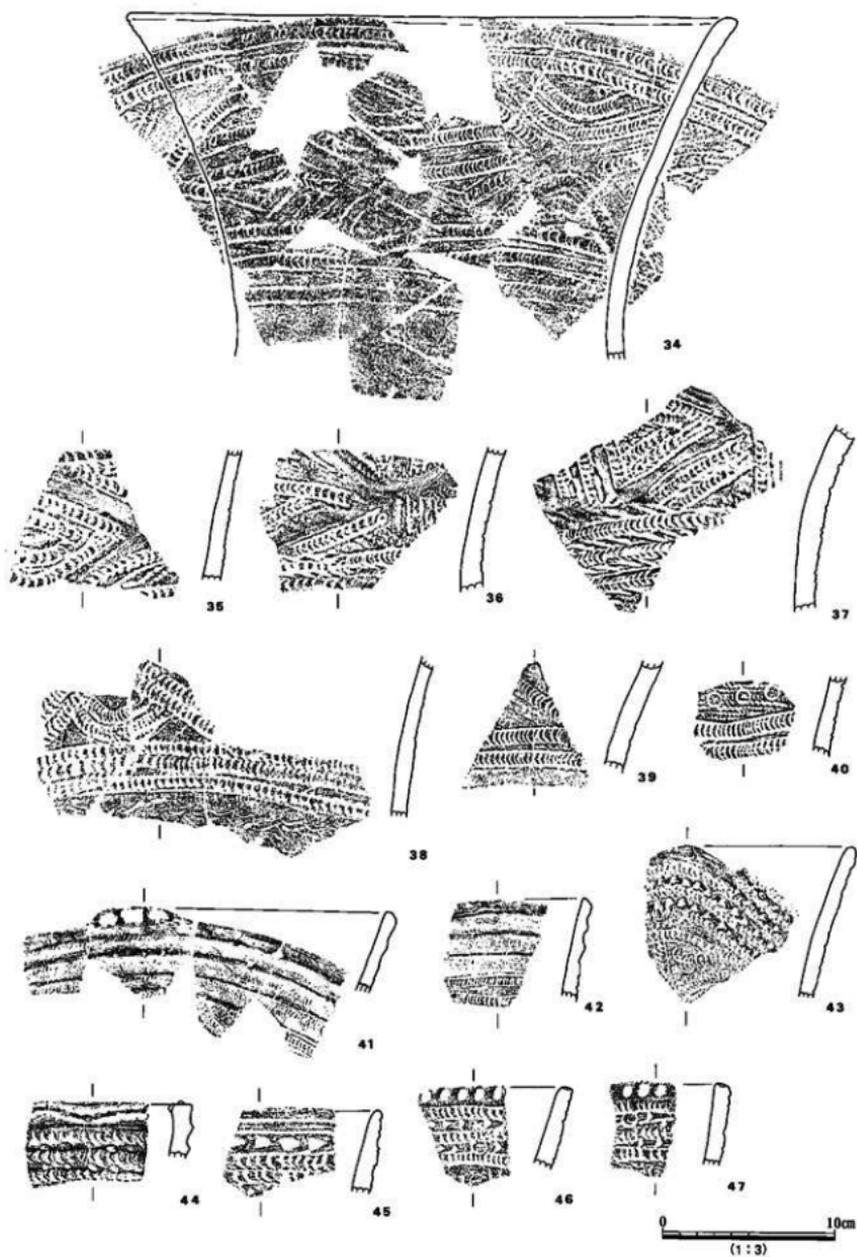
第147図 02年度北側谷部及び遺物分布図(2)



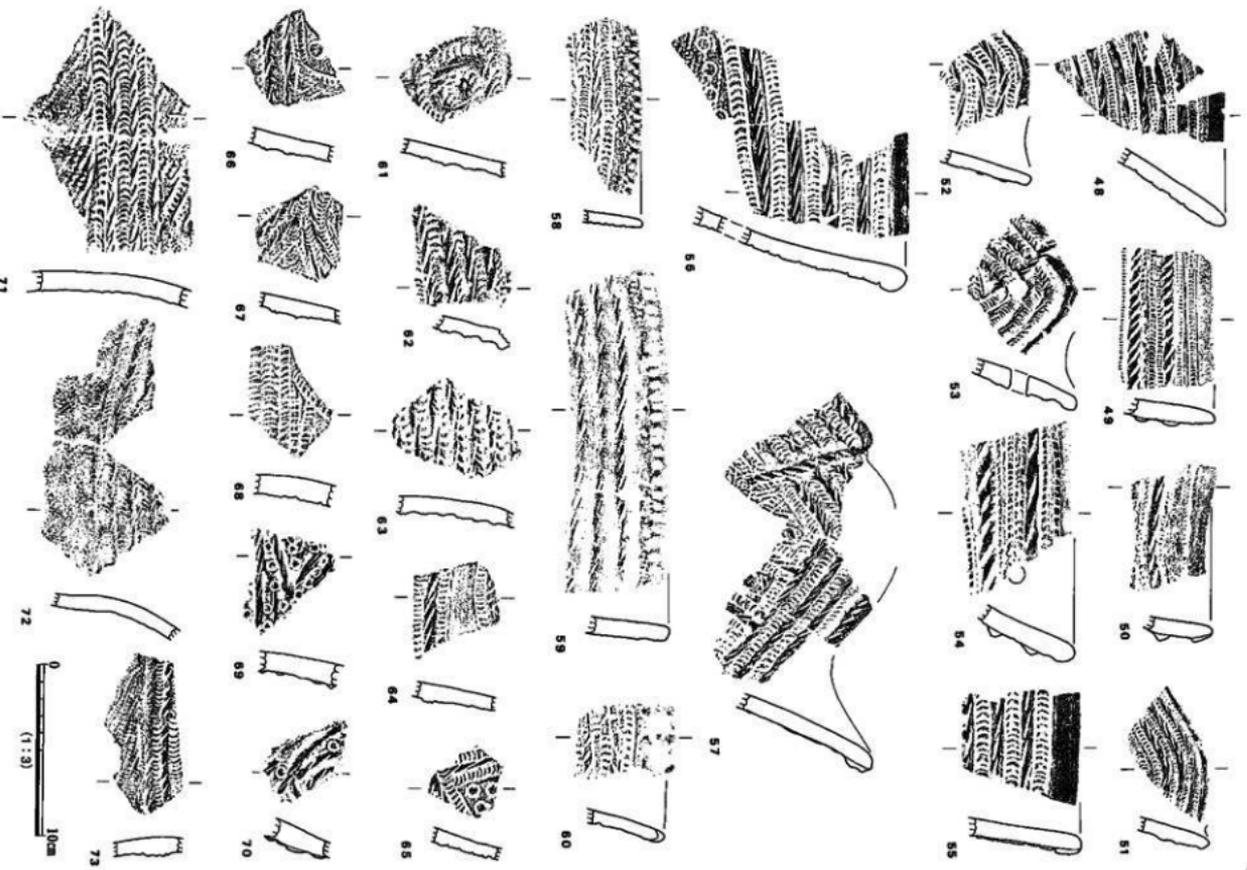
第148図 北側谷部出土遺物(7)



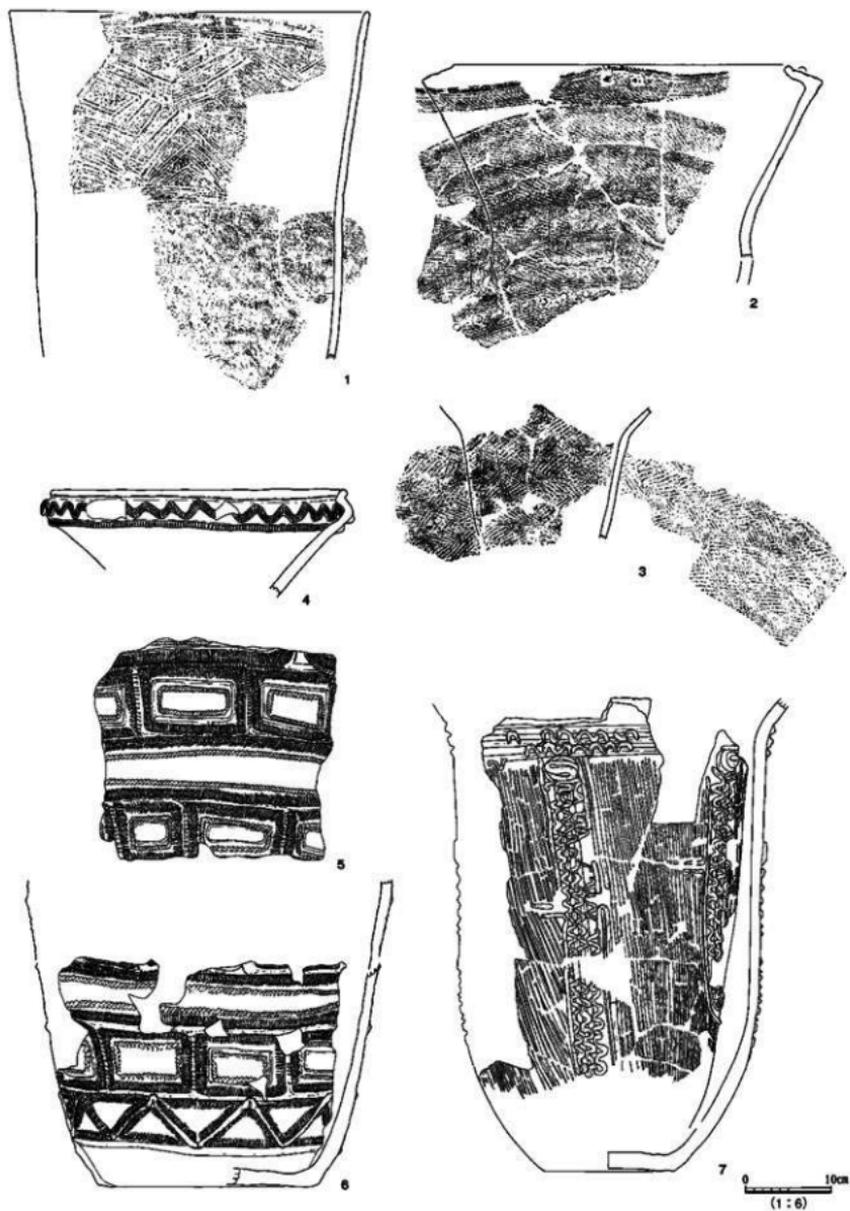
第149圖 北備谷部出土遺物(8)



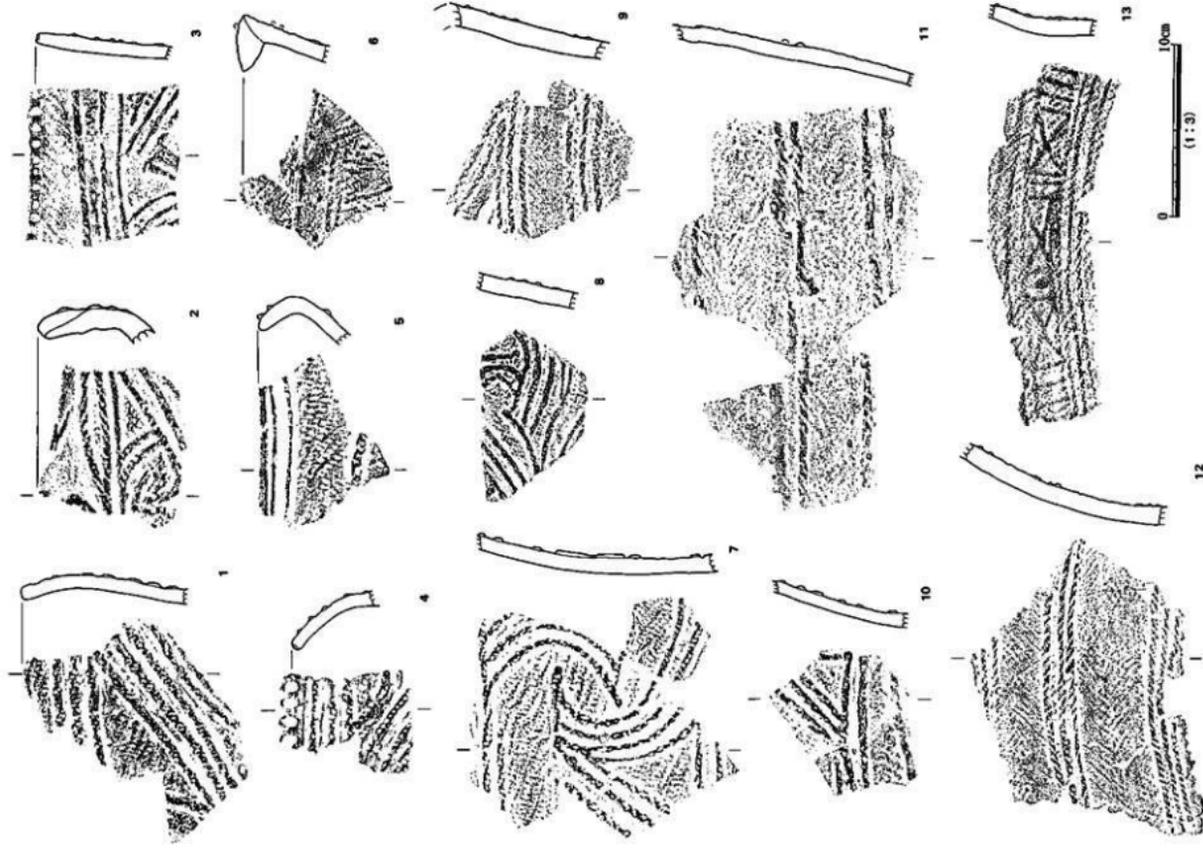
第150圖 北側谷部出土遺物(9)



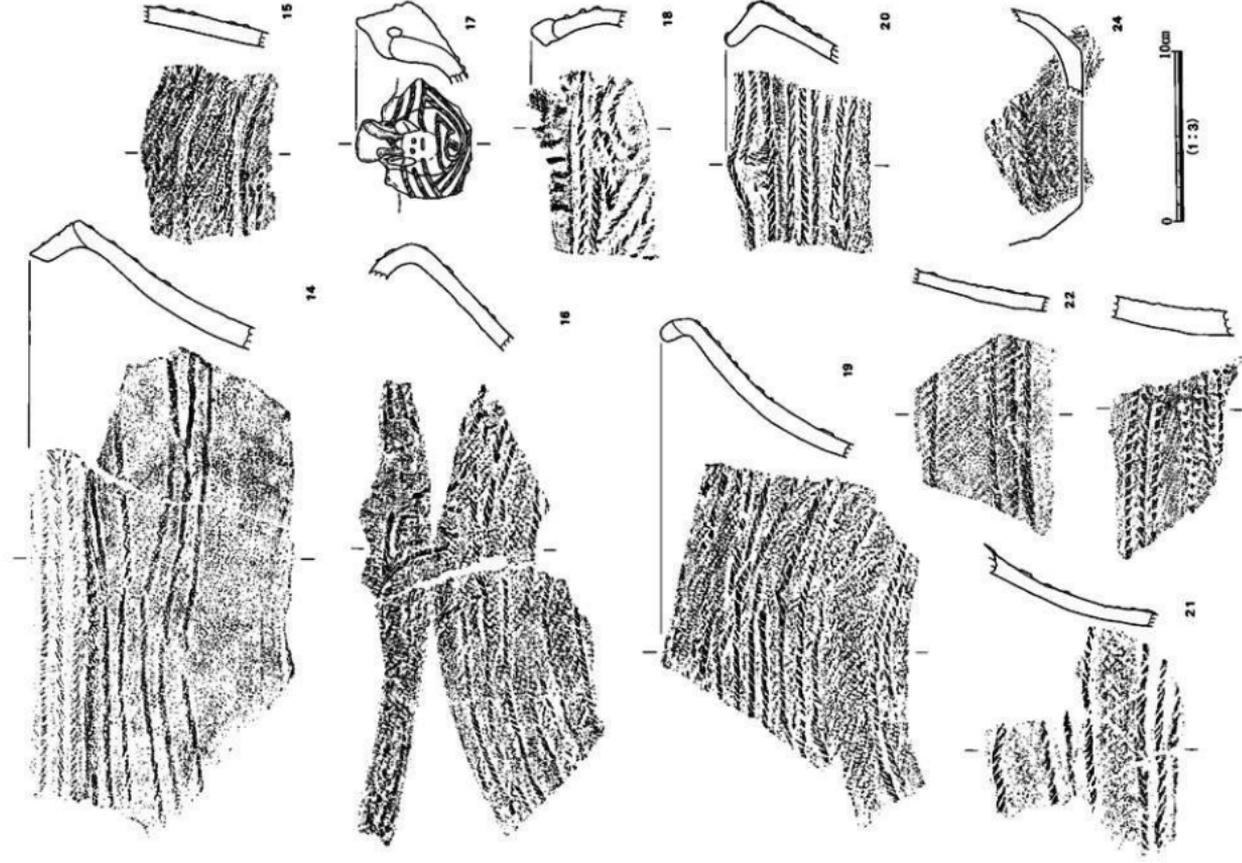
第151圖 北側谷部出土遺物(10)



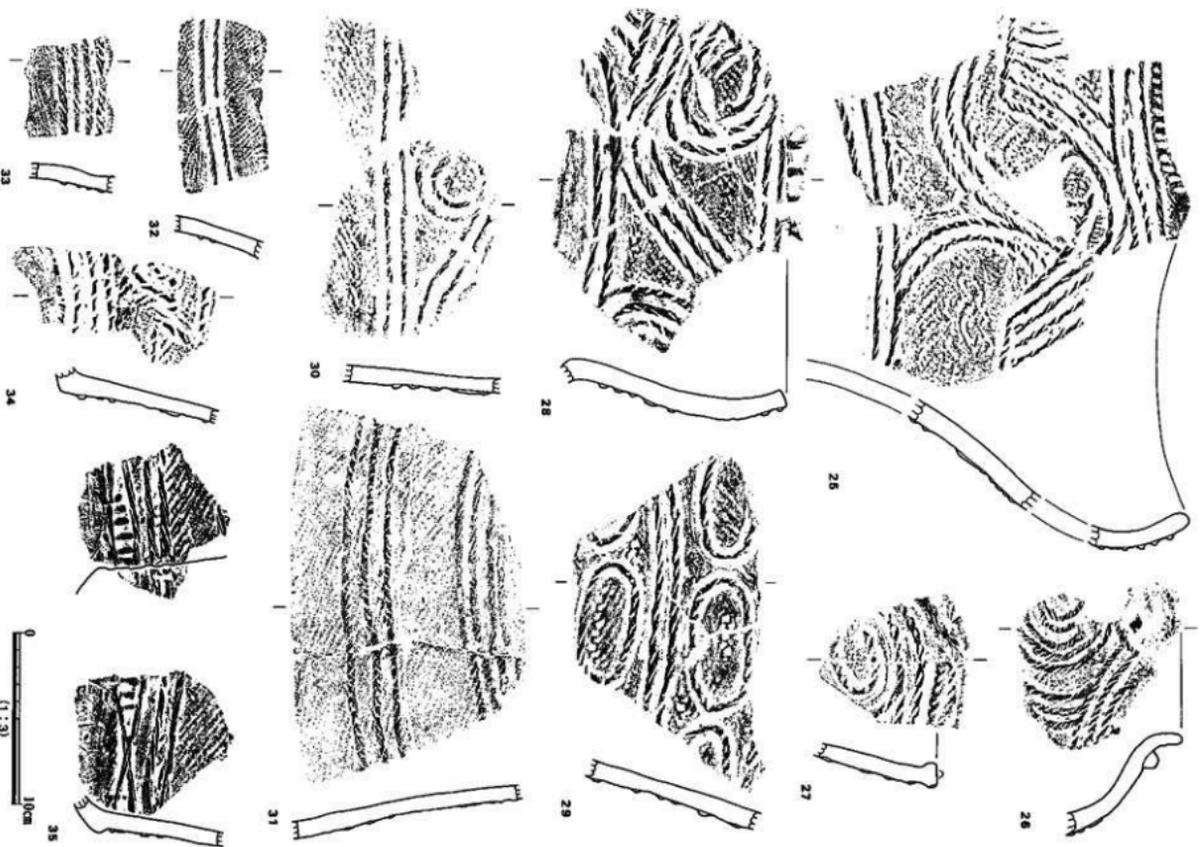
第152図 北側谷部出土遺物(11)



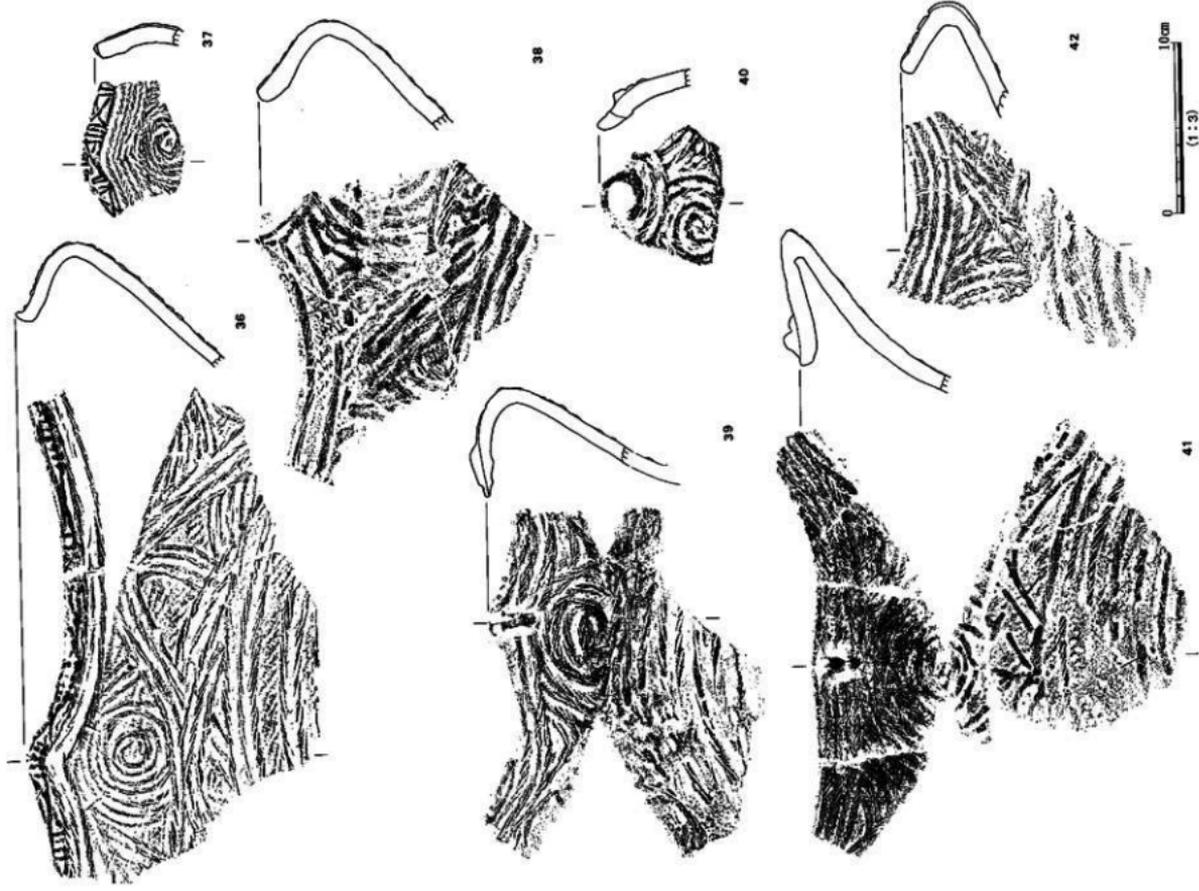
第153圖 北條谷部出土遺物(12)



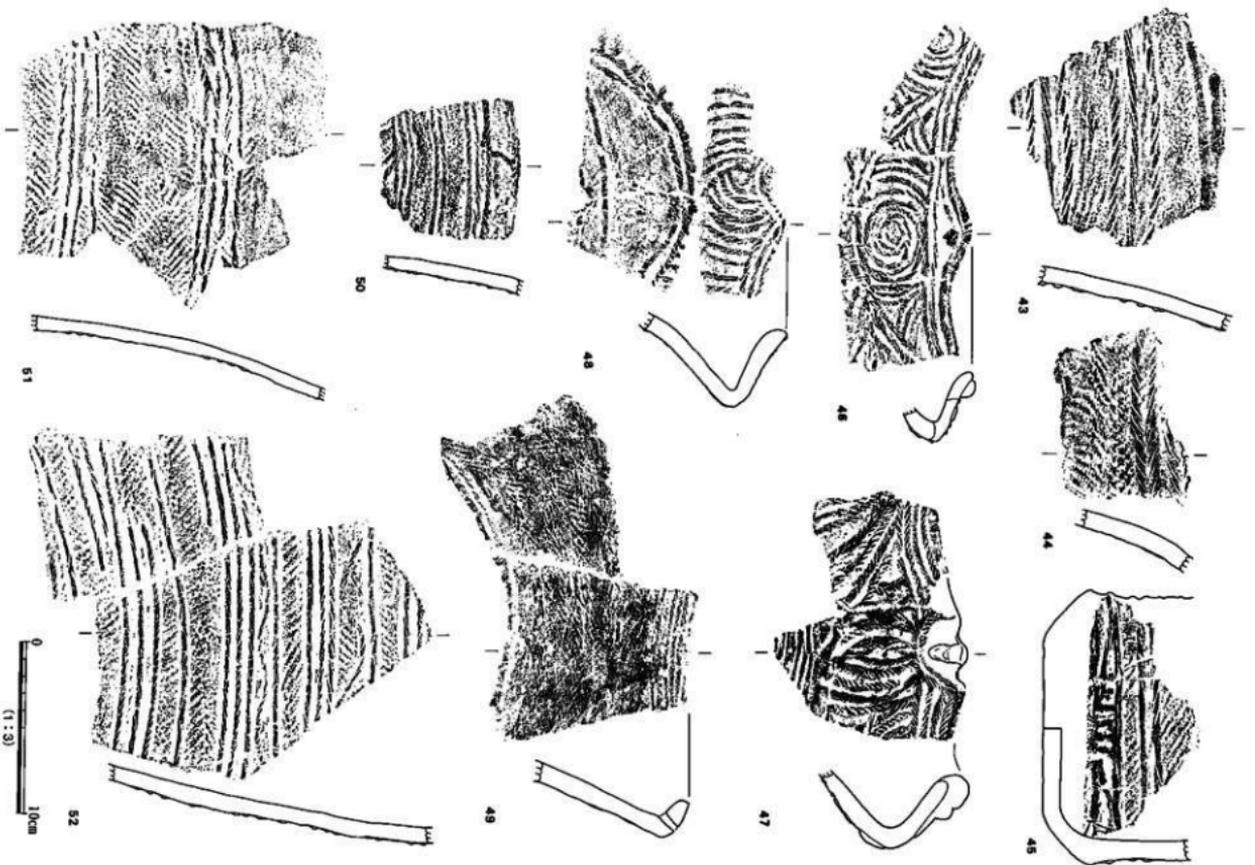
第154図 北條谷部出土遺物(13)



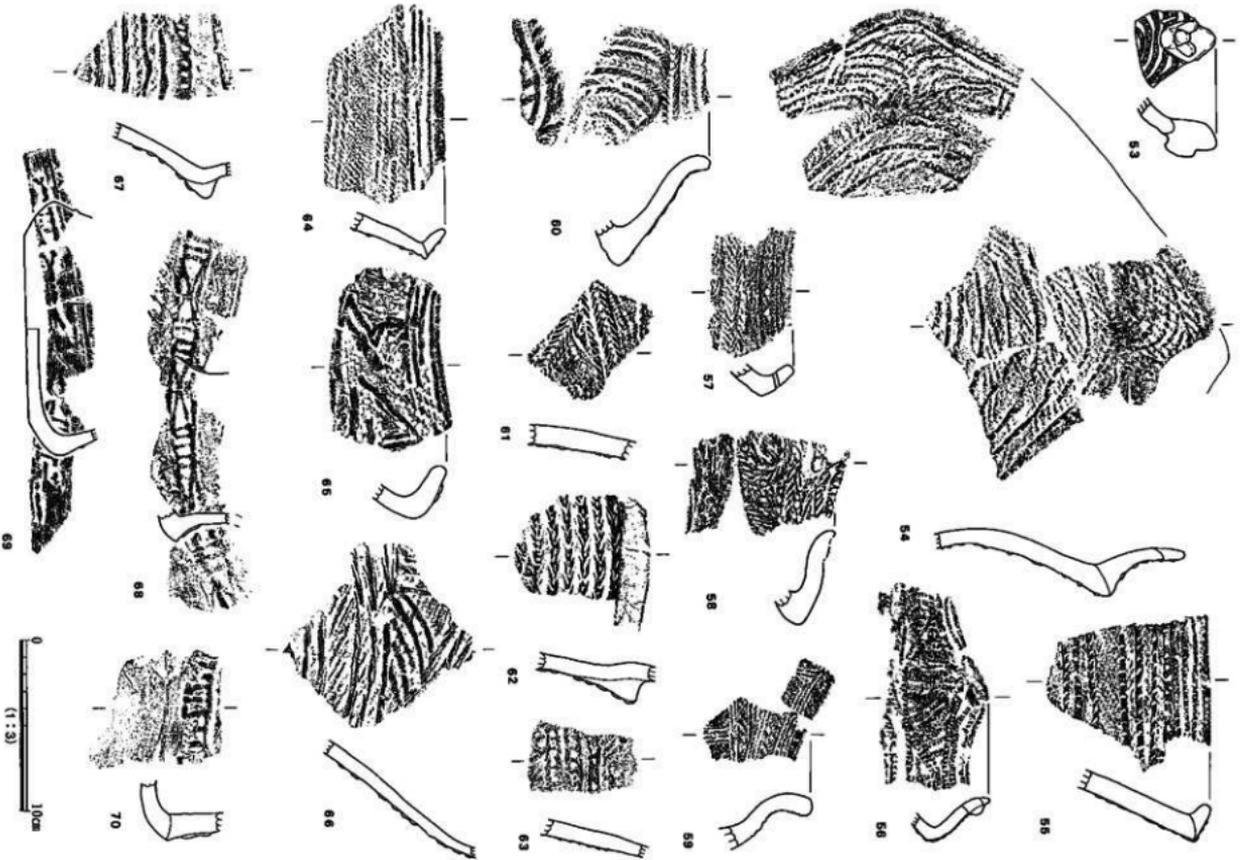
第155图 北朝各郡出土织物(14)



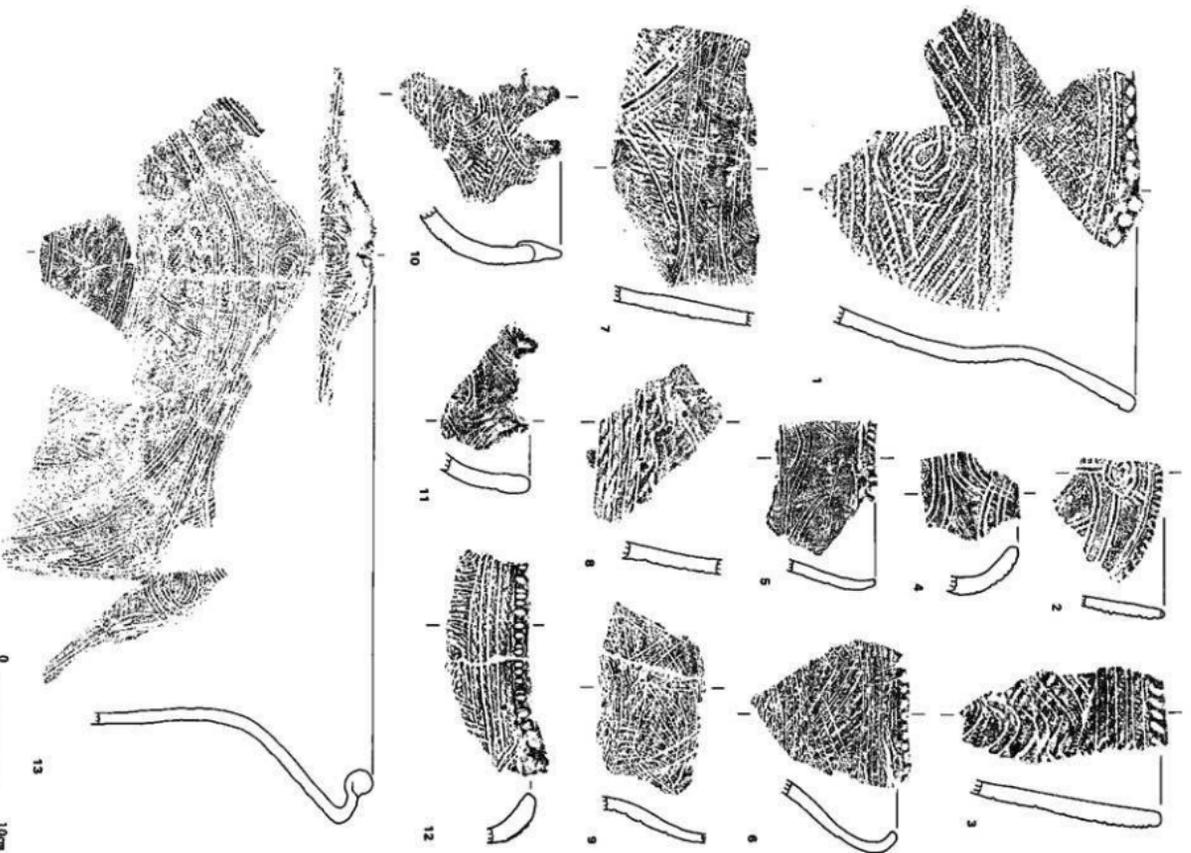
第156圖 北側谷部出土遺物(15)



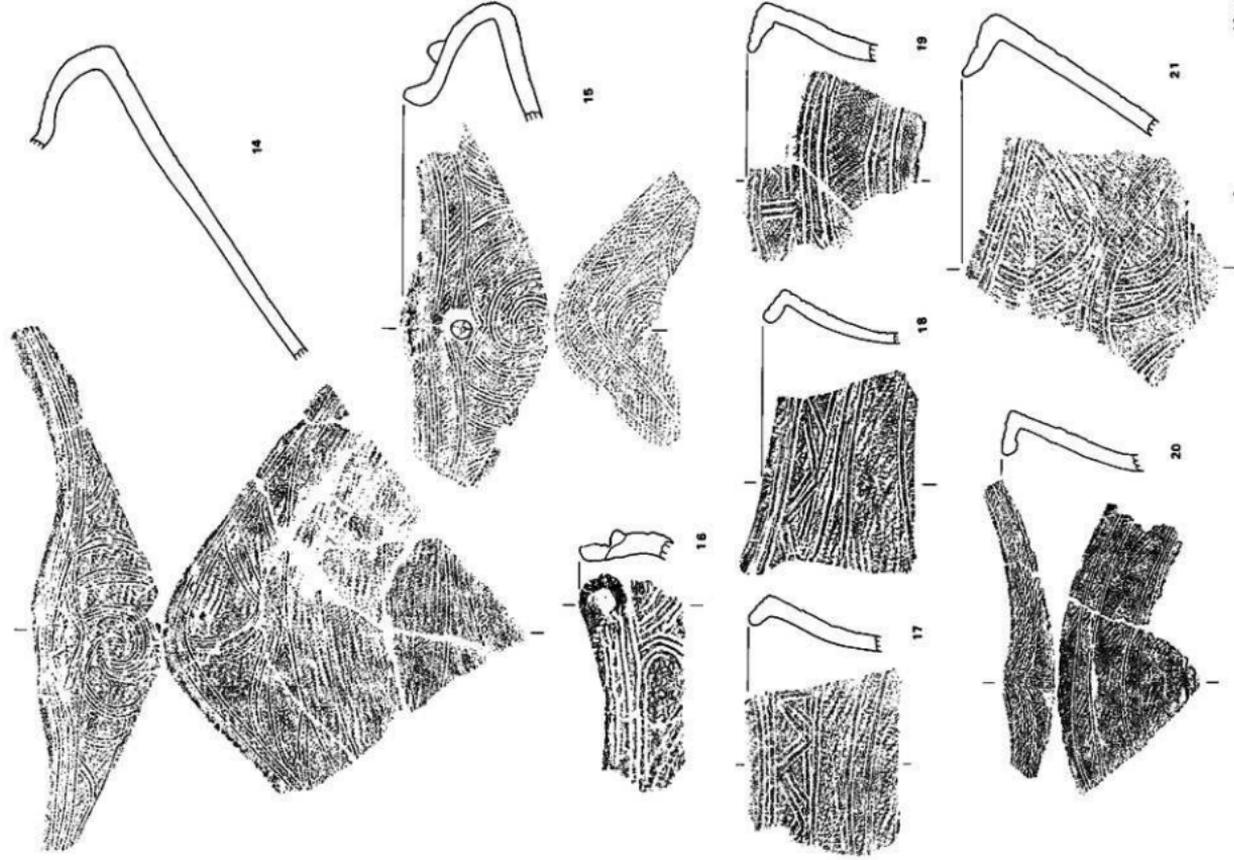
第157图 北横谷部出土遺物(16)



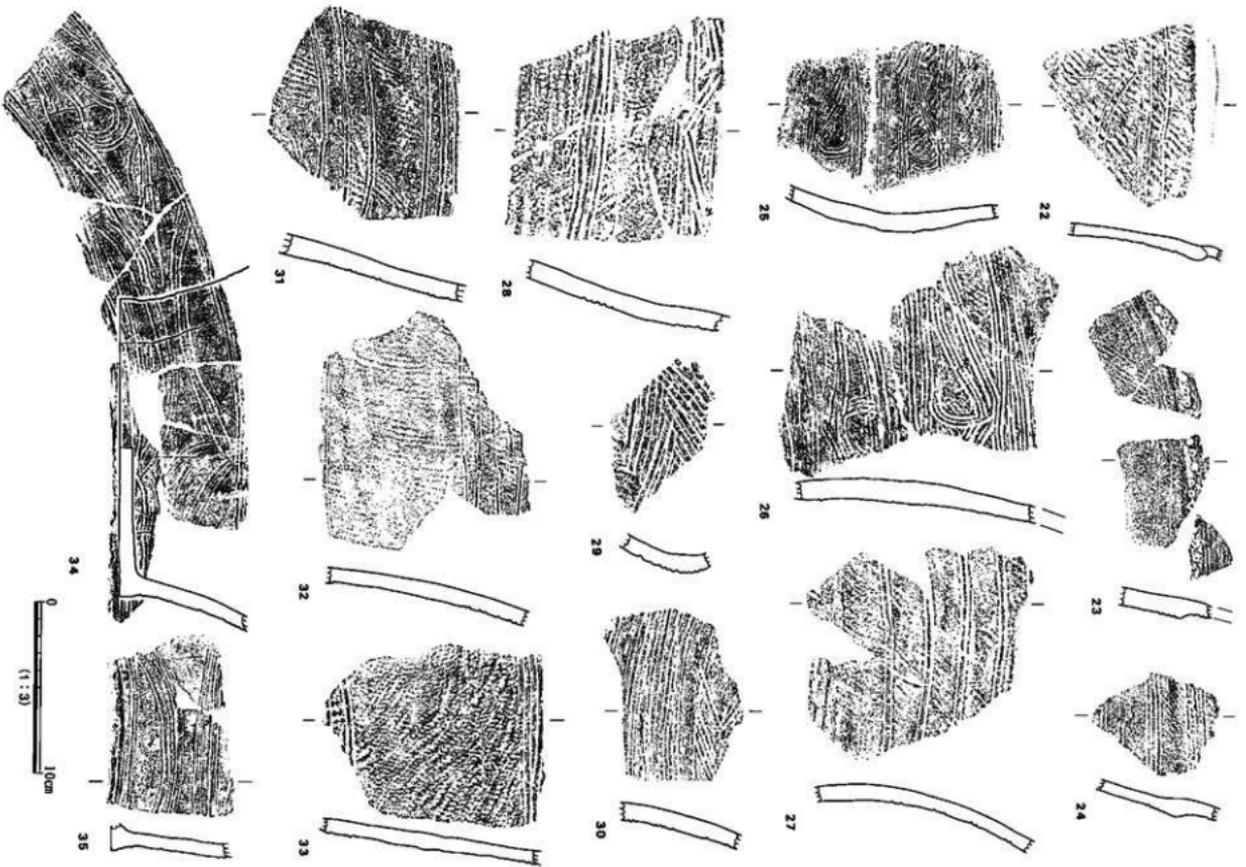
第158圖 北側谷部出土遺物(177)



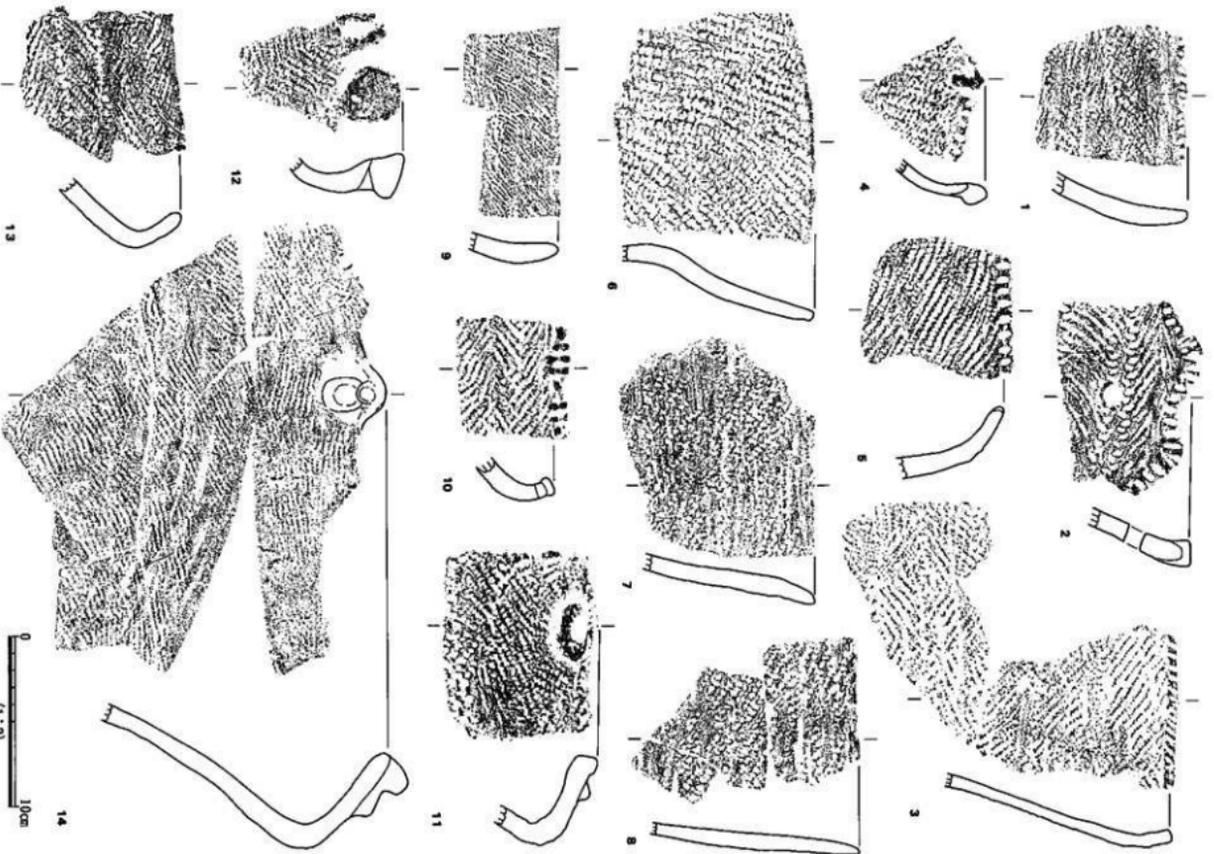
第159図 北側谷部出土遺物(18)



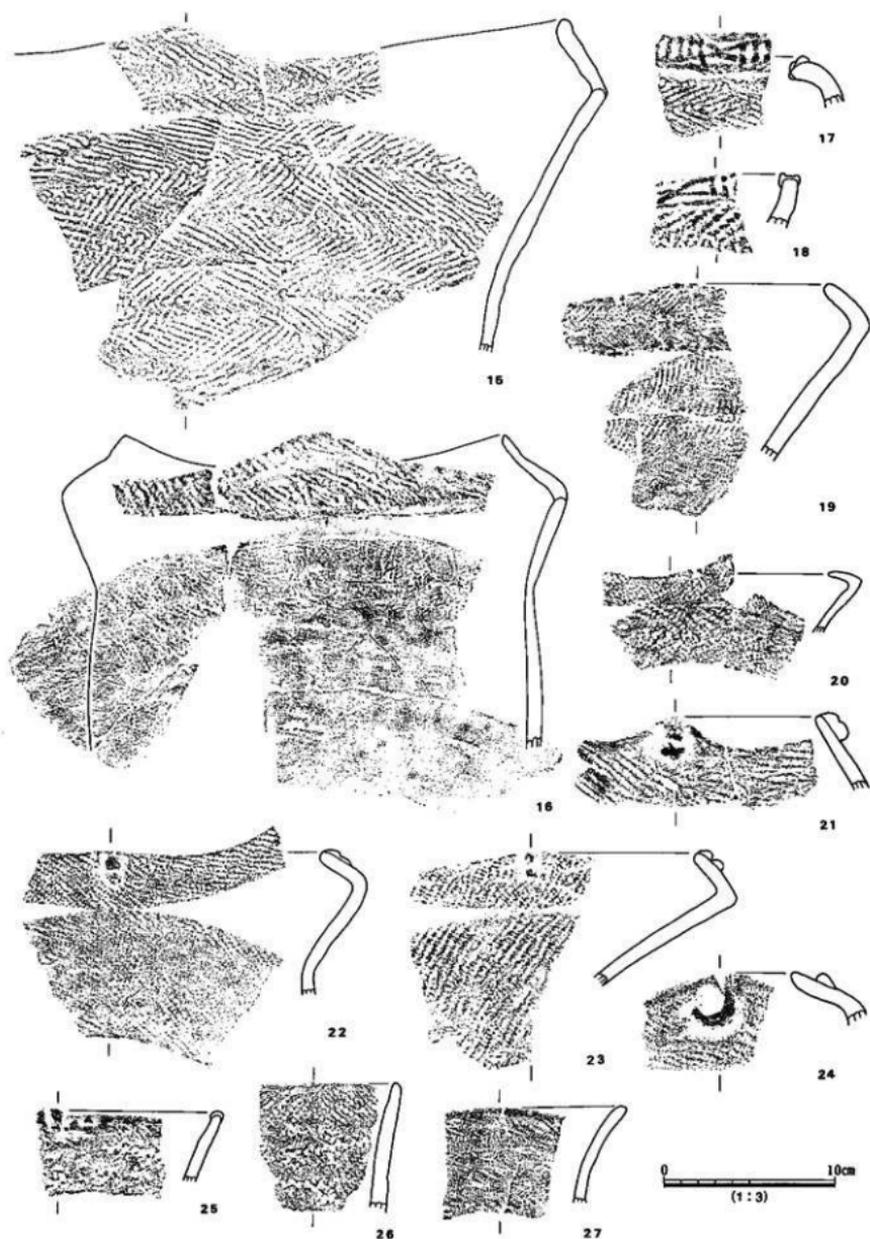
第160圖 北側谷部出土遺物(19)



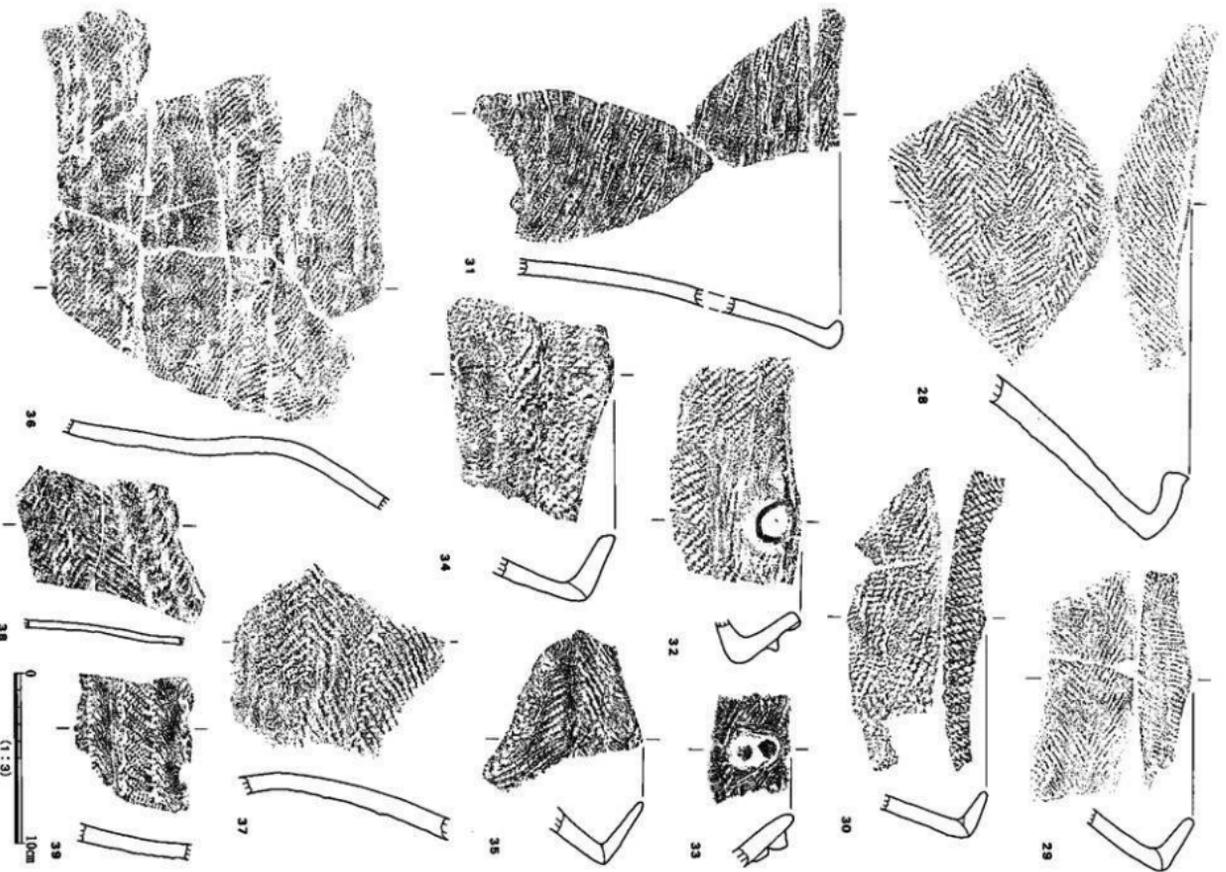
第161圖 北備谷部出土遺物(20)



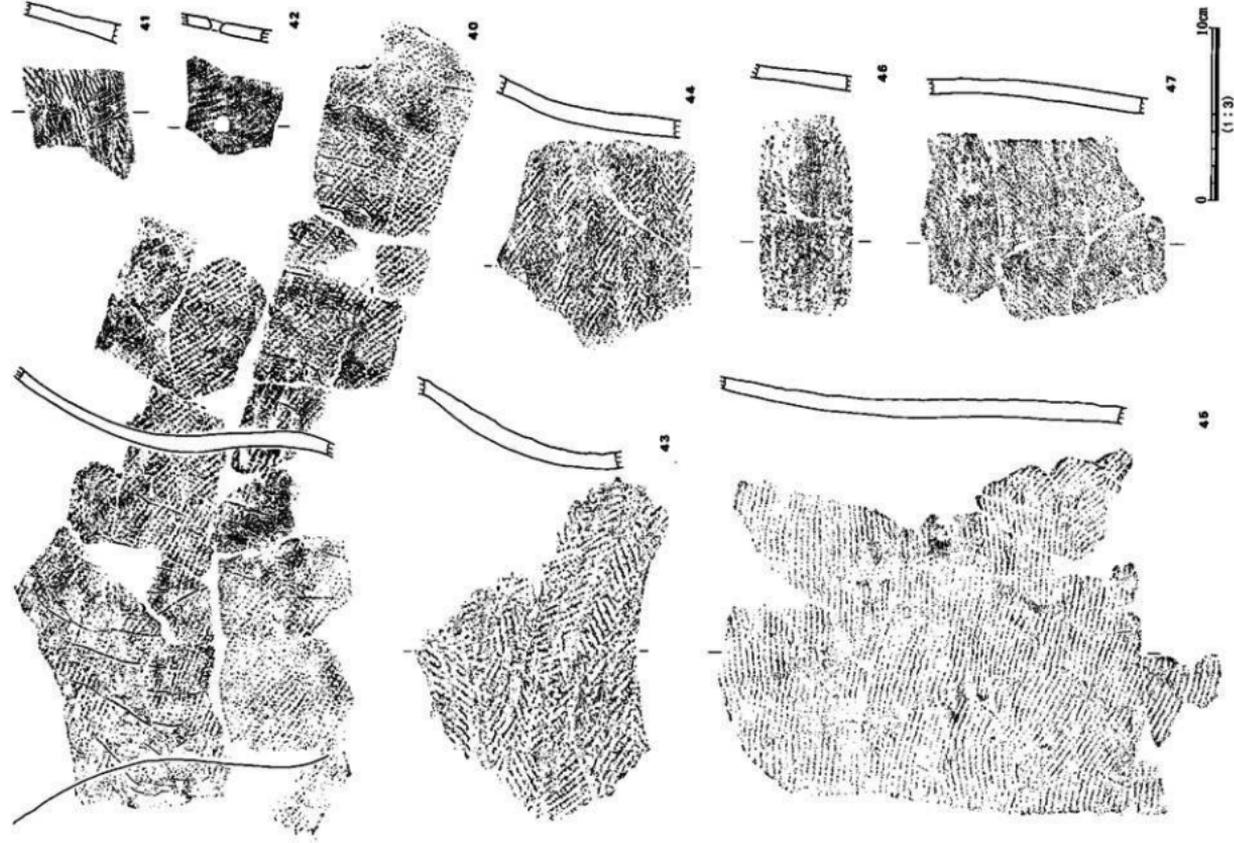
第162圖 北側各部出土遺物(21)



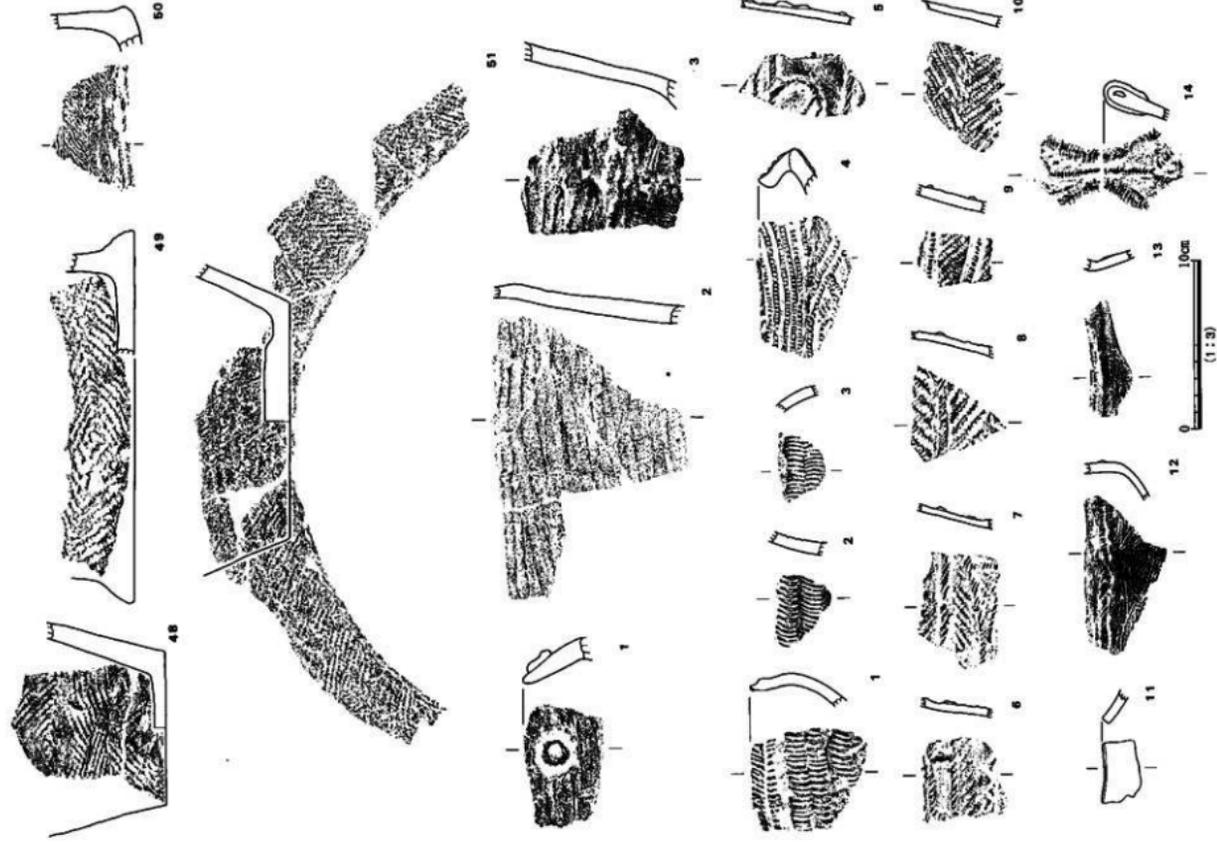
第163図 北側谷部出土遺物(22)



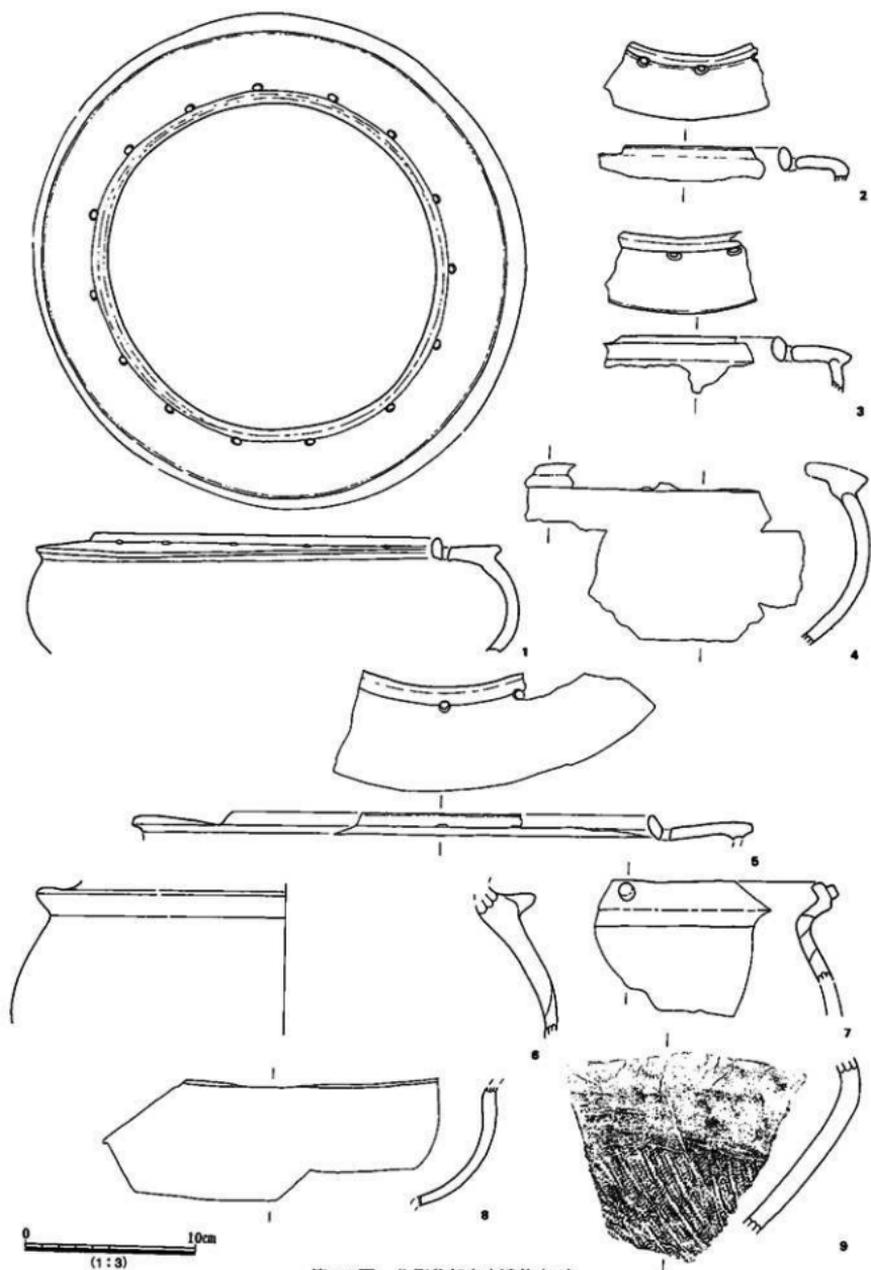
第164图 北偏谷部出土遗物(23)



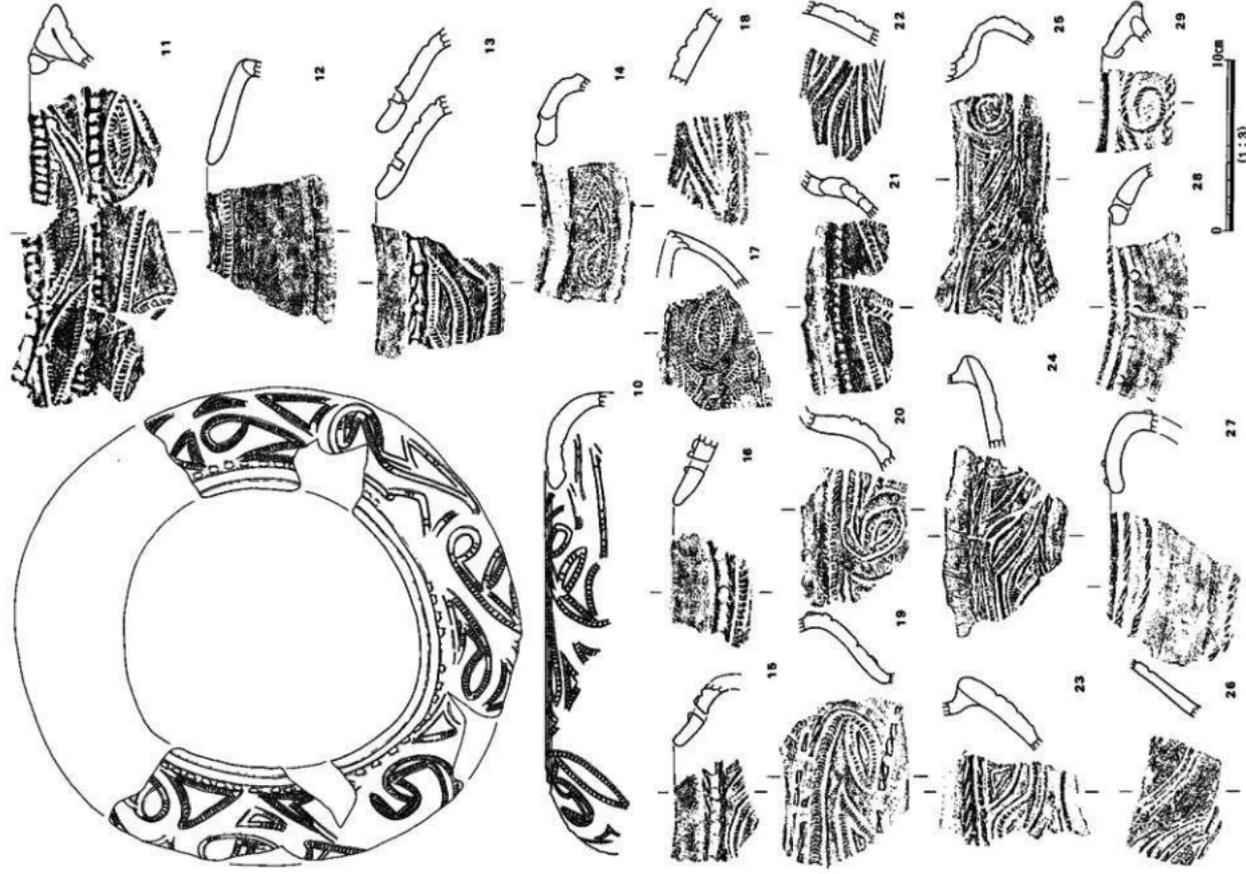
第165図 北側谷部出土遺物(24)



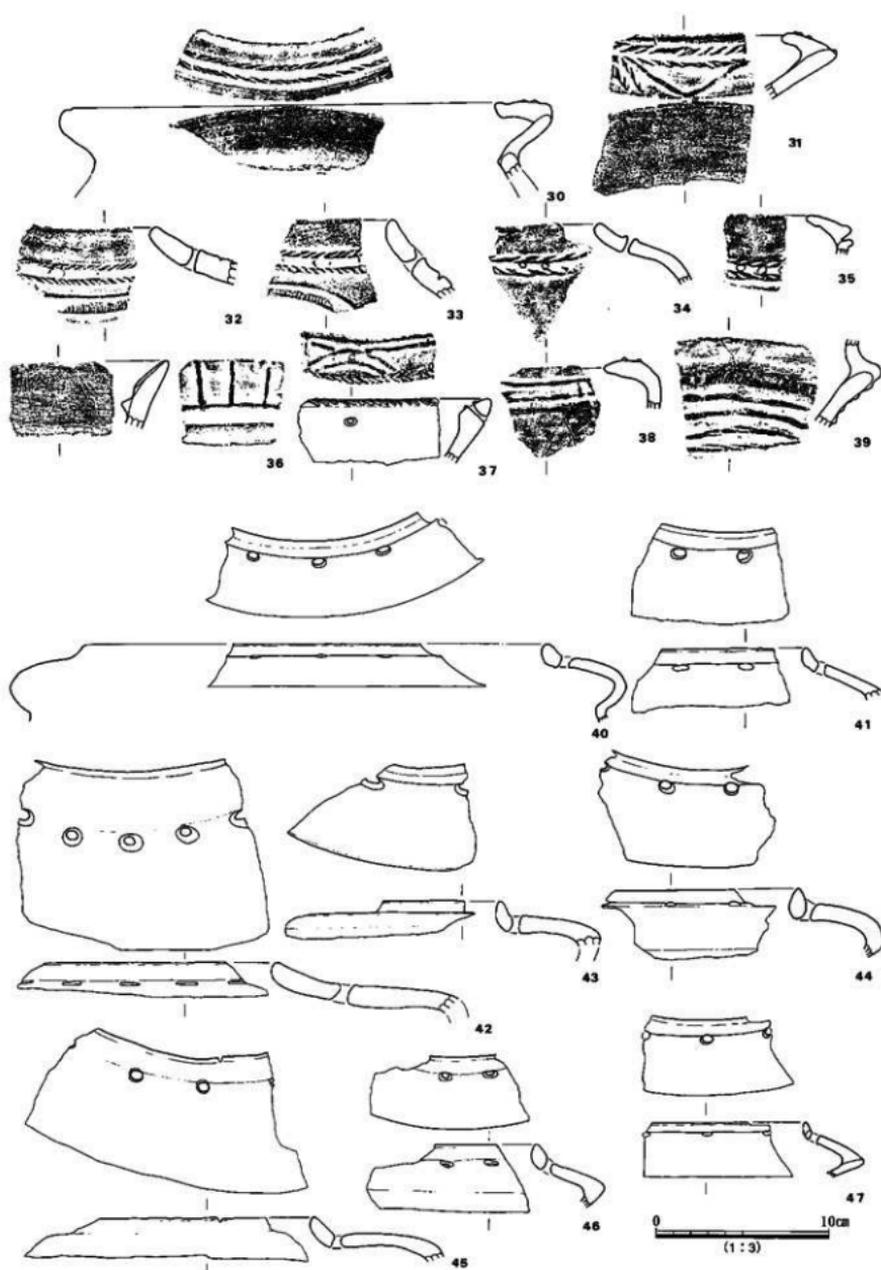
第166圖 北碚谷部出土遺物(25)



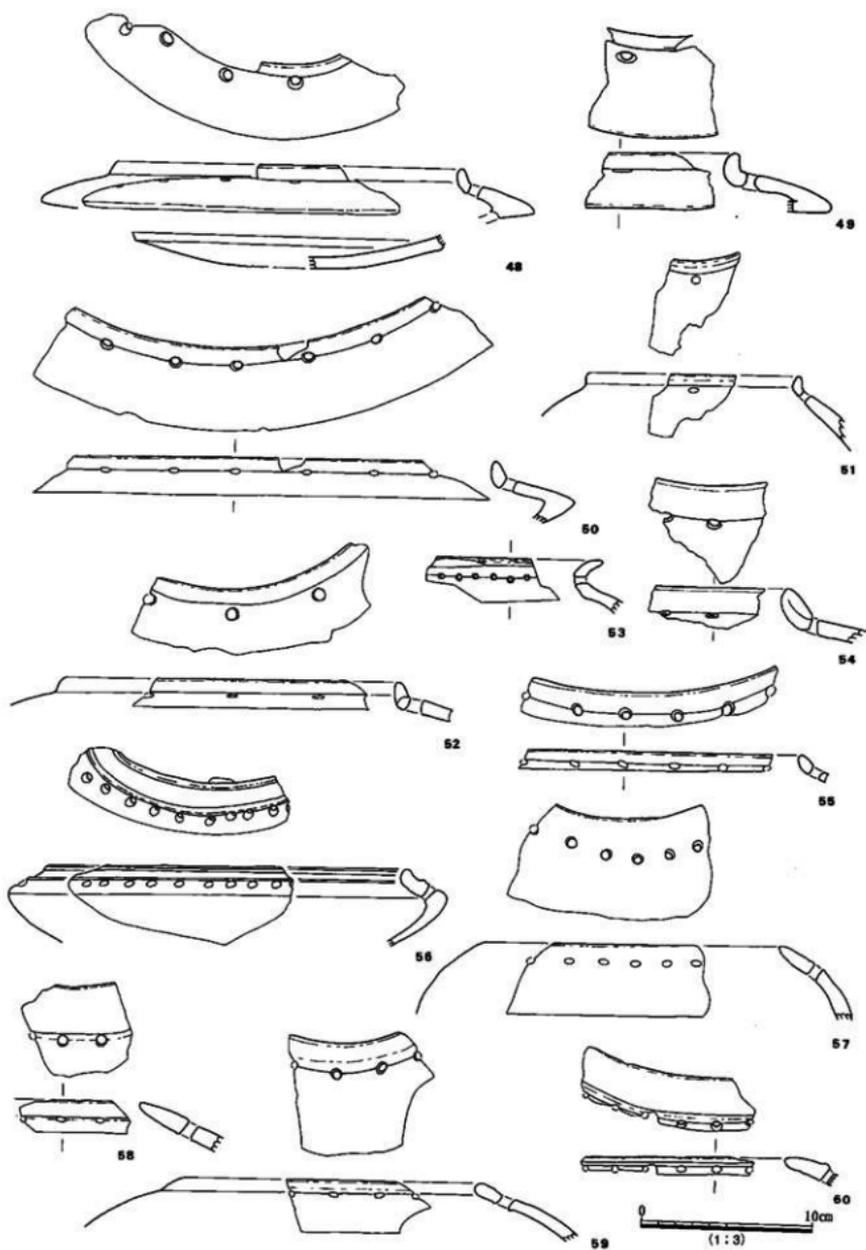
第167図 北側谷部出土遺物(26)



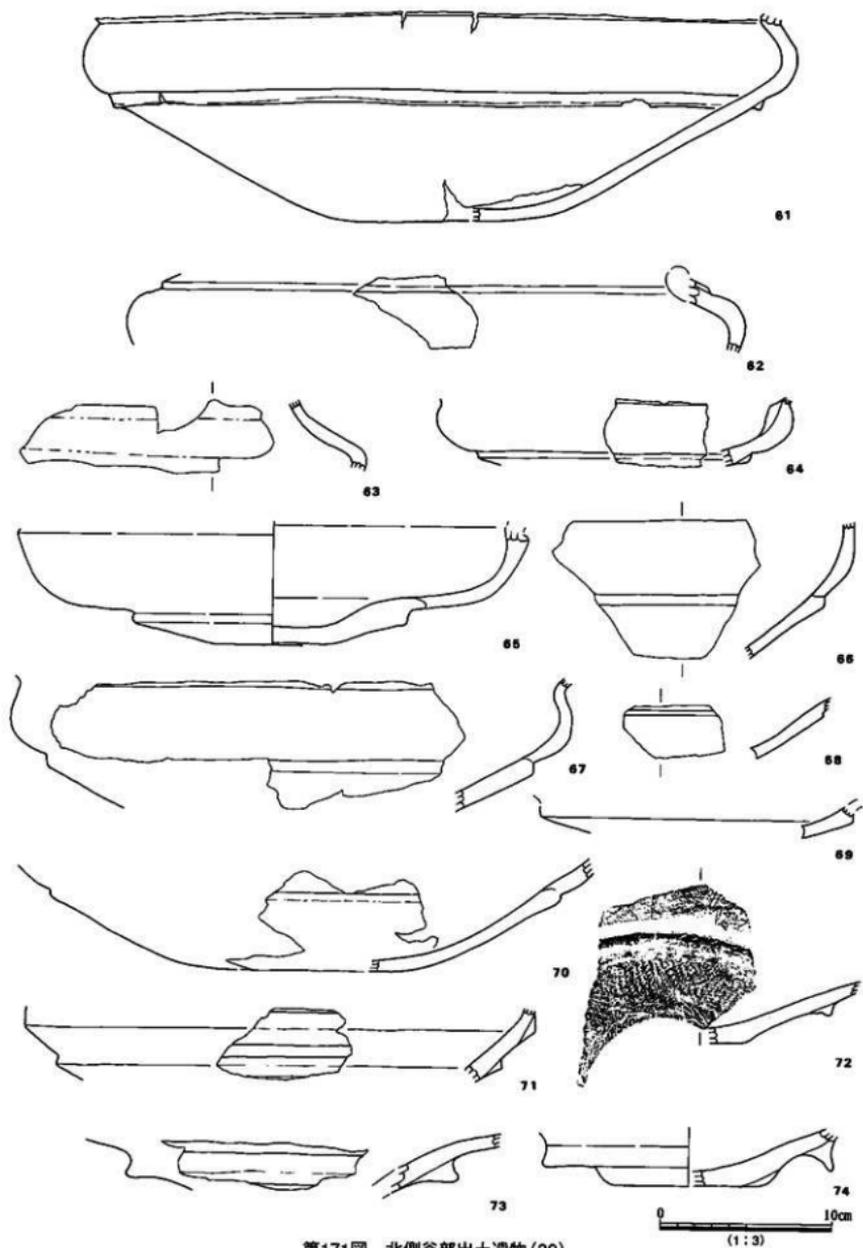
第168圖 北原谷部出土遺物(27)



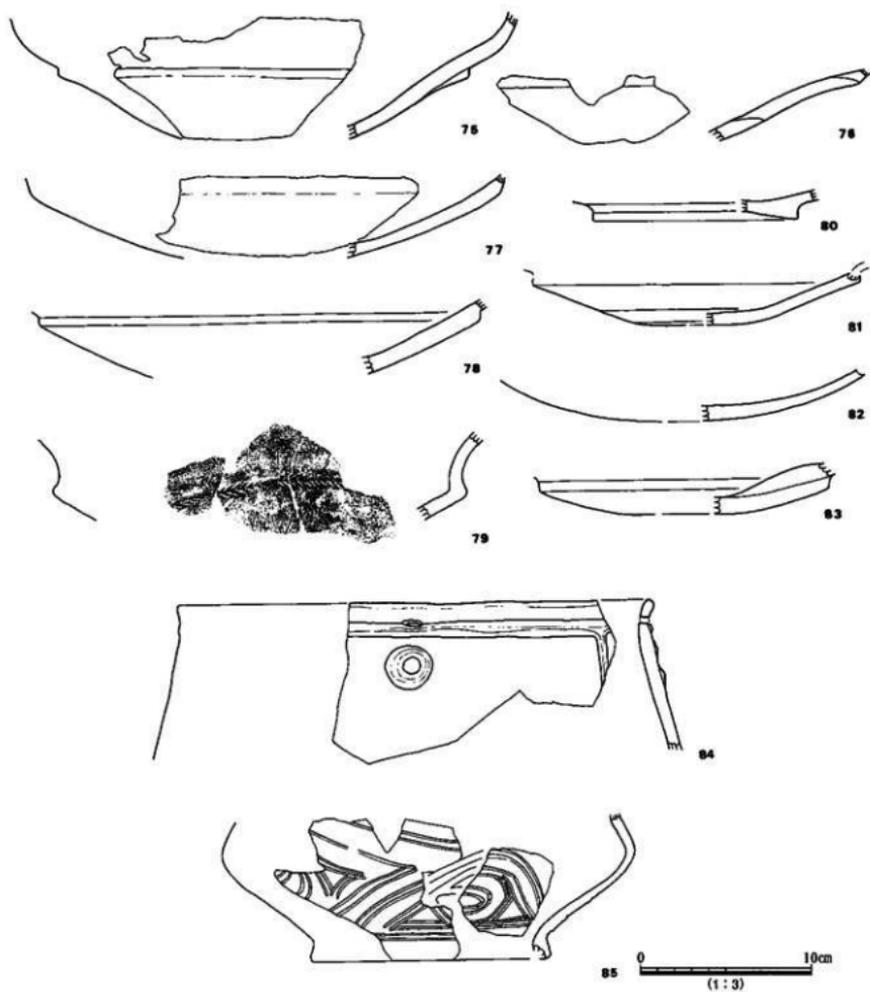
第169圖 北側谷部出土遺物(28)



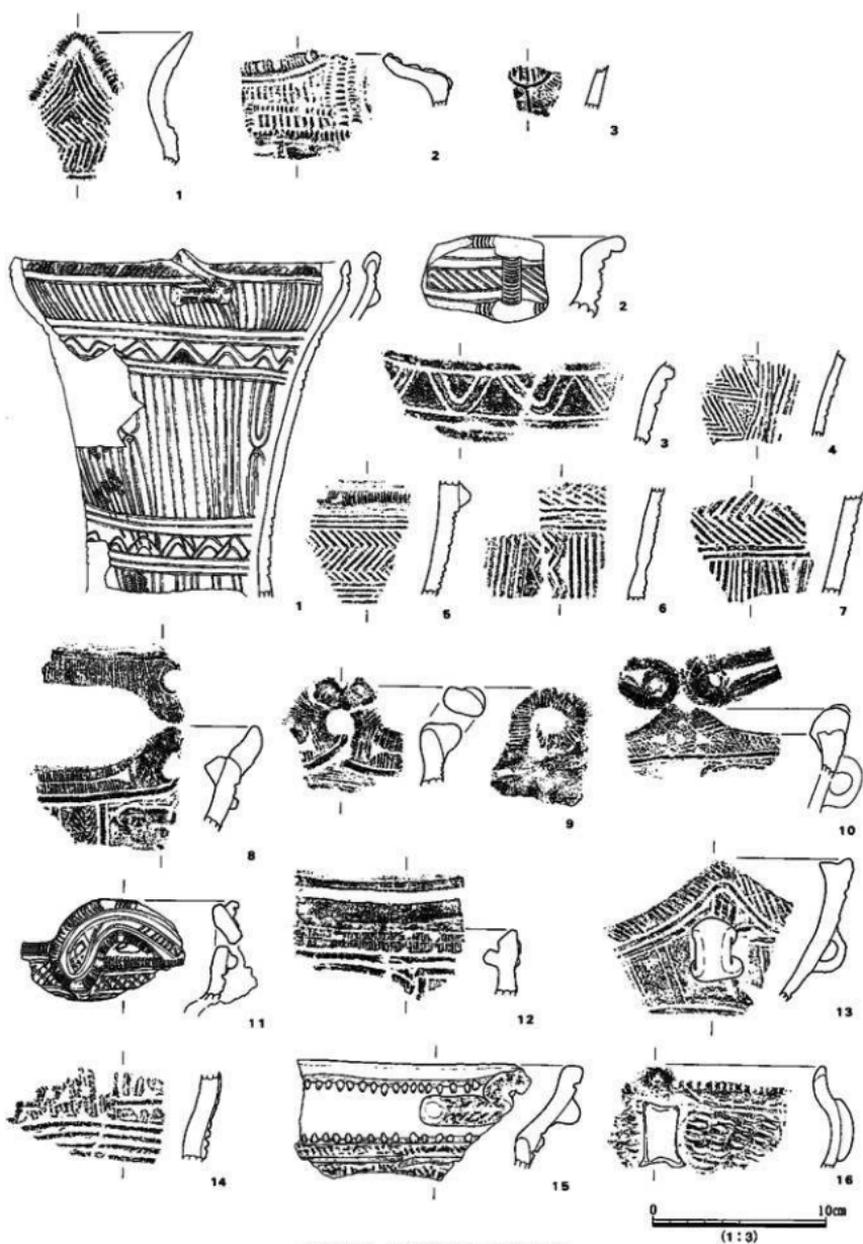
第170図 北側谷部出土遺物(29)



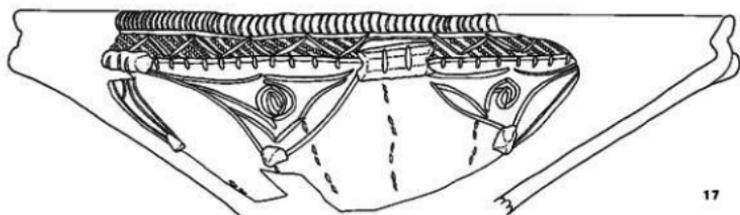
第171図 北側谷部出土遺物(30)



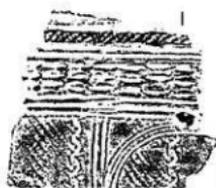
第172図 北側谷部出土遺物(31)



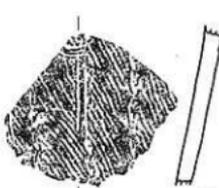
第173圖 北側谷部出土遺物 (32)



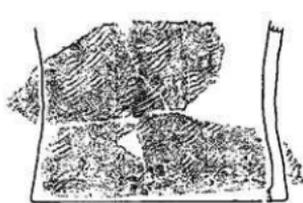
17



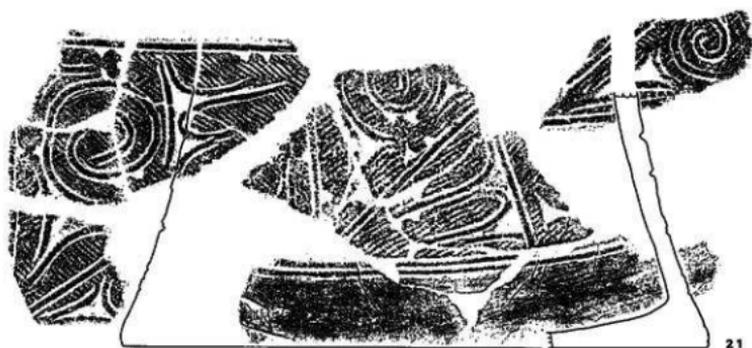
18



19



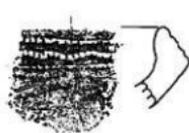
20



21



1



2



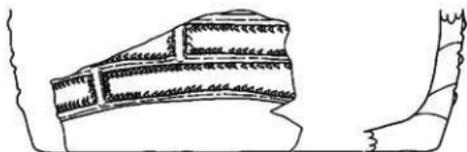
3



4



5

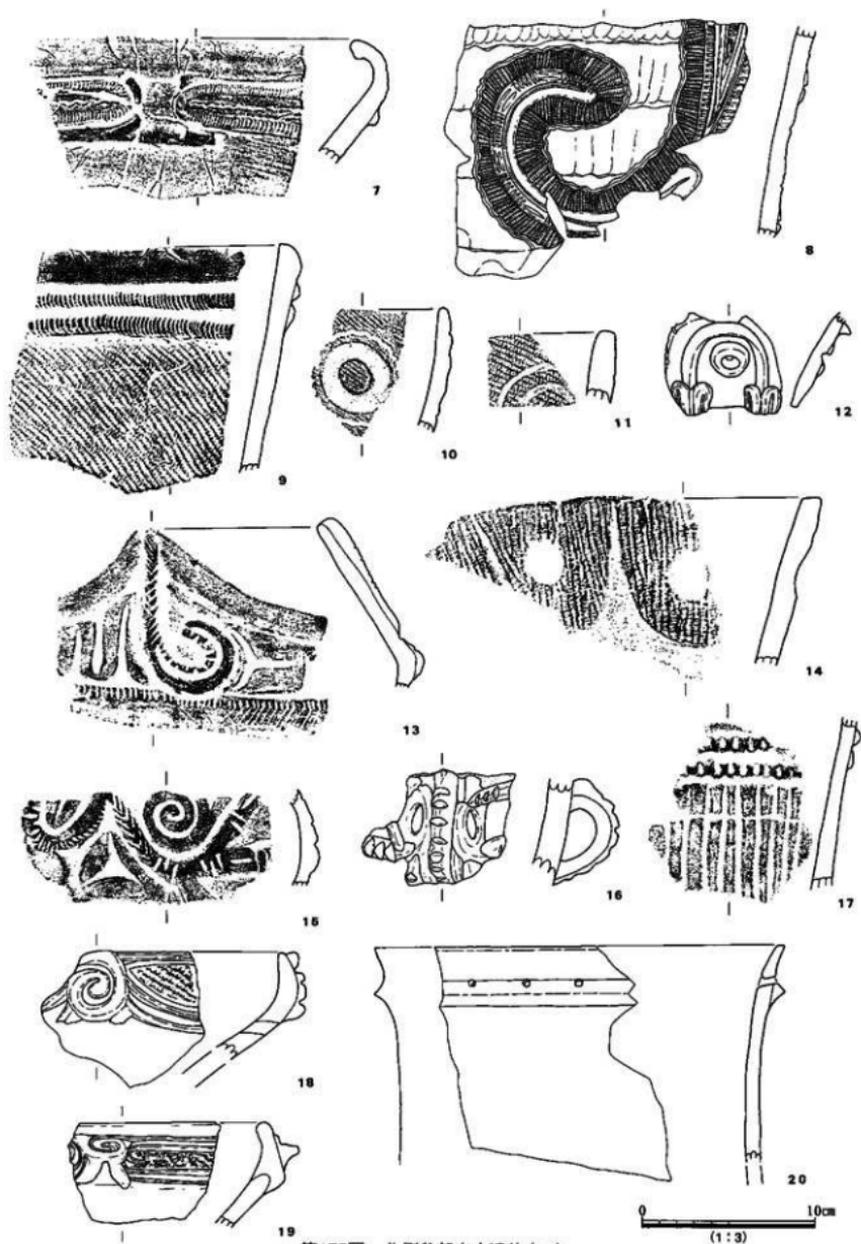


6

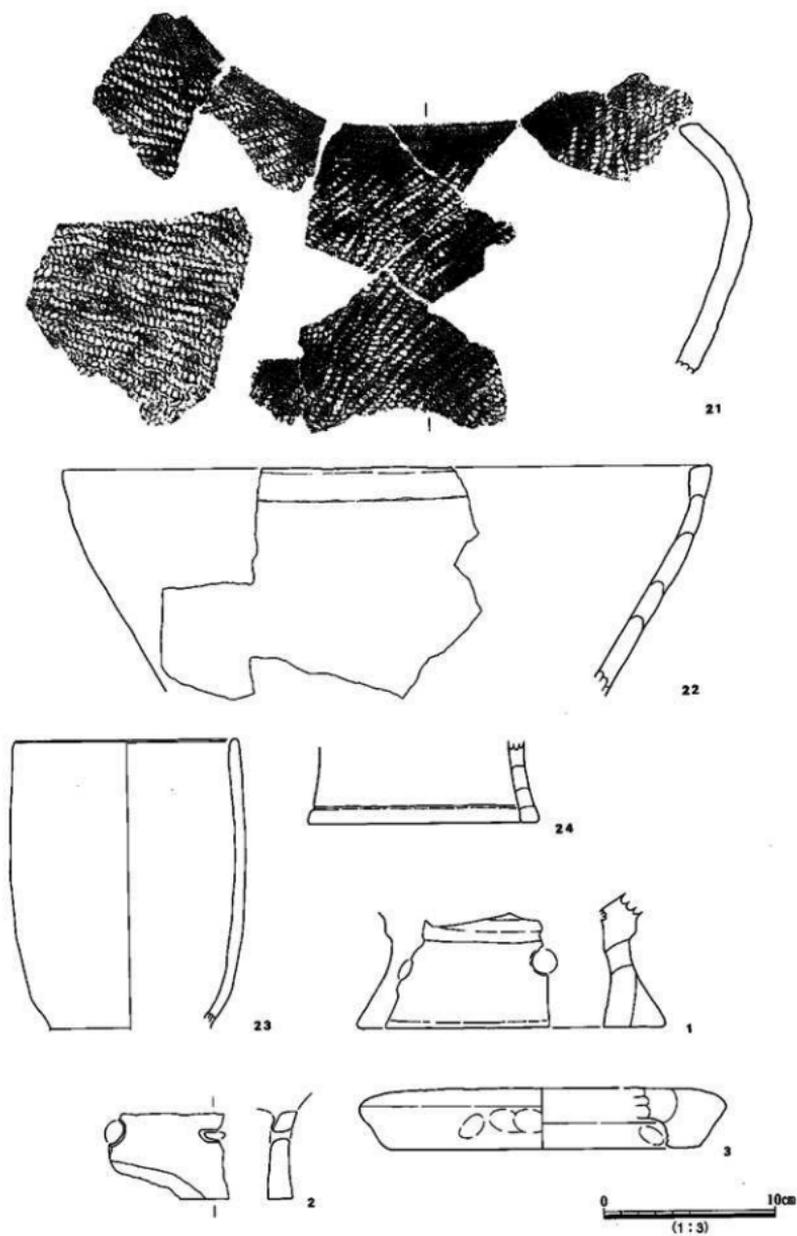


(1:3)

第174図 北側谷部出土遺物(33)

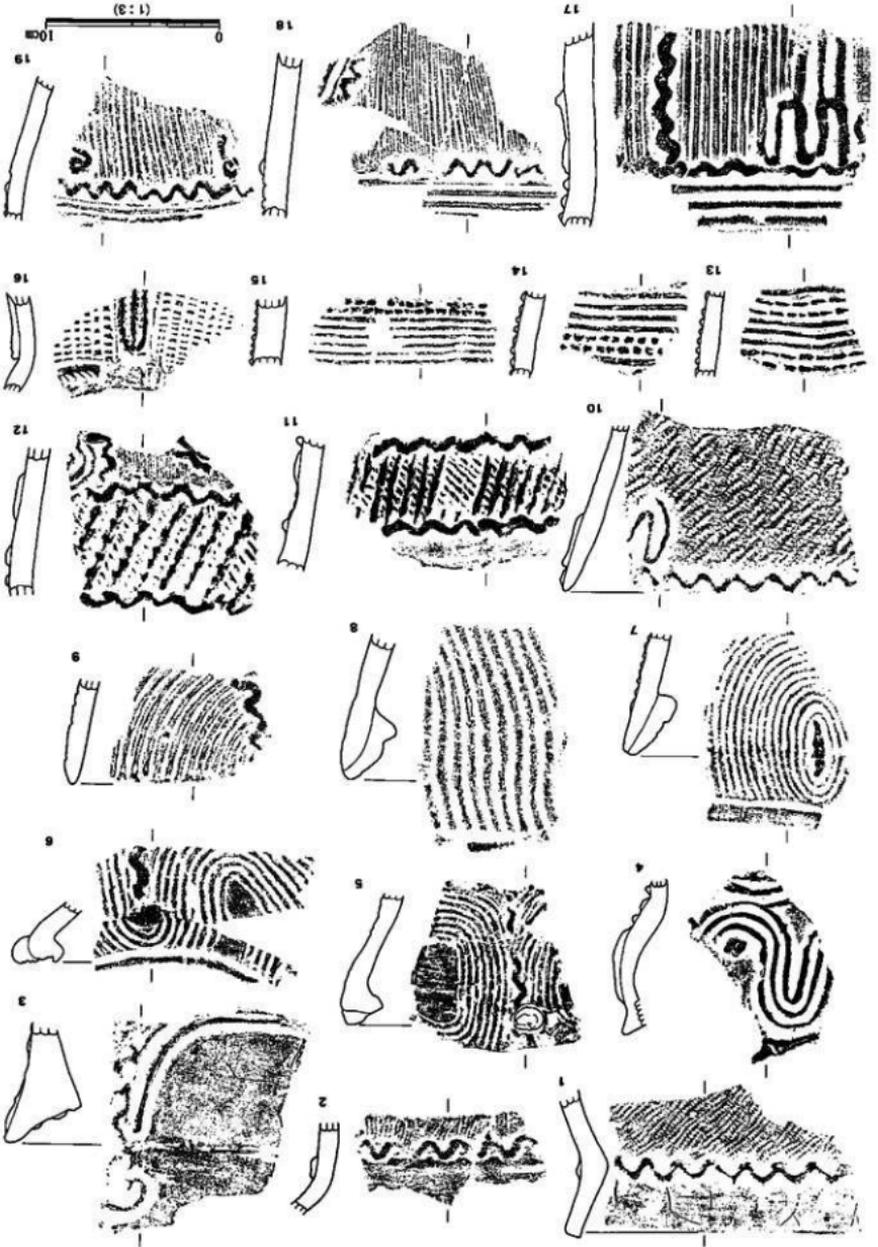


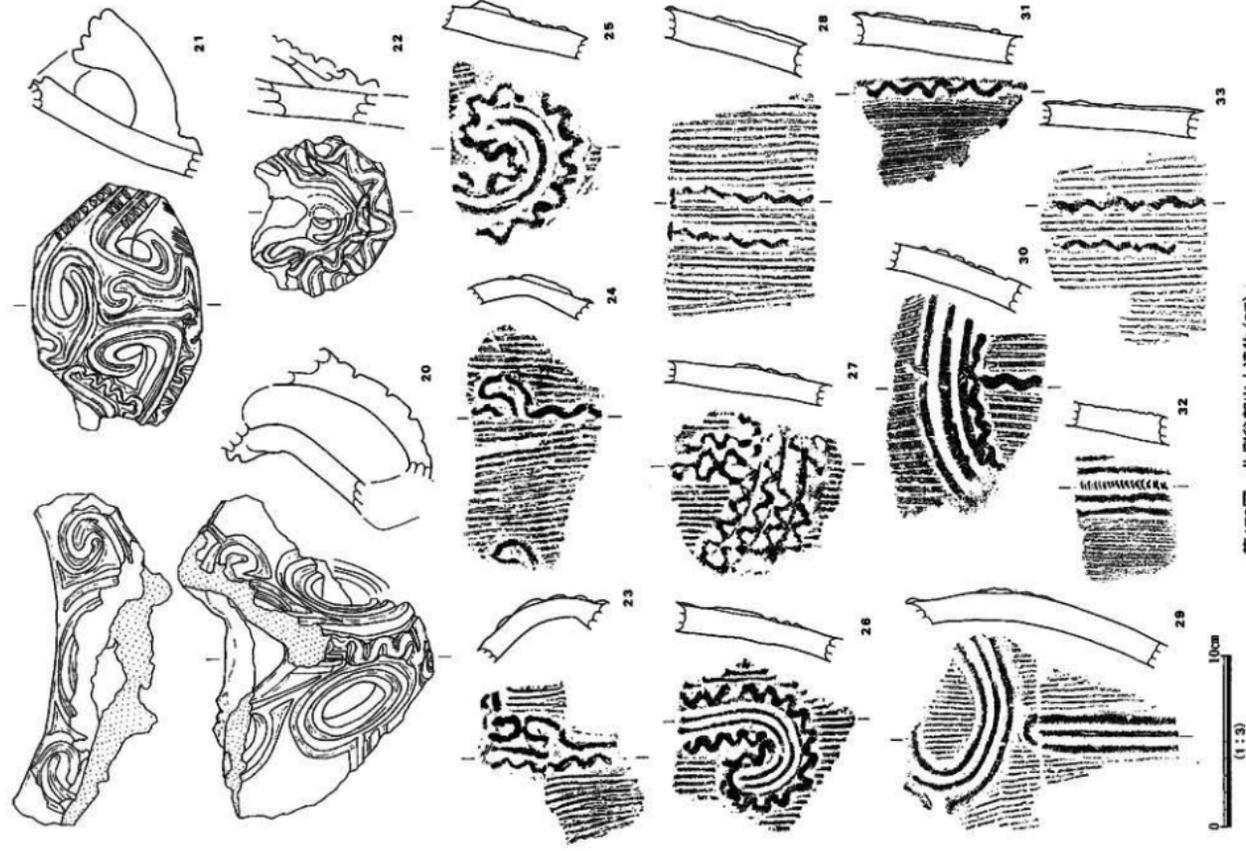
第175圖 北側谷部出土遺物(34)



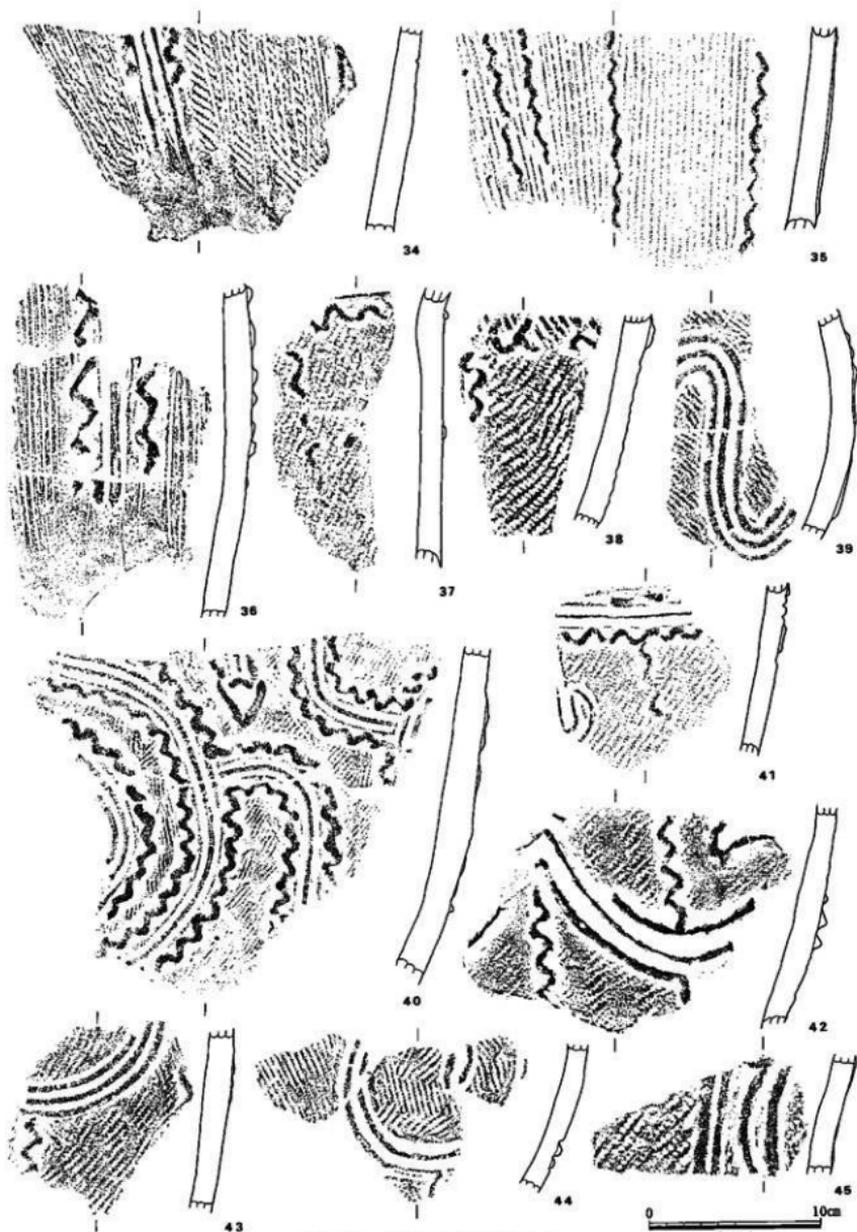
第176図 北側谷部出土遺物 (35)

第177圖 北側谷部出土遺物(36)

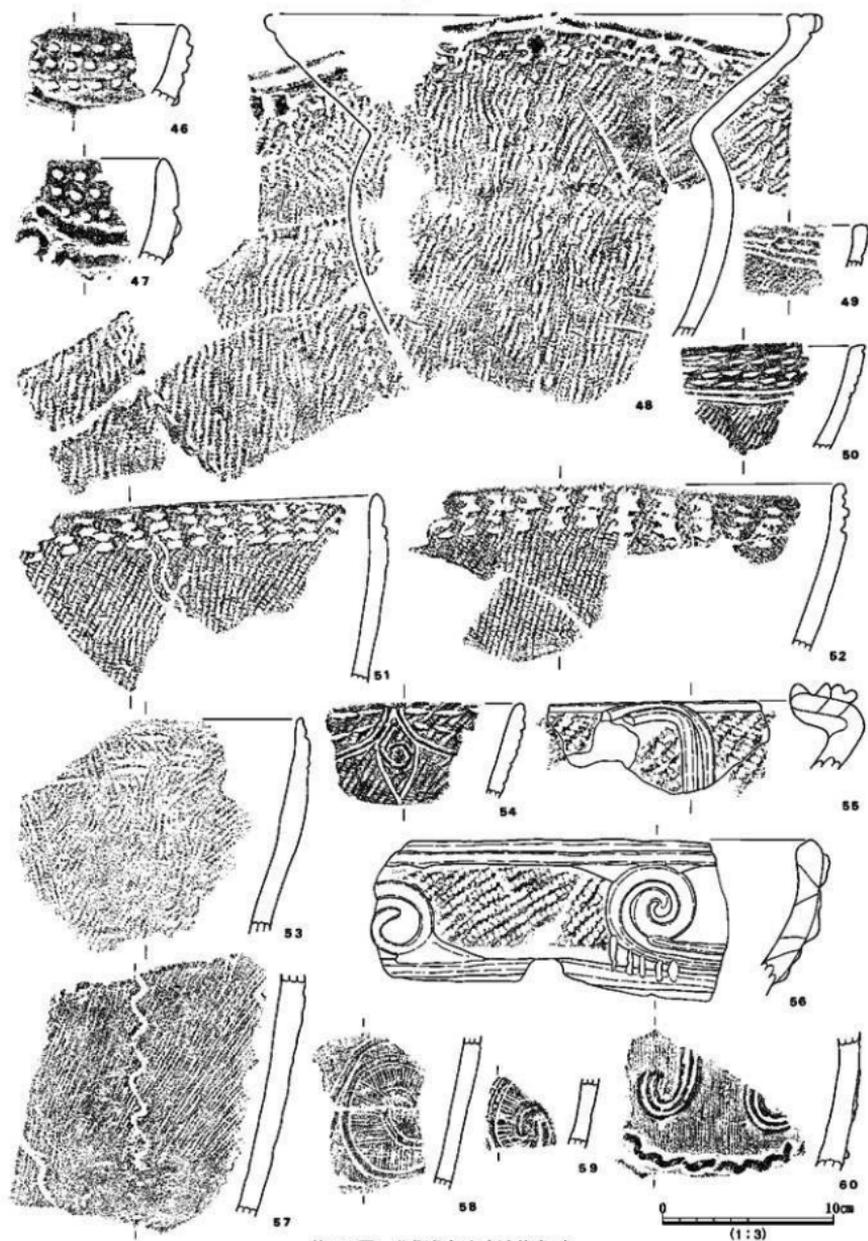




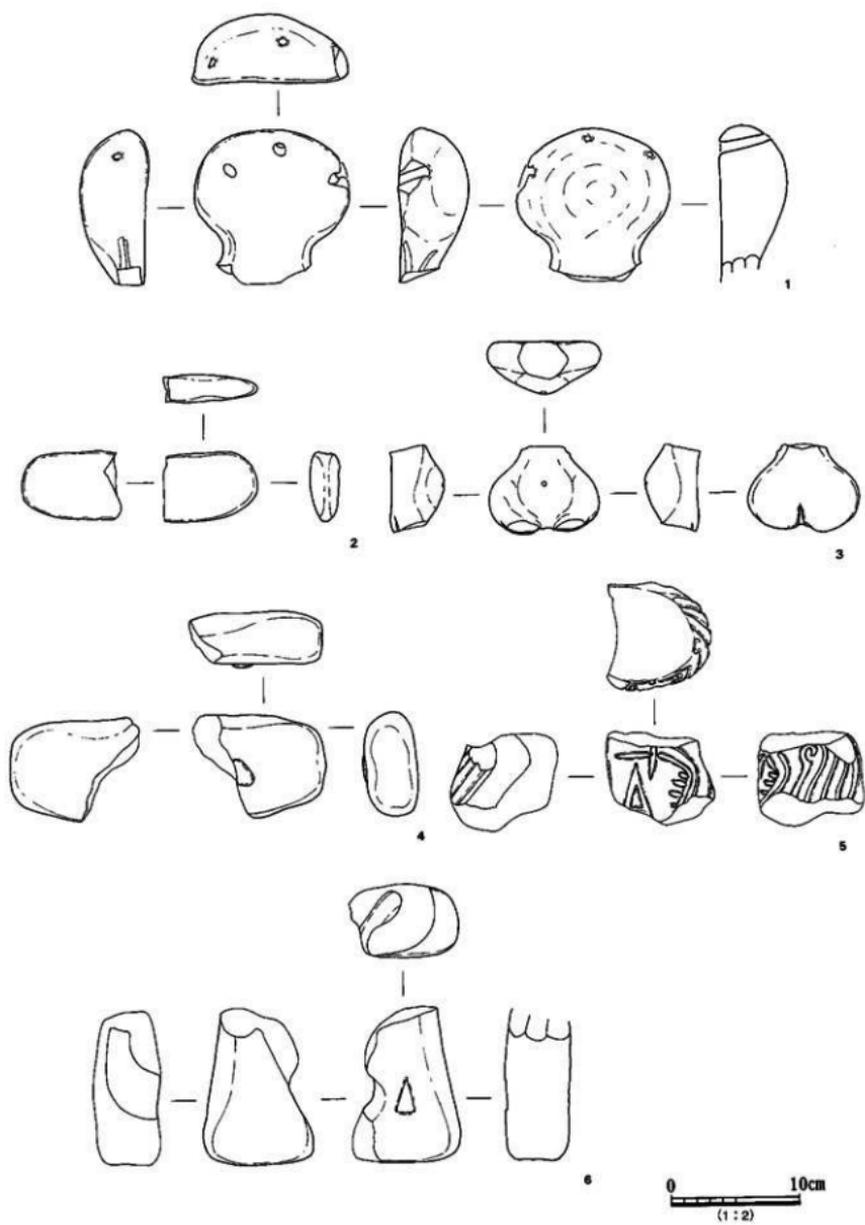
第178图 北侧谷部出土遗物(37)



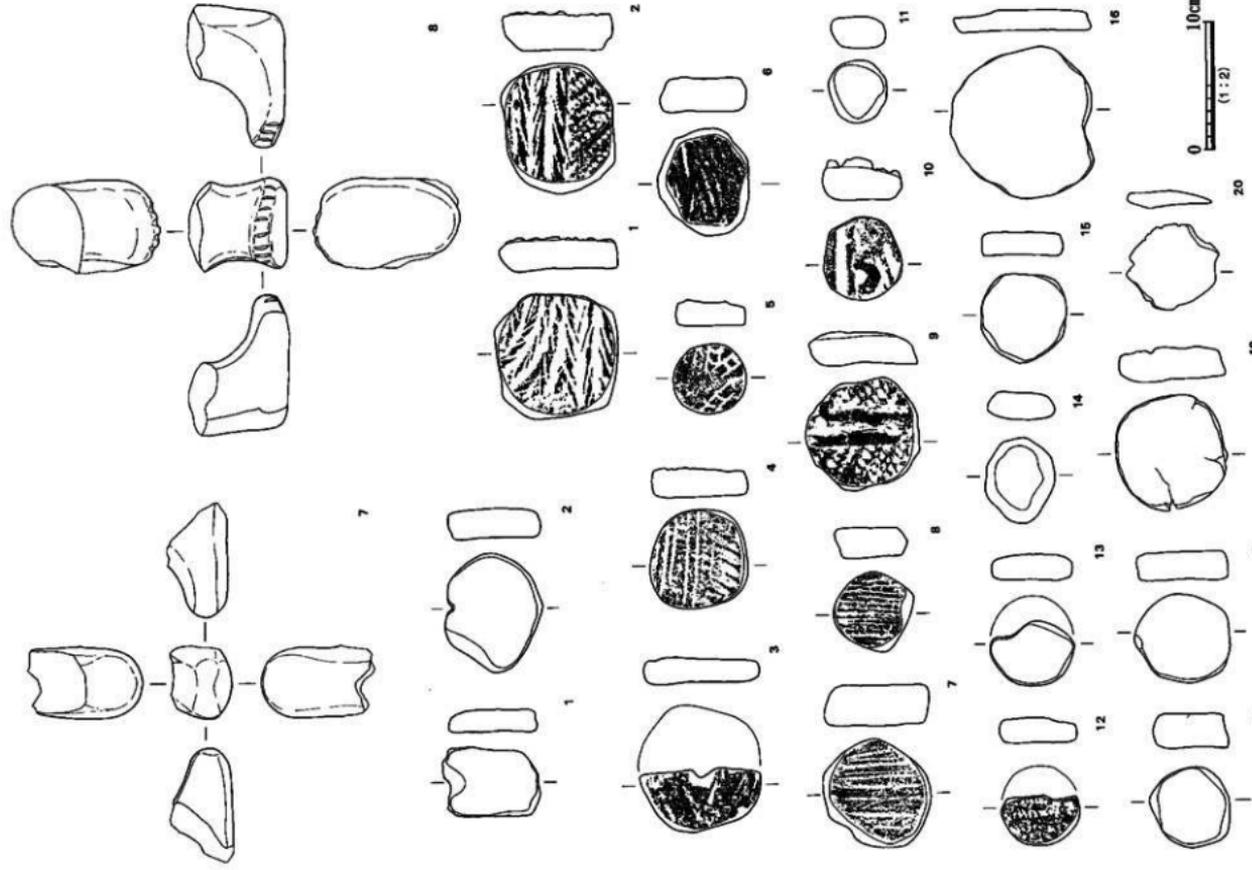
第179図 北側谷部出土遺物(38)



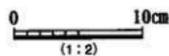
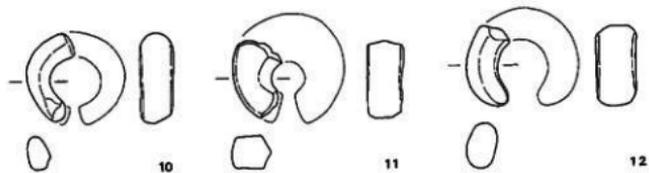
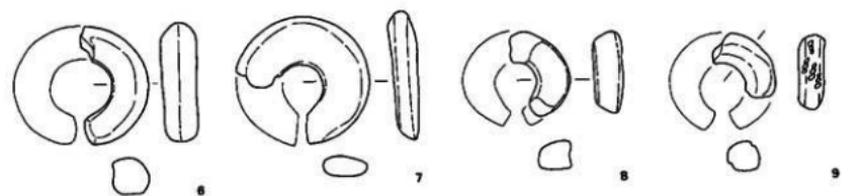
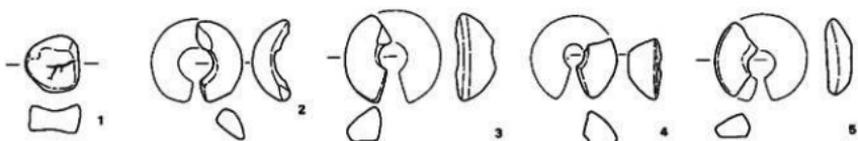
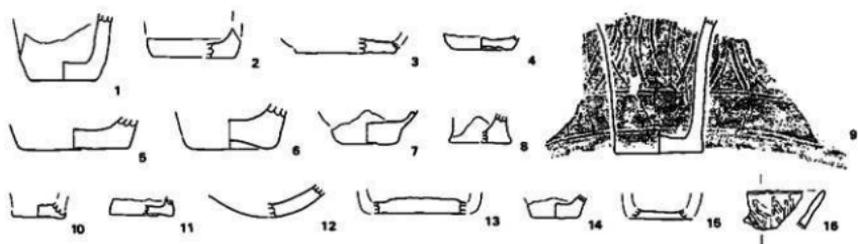
第180圖 北側谷部出土遺物(39)



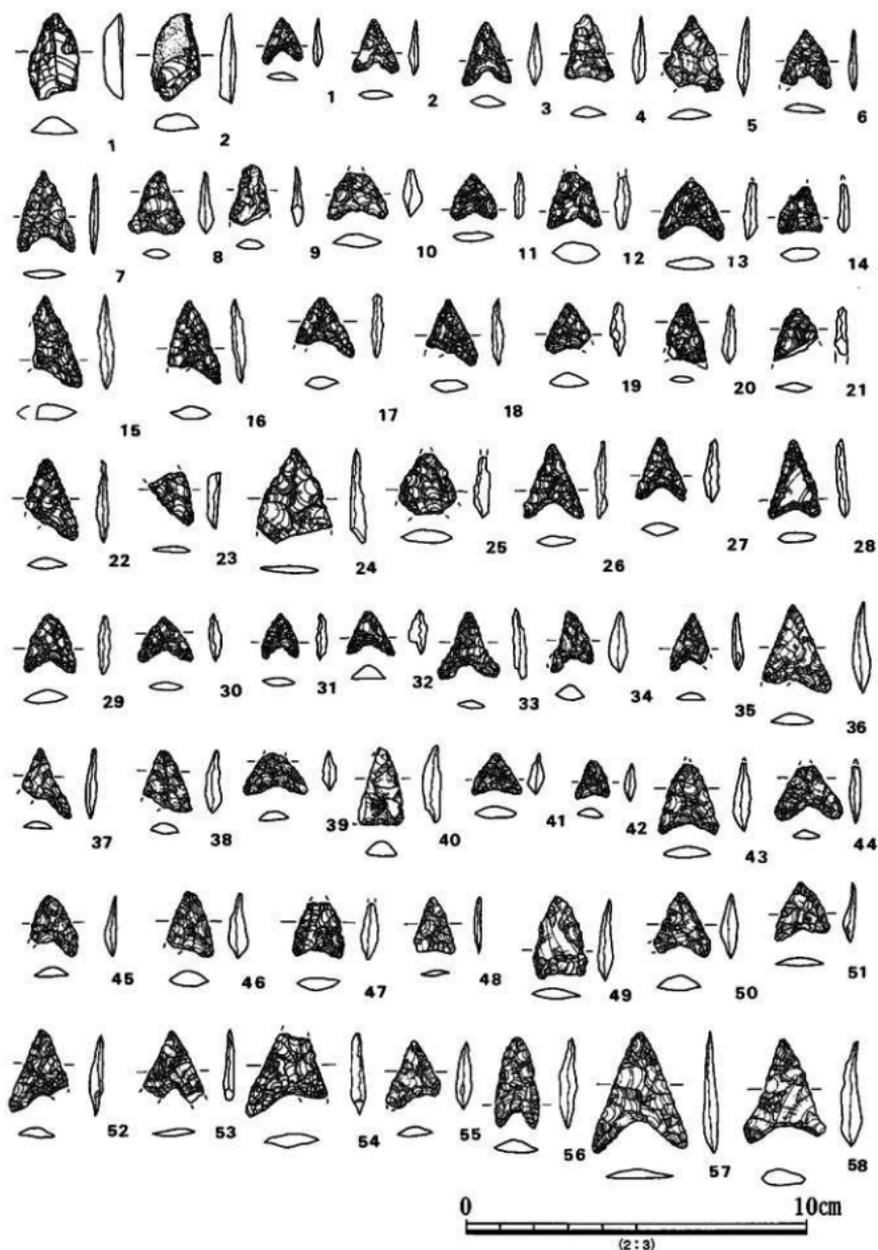
第181图 北側谷部出土遺物(40)



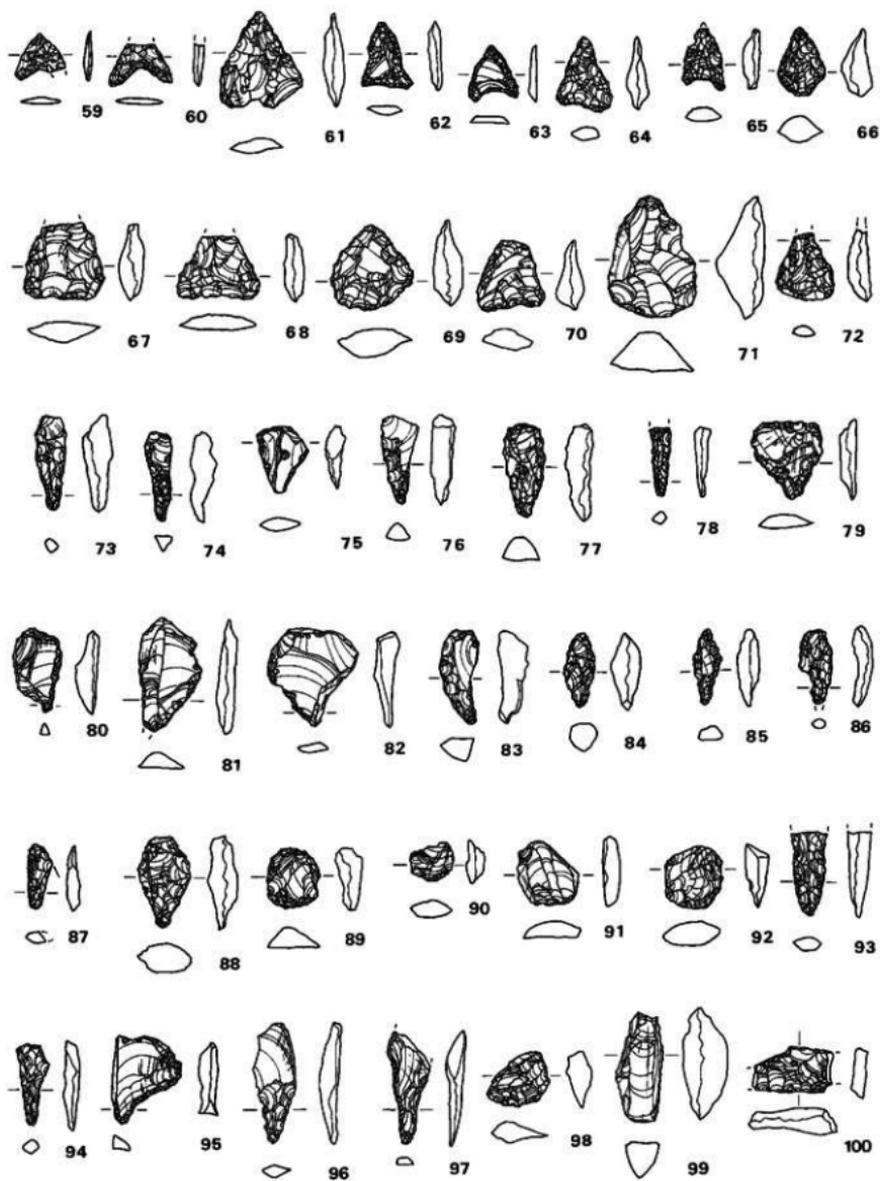
第182図 北條谷部出土遺物(41)



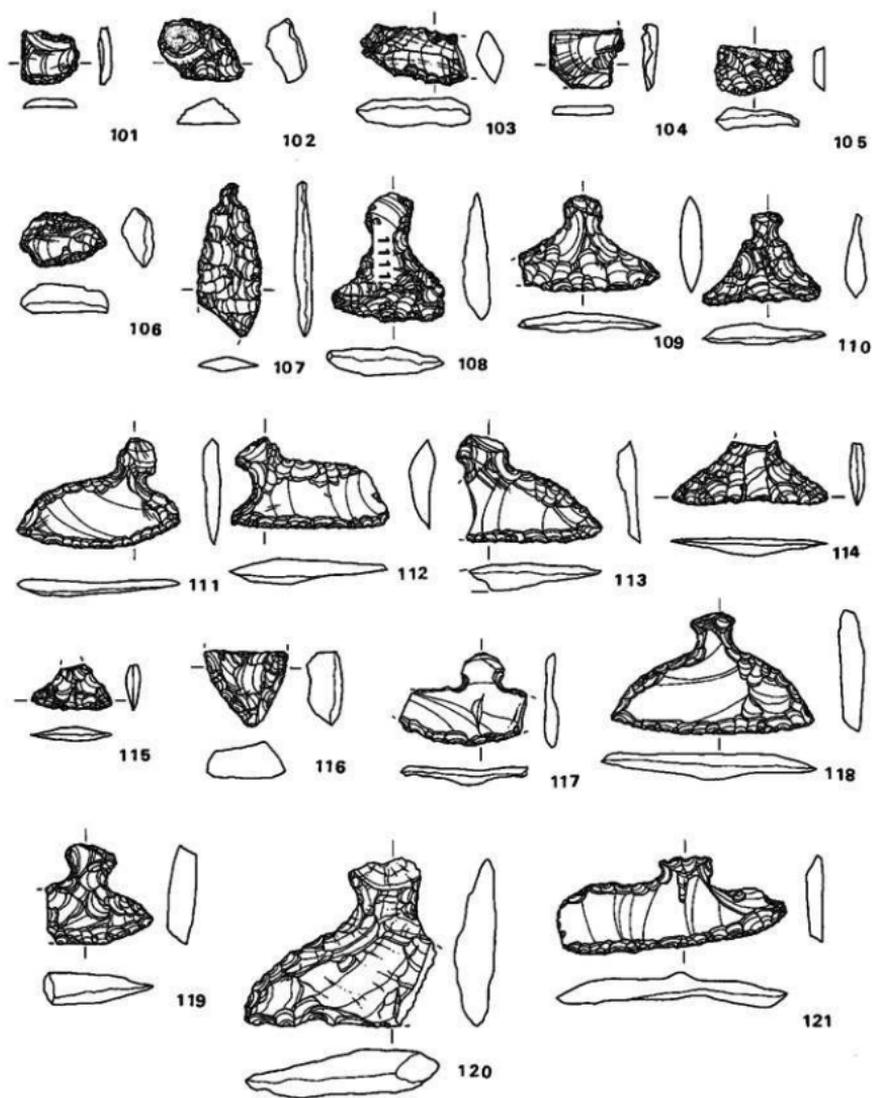
第183圖 北側谷部出土遺物(42)



第184図 北側谷部出土遺物(43)

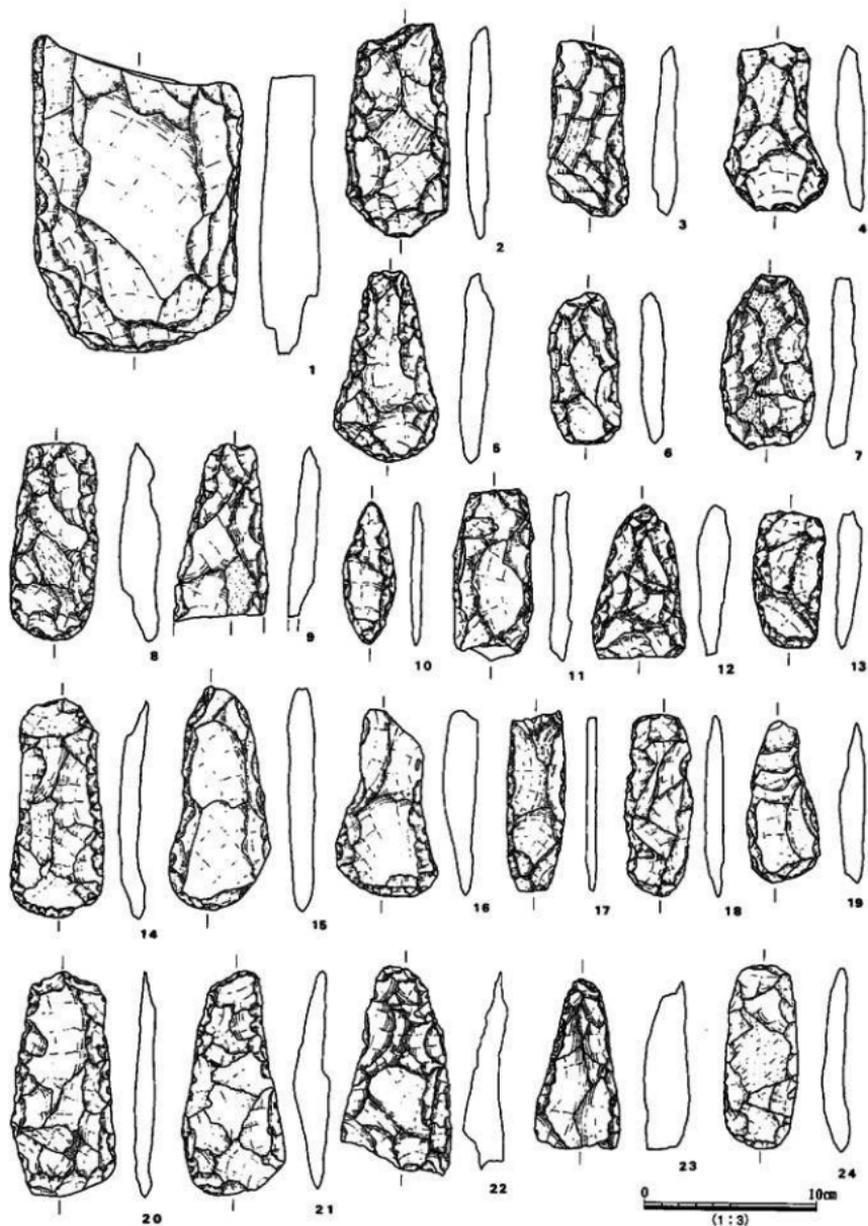


第185圖 北側谷部出土遺物(44)

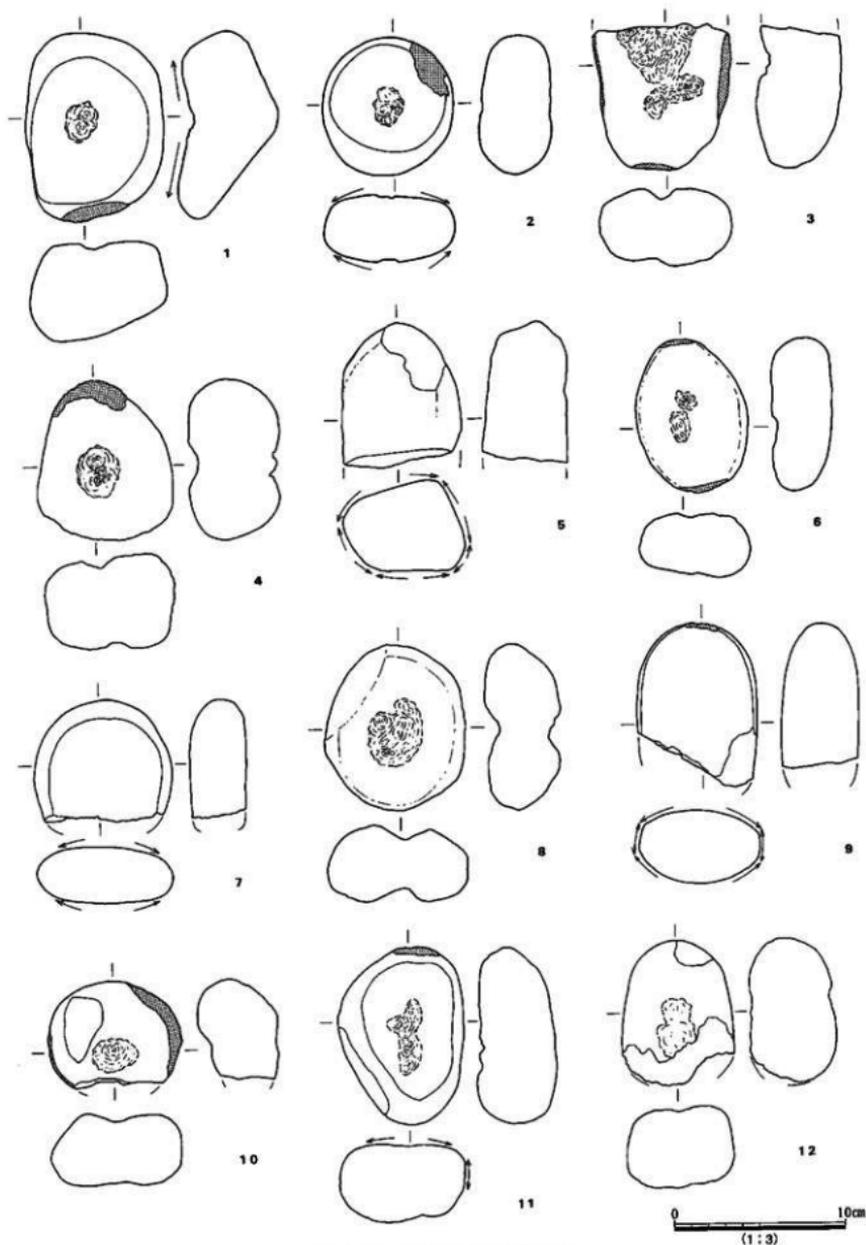


0 10cm  
(2:3)

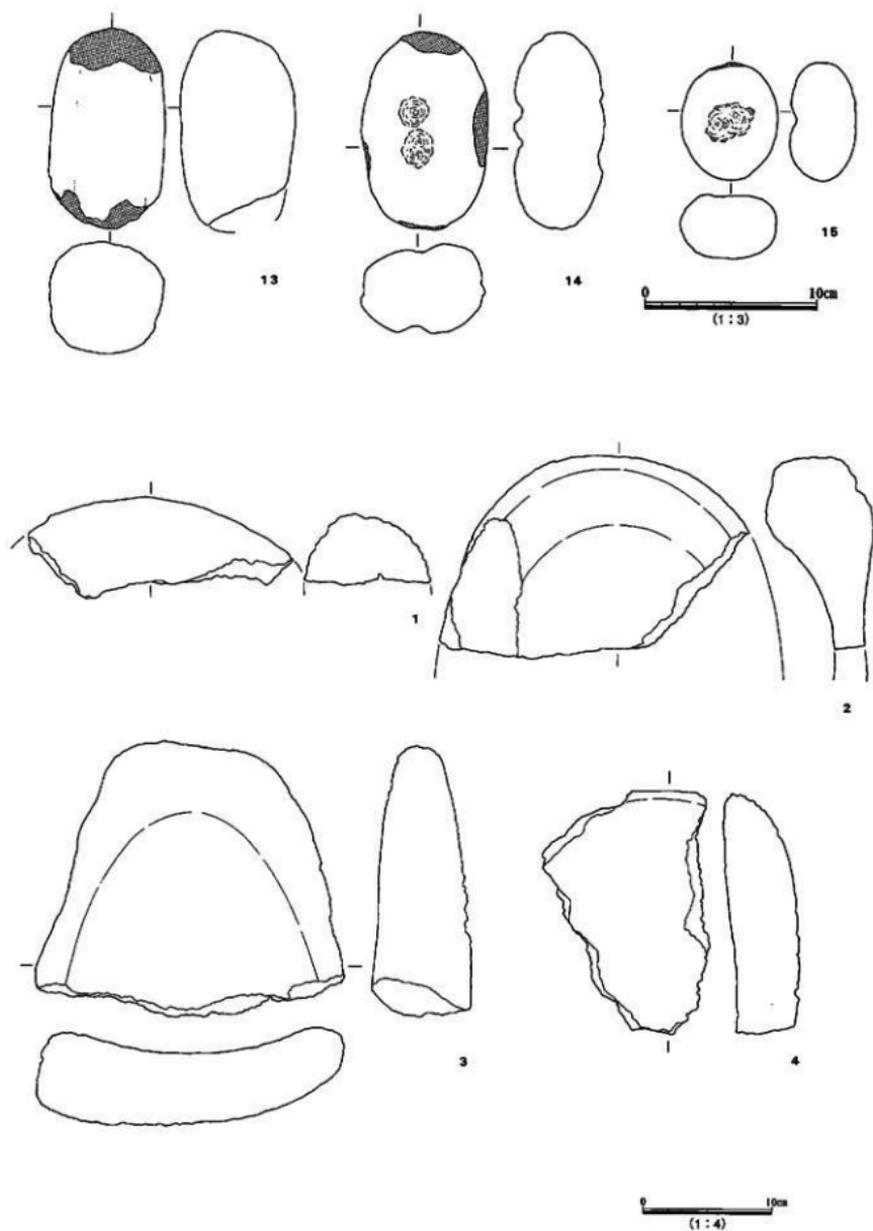
第186図 北側谷部出土遺物(45)



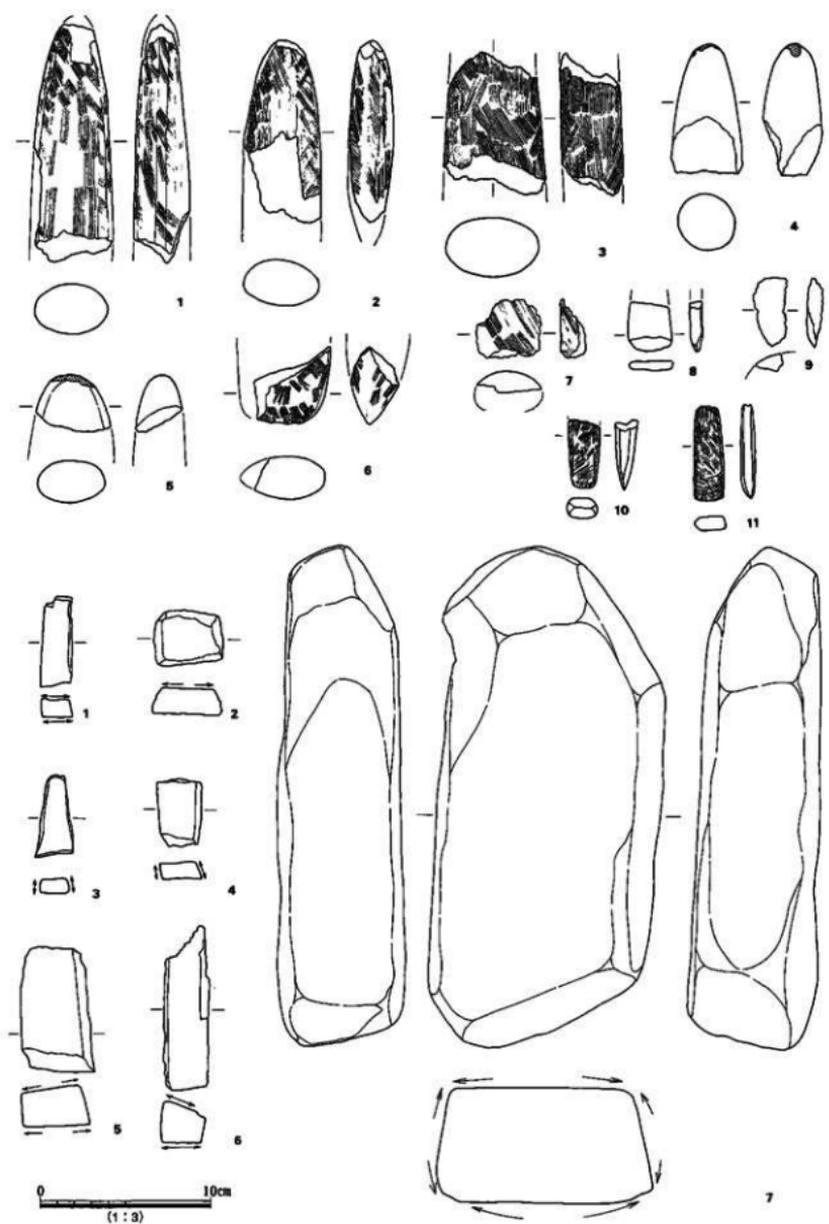
第187図 北側谷部出土遺物(46)



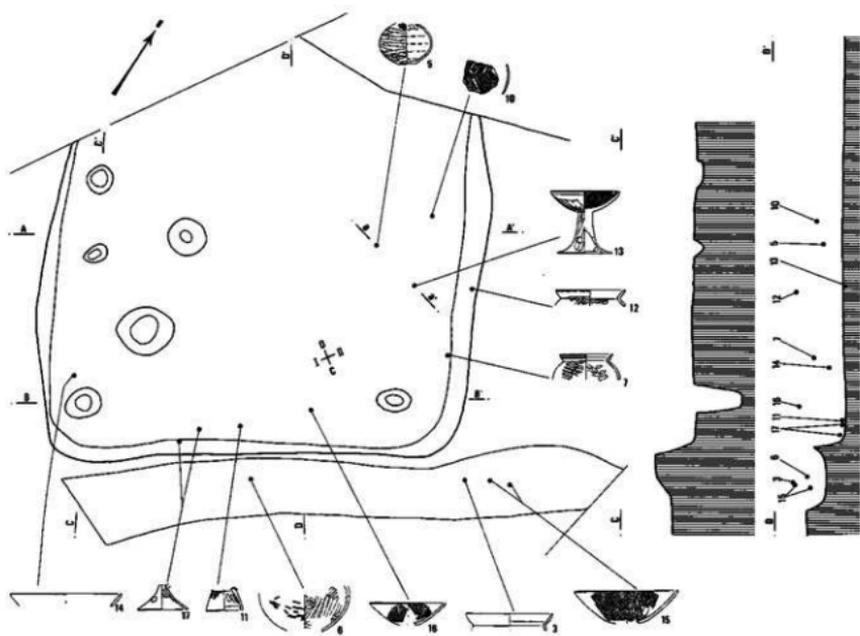
第188圖 北側谷部出土遺物(47)



第189図 北側谷部出土遺物(48)

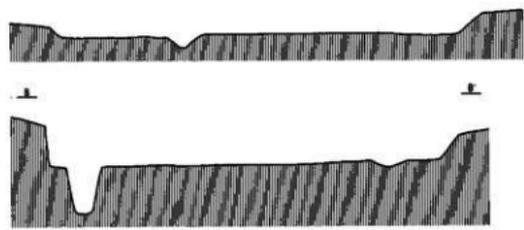


第190図 北側谷部出土遺物(49)



▲ 382.500

0 2m  
(1:60)

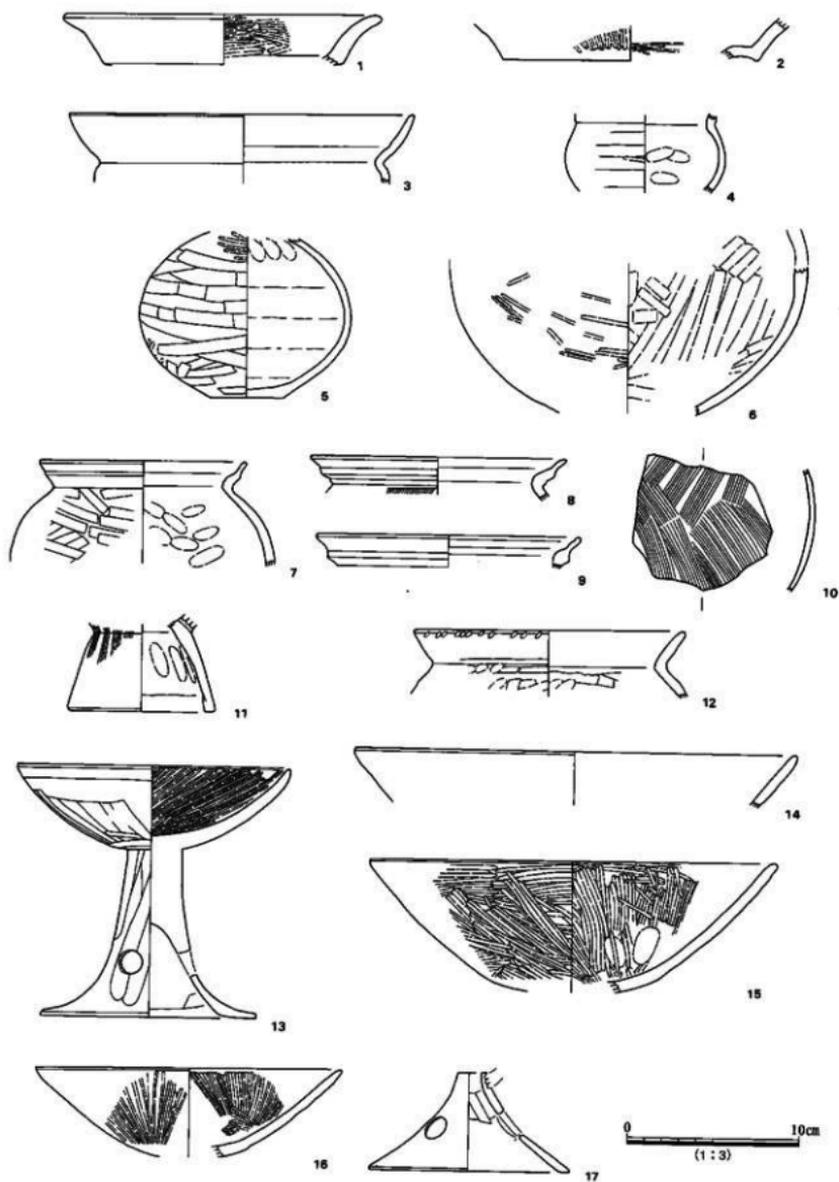


▲ 382.100

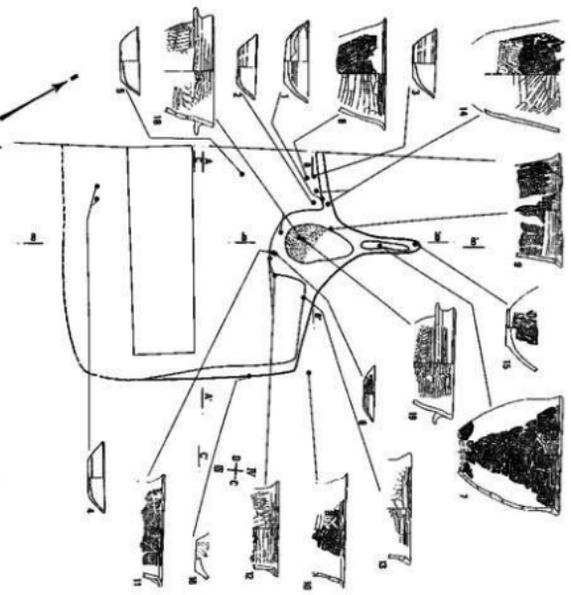


0 50cm  
(1:20)

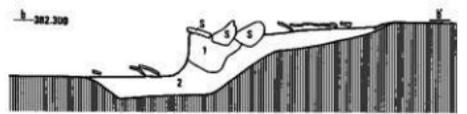
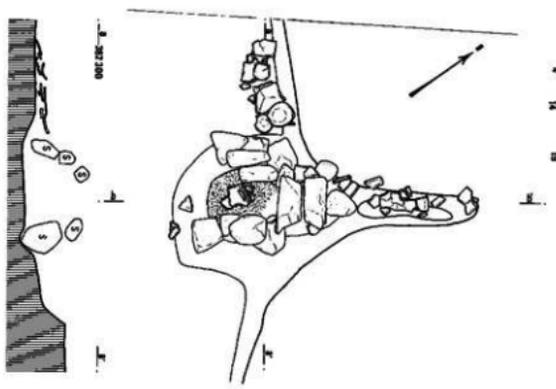
第191图 第38号住居跡



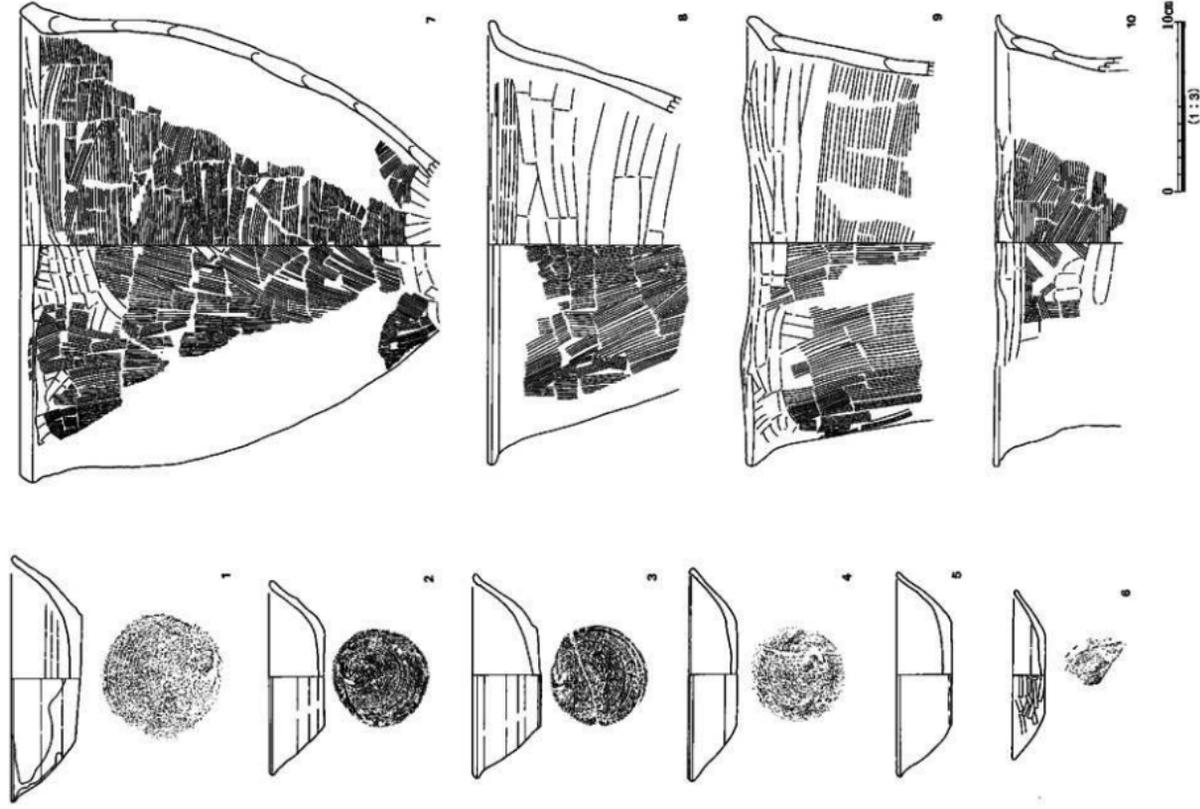
第192图 第38号住居跡出土遺物



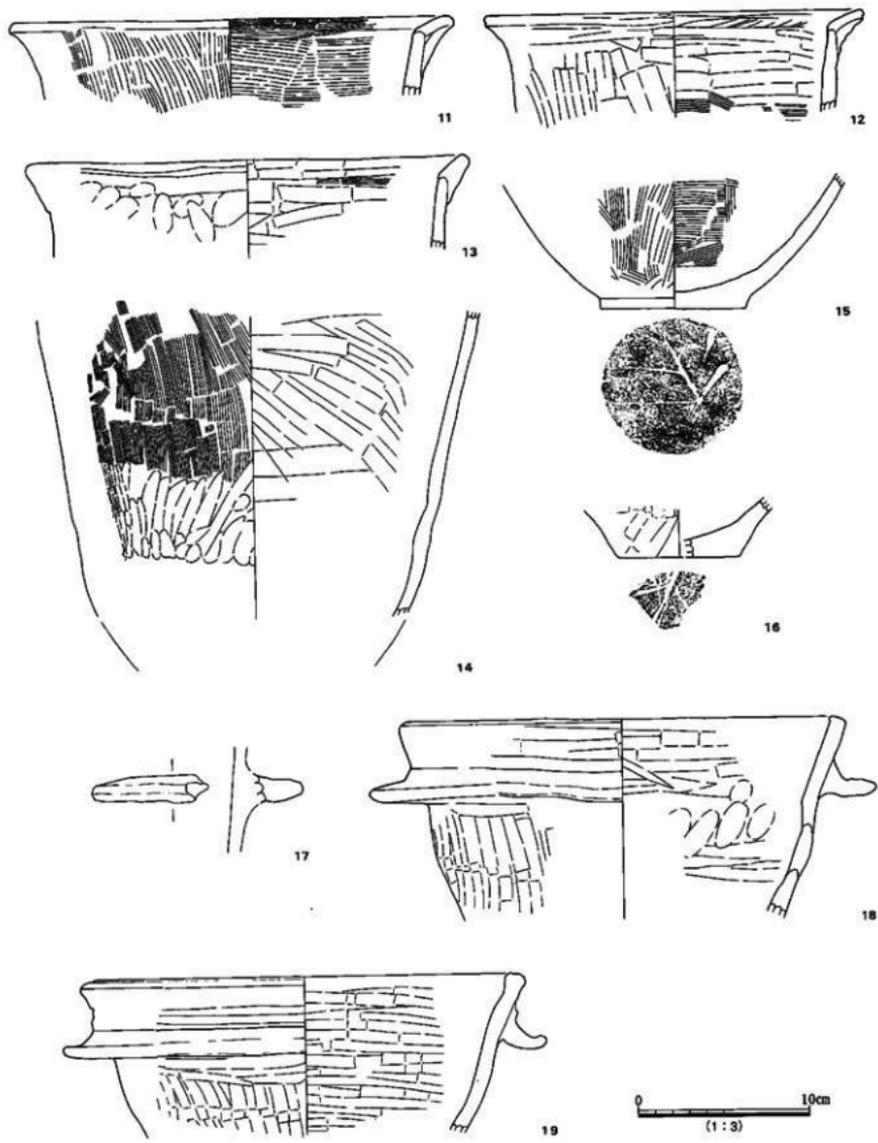
1. 茶褐色土 かくよくしまっている。5mm前後の白色顆粒・炭化粒子・焼土粒子を含む。
2. 暗茶褐色土 よくしまっている。5mm前後の白色顆粒を多量に含む。平安時代の遺物を含む。
- 3.4.5. 第146図参照



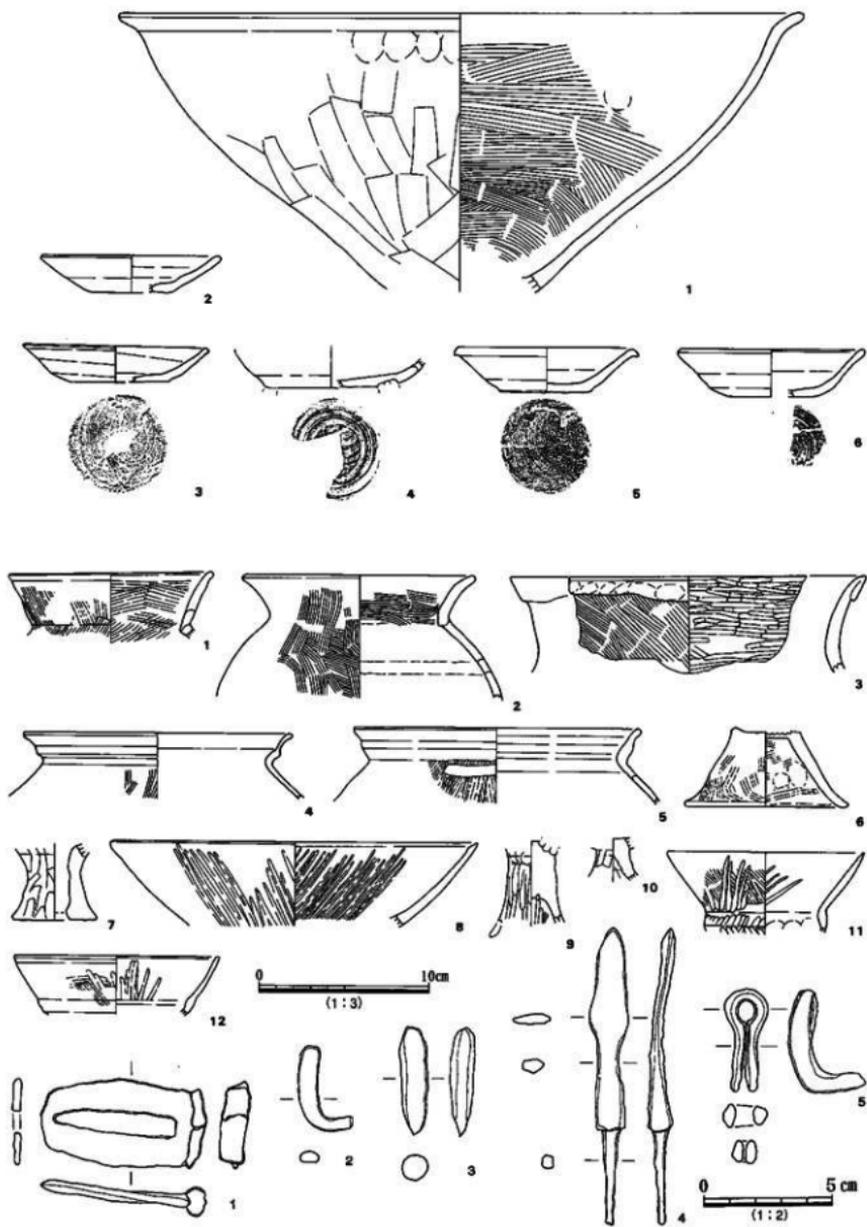
第193図 第37号住居跡



第194图 第37号住居出土遗物(1)



第195图 第37号住居跡出土遺物(2)



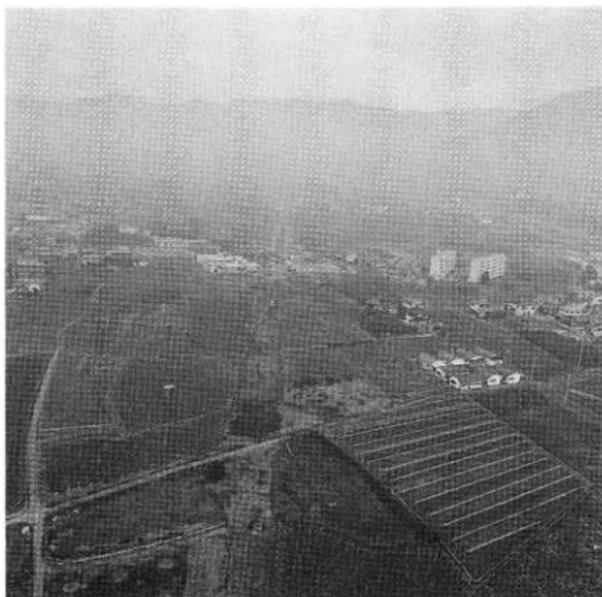
第196図 遺構外出土遺物・青銅製品・鉄製品

# 図 版





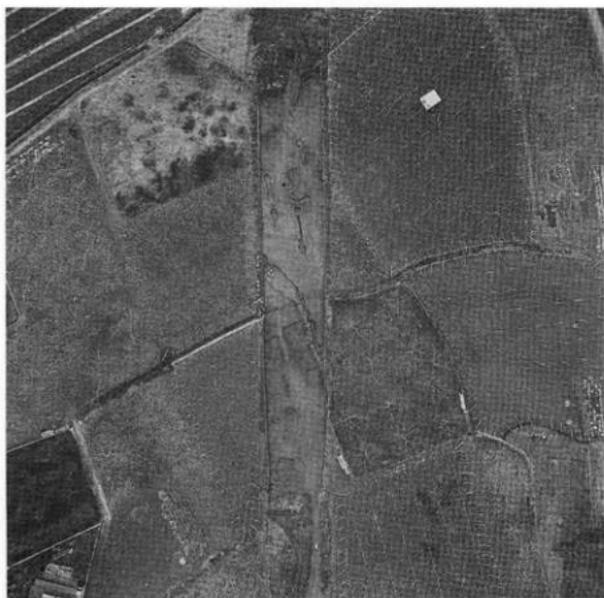
大木戸遺跡全景



大木戸遺跡から北東を臨む



大木戸遺跡から甲府盆地を臨む



99年度調査区



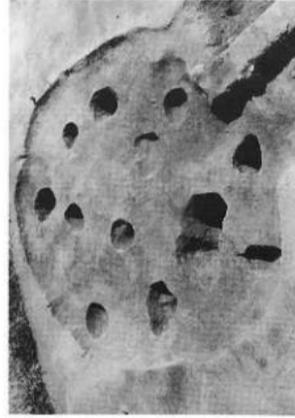
98年度調査区全景



99年度調査区(南から)



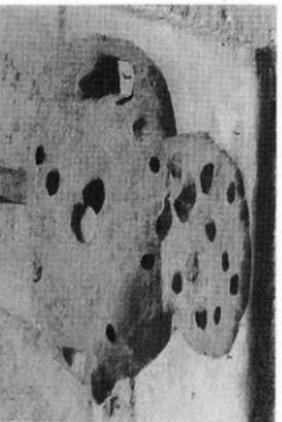
99年度調査区全景(北から)



第1号住居跡



第1号住居跡遺物出土状況



第1号住居跡(奥)・第2号住居跡(手前)



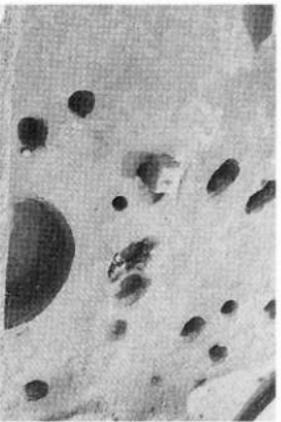
第3号(手前)・第11号(奥)住居跡



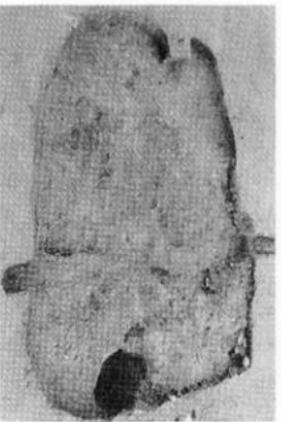
第4号住居跡



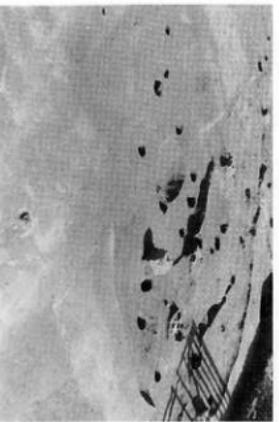
第4号住居跡出土遺物



第5号住居跡



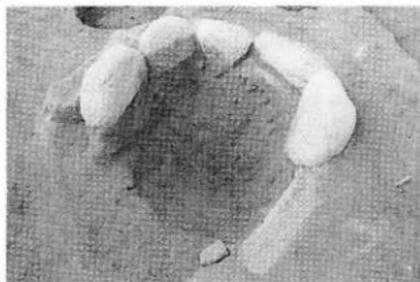
第6号住居跡



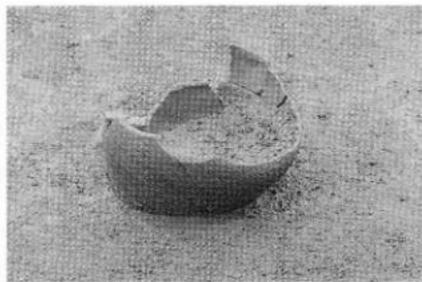
第7・8・14号住居跡



第7・8号住居跡出土土偶



第8号住居跡炉



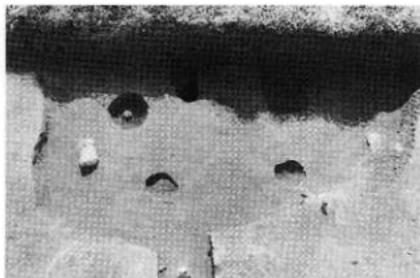
第8号住居跡出土遺物



第9号住居跡



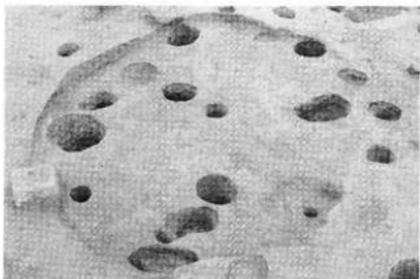
第9号住居跡遺物出土状況



第11号住居跡



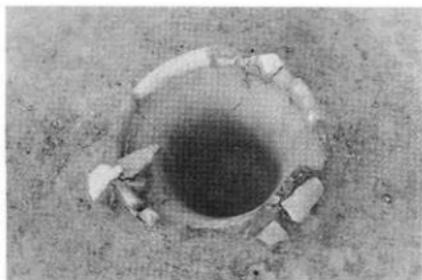
第11号住居跡出土遺物



第13号住居跡



第14号住居跡



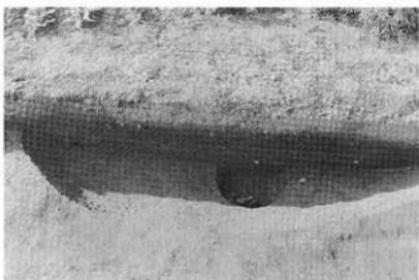
第14号住居跡炉



第15号住居跡



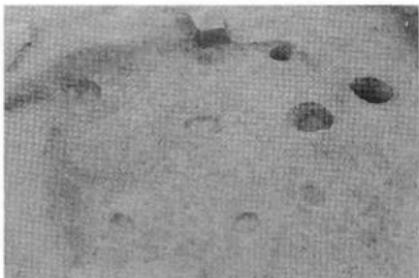
第15号住居跡出土遺物



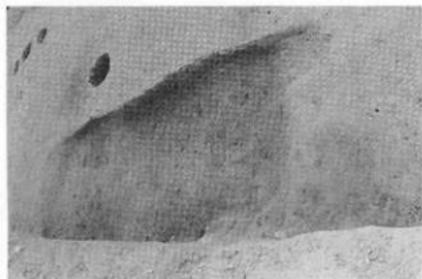
第16号住居跡



第16号住居跡遺物出土状況



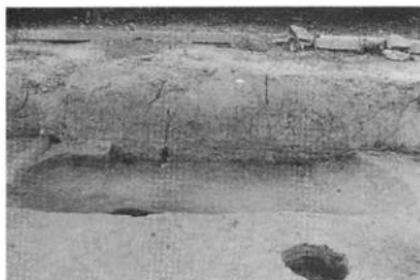
第17号住居跡



第18号住居跡



第18号住居跡



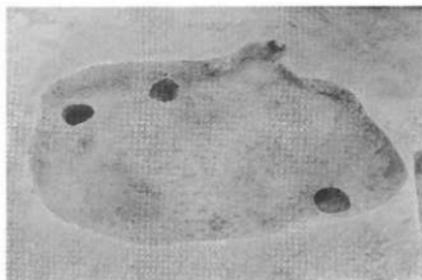
第18号住居跡



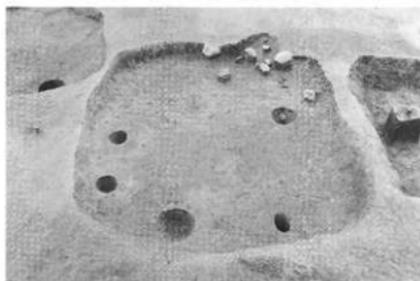
第19号住居跡



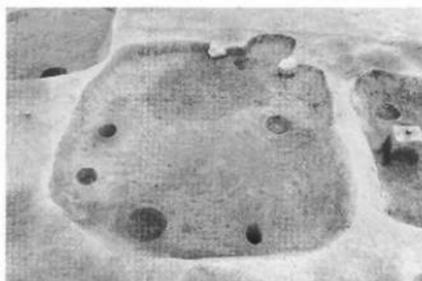
第19号住居跡カマド



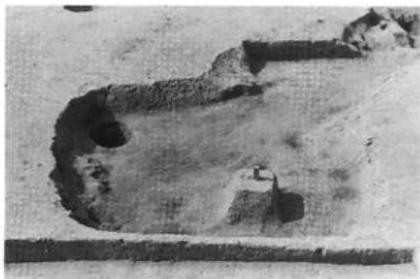
第20号住居跡



第21号住居跡



第21号住居跡



第22号住居跡



第22号住居跡カマド



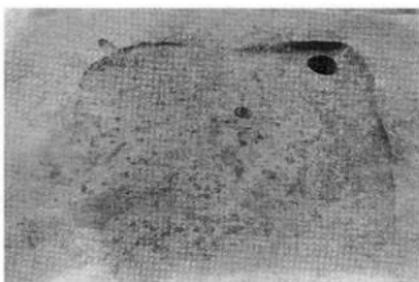
第23号住居跡



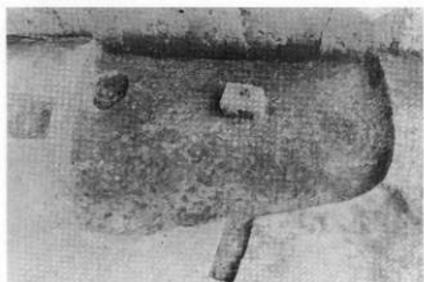
第23号住居跡カマド



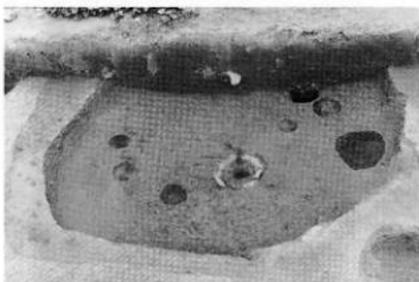
平安時代住居跡検出状況(奥→手前20・21・23号住)



第24号住居跡



第25号住居跡



第26号住居跡



第26号住居跡調査風景



第26号住居跡遺物出土状況



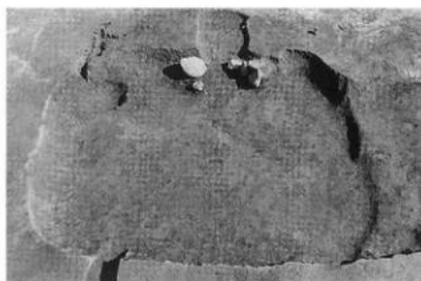
第26号住居跡遺物出土状況



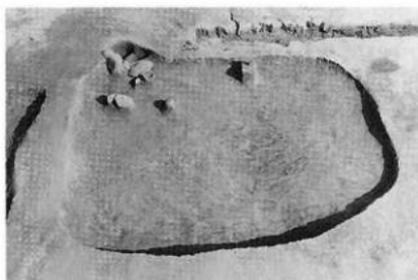
第27号住居跡



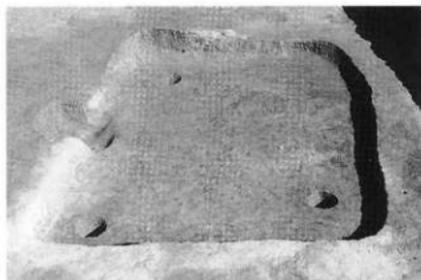
第28号住居跡遺物出土状況



第29号住居跡



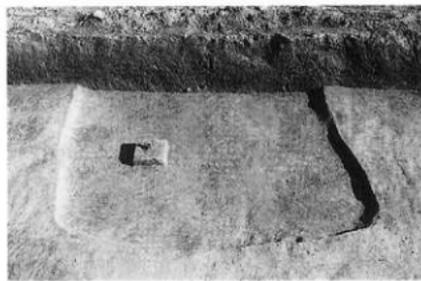
第30号住居跡



第31号住居跡



第31号住居跡カマド



第32号住居跡



第33号住居跡



第33号住居跡カマド



第34号住居跡



第35号(奥)・36号(手前)住居跡



第36号住居跡



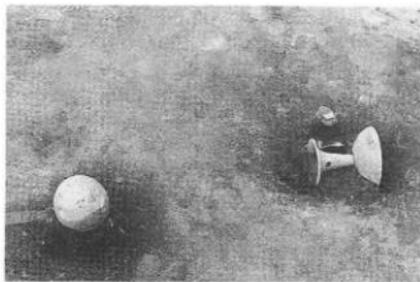
第37号住居跡



第37号住居跡カマド



第38号住居跡



第38号住居跡遺物出土状況



第2号溝出土遺物



第2号溝



第5号溝



第3号溝



第4号溝



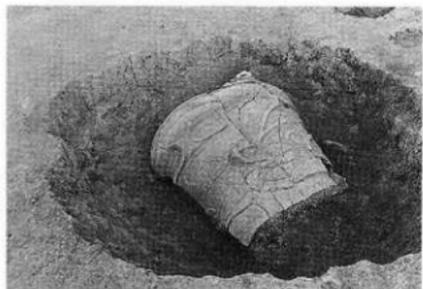
第7・8・9号溝



第5号溝作業風景



北側谷部溝



第8号土坑



第4号土坑



第6号土坑



第1号土坑(平安時代)



平安時代第1号土坑セクション



第1号墓



第2号墓



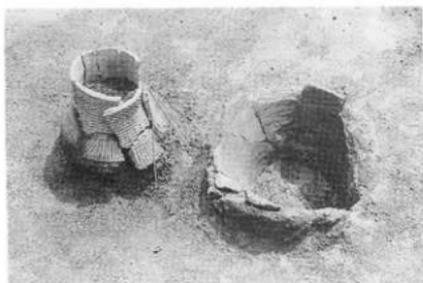
北側谷部(99年度調査区)



北側谷部北から(99年度調査区)



北側谷部調査風景(99年度調査区)



北側谷部遺物出土状況



北側谷部遺物出土状況



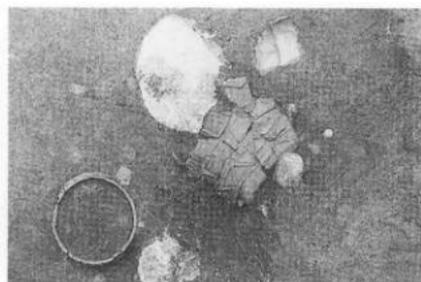
北側谷部(02年度調査区)



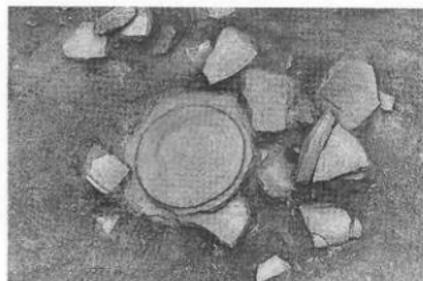
北側谷部調査風景(02年度)



北側谷部調査風景



北側谷部遺物出土状況



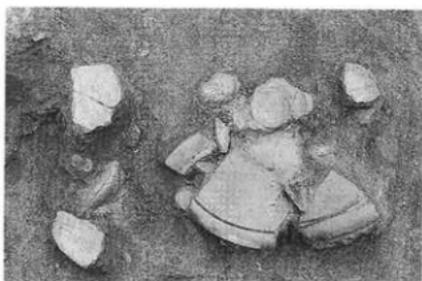
北側谷部遺物出土状況



北側谷部遺物出土状況



北側谷部土器集中区



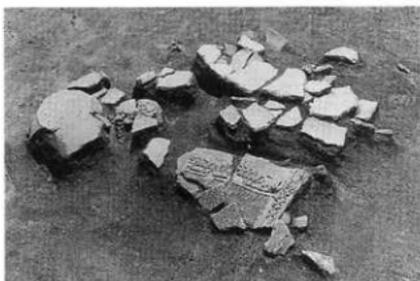
北側谷部遺物出土状況



北側谷部土器集中区



北側谷部遺物出土状況



北側谷部遺物出土状況



北側谷部出土磨斧



北側谷部刀装具出土状況



地元中学校による遺跡見学会



第1号住居跡



第1号住居跡



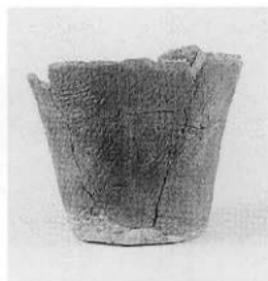
第1号住居跡



第1号住居跡



第1号住居跡



第2号住居跡



第4号住居跡



第4号住居跡



第7・8号住居跡



第7・8号住居跡



第7・8号住居跡



第7・8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



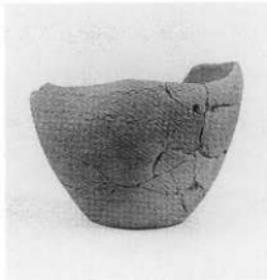
第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第7·8号住居跡



第14号住居跡



第14号住居跡



第14号住居跡



第14号住居跡



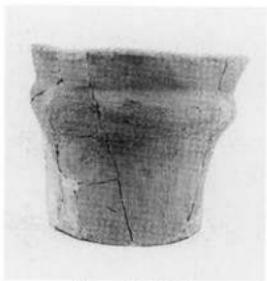
第14号住居跡



第14号住居跡



第14号住居跡



第14号住居跡



第14号住居跡



第 11 号住居跡



第 16 号住居跡



第 26 号住居跡



第 26 号住居跡



第 26 号住居跡



第 26 号住居跡



第 26 号住居跡



第 26 号住居跡



第 26 号住居跡



第 26 号住居跡



第 26 号住居跡



第 26 号住居跡



第26号住居跡



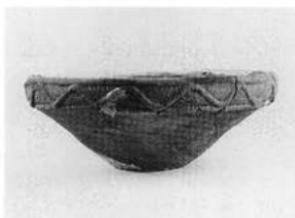
第26号住居跡



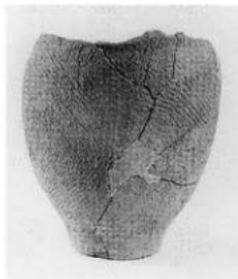
第26号住居跡



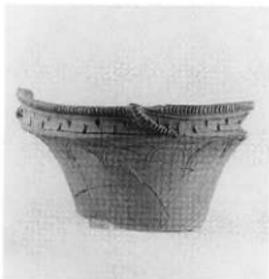
第26号住居跡



第26号住居跡



第1号土坑



第3号土坑



第4号土坑



北側谷部(99年度)



北側谷部(99年度)



北側谷部(99年度)



北側谷部(99年度)



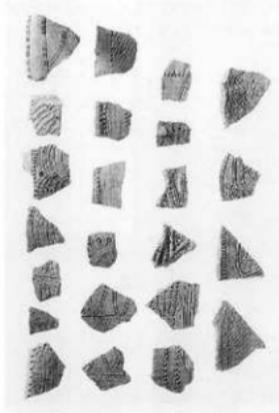
北側谷部(99年度)



北側谷部(02年度)



北側谷部(02年度)曾利土器



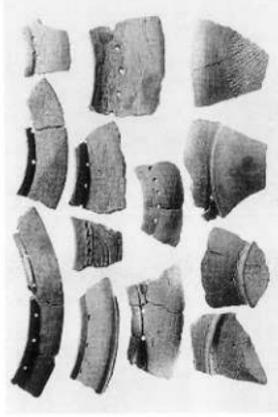
北側谷部(02年度)縄文時代前期土器



北側谷部(02年度)縄文時代前期土器



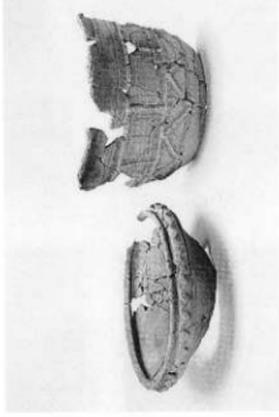
北側谷部(02年度)縄文時代前期土器



北側谷部(02年度)縄文時代前期浅鉢



北側谷部(02年度)



北側谷部(02年度)縄文時代中期土器

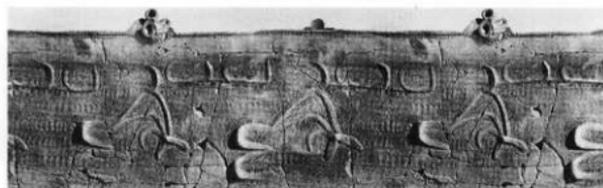
1住



1住



8土



26住



北谷



26住



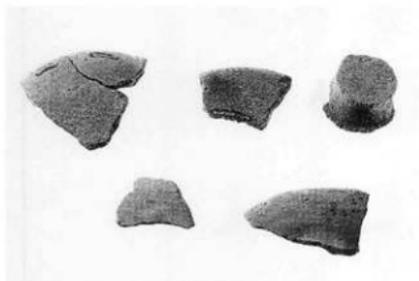
26 住



北谷



7・8 住



台形土器



土偶



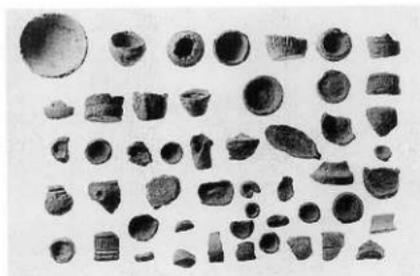
土偶



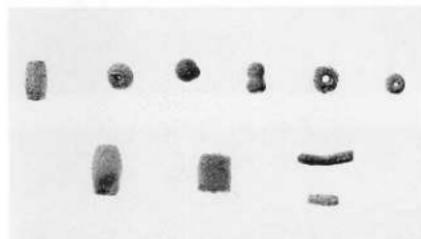
土鏝



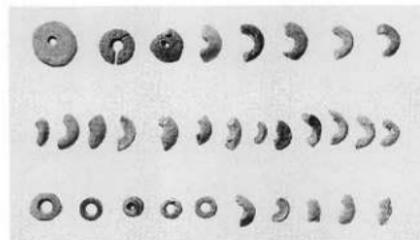
土製円盤



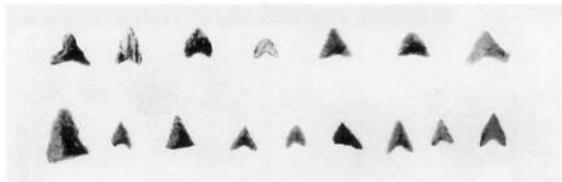
ミニチュア土器



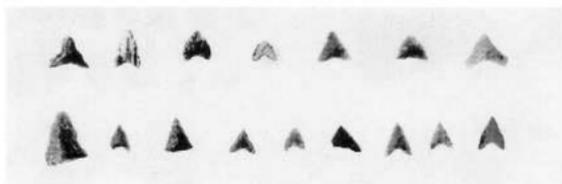
土製品



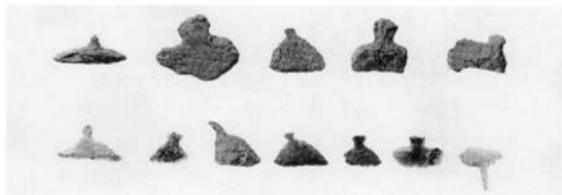
有孔円盤・土製耳飾



石鏃



石鏃



石匙・ドリル



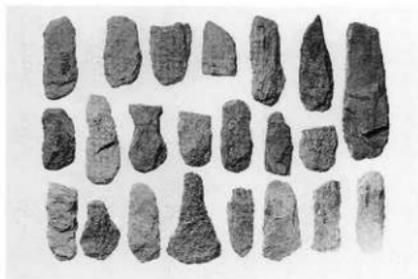
石匙



ポイント



石製耳飾



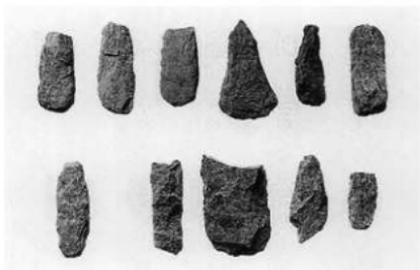
石斧



第7号住居跡出土石斧



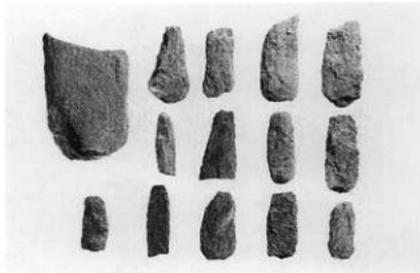
第7号住居跡出土石斧



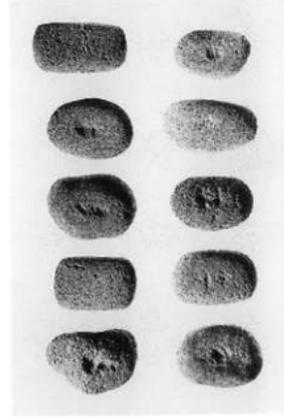
石斧



第26号住居跡



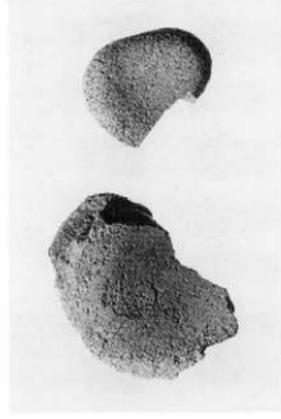
北側谷部(02年度)打斧



磨石



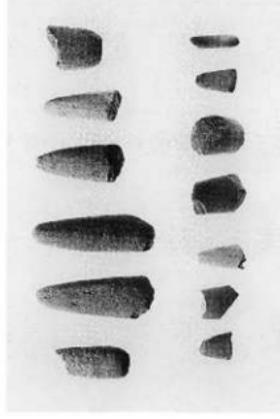
磨石



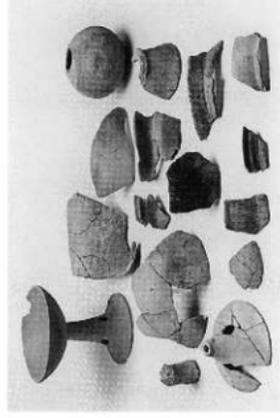
石皿



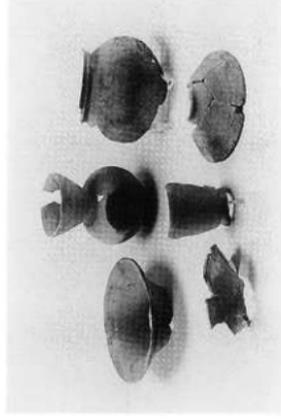
石皿



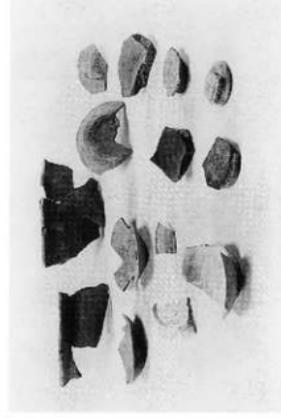
磨斧



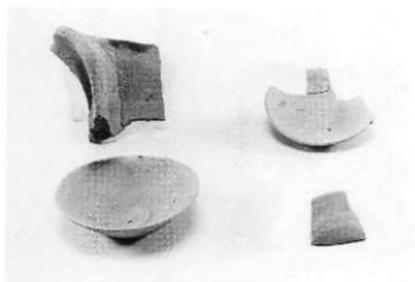
第38号住居跡



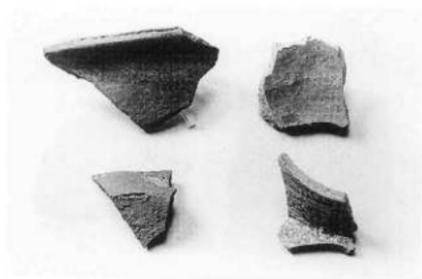
第2号溝



第6号住居跡



第 17 号住居跡



第 18 号住居跡



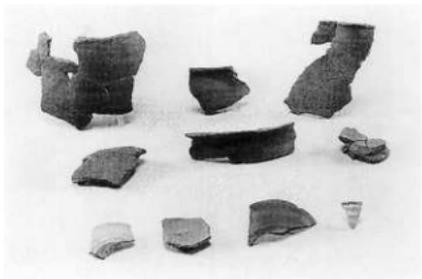
第 19 号住居跡



第 20 号住居跡(1)



第 20 号住居跡(2)



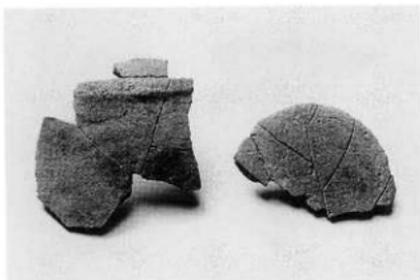
第 21 号住居跡



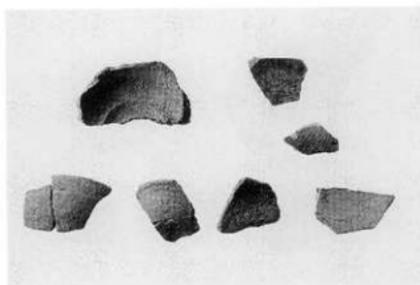
第 22 号住居跡



第 23 号住居跡



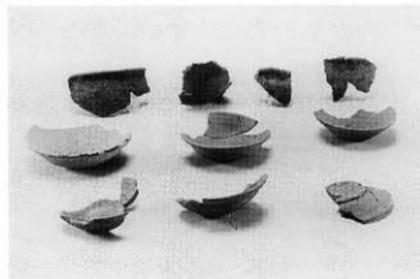
第24号住居跡



第25号住居跡



第27号住居跡



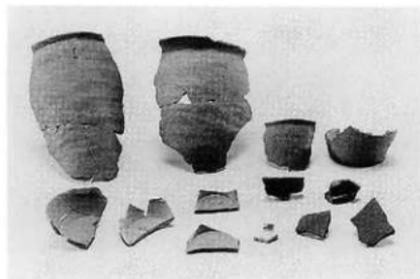
第28号住居跡



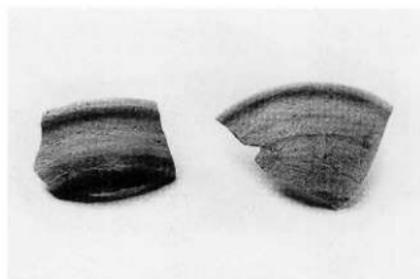
第29号住居跡



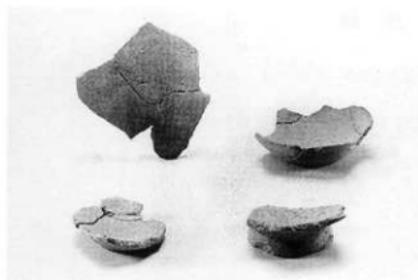
第30号住居跡



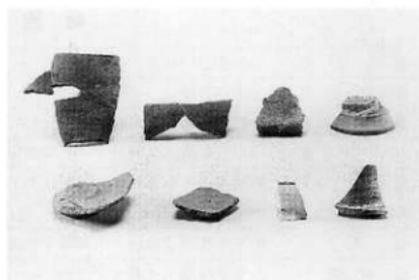
第31号住居跡



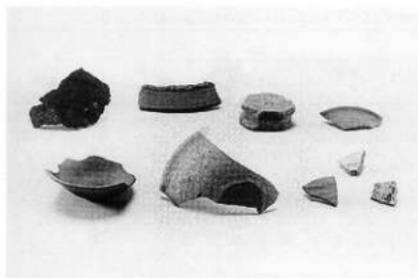
第32号住居跡



第33号住居跡



第34号住居跡



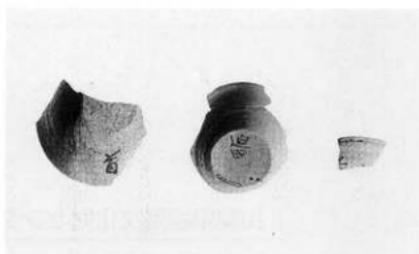
第35号住居跡



第36号住居跡

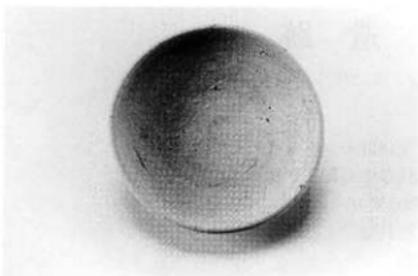


第37号住居跡



墨書・刻書土器

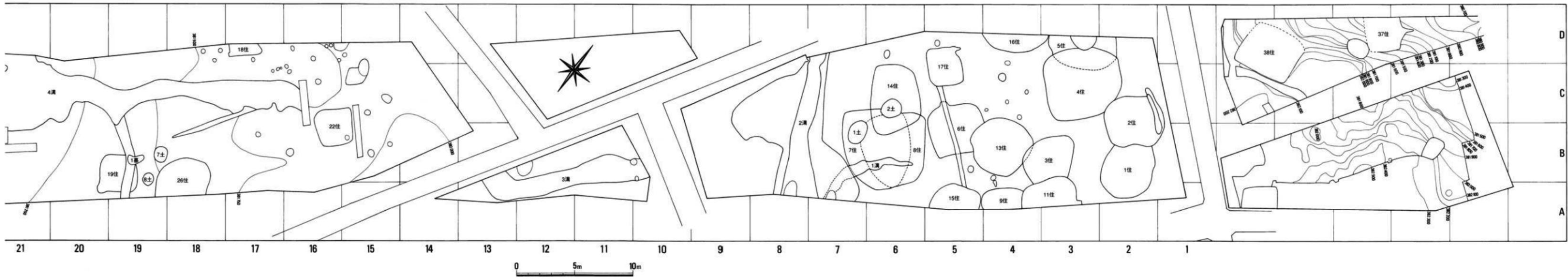
(左：23号住・真中：29号住・右：3号溝)

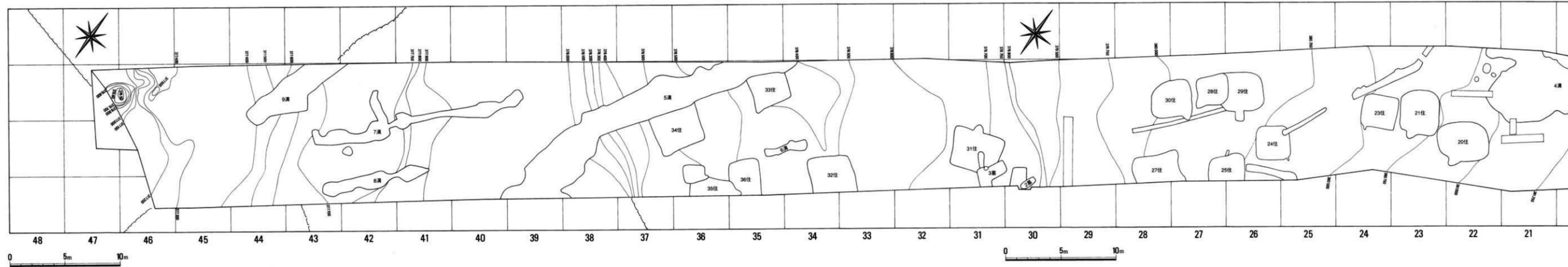


第2号墓



調査風景





## 報 告 書 抄 録

ふりがな	おおきどいせき							
書名	大木戸遺跡							
副題	一般国道411号(塩山東バイパス)建設工事に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第205集							
著者名	石神孝子・小林弘典・保坂康夫・野代恵子・星野敬吾・平田和明・吉川純子 バリノサーヴェイ株式会社・望月明彦							
発行者	山梨県教育委員会・山梨県土木部							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地・電話	〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 TEL 055-266-3016							
URL	<a href="http://www.yokogawa.co.jp/Measurement/Yamanashi/maibun/maibun.htm">http://www.yokogawa.co.jp/Measurement/Yamanashi/maibun/maibun.htm</a>							
発行日	西暦2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	道跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
おおきどいせき 大木戸遺跡	やまなしけんえんぶんしんしもおおき 山梨県塩山市下於曾238-3 他	19203		(新) 35°41'51.57081"	(新) 138°44'18.71485"	平成10年7月7日 ～11月5日 平成11年6月8日 ～12月3日 平成14年5月9日 ～7月17日	3,200m <sup>2</sup>	国道411号(塩山東バイパス)建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大木戸遺跡	集落跡	縄文時代前期・ 中期古墳時代前期・平安時代	縄文時代前期・中期集落跡・平安時代集落跡		縄文土器・石器・古墳時代土器・平安時代土器・灰輪陶器・緑輪陶器			

### 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第205集

2003年3月25日 印刷

2003年3月31日 発行

## 大 木 戸 遺 跡

- 国道411号(塩山東バイパス)建設工事に伴う発掘調査報告書 -

編 集 山梨県埋蔵文化財センター  
山梨県東八代郡中道町下曾根 923  
TEL 055-266-3016

発 行 山梨県教育委員会  
山梨県土木部

印 刷 横河グラフィックアーツ株式会社

